NEC

SigmaSystemCenter 3.5

リファレンスガイド
Web コンソール編

ー第 2 版ー

Copyright © NEC Corporation 2003-2016.

免責事項

本書の内容はすべて日本電気株式会社が所有する著作権に保護されています。
本書の内容の一部または全部を無断で転載および複写することは禁止されています。
本書の内容は将来予告なしに変更することがあります。
日本電気株式会社は、本書の技術的もしくは編集上の間違い、欠落について、一切責任を負いません。
日本電気株式会社は、本書の内容に関し、その正確性、有用性、確実性その他いかなる保証もいたしません。

商標

▪ SigmaSystemCenter、WebSAM、Netvisor、InterSecVM、iStorage、ESMPRO、EXPRESSBUILDER、EXPRESSSCOPE、CLUSTERPRO、CLUSTERPRO X、SIGMABLADE、および ProgrammableFlow は日本電気株式会社の登録商標です。

▪ Microsoft、Windows、Windows Server、Windows Vista、Internet Explorer、SQL Server および Hyper-V は米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Linux は Linus Torvalds 氏の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Red Hat は、Red Hat, Inc.の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Intel、Itanium は、Intel 社の米国およびその他の国における登録商標または商標です。
▪ Apache、Apache Tomcat、Tomcat は、Apache Software Foundation の登録商標または商標です。
▪ NetApp, Data ONTAP, FilerView, MultiStore, vFiler, Snapshot および FlexVol は、米国およびその他の国における NetApp, Inc.の登録商標または商標です。

その他、本書に記載のシステム名、会社名、製品名は、各社の登録商標もしくは商標です。
なお、® マーク、TM マークは本書に明記しておりません。

目次

はじめに xiii

対象読者と目的 xiii
本書の構成 xiii
SigmaSystemCenterマニュアル体系 xiv
本書の表記規則 xvi

1. Webコンソールの概要 3

1.1. Webコンソールの概要 4
1.1.1.ログインウィンドウ 8
1.1.2. 検索 9

2. 管理 11

2.1. [管理] ビュー 12
2.2. ライセンス 13
2.3. ライセンスの詳細情報 13
2.4. ユーザの詳細情報 15
2.4.1.ユーザ追加 16
2.4.2.ユーザ編集 18
2.4.3.ユーザ削除 22
2.4.4.ロール追加 22
2.4.5.ロール編集 23
2.4.6.ロールコピー 25
2.4.7.ロール削除 25
2.4.8.グループ追加 25
2.4.9.グループ編集 27
2.4.10.グループ削除 28
2.4.11.LDAPサーバとの同期 28
2.5. ポリシー 30
2.6. ポリシーの詳細情報 30
2.6.1.ポリシー追加 30
2.6.2.既存ポリシーのコピー 31
2.6.3.ポリシー削除 31
2.7. ポリシープロパティ設定 32
2.7.1.ポリシー規則設定 34
2.7.2.アクションパラメータ詳細 37
2.8. サブシステム 42
2.9. サブシステムの詳細情報 42
2.10. サブシステム追加 43
2.10.1.サブシステム追加 (VMware vCenter Server) 44
2.10.2.サブシステム追加 (Citrix XenServer Pool Master) 45
2.10.3.サブシステム追加 (Hyper-V Cluster) 46
2.10.4.サブシステム追加 (DPMサーバ) 47
2.10.5.サブシステム追加 (WebSAM NetvisorPro) 48
2.10.6.サブシステム追加 (Software Load Balancer) 49
2.10.7.サブシステム追加 (ProgrammableFlow Controller) 50
2.10.8.サブシステム追加 (ストレージ管理サーバ) 51
2.10.9.サブシステム追加 (iStorageManager) 51
2.10.10.サブシステム追加 (SMI-S Service) 52
2.10.11.サブシステム追加 (VMware NSX (VMware vCloud Network and Security)) 53

2.11. サブシステム編集 54
2.11.1.サブシステム編集 (VMware vCenter Server) 54
2.11.2.サブシステム編集 (Citrix XenServer Pool Master) 55
2.11.3.サブシステム編集 (Hyper-V Cluster) 56
2.11.4.サブシステム編集 (DPMサーバ) 57
2.11.5.サブシステム編集 (WebSAM NetvisorPro) 58
2.11.6.サブシステム編集 (Software Load Balancer) 59
2.11.7.サブシステム編集 (ProgrammableFlow Controller) 60
2.11.8.サブシステム編集 (ストレージ管理サーバ) 61
2.11.9.サブシステム編集 (iStorageManager) 61
2.11.10.サブシステム編集 (SMI-S Service) 62
2.11.11.サブシステム編集 (Hyper-V) 63
2.11.12.サブシステム編集 (VMware ESX / ESXi) 64
2.11.13.サブシステム編集 (Citrix XenServer) 65
2.11.14.サブシステム編集 (KVM) 66
2.11.15.サブシステム編集 (VMware NSX (VMware vCloud Network and Security)) 67
2.12. サブシステム削除 69
2.13. 環境設定 70
2.13.1.[全般] タブ 70
2.13.2.[通報] タブ 70
2.13.3.[ログ] タブ 72
2.13.4.[仮想リソース] タブ 73
2.13.5.[表示] タブ 75
2.13.6.[死活監視] タブ 76
2.13.7.[その他] タブ 78

3. システムリソース 81

3.1. [リソース] ビュー 83
3.2. マシン 84
3.2.1.マシン移動 (マシン一括移動) 86
3.3. リソースグループ 88
3.4. リソースグループの詳細情報 88
3.4.1.リソースグループ追加 90
3.4.2.リソースグループ編集 91
3.4.3.リソースグループ移動 92
3.4.4.リソースグループ削除 92
3.5. ラック 93
3.6. ラックの詳細情報 93
3.6.1.ラック追加 95
3.6.2.ラック編集 96
3.6.3.ラック移動 97
3.6.4.ラック削除 97
3.7. スマートグループ 98
3.8. スマートグループの詳細情報 98
3.8.1.スマートグループ追加 100
3.8.2.スマートグループ編集 110
3.8.3.スマートグループ移動 111
3.8.4.スマートグループ削除 111
3.8.5.スマートグループ複製 112
3.8.6.既定のスマートグループ 112
3.9. タグクラウド 114
3.9.1.タグクラウドによる絞込み 115
3.9.2.タグクラウドによる絞込みの解除 116
3.10. マシンの詳細情報 117
3.10.1.マシン登録 (マシン登録時にリソースグループ、もしくはラックを指定する場合) 121
3.10.2.マシン登録 (リソースグループ、もしくはラックを指定して登録する場合) 122

3.10.3.マシン移動 (マシン単体移動) 122
3.10.4.マシン管理外 123
3.10.5.運用ログ 123
3.10.6.ジョブ 125
3.11. マシンプロパティ設定 126
3.11.1.[全般] タブ 126
3.11.2.[ネットワーク] タブ 127
3.11.3.[ストレージ] タブ 129
3.11.4.[ソフトウェア] タブ 131
3.11.5.[ソフトウェア配布履歴] タブ 138
3.11.6.[アカウント情報] タブ 138
3.11.7.[カスタム] タブ 144
3.12. コンソール 146
3.12.1.物理マシンの場合 146
3.12.2.仮想マシンの場合 147
3.13. IPMI情報 148
3.13.1.[SEL] タブ 149
3.13.2.[センサー] タブ 150
3.14. 保守操作を表示 154
3.15. ストレージ 156
3.15.1.ストレージプールの容量警告 159
3.15.2.ディスクボリューム作成 160
3.15.3.ストレージプール編集 161
3.16. ディスクアレイの詳細情報 164
3.16.1.ディスクアレイ登録 (iStorage、Symmetrix、SMI-Sの場合) 170
3.16.2.ディスクアレイ登録 (CLARiX、NetAppの場合) 171
3.16.3.ディスクアレイ編集 (iStorageの場合) 173
3.16.4.ディスクアレイ編集 (CLARiX、NetAppの場合) 174
3.16.5.ディスクアレイ解除 176
3.17. ディスクボリュームの詳細情報 177
3.17.1.ディスクボリューム作成 179
3.17.2.ディスクボリューム登録 183
3.17.3.ディスクボリューム編集 184
3.17.4.ディスクボリューム削除 187
3.17.5.ディスクボリューム共有 187
3.17.6.ディスクボリューム非共有 188
3.17.7.ディスクボリューム解除 188
3.18. ストレージプールの詳細情報 189
3.19. ネットワーク 192
3.20. 論理ネットワークの詳細情報 194
3.20.1.論理ネットワーク追加 196
3.20.2.論理ネットワーク編集 214
3.20.3.論理ネットワーク削除 226
3.21. 仮想ネットワーク (VTN) の詳細情報 227
3.22. アドレスプールの詳細情報 229
3.23. スイッチ 231
3.23.1.仮想スイッチ登録 232
3.24. スイッチの詳細情報 233
3.24.1.スイッチ登録 234
3.24.2.スイッチ編集 235
3.24.3.スイッチ解除 236
3.25. ポートの詳細情報 237
3.26. 分散スイッチの詳細情報 238
3.26.1.分散スイッチ追加 239
3.26.2.分散スイッチ編集 239
3.26.3.ポートグループ追加 / 編集 240

3.26.4.プライベートVLAN追加・編集 241
3.27. VLANの詳細情報 243
3.27.1.VLAN追加 244
3.27.2.VLAN編集 246
3.27.3.VLAN削除 249
3.28. ロードバランサ 250
3.29. ロードバランサの詳細情報 251
3.29.1.ロードバランサ登録 252
3.29.2.ロードバランサ編集 252
3.29.3.ロードバランサ解除 253
3.30. ロードバランサグループの詳細情報 254
3.30.1.ロードバランサグループ追加 255
3.30.2.ロードバランサグループ編集 261
3.30.3.ロードバランサグループ削除 266
3.31. ファイアウォール 267
3.31.1.ファイアウォール追加 268
3.31.2.ファイアウォール編集 268
3.31.3.ファイアウォール削除 269
3.31.4.ファイアウォールプロファイル追加 269
3.31.5.ファイアウォールプロファイル編集 272
3.31.6.ファイアウォールプロファイル削除 275
3.32. デバイス 276
3.33. デバイスの詳細情報 277
3.34. ノード (ポート) の詳細情報 279
3.35. ソフトウェア 280
3.36. ソフトウェア一覧 281
3.37. ソフトウェアの基本情報 285
3.37.1.ソフトウェア編集 299
3.37.2.ローカルスクリプト追加 312
3.37.3.ローカルスクリプト削除 313
3.38. イメージの詳細情報 314
3.38.1.イメージ作成 315
3.38.2.イメージ削除 319
3.39. プロファイル 321
3.40. マシンプロファイル 322
3.40.1.マシンプロファイル追加 323
3.40.2.マシンプロファイル編集 328
3.40.3.マシンプロファイル削除 333
3.41. ホストプロファイル 334
3.41.1.ホストプロファイル追加 334
3.41.2.ホストプロファイル編集 348
3.41.3.ホストプロファイル削除 360
3.42. 監視プロファイル 361
3.42.1.監視プロファイル追加 362
3.42.2.監視プロファイル編集 366
3.42.3.監視プロファイルコピー 370
3.42.4.監視プロファイル削除 370
3.43. リソースへのメニュー操作 371
3.43.1.起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド 371
3.43.2.収集 (ALL) / マシン収集 / ソフトウェア収集 / センサー収集 371
3.43.3.再構成 371
3.43.4.指定ソフトウェア配布 372
3.43.5.ジョブ実行結果のリセット 376
3.43.6.故障状態の解除 377
3.43.7.メンテナンスモードオン / メンテナンスモードオフ 377
3.43.8. 収集 377

3.43.9.スイッチ情報収集 378
3.43.10.ロードバランサ情報収集 378
3.43.11.DPM収集 378
3.43.12.スクリプト / ファイル収集 378
3.44. 権限設定 379
3.44.1.権限追加 379
3.44.2.権限変更 379
3.44.3.権限解除 380

4. 運用 381

4.1. [運用] ビュー 382
4.2. テナント 383
4.3. テナントの詳細情報 383
4.3.1.テナント追加 384
4.3.2.テナント編集 386
4.3.3.テナント削除 387
4.4. カテゴリ 388
4.5. カテゴリの詳細情報 388
4.5.1.カテゴリ追加 389
4.5.2.カテゴリ編集 391
4.5.3.カテゴリ移動 392
4.5.4.カテゴリ削除 393
4.6. 運用グループ 394
4.7. 運用グループの詳細情報 394
4.7.1.運用グループ追加 399
4.7.2.運用グループ編集 400
4.7.3.運用グループ移動 400
4.7.4.運用グループ削除 401
4.8. 依存関係 402
4.8.1.依存関係設定の追加 403
4.8.2.依存関係設定の編集 403
4.8.3.依存関係設定の削除 406
4.9. リソースプールの詳細情報 407
4.9.1.リソースプール作成 414
4.9.2.リソースプール編集 415
4.9.3.リソースプール削除 416
4.9.4.サブリソースプール切り出し 416
4.9.5.サブリソースプール編集 419
4.9.6.サブリソースプール削除 422
4.9.7.リソースプールの履歴データ 422
4.10. マシン操作履歴 427
4.10.1.マシンサマリー覧 427
4.10.2.リビジョン一覧 428
4.10.3.マシン操作履歴の詳細情報 429
4.11. グループプロパティ設定 433
4.11.1.[全般] タブ 433
4.11.2.[モデル] タブ 436
4.11.3.[ストレージ] タブ 438
4.11.4.[ソフトウェア] タブ 440
4.11.5.[ネットワーク設定] タブ (マシン種別が [物理]、[VMサーバ] の場合) 449
4.11.6.[LB設定] タブ 451
4.11.7.[マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合のみ) 452
4.11.8.[ホストプロファイル] タブ (Windows Serverの場合) 460
4.11.9.[ホストプロファイル] タブ (Linuxの場合) 465
4.11.10.[ホストプロファイル] タブ (Windows Clientの場合) 468
4.11.11.[VM最適配置] タブ (マシン種別 [VMサーバ] の場合のみ) 473

4.11.12.[VM配置制約] タブ (マシン種別 [VMサーバ] の場合のみ)....475
4.11.13.[データストア設定] タブ (マシン種別 [VMサーバ] の場合のみ)....481
4.11.14.[死活監視] タブ....483
4.11.15.[性能監視] タブ....485
4.11.16.[カスタム] タブ....487
4.12. モデルプロパティ設定....488
4.12.1.[全般] タブ (物理マシンの場合)....488
4.12.2.[全般] タブ (仮想マシンの場合)....489
4.12.3.[全般] タブ (仮想マシンサーバの場合)....491
4.12.4.[ストレージ] タブ (物理マシン、仮想マシンサーバの場合)....493
4.12.5.[リソースプール] タブ (仮想マシンの場合)....497
4.12.6.[ソフトウェア] タブ....498
4.12.7.[ネットワーク設定] タブ (物理マシン、仮想マシンサーバの場合)....506
4.12.8.[マシンプロファイル] タブ (仮想マシンの場合)....509
4.12.9.[ホストプロファイル] タブ (Windows Serverの場合)....516
4.12.10.[ホストプロファイル] タブ (Linuxの場合)....516
4.12.11.[ホストプロファイル] タブ (Windows Clientの場合)....516
4.12.12.[VM最適配置] タブ (仮想マシンサーバの場合)....516
4.12.13.[VM配置制約] タブ (仮想マシンサーバの場合)....516
4.12.14.[データストア設定] タブ (仮想マシンサーバの場合)....517
4.12.15.[死活監視] タブ....517
4.12.16.[性能監視] タブ....518
4.13. ホストの詳細情報....521
4.14. ホスト設定....526
4.14.1.[全般] タブ....526
4.14.2.[ネットワーク] タブ....527
4.14.3.[ストレージ] タブ (マシン種別 [物理]、[VMサーバ] の場合のみ)....531
4.14.4.[ソフトウェア] タブ....539
4.14.5.[マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [物理]、[VMサーバ] の場合)....547
4.14.6.[マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合)....550
4.14.7.[ホストプロファイル] タブ (Windows Serverの場合)....557
4.14.8.[ホストプロファイル] タブ (Linuxの場合)....557
4.14.9.[ホストプロファイル] タブ (Windows Clientの場合)....557
4.14.10.[データストア設定] タブ (マシン種別 [VMサーバ] の場合のみ)....557
4.14.11.[死活監視] タブ....557
4.14.12.[性能監視] タブ....559
4.14.13.[カスタム] タブ....560
4.15. 設定一覧....562
4.16. 保守操作を表示....565
4.16.1.割当解除 (強制)....565
4.16.2.グループ変更....566
4.17. 権限設定....567
4.17.1.権限追加....567
4.17.2.権限変更....568
4.17.3.権限解除....569
4.18. トポロジ....570
4.18.1.[トポロジ] タブ....570
4.18.2.[テナント] ノード....572
4.18.3.[カテゴリ] ノード....574
4.18.4.[運用グループ] ノード....575
4.18.5.[仮想マシン] ノード....576
4.18.6.[仮想マシンサーバ] ノード....579
4.18.7.[ディスクボリューム] ノード....582
4.18.8.[ストレージプール] ノード....584
4.18.9.[ディスクアレイ] ノード....586
4.18.10.[スイッチ] ノード....588
4.18.11.[物理マシン / 論理マシン] ノード....589

4.18.12.[カスタムオブジェクト] ノード 589
4.18.13.[ラック] ノード 591
4.19. 運用グループへのメニュー操作 592
4.19.1.スケールアウト 592
4.19.2.スケールイン 592
4.19.3.プールに追加 592
4.19.4.起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド 593
4.19.5.光学ドライブ管理 593
4.19.6.マシン収集 594
4.19.7.リソース割り当て 594
4.19.8.新規リソース割り当て、新規割当 598
4.19.9.マスタマシン登録、マスタ登録 601
4.19.10.バックアップ 608
4.19.11.リストア 609
4.19.12.割り当て解除 611
4.19.13.マシンの置換 612
4.19.14.構成変更 614
4.19.15.マシンの用途変更 616
4.19.16.VM移動 617
4.19.17.再構成 617
4.19.18.VM削除 619
4.19.19.ソフトウェア配布 ([ホスト一覧] グループボックス) 620
4.19.20.ソフトウェア配布 ([グループプール] グループボックス) 626
4.19.21.ソフトウェア再配布 626
4.19.22.マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力 628
4.19.23.グループ性能サマリ / ドリルダウン 634
4.19.24.マシン性能サマリ 640
4.19.25.ジョブ実行結果のリセット 642
4.19.26.故障状態の解除 643
4.19.27.メンテナンスオン / メンテナンスオフ 643
4.19.28.ホスト追加 643
4.19.29.ホスト削除 646
4.19.30.プールから削除 647

5. 仮想 649

5.1. [仮想] ビュー 650
5.2. 仮想 651
5.2.1.ESXiを管理する 651
5.2.2.Hyper-V単体を管理する 651
5.2.3.KVMを管理する 652
5.3. 仮想マネージャの詳細情報 653
5.3.1.仮想マネージャ削除 655
5.4. VXLANスコープ詳細情報 656
5.4.1.VXLAN追加 656
5.4.2.VXLAN削除 657
5.5. データセンターの詳細情報 658
5.5.1.データセンター追加 659
5.5.2.データセンター編集 660
5.5.3.データセンター削除 661
5.6. 権限設定 662
5.6.1.権限追加 662
5.6.2.権限変更 662
5.6.3.権限解除 663
5.7. VMサーバの詳細情報 664
5.7.1.VMサーバ追加 669
5.7.2.VMサーバ編集 671

5.7.3.VM作成 672
5.7.4.VMインポート 679
5.7.5.VMサーバ移動 686
5.7.6.VMサーバ削除 687
5.7.7.データストア編集 687
5.8. ポートグループ 689
5.8.1.ポートグループ追加 689
5.8.2.ポートグループ編集 690
5.8.3.ポートグループ削除 691
5.9. 性能情報 692
5.9.1.[サマリ] タブ 692
5.9.2.[VMリソース] タブ 693
5.9.3.[パフォーマンス] タブ 694
5.10. データストアの詳細情報 696
5.11. VMの詳細情報 698
5.11.1.VM編集 700
5.11.2.VM移動 706
5.11.3.VM削除 710
5.11.4.VMクローン 711
5.11.5.VMエクスポート 712
5.11.6.Full Clone用のテンプレート作成 715
5.11.7.Full Clone用のテンプレート編集 718
5.11.8.Full Clone用のテンプレート削除 721
5.11.9.HW Profile Clone用のテンプレート作成 721
5.11.10.HW Profile Clone用のテンプレート編集 723
5.11.11.HW Profile Clone用のテンプレート削除 724
5.11.12.Differential Clone用のテンプレート作成 724
5.11.13.Differential Clone用のテンプレート編集 728
5.11.14.Differential Clone用のテンプレート削除 730
5.11.15.Disk Clone用のテンプレート作成 730
5.11.16.Disk Clone用のテンプレート編集 733
5.11.17.Disk Clone用のテンプレート削除 736
5.12. コンソールスクリーンショット 737
5.13. コンソール 738
5.13.1.VMwareの場合 738
5.13.2.XenServer・KVMの場合 739
5.13.3.Hyper-Vの場合 740
5.14. スナップショット管理 742
5.14.1.スナップショット作成 743
5.14.2.スナップショット編集 744
5.14.3.スナップショット復元 744
5.14.4.スナップショット削除 745
5.15. テンプレートの詳細情報 746
5.16. 仮想マシンサーバ、および仮想マシンへのメニュー操作 747
5.16.1.起動 / 再起動 / シャットダウン (仮想マシンサーバ) 747
5.16.2.起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド (仮想マシン) 747
5.16.3. 収集 747
5.16.4.マシン収集 748
5.16.5.管理する / 管理外 (仮想マシン) 748
5.16.6.メンテナンスオン / メンテナンスオフ 748

6. 監視 749

6.1. [監視] ビュー 750
6.2. ダッシュボード 751
6.3. 運用ログ 753
6.4. ジョブ 757

6.5. イベント履歴 760
6.6. イベントの詳細情報 765
6.7. 無効化イベント管理 768
6.8. 管理サーバ群 770
6.8.1. 管理サーバ追加 771
6.8.2. 管理サーバ編集 772
6.8.3. 管理サーバ削除 773
7. 構成情報管理 777
7.1. 構成情報管理画面 778
付録 A 改版履歴 783
付録 B ライセンス情報 785

はじめに

対象読者と目的

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド～Web コンソール編～」は、SigmaSystemCenter の管理者を対象に、SigmaSystemCenter の構築時、運用時に理解しておくべき製品の画面の説明について記載しています。「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。SigmaSystemCenter の構築時、運用時に必要な情報を参照してください。

本書の構成

セクション I　　Web コンソール一覧

1　「Web コンソールの概要」: Web コンソールの各名称、および概要について説明します。
2　「管理」: SigmaSystemCenter の [管理] ビューの Web コンソールについて説明します。
3　「システムリソース」: SigmaSystemCenter の [リソース] ビューの Web コンソールについて説明します。
4　「運用」: SigmaSystemCenter の [運用] ビューの Web コンソールについて説明します。
5　「仮想」: SigmaSystemCenter の [仮想] ビューの Web コンソールについて説明します。
6　「監視」: SigmaSystemCenter の [監視] ビューの Web コンソールについて説明します。

セクション II　　Web コンソール以外の設定

7　「構成情報管理」: Web コンソール以外での設定に関する画面について説明します。

付録
付録 A 「改版履歴」
付録 B 「ライセンス情報」

SigmaSystemCenter マニュアル体系

SigmaSystemCenter のマニュアルは、各製品、およびコンポーネントごとに以下のように構成されています。
また、本書内では、各マニュアルは「本書での呼び方」の名称で記載します。

製品 / コンポーネント名	マニュアル名	本書での呼び方
SigmaSystemCenter 3.5	SigmaSystemCenter 3.5 ファーストステップガイド	SigmaSystemCenter ファーストステップガイド
	SigmaSystemCenter 3.5 インストレーションガイド	SigmaSystemCenter インストレーションガイド
	SigmaSystemCenter 3.5 コンフィグレーションガイド	SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド
	SigmaSystemCenter 3.5 リファレンスガイド	SigmaSystemCenter リファレンスガイド
ESMPRO/ServerManager 6.14	ESMPRO/ServerManager Ver.6 インストレーションガイド	ESMPRO/ServerManager インストレーションガイド
WebSAM DeploymentManager 6.51	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 ファーストステップガイド	DeploymentManager ファーストステップガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 インストレーションガイド	DeploymentManager インストレーションガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 オペレーションガイド	DeploymentManager オペレーションガイド
	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 リファレンスガイド Webコンソール編	DeploymentManager リファレンスガイド Webコンソール編
	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 リファレンスガイド ツール編	DeploymentManager リファレンスガイド ツール編
	WebSAM DeploymentManager Ver6.5 リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編	DeploymentManager リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編
SystemMonitor性能監視 5.8	SystemMonitor性能監視 5.8 ユーザーズガイド	SystemMonitor性能監視 ユーザーズガイド
	SigmaSystemCenter 3.5 仮想マシンサーバ(ESX) プロビジョニングソリューションガイド	SigmaSystemCenter 仮想マシンサーバプロビジョニングソリューションガイド
	SigmaSystemCenter sscコマンドリファレンス	sscコマンドリファレンス
	SigmaSystemCenter クラスタ構築手順	SigmaSystemCenterクラスタ構築手順
	SigmaSystemCenter ネットワークアダプタ冗長化構築資料	SigmaSystemCenterネットワークアダプタ冗長化構築手順
	SigmaSystemCenter ブートコンフィグ運用ガイド	SigmaSystemCenterブートコンフィグ運用ガイド

関連情報: SigmaSystemCenter のすべての最新のマニュアルは、以下の URL から入手できます。
http://jpn.nec.com/websam/sigmasystemcenter/

SigmaSystemCenter の製品概要、インストール、設定、運用、保守に関する情報は、以下の 4 つのマニュアルに含みます。各マニュアルの役割を以下に示します。

「SigmaSystemCenter ファーストステップガイド」
SigmaSystemCenter を使用するユーザを対象読者とし、製品概要、システム設計方法、動作環境などについて記載します。

「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」
SigmaSystemCenter のインストール、アップグレードインストール、およびアンインストールを行うシステム管理者を対象読者とし、それぞれの方法について説明します。

「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」
インストール後の設定全般を行うシステム管理者と、その後の運用・保守を行うシステム管理者を対象読者とし、インストール後の設定から運用に関する操作手順を実際の流れに則して説明します。また、保守の操作についても説明します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド」
SigmaSystemCenter の管理者を対象読者とし、「SigmaSystemCenter インストレーションガイド」、および「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」を補完する役割を持ちます。
SigmaSystemCenter リファレンスガイドは、以下の 4 冊で構成されています。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド データ編」
SigmaSystemCenter のメンテナンス関連情報などを記載します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 注意事項、トラブルシューティング編」
SigmaSystemCenter の注意事項、およびトラブルシューティング情報などを記載します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」
SigmaSystemCenter の機能説明などを記載します。

「SigmaSystemCenter リファレンスガイド Web コンソール編」
SigmaSystemCenter の操作画面一覧、および操作方法などを記載します。

本書の表記規則

本書では、注意すべき事項、重要な事項、および関連情報を以下のように表記します。

注: は、機能、操作、および設定に関する注意事項、警告事項、および補足事項です。

関連情報: は、参照先の情報の場所を表します。

また、本書では以下の表記法を使用します。

表記	使用方法	例
[ ] 角かっこ	画面に表示される項目 (テキストボックス、チェックボックス、タブなど) の前後	[マシン名] テキストボックスにマシン名を入力します。 [すべて] チェックボックス
「」かぎかっこ	画面名 (ダイアログボックス、ウィンドウなど)、他のマニュアル名の前後	「設定」ウィンドウ 「インストレーションガイド」
コマンドライン中の [ ] 角かっこ	かっこ内の値の指定が省略可能であることを示します。	add [/a] Gr1
モノスペースフォント (courier New)	コマンドライン、システムからの出力 (メッセージ、プロンプトなど)	以下のコマンドを実行してください。 `replace Gr1`
モノスペースフォント斜体 (*courier New*)	ユーザが有効な値に置き換えて入力する項目 値の中にスペースが含まれる場合は " " (二重引用符) で値を囲んでください。	`add GroupName` `InstallPath="Install Path"`

セクション I　Web コンソール一覧

このセクションでは、SigmaSystemCenter の Web コンソールの説明や SigmaSystemCenter の Web コンソールの各項目の一覧を記載します。

- 1　Web コンソールの概要
- 2　管理
- 3　システムリソース
- 4　運用
- 5　仮想
- 6　監視

1.　Web コンソールの概要

SigmaSystemCenter の Web コンソールの各名称、および概要について説明をします。

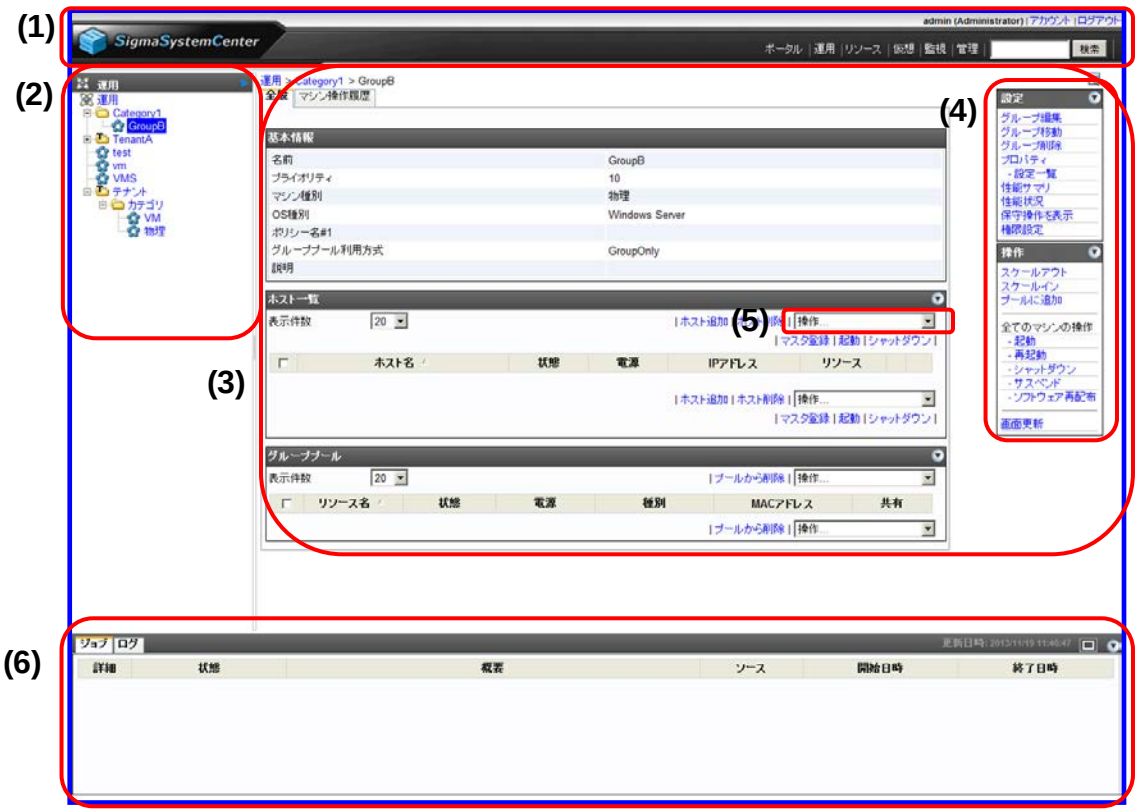
本章で説明する項目は以下の通りです。

- 1.1　Web コンソールの概要 4

1.1. Web コンソールの概要

Webコンソールを使用して、管理対象マシンの操作やグループ管理など様々な操作を行うことができます。

Web コンソールは、以下の 5 つのパーツから構成されています。



(1) タイトルバー

Web コンソール上部には常にタイトルバーが表示されています。

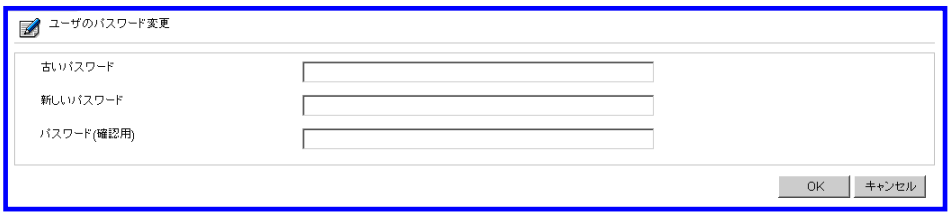
タイトルバーは、検索機能、メインメニュー、アカウント管理機能から構成されています。

- ユーザ名

  ログインしているユーザ名、およびユーザの役割 (権限) を表示します。

- アカウント管理機能

  ログインしているユーザのパスワードを変更できます。



ユーザのパスワード変更		
	古いパスワード (入力必須)	現在使用しているパスワードを入力します。
	新しいパスワード (入力必須)	変更するパスワードを入力します。入力できる文字数は128文字以内です。使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。
	パスワード (確認用) (入力必須)	確認のため再度同じパスワードを入力します。
[OK]		パスワード情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		パスワード情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

- ログアウト

  SystemProvisioning からログアウトします。

- メインメニュー

  各メニューをクリックすると、ツリービュー、およびメインウィンドウの表示を切り替えることができます。

- 検索機能

  マシンの検索ができます。検索機能の詳細は、「1.1.2　検索」を参照してください。

(2) ツリービュー

メインメニューをクリックすることにより、ツリービューが切り替わります。

ツリービューのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに詳細情報、[設定] メニュー、および [操作] メニューが表示され、操作を進めることができます。

(3) メインウィンドウ

SystemProvisioning のメインウィンドウです。

- グループボックス

  グループボックスは、メインウィンドウに表示される詳細情報、各一覧表示ボックスを指します。

グループボックス内に表示される項目

表示件数	対象一覧の表示件数を選択できます。
(チェックボックス)	[アクション] メニューからの操作の対象とする項目を選択します。1行目のチェックボックスをオンにすると、すべての項目が選択されます。
以下の項目は、表示件数が [表示件数] プルダウンボックスに指定した数を上回る場合のみ表示されます。	
<	前のページのグループボックスに遷移します。
>	次のページのグループボックスに遷移します。
<<	先頭ページのグループボックスに遷移します。
>>	末尾ページのグループボックスに遷移します。
(テキストボックス)	グループボックスのページを指定します。
Go	テキストボックスに指定されたグループボックスのページに遷移します。

(4) [設定] メニュー、[操作] メニュー

グループの作成などの設定をしたり、マシンの起動などのアクションの実行をしたりするためのメニューです。ツリービューで選択された内容に対応したメニューが表示されます。[操作] メニューは、ツリービューで選択したビュー内のすべてのリソースに対して実行されます。

(5) [アクション] メニュー

各グループボックス内にあるメニュー、およびプルダウンボックスから選択できるメニューです。[アクション] メニューは、グループボックス内の選択したリソースに対して実行されます。

メインウィンドウに表示されるグループボックス内のリストから対象リソースのチェックボックスをオンにして、[アクション] メニューを実行します。

(6) メッセージウィンドウ

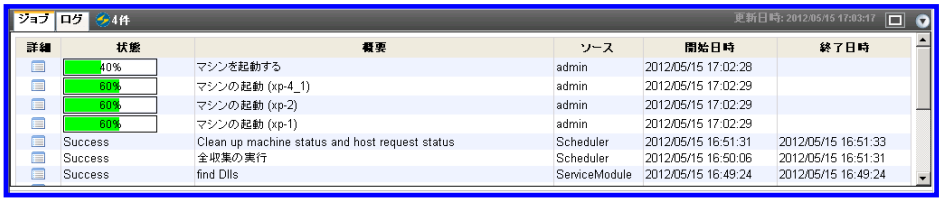
ジョブ、およびログについて最新の情報が表示されます。

メッセージウィンドウ内に表示されるアイコンは以下です。

アイコン	説明
	失敗したジョブ件数を表示します。
	処理中のジョブ件数を表示します。
	警告が発生したジョブ数を表示します。
/	アイコンをクリックすると、ウィンドウの最大化 / 最小化します。
/	アイコンをクリックすると、ウィンドウの開閉を行います。

- ジョブウィンドウ

  60 分以内に実行されたジョブ情報を 100 件まで表示します。

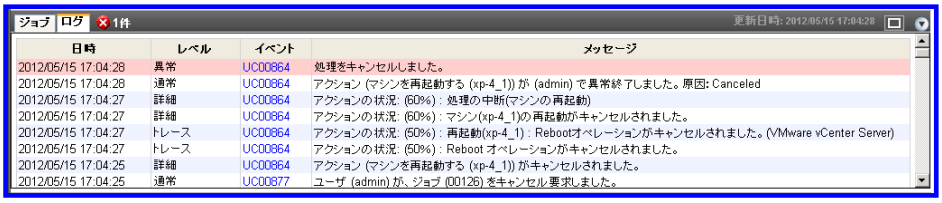


ジョブウィンドウ内に表示される項目

詳細	アイコンをクリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
概要	ジョブの概要を表示します。
ソース	ジョブを実行したユーザ名、またはシステムモジュール名を表示します。コマンドから実行した場合、"System" と表示されます。
開始日時	ジョブの開始日時を表示します。
終了日時	ジョブの終了日時を表示します。

- ログウィンドウ

  最新のログ情報を100 件まで表示します。



日時	ログの日時を表示します。
レベル	ログのレベルを表示します。
イベント	イベント番号を表示します。 クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。
メッセージ	ログのメッセージを表示します。

1.1.1. ログインウィンドウ

SystemProvisioning の Web コンソールを起動すると表示されます。

ユーザ名、パスワードを入力し、[ログイン] をクリックします。

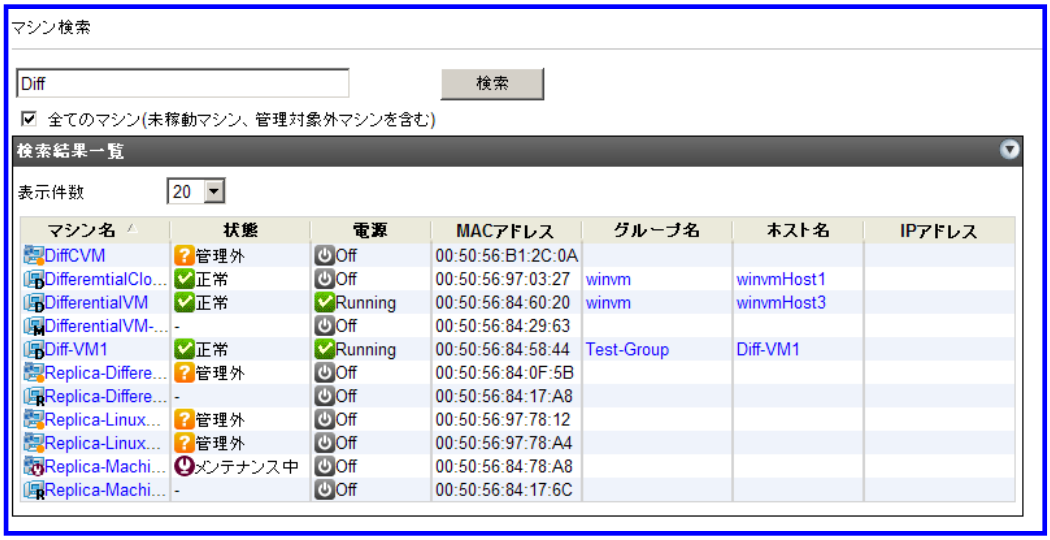
注: 初めてログインする場合は、ユーザ名、およびパスワードに "admin" を入力してください。また、管理者権限を持つ任意のユーザを1 つ以上登録すると、初期ユーザは使用できなくなります。

SigmaSystemCenter ログイン	
ユーザ名 **(入力必須)**	ユーザ名を入力します。大文字と小文字を区別して入力してください。
パスワード **(入力必須)**	パスワードを入力します。ロックアウトが起きた場合は、「SigmaSystemCenterリファレンスガイド 概要編」の「1.1.14 ユーザのロックアウトについて」を参照してください。
次回からユーザ名の入力を省略	チェックボックスをオンにすると、次回起動する場合にユーザ名の入力を省略できます。
[ログイン]	ユーザ名、パスワードを確認し、SystemProvisioningにログインします。

1.1.2. 検索

マシンの検索を行います。

タイトルバーのテキストボックスにマシン検索のキーワードを入力し、[検索] をクリックします。



マシン検索	
(テキストボックス) **(入力必須)**	マシンを検索するキーワードとなる文字列を入力します。マシンを検索するキーワードに関しては以下に記載します。
[検索]	マシン検索で入力された情報を元にマシンを検索します。
全てのマシン (未稼動マシン、管理対象外マシンを含む)	未稼動マシン、管理対象外マシンを含むすべてのマシンを検索する場合、チェックボックスをオンにします。
検索結果一覧	
マシン名	検索で該当したマシン名を表示します。

状態	マシンの状態を表示します。
電源	マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
グループ名	マシンが所属しているグループ名を表示します。
ホスト名	ホスト名を表示します。
IP アドレス	マシンのIPアドレスを表示します。

2. 管理

[管理] ビューでは、SigmaSystemCenter のライセンス、ユーザ、ポリシー、サブシステム、および環境の設定、および管理の説明をします。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 2.1 [管理] ビュー 12
- 2.2 ライセンス 13
- 2.3 ライセンスの詳細情報 13
- 2.4 ユーザの詳細情報 15
- 2.5 ポリシー 30
- 2.6 ポリシーの詳細情報 30
- 2.7 ポリシープロパティ設定 32
- 2.8 サブシステム 42
- 2.9 サブシステムの詳細情報 42
- 2.10 サブシステム追加 43
- 2.11 サブシステム編集 54
- 2.12 サブシステム削除 69
- 2.13 環境設定 70

2.1. [管理] ビュー

[管理] ビューでは、ライセンスキーの登録、ユーザの追加、システム環境設定など SigmaSystemCenter を使用するにあたって必要な情報の設定を行います。また、運用ポリシーの登録やサブシステムの登録を行います。

タイトルバーの [管理] をクリックすると、[管理] ビューに切り替わります。

2.2. ライセンス

SigmaSystemCenter をインストールした後、製品に添付されているライセンスキーシートに記載のライセンスキーを登録します。

2.3. ライセンスの詳細情報

[メディア情報] グループボックスに SigmaSystemCenter のバージョン、[エディション情報] グループボックスにSigmaSystemCenterのエディション情報、[ターゲットOSライセンス] グループボックスに登録されているターゲットライセンス (OS の種類、VM ホストソケット、Differential Clone)、また [ライセンス個別情報] グループボックスにライセンスの個別情報がそれぞれ表示されます。

[管理] ツリーから [ライセンス] をクリックすると、メインウィンドウにライセンスの詳細情報が表示されます。

注:

・[ライセンス個別情報] グループボックスは、管理者権限を持つ Administrator ユーザの場合のみ表示されます。

・無効のライセンスが登録されている場合は、[ライセンス個別情報] グループボックスの無効ライセンスの行の文字が灰色で表示されます。

メディア情報	
バージョン	SigmaSystemCenterのバージョンを表示します。
エディション情報	
エディション	SigmaSystemCenterのエディション名を表示します。
オプション	SigmaSystemCenterで使用できるオプションを表示します。

有効期限	エディションライセンスの有効期限を表示します。
ターゲットライセンス	
種別	登録されているターゲットライセンスの種類を表示します。
管理可能数	登録されているターゲットライセンスの管理可能数を表示します。
消費数	既に使用しているライセンス数を表示します。
ライセンス個別情報	
ライセンスキー	登録されているライセンスキーを表示します。
オプション	ライセンスのオプション情報を表示します。
種別	登録されているターゲットライセンスの種類を表示します。
バージョン	登録されているライセンスのバージョンを表示します。
ライセンス数	登録されているライセンス数を表示します。
削除	選択したライセンス個別情報を削除します。
ライセンス追加	
ライセンスキー	ライセンスキーを入力します。
ファイル選択	ライセンスファイルを選択します。
[追加]	入力したライセンスキー、またはライセンスファイルに記載されたライセンスキーを追加します。ライセンス追加後、SystemProvisioningを再起動する必要がある場合があります。SystemProvisioningの再起動については、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「9.1.1 SystemProvisioningを起動 / 再起動 / 停止するには」を参照してください。

2.4. ユーザの詳細情報

[ユーザ一覧] グループボックス、[ロール一覧] グループボックスに SigmaSystemCenter を使用するユーザの一覧、およびロールの一覧を表示します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。

ユーザ一覧	
ユーザ	ユーザ名を表示します。
権限	ユーザの権限を表示します。
認証種別	認証種別を表示します。
最終ログイン日時	ユーザが最後にログインした日時を表示します。
最終ログイン元 IP アドレス	ユーザが最後にログインした時のログイン元IPアドレスを表示します。
ユーザ状態	ユーザが有効か無効かの状態を表示します。 ログインの連続失敗回数が上限値を超え、ロックアウトによりユーザ状態が無効に変更されたユーザは、「無効 (ロックアウト)」と表示されます。
説明	ユーザの説明を表示します。
権限詳細	ユーザに設定されている権限の一覧を表示します。
編集	[編集] をクリックすると、ユーザ情報の編集を行います。「ユーザ編集」ウィンドウに遷移します。
追加	ユーザの追加を行います。「ユーザ追加」ウィンドウに遷移します。
削除	選択したユーザを削除します。

有効/無効	ユーザ状態を切り替えます。
ロール一覧	
ロール名	ロール名を表示します。
設定対象	ロールの設定対象を表示します。
説明	ロールの説明を表示します。
編集	[編集] をクリックすると、ロール情報の編集を行います。「ロール編集」ウィンドウに遷移します。
コピー	選択したロールをコピーします。
追加	ロール追加を行います。「ロール追加」ウィンドウに遷移します。
削除	選択したロールを削除します。
グループ一覧	
グループ	グループ名を表示します。
説明	グループの説明を表示します。
編集	[編集] をクリックすると、グループ情報の編集を行います。「グループ編集」ウィンドウに遷移します。
追加	グループ追加を行います。「グループ追加」ウィンドウに遷移します。
削除	選択したグループを削除します。

2.4.1. ユーザ追加

SigmaSystemCenter を使用するユーザの追加を行います。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ユーザ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ユーザ追加」が表示されます。ユーザ情報を入力し、[OK] をクリックするとユーザが追加されます。

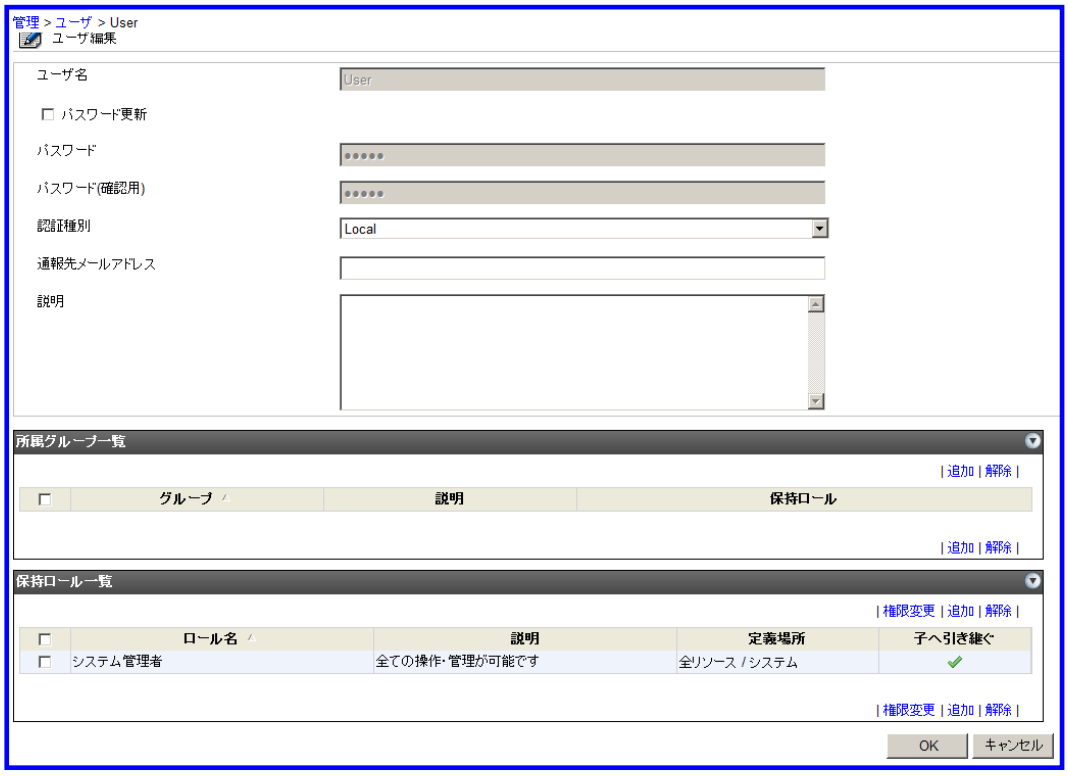
ユーザ追加	
ユーザ名 **(入力必須)**	新規に追加するユーザ名を入力します。既に存在するユーザ名を入力すると、追加時にエラーになります。大文字小文字だけが違うユーザの登録は許可していません。入力できる文字数は32文字以内です。使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? ¥ | [ ]
パスワード **(入力必須)**	ユーザのパスワードを入力します。入力できる文字数は128文字以内です。使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。
パスワード (確認用) **(入力必須)**	確認のため再度同じパスワードを入力します。
認証種別	ユーザの認証識別を選択します。 Local / System LDAPから選択します。
通報先メールアドレス	通報先のメールアドレスを入力します。
説明	ユーザの説明を入力します。入力できる文字数は128文字以内です。
グループ一覧	
グループ	グループ名を表示します。
説明	グループの説明を表示します。
ロール一覧	

ロール名	ロール名を表示します。
設定対象	ロールの設定対象を表示します。
説明	ロールの説明を表示します。
[OK]	ユーザ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ユーザ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.4.2. ユーザ編集

SigmaSystemCenter を使用するユーザの編集を行います。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ユーザ一覧] グループボックスから編集するユーザの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ユーザ編集」が表示されます。ユーザ情報を編集し、[OK] をクリックすると、ユーザ情報が変更されます。

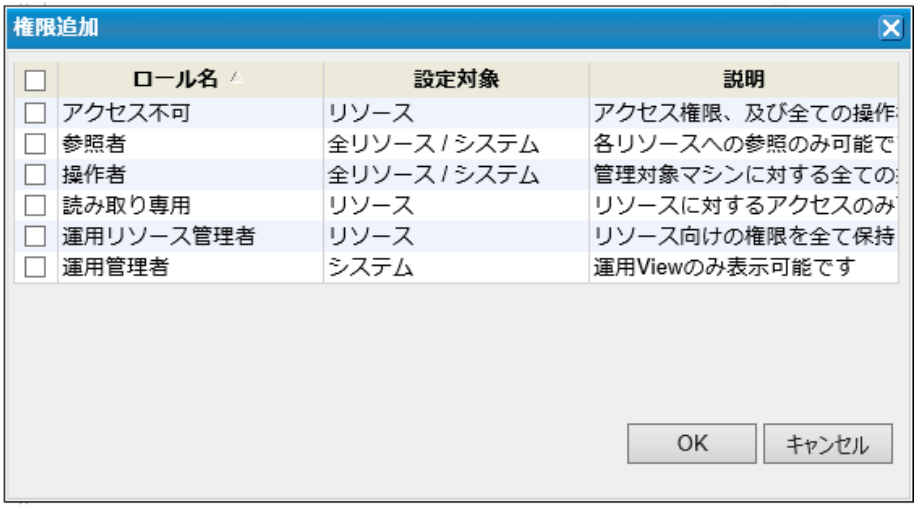


ユーザ編集	
ユーザ名	ユーザ名を表示します。編集はできません。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。入力できる文字数は128文字以内です。使用できる文字はスペースを除く半角英数字、および記号です。

パスワード (確認用)	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、確認のため再度同じパスワードを入力します。
認証種別	ユーザの認証種類を選択します。 Local / System LDAPから選択します。
通報先メールアドレス	通報先のメールアドレスを入力します。
説明	ユーザの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は128文字以内です。
所属グループ一覧	
グループ	グループ名を表示します。
説明	グループの説明を表示します。
保持ロール	グループに設定しているロールを表示します。
追加	ユーザを登録するグループを追加します。
削除	ユーザの登録を解除するグループを削除します。
保持ロール一覧	
ロール名	ユーザに設定されているロール名を表示します。
説明	ロールの説明を表示します。
定義場所	ロールの定義場所を表示します。
子へ引き継ぐ	子リソースに設定を引き継ぐ設定がされている場合、チェックが表示されます。
権限変更	権限変更を行います。権限を変更するロールのチェックボックスを選択し、[権限変更] をクリックすると、[保持ロール一覧] グループボックスの下部に [権限変更] グループボックスが表示されます。
追加	権限追加を行います。[追加] をクリックすると、「権限追加」ダイアログボックスが表示されます。
解除	選択したロールを解除します。
[OK]	ユーザ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ユーザ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

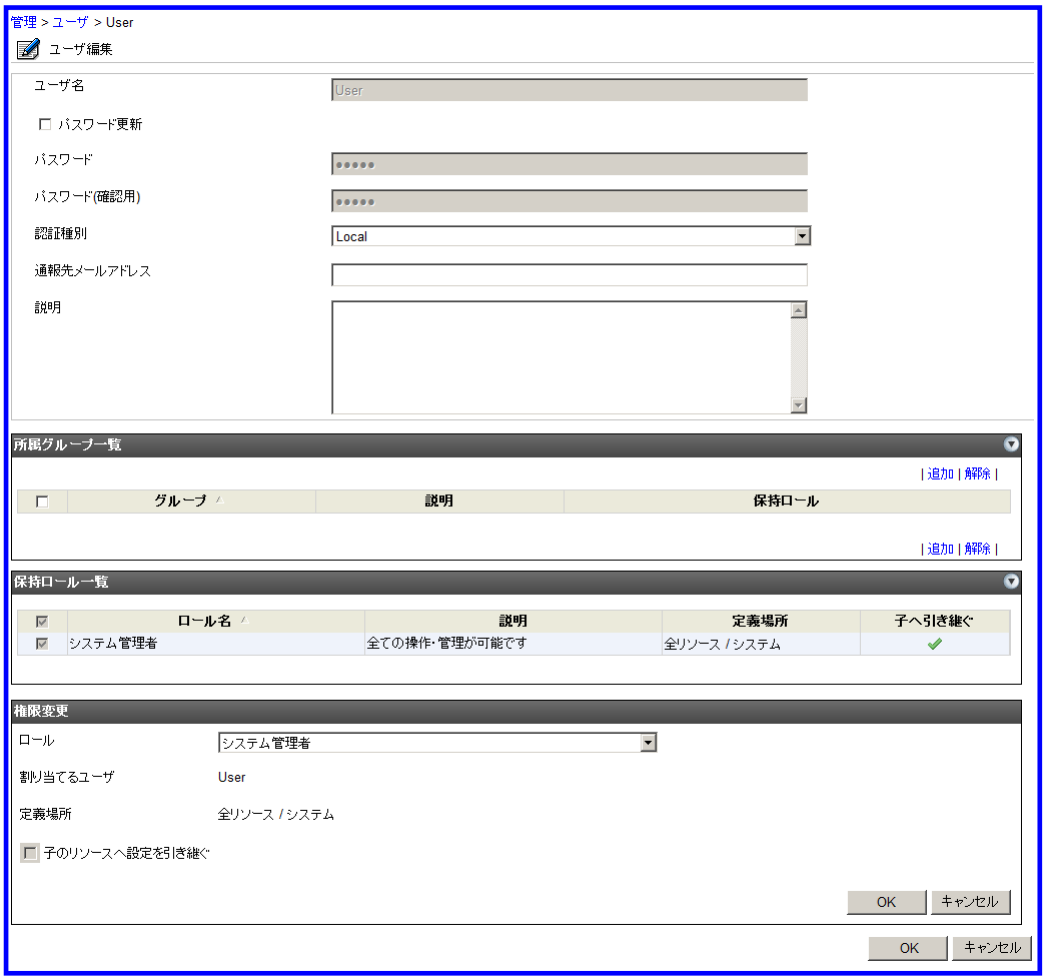
注: [権限変更]、および [追加] はシステム管理者ロールが設定されたユーザで操作した場合のみ表示されます。

[追加] をクリックすると、「権限追加」ダイアログボックスが表示されます。



権限追加	
ロール名	ロールを選択します。
設定対象	ロールの設定対象を表示します。
説明	ロールの説明を表示します。
[OK]	「権限追加」ダイアログボックスを閉じ、[保持ロール一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ロールを追加せずに、「権限追加」ダイアログボックスを閉じます。

[権限変更] をクリックすると、[保持ロール一覧] グループボックス下部に、[権限変更] グループボックスが表示されます。



権限変更	
ロール	割り当てられているロールを表示し、変更もできます。
割り当てるユーザ	ロールを割り当てられているユーザを表示します。
定義場所	ロールが有効となる定義場所を表示します。
子のリソースへ設定を引き継ぐ	子リソースに設定を引き継ぐ場合、チェックボックスをオンにします。
[OK]	変更したロールを [保持ロール一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ロールを変更せずに、[権限変更] グループボックスを閉じます。

2.4.3. ユーザ削除

SigmaSystemCenter で使用しているユーザを削除します。

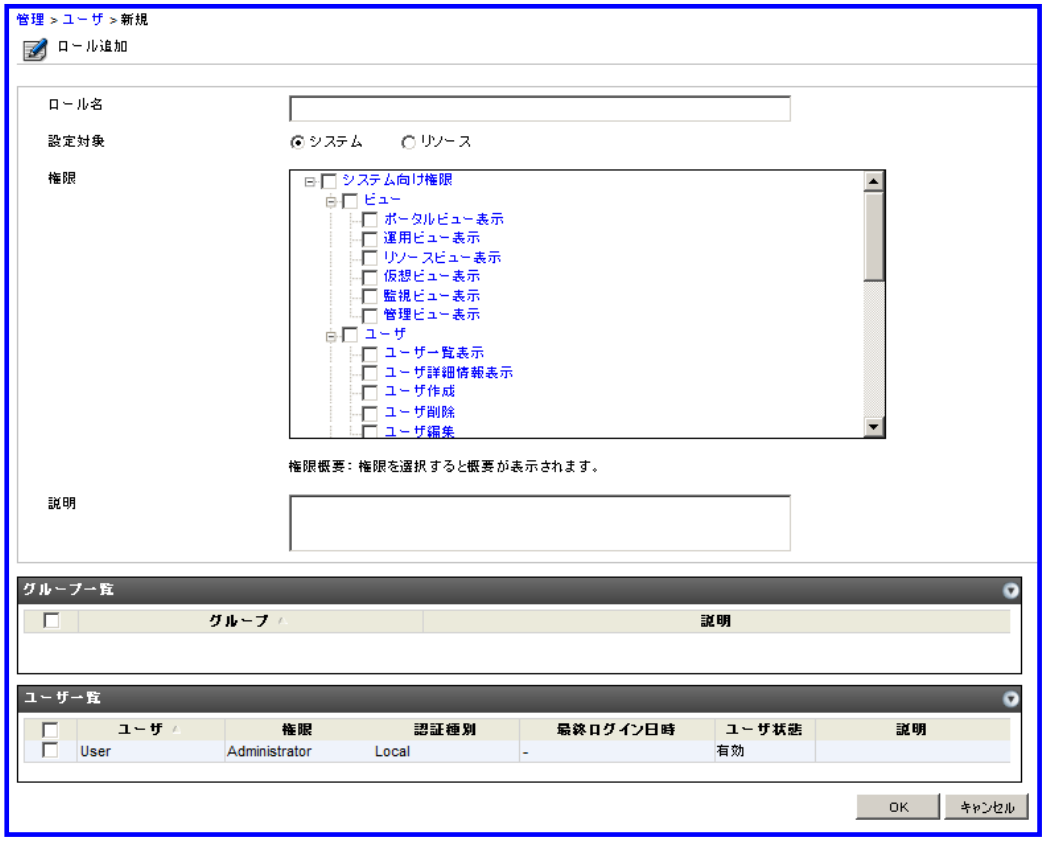
[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ユーザ一覧] グループボックスから削除するユーザのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

注: 削除対象のユーザによって作成されたユーザが存在する場合、そのユーザも一緒に削除されます。

2.4.4. ロール追加

SigmaSystemCenter でユーザに権限を割り当てるためのロールを追加します。ユーザは、割り当てられているロールに設定されている範囲の機能を使用することができます。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ロール一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ロール追加」が表示されます。ロール情報を入力し、[OK] をクリックするとロールが追加されます。



ロール追加	
ロール名	新規に追加するロール名を入力します。既に存在するロール名を入力すると、追加時にエラーになります。入力できる文字数は32文字以内です。
設定対象	"システム" と "リソース" のどちらか一方を選択します。システムを選択する場合、各ビューの表示やユーザ管理、ロール管理、ユーザグループ管理、ポリシー管理、ジョブ管理について可能な操作を設定します。リソースを選択する場合、[運用] ビュー上の設定やホスト、物理マシン、仮想マシン、仮想マシンサーバに対して可能な操作を設定します。
権限	設定したい権限のチェックボックスをオンにします。 各権限名をクリックすると、[権限概要:] に権限の概要が表示されます。
説明	ロールの説明を入力します。入力できる文字数は128文字以内です。
グループ一覧	
グループ	グループ名を表示します。
説明	グループの説明を表示します。
ユーザ一覧	
ユーザ	ユーザ名を表示します。
権限	ユーザの権限を表示します。
認証種別	ユーザの識別種別を表示します。
最終ログイン日時	ユーザが最後にログインした日時を表示します。
ユーザ状態	ユーザが有効か無効かの状態を表示します。
説明	ユーザの説明を表示します。
[OK]	ロール追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ロール追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: [設定対象] がシステムのロールは、システム管理者ロールが割り当てられたユーザのみ追加可能です。

2.4.5. ロール編集

SigmaSystemCenter でユーザに権限を割り当てるためのロールを編集します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ロール一覧] グループボックスから編集するロールの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ロール編集」が表示されます。ロール情報を編集し、[OK] をクリックするとロール情報が変更されます。

ロール編集		
	ロール名	ロール名を表示し、変更もできます。既に存在するロール名を入力すると、追加時にエラーになります。入力できる文字数は32文字以内です。
	設定対象	ロールの設定対象を表示します。変更はできません。
	権限	ロールの権限レベルを表示し、変更もできます。
	説明	ロールの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は128文字以内です。
所属グループ一覧		
	グループ	グループ名を表示します。
	説明	グループの説明を表示します。
	保持ロール	グループに設定しているロールを表示します。
	追加	ロールを設定するグループを追加します。
	削除	ロールの設定を解除するグループを削除します。
設定ユーザ一覧		
	ユーザ	ユーザ名を表示します。
	権限	ユーザの権限を表示します。
	認証種別	ユーザの認証種別を表示します。

	最終ログイン日時	ユーザが最後にログインした日時を表示します。
	ユーザ状態	ユーザが有効か無効かの状態を表示します。
	説明	ユーザの説明を表示します。
	追加	ロールを割り当てるユーザを追加します。
	削除	ロールの割り当てを解除するユーザを削除します。
[OK]		ロール編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ロール編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: [設定対象] がシステムのロールは、システム管理者ロールが割り当てられたユーザのみ編集可能です。

2.4.6. ロールコピー

既存のロールをコピーして新しくロールを作成します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ロール一覧] グループボックスからコピーするロールのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [コピー] をクリックすると、選択したロールがコピーされ、[ロール一覧] グループボックスに表示されます。

2.4.7. ロール削除

ロールを削除します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[ロール一覧] グループボックスから削除するロールのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

注:

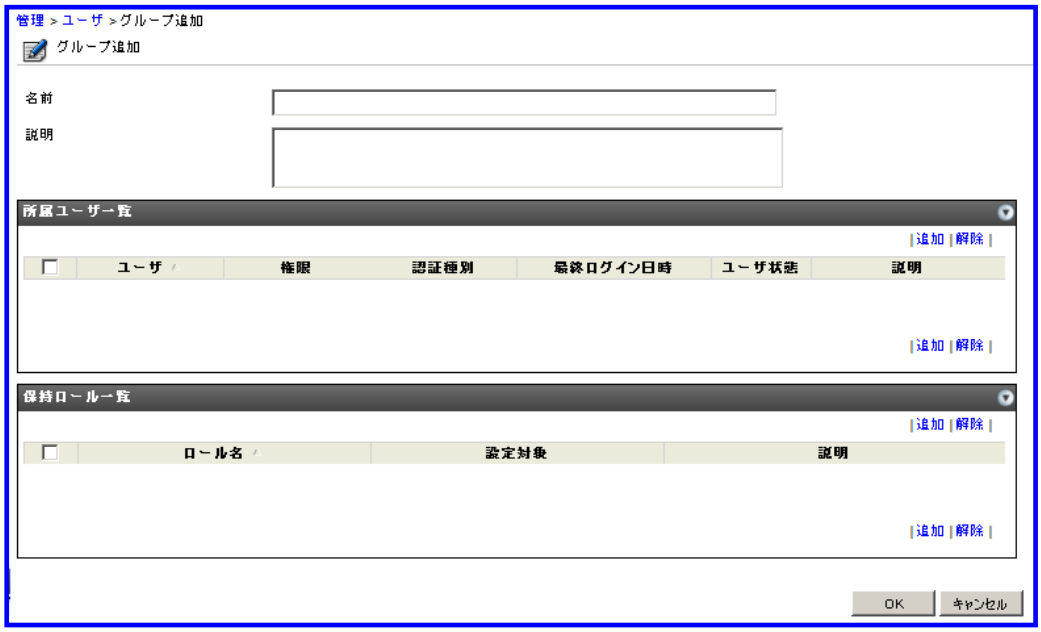
・ [設定対象] がシステムのロールは、システム管理者ロールが割り当てられたユーザのみ削除可能です。

・ ユーザに割り当てられているロールは削除できません。割り当てられているユーザから該当のロールを解除した後、再度実行してください。

2.4.8. グループ追加

SigmaSystemCenter で複数のユーザに対してロールとリソースの設定を簡易に行うためのグループを追加します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[グループ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。グループ情報を入力し、[OK] をクリックするとグループが追加されます。



グループ追加		
	名前	新規に追加するグループ名を入力します。既に存在するグループ名を入力すると、追加時にエラーになります。入力できる文字数は32文字以内です。使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? ¥ | [ ]
	説明	グループの説明を入力します。入力できる文字数は128文字以内です。
	所属ユーザ一覧	
	ユーザ	所属するユーザ名を表示します。
	権限	ユーザの権限を表示します。
	認証種別	ユーザの認証種別を表示します。
	最終ログイン日時	ユーザが最後にログインした日時を表示します。
	ユーザ状態	ユーザが有効か無効かの状態を表示します。
	説明	ユーザの説明を表示します。
	追加	グループに所属させるユーザを追加します。
	削除	チェックボックスをオンにしたユーザをグループから削除します。
	保持ロール一覧	
	ロール名	ロール名を表示します。
	設定対象	ロールの設定対象を表示します。
	説明	ロールの説明を表示します。

	追加	グループに設定するロールを追加します。
	削除	グループからロールを削除します。
[OK]		グループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		グループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.4.9. グループ編集

SigmaSystemCenter で複数のユーザに対してロールとリソースの設定を簡易に行うために追加したグループの編集を行います。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[グループ一覧] グループボックスから編集するグループの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」が表示されます。グループ情報を編集し、[OK] をクリックすると、グループ情報が変更されます。

グループ編集		
	名前	グループ名を表示します。編集はできません。
	説明	グループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は128文字以内です。
	所属ユーザ一覧	
		ユーザ ユーザ名を表示します。
		権限 ユーザの権限を表示します。
		認証種別 ユーザの認証種別を表示します。
		最終ログイン日時 ユーザが最後にログインした日時を表示します。

		ユーザ状態	ユーザが有効か無効かの状態を表示します。
		説明	ユーザの説明を表示します。
		追加	グループに割り当てるユーザを追加します。
		解除	グループに割り当てていたユーザを解除します。
	保持ロール一覧		
		ロール名	グループに設定されているロール名を表示します。
		設定対象	ロールの設定対象を表示します。
		説明	ロールの説明を表示します。
		追加	グループに割り当てるロールを追加します。
		解除	グループに割り当てていたロールを解除します。
[OK]			グループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			グループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.4.10. グループ削除

グループを削除します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[グループ一覧] グループボックスから削除するグループのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、グループが削除されます。

注: 削除対象のグループにユーザが所属している場合は、グループを削除することができません。グループに所属するユーザを解除したうえで、グループを削除ししてください。

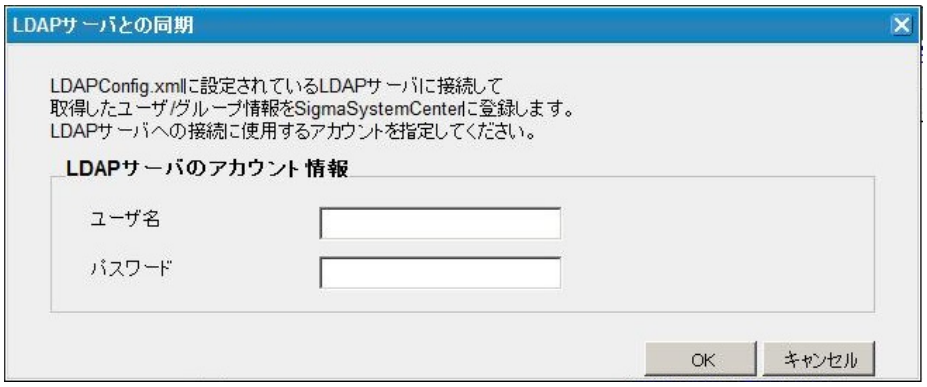
2.4.11. LDAP サーバとの同期

LDAP サーバ上のグループと配下のユーザアカウントをSigmaSystemCenter 上に反映します。

[管理] ツリーから [ユーザ] をクリックすると、メインウィンドウにユーザの詳細情報が表示されます。[操作] メニューから [LDAP サーバとの同期] をクリックすると「LDAP サーバとの同期」ダイアログボックスが表示されます。

注: [LDAP サーバとの同期] は、本操作を実施するユーザが管理者権限、または "LDAP サーバとの同期" 権限を含むロールが設定されている場合のみ表示されます。

関連情報: LDAP サーバとの同期の設定については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「1.1.15 LDAP サーバの利用」を参照してください。



LDAP サーバとの同期		
	LDAP サーバのアカウント情報	
	ユーザ名	LDAPサーバと認証を行うユーザアカウント名を入力します。入力できる文字数は32文字以内です。使用できる文字は任意の文字列です。以下の記号は使用できません。 * + , / : ; < = > ? ¥ | [ ]
	パスワード	LDAPサーバと認証を行うユーザアカウントのパスワードを入力します。入力できる文字数は128文字以内です。
[OK]		LDAPサーバとの同期を開始し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		LDAPサーバとの同期を開始せずに、元のウィンドウに戻ります。

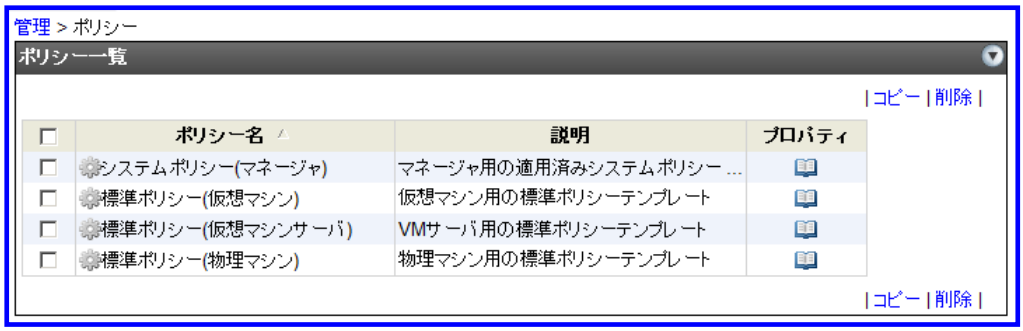
2.5. ポリシー

SigmaSystemCenter で使用するポリシーの設定を行います。ポリシーは、ESMPRO/ServerManager、vCenter Server、Hyper-V クラスタ、およびSystemMonitor性能監視などが検出した障害イベントに対して、どのような処理を自動実行し、復旧するかなどを各グループに対して設定できます。

2.6. ポリシーの詳細情報

[ポリシー一覧] グループボックスにSigmaSystemCenterで使用するポリシー一覧を表示します。

[管理] ツリーから [ポリシー] をクリックすると、メインウィンドウにポリシーの詳細情報が表示されます。



ポリシー一覧	
ポリシー名	ポリシー名を表示します。
説明	ポリシーの説明を表示します。
プロパティ	ポリシーのプロパティ設定を行います。「ポリシープロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
コピー	選択したポリシーをコピーし、複製を作成します。
削除	選択したポリシーを削除します。グループに設定されているポリシーの削除はできません。

2.6.1. ポリシー追加

ポリシーの追加を行います。

[管理] ツリーから [ポリシー] をクリックすると、メインウィンドウにポリシーの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [ポリシー追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ポリシー追加」が表示されます。ポリシー情報を入力し、[OK] をクリックするとポリシーが追加されます。

[テンプレート] プルダウンボックスから追加するポリシーのテンプレートを選択することにより、新規、または各標準ポリシーを追加することができます。

ポリシー追加	
名前 **(入力必須)**	ポリシー名を入力します。既に存在するポリシー名を入力すると、追加時にエラーになります。入力できる文字数は100文字以内です。
説明	ポリシーの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
テンプレート	使用するテンプレートを選択します。[新規] を選択した場合、空のポリシーデータを作成します。また、各標準ポリシーを選択した場合、選択された標準ポリシー情報から新たにポリシーを作成します。
[OK]	ポリシー追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ポリシー追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.6.2. 既存ポリシーのコピー

既存のポリシーをコピーします。

[管理] ツリーから [ポリシー] をクリックし、メインウィンドウにポリシーの詳細情報を表示します。[ポリシー一覧] グループボックスからコピーするポリシーのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [コピー] をクリックすると、選択した既存ポリシーがコピーされます。

2.6.3. ポリシー削除

ポリシーを削除します。

[管理] ツリーから [ポリシー] をクリックし、メインウィンドウにポリシーの詳細情報を表示します。[ポリシー一覧] グループボックスから削除するポリシーのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、選択したポリシーが削除されます。

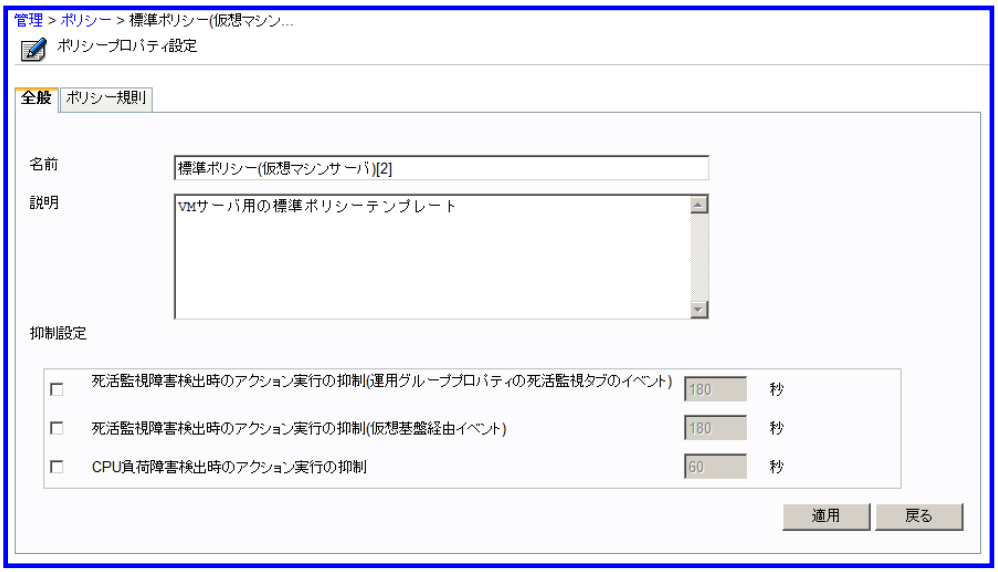
2.7. ポリシープロパティ設定

ポリシープロパティの設定を行います。

ポリシー規則やイベントに対するアクションを設定することができます。

[管理] ツリーから [ポリシー] をクリックすると、メインウィンドウにポリシーの詳細情報が表示されます。[ポリシー一覧] グループボックスから編集するポリシーの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ポリシープロパティ設定」が表示されます。ポリシープロパティ情報を設定し、[適用] をクリックすると設定が変更されます。

◆ [全般] タブ



全般		
	名前 **(入力必須)**	ポリシー名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
	説明	ポリシーの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	抑制設定	
	死活監視障害検出時のアクション実行の抑制 (運用グループプロパティの死活監視タブのイベント)	死活監視障害検出時のアクション実行を抑制させる場合、チェックボックスをオンにします。また、回復イベントが発生するかどうかを待ち合わせる時間を入力します。
	待機時間 (秒)	[死活監視障害検出時のアクション実行の抑制 (運用グループプロパティの死活監視タブ)] チェックボックスがオンの場合、入力できます。障害イベントを受信してから回復イベントが発生するかどうか待ち合わせる時間を入力します。既定値は (180) 秒です。「1～99999」の範囲で設定できます。

		死活監視障害検出時のアクション実行の抑制 (仮想基盤経由イベント)	仮想化基盤独自に検出される死活監視障害検出時のアクション実行を抑制させる場合、チェックボックスをオンにします。また、回復イベントが発生するかどうかを待ち合わせる時間を入力します。
		待機時間 (秒)	[死活監視障害検出時のアクション実行の抑制 (仮想基盤経由イベント)] チェックボックスがオンの場合、入力できます。障害イベントを受信してから回復イベントが発生するかどうか待ち合わせる時間を入力します。既定値は (180) 秒です。「1～99999」の範囲で設定できます。
		CPU 負荷障害検出時のアクション実行の抑制	CPU負荷障害検出時のアクション実行を抑制させる場合、チェックボックスをオンにします。また、回復イベントが発生するかどうかを待ち合わせる時間を入力します。
		待機時間 (秒)	[CPU負荷障害検出時のアクション実行の抑制] チェックボックスがオンの場合、入力できます。障害イベントを受信してから回復イベントが発生するかどうか待ち合わせる時間を入力します。既定値は (60) 秒です。「1～99999」の範囲で設定できます。
[適用]			ポリシープロパティ設定情報を適用します。
[戻る]			ポリシープロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

・ 抑制設定は、「2.7.1 ポリシー規則設定」の [区分全てのイベントを対象とする] チェックボックスをオンにした場合に有効となります。

・ 初期登録される標準ポリシーと「2.6.1 ポリシー追加」で作成された新しいポリシーは、抑制設定のチェックボックスがデフォルトでオンになります。

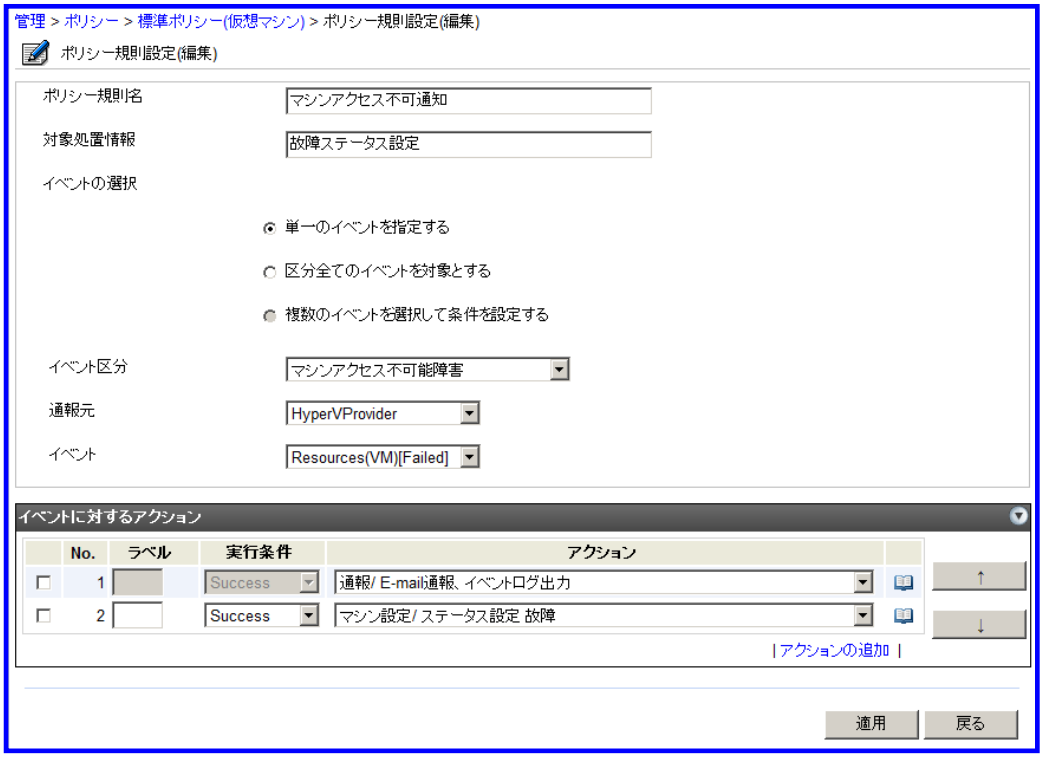
◆ [ポリシー規則] タブ

ポリシー規則		
	ポリシー規則一覧	
	通報元	イベントの検出モジュールを認識する名称を表示します。「2.7.1 ポリシー規則設定」の [区分全てのイベントを対象とする] チェックボックスがオンの場合は、表示されません。
	ポリシー規則名	ポリシー規則名を表示します。
	対応処置	対応処置の概要を表示します。
	状態	ポリシー設定の状態を表示します。無効に設定されている場合、行全体の文字が灰色で表示されます。
	編集	ポリシー規則の編集を行います。「ポリシー規則設定」ウィンドウに遷移します。
	追加	ポリシー規則の追加を行います。「ポリシー規則設定」ウィンドウに遷移します。
	削除	選択したポリシー規則を削除します。
	有効 / 無効	選択したポリシー規則の有効、無効を切り替えます。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

2.7.1. ポリシー規則設定

ポリシー規則の設定を行います。

「ポリシープロパティ設定」ウィンドウの [ポリシー規則] タブの [ポリシー規則一覧] グループボックスから [追加]、もしくはポリシー規則設定を編集するイベントの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ポリシー規則設定」が表示されます。ポリシー規則情報を入力し、[OK] をクリックするとポリシー規則の設定を行います。



ポリシー規則設定	
ポリシー規則名 **(入力必須)**	選択したイベントを示す名称が表示されます。入力、および編集もできます。既に同じポリシーで使用されている場合、登録時にエラーになります。入力できる文字数は100文字以内です。
対応処置情報	ポリシーで実行する対応処置を識別する名称を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
イベントの選択	
単一のイベントを指定する	1つだけのイベントを対象とする場合、選択します。
区分全てのイベントを対象とする	区分すべてのイベントを対象とする場合、選択します。
複数のイベントを選択して条件を設定する	以下の場合、選択された状態で表示され、手動では選択することはできません。 ・[区分全てのイベントを対象とする] チェックボックスをオンにして登録したものを編集するとき ・標準で提供しているポリシーで、複数のイベントが対象になっているものを編集するとき
イベント区分	イベント区分を選択します。イベント区分は、検出可能なイベントを分類しています。 以下の場合、イベント区分は "その他" と表示されます。 ・[区分全てのイベントを対象とする] チェックボックスをオンにして登録したものを編集するとき ・標準で提供しているポリシーで、複数のイベントが対象になっているものを編集するとき

通報元	イベントを検出する通報元を選択します。[イベント区分] プルダウンボックスで選択された区分により通報元の内容は変わります。[イベントの選択] が "区分全てのイベントを対象にする" の場合、変更はできません。
イベント	イベントを選択します。選択した [イベント区分] プルダウンボックス、および [通報元] プルダウンボックスによりイベントの内容は変わります。[イベントの選択] が "区分全てのイベントを対象にする" の場合、変更はできません。
※以下は、"複数のイベントを選択して条件を設定する" 場合のみ表示されます。	
複数イベント条件	[排他抑制]、または [複合要因の発生] を表示します。複合要因の発生は、Webコンソール上では設定できません。
A群イベント一覧	監視イベントの一覧を表示します。
待ち合わせ時間	[A群イベント一覧] のうちのいずれかが発生した場合、[B群イベント一覧] のイベントを検出するための待ち合わせ時間を表示します。[B群イベント一覧] が空の場合、"0" が表示されます。
B群イベント一覧	・[排他抑制] の場合、A群のうちのいずれかが発生した後、このイベント一覧のうちのいずれかが待ち合わせ時間内に発生したとき、ポリシーの実行が抑制されます。 ・[複合要因の発生] の場合、A群のうちのいずれかが発生した後、このイベント一覧のうちのいずれかが待ち合わせ時間内に[B群発生回数] 以上発生していたときに、ポリシーが実行されます。
B群発生回数	[複合要因の発生] の場合のみ表示します。[A群イベント一覧] のうちいずれかが発生した後、B群イベント一覧のうちいずれかが、ここで表示している回数以上発生していた場合にポリシーが実行されます。
イベントに対するアクション	
No.	アクションが実行される順番です。
ラベル	下記の [実行条件] プルダウンボックスと組み合わせて、「No.xに登録されているアクションが、成功したとき / 失敗したとき / 終了したとき」とアクションの実行パターンを指定できます。省略時は、1つ上に登録されているアクションが対象となります。No.の数値を設定した場合は、そのNo.に登録されている実行条件の対象となります。
実行条件	アクションの実行条件を選択します。 Success / Completed / Failedの中から実行条件を選択します。実行条件の詳細については、「2.7.2 アクションパラメータ詳細」を参照してください。
アクション ※1	イベントに対するアクションをプルダウンボックスから選択します。
編集 ※2	アクションの実行条件・パラメータを編集します。「アクションパラメータ詳細」ウィンドウに遷移します。
[↑] ※3	選択したアクションの順序をひとつ前にします。
[↓] ※3	選択したアクションの順序をひとつ後にします。
アクションの追加	アクションのプルダウンボックスを追加します。最大で30件までのアクションを登録することができます。

[適用]	ポリシー規則設定情報を保存し、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウの [ポリシー規則] タブに遷移します。
[戻る]	ポリシー規則設定情報を保存せずに、「ポリシープロパティ設定」ウィンドウの [ポリシー規則] タブに遷移します。

※1 イベントの新規追加時は、空のプルダウンボックスが5つ表示されていますが、編集時は、アクションが設定されている分のみプルダウンボックスが表示されます。

※2 ポリシー規則設定 (編集) の場合のみ、表示されます。

※3 [ラベル] テキストボックスに番号を指定している場合は、順序を変更した後、番号を適切に指定しなおす必要があります。

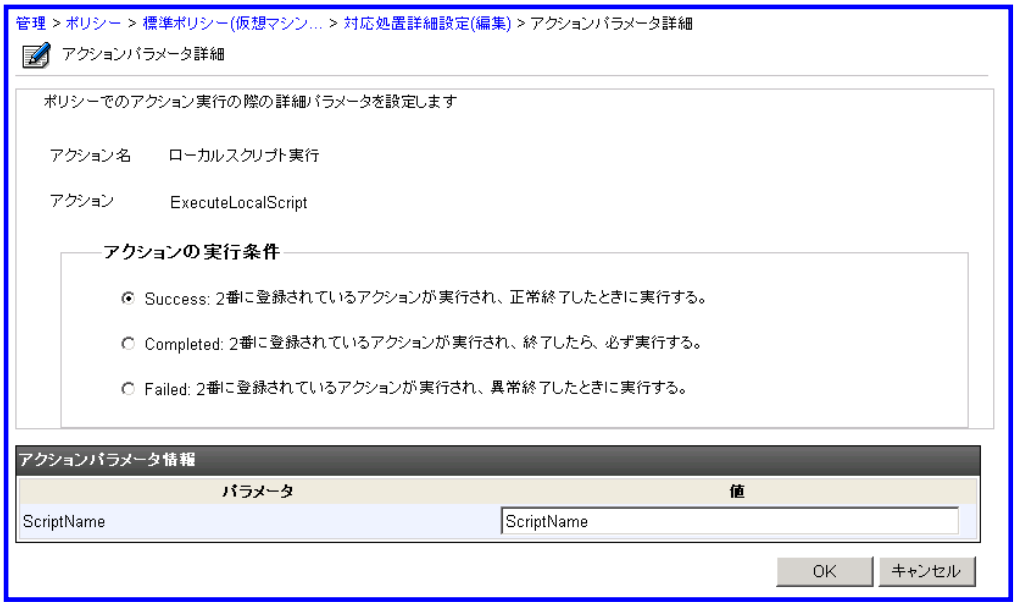
関連情報: 選択可能なイベント区分や通報元については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド データ編」の「1.1. SigmaSystemCenter が検出できる障害」を参照してください。

2.7.2. アクションパラメータ詳細

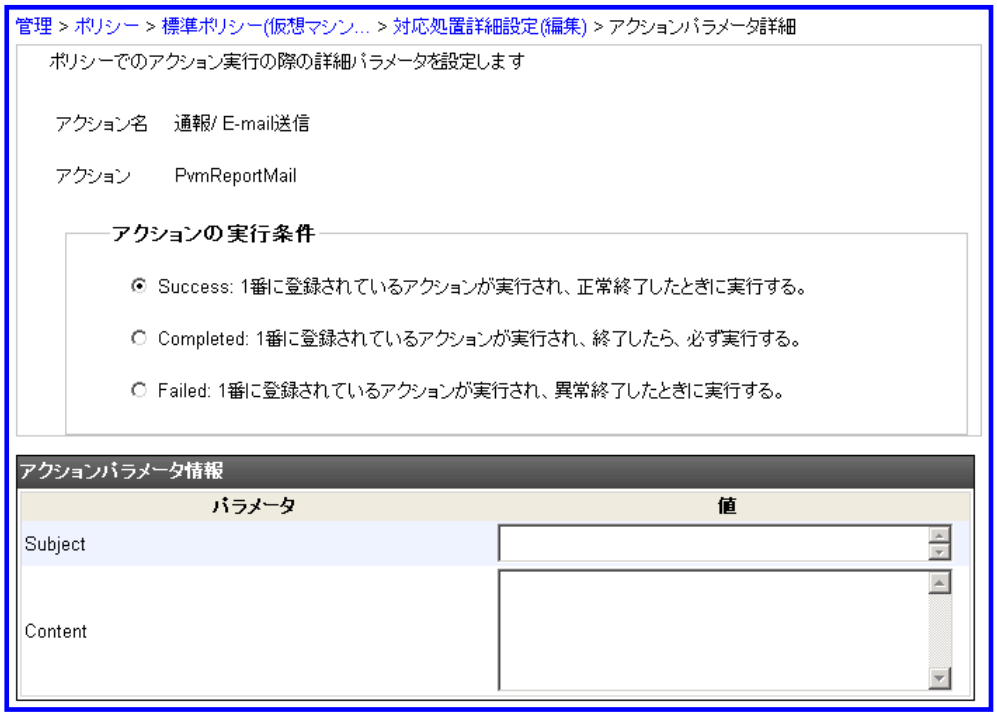
監視イベントの対応処置の設定を行います。

「ポリシー規則設定 (編集)」ウィンドウの [イベントに対するアクション] グループボックスから [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「アクションパラメータ詳細」が表示されます。

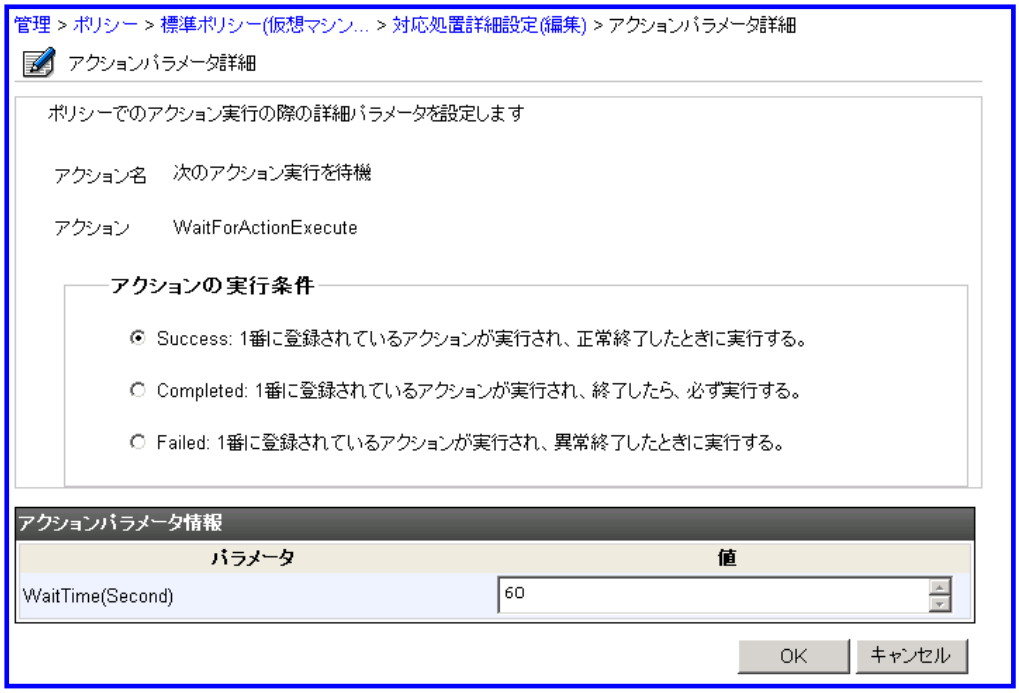
<ローカルスクリプト実行の場合>



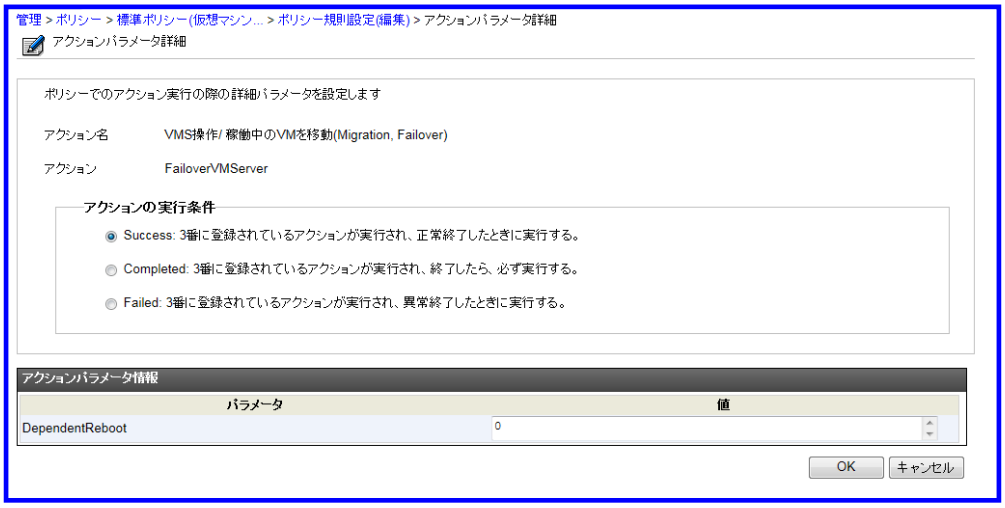
<通報 / E-mail 送信の場合>



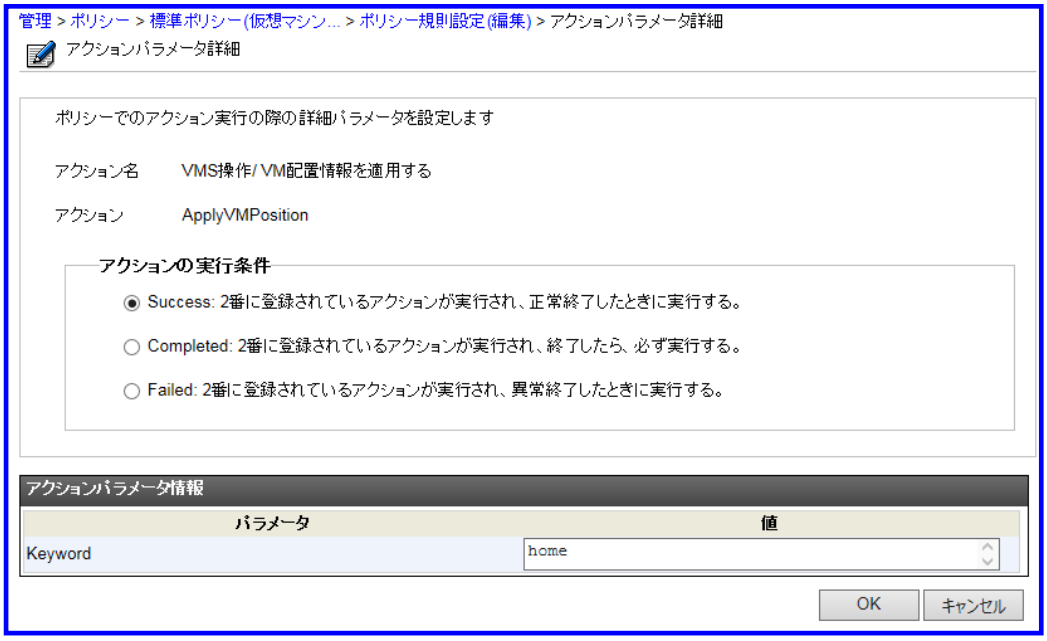
<次のアクション実行を待機の場合>



<VMS 操作 / 稼働中の VM を移動、および VMS 操作 / 全 VM を移動の場合>



<グループ操作 / VM 配置情報を適用する、および VMS 操作 / VM 配置情報を適用する場合>



アクションパラメータ詳細	
アクション名	編集中のポリシーアクション名を表示します。
アクション	アクション実行時に呼ばれるアクションシーケンスの名前が表示されます。
アクションの実行条件	
Success: 対象のアクション (※1) が実行され、正常終了したときに実行する。	対象のアクションが実行され、正常終了したときのみ、このアクションを実行します。

	Completed: 対象のアクション (※1) が実行され、終了したら、必ず実行する	対象のアクションが実行され、終了したら必ず実行します。正常終了 / 異常終了いずれの場合にも必ず実行できるようになります。
	Failed: 対象のアクション (※1) が実行され、異常終了したときに実行する	対象のアクションが実行され、異常終了したときのみ、このアクションを実行します。
	Absolute: 必ず実行する。	必ず実行するアクションのみ表示されます。 1番目に設定されているアクションは、必ず実行されるため、これが表示されます。
アクションパラメータ情報		
	パラメータ	編集を行うパラメータ名が表示されます。
	値	<ローカルスクリプトの場合> [パラメータ] の "ScriptName" では、実行するローカルスクリプト名を入力します。「ローカルスクリプト実行」以外のアクションについては、[値] テキストボックスの編集はできません。実行するローカルスクリプト名が変更された場合、[値] テキストボックスのローカルスクリプト名も変更します。初期の状態では、"ScriptName" が設定されています。 <通報 / E-mail送信の場合> [パラメータ] の "Subject" では、メール送信するときのSubjectを入力します。空のときは "[JobID:xxx] Information Message" になります (xxxは実際のJobIDが指定されます)。 [パラメータ] の "Content" では、メール送信するときの送信内容を入力します。 <次のアクション実行を待機の場合> [パラメータ] の "Wait (Second)" では、待ち合わせる時間を入力します。単位は秒です。初期の状態では、"60" が設定されています。 < VMS操作 / 稼働中のVMを移動、およびVMS操作 / 全VMを移動の場合> [パラメータ] の "DependentReboot" では、VM退避により移動する仮想マシンに対し、依存する仮想マシンを再起動するかを設定します。再起動を行う場合は "1" を、再起動させない場合は "0" を設定します。初期の状態では、"0" が設定されています。 <グループ操作 / VM配置情報を適用する、およびVMS操作 / VM配置情報を適用する場合> [パラメータ] の "Keyword" では、適用する配置情報名を入力します。初期の状態では、"home" が設定されています。
[OK]		アクションパラメータ詳細設定情報を保存し、「ポリシー規則設定 (編集)」ウィンドウに遷移します。
[キャンセル]		アクションパラメータ詳細設定情報を保存せずに、「ポリシー規則設定 (編集)」ウィンドウに遷移します。

※1 対象のアクションとは、以下の通りです。

・[ラベル] テキストボックスが省略されている場合 ：1つ上に登録されているアクション

・[ラベル] テキストボックスが指定されている場合 ： その番号に登録されているアクション

関連情報:

・「ローカルスクリプト実行」のアクションパラメータの値には、実行するローカルスクリプト名を指定します。ローカルスクリプト名は、「3.37　ソフトウェアの基本情報」の「◆シナリオ、ローカルスクリプトの場合」を参照し、ソフトウェア名を入力してください。

・「通報 / E-mail 送信」のアクションパラメータの値には、"Subject" に%EventNumber%を設定するとイベントの管理番号に、%JobId%を設定するとイベントの処理のジョブ管理番号に置き換えることが可能です。%EventNumber%、%JobId%の前後に ' を指定すると置き換えが行われません。

2.8. サブシステム

SystemProvisioning へリソースを登録するには、DeploymentManager や NetvisorPro といった各関連製品をサブシステムに追加し、その後サブシステムが管理するマシンやスイッチといったリソースを SystemProvisioning の管理対象として登録する手順となります。

2.9. サブシステムの詳細情報

[サブシステム一覧] グループボックスにサブシステム一覧を表示します。

[管理] ツリーから [サブシステム] をクリックすると、メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。

サブシステム一覧	
製品名	サブシステムに登録した関連製品の製品名を表示します。
接続状態	サブシステムに登録した関連製品の接続状態を表示します。
バージョン	サブシステムに登録した関連製品のバージョンを表示します。
アドレス	サブシステムに登録した関連製品とアクセスするアドレス、もしくはポート番号を表示します。
編集	選択したサブシステムの編集を行います。「サブシステム編集」ウィンドウに遷移します。
収集	選択したサブシステムの情報を収集します。
削除	選択したサブシステムの削除を行います。

2.10. サブシステム追加

関連製品をサブシステムとして追加します。

[管理] ツリーから [サブシステム] をクリックすると、メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [サブシステム追加] をクリックすると、メインウィンドウに「サブシステム追加」が表示されます。サブシステム情報を入力し、[OK] をクリックするとサブシステムが追加されます。

サブシステムを追加すると、追加したサブシステムの情報が自動的に収集されます。

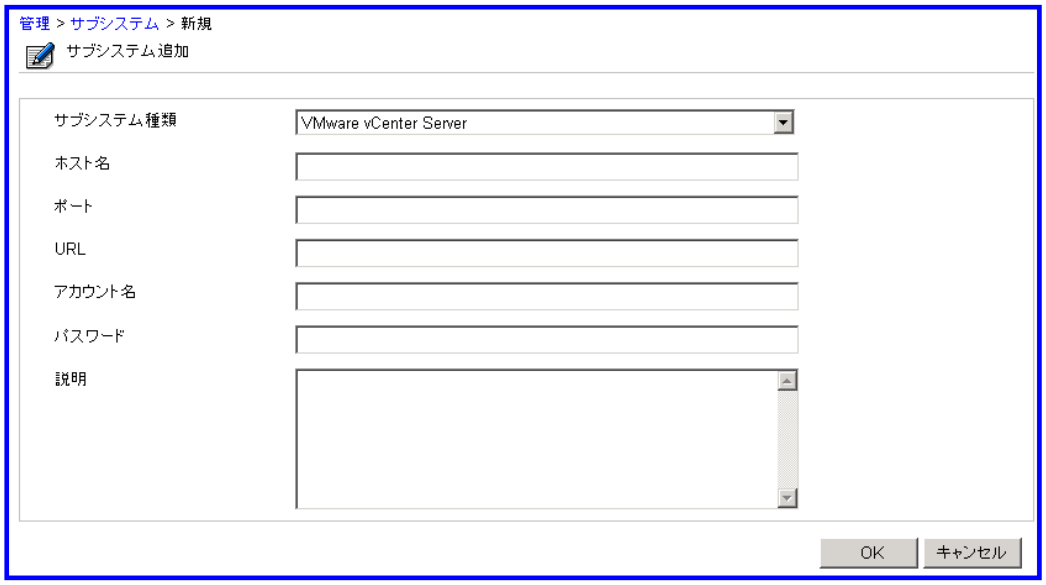
SigmaSystemCenter は、vCenter Server、XenServer Pool Master、または Hyper-V クラスタといった仮想環境管理ソフトウェア、DeploymentManager といった複数のサブシステムから管理対象マシンの情報を収集し利用します。同一のマシンが複数のサブシステムから管理されている場合、それぞれのサブシステムからマシンの情報を収集します。そのため、同一マシンが誤って別マシンとして SystemProvisioning に登録されることがないように注意が必要です。

- サブシステムの登録は、本節に記載されている順番に行います。
- 「サブシステム追加」ウィンドウでサブシステムを選択し、[OK] をクリックすると、追加したサブシステムに対して情報の収集を行います。情報収集が完了したことを確認してから、次のサブシステムの登録を行ってください。
- サブシステムから収集されたマシンの情報は、[リソース] ビューから確認できます。

注: 既に追加済みのサブシステムを別のホスト名や IP アドレス、URL を指定して二重に追加しないようにしてください。

2.10.1. サブシステム追加 (VMware vCenter Server)

VMware vCenter Server をサブシステムに追加します。VMware vCenter Server をサブシステムに追加すると、VMware vCenter Server に登録されている ESX が自動的にサブシステムに追加されます。



サブシステム追加	
サブシステム種類	VMware vCenter Serverを選択します。
ホスト名	VMware vCenter Serverをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。URLを入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	VMware vCenter Serverとアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	VMware vCenter ServerのURLを入力します。ホスト名を入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。
アカウント名	VMware vCenter Serverのアカウント名を入力します。
パスワード	VMware vCenter Serverのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

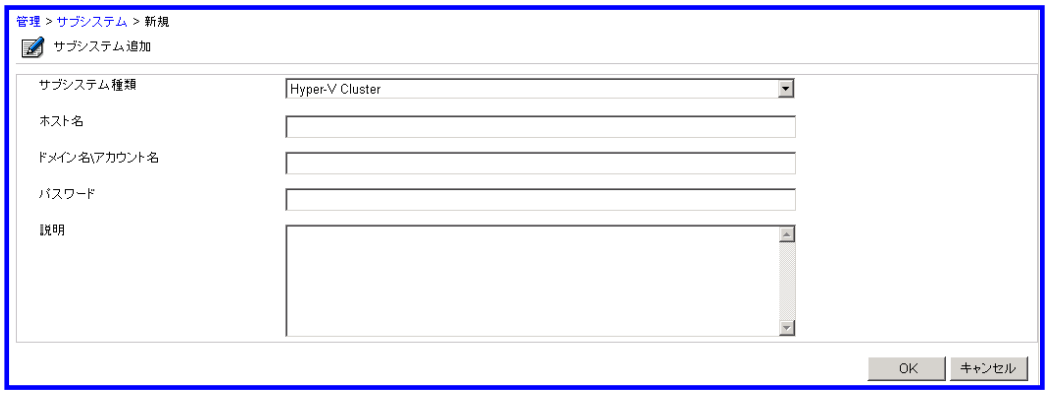
2.10.2. サブシステム追加 (Citrix XenServer Pool Master)

Citrix XenServer Pool Master をサブシステムに追加します。Citrix XenServer Pool Master をサブシステムに追加すると、Pool に登録されている Xen Server が自動的にサブシステムに追加されます。

サブシステム追加	
サブシステム種類	XenServer Pool Masterを選択します。
ホスト名	XenServer Pool Masterとして構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。URLを入力している場合、ホスト名の入力を省略できます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	XenServer Pool Masterとアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	XenServer Pool MasterのURLを入力します。ホスト名を入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。
アカウント名	XenServer Pool Masterのアカウント名を入力します。
パスワード	XenServer Pool Masterのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.3. サブシステム追加 (Hyper-V Cluster)

Hyper-V Clusterをサブシステムに追加します。Hyper-V Clusterをサブシステムに追加すると、Hyper-V Clusterに登録されているMicrosoft Hyper-Vのノードが自動的にサブシステムに追加されます。



サブシステム追加	
サブシステム種類	Hyper-V Clusterを選択します。
ホスト名	Hyper-V ClusterのDNS名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ドメイン名\アカウント名	Hyper-V Clusterに接続するためのアカウントのドメイン名とアカウント名を入力します。
パスワード	[ドメイン名\アカウント名] テキストボックスに入力したアカウントのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

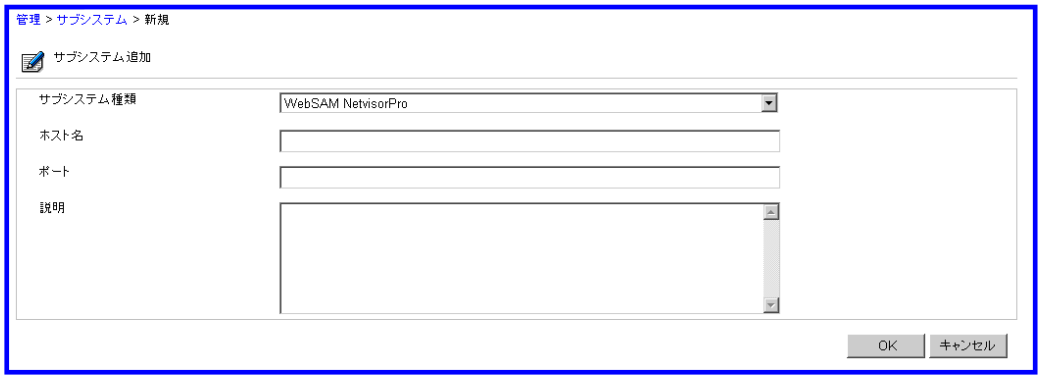
2.10.4. サブシステム追加 (DPM サーバ)

DPM サーバをサブシステムに追加します。

サブシステム追加	
サブシステム種類	DPMサーバを選択します。
ホスト名	DPMサーバをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	DPMサーバとアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、DPMサーバが使用するプロトコルの既定値が登録されます。プロトコルの既定値は、httpの場合 (80)、httpsの場合 (443) です。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	プロトコルを指定したい場合、DPMサーバのURLを入力します。URLの入力を省略した場合、ホスト名、およびポートから生成したURLが登録されます。
パスワード	DPMサーバに登録されているdeployment_userのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.5. サブシステム追加 (WebSAM NetvisorPro)

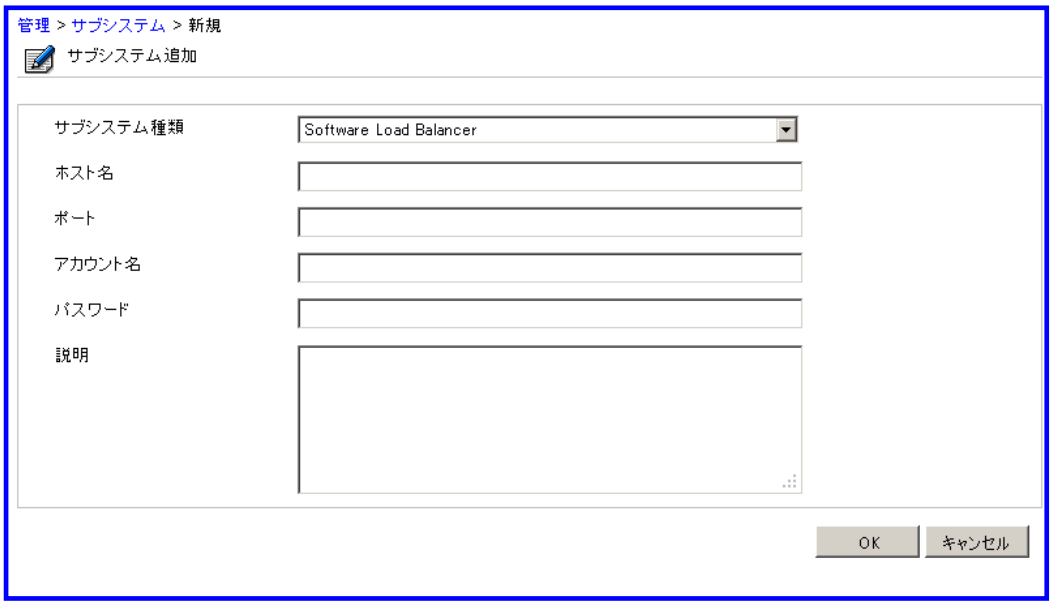
WebSAM NetvisorPro をサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	WebSAM NetvisorProを選択します。
ホスト名	NetvisorProをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	NetvisorProとアクセスするポートを入力します。既定値は(52727) です。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.6. サブシステム追加 (Software Load Balancer)

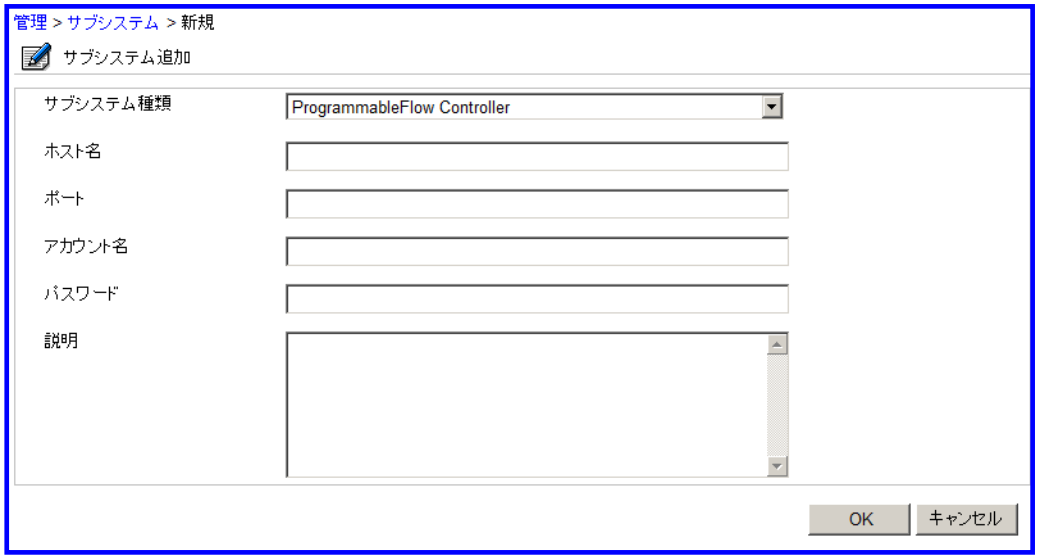
Software Load Balancer をサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	Software Load Balancerを選択します。
ホスト名	Software Load Balancerとして構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	Software Load Balancerとアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (22) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	Software Load Balancerのアカウント名を入力します。
パスワード	Software Load Balancerのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.7. サブシステム追加 (ProgrammableFlow Controller)

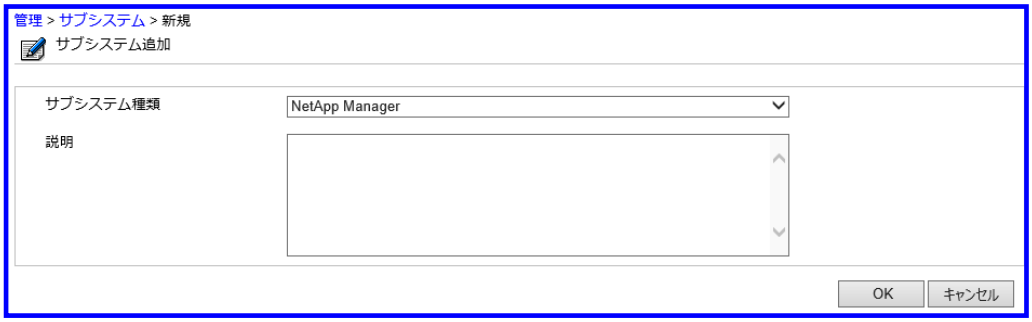
PFC をサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	ProgrammableFlow Controllerを選択します。
ホスト名	PFCとして構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。
ポート	PFCとアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (8080) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	PFCのアカウント名を入力します。
パスワード	PFCのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.8. サブシステム追加 (ストレージ管理サーバ)

ストレージ管理サーバをサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	"EMC CLARiX"、"EMC Symmetrix"、もしくは "NetApp Manager" を選択します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.9. サブシステム追加 (iStorageManager)

iStorageManager をサブシステムに追加します。

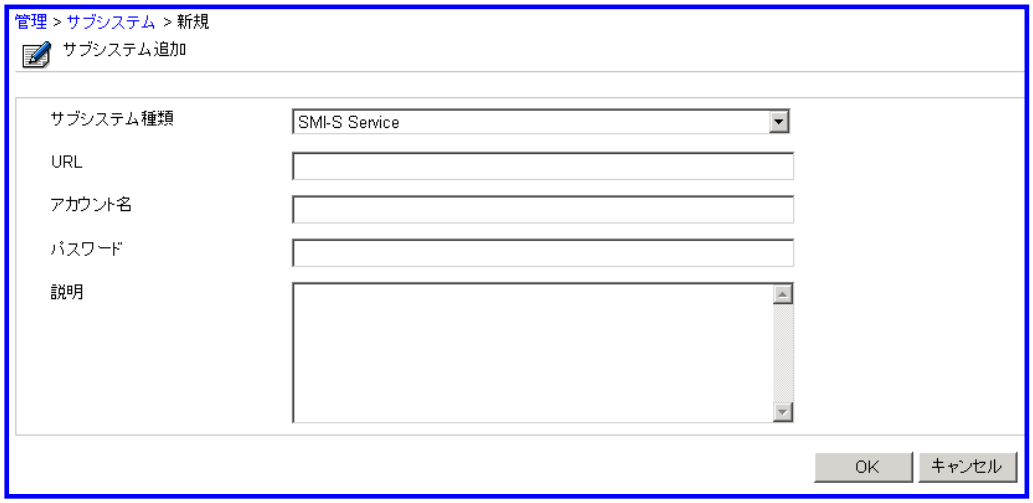
注: iStorageManager は、サブシステムで複数管理することができません。

サブシステム追加	
サブシステム種類	"iStorageManager" を選択します。

URL	Webコンソールから iStorage Managerのクライアントを起動したい場合、iStorage ManagerクライアントのURLを入力します(省略可)。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.10. サブシステム追加 (SMI-S Service)

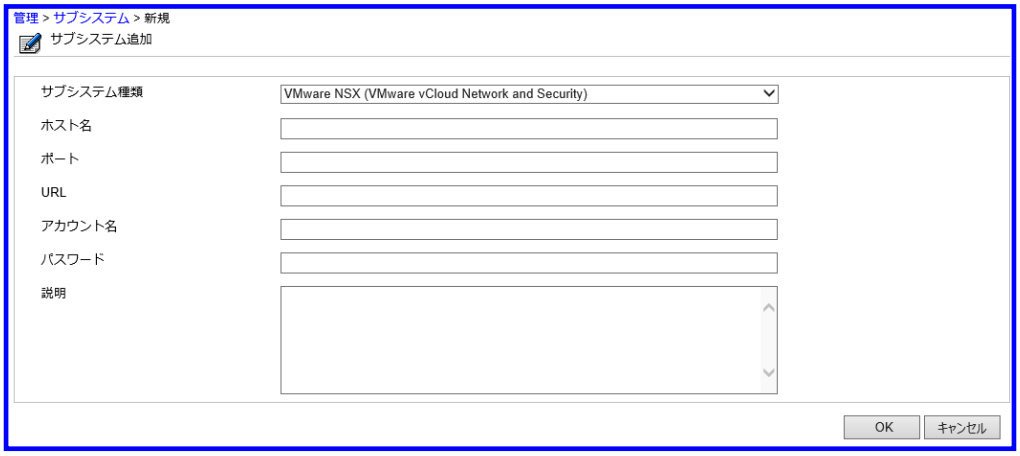
SMI-S Service をサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	"SMI-S Service" を選択します。
URL	SMI-S ProviderのURLを入力します。 http://装置IPアドレス(SMI-S Provider):port番号 ポート番号の部分は省略可能です。ポート番号の既定値は、httpの場合5988、httpsの場合5989です。
アカウント名	SMI-S Providerのアカウント名を入力します。
パスワード	SMI-S Providerのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.10.11. サブシステム追加 (VMware NSX (VMware vCloud Network and Security))

VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) をサブシステムに追加します。



サブシステム追加	
サブシステム種類	"VMware NSX (VMware vCloud Network and Security)" を選択します。
ホスト名	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) として構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) とアクセスするポート番号を入力します。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) のURLを入力します。
アカウント名	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) のアカウント名を入力します。
パスワード	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) のパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11. サブシステム編集

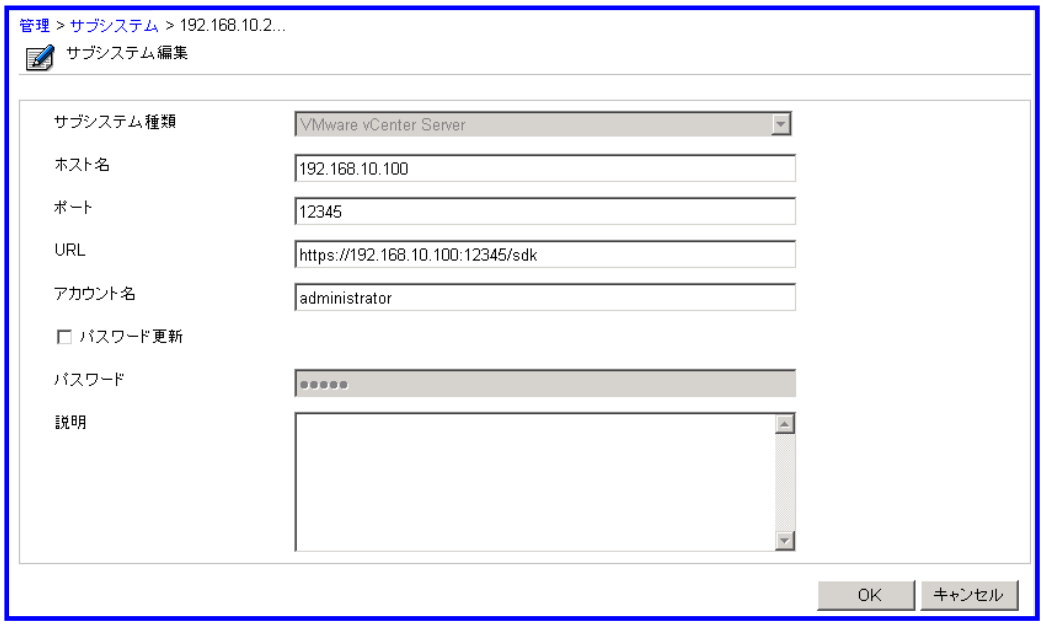
サブシステムの編集を行います。

[管理] ツリーから [サブシステム] をクリックすると、メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから編集するサブシステムの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「サブシステム編集」が表示されます。サブシステム情報を編集し、[OK] をクリックするとサブシステム情報が変更されます。

サブシステムを編集すると、編集したサブシステムの情報が自動的に収集されます。

2.11.1. サブシステム編集 (VMware vCenter Server)

サブシステム (VMware vCenter Server) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類が表示されます。編集はできません。
ホスト名	VMware vCenter Serverをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。URLを入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	VMware vCenter Serverとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	VMware vCenter ServerのURLを表示し、編集もできます。ホスト名を入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。
アカウント名	VMware vCenter Serverのアカウント名を表示し、編集もできます。

パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。VMware vCenter Serverに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.2. サブシステム編集 (Citrix XenServer Pool Master)

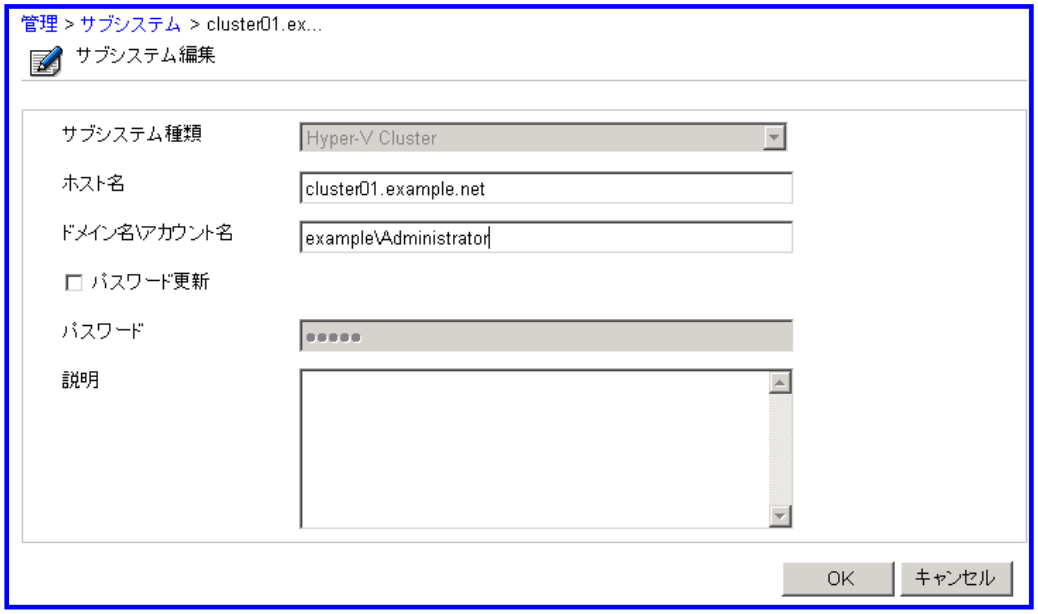
サブシステム (Citrix XenServer Pool Master) を編集します。

サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類が表示されます。編集はできません。
ホスト名	XenServer Pool Masterを構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。URLを入力している場合、ホスト名の入力を省略できます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	XenServer Pool Masterとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	XenServer Pool MasterのURLを表示し、編集もできます。ホスト名を入力している場合、自動生成されるため入力を省略できます。
アカウント名	XenServer Pool Masterのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。

パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。XenServer Pool Masterに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.3. サブシステム編集 (Hyper-V Cluster)

サブシステム (Hyper-V Cluster) を編集します。サブシステムの編集は、Hyper-V クラスタが対象となります。Hyper-V クラスタのノードは編集できません。

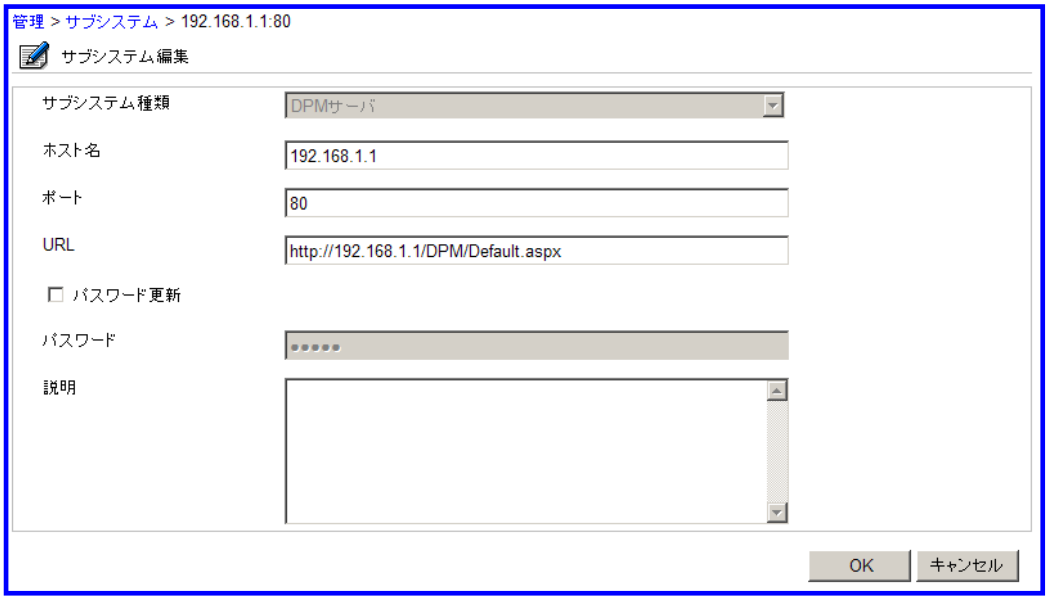


サブシステム編集	
サブシステム種類	Hyper-V Clusterが表示されます。編集はできません。
ホスト名	Hyper-V クラスタのDNS名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ドメイン名\アカウント名	Hyper-V クラスタに接続するためのアカウントのドメイン名とアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。
説明	サブシステムの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。

[OK]	サブシステム追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.4. サブシステム編集 (DPM サーバ)

サブシステム (DPM サーバ) を編集します。

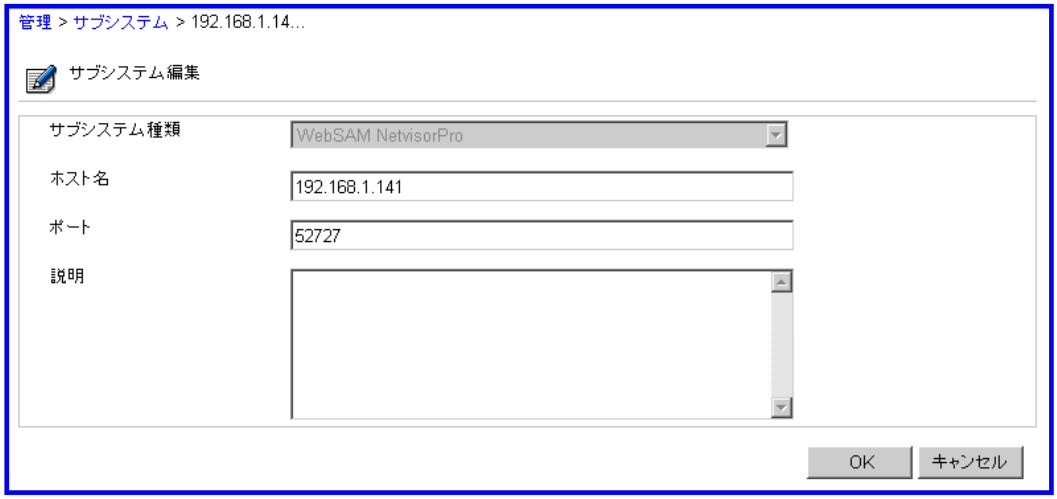


サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類が表示されます。編集はできません。
ホスト名	DPMサーバをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	DPMサーバとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。ポート番号の入力を省略した場合、DPMサーバが使用するプロトコルの既定値が登録されます。プロトコルの既定値は、httpの場合 (80)、httpsの場合 (443) です。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	DPMサーバにアクセスするURLを表示し、編集もできます。URLの入力を省略した場合、ホスト名、およびポートから生成したURLが登録されます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。DPMサーバに登録されているdeployment_userのパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。

[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.5. サブシステム編集 (WebSAM NetvisorPro)

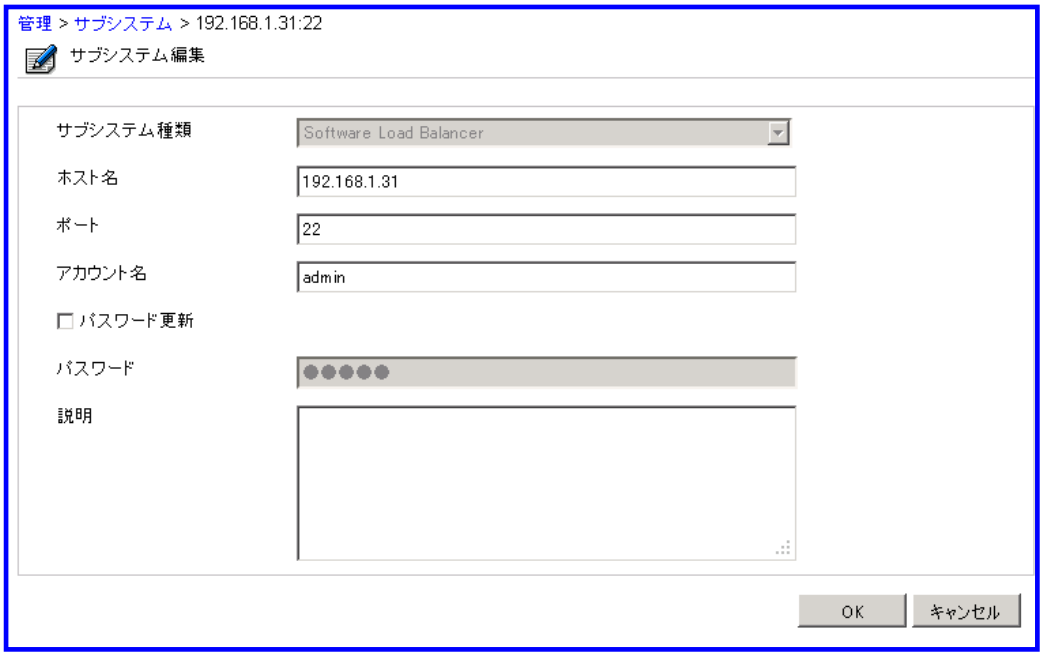
サブシステム (WebSAM NetvisorPro) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類が表示されます。編集はできません。
ホスト名	NetvisorProをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	NetvisorProとアクセスするポートを表示し、編集もできます。既定値は (52727) です。ポート番号の入力を省略した場合、既定値が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.6. サブシステム編集 (Software Load Balancer)

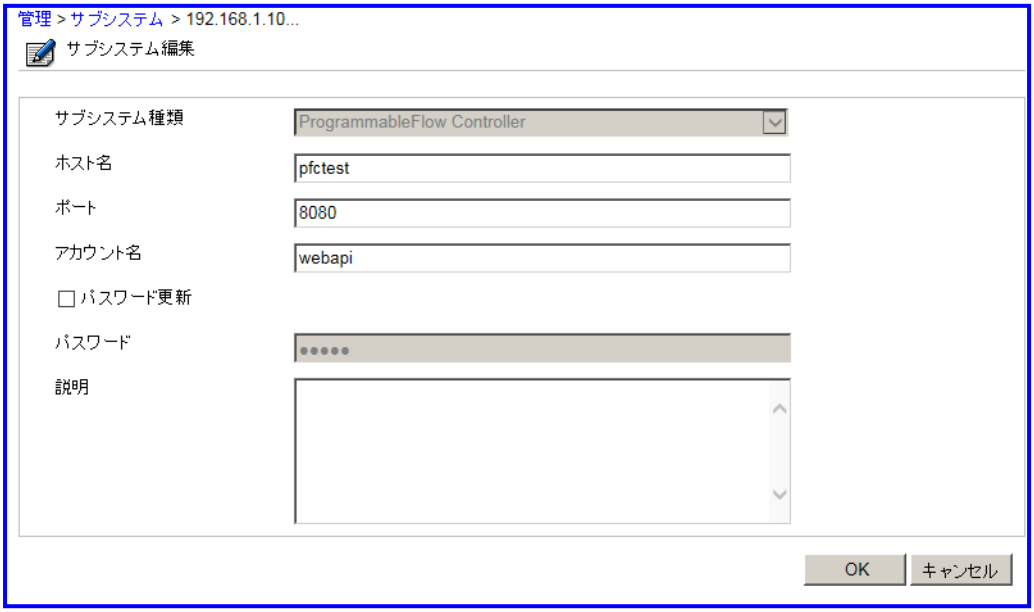
サブシステム (Software Load Balancer) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	Software Load Balancerを構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	Software Load Balancerとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (22) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	Software Load Balancerのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。Software Load Balancerに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.7. サブシステム編集 (ProgrammableFlow Controller)

サブシステム (PFC) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	PFCを構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。
ポート	PFCとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (8080) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	PFCのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。PFCに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.8. サブシステム編集 (ストレージ管理サーバ)

サブシステム (ストレージ管理サーバ) を編集します。

サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.9. サブシステム編集 (iStorageManager)

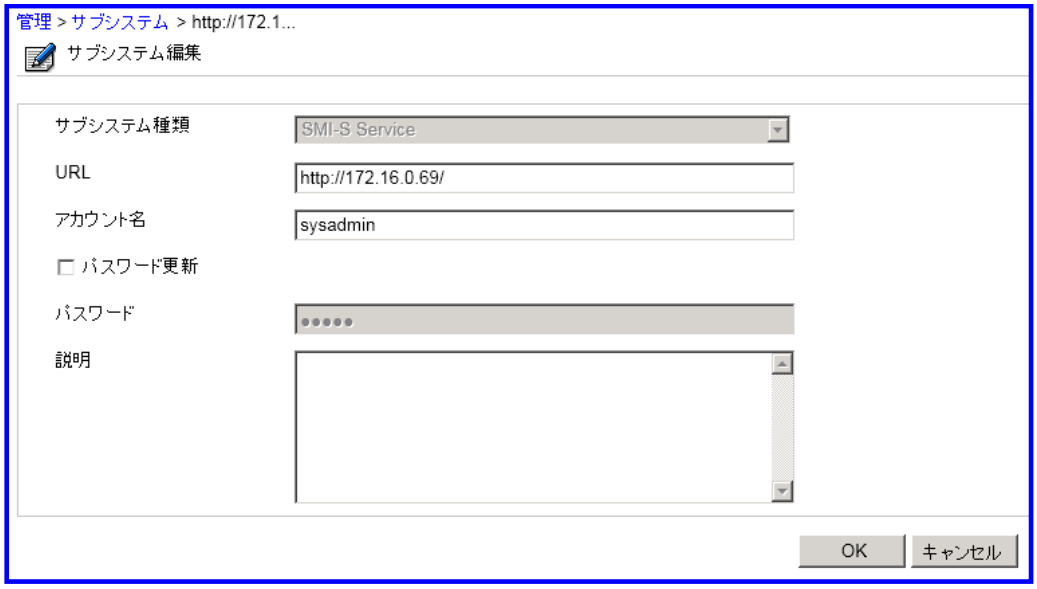
サブシステム (iStorageManager) を編集します。

サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。

URL	iStorageManagerクライアントのURLを表示し、編集もできます。WebコンソールからiStorageManagerクライアントを起動したい場合、入力します（省略可）。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.10. サブシステム編集 (SMI-S Service)

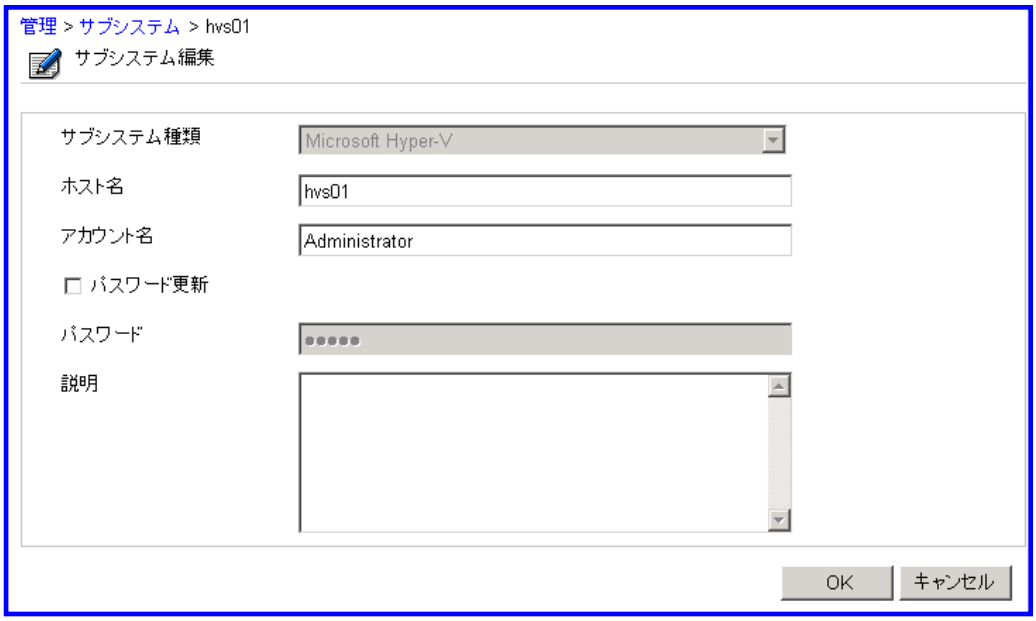
サブシステム（SMI-S Service）を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
URL	SMI-S ProviderのURLを表示し、編集もできます。
アカウント名	SMI-S Providerのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの更新ができます。SMI-S Providerのパスワードを入力します。
パスワード	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.11. サブシステム編集 (Hyper-V)

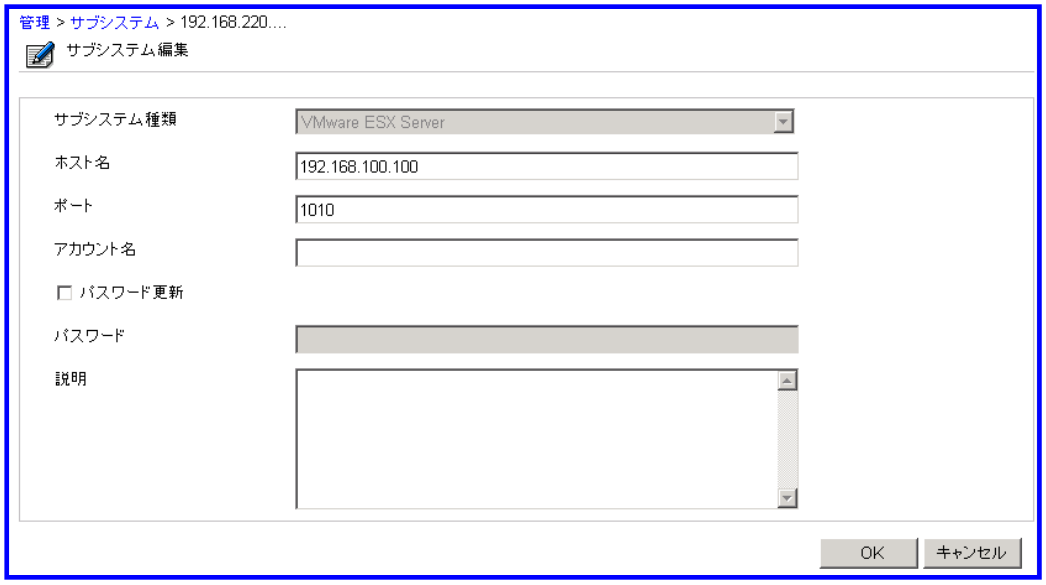
サブシステム (Hyper-V) を編集します。編集できるのは、Hyper-V 単体のものだけで、Hyper-V クラスタのノードは編集できません。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	Hyper-Vをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
アカウント名	Hyper-Vを管理するアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。Hyper-Vに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.12. サブシステム編集 (VMware ESX / ESXi)

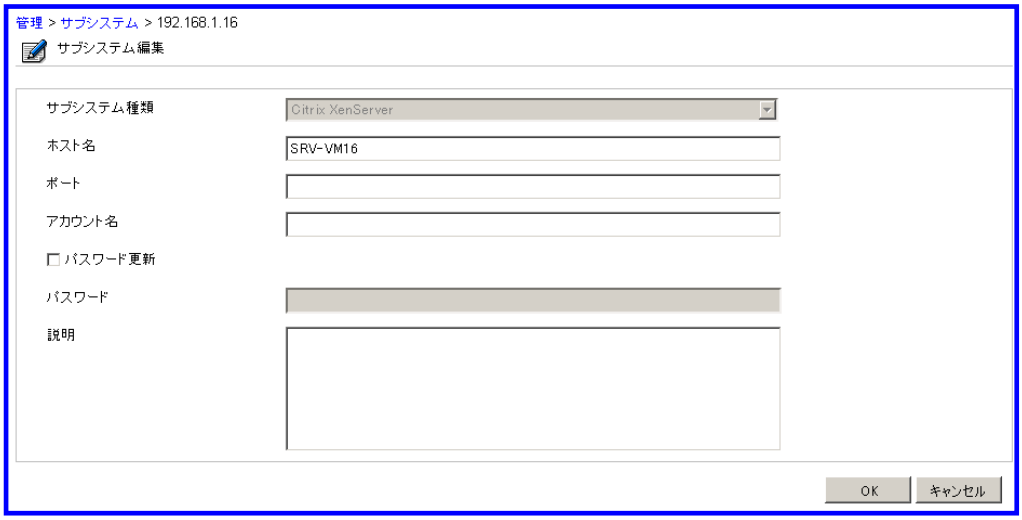
サブシステム (VMware ESX / ESXi) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	VMware ESX / ESXiをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	VMware ESX / ESXiとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	VMware ESX / ESXiのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。VMware ESX / ESXiに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.13. サブシステム編集 (Citrix XenServer)

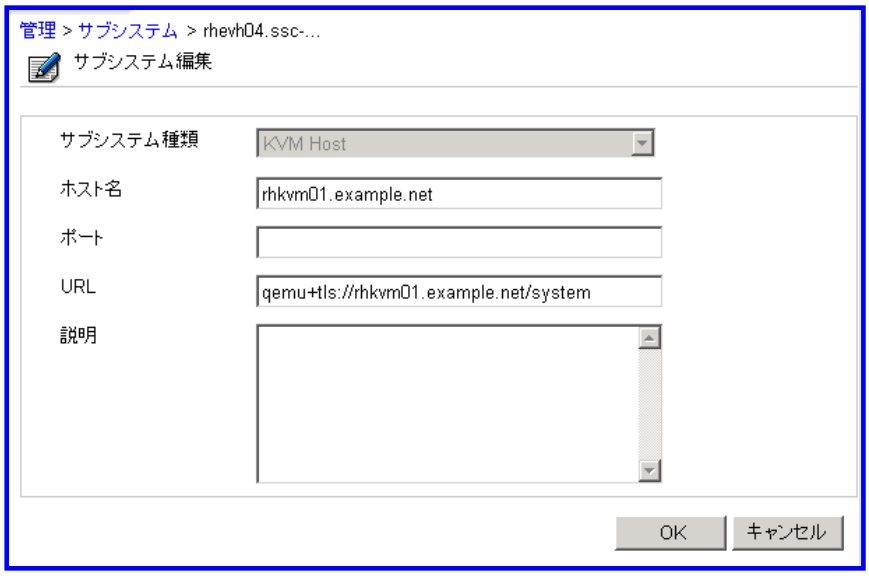
サブシステム (Citrix XenServer) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	Citrix XenServerをインストールしたサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	Citrix XenServerとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
アカウント名	Citrix XenServerのアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。Citrix XenServerに設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.14. サブシステム編集 (KVM)

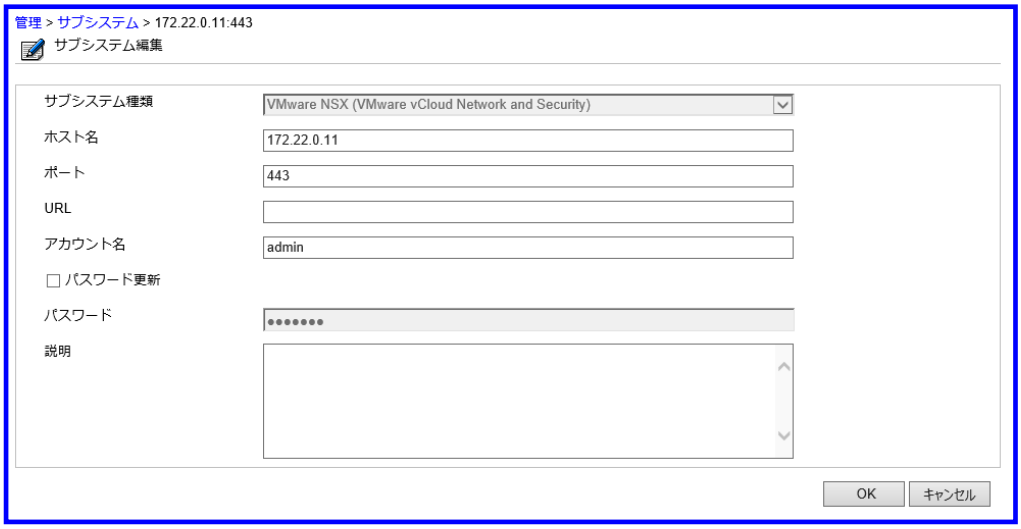
サブシステム (KVM) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	KVM Hostをインストールしたサーバのの DNS名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。URLを指定する場合には、省略することができます。
ポート	KVM Hostとアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。KVM Hostの設定で、接続先ポートを既定値 (TCP:16509 TLS:16514) から変更した場合には、指定が必要です。
URL	接続先URLを表示し、編集もできます。ホスト名を指定する場合には省略可能ですが、TLSで接続するにはURLを指定します。 [フォーマット]qemu+transport://hostname[:port]/system [例] TCPの場合: qemu+tcp://rhkvm01.example.net/system TLSの場合: qemu+tls://rhkvm01.example.net/system
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.11.15. サブシステム編集 (VMware NSX (VMware vCloud Network and Security))

サブシステム (VMware NSX (VMware vCloud Network and Security)) を編集します。



サブシステム編集	
サブシステム種類	サブシステムの種類を表示します。編集はできません。
ホスト名	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) として構築したサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) とアクセスするポート番号を表示し、編集もできます。ポート番号の入力を省略した場合、既定値 (443) が登録されます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) のURLを表示し、編集もできます。
アカウント名	VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) のアカウント名を表示し、編集もできます。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。VMware NSX (VMware vCloud Network and Security) に設定されているパスワードを入力します。
説明	サブシステムの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	サブシステム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	サブシステム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

2.12. サブシステム削除

サブシステムを削除します。

[管理] ツリーから [サブシステム] をクリックすると、メインウィンドウにサブシステムの詳細情報が表示されます。[サブシステム一覧] グループボックスから削除するサブシステムのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

注:

・ マシンを管理しているサブシステムがすべて SigmaSystemCenter から削除されると、マシンがすべて SigmaSystemCenter から削除され、ユーザが設定したネットワーク情報も削除されます。また、削除されるマシンが稼動中の場合、割り当てが解除された上で削除されます。

・ ESXi、Hyper-V 単体、および KVM はサブシステムから削除はできません。[仮想] ビューから仮想マシンサーバの削除を行ってください。

・ Hyper-V Cluster の追加で登録された Microsoft Hyper-V のノードもサブシステムから削除はできません。Hyper-V Cluster を削除することにより、削除されます。

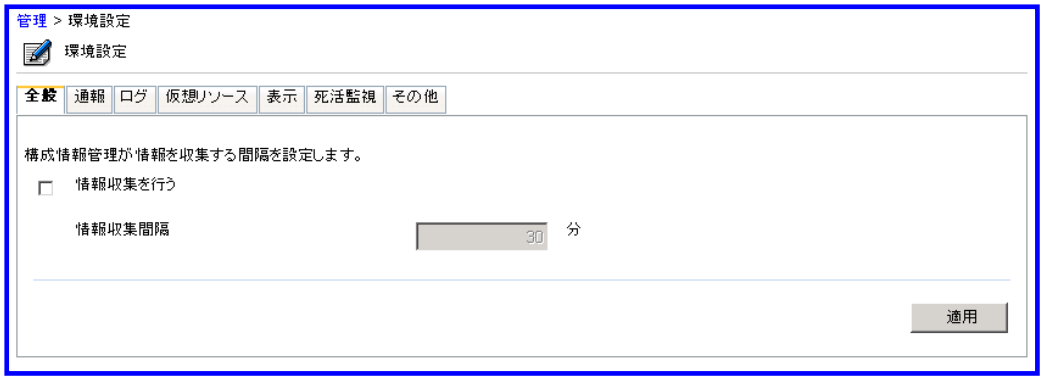
2.13. 環境設定

SystemProvisioning の環境設定を行います。SystemProvisioning を使用する前に設定しておく必要があります。

[管理] ツリーから [環境設定] をクリックすると、メインウィンドウに [全般] タブ、[通報] タブ、[ログ] タブ、[仮想リソース] タブ、[表示] タブ、[死活監視] タブ、および [その他] タブで構成された環境設定が表示されます。

2.13.1. [全般] タブ

構成情報管理が情報を収集する時間の間隔の設定を行います。



全般	
情報収集を行う	SystemProvisioningで管理するシステムリソースの構成変更情報の収集を定期的に行う場合、チェックボックスをオンにします。情報収集を行う場合、情報収集間隔を設定する必要があります。
情報収集間隔 (入力必須)	SystemProvisioningで管理するシステムリソースの構成情報を収集する間隔を入力します。「1～3600」の範囲で設定できます。既定値は (30) 分です。
[適用]	環境設定情報を適用します。

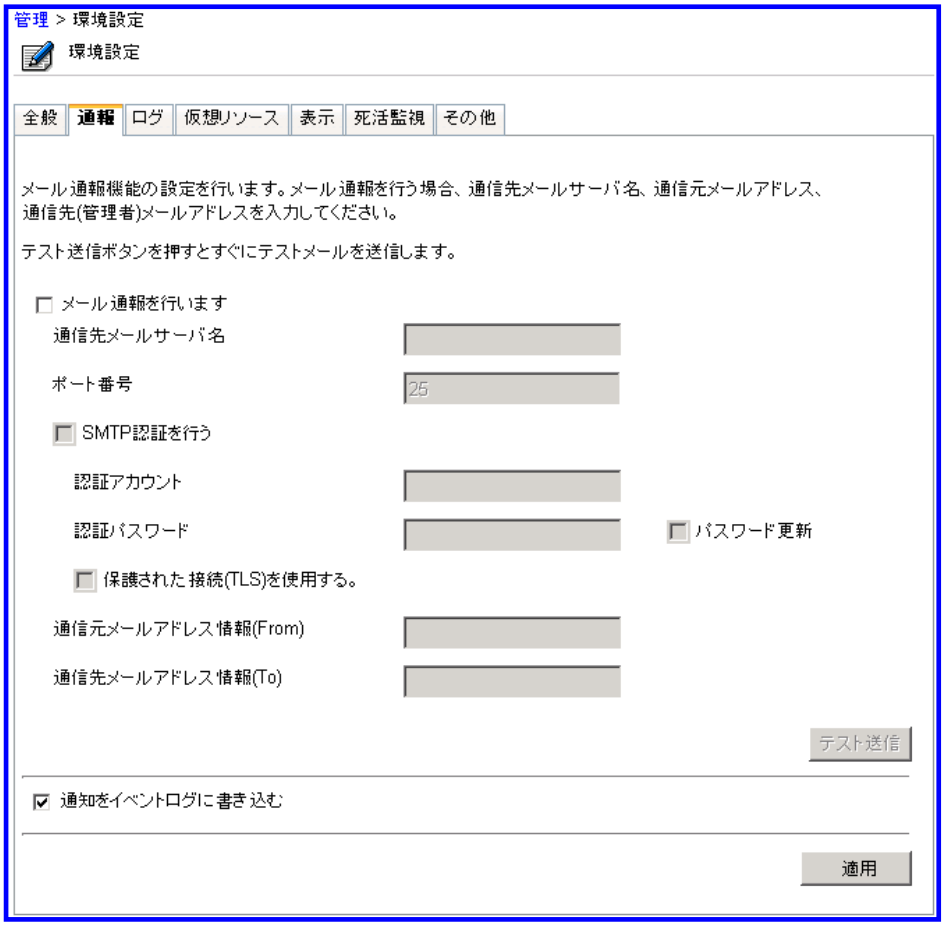
2.13.2. [通報] タブ

ポリシーアクションで、「通報 / E-mail 通報、イベント出力」が設定されている場合のイベント (障害検出など) の検出時、アクションの起動時、アクションの終了時に行う通報設定を行います。

メール送信を行う場合には、メール送信に必要な情報を設定します。

イベントログに通報情報を書き込むこともできます。

関連情報: ポリシーのアクションの設定については、「2.7.1　ポリシー規則設定」を参照してください。

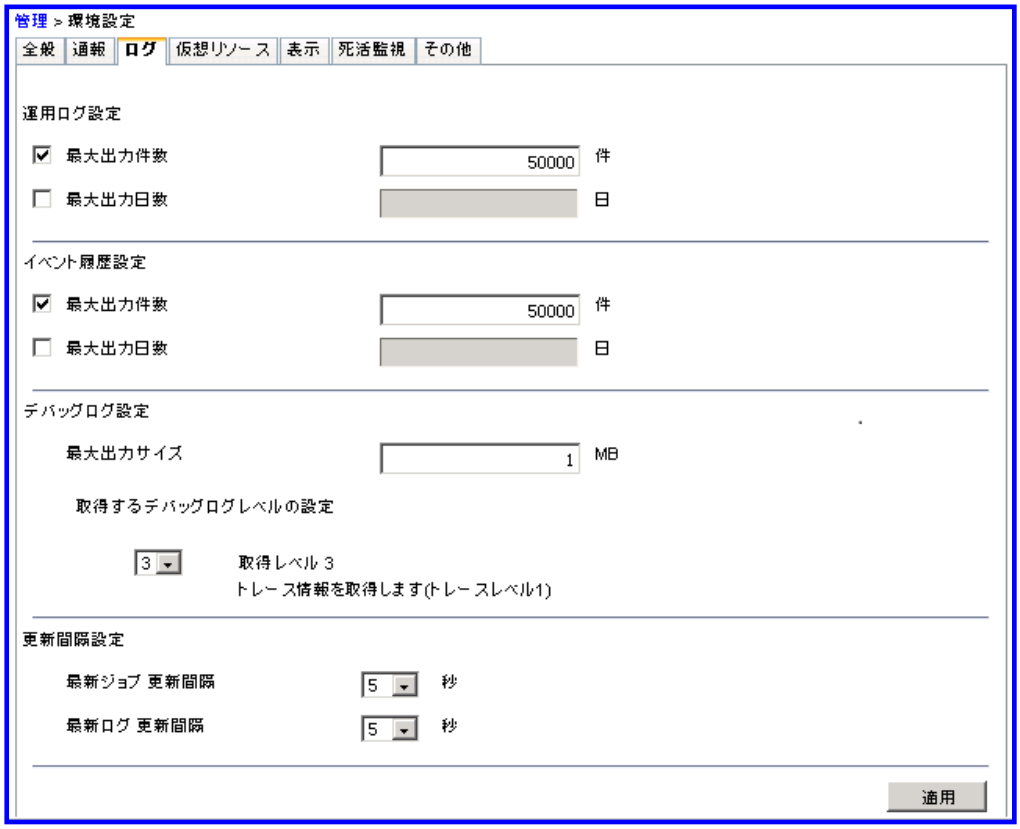


通報		
	メール通報を行います	メール通報機能を利用する場合、チェックボックスをオンにします。
	通信先メールサーバ名	送信先メールサーバ名 (IPアドレス、またはホスト名) を入力します。メールサーバの設定を完了している必要があります。入力できる文字数は63文字以内です。
	ポート番号	メール送信先のメールサーバ側ポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。既定値は "25" です。
	SMTP 認証を行う	SMTP認証でのメール送信を行う場合、チェックボックスをオンにします。
	認証アカウント	SMTPの認証アカウントを入力します。
	認証パスワード	[パスワード更新] チェックボックスをオンにした場合に限り、SMTPの認証パスワードの変更ができます。
	パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。

		保護された接続 (TLS) を使用する。	メール送信時に保護された接続 (TLS) を使用する場合、チェックボックスをオンにします。
		通信元メールアドレス情報 (From)	通信元メールアドレスを入力します。
		通信先メールアドレス情報 (To)	通知先メールアドレスを入力します。複数のアドレスを指定する場合、"," で区切って入力します。
	[テスト送信]		設定が正しくされているか確認をするため、設定した通知先メールアドレスにテストメールを送信します。通知先にメールが届かない場合、設定に誤りがないか再度確認して設定してください。
	通知をイベントログに書き込む		SystemProvisioningが受信した通報、通報によるポリシー実行結果をイベントログに記録する場合、チェックボックスをオンにします。 [通知をイベントログに書き込む] チェックボックスをオフにする場合、通報の受信通知、また、それによるアクションの起動通知、結果通知はイベントログに記録されなくなります。
[適用]			環境設定情報を適用します。

2.13.3. [ログ] タブ

SystemProvisioning の運用ログ、デバッグログに関する設定を行います。



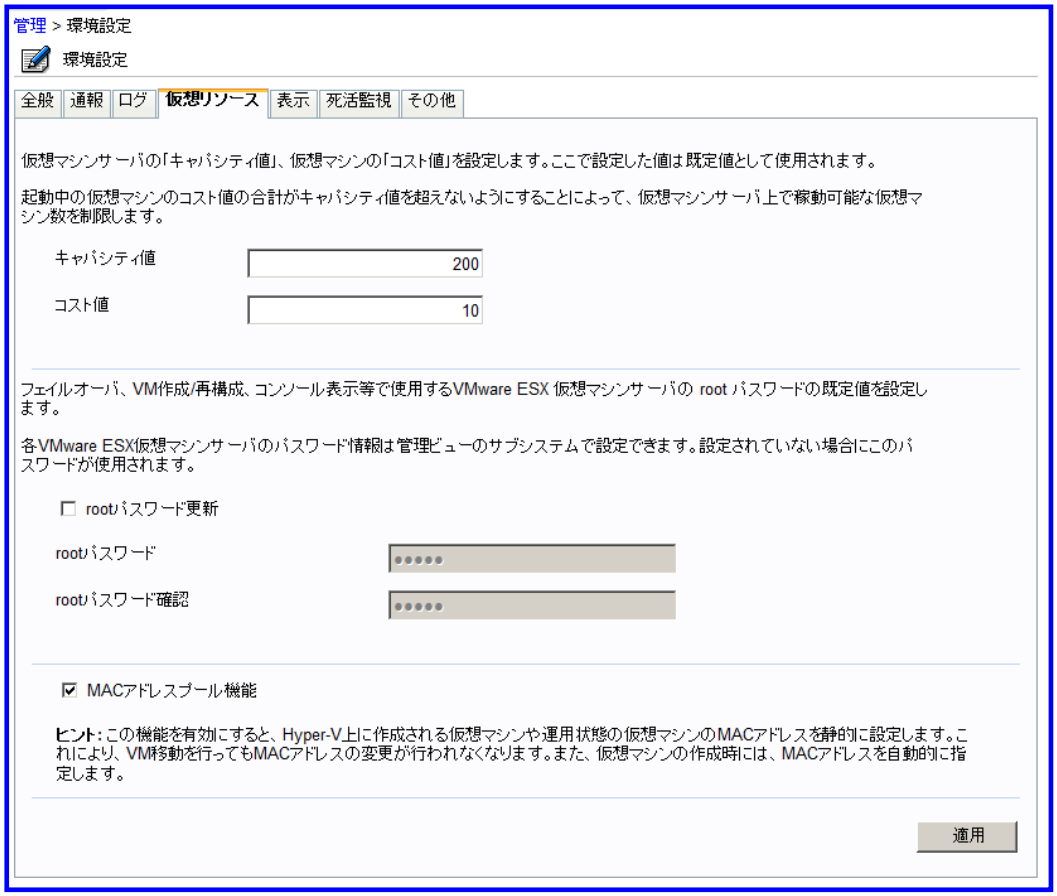
ログ		
	運用ログ設定	
	最大出力件数	[最大出力件数] チェックボックスがオンの場合に限り、運用ログの最大出力件数を入力できます。「1000～100000」の範囲で設定できます。
	最大出力日数	[最大出力日数] チェックボックスがオンの場合に限り、運用ログの最大出力日数を入力できます。「1～180」の範囲で設定できます。
	イベント履歴設定	
	最大出力件数	[最大出力件数] チェックボックスがオンの場合に限り、イベント履歴の最大出力件数を入力できます。「1000～100000」の範囲で設定できます。
	最大出力日数	[最大出力日数] チェックボックスがオンの場合に限り、イベント履歴の最大出力日数を入力できます。「1～180」の範囲で設定できます。
	デバッグログ設定	
	最大出力サイズ	デバッグログの最大出力サイズを入力します。「1～16」の範囲で設定できます。既定値は (1) です。
	取得するデバッグログレベルの設定	取得するデバッグログの出力レベル (詳細度) を入力します。「0 (低) ～7 (高)」の範囲で設定できます。既定値は (3) です。
	更新間隔設定	
	最新ジョブ 更新間隔	最新ジョブの更新間隔を選択します。
	最新ログ 更新間隔	最新ログの更新間隔を選択します。
[適用]		環境設定情報を適用します。

注: 最大出力日数を設定した場合でも、本システムの動作環境下における運用ログの最大出力件数は 1,000,000 件、イベント履歴の最大出力件数は 1,000,000 件です。

2.13.4. [仮想リソース] タブ

1 台の仮想マシンサーバ上で稼動可能な仮想マシンの数を設定するためのキャパシティ値、コスト値の設定を行います。また、ESX の障害復旧 (Failover) 時、仮想マシンの作成 (Disk Clone) 時、仮想マシンの再構成 (Reconstruct / Revert) 時、スクリーンショットの取得時、マシン診断時、仮想マシンのインポートとエクスポート、仮想マシンのダンプ、ファイルの配信、テンプレートのインポートとエクスポートに使用されるESXの root パスワードを設定します。ここで指定されたパスワードは、すべての ESXに対する既定値として使用されます。

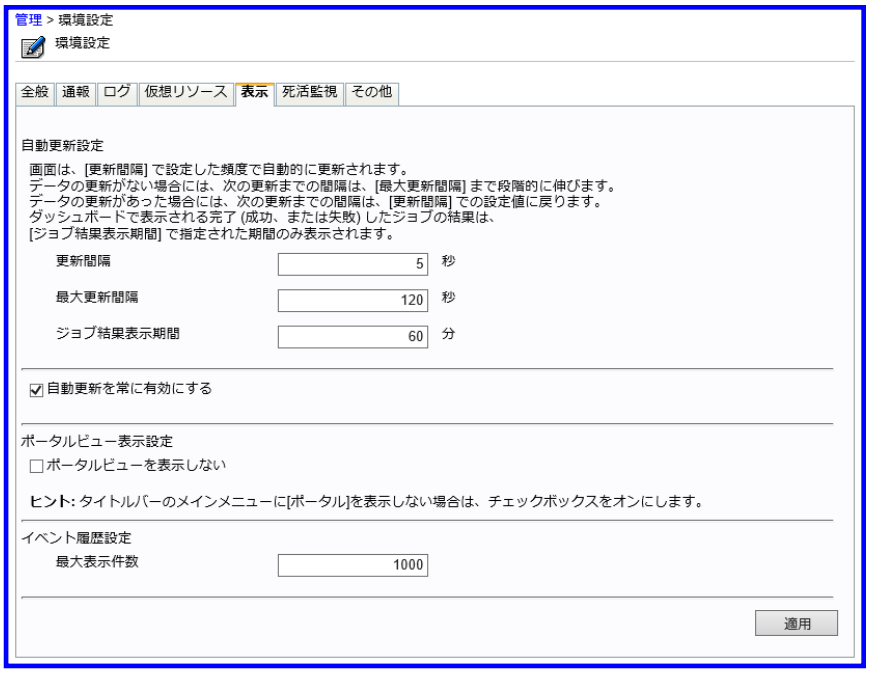
MAC アドレスプール機能を使用すると、Hyper-V の仮想マシンの MAC アドレスを静的に設定することができます。それにより、仮想マシンを移動した場合でもMACアドレスが変更されないようになります。



仮想リソース	
キャパシティ値	ポリシー動作にて仮想マシン移動を行う際に参照する仮想マシンサーバのキャパシティ値の初期値を設定します。「1～100000」の範囲で設定できます。既定値は (200) です。
コスト値	ポリシー動作にて仮想マシン移動を行う際に参照する仮想マシンのコスト値の初期値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。既定値は (10) です。
root パスワード更新	rootパスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
root パスワード	[rootパスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。それぞれの仮想マシンサーバごとに個別にパスワードを設定しない場合は、ここで共通に利用可能なパスワードを設定します。
root パスワード確認	[rootパスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、確認のため再度同じパスワードを入力します。
MAC アドレスプール	Hyper-V上に作成される仮想マシンや運用状態の仮想マシンのMACアドレスを静的に設定する場合、チェックボックスをオンにします。デフォルト設定でオンになっています。
[適用]	環境設定情報を適用します。

2.13.5. [表示] タブ

画面の更新間隔、ジョブ結果表示期間、およびポップアップ機能の有効可否の設定を行います。

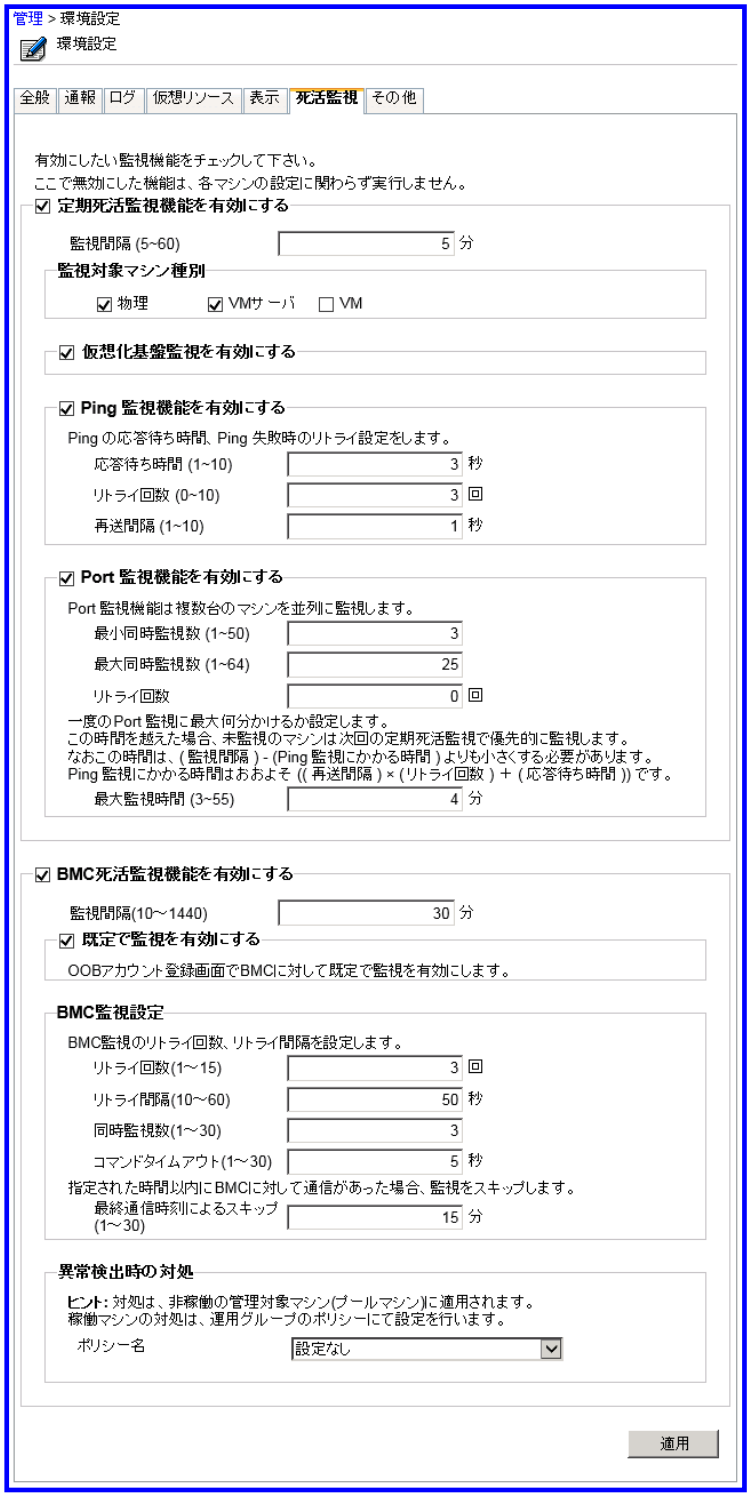


表示	
自動更新設定	
更新間隔	画面の更新間隔を入力します。「5～36000」の範囲で設定できます。既定値は (5) 秒です。
最大更新間隔	画面の表示更新間隔の最大値を入力します。「5～36000」の範囲で設定できます。既定値は (120) 秒です。
ジョブ結果表示期間	ダッシュボードで表示されるジョブ一覧で、完了したジョブを表示する期間を入力します。既定値は (60) 分です。
自動更新を常に有効にする	[自動更新を常に有効にする] チェックボックスをオンにすると、ウィンドウが [更新間隔] テキストボックスで設定された間隔で自動的に更新されます。
ポータルビュー表示設定	
ポータルビューを表示しない	タイトルバーのメインメニューに [ポータル] を表示しない場合、チェックボックスをオンにします。
イベント履歴設定	
最大表示件数	イベント履歴の最大表示設定を入力します。「1～1,000」の範囲で設定できます。既定値は (1,000) 件です。
[適用]	環境設定情報を適用します。

注: [表示] タブで設定した設定内容は、再ログイン後に反映されます。

2.13.6. [死活監視] タブ

SystemProvisioning が行う死活監視の各種パラメータを設定します。



死活監視	
定期死活監視機能を有効にする	SystemProvisioningが行う定期死活監視機能を有効にします。
監視間隔 (5～60)	死活監視の間隔を設定します。「5～60」の範囲で設定できます。既定値は (5) 分です。
監視対象マシン種別	定期死活監視で監視対象とするマシンを設定します。既定では、[物理]、[VMサーバ] チェックボックスがオンです。
物理	物理マシンを監視対象とする場合、チェックボックスをオンにします。
VM サーバ	仮想マシンサーバを監視対象とする場合、チェックボックスをオンにします。
VM	仮想マシンを監視対象とする場合、チェックボックスをオンにします。既定はオフです。
仮想化基盤監視を有効にする	仮想化基盤監視の設定を有効にする場合、チェックボックスをオンにします。
Ping 監視機能を有効にする	Pingによる監視機能を利用する場合、チェックボックスをオンにします。
応答待ち時間 (1～10)	ICMP echoパケットを送信してから、ICMP echo replyパケットを受けるまでの時間を設定します。「1～10」の範囲で設定できます。既定値は (3) 秒です。
リトライ回数 (0～10)	応答がなかった場合のリトライ回数を設定します。「0～10」の範囲で設定できます。既定値は (3) 回です。
再送間隔 (1～10)	再送するまでの間隔を設定します。「1～10」の範囲で設定できます。既定値は (1) 秒です。
Port 監視機能を有効にする	TCP Portに接続可能であるかを監視する場合、チェックボックスをオンにします。
最小同時監視数 (1～50)	Port監視機能を同時実行する最小数を設定します。「1～50」の範囲で設定できます。既定値は (3) です。
最大同時監視数 (1～64)	Port監視機能を同時実行する最大値を設定します。「1～64」の範囲で設定できます。既定値は (25) です。
リトライ回数	Portへの接続に失敗した場合のリトライ回数を設定します。既定値は (0) 回です。
最大監視時間 (3～55)	一度のPort監視に最大何分かけるか設定します。この時間を超えた場合、未監視のマシンは次回の監視時に優先的に監視します。「3～55」の範囲で設定できます。既定値は (4) 分です。
BMC 死活監視機能を有効にする	SystemProvisioningが行うBMC死活監視機能を有効にします。
監視間隔 (10～1440)	死活監視の間隔を設定します。「10～1440」の範囲で設定できます。既定値は (30) 分です。
既定で監視を有効にする	OOBアカウント設定における監視設定の既定値を設定します。
BMC 監視設定	

		リトライ回数 (1～15)	応答がなかった場合のリトライ回数を設定します。「1～15」の範囲で設定できます。既定値は (3) 回です。
		リトライ間隔 (10～60)	リトライするまでの間隔を設定します。「10～60」の範囲で設定できます。既定値は (50) 秒です。
		同時監視数 (1～30)	一度の監視で同時に処理可能なマシン数を設定します。「1～30」の範囲で設定できます。既定値は (3) 台です。
		コマンドタイムアウト (1～30)	監視で利用するIPMIコマンドのタイムアウト時間を設定します。「1～30」の範囲で設定できます。既定値は (5) 秒です。
		最終通信時刻によるスキップ (1～30)	OOBアカウントによる最終通信時刻から監視をスキップする間隔を設定します。「1～30」の範囲で設定できます。既定値は (15) 分です。
	異常検出時の対処		
		ポリシー名	死活監視が通知する障害イベントで動作するポリシーを設定します。
[適用]			環境設定情報を適用します。

2.13.7. [その他] タブ

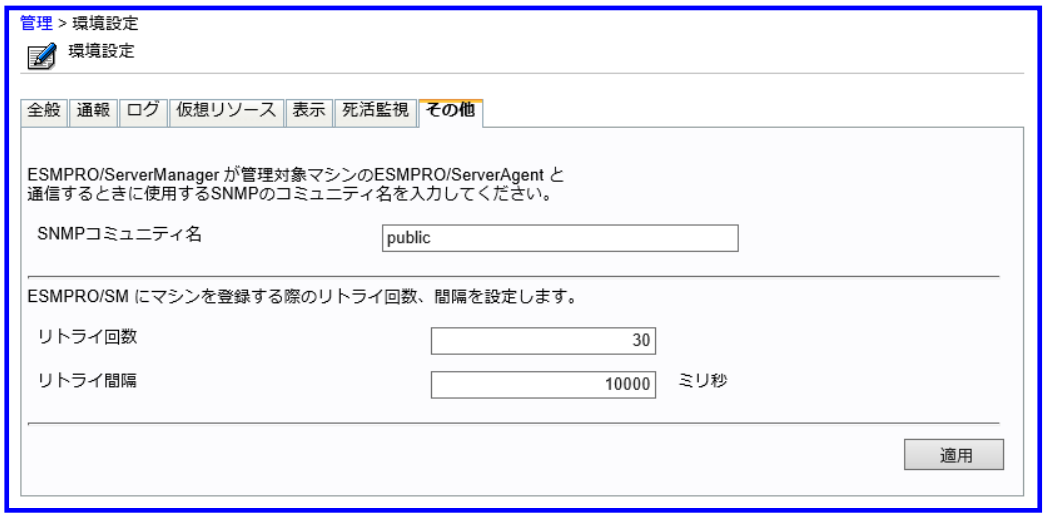
ESMPRO/ServerManager と連携するための情報を登録します。

ESMPRO/ServerManager が ESMPRO/ServerAgent と通信するときに使用する SNMP コミュニティの設定を行います。

また、ESMPRO/ServerManager へのマシン登録時のリトライ回数、間隔を変更します。

注:

リトライ回数の既定値は、30 回です。SigmaSystemCenter 2.1 update 3 以前のバージョンからのアップグレードの場合は、4.5 倍、SigmaSystemCenter 2.1 update 3 以降のバージョンからの場合は、1.5 倍の値に変更されます。(小数点は切り上げた値になります。)



その他	
SNMP コミュニティ名	ESMPRO/ServerManagerが管理対象マシンのESMPRO/ServerAgentと通信するときに使用するSNMPコミュニティ名を入力します。既定値は (public) です。入力できる文字数は255文字以内です。
リトライ回数	ESMPRO/ServerManagerへのマシン登録時のリトライ回数を変更する場合に入力します。既定値は (30) です。
リトライ間隔	ESMPRO/ServerManagerへのマシン登録時のリトライの間隔を変更する場合に入力します。既定値は (10000) です。
[適用]	環境設定情報を適用します。

3. システムリソース

[リソース] ビューでは、SigmaSystemCenter のマシン、ストレージ、ネットワーク、ソフトウェア、およびプロファイルの管理の説明をします。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 3.1 [リソース] ビュー....83
- 3.2 マシン....84
- 3.3 リソースグループ....88
- 3.4 リソースグループの詳細情報....88
- 3.5 ラック....93
- 3.6 ラックの詳細情報....93
- 3.7 スマートグループ....98
- 3.8 スマートグループの詳細情報....98
- 3.9 タグクラウド....114
- 3.10 マシンの詳細情報....117
- 3.11 マシンプロパティ設定....126
- 3.12 コンソール....146
- 3.13 IPMI 情報....148
- 3.14 保守操作を表示....154
- 3.15 ストレージ....156
- 3.16 ディスクアレイの詳細情報....164
- 3.17 ディスクボリュームの詳細情報....177
- 3.18 ストレージプールの詳細情報....189
- 3.19 ネットワーク....192
- 3.20 論理ネットワークの詳細情報....194
- 3.21 仮想ネットワーク (VTN) の詳細情報....227
- 3.22 アドレスプールの詳細情報....229
- 3.23 スイッチ....231
- 3.24 スイッチの詳細情報....233
- 3.25 ポートの詳細情報....237
- 3.26 分散スイッチの詳細情報....238
- 3.27 VLAN の詳細情報....243
- 3.28 ロードバランサ....250
- 3.29 ロードバランサの詳細情報....251
- 3.30 ロードバランサグループの詳細情報....254
- 3.31 ファイアウォール....267

- 3.32 デバイス 276
- 3.33 デバイスの詳細情報 277
- 3.34 ノード (ポート) の詳細情報 279
- 3.35 ソフトウェア 280
- 3.36 ソフトウェア一覧 281
- 3.37 ソフトウェアの基本情報 285
- 3.38 イメージの詳細情報 314
- 3.39 プロファイル 321
- 3.40 マシンプロファイル 322
- 3.41 ホストプロファイル 334
- 3.42 監視プロファイル 361
- 3.43 リソースへのメニュー操作 371
- 3.44 権限設定 379

3.1. [リソース] ビュー

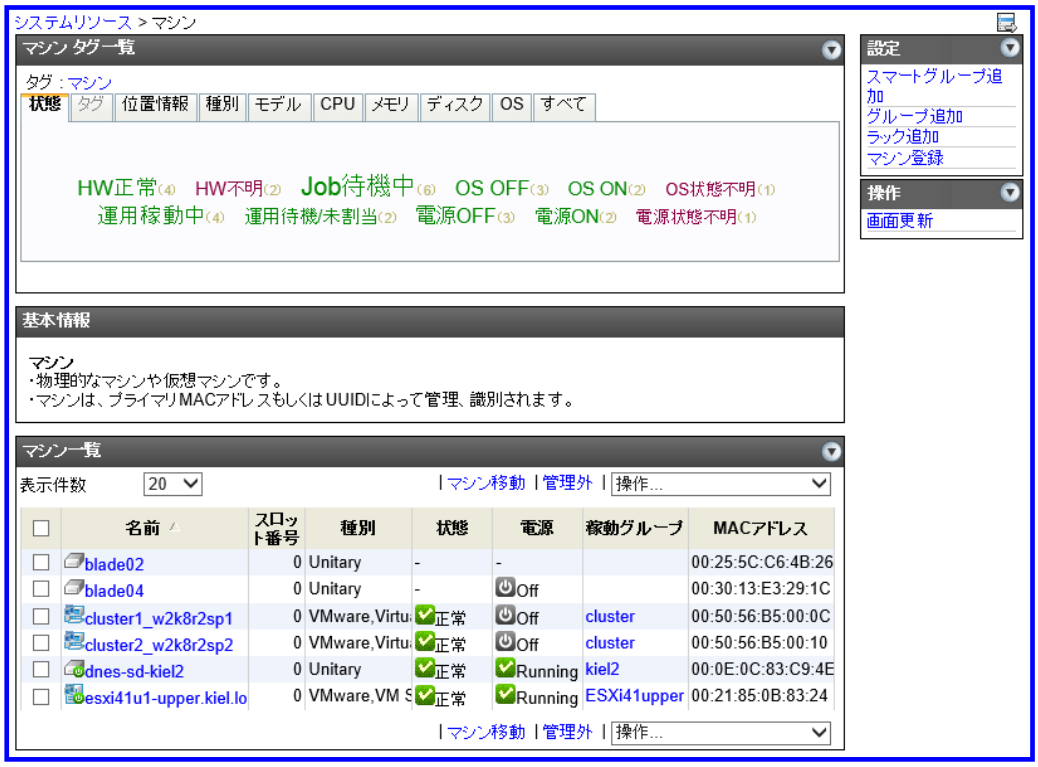
[リソース] ビューでは、マシン、ストレージ、ネットワーク、ソフトウェア、およびプロファイルなどのリソースの登録、管理を行います。

タイトルバーの [リソース] をクリックすると、[リソース] ビューに切り替わります。

3.2. マシン

[マシン] は、グループ、ラック、およびマシンの管理を行います。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックすると、[マシン タグ一覧] グループボックス、[基本情報] グループボックス、および [マシン一覧] グループボックスが表示されます。



マシン タグ一覧 (タグクラウド)	
タグ	選択したタグのパンくずリストを表示します。
[状態]	管理対象マシンのタグ情報としてマシンステータス情報を示すタグで分類したタブです。タグの表記は下記の表、マシンステータス情報の状態に対応しています。
[タグ]	管理対象マシンのタグ情報をユーザが設定したタグで分類したタブです。
[位置情報]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの位置情報で分類したタブです。
[種別]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの種別情報で分類したタブです。
[モデル]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのモデル情報で分類したタブです。
[CPU]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのCPU種別で分類したタブです。
[メモリ]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのメモリサイズで分類したタブです。

	[ディスク]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのディスク使用量で分類したタブです。
	[OS]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのOS名で分類したタブです。
	[すべて]	管理対象マシンのタグ情報を分類せずに表示します。
マシン一覧		
	名前	管理対象マシンのマシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。
	スロット番号	管理対象マシンのスロット番号を表示します。
	種別	管理対象マシンの種別を表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	管理対象マシンが稼動している運用グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
	MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	マシン移動	マシンの移動を行います。「リソース移動」ウィンドウに遷移します。
	管理外	選択した管理対象マシンを管理外にします。
	(プルダウンボックス)	選択した管理対象マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 再構成 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

◆ タグ表記

タグ名	マシンステータス情報	状態
電源状態不明	電源状態	ー
電源OFF		Off
電源ON		On
サスペンド		サスペンド
運用待機/未割当	稼動ステータス	Off
運用稼動中		On
OS状態不明	OSステータス	ー
OS OFF		Off
OS ON		On
HW 不明	ハードウェアステータス	ー
HW 正常		正常
HW 故障		故障

タグ名	マシンステータス情報	状態
HW 機能低下		一部故障
Job 待機中	実行ステータス	ー
Job 実行中		処理中
Job 異常終了		異常終了

3.2.1. マシン移動 (マシン一括移動)

マシンの移動を行います。

マシンをリソースグループ、またはラックの配下に移動します。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックし、メインウィンドウに基本情報、および管理対象マシンの一覧を表示します。[マシン一覧] グループボックスから移動する対象のマシンを選択し、[アクション] メニューから [マシン移動] をクリックすると、メインウィンドウに「リソース移動」が表示されます。マシンの移動先、および移動するマシンを選択し、[OK] をクリックするとマシンが移動します。

リソース移動	
移動元	移動元のリソースグループ、またはラックを表示します。
移動先	ツリーより移動先のリソースグループ、またはラックを選択します。
移動マシン一覧	
名前	マシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。

	種別	マシンの種別を表示します。
	状態	マシンの状態を表示します。
	電源	マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	マシンの稼動しているグループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
	MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[OK]		マシン移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		マシン移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.3. リソースグループ

システムリソースで管理するマシンをグループごとに分類、管理します。

3.4. リソースグループの詳細情報

リソースグループの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーからリソースグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報が表示されます。

マシン タグ一覧 (タグクラウド)	
タグ	選択したタグのパンくずリストを表示します。
[状態]	管理対象マシンのタグ情報のマシンステータス情報を示すタグで分類したタブです。タグの表記は下記の表、マシンステータス情報の状態に対応しています。
[タグ]	管理対象マシンのタグ情報をユーザが設定したタグで分類したタブです。
[位置情報]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの位置情報で分類したタブです。
[種別]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの種別情報で分類したタブです。
[モデル]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのモデル情報で分類したタブです。
[CPU]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのCPU種別で分類したタブです。

	[メモリ]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのメモリサイズで分類したタブです。
	[ディスク]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのディスク使用量で分類したタブです。
	[OS]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのOS名で分類したタブです。
	[すべて]	管理対象マシンのタグ情報を分類せずに表示します。
基本情報		
	名前	リソースグループ名を表示します。
	説明	リソースグループの説明を表示します。
マシン一覧		
	名前	リソースグループに登録されている管理対象マシンのマシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。
	スロット番号	管理対象マシンのスロット番号を表示します。
	種別	管理対象マシンの種別を表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	管理対象マシンが稼動している運用グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
	MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	マシン移動	選択した管理対象マシンを移動します。「マシン移動」ウィンドウに遷移します。
	管理外	選択した管理対象マシンを管理外にします。
	(プルダウンボックス)	選択した管理対象マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 再構成 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

◆ タグ表記

タグ名	マシンステータス情報	状態
電源状態不明	電源状態	ー
電源OFF		Off
電源ON		On
サスペンド		サスペンド
運用待機 / 未割当	稼動ステータス	Off
運用稼動中		On

タグ名	マシンステータス情報	状態
OS状態不明	OSステータス	ー
OS OFF		Off
OS ON		On
HW 不明	ハードウェアステータス	ー
HW 正常		正常
HW 故障		故障
HW 機能低下		一部故障
Job待機中	実行ステータス	ー
Job実行中		処理中
Job異常終了		異常終了

3.4.1. リソースグループ追加

マシン登録を行う前に管理対象マシンが所属するリソースグループの追加を行います。

[マシン] の直下、またはリソースグループの配下にリソースグループを追加できます。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックすると、[マシン タグ一覧] グループボックス、[基本情報] グループボックス、および [マシン一覧] グループボックスが表示されます。[設定] メニューから [グループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。

または、[システムリソース] ツリーからリソースグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [グループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。

リソースグループ情報を入力し、[OK] をクリックするとリソースグループが追加されます。

注: 同一の階層では、グループ、およびラックの名前は重複できません。

グループ追加	
名前 **(入力必須)**	リソースグループ名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ : . ; * ? " < > |

説明	リソースグループの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	リソースグループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	リソースグループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.4.2. リソースグループ編集

リソースグループの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから編集するリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」が表示されます。リソースグループ情報を編集し、[OK] をクリックするとリソースグループ情報が変更されます。

注: 同一の階層では、グループ、およびラックの名前は重複できません。

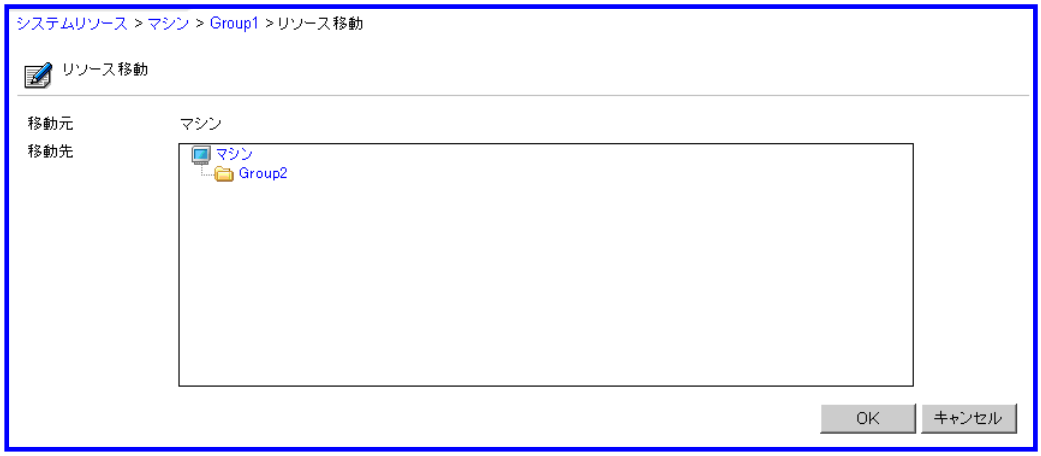
グループ編集	
名前 (入力必須)	リソースグループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ : . ; * ? " < > |
説明	リソースグループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	リソースグループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	リソースグループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.4.3. リソースグループ移動

リソースグループの移動を行います。

リソースグループを [マシン] の直下、または他のリソースグループの配下に移動します。

[システムリソース] ツリーから移動を行うリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ移動] をクリックすると、メインウィンドウに「リソース移動」が表示されます。リソースグループの移動先を選択し、[OK] をクリックするとリソースグループが移動します。



リソース移動	
移動元	移動元の親リソースグループ名、または "マシン" を表示します。
移動先	ツリーから移動先のリソースグループ、または [マシン] を選択します。
[OK]	リソースグループ移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	リソースグループ移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.4.4. リソースグループ削除

リソースグループを削除します。

[システムリソース] ツリーから削除を行うリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ削除] をクリックすると、削除されます。

3.5. ラック

システムリソースで管理するマシンをラックごとに分類、管理します。

3.6. ラックの詳細情報

ラックの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーからラックのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにラックの詳細情報が表示されます。

マシン タグ一覧 (タグクラウド)	
タグ	選択したタグのパンくずリストを表示します。
[状態]	管理対象マシンのタグ情報のマシンステータス情報を示すタグで分類したタブです。タグの表記は下記の表、マシンステータス情報の状態に対応しています。
[タグ]	管理対象マシンのタグ情報をユーザが設定したタグで分類したタブです
[位置情報]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの位置情報で分類したタブです。
[種別]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの種別情報で分類したタブです。
[モデル]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのモデル情報で分類したタブです。
[CPU]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのCPU種別で分類したタブです。

	[メモリ]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのメモリサイズで分類したタブです。
	[ディスク]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのディスク使用量で分類したタブです。
	[OS]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのOS名で分類したタブです。
	[すべて]	管理対象マシンのタグ情報を分類せずに表示します。
基本情報		
	名前	ラック名を表示します。
	説明	ラックの説明を表示します。
マシン一覧		
	名前	ラックに登録されている管理対象マシンのマシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。
	スロット番号	管理対象マシンのスロット番号を表示します。
	種別	管理対象マシンの種別を表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	管理対象マシンが稼動している運用グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
	MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	マシン移動	選択した管理対象マシンを移動します。「マシン移動」ウィンドウに遷移します。
	管理外	選択した管理対象マシンを管理外にします。
	(プルダウンボックス)	選択した管理対象マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 再構成 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

◆ タグ表記

タグ名	マシンステータス情報	状態
電源状態不明	電源状態	―
電源OFF		Off
電源ON		On
サスペンド		サスペンド
運用待機 / 未割当	稼動ステータス	Off
運用稼動中		On

タグ名	マシンステータス情報	状態
OS状態不明	OSステータス	ー
OS OFF		Off
OS ON		On
HW 不明	ハードウェアステータス	ー
HW 正常		正常
HW 故障		故障
HW 機能低下		一部故障
Job待機中	実行ステータス	ー
Job実行中		処理中
Job異常終了		異常終了

3.6.1. ラック追加

マシン登録を行う前に管理対象マシンが所属するラックの追加を行います。

[マシン] の直下、またはリソースグループの配下にラックを追加できます。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックすると、[マシン タグ一覧] グループボックス、[基本情報] グループボックス、および [マシン一覧] グループボックスが表示されます。[設定] メニューから [ラック追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ラック追加」が表示されます。

または、[システムリソース] ツリーからリソースグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [ラック追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ラック追加」が表示されます。

ラック情報を入力し、[OK] をクリックするとラックが追加されます。

注: 同一の階層では、グループ、およびラックの名前は重複できません。

ラック追加	
名前 **(入力必須)**	ラック名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ : . ; * ? " < > |
説明	ラックの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	ラック追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ラック追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.6.2. ラック編集

ラックの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから編集を行うラックのアイコンをクリックし、メインウィンドウにラックの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ラック編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ラック編集」が表示されます。ラック情報を編集し、[OK] をクリックするとラック情報が変更されます。

注: 同一の階層では、グループ、およびラックの名前は重複できません。

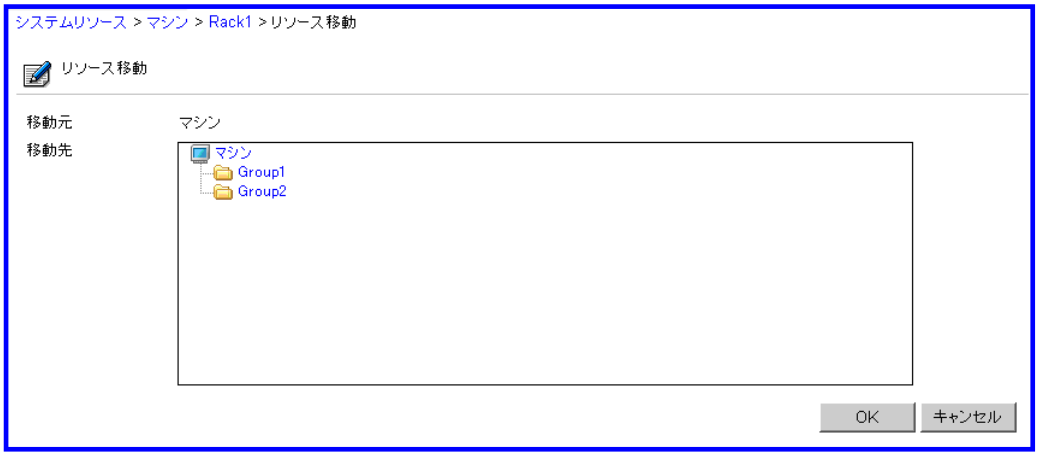
ラック編集	
名前 **(入力必須)**	ラック名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ : . ; * ? " < > |
説明	ラックの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	ラック編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ラック編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.6.3. ラック移動

ラックの移動を行います。

ラックを他のリソースグループの配下、または [マシン] の直下に移動します。

[システムリソース] ツリーから移動を行うラックのアイコンをクリックし、メインウィンドウにラックの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ラック移動] をクリックすると、メインウィンドウに「リソース移動」が表示されます。ラックの移動先を選択し、[OK] をクリックするとラックが移動します。



リソース移動	
移動元	移動元の親リソースグループ名、または "マシン" を表示します。
移動先	ツリーから移動先のリソースグループ、または [マシン] を選択します。
[OK]	ラック移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ラック移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.6.4. ラック削除

ラックを削除します。

[システムリソース] ツリーから削除を行うラックのアイコンをクリックし、メインウィンドウにラックの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ラック削除] をクリックすると、削除されます。

3.7. スマートグループ

システムリソースで管理するマシンを設定した条件で絞り込み、管理することができます。

[システムリソース] ツリーから [スマートグループ] を選択すると、スマートグループに設定した条件に適合するマシンの情報がメインウィンドウに表示されます。

ツリービュー上の アイコンはスマートグループであることを示します。

3.8. スマートグループの詳細情報

スマートグループの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [スマートグループ] をクリックすると、メインウィンドウにスマートグループの詳細情報が表示されます。

マシン タグ一覧 (タグクラウド)	
タグ	選択したタグのパンくずリストを表示します。
[状態]	管理対象マシンのタグ情報のマシンステータス情報を示すタグで分類したタブです。タグの表記は下記の表、マシンステータス情報の状態に対応しています。
[タグ]	管理対象マシンのタグ情報をユーザが設定したタグで分類したタブです
[位置情報]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの位置情報で分類したタブです。
[種別]	管理対象マシンのタグ情報をマシンの種別情報で分類したタブです。

	[モデル]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのモデル情報で分類したタブです。
	[CPU]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのCPU種別で分類したタブです。
	[メモリ]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのメモリサイズで分類したタブです。
	[ディスク]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのディスク使用量で分類したタブです。
	[OS]	管理対象マシンのタグ情報をマシンのOS名で分類したタブです。
	[すべて]	管理対象マシンのタグ情報を分類せずに表示します。
基本情報		
	名前	スマートグループ名を表示します。
	説明	スマートグループの説明を表示します。
マシン一覧		
	名前	管理対象マシンのマシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。
	スロット番号	管理対象マシンのスロット番号を表示します。
	種別	管理対象マシンの種別を表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	管理対象マシンが稼動している運用グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
	MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
	マシン移動	マシンの移動を行います。「リソース移動」ウィンドウに遷移します。
	管理外	選択した管理対象マシンを管理外にします。
	(プルダウンボックス)	選択した管理対象マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 再構成 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

◆ タグ表記

タグ名	マシンステータス情報	状態
電源状態不明	電源状態	ー
電源OFF		Off
電源ON		On
サスペンド		サスペンド
運用待機 / 未割当	稼動ステータス	Off
運用稼動中		On
OS状態不明	OSステータス	ー
OS OFF		Off
OS ON		On
HW 不明	ハードウェアステータス	ー
HW 正常		正常
HW 故障		故障
HW 機能低下		一部故障
Job待機中	実行ステータス	ー
Job実行中		処理中
Job異常終了		異常終了

3.8.1. スマートグループ追加

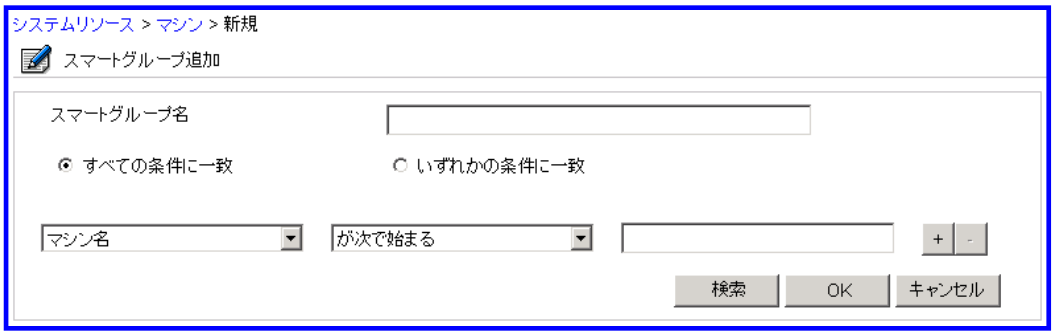
管理対象マシンを絞り込むための条件を設定して、スマートグループの追加を行います。

[マシン] の直下、またはリソースグループの配下にスマートグループを追加できます。

スマートグループを追加する場所を指定するために、[システムリソース] ツリーから [マシン]、またはリソースグループのアイコンを選択します。スマートグループを追加したアイコンの配下のマシンは、スマートグループによる絞り込みの対象となります。

[設定] メニューから [スマートグループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「スマートグループ追加」が表示されます。

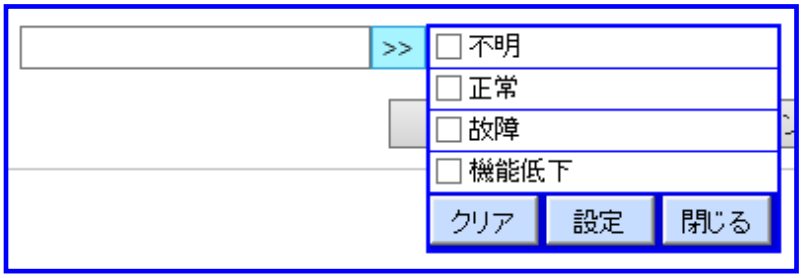
注: 同一の階層では、スマートグループ、リソースグループ、およびラックの名前は重複できません。また、スマートグループ配下に、リソースグループ、およびスマートグループを作成することはできません。



スマートグループ追加	
スマートグループ名 (入力必須)	スマートグループ名を指定します。入力できる文字数は100文字以内です。また、以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
すべての条件に一致	複数の条件を設定し、すべての条件を満たすマシンを絞り込みたい場合に選択します。条件と条件はANDで結合されます。
いずれかの条件に一致	複数の条件を設定し、いずれかの条件を満たすマシンを絞り込みたい場合に選択します。条件と条件はORで結合されます。
検索条件 (左)	条件の対象を選択します。
検索条件 (真中)	条件を選択します。
検索条件 (右)	条件となる値を指定します。
[+]	条件を追加します。
[−]	条件を削除します。ただし、条件が1つしかない場合には、削除できません。
[検索]	編集中の条件でマシンの検索を行います。
[OK]	スマートグループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スマートグループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ 検索条件 (右)

条件となる値を入力します。条件の対象によっては、下記のようにポップアップリストから選択する形式となります。



[>>]	ポップアップリストを展開します。
[クリア]	ポップアップリストでチェックした値をクリアします。
[設定]	ポップアップリストでチェックした値を適用します。
[閉じる]	ポップアップリストを閉じます。

◆ 選択できる条件の対象、条件、値の組み合わせ

選択できる条件の対象、条件、値の組み合わせは以下のようになっています。

対象	条件	値
マシン名	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
モデル名	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
マシンタグ	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
マシン種別	が次のいずれかに一致する。	Unitary
		Blade
		Virtual Machine
		Lost Virtual Machine

対象	条件	値
		VM Server
		Hyper-V
		Xen
		VMware
		KVM
	が次のいずれとも一致しない。	Unitary
		Blade
		Virtual Machine
		Lost Virtual Machine
		VM Server
		Hyper-V
		Xen
		VMware
		KVM
CPU種別	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
メモリサイズ (GByte)	が次と一致する。	整数値をGB単位で0-99999の値を指定します。 例) 0を指定したとき、0-999MBのメモリを搭載したマシンが検出されます。 1を指定したとき、1-1.99GBのメモリを搭載したマシンが検出されます。
	が次以上。	整数値をGB単位で0-99999の値を指定します。
	が次以下。	整数値をGB単位で0-99999の値を指定します。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
位置情報	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	

対象	条件	値
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
電源状態	が次のいずれかに一致する。	不明
		Off
		On
		サスペンド
	が次のいずれとも一致しない。	不明
		Off
		On
		サスペンド
稼動ステータス	が次のいずれかに一致する。	運用待機 / 未割当
		運用稼動中
	が次のいずれとも一致しない。	運用待機 / 未割当
		運用稼動中
OSステータス	が次のいずれかに一致する。	不明
		Off
		On
	が次のいずれとも一致しない。	不明
		Off
		On
ハードウェアステータス	が次のいずれかに一致する。	不明
		正常
		故障
		機能低下
	が次のいずれとも一致しない。	不明
		正常
		故障
		機能低下
実行ステータス	が次のいずれかに一致する。	待機中
		処理中
		異常終了
	が次のいずれとも一致しない。	待機中
		処理中
		異常終了
ポリシー状態	が次のいずれかに一致する。	不明

対象	条件	値
		全て無効
		一部有効
		全て有効
	が次のいずれとも一致しない。	不明
		全て無効
		一部有効
		全て有効
メンテナンスステータス	が次のいずれかに一致する。	Off
		On
	が次のいずれとも一致しない。	Off
		On
センサー異常状態	が次のいずれかに一致する。	警告または異常 (警告、異常を報告しているセンサーが対象となります。)
		異常
IPMIの接続状態	が次のいずれかに一致する。	接続未確認
		接続可能
		接続不可
		認証失敗
		無効
	が次のいずれとも一致しない。	接続未確認
		接続可能
		接続不可
		認証失敗
		無効
ホストタグ	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
OS名	が次で始まる。	任意の値を入力します。
	が次で終わる。	
	が次を含む。	

対象	条件	値
	が次を含まない。	
	が次と一致する。	
	が次と一致しない。	
	が未設定。	入力できません。
	が設定済み。	
ディスクタイプ	が次のいずれかに一致する。	可変
		固定
		差分
	が次のいずれとも一致しない。	可変
		固定
		差分
VM作成方法	が次のいずれかに一致する。	Full Clone
		HW Profile Clone
		Differential Clone
		Disk Clone
	が次のいずれとも一致しない。	Full Clone
		HW Profile Clone
		Differential Clone
		Disk Clone
ディスク用途	が次のいずれかに一致する。	システムディスク
		データストア
		拡張ディスク
	が次のいずれとも一致しない。	システムディスク
		データストア
		拡張ディスク
システムディスク使用量(GByte)	が次以上。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。
	が次以下。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
差分ディスク使用量(GByte)	が次以上。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。

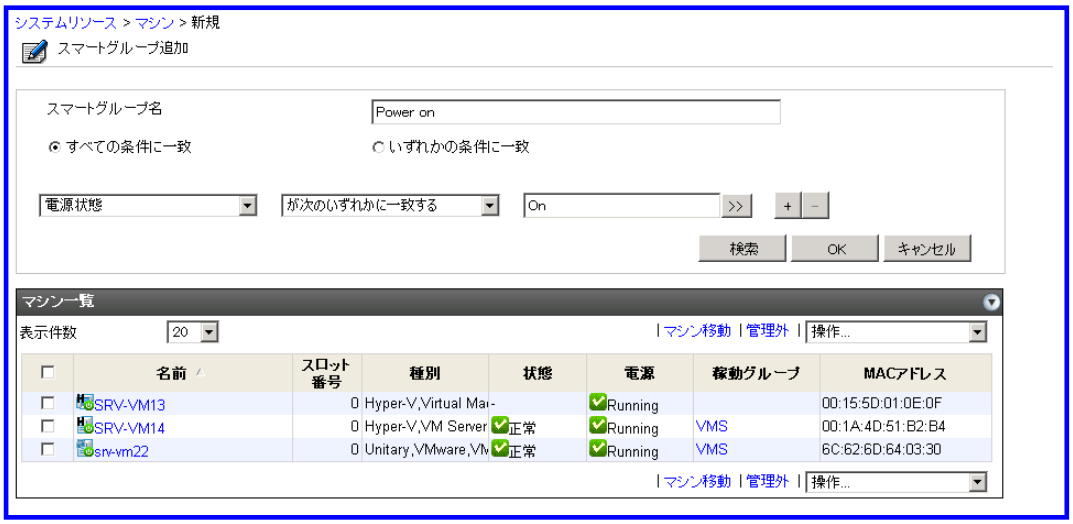
対象	条件	値
	が次以下。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
データストア使用量(GByte)	が次以上。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。
	が次以下。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
拡張ディスク使用量(GByte)	が次以上。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。
	が次以下。	GB単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
CPUソケット数	が次と一致する。	整数値で「0～99999」の値を指定します。
	が次と一致しない。	
	が次以上。	
	が次以下。	整数値で「0～99999」の値を指定します。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
CPUスレッド数	が次と一致する。	整数値で「0～99999」の値を指定します。
	が次と一致しない。	
	が次以上。	
	が次以下。	整数値で「0～99999」の値を指定します。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。

対象	条件	値
CPU周波数 (GHz)	が次と一致する。	GHz単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。
	が次と一致しない。	
	が次以上。	
	が次以下。	GHz単位で「0～2097152」の値を指定します。 小数点第1位まで指定可能です。 ただし、境界となる値は含まれず、「未満」と同じ動作となります。
グループプール設定	が未設定。	運用グループのグループプールに設定されているかどうかを指定します。 入力できません。
	が設定済み。	
ベンダー	が次のいずれかに一致する。	不明
		IBM
		HP
		NEC
		DELL
		Cisco
	が次のいずれとも一致しない。	不明
		IBM
		HP
		NEC
		DELL
		Cisco
ベンダーID (※1)	が次と一致する。	「ベンダー」条件の選択肢に含まれていないベンダーの検索時に使用します。 整数値で「0～2147483647」の値を指定します。
	が次と一致しない。	

※1　IANA Enterprise Numbers (http://www.iana.org/assignments/enterprise-numbers) で定義されている値を参考に指定してください。

[検索] をクリックすると、検索結果がマシン一覧で表示されます。

検索対象となるマシンは、[システムリソース] ツリーで選択されている [マシン]、またはそのスマートグループが属するリソースグループの配下にあるマシンになります。



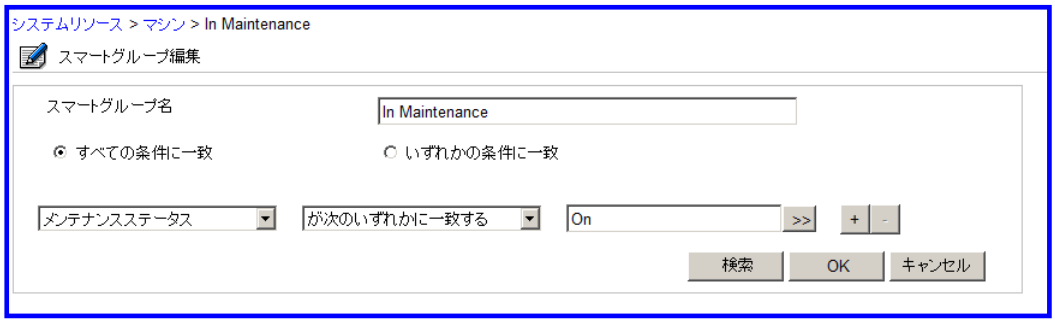
マシン一覧	
名前	管理対象マシンのマシン名を表示します。マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報へ遷移します。
スロット番号	管理対象マシンのスロット番号を表示します。
種別	管理対象マシンの種別を表示します。
状態	管理対象マシンの状態を表示します。
電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
稼動グループ	管理対象マシンが稼動している運用グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
マシン移動	マシンの移動を行います。「リソース移動」ウィンドウに遷移します。
管理外	選択した管理対象マシンを管理外にします。
(プルダウンボックス)	選択した管理対象マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 再構成 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

3.8.2. スマートグループ編集

スマートグループの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから編集を行うスマートグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスマートグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スマートグループ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「スマートグループ編集」が表示されます。スマートグループ情報を編集し、[OK] をクリックするとスマートグループ情報が変更されます。

関連情報: スマートグループの条件、および検索については、「3.8.1 スマートグループ追加」を参照してください。



スマートグループ編集	
スマートグループ名 (入力必須)	スマートグループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。また、以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
すべての条件に一致	複数の条件を設定し、すべての条件を満たすマシンを絞り込みたい場合に選択します。条件と条件はANDで結合されます。
いずれかの条件に一致	複数の条件を設定し、いずれかの条件を満たすマシンを絞り込みたい場合に選択します。条件と条件はORで結合されます。
検索条件 (左)	条件の対象を表示し、選択もできます。
検索条件 (真中)	条件を表示し、選択もできます。
検索条件 (右)	条件となる値を表示し、編集もできます。
[+]	条件を追加します。
[−]	条件を削除します。ただし、条件が1つしかない場合には、削除できません。
[検索]	編集中の条件でマシンの検索を行います。
[OK]	スマートグループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	スマートグループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

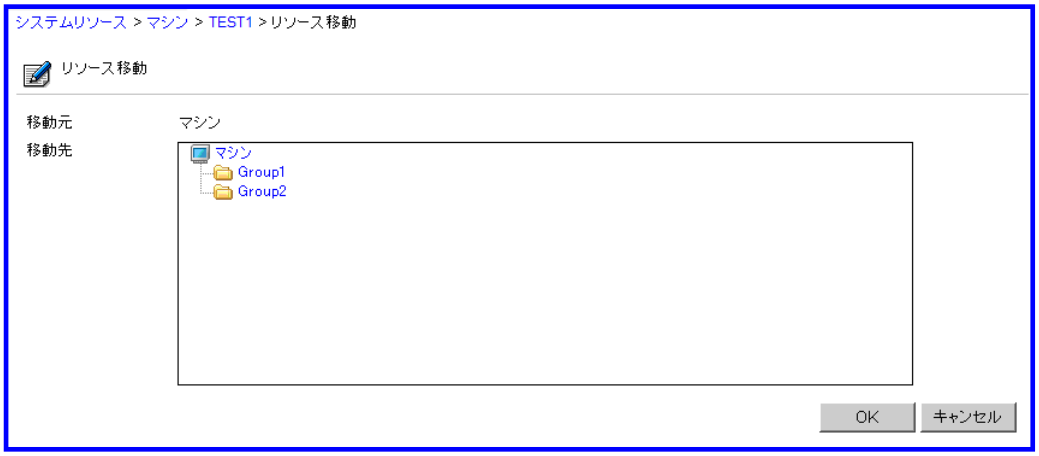
3.8.3. スマートグループ移動

スマートグループの移動を行います。

スマートグループを他のリソースグループ、または [マシン] の直下に移動します。

[システムリソース] ツリーから移動を行うスマートグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスマートグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スマートグループ移動] をクリックすると、メインウィンドウに「リソース移動」が表示されます。スマートグループの移動先を選択し、[OK] をクリックするとスマートグループが移動します。

移動先で選んだアイコンの配下のマシンは、移動したスマートグループによる絞り込みの対象となります。



リソース移動	
移動元	移動元の親リソースグループ名、または "マシン" を表示します。
移動先	ツリーから移動先のリソースグループ、または [マシン] を選択します。
[OK]	スマートグループ移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スマートグループ移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.8.4. スマートグループ削除

スマートグループを削除します。

[システムリソース] ツリーから削除を行うスマートグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスマートグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スマートグループ削除] をクリックすると、削除されます。

3.8.5. スマートグループ複製

スマートグループを複製します。

[システムリソース] ツリーから複製を行うスマートグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスマートグループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スマートグループ複製] をクリックすると、同じ階層に複製されたスマートグループが作成されます。

複製されたスマートグループの名前には、初期値として "<元となるスマートグループの名前>[n]" (n=2,3,4…) が設定されます。

3.8.6. 既定のスマートグループ

SigmaSystemCenter をインストールした初期の状態では、[マシン] 直下には以下の既定のスマートグループが用意されています。

既定のスマートグループも編集、削除、複製、移動の操作が可能ですが、New Machine と Sensor Alert はいずれの操作もできません。

各スマートグループの機能と絞り込み条件の設定は以下の通りです。

スマートグループ名	機能	絞込み条件の設定		
		対象	条件	値
Having Problems	問題を抱えているマシンを抽出します。	いずれかの条件に一致 (OR)		
		ハードウェアステータス	が次のいずれかに一致する	故障、 機能低下
		実行ステータス	が次のいずれかに一致する	異常終了
In Maintenance	メンテナンス状態のマシンを抽出します。	メンテナンスステータス	が次のいずれかの一致する	On
New Machine	新規に自動登録されたマシンを抽出します。	ー		
Powered off	電源OFF状態のマシンを抽出します。	電源状態	が次のいずれかに一致する	Off、 サスペンド
Sensor Alert	警告を発しているセンサーを持つマシンを抽出します。	ー		
Free physical machines	運用グループ未使用の物理マシンを抽出します。	すべての条件に一致 (AND)		
		稼動ステータス	が次のいずれとも一致しない	運用稼動中
		グループプール設定	が未設定	
		電源状態	が次のいずれかに一致する	Off
		ハードウェアステータス	が次のいずれかに一致する	不明、正常
		マシン種別	が次のいずれとも一致しない	Virtual Machine、 Lost Virtual Machine

3.9. タグクラウド

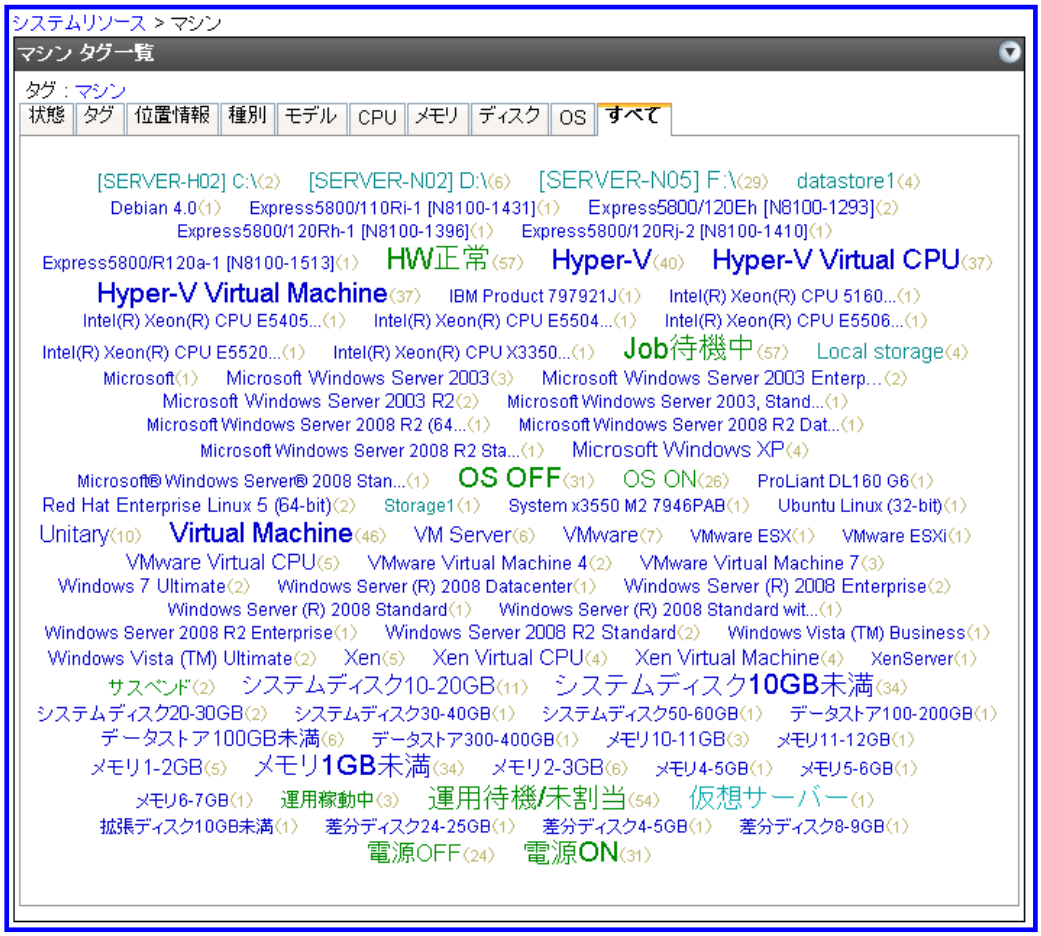
管理対象としているマシンの様々な情報を分類し、視覚的に表示します。

管理対象となるマシンが多数存在する場合、管理のために参照する情報も膨大になります。タグクラウドではユーザが設定したタグだけでなく、マシンの状態、ハードウェアや OS の情報などの管理に必要な情報も "タグ" として扱います。そして、これらの "タグ" をより探しやすく、より見つけやすく分類、表示します。

また、タグクラウドでは表示される "タグ" を持つマシンを容易に絞り込むこともできます。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックすると、メインウィンドウの [マシン タグ一覧] グループボックスにタグクラウドにはすべての管理対象マシンが持つタグが分類、表示されます。

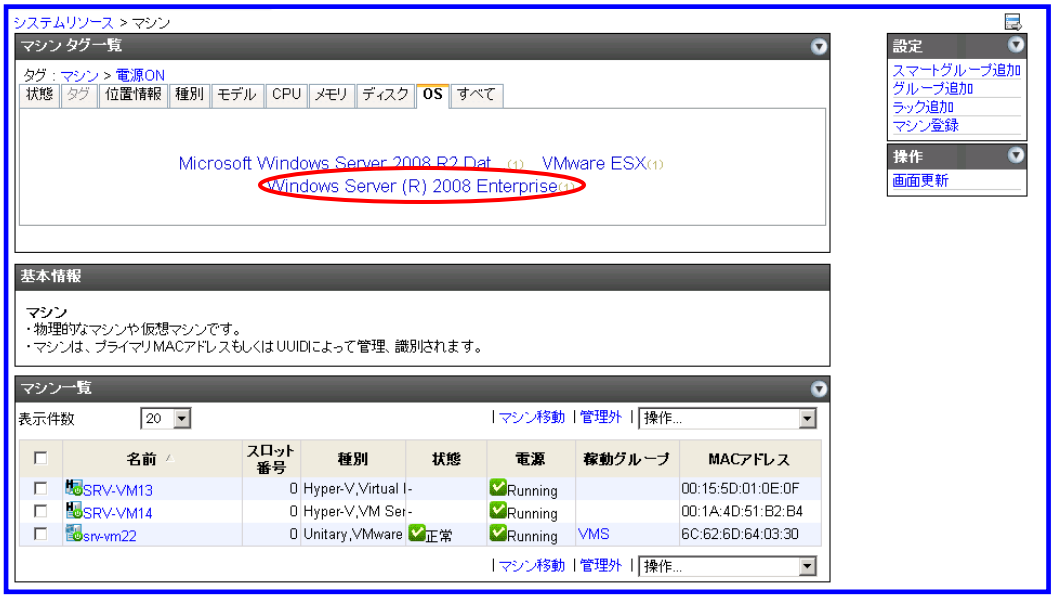
[システムリソース] ツリーから [リソースグループ]、[スマートグループ]、および [ラック] をクリックすると、メインウィンドウの [マシン タグ一覧] にタグクラウドには選択したアイコンの直下にある管理対象マシンが持つタグが分類、表示されます。



3.9.1. タグクラウドによる絞込み

[システムリソース] ツリーからマシン、ラック、リソースグループ、もしくはスマートグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに [マシン タグ一覧] グループボックスを表示させます。

[マシン タグ一覧] グループボックスから、タブをクリックして表示するタグを選択します。



[マシン タグ一覧] グループボックスからタグをクリックすることで、そのタグを持つ管理対象マシンのみがマシン一覧に表示されます。

絞り込みを行った状態でタグをクリックしていくことで、さらに絞り込みを行うことが可能です。

絞り込んだ履歴は、タグクラウドの "タグ：" の右側にパンくずリストとして表示されます。

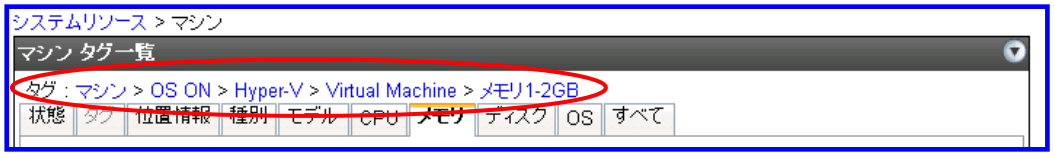
注: リソースグループなどへのロール設定内容によっては、マシン一覧に表示されるマシンがユーザごとにフィルタされ、一部のマシンが非表示となることがあります。そのため、タグクラウドで集計した各タグの件数とマシン一覧に表示されるマシンの件数が一致しない場合があります。

3.9.2. タグクラウドによる絞込みの解除

タグクラウドによる絞り込みは画面を遷移しても記憶されており、次の操作を行うことで解除されます。

- ◆ パンくずリストの一番左のマシン、リソースグループ名、スマートグループ名、ラック名をクリックする
- ◆ SigmaSystemCenter をログアウトする

また、パンくずリストの任意のタグ名をクリックした場合は、クリックしたタグで絞り込んだ時点まで戻ることができます。



3.10. マシンの詳細情報

マシンの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにマシンの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ

基本情報	
名前	マシン名を表示します。
UUID	マシンのUUIDを表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
モデル名	マシンが所属しているモデル名を表示します。

種別	マシンの種別を表示します。
ベンダーID	マシンのベンダー名、またはベンダーIDを表示します。
物理マシン名	マシンに関連する物理マシン名を表示します。※物理マシンとの関連を持つ論理マシンの場合のみ表示します。
論理マシン	マシンに関連する論理マシン名を表示します。 ※論理マシンに関連する物理マシンの場合のみ表示します。
構成ファイル	マシンの構成ファイルを表示します。
スロット番号	マシンのスロット番号を表示します。
タグ	マシンのタグを表示します。
格納場所	マシンの格納場所を表示します。
ユニット名	マシンのユニット名を表示します。
DPM パス	DPMサーバに登録されている場合、DeploymentManagerでの登録先のマシングループを表示します。本情報は、DPM収集を実行すると、最新の情報に更新されます。
説明	マシンの説明を表示します。
マシンステータス情報	
サマリステータス	マシンのサマリステータスを表示します。 仮想化基盤でメンテナンスモードが設定されている場合は、ステータス表示の下に「仮想化基盤でメンテナンスモードが設定されています」メッセージが表示されます。
電源状態	マシンの電源状態を表示します。
稼動ステータス	マシンの稼動ステータスを表示します。
OS ステータス	マシンのOSステータスを表示します。
ハードウェアステータス	マシンのハードウェアステータスを表示します。 [状態詳細] をクリックすると、ハードウェアの個別ステータス一覧を表示します。個別ステータスについては、「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「9.8.7 マシン単位のハードウェア状態詳細 (個別ステータス) の確認方法」を参照してください。
実行ステータス	マシンの実行ステータスを表示します。
ポリシー状態	マシンのポリシー状態を表示します。
管理状態	マシンの管理状態を表示します。
メンテナンスステータス	マシンのメンテナンスステータスを表示します。
ハードウェア情報	
CPU 種別	マシンのCPU種別を表示します。
プロセッサ	マシンのプロセッサを表示します。
メモリサイズ	マシンのメモリサイズを表示します。

アカウント	
タイプ	Out-of-Band Management (OOB)、もしくはIn-Band (IB)接続タイプのどちらかを表示します。
ユーザ	ユーザ (アカウント) 名を表示します。
接続先	Out-of-Band Managementの場合、接続先IPアドレスを表示します。In-Bandの場合は空白になります。
接続状態	接続状態を表示します。
更新日時	の接続状態の更新日時を表示します。
運用情報	
稼動グループ	マシンを運用している稼動グループを表示します。グループ名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。
ホスト名	マシンを運用しているホスト名を表示します。ホスト名をクリックすると、ホストの詳細情報へ遷移します。
OS 名	マシンを運用しているOS名を表示します。
グループプール	マシンを運用しているリソースプールを表示します。
仮想パス	マシンの種別が仮想マシン、もしくは仮想マシンサーバの場合に仮想パスを表示します。仮想パスをクリックすると、VMの詳細情報、もしくはVMサーバの詳細情報へ遷移します。
起動時間	マシンの起動時間を表示します。
起動累積時間	マシンの累計起動時間を表示します。
作成日時	マシンが作成された日時を表示します。 SigmaSystemCenterから作成された仮想マシンの場合のみ表示されます。
最終構成変更日時	最後にマシンの構成が変更された日時を表示します。 マシン履歴情報のリビジョンが1つのみの場合は、表示されません。
サービス開始日時	仮想マシンに設定されたサービス開始日時を表示します。
サービス終了日時	仮想マシンに設定されたサービス終了日時を表示します。
インストール済みソフトウェア	
ソフトウェア名	インストール済みのソフトウェア名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
バージョン	ソフトウェアのバージョンを表示します。
サービス	
サービス名	サービス名を表示します。
起動の種類	サービスの起動時の設定を表示します。

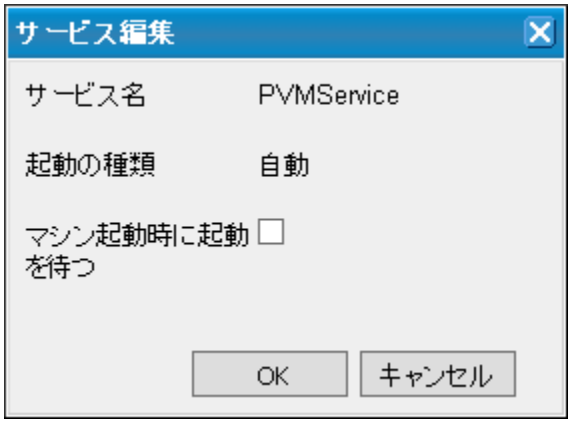
	マシン起動時に起動を待つ	マシンの起動時にサービスの起動を待つかどうかを表示します。
	編集	サービスを編集します。「サービス編集」ダイアログボックスが表示されます。
イベント履歴		
	イベント番号	マシンのイベント履歴番号を表示します。クリックすると、イベントの詳細情報に遷移します。
	日付	イベント日付を表示します。
	レベル	イベントのレベルを表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

注:

・[起動時間]、[起動累積時間] に表示される時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

・サービスの [機能の種類] の "自動 (遅延開始)" は、Windows 10 以前の環境では "自動" と表示されます。

[編集] をクリックすると、「サービス編集」ダイアログボックスが表示されます。



サービス編集	
サービス名	サービス名を表示します。
起動の種類	サービスの起動の種類を表示します。
マシン起動時に起動を待つ	マシンの起動時にサービスの起動を待つ場合は、チェックボックスをオンにします。
[OK]	設定の変更を保存し、マシンの詳細情報に戻ります。
[キャンセル]	設定の変更を保存せずに、マシンの詳細情報に戻ります。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

3.10.1. マシン登録 (マシン登録時にリソースグループ、もしくはラックを指定する場合)

管理外のマシンをリソースグループ、もしくはラックに登録します。また、マシン登録時にリソースグループ、もしくはラックを指定します。

[システムリソース] ツリーから [マシン] をクリックすると、[マシン タグ一覧] グループボックス、[基本情報] グループボックス、および [マシン一覧] グループボックスが表示されます。[設定] メニューから [マシン登録] をクリックし、メインウィンドウに「マシン登録」が表示されます。登録するマシン、および登録先を選択し、[OK] をクリックするとマシンが登録されます。

マシン登録	
管理外のマシン一覧	
名前	管理外のマシン名を表示します。
種別	管理外のマシンの種別を表示します。
状態	管理外のマシンの状態を表示します。
電源	管理外のマシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	管理外のマシンのMACアドレスを表示します。
UUID	管理外のマシンのUUIDを表示します。
親のリソース	親のリソースを選択します。
[OK]	マシン登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	マシン登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.10.2. マシン登録 (リソースグループ、もしくはラックを指定して登録する場合)

リソースグループ、もしくはラックにマシンを登録します。マシンを登録する際にリソースグループ、もしくはラックを指定します。

[システムリソース] ツリーからマシン登録を行うリソースグループ、もしくはラックのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報、もしくはラックの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [マシン登録] をクリックすると、メインウィンドウに「マシン登録」が表示されます。登録するマシンを選択し、[OK] をクリックするとマシンが登録されます。

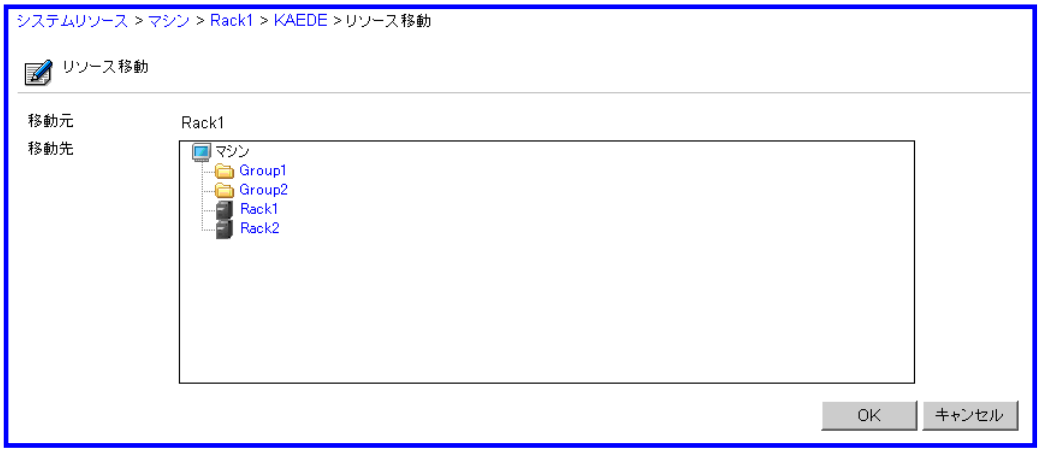
マシン登録	
管理外のマシン一覧	
名前	管理外のマシン名を表示します。
種別	管理外のマシンの種別を表示します。
状態	管理外のマシンの状態を表示します。
電源	管理外のマシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	管理外のマシンのMACアドレスを表示します。
UUID	管理外のマシンのUUIDを表示します。
[OK]	マシン登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マシン登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.10.3. マシン移動 (マシン単体移動)

マシン移動を行います。

マシンを他のリソースグループ、もしくはラックに移動します。

[システムリソース] ツリーから移動を行うマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [マシン移動] をクリックすると、メインウィンドウに「リソース移動」が表示されます。マシンの移動先を選択し、[OK] をクリックするとマシンが移動します。



リソース移動	
移動元	移動元のリソースグループ、またはラックを表示します。
移動先	ツリーより移動先のリソースグループ、またはラックを選択します。
[OK]	マシン移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マシン移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.10.4. マシン管理外

管理対象マシンを管理外にします。

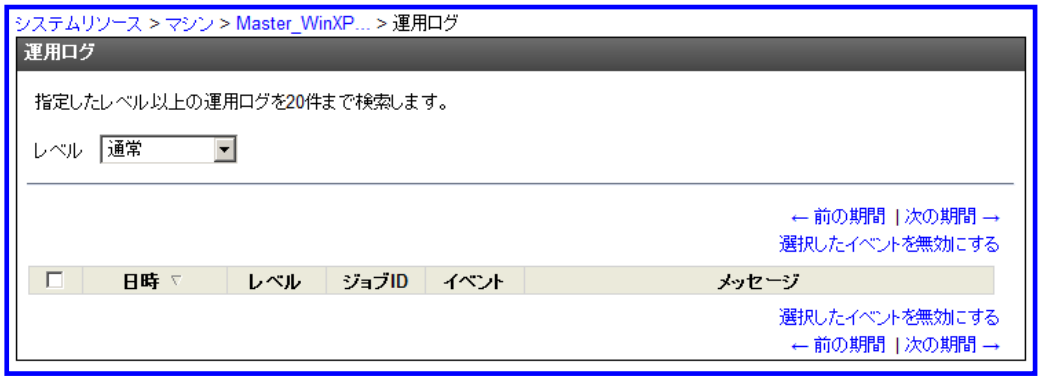
[システムリソース] ツリーから管理外にするマシンが所属するリソースグループのアイコン、ラックのアイコン、もしくは [マシン] をクリックし、メインウィンドウに [マシン一覧] グループボックスを表示します。[マシン一覧] グループボックスから管理外にするマシンを選択し、[アクション] メニューから [管理外] をクリックすると、管理外になります。

もしくは、[システムリソース] ツリーから管理外にするマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [管理外] をクリックすると、管理外になります。

3.10.5. 運用ログ

管理対象マシンの運用ログを表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [運用ログ] をクリックすると、対象のマシンの運用ログが表示されます。



運用ログ	
レベル	レベルを選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定されたレベル以上のログが表示されます。初期表示は、"通常" を表示します。
日時	ログの日時を表示します。
レベル	ログのレベルを表示します。レベルの詳細は以下の表を参照してください。
ジョブ ID	ジョブ履歴の番号を表示します。ジョブと関連がない場合やジョブ実行前の運用ログの場合は空白が表示されます。
イベント	イベント管理番号を表示します。クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。 SYxxxxx ： システムモジュールにて実行されたイベント (定期収集など) UCxxxxx ：Webコンソール、pvmutlコマンド、またはSystemMonitorからの操作、実行されたイベント RExxxxx ： 受信した、関連製品のイベント
メッセージ	ログのメッセージを表示します。
← 前の期間	表示されている一番古いログを起点として、それより過去のログを検索して表示します。
次の期間 →	表示されている一番新しいログを起点として、それより新しいログを検索して表示します。
選択したイベントを無効にする	選択ログに起因する、関連製品からの受信イベントをSigmaSystemCenterでの監視対象外にします。 この設定は、イベント番号が「RExxxxx」のイベントにのみ有効です。

3.10.6. ジョブ

管理対象マシンのジョブを表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ジョブ] をクリックすると、対象のマシンのジョブが表示されます。

ジョブ履歴	
番号	ジョブ履歴の番号を表示します。
開始日時	ジョブの開始日時を表示します。
終了日時	ジョブの終了日時を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
イベント	イベント管理番号を表示します。クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。 SYxxxxx ： システムモジュールにて実行されたイベント (定期収集など) UCxxxxx ：Webコンソール、pvmutlコマンド、またはSystemMonitorからの操作、実行されたイベント RExxxxx ： 受信した、関連製品のイベント
ソース	ジョブを実行したユーザ名、またはシステムモジュール名を表示します。pvmutlコマンドから実行した場合は、"System"と表示されます。
概要	ジョブの概要を表示します。
← 前の期間	表示されている一番古いジョブを起点として、それより過去のログを検索して表示します。
次の期間 →	表示されている一番新しいジョブを起点として、それより新しいログを検索して表示します。

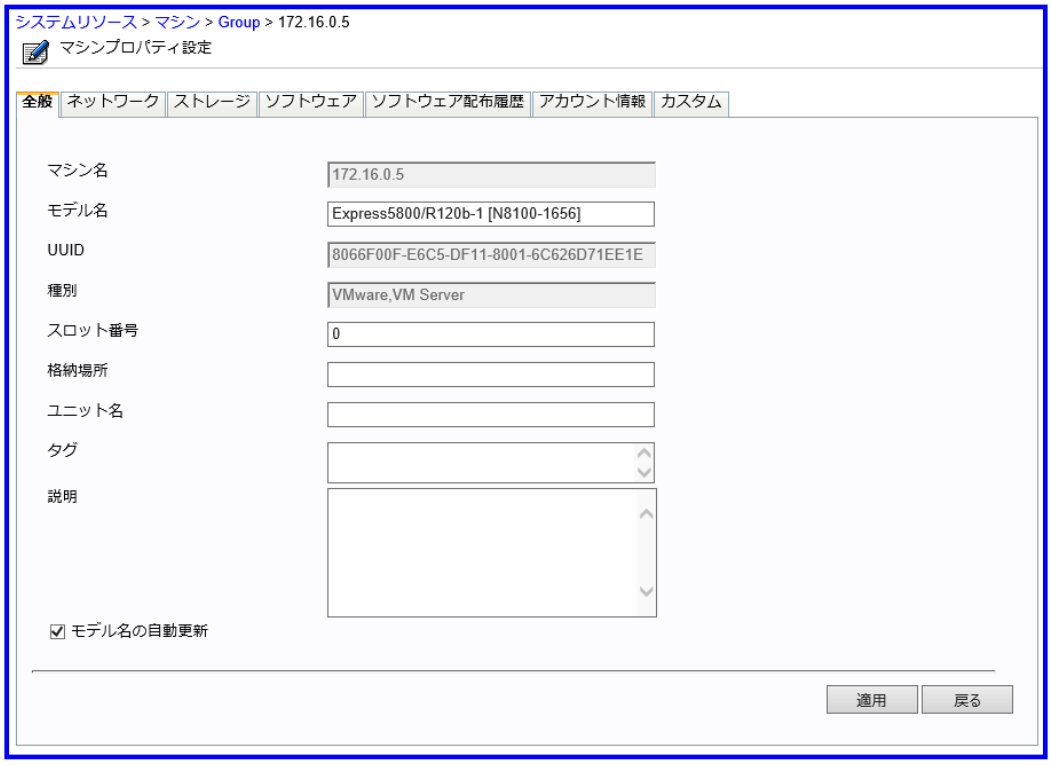
3.11. マシンプロパティ設定

登録したマシンのマシンプロパティの表示、設定を行います。

[システムリソース] ツリーからマシンプロパティの設定を行うマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [プロパティ] をクリックすると、メインウィンドウに [全般] タブ、[ネットワーク] タブ、[ストレージ] タブ、[ソフトウェア] タブ、[ソフトウェア配布履歴] タブ、[アカウント情報] タブ、[カスタム] タブで構成されたマシンプロパティ設定が表示されます。ただし、マシンの種別が仮想マシンの場合、[ネットワーク] タブ、[ストレージ] タブは表示されません。

3.11.1. [全般] タブ

マシン全般に関する情報の表示、設定を行います。



全般	
マシン名	マシン名を表示します。編集はできません。
モデル名	モデル名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
UUID	UUIDを表示します。編集はできません。
種別	マシンの種別を表示します。編集はできません。
スロット番号	実際のマシンのスロット番号を表示し、編集もできます。

格納場所	格納場所を表示し、編集もできます。マシンの種別が仮想マシンの場合、編集はできません。入力できる文字数は100文字以内です。
ユニット名	SigmaSystemCenterで管理する名前となるユニット名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は、32文字以内です。また、使用できる文字はアルファベットで始まる英数字、および(".", "-", "_") です。
タグ	リソースグループやスマートグループ、ラックの各ウィンドウで管理対象マシンをキーワードごとに視覚的に分類する場合、タグ (キーワード) を表示し、編集もできます。
説明	マシンの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
モデル名の自動更新	モデル名の自動更新を禁止する場合、チェックボックスをオフにします。
[適用]	マシンプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]	マシンプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.11.2. [ネットワーク] タブ

ネットワークに関する情報の表示、設定を行います。ただし、マシンの種別が仮想マシンの場合、[ネットワーク] タブは表示されません。

注: マシンが稼動している場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。

ネットワーク	
NIC 一覧	
NIC 番号	NIC番号を表示します。
MAC アドレス	MACアドレスを表示します。 デバイス名が取得できる場合は、デバイス名も表示します。
スイッチ	スイッチを表示します。

	ポート	ポートを表示します。
	編集	NIC情報を編集します。[NIC一覧] グループボックスの下部に [NIC設定] グループボックスが表示されます。
	追加	NIC情報を追加します。[NIC一覧] グループボックスの下部に [NIC設定] グループボックスが表示されます。
	削除	選択したNIC情報を [NIC一覧] グループボックスから削除します。NIC番号1のNICは削除できません。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

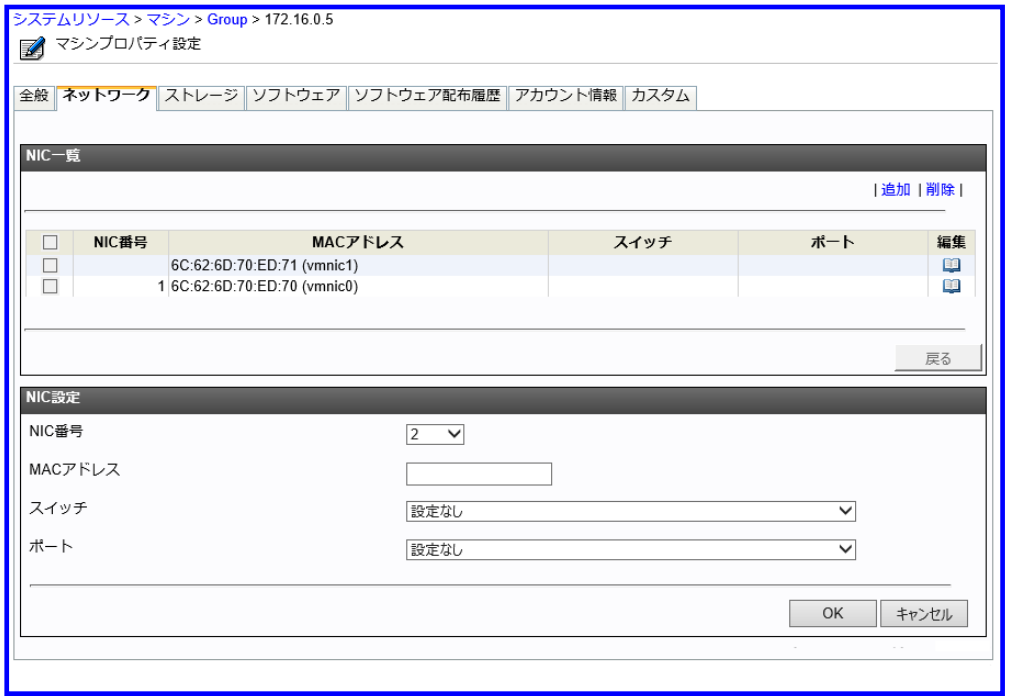
注:

・稼動しているマシンの NIC の設定を行う場合は、マシンのメンテナンスモードをオンにする必要があります。メンテナンスモードをオンにした場合は、NIC の設定後にオフに戻してください。

・手動で NIC を追加する場合は、必ず NIC に一致した MAC アドレスの値を設定してください。MAC アドレスを誤って設定すると、マシンの操作が正常に動作しなくなる場合があります。

・NIC 番号 1 で登録する MAC アドレスは、DeploymentManager に登録している管理対象マシンの MAC アドレスと一致している必要があります。

[追加]、もしくは対象の NIC の [編集] をクリックすると、[NIC 一覧] グループボックスの下部に [NIC 設定] グループボックスが表示されます。



NIC 設定	
NIC 番号	NIC番号を選択します。

MAC アドレス	MACアドレスを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は (XX:XX:XX:XX:XX:XX) 形式で入力します。編集時は、MACアドレスの編集はできません。
スイッチ	スイッチを選択します。
ポート	ポートを選択します。
[OK]	NIC設定情報を保存し、[NIC一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	NIC設定情報を保存せずに、[NIC設定] グループボックスを閉じます。

3.11.3. [ストレージ] タブ

ストレージに関する情報の表示、設定を行います。ただし、マシンの種別が仮想マシンの場合、[ストレージ] タブは表示されません。

注:

・ マシンが稼動している場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。

・ マシンに HBA を追加するためにはストレージ管理ソフトウェアとの連携、および収集が必要です。

・ ストレージ管理ソフトウェアでディスクアレイ、ディスクボリューム、WWN (HBA) などのストレージの設定を変更したときは、必ず [システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、[操作] メニューから [ストレージ収集] を行ってください。ただし、iStorage ではディスクアレイ名と iStorageManager 内の ID が同時に変更になる場合、LD セットに割り当て済みの LD 名を変更した場合は、ストレージ情報の更新が正しく行われません。

ストレージ		
	ストレージ情報	
	HBA 番号	HBA番号を表示します。
	アドレス	アドレスを表示します。
	接続先	接続先を表示します。

	編集	ストレージ情報を編集します。[ストレージ情報] グループボックスの下部に [HBA設定] グループボックスが表示されます。
	追加	ストレージ情報を追加します。[ストレージ情報] グループボックスの下部に [HBA設定] グループボックスが表示されます。
	削除	選択したHBA情報を [ストレージ情報] グループボックスから削除します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

[追加]、もしくは対象 HBA の [編集] をクリックすると、[ストレージ情報] グループボックスの下部に [HBA 設定] グループボックスが表示されます。

関連情報: CLARiXとSymmetrix の場合は、事前に ssc コマンドの set hba コマンドを使用して、HBA のアドレス (WWPN、WWNN) と HBA の接続先のディスクアレイのパスを SigmaSystemCenter に登録する必要があります。HBA とパス情報の登録については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.7.10 HBA、パス情報の登録 (CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合)」を参照してください。

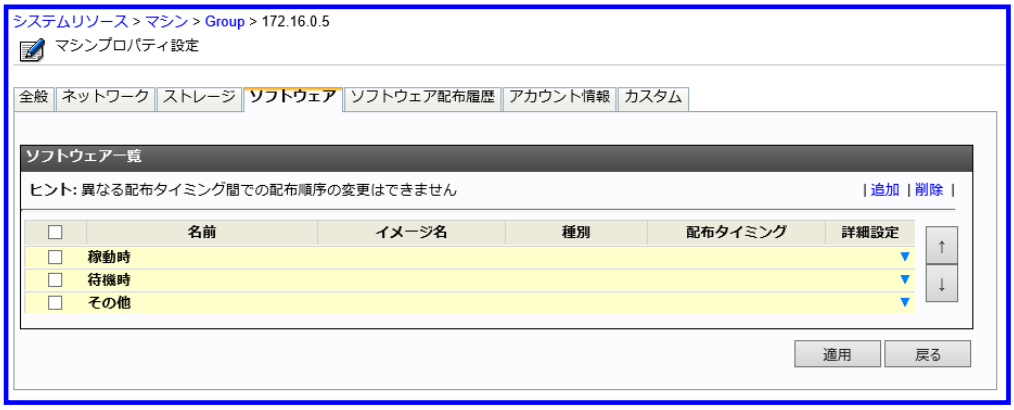
HBA 設定	
HBA 番号 **(入力必須)**	HBA番号を入力します。リソースのプロパティでディスクボリュームの設定を行う場合に、ここで設定したHBA番号を指定します。「0～9999」の範囲で設定できます。
アドレス **(選択必須)**	FCインターフェースを利用している場合は、マシンに接続されているHBAのWWNを選択します。iSCSIインターフェースを利用している場合は、接続されているHBAのiSCSIイニシエータ名を選択します。編集時は、アドレスの編集はできません。

接続先	選択しているアドレスの接続先を表示します。
[OK]	HBA設定情報を保存し、[ストレージ情報] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	HBA設定情報を保存せずに、[HBA設定] グループボックスを閉じます。

3.11.4. [ソフトウェア] タブ

ソフトウェアに関する情報の表示、設定を行います。

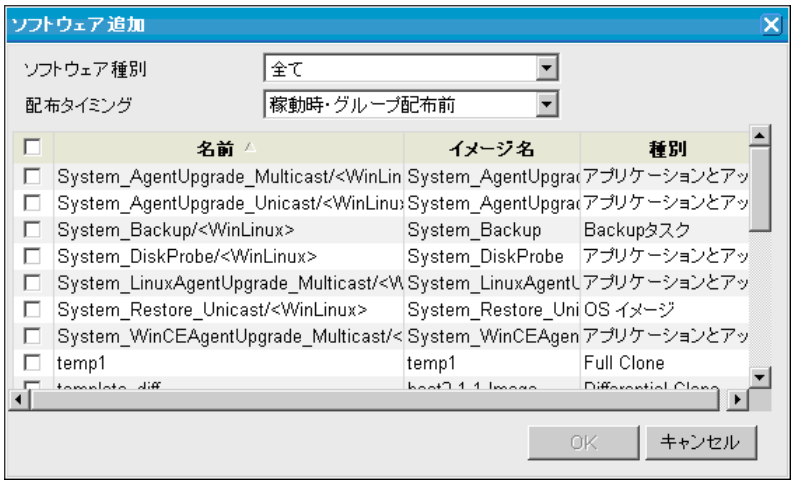
注: マシンが稼動している場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。



ソフトウェア	
ソフトウェア一覧	
名前	ソフトウェア名を表示します。ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを表示します。
詳細設定	シナリオの種別が以下の場合、編集アイコンが表示されます。 (1) アプリケーションとアップデートの場合 (2) Differential Clone、またはDisk Cloneのイメージの場合 (3) ファイルの場合 編集アイコンをクリックすると、それぞれのグループボックス画面が表示されます。

		(1) [コマンドオプション設定] グループボックスが表示され、コマンドオプションを指定することができます。また、[コマンド実行結果をジョブ結果に反映する] チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。 (2) [イメージ変更] グループボックスが表示され、イメージを変更することができます。 (3) [ファイル詳細設定] グループボックスが表示され、配信先フォルダを変更することができます。
	[↑]	選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	[↓]	選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	追加	ソフトウェアを追加します。[ソフトウェア一覧] グループボックス下部に [ソフトウェア追加] グループボックスを表示します。
	削除	選択したソフトウェアを [ソフトウェア一覧] グループボックスから削除します。
[適用]		マシンプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		マシンプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「ソフトウェア追加」ダイアログボックスが表示されます。

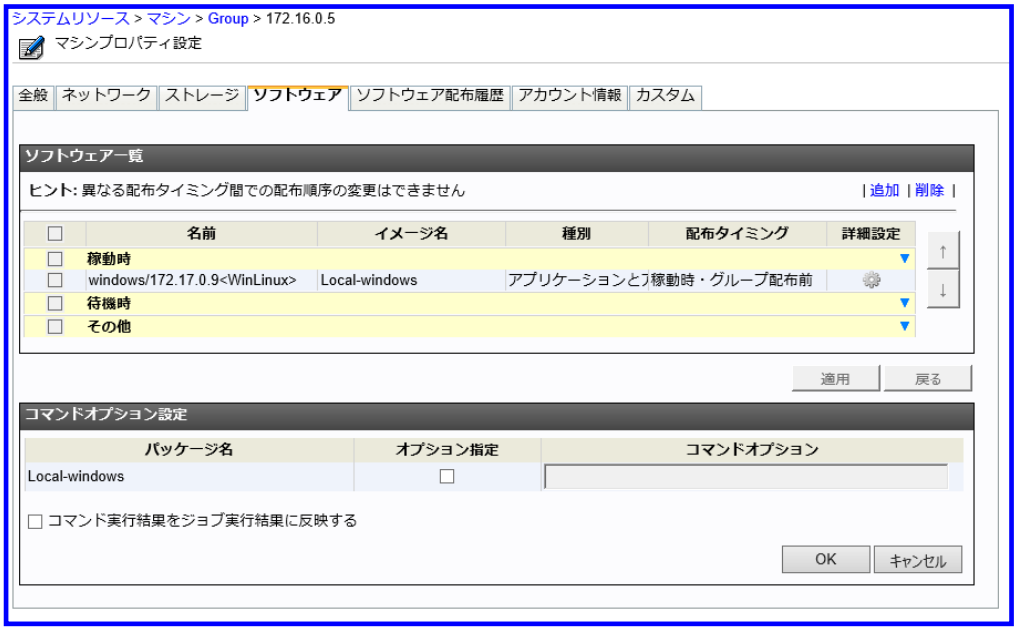


ソフトウェア追加

ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイルの中から選択できます。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを稼動時・グループ配布前 / 稼動時・グループ配布後 / 待機時・グループ配布前 / 待機時・グループ配布後 / 待機時・シャットダウン後 / (用途別) レプリカ作成時 / バックアップ実行時 / リストア実行時 / 起動実行時から選択します。
名前	ソフトウェア名を表示します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
[OK]	ソフトウェア追加情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ソフトウェア追加情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

[詳細設定] の編集アイコンをクリックすると、[ソフトウェア一覧] グループボックス下部に [コマンドオプション設定] グループボックス、[イメージ変更] グループボックス、もしくは [ファイル詳細設定] グループボックスが表示されます。

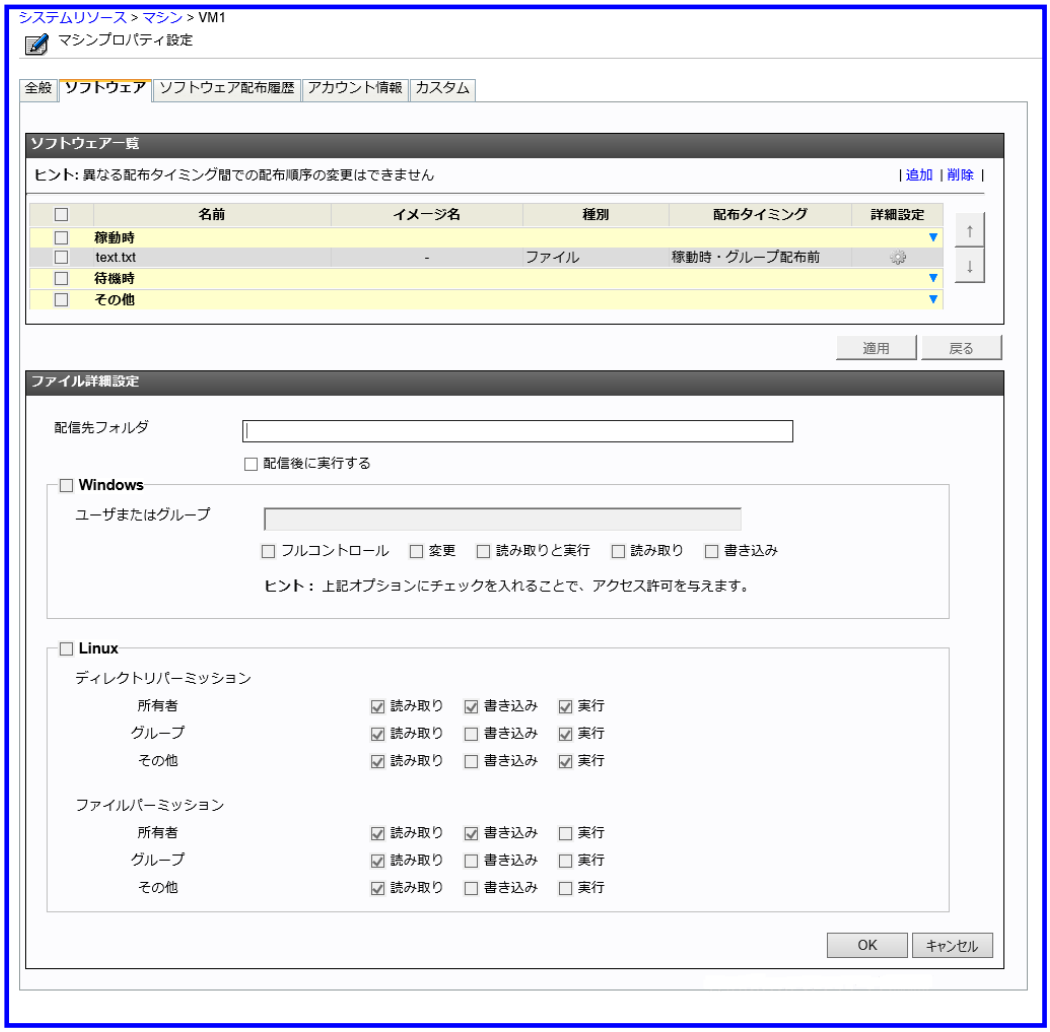
<コマンドオプション設定>



コマンドオプション設定	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。

オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。 コマンドオプションは、半角文字で128文字まで指定可能です。
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。
[OK]	コマンドオプション設定を保存し、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	コマンドオプション設定を保存せずに、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。

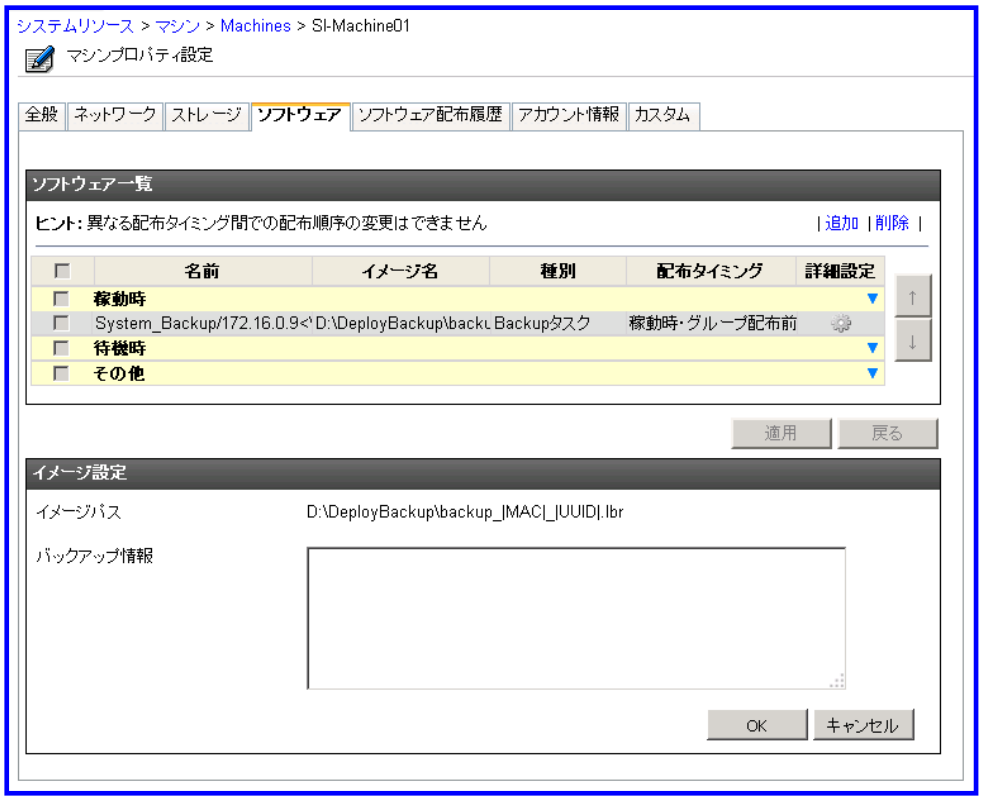
<ファイル詳細設定>



ファイル詳細設定	
配信先フォルダ	配信先フォルダを指定します。[配信先フォルダ] テキストボックスに何も入力されていない場合は、[ファイル詳細設定] の設定内容は保存されません。
配信後に実行する	ファイルを配信して実行する場合にチェックボックスをオンにします。VMwareの仮想マシンに配信する場合のみ有効です。
Windows	配信先がWindowsでファイルにアクセス許可を設定する場合にチェックボックスをオンにします。
ユーザまたはグループ	配信するファイルのアクセス許可を設定するユーザ、またはグループ名を入力します。
フルコントロール	配信するファイルにフルコントロールのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。フルコントロールのチェックボックスをオンにすると変更、読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
変更	配信するファイルに変更のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。変更のチェックボックスをオンにすると読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
読み取りと実行	配信するファイルに読み取りと実行のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。読み取りと実行のチェックボックスをオンにすると読み取りにもチェックが入ります。
読み取り	配信するファイルに読み取りのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
書き込み	配信するファイルに書き込みのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
Linux	配信先がLinuxでファイルや配信先のディレクトリのパーミッションを指定する場合にチェックボックスをオンにします。
ディレクトリパーミッション ※配信先フォルダのディレクトリのパーミッションを指定します (ディレクトリが既に存在する場合は、パーミッションは変更されません)。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
ファイルパーミッション ※配信するファイルのパーミッションを指定します。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。

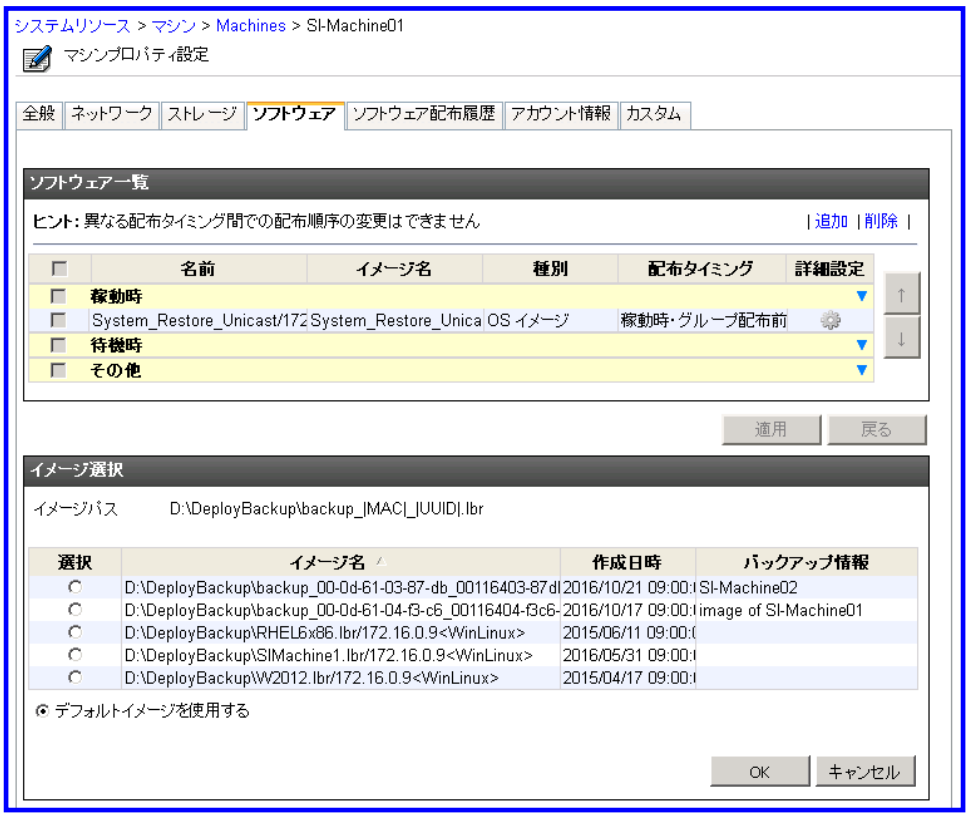
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
[OK]	ファイルの詳細設定を保存し、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	ファイルの詳細設定を保存せずに、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。

<バックアップ詳細設定>



イメージ設定	
イメージパス	シナリオに設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	バックアップ完了後に保存されるBackupイメージの「バックアップ情報」を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

<リストア詳細設定>



イメージ選択	
イメージパス	シナリオに設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 既定の [デフォルトイメージを使用する] 場合は、シナリオで既定されているイメージを使用します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージに設定されているバックアップ情報を表示します。
デフォルトイメージを使用する	既定の設定です。リストアシナリオに設定されているイメージを使用します。
[OK]	イメージ選択情報を保存し、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	イメージ選択情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

3.11.5. [ソフトウェア配布履歴] タブ

マシンに配布したソフトウェアの履歴情報を表示します。デフォルトでは、マシンに最新の OS イメージを配布した以降のソフトウェア配布履歴が一覧表示されます。[全履歴表示] をクリックすると、最新の OS イメージを配布する以前の履歴も含めて一覧表示されます。

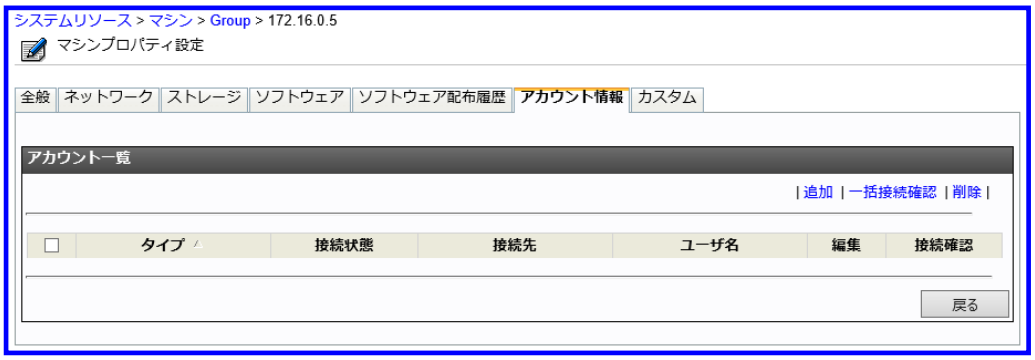
[全履歴表示] をクリックした後に、表示される [最新履歴表示] をクリックすると、最新の OS イメージを配布した以降のソフトウェア配布履歴の一覧表示に戻ります。

ソフトウェア配布履歴	
ソフトウェア種別	ソフトウェアの種類を、全て / OS イメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイル配信の中から選択します。
ソフトウェア	マシンに配布したソフトウェア名を表示します。
イメージ名	ソフトウェアのイメージ名を表示します。
世代	配布したソフトウェアのイメージの世代番号を表示します。
ソフトウェア種別	配布したソフトウェアの種別を表示します。
配信日時	ソフトウェアを配布した日時を表示します。
全履歴表示	最新のOSイメージを配布する以前の履歴も含めての一覧表示に切り替えます。
最新履歴表示	最新のOSイメージを配布した以降のソフトウェア配布履歴の履歴欄表示に切り替えます。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

関連情報: 最新の OS イメージを配布する以前の履歴を削除する場合は、ssc コマンドのソフトウェア配布履歴削除コマンド (ssc delete history) を使用して削除します。ソフトウェア配布履歴削除の詳細については、「ssc コマンドリファレンス」を参照して下さい。

3.11.6. [アカウント情報] タブ

マシンを Out-of-Band Management や In-Band で制御するためのアカウントの登録や削除、および登録したアカウントに関する情報の表示をします。



アカウント情報		
アカウント一覧		
	タイプ	アカウントのタイプ名を表示します。
	接続状態	最後にアカウントを利用して接続を試みた際の接続状態を表示します。
	接続先	アカウントの接続先を表示します。
	ユーザ名	マシンに接続する際のユーザ名を表示します。
	編集	アカウント情報を編集します。「アカウント編集」ウィンドウに遷移します。
	接続確認	アカウントに対し、接続が可能か否かのテストを行います。「アカウント接続確認」ウィンドウに遷移します。
	追加	アカウントを新規に登録します。「アカウント追加」ウィンドウに遷移します。
	一括接続確認	選択したすべてのアカウントに対し、接続が可能か否かのテストを行います。接続確認では接続失敗も含めすべての接続結果が登録されます。
	削除	選択したすべてのアカウントの登録を削除します。
	[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

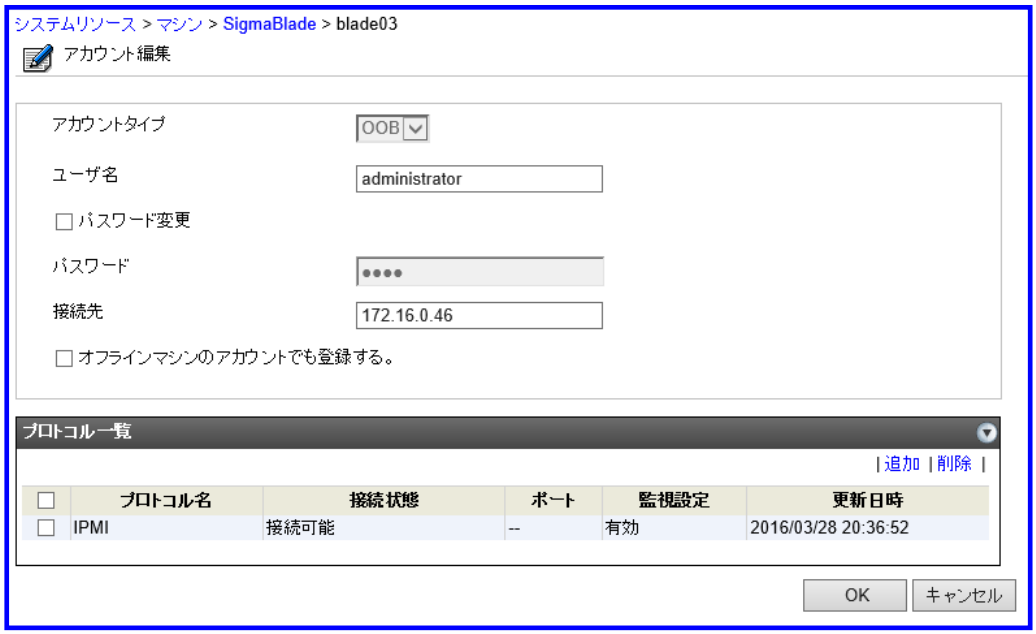
追加をクリックすると、「アカウント追加」ウィンドウに遷移します。

アカウント追加		
	アカウントタイプ	登録するアカウントタイプを選択します。指定可能なタイプはOOB (Out-of-Band Management) と IB (In-Band) です。
	ユーザ名	マシンに接続する際のユーザ名を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	パスワード	マシンに接続する際のパスワードを入力します。
	接続先	アカウントの接続先となるマシンのホスト名、もしくはIPアドレスを入力します。アカウントタイプが "OOB" の場合に入力できます。
	オフラインマシンのアカウントでも登録する	アカウント登録時に接続先として指定したマシンとの接続が確立できなかった場合でも、アカウントを登録したい場合はチェックボックスをオンにします。
	プロトコル一覧	
	プロトコル名	アカウントで接続に利用しているプロトコル名を表示します。
	接続状態	最後にプロトコルを利用して接続を試みた際の接続状態を表示します。
	ポート	プロトコルで利用しているポート番号を表示します。
	監視設定	プロトコル名がOsAuthの場合は、"ー" が表示されます。
	更新日時	プロトコルの接続状態が変更された最終更新日時を表示します。
	追加	アカウントで利用するプロトコルを追加します。[プロトコル一覧] グループボックスの下部に [追加プロトコル一覧] グループボックスが表示されます。
	削除	選択したすべてのプロトコルをアカウントから削除します。

[OK]	アカウント情報、プロトコル情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。指定したアカウント情報でマシンに対し接続を試み、接続が成功した場合にのみ登録を行います。ただし、[オフラインのアカウントでも登録する] チェックボックスがオンの場合、マシンの応答がない場合も登録を行います。
[キャンセル]	アカウント登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

プロトコル追加	
プロトコル名	アカウントで接続に利用するプロトコル名を表示します。
ポート	プロトコルで利用しているポート番号を表示します。
監視を有効にする	BMC死活監視を利用する場合は、チェックボックスをオンにします。
[OK]	プロトコル追加情報を保存し、[プロトコル一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	プロトコル追加情報を保存せずに、[プロトコル追加] グループボックスを閉じます。

[アカウント一覧] グループボックスの [編集] をクリックすると、「アカウント編集」ウィンドウに遷移します。



アカウント編集		
	アカウントタイプ	アカウントタイプを表示します。変更はできません。
	ユーザ名	マシンに接続する際のユーザ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	パスワード変更	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
	パスワード	マシンに接続する際のパスワードを表示し、編集もできます。
	接続先	アカウントの接続先となるマシンのホスト名、もしくはIPアドレスを表示し、編集もできます。アカウントタイプが "OOB" の場合に入力できます。
	オフラインマシンのアカウントでも登録する	アカウント登録時に接続先として指定したマシンとの接続が確立できなかった場合でも、アカウントを登録したい場合はチェックボックスをオンにします。
	プロトコル一覧	
		プロトコル名	アカウントで接続に利用しているプロトコル名を表示します。
		接続状態	最後にプロトコルを利用して接続を試みた際の接続状態を表示します。
		ポート	プロトコルで利用しているポート番号を表示します。
		監視設定	BMC死活監視の監視設定を表示します。 プロトコル名がOsAuthの場合は、"ー" が表示されます。

	更新日時	プロトコルの接続状態が変更された最終更新日時を表示します。
	追加	アカウントで利用するプロトコルを追加します。[プロトコル一覧] グループボックスの下部に [追加プロトコル一覧] グループボックスが表示されます。
	削除	選択したすべてのプロトコルをアカウントから削除します。
[OK]		アカウント、プロトコルの編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。指定したアカウント情報でマシンに対し接続を試み、接続が成功した場合にのみ登録を行います。ただし、[オフラインのアカウントでも登録する] チェックボックスがオンの場合、マシンの応答がない場合も登録を行います。
[キャンセル]		アカウントの編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[接続確認] をクリックすると、「接続確認」ウィンドウに遷移します。

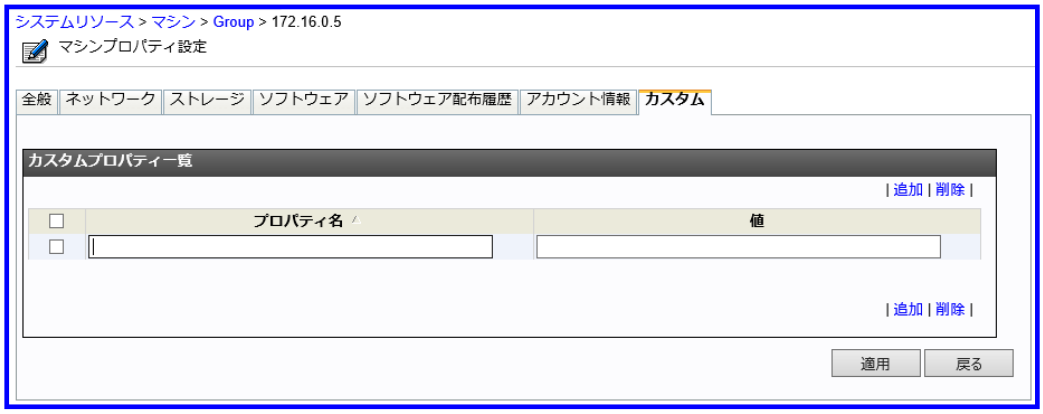
接続確認	
アカウントタイプ	アカウントタイプを表示します。変更はできません。
ユーザ名	マシンに接続する際のユーザ名を表示します。編集はできません。
パスワード	マシンに接続する際のパスワードを表示します。編集はできません。
接続先	アカウントの接続先となるマシンのホスト名、もしくはIPアドレスを表示します。編集はできません。
オフラインマシンのアカウントでも登録する	接続確認では、変更はできません。

	アカウント編集画面へ遷移する	「アカウント編集」ウィンドウに遷移します。
プロトコル一覧		
	プロトコル名	アカウントで接続に利用しているプロトコル名を表示します。
	接続状態	最後にプロトコルを利用して接続を試みた際の接続状態を表示します。
	ポート	プロトコルで利用しているポート番号を表示します。
	監視設定	BMC死活監視の監視設定を表示します。 プロトコル名がOsAuthの場合は、"ー" が表示されます。
	更新日時	プロトコルの接続状態が変更された最終更新日時を表示します。
[OK]		指定したアカウントとプロトコル情報を利用して接続確認を行います。接続確認では接続失敗も含めすべての接続結果が登録されます。
[キャンセル]		接続確認を行わず、元のウィンドウに戻ります。

注: 使用するポートを変更することができないプロトコルについては、ポートを「--」で表示します。IPMI プロトコルは、ポートを「--」で表示していますが、実際には空いている UDP ポートを利用し、BMC が待ち受けている 623 / UDP と通信します。

3.11.7. [カスタム] タブ

カスタムプロパティの表示、および設定を行います。



カスタムプロパティ一覧		
	プロパティ名	プロパティ名を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。 「PVM_」、および数字で始まる文字列は指定できません。

	値	値を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。
	追加	カスタムプロパティを設定する欄を追加します。
	削除	選択したカスタムプロパティを [カスタムプロパティ一覧] グループボックスから削除します。
[適用]		カスタムプロパティを適用します。
[戻る]		カスタムプロパティを適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.12. コンソール

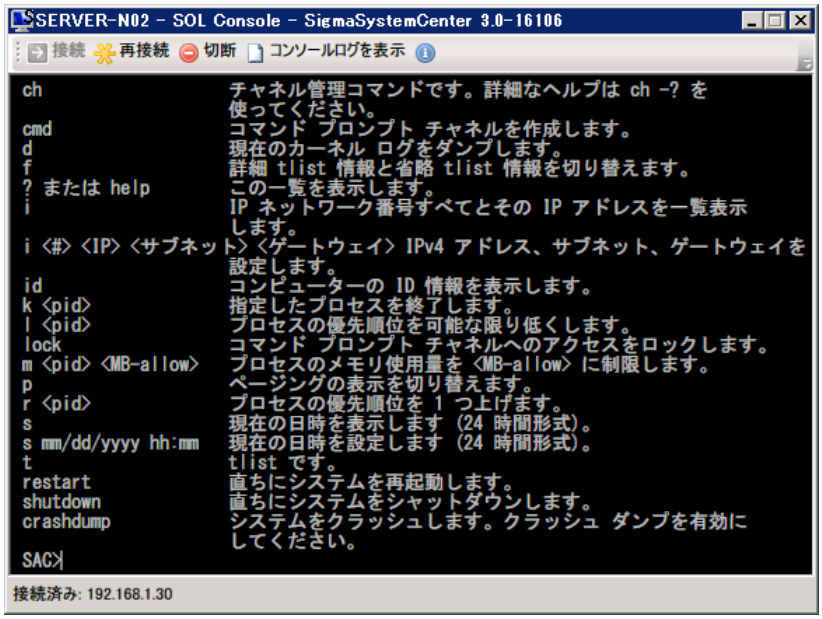
管理対象マシンのコンソールに接続し、コンソール画面を表示します。

- ◆ 物理マシンの場合 (「3.12.1 物理マシンの場合」を参照)
- ◆ 仮想マシンの場合 (「3.12.2 仮想マシンの場合」を参照)

3.12.1. 物理マシンの場合

管理対象マシンが物理マシンの場合、管理対象マシンのシリアルコンソールに接続して、シリアルコンソール画面を表示します。

[システムリソース] ツリーからコンソール接続するマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [コンソール] をクリックすると、コンソールの起動ダイアログが表示され、その後、コンソールアプリケーションが起動します。



ツールバー	
接続	管理対象マシンに接続します。
再接続	管理対象マシンに再接続します。 管理対象マシンに接続中の場合には、いったん切断してから管理対象マシンに接続します。
切断	管理対象マシンとの接続を切断します。
コンソールログを表示	コンソールに表示された文字列のログを表示します。
(バージョン情報を表示)	バージョン情報やログファイルを表示します。
ステータスバー	接続状態やエラーメッセージを表示します。

3.12.2. 仮想マシンの場合

管理対象マシンが仮想マシンの場合、起動するコンソールは [仮想] ビューで起動するコンソールと同一となります。詳細については、仮想環境ごとに以下を参照してください。

- ◆ VMware の場合 (「5.13.1 VMware の場合」参照)
- ◆ XenServer・KVM の場合 (「5.13.2 XenServer・KVM の場合」参照)
- ◆ Hyper-V の場合 (「5.13.3 Hyper-V の場合」参照)

3.13. IPMI 情報

管理対象マシンから IPMI 情報を取得して表示します。

[システムリソース] ツリーから IPMI 情報を参照するマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [IPMI 情報] をクリックすると、メインウィンドウに [SEL] タブ、[センサー] タブで構成された「マシン IPMI 情報」ウィンドウが表示されます。

ただし、マシンの種別が仮想マシンの場合、[設定] メニューに [IPMI 情報] は表示されません。

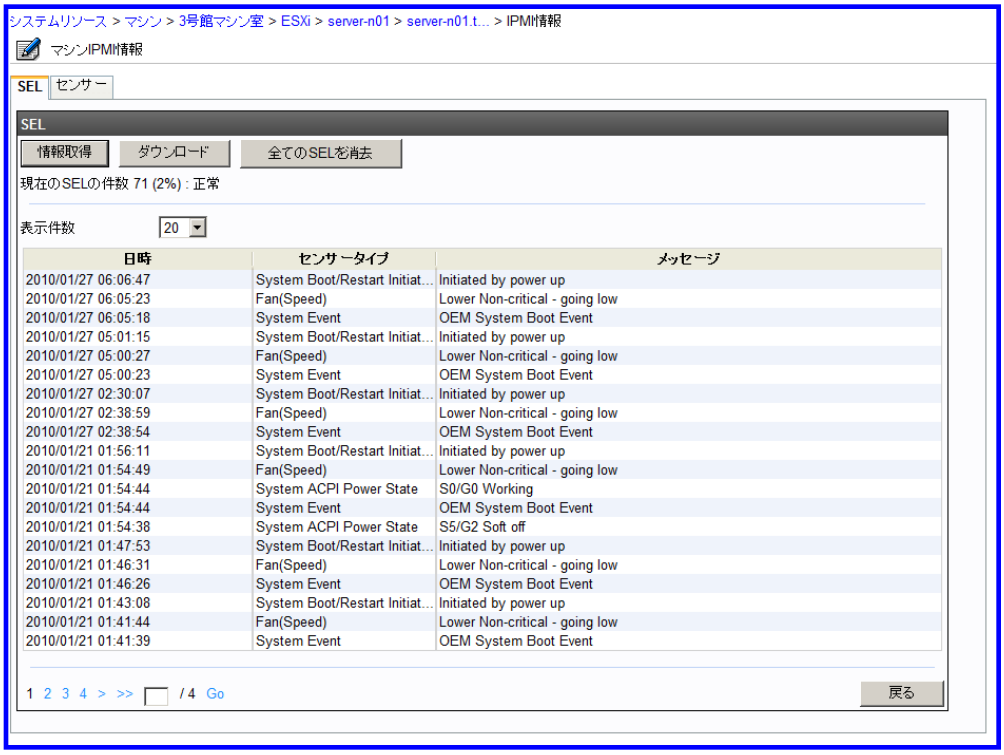
注: IPMI 情報を取得するためには、選択したマシンの詳細情報の Out-of-Band Management 接続情報の [接続状態] が "接続可能" と表示されるように環境を整えてください。

3.13.1. [SEL] タブ

管理対象マシンに記録されているハードウェアの System Event Log (SEL) を表示、取得、操作することができます。

◆ [情報取得]

管理対象マシンに記録されている SEL を全件取得して、ウィンドウに表示します。このボタンをクリックすると、以下のような SEL の一覧表が表示されます。

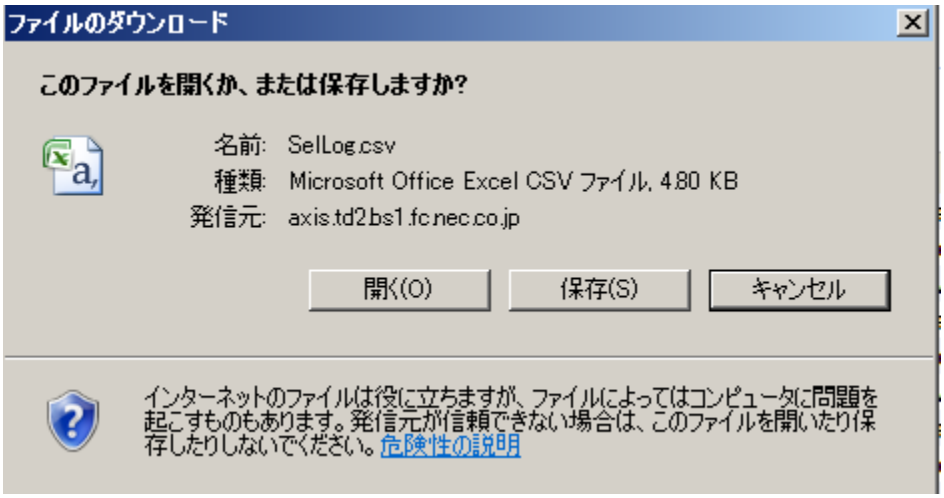


SEL	
現在の SEL 件数	管理対象マシンに記録されているSELの件数と、SELを保存する領域の使用率を表示します。 使用率が100%に達するとマシン起動処理が一時中断される場合がありますので、100%になる前に消去することをお勧めします。
日時	イベントが記録された日時を表示します。
センサータイプ	イベントを記録したセンサーの種類を表示します。
メッセージ	イベントの内容を表示します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

◆ [ダウンロード]

管理対象マシンからSELを全件取得し、csvファイルとしてダウンロードします。

このボタンをクリックすると下のウィンドウが表示されますので、csv ファイルを直接開いたり、保存したりすることができます。



◆ [全ての SEL を削除]

管理対象マシンに記録されている SEL を全件消去します。

消去された SEL は元に戻すことができませんので、注意してください。

注: [全ての SEL を削除] の操作結果は、[監視] ツリー [ジョブ] から確認することができます。

3.13.2. [センサー] タブ

管理対象マシンが実装しているハードウェアセンサーの情報を表示します。

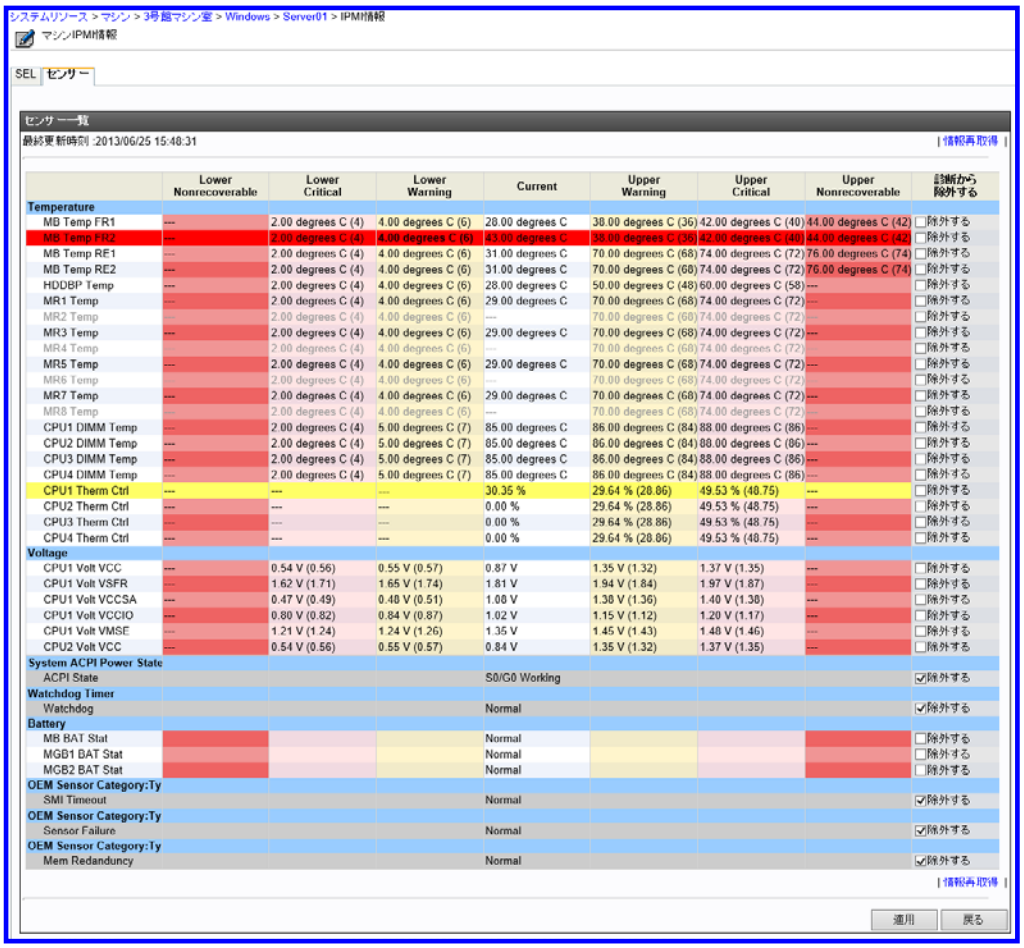
[センサー一覧] グループボックスでは、センサーから取得した値やセンサーの状態を見ることができます。また、各センサーをセンサー診断の対象とする / しないを設定することもできます。

センサー診断は、センサーから取得した値によってマシンが危険な状態にあるかを診断する機能です。

[センサー一覧] グループボックスでは、以下のウィンドウのように危険な状態にあるセンサーの行は赤色、注意が必要な状態にあるセンサーの行は黄色で表示されます。

また、このような赤色や黄色の行で表示されるセンサーを持つマシンは、[システムリソース] ツリーの Sensor Alert スマートグループを選択したときにマシン一覧に表示されます。

ポリシーアクションの "センサー診断、故障ステータス設定" では、センサー診断を行い、その結果から故障ステータスを設定するか判断します。



センサー一覧	
最終更新時刻:	最後にセンサー情報を取得した日時を表示します。 センサー一覧に表示される情報は、この時刻の情報になりますので、現在の情報と異なる可能性があります。 最新の情報を表示する場合には、[情報再取得] をクリックして情報の更新をしてください。
(センサー名)	センサーのカテゴリごとに、センサー名を列挙しています。
Lower-Nonrecoverable	下限復旧不能値の閾値です。 この値をCurrentの値が下回ると、管理対象マシンから、復旧不能状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、この値に近づくと、その列全体が赤色になり、マシンが危険な状態であることを示します。 この状態が発生した場合、直ちに運用を停止し、サポート窓口に連絡してください。
Lower-Critical	下限危険値の閾値です。 この値をCurrentの値が下回ると、管理対象マシンから、危険な状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、この値に近づくと、その列全体が赤色になり、マシンが危険な状態であることを示します。 この状態が発生した場合、直ちに運用を停止し、サポート窓口に連絡してください。

	閾値の後ろに括弧つきの数字が表示される場合があります。この値は、危険状態回復値を示し、Current値がこの値を上回ると危険域を脱して警告状態となります。
Lower-Warning	下限警告値の閾値です。 この値をCurrentの値が下回ると、管理対象マシンから、警告状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、その列全体が黄色になり、マシンに注意が必要な状態であることを示します。 閾値の後ろに括弧つきの数値が表示される場合があります。この値は、警告状態回復値を示し、Current値がこの値を上回ると警告域を脱して正常状態となります。
Current	最終更新時刻にセンサーから取得した値です。 該当するマシンが電源オフ状態の場合、Currentの値を取得できないセンサーがあります。また、電源オン状態でも部品が実装されていないなどの理由で、Currentの値を取得できないセンサーがあります。この場合、「--」を表示します。
Upper-Warning	上限警告値の閾値です。 この値をCurrentの値が上回ると、管理対象マシンから警告状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、その列全体が黄色になり、マシンに注意が必要な状態であることを示します。 閾値の後ろに括弧つきの数値が表示される場合があります。この値は、警告状態回復値を示し、Current値がこの値を下回ると、警告域を脱して正常状態となります。
Upper-Critical	上限危険値の閾値です。 この値をCurrentの値が上回ると、管理対象マシンから、危険な状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、この値に近づくと、その列全体が赤色になり、マシンが危険な状態であることを示します。 この状態が発生した場合、直ちに運用を停止し、サポート窓口に連絡してください。 閾値の後ろに括弧つきの数値が表示される場合があります。この値は、危険状態回復値を示し、Current値がこの値を下回ると、危険域を脱して警告状態となります。
Upper-Nonrecoverable	上限復旧不能値の閾値です。 この値をCurrentの値が上回ると、管理対象マシンから復旧不能状態であることを示すイベント (PET) が送信されます。また、この値に近づくと、その列全体が赤色になり、マシンが危険な状態であることを示します。 この状態が発生した場合、直ちに運用を停止し、サポート窓口に連絡してください。
診断から除外する	センサー診断から除外する / しないを設定することができます。センサー診断から除外する場合は、チェックボックスをオンにします。センサー診断から除外されたセンサーの行は濃い灰色で表示されます。センサー診断から除外されたセンサーで異常が発生した場合、既定のスマートグループのSensor Alertに検出されなくなります。また、ポリシーアクションの "センサー診断、故障ステータス設定" においても異常を検出しなくなります。 なお、不要な警告を避けるため、重要性の低いセンサーはセンサー診断から除外することを初期値としています。

情報再取得	管理対象マシンのセンサー情報を取得し、画面を更新します。管理対象マシンの負荷状況、およびネットワークの状況によっては時間がかかる可能性があります。
[適用]	センサー診断の設定変更情報を保存します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

注:

・ センサーの各種情報は構成情報データベースを保持しています。各センサーの Current の値は、情報再取得を実行すると更新されます。また、Current の値の更新を行うその他の操作として以下があります。

- ポリシーアクションの "センサー診断、故障ステータス設定" を実行したとき
- ポリシーアクションの "総合回復診断、ステータス設定・正常" を実行したとき
- [システムリソース] ツリーのグループ選択時の収集 (ALL)、または、センサー収集を実行したとき
- ssc コマンド collect group、および collect machine を-target sensor オプションで実行したとき
- ハードウェアの状態詳細 (個別ステータス) 画面の「総合診断」を実行したとき

・ センサーに警告や異常があるマシンは、[システムリソース] ツリーの Sensor Alert スマートグループで検出することができます。しかし、Sensor Alert スマートグループに異常状態として検出されたマシンに対し、[情報再取得] を行うと、操作実行したときのセンサーの状態で情報を更新するため、マシンの状態 (電源オフ状態など) によっては、Sensor Alert スマートグループで検出できなくなることがあります。ただし、ポリシーアクションの "センサー診断、故障ステータス設定" を契機にセンサー異常を検出したマシンは、ハードウェアステータスが故障に設定されますので、前述の操作を行った場合でも、異常が発生したマシンであることを、[システムリソース] ツリーの Having Problems スマートグループで検出することができます。

・ 情報再取得を実行した結果、最終更新時刻が更新されない場合があります。

このとき以下のことを確認してください。

- 管理対象マシンの BMC に接続が失敗した可能性があります。
- Out-of-Band Management 接続情報の接続状態が接続可能になっているか確認してください。
- アカウント情報が登録されていない可能性があります。
- Out-of-Band Management 接続情報に情報が登録されているか確認し、登録されていない場合にはアカウントの登録を行ってください。

・ アカウント情報を削除しても、センサー一覧には最後に取得した情報を保存しています。

3.14. 保守操作を表示

マシンの電源 ON / 強制 OFF / リセット / パワーサイクル / ダンプ / LED 点灯 / LED 消灯 / ACPI シャットダウンを行います。

この操作は、マシンの保守操作が可能になっている場合、[操作] メニューに表示されます。保守操作については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「1.2.4 保守操作」を参照してください。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [電源 ON]、[強制 OFF]、[リセット]、[パワーサイクル]、[ダンプ]、[LED 点灯]、[LED 消灯]、[ACPI シャットダウン] のいずれかをクリックすると、マシンを操作することができます。

注:

・ 強制 OFF、リセット、パワーサイクル、およびダンプは、マシン上の処理状態に関係なく、強制的にマシンを終了させます。データ破壊などのシステムへの影響が発生する可能性があることを認識したうえで使用してください。

・ この操作を実行するためには、あらかじめマシンの Out-of-Band Management を有効にしておく必要があります。

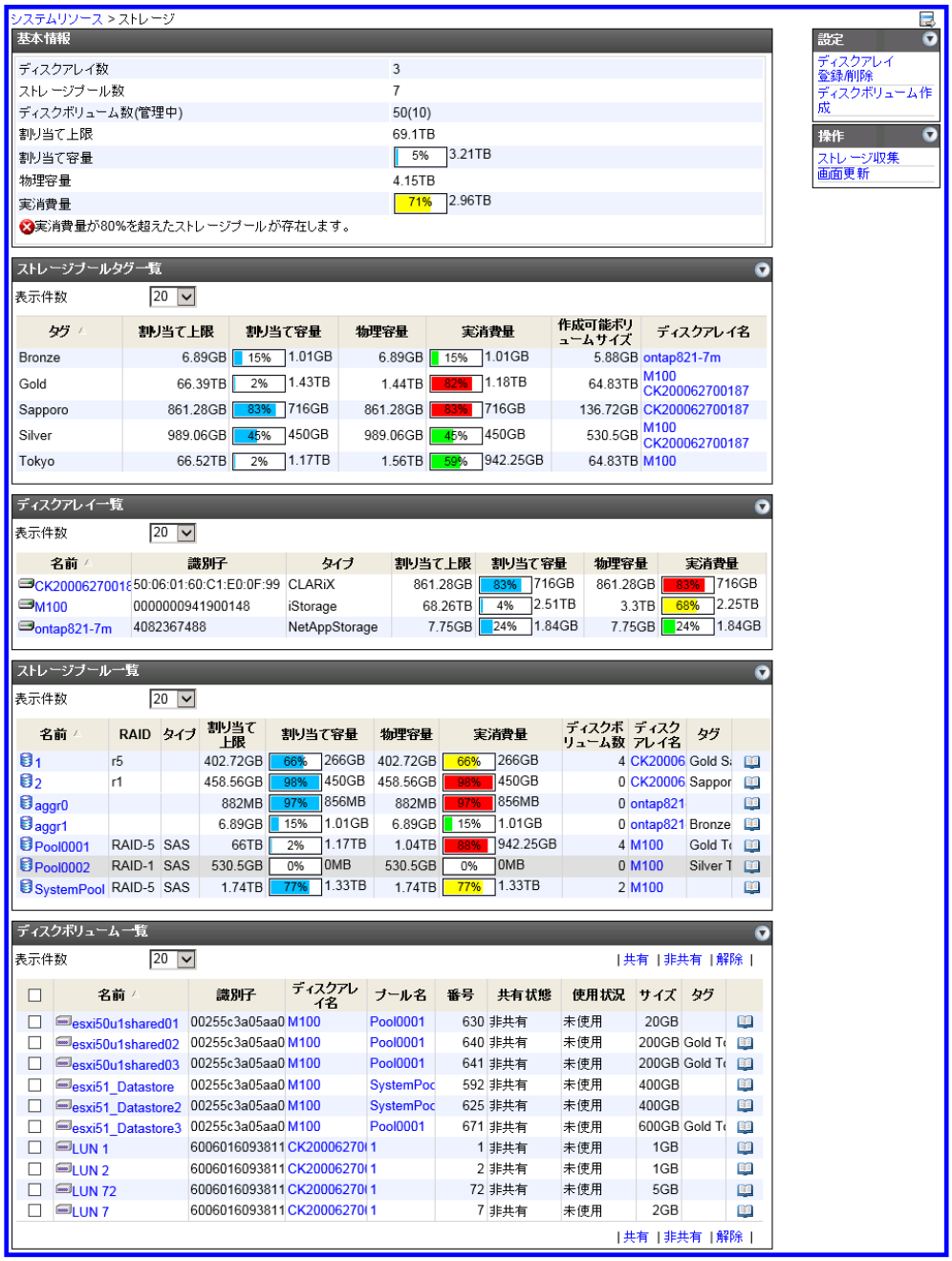
・ この操作を実行する前に対象のマシンをメンテナンスモードに切り替える必要があります。メンテナンスモードを切り替えずに操作を行った場合、ポリシー動作との競合を防ぐために対象のマシンへの制御は行われずに操作失敗となります。

システムリソース > マシン > SigmaBlade > esxi50u1san1...
全般
トポロジ
基本情報
名前 esxi50u1san1.ssc.local
UUID 30381C00-D797-11DD-3F1D-001697A7FFA0
MACアドレス 00:16:97:A7:FF:A0
モデル名 Express5800/B120a [N8400-082]
種別 LogicalMachine,VMware,VM Server
ベンダーID
物理マシン名 blade02
構成ファイル ESXi50u1_Config1
スロット番号 0
タグ
格納場所 172.16.0.40/2
ユニット名
DPMパス /SystemProvisioning/
説明
マシンステータス情報
サマリステータス 正常
電源状態 On (2016/03/01 03:25:20)
稼動ステータス On
OSステータス On
ハードウェアステータス 正常 (状態詳細)
実行ステータス -
ポリシー状態 全て有効
管理状態 管理中
メンテナンスステータス Off
ハードウェア情報
CPU種別 Intel(R) Xeon(R) CPU E5504 @ 2.00GHz
プロセッサ 4 (1 Socket) x 2.0GHz
メモリサイズ 18423MB
アカウント
タイプ
ユーザ
接続先
接続状態
更新日時
運用情報
稼動グループ operations:/vio-sanboot/esxi50
ホスト名 esxi50u1san1
OS名 VMware ESXi 5.0.0 Build-623860
グループプール
仮想パス virtual:/172.16.0.71/datacenter1/esxi50u1san1.ssc.local
起動時間 6 日 23 時間 36 分
起動累積時間 10 日 22 時間 20 分
作成日時
サービス開始日時
サービス終了日時
インストール済みソフトウェア
サービス
サービス名
起動の種類
マシン起動時に起動を待つ
編集
設定
マシン移動
管理外
プロパティ
コンソール
IPMI情報
運用ログ
ジョブ
保守操作を隠す
権限設定
操作
起動
再起動
シャットダウン
マシン収集
再構成
電源ON
強制OFF
リセット
パワーサイクル
ダンプ
LED点灯
LED消灯
ACPIシャットダウン
指定ソフトウェア配布
ジョブ実行結果のリセット
故障状態の解除
メンテナンスオン
画面更新

3.15. ストレージ

ストレージの管理を行います。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックすると、ストレージの総合的な情報が表示されます。



基本情報	
ディスクアレイ数	管理中ディスクアレイ数を表示します。

ストレージプール数	管理中ディスクアレイ全体のストレージプール数を表示します。
ディスクボリューム数 (管理中)	管理中ディスクアレイ全体のディスクボリューム数を表示します。カッコ内に管理中のディスクボリューム数を表示します。
割り当て上限	管理中ディスクアレイ全体の割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	管理中ディスクアレイ全体の割り当て容量の合計値を表示します。また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	管理中ディスクアレイ全体の物理容量の合計値を表示します。
実消費量	管理中ディスクアレイ全体の実消費量の合計値を表示します。また、消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 : 消費状況が60%未満 黄 : 消費状況が60～80% 赤 : 消費状況が80%以上
ストレージプールタグ一覧	
タグ	管理中ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグを表示します。
割り当て上限	管理中ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	管理中ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した割り当て容量の合計値を表示します。 また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	管理中ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した物理容量の合計値を表示します。
実消費量	管理中ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した実消費量の合計値を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 : 消費状況が60%未満 黄 : 消費状況が60～80%未満 赤 : 消費状況が80%以上
作成可能ボリュームサイズ	対象のタグを持ったストレージプールの中で最大の空き容量を表示します。
ディスクアレイ名	各タグを設定したストレージプールが存在する管理中ディスクアレイの名前を列挙します。 各ディスクアレイ名をクリックすることで、選択したディスクアレイの詳細情報へ遷移します。

ディスクアレイ一覧	
名前	ディスクアレイ名を表示します。ディスクアレイ名をクリックすると、ディスクアレイの詳細情報へ遷移します。
識別子	ディスクアレイの識別子を表示します。
タイプ	ディスクアレイのタイプを表示します。
割り当て上限	ディスクアレイ配下のストレージプールの割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	ディスクアレイ配下のストレージプールの割り当て容量の合計値を表示します。また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	ディスクアレイ配下のストレージプールの物理容量の合計値を表示します。
実消費量	ディスクアレイ配下のストレージプールの実消費量の合計値を表示します。また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 ： 消費状況が60%未満 黄 ： 消費状況が60～80% 赤 ： 消費状況が80%以上

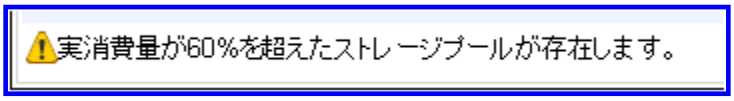
ストレージプール一覧	
名前	ストレージプール名を表示します。クリックすると、ストレージプールの詳細情報へ遷移します。
RAID	ストレージプールのRAIDタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。
タイプ	ストレージプールを構成する物理ディスクのタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。
割り当て上限	ストレージプールの割り当て上限を表示します。
割り当て容量	ストレージプールの割り当て容量を表示します。 また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	ストレージプールの物理容量を表示します。
実消費量	ストレージプールの実消費量を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 ： 消費状況が60%未満 黄 ： 消費状況が60～80%未満 赤 ： 消費状況が80%以上

	ディスクボリューム数	ストレージプールに存在する管理中のディスクボリューム数を表示します。
	ディスクアレイ名	ストレージプールが配置されているディスクアレイの名称を表示します。ディスクアレイ名をクリックすると、ディスクアレイの詳細情報へ遷移します。
	タグ	ストレージプールのタグを表示します。
	編集	ストレージプールの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ストレージプール編集」ウィンドウに遷移します。「3.15.3 ストレージプール編集」を参照してください。
ディスクボリューム一覧		
	名前	ディスクボリューム名を表示します。ディスクボリューム名をクリックすると、ディスクボリュームの詳細情報へ遷移します。
	識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
	ディスクアレイ名	ディスクボリュームが配置されているディスクアレイの名称を表示します。ディスクアレイ名をクリックすると、ディスクアレイの詳細情報へ遷移します。
	プール名	ディスクボリュームが配置されているストレージプールの名称を表示します。クリックすると、ストレージプールの詳細情報に遷移します。
	番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
	共有状態	共有 / 非共有状態を表示します。
	使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
	サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
	タグ	ディスクボリュームのタグを表示します。
	編集	ディスクボリュームの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ディスクボリューム編集」ウィンドウに遷移します。 「3.17.3 ディスクボリューム編集」を参照してください。
	共有	選択したディスクボリュームを共有にします。
	非共有	選択したディスクボリュームを非共有にします。
	解除	選択したディスクボリュームの登録を解除します。

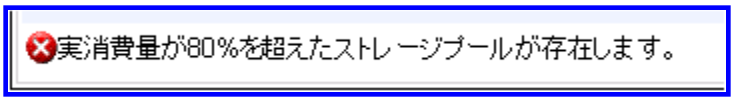
3.15.1. ストレージプールの容量警告

ストレージプールの消費状況 (実消費量 / 物理容量) が一定を超えると、基本情報の最下段に以下のメッセージを表示します。

◆ 使用率が 60%を超えた場合



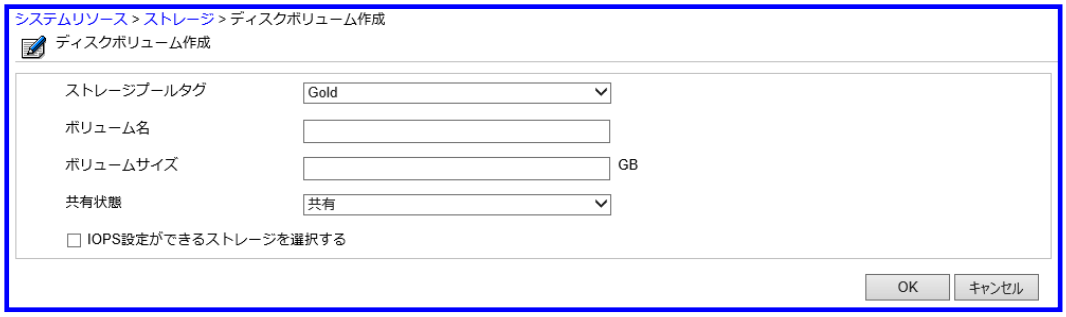
◆ 使用率が 80%を超えた場合



3.15.2. ディスクボリューム作成

ディスクボリュームを作成します。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクボリューム作成] をクリックし、メインウィンドウに「ディスクボリューム作成」を表示します。ディスクボリュームの追加情報を入力し、[OK] をクリックします。



ディスクボリューム作成	
ストレージプールタグ **(入力必須)**	ストレージプールに設定したタグを指定します。 "直接指定" を選択することで、ストレージプールタグの手入力や複数タグの指定ができます。また、複数のストレージプールタグを指定する場合は、スペース区切りで指定します。 作成先となるディスクアレイ、およびストレージプールは、ストレージプールタグの指定に基づいて自動で選択されます。
ボリューム名 **(入力必須)**	作成するディスクボリュームの名称を入力します。
ボリュームサイズ **(入力必須)**	作成するディスクボリュームのサイズを入力します。

	共有状態	作成するディスクボリュームの共有状態を選択します。
	IOPS 設定ができるストレージを選択する	チェックボックスをオンにすることで、IOPS上限制御・下限制御のいずれかが有効となっているストレージプールを選定し、ディスクボリュームを作成します。
[OK]		ディスクボリューム作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ディスクボリューム作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

・ ディスクボリューム名に設定可能な最大サイズは、ストレージ装置ごとに異なるため、自動選択したディスクアレイで許容されないディスクボリューム名を指定している場合、ディスクボリューム作成に失敗する可能性があります。

・ IOPS 制御機能が有効になった iStorage が存在しない場合、[IOPS 設定ができるストレージを選択する] チェックボックスをオンにすると、ディスクボリューム作成に失敗します。

関連情報:

・ ストレージプールタグを指定してディスクボリュームを作成する方式については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.3 ディスクボリューム作成・削除」を参照してください。

・ ディスクアレイ、またはストレージプールを指定して、ディスクボリュームを作成する場合は、「3.17.1 ディスクボリューム作成」を参照してください。

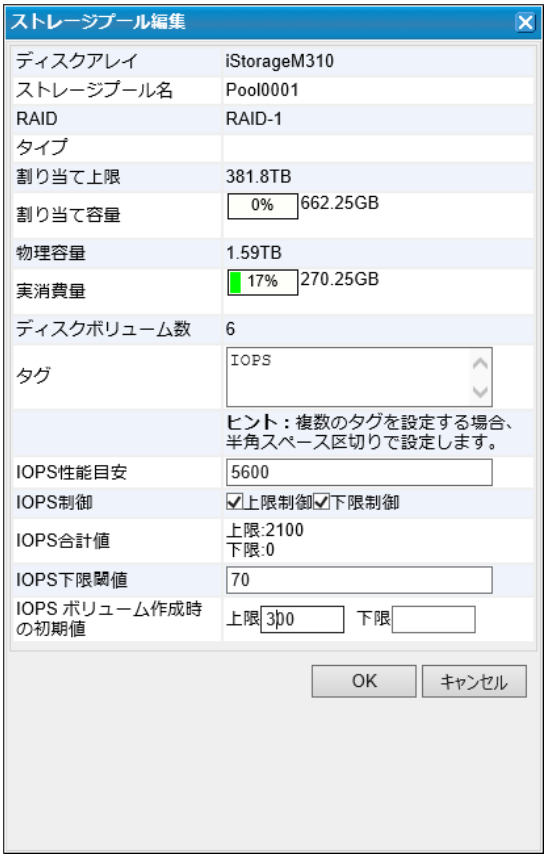
・ 各ストレージ装置に対して設定可能なディスクボリューム名の最大サイズについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.3 ディスクボリューム作成・削除」を参照してください。

・ SigmaSystemCenter の IOPS 制御機能の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.10 IOPS 制御」を参照してください。

3.15.3. ストレージプール編集

ストレージプールを編集します。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。対象のストレージプールの [編集] をクリックすると、「ストレージプール編集」ダイアログボックスを表示されます。対象のストレージプールのタグを入力し、[OK] をクリックします。



ストレージプール編集	
ディスクアレイ	ディスクアレイ名を表示します。
ストレージプール名	ストレージプール名を表示します。
RAID	ストレージプールのRAIDタイプを表示します。
タイプ	ストレージプールを構成する物理ディスクのタイプを表示します。
割り当て上限	割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	割り当て容量の合計値を表示します。
物理容量	物理容量の合計値を表示します。
実消費量	実消費量の合計値を表示します。
ディスクボリューム数	ストレージプールに存在する管理中のディスクボリューム数を表示します。
タグ	ストレージプールのタグを入力します。入力できる文字数は、1200文字以内です。 複数のタグを設定する場合、半角スペース区切りで設定します。
IOPS 性能目安 ※1	ストレージプールのI/O性能を目安として設定します。
IOPS 制御 ※1	ストレージプールのIOPS制御の有効 / 無効を設定します。

	上限制御 ※1	IOPS上限値制御の有効 / 無効を設定します。有効の場合はチェックボックスをオンにします。
	下限制御 ※1	IOPS下限値制御の有効 / 無効を設定します。有効の場合はチェックボックスをオンにします。
IOPS 合計値 ※ 1		ストレージプール配下の論理ディスクに設定されているIOPS値の合計を表示します。
IOPS 下限閾値 ※1		IOPS下限閾値を0から100の範囲で設定します。 ストレージプールのBusy率で、I/O下限値制御を行う閾値のことをIOPS下限閾値と呼びます。 設定したIOPS下限閾値よりもプールのBusy率が高い場合、下限値制御を行います。
IOPS ボリューム作成時の初期値 ※1		論理ディスク作成時のI/O上限値、下限値の初期値を10から1000000の範囲で設定します。 空を設定することで、上限値または下限値を削除することができます。
[OK]		ストレージプール編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ストレージ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 iStorageのIOPS制御機能が有効な場合に表示されます。

関連情報: SigmaSystemCenter の IOPS 制御機能の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド　概要編」の「6.6.10 IOPS 制御」を参照してください。

3.16. ディスクアレイの詳細情報

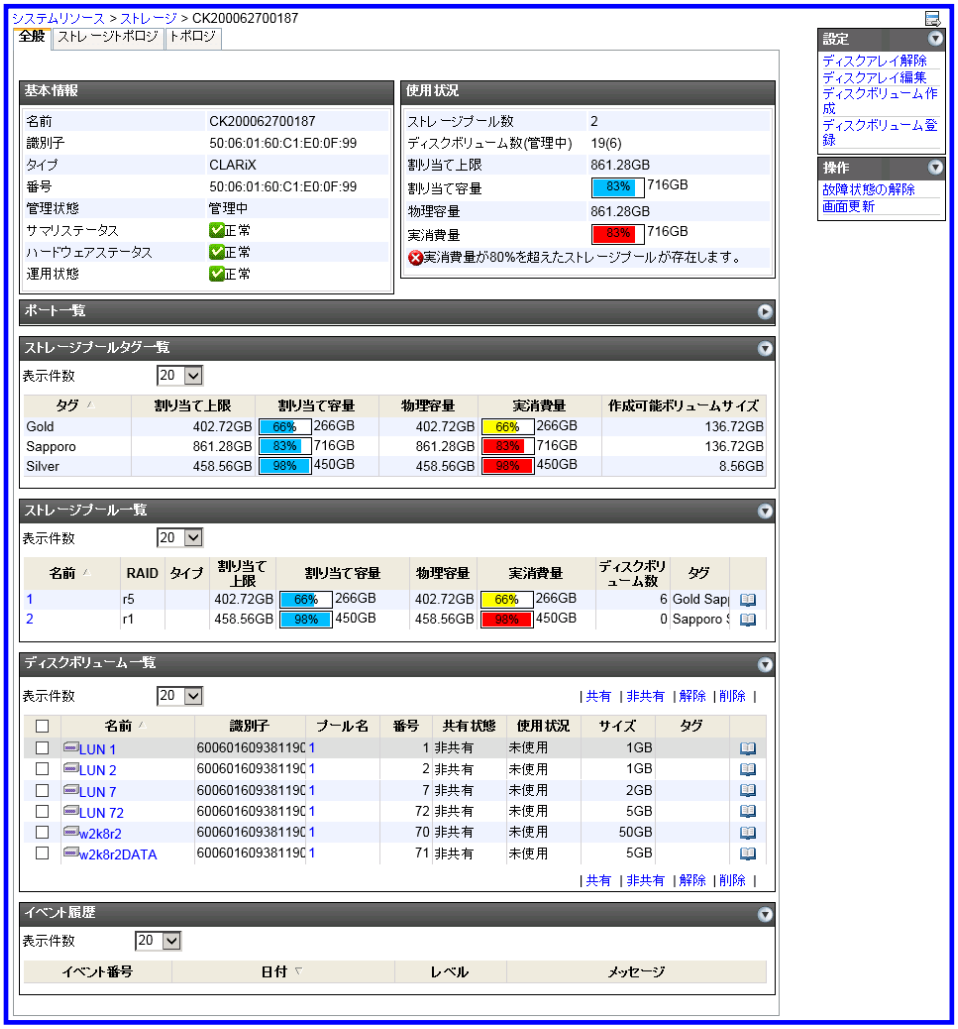
ディスクアレイの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報が表示されます。

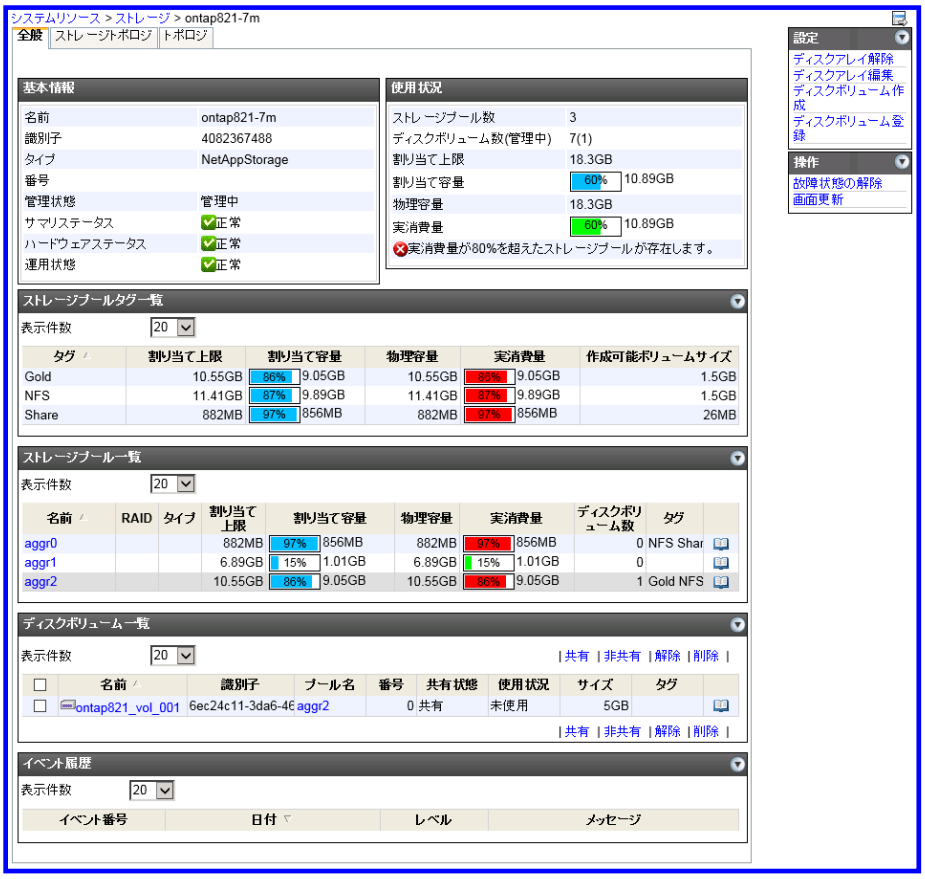
◆ [全般] タブ (iStorage、Symmetrix、SMI-S の場合)

注: IP アドレスとコントローラ IP アドレスは、iStorage、SMI-S (iStorage) の場合に表示されます。Symmetrix、SMI-S (iStorage 以外) の場合には表示されません。

◆ [全般] タブ (CLARiXの場合)



◆ [全般] タブ (NetApp の場合)



基本情報	
名前	ディスクアレイ名を表示します。
識別子	ディスクアレイの識別子を表示します。
タイプ	ディスクアレイの種類を表示します。
番号	ディスクアレイの番号を表示します。
IP アドレス **(iStorage、SMI-S (iStorage) の場合に表示)**	ディスクアレイのIPアドレスを表示します。
コントローラ IP アドレス **(iStorage、SMI-S (iStorage) の場合に表示)**	ディスクアレイのコントローラIPアドレスを表示します。
管理状態	ディスクアレイの管理状態を表示します。
サマリステータス	ディスクアレイのサマリステータスを表示します。
ハードウェアステータス	ディスクアレイのハードウェアステータスを表示します。
運用状態	ディスクアレイの運用状態を表示します。

	ポリシー名#1	ディスクアレイのポリシー名を表示します。
使用状況		
	ストレージプール数	ディスクアレイ配下のストレージプール数を表示します。
	ディスクボリューム数 (管理中)	ディスクアレイ配下のディスクボリューム数を表示します。カッコ内に、管理中のディスクボリューム数を表示します。
	割り当て上限	ディスクアレイ配下のストレージプールの割り当て上限の合計値を表示します。
	割り当て容量	ディスクアレイ配下のストレージプールの割り当て容量の合計値を表示します。また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
	物理容量	ディスクアレイ配下のストレージプールの物理容量の合計値を表示します。
	実消費量	ディスクアレイ配下のストレージプールの実消費量の合計値を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 : 消費状況が60%未満 黄 : 消費状況が60～80% 赤 : 消費状況が80%以上
ポート一覧 (iStorage / CLARiX / Symmetrix / SMI-S の場合に表示)		
	ポート	ディスクアレイのポート番号を表示します。
	アドレス	ディスクアレイのポートのWWPNを表示します。
ストレージプールタグ一覧		
	タグ	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグを表示します。
	割り当て上限	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した割り当て上限の合計値を表示します。
	割り当て容量	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した割り当て容量の合計値を表示します。 また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
	物理容量	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した物理容量の合計値を表示します。

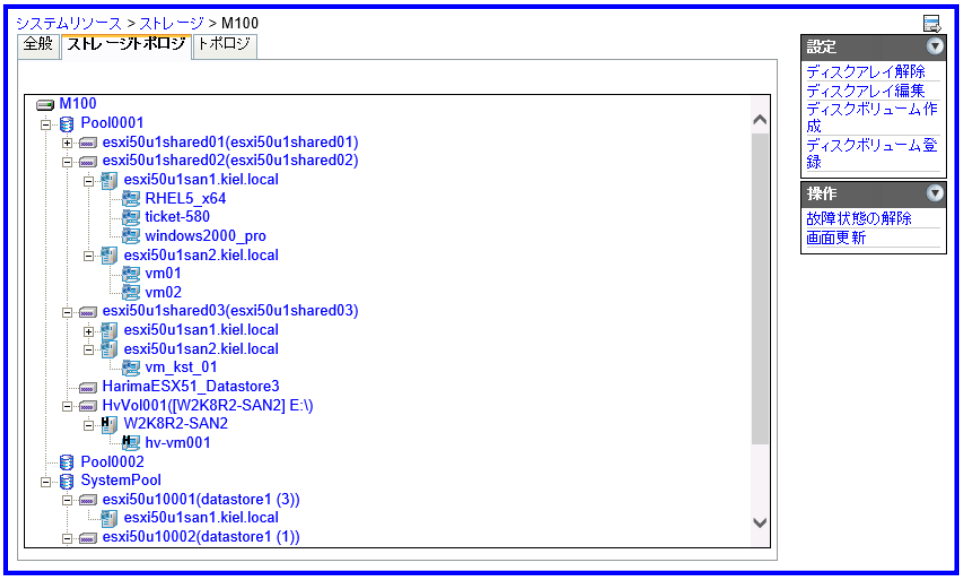
	実消費量	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に集計した実消費量の合計値を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 ： 消費状況が60%未満 黄 ： 消費状況が60～80%未満 赤 ： 消費状況が80%以上
	作成可能ボリュームサイズ	ディスクアレイ配下のストレージプールに設定したタグ別に作成可能なボリュームの最大サイズを表示します。
ストレージプール一覧		
	名前	ストレージプール名を表示します。クリックすると、ストレージプールの詳細情報に遷移します。
	RAID	ストレージプールのRAIDタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。
	タイプ	ストレージプール構成する物理ディスクのタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。
	割り当て上限	ストレージプールの割り当て上限を表示します。
	割り当て容量	ストレージプールの割り当て容量を表示します。 また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
	物理容量	ストレージプールの物理容量を表示します。
	実消費量	ストレージプールの実消費量を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 ： 消費状況が60%未満 黄 ： 消費状況が60～80% 赤 ： 消費状況が80%以上
	ディスクボリューム数	ストレージプールに存在する管理中のディスクボリューム数を表示します。
	タグ	ストレージプールのタグを表示します。
	編集	ストレージプールの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ストレージプール編集」ウィンドウに遷移します。「3.15.3 ストレージプール編集」を参照してください。
ディスクボリューム一覧		
	名前	ディスクボリューム名を表示します。ディスクボリューム名をクリックすると、ディスクボリュームの詳細情報へ遷移します。

	識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
	プール名	ディスクボリュームが配置されているストレージプールの名称を表示します。クリックすると、ストレージプールの詳細情報に遷移します。
	番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
	共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
	使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
	サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
	タグ	ディスクボリュームのタグを表示します。
	編集	ディスクボリュームの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ディスクボリューム編集」ウィンドウに遷移します。 「3.17.3 ディスクボリューム編集」を参照してください。
	共有	選択したディスクボリュームを共有にします。
	非共有	選択したディスクボリュームを非共有にします。
	解除	選択したディスクボリュームの登録を解除します。
	削除	選択したディスクボリュームを削除します。
イベント履歴		
	イベント番号	ディスクアレイのイベント履歴番号を表示します。イベント番号をクリックすると、イベントの詳細情報へ遷移します。
	日付	イベント日付を表示します。
	レベル	イベントのレベルを表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

◆ [ストレージトポロジ] タブ

ストレージを起点として、ストレージプール、ディスクボリューム、ディスクボリュームを利用しているマシンをツリー形式で表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、[ストレージトポロジ] タブをクリックするとストレージトポロジ情報が表示されます。



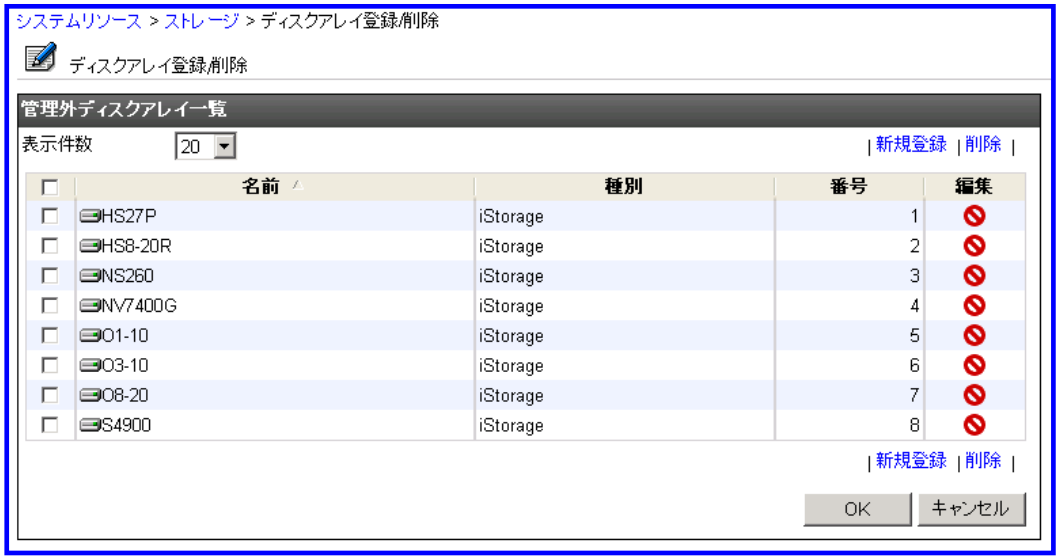
◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

3.16.1. ディスクアレイ登録 (iStorage、Symmetrix、SMI-S の場合)

iStorage、Symmetrix、および SMI-S のディスクアレイの登録を行います。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウに ストレージ総括情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ登録 / 削除] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ登録 / 削除」が表示されます。[管理外ディスクアレイ一覧] グループボックスから登録するディスクアレイを選択し、[OK] をクリックするとディスクアレイが登録されます。

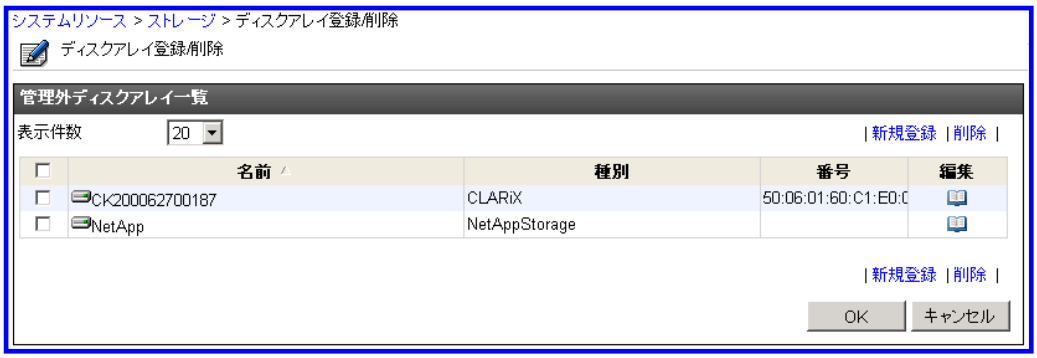


管理外ディスクアレイ一覧	
名前	ディスクアレイの名前を表示します。
種別	ストレージの種類を表示します。
番号	ディスクアレイの番号を表示します。
編集	iStorage、Symmetrix、SMI-Sの場合は、ディスクアレイを編集することはできません。CLARiX、およびNetAppの場合は「ディスクアレイ編集」ウィンドウへ移動します。
新規登録	「ディスクアレイ新規登録」ウィンドウに移動します。ただし、「ディスクアレイ新規登録」ウィンドウからディスクアレイを登録できるのはCLARiX、およびNetAppの場合です。
削除	選択したディスクアレイを削除します。
[OK]	ディスクアレイ登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ディスクアレイ登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.16.2. ディスクアレイ登録 (CLARiX、NetApp の場合)

CLARiX、および NetApp のディスクアレイの登録を行います。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ登録 / 削除] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ登録 / 削除」が表示されます。[アクション] メニューから [新規登録] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ新規登録」が表示されます。ディスクアレイ情報を設定し、[OK] をクリックするとディスクアレイが登録されます。

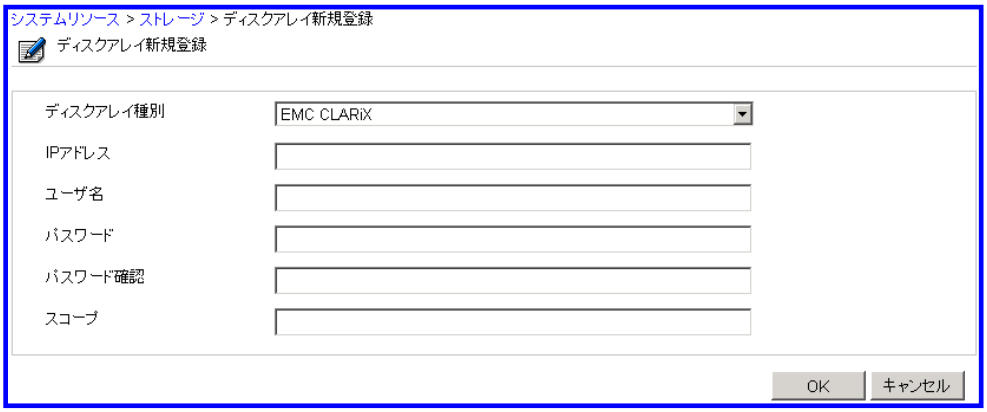


管理外ディスクアレイ一覧	
名前	ディスクアレイの名前を表示します。
種別	ストレージの種類を表示します。
番号	ディスクアレイの番号を表示します。

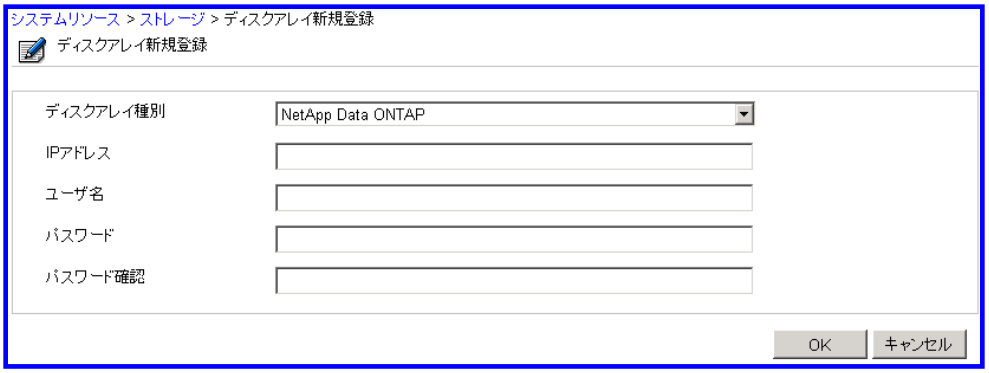
編集	「ディスクアレイ編集」ウィンドウに移動します。iStorage、Symmetrix、SMI-Sの場合、「ディスクアレイ編集」ウィンドウに移動できません。
新規登録	「ディスクアレイ新規登録」ウィンドウに移動します。iStorage、Symmetrix、SMI-Sの場合、「ディスクアレイ新規登録」ウィンドウからディスクアレイを登録することはできません。
削除	選択したディスクアレイを削除します。
[OK]	ディスクアレイ登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ディスクアレイ登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[アクション] メニューから [新規登録] をクリックすると、「ディスクアレイ新規登録」ウィンドウが表示されます。

◆ CLARiXの場合



◆ NetApp の場合



ディスクアレイ新規登録	
ディスクアレイ種別	ディスクアレイ種別が表示されます。

IP アドレス **(入力必須)**	IPアドレスを入力します。
ユーザ名 **(入力必須)**	ユーザ名を入力します。
パスワード **(入力必須)**	パスワードを入力します。
パスワード確認 **(入力必須)**	確認のため、再度同じパスワードを入力します。
スコープ	スコープを入力します。入力を省略した場合、既定値が登録されます。ディスクアレイ種別が "CLARiX" の場合のみ指定可能です。既定値は (0) です。「0～2」の範囲で設定できます。 この値はログインするシステムのユーザアカウントがローカル、グローバル、またはLightweight Directory Access Protocol (LDAP) のいずれかを指定します。 [値の意味] 0 : グローバル (既定値) 1 : ローカル 2 : LDAP
[OK]	ディスクアレイ新規登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ディスクアレイ新規登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

・ IP アドレス / ユーザ名 / パスワードのすべての値を設定する必要があります。

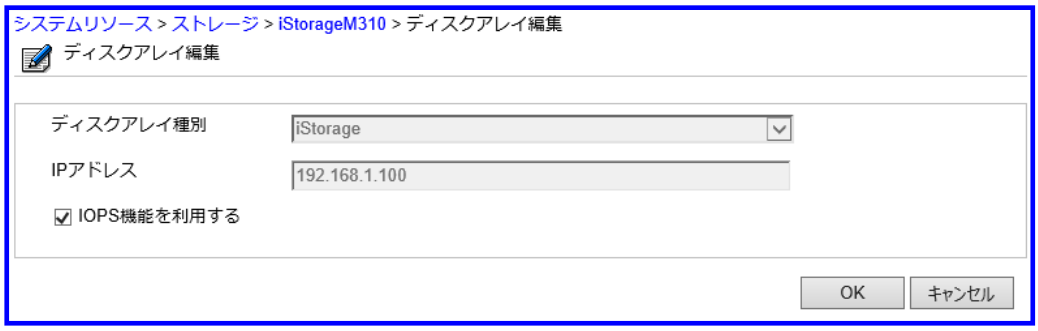
・ CLARiX の場合、ユーザ名 / パスワードを省略すると、既存のコマンドである Navicli が呼び出されますが、互換のために残しているオプションのため、通常は使用しないでください。

・ ディスクアレイを解除したストレージは、[管理外ディスクアレイ一覧] グループボックスに表示されます。この管理外ディスクアレイ一覧から削除可能なストレージは CLARiX、および NetApp のみとなります。iStorage、Symmetrix、および SMI-S については、チェックボックスをオンにすることはできますが、削除はできません。

3.16.3. ディスクアレイ編集 (iStorage の場合)

iStorage のディスクアレイの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ編集」が表示されます。ディスクアレイ情報を編集し、[OK] をクリックすると、ディスクアレイ情報が変更されます。



ディスクアレイ編集	
ディスクアレイ種別	ディスクアレイ情報が表示されます。編集はできません。
IP アドレス	IPアドレスが表示されます。編集はできません。
IOPS 機能を利用する	IOPS制御機能を利用する場合、チェックボックスをオンにします。 ※iStorageのI/O流量制御機能が有効になっている必要があります。
[OK]	ディスクアレイ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ディスクアレイ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

関連情報: SigmaSystemCenter の IOPS 制御機能の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド　概要編」の「6.6.10 IOPS 制御」を参照してください。

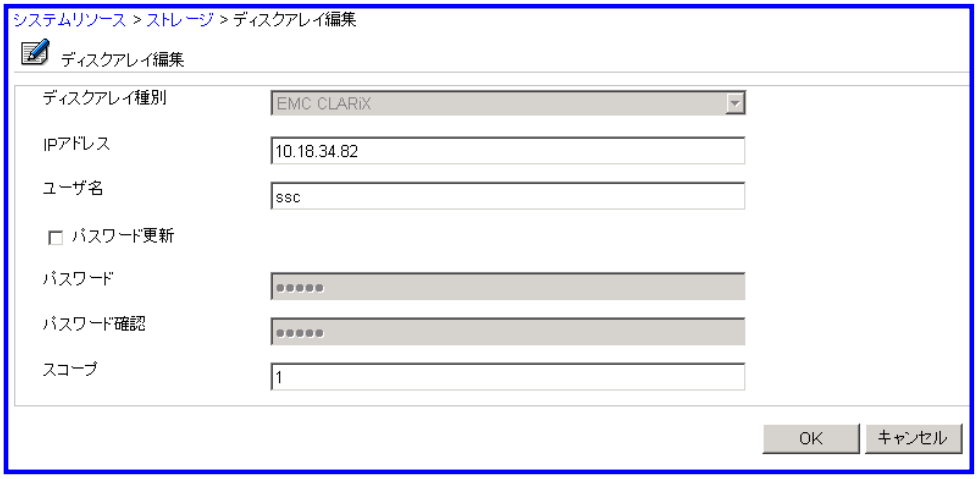
3.16.4. ディスクアレイ編集 (CLARiX、NetApp の場合)

CLARiX、および NetApp のディスクアレイの編集を行います。

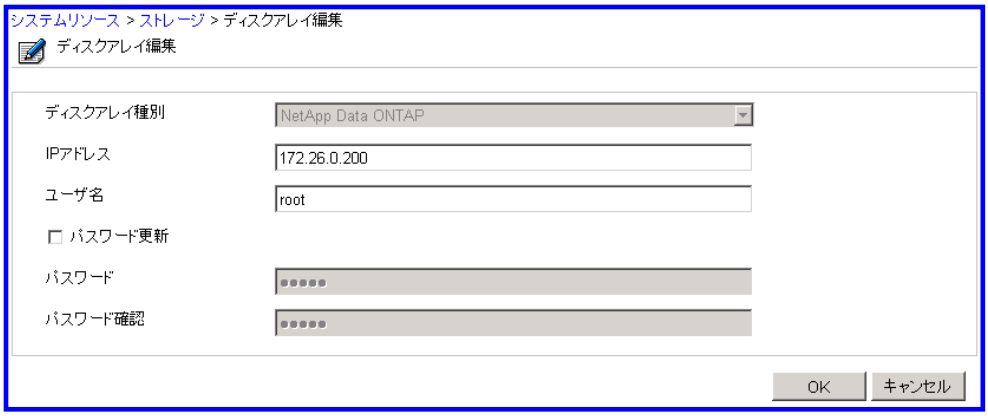
[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ編集」が表示されます。ディスクアレイ情報を編集し、[OK] をクリックすると、ディスクアレイ情報が変更されます。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ登録 / 削除] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ登録 / 削除」が表示されます。[対象外ディスクアレイ一覧] グループボックスから編集するディスクアレイの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクアレイ編集」が表示されます。ディスクアレイ情報を編集し、[OK] をクリックするとディスクアレイ情報が変更されます。

◆ CLARiXの場合



◆ NetApp の場合



ディスクアレイ編集	
ディスクアレイ種別	ディスクアレイ情報が表示されます。編集はできません。
IP アドレス **(入力必須)**	IPアドレスを表示し、編集もできます。
ユーザ名 **(入力必須)**	ユーザ名を表示し、編集もできます。
パスワード更新 **(入力必須)**	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
パスワード **(入力必須)**	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。
パスワード確認 **(入力必須)**	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、確認のため、再度同じパスワードを入力します。

	スコープ	スコープを表示し、編集もできます。入力を省略した場合、既定値が登録されます。ディスクアレイ種別が "CLARiX" の場合のみ指定可能です。既定値は (0) です。「0～2」の範囲で設定できます。 この値はログインするシステムのユーザアカウントがローカル、グローバル、またはLightweight Directory Access Protocol (LDAP) のいずれかを指定します。 [値の意味] 0 : グローバル (既定値) 1 : ローカル 2 : LDAP
[OK]		ディスクアレイ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ディスクアレイ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注:

・ IP アドレス / ユーザ名 / パスワードのすべての値を設定する必要があります。

・ CLARiX の場合、ユーザ名 / パスワードを省略すると、既存のコマンドである Navicli が呼び出されますが、互換のために残しているオプションのため、通常は使用しないでください。

3.16.5. ディスクアレイ解除

ディスクアレイを解除します。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクアレイ解除] をクリックすると、解除されます。

注: ディスクアレイを解除したストレージは、「ディスクアレイ登録」ウィンドウの [管理外ディスクアレイ一覧] グループボックスに表示されます。[管理外ディスクアレイ一覧] グループボックスから削除可能なストレージは、CLARiX、および NetApp となります。iStorage、Symmetrix、および SMI-S については、チェックボックスをオンにすることができますが、削除はされません。

3.17. ディスクボリュームの詳細情報

ディスクボリュームの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから対象のディスクボリューム名をクリックすると、メインウィンドウにディスクボリュームの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ (iStorage)

◆ [全般] タブ (iStorage 以外)

ディスクボリューム情報	
名前	ディスクボリューム名を表示します。
識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
管理状態	ディスクボリュームの管理状態を表示します。
ハードウェアステータス	ディスクボリュームのハードウェアステータスを表示します。
タグ	ディスクボリュームのタグを表示します。
ディスクアレイ情報	
名前	ディスクアレイ名を表示します。ディスクアレイ名をクリックすると、ディスクアレイの詳細情報へ遷移します。
識別子	ディスクアレイの識別子を表示します。
稼動状態	ディスクアレイの稼動状態を表示します。
タイプ	ディスクアレイの種類を表示します。
番号	ディスクアレイの番号を表示します。
管理状態	ディスクアレイの管理状態を表示します。
サマリステータス	ディスクアレイのサマリステータスを表示します。
ハードウェアステータス	ディスクアレイのサマリステータスを表示します。
運用状態	ディスクアレイの運用状態を表示します。
IOPS 情報 (iStorage の場合に表示)	
IOPS 上限値	IOPSの上限値を表示します。
IOPS 下限値	IOPSの下限値を表示します。
上限値制御の記録	IOPSの上限値制御の記録が有効 / 無効を表示します。
接続先一覧	
名前	接続先のマシン名を表示します。名前をクリックすると、マシンの詳細情報に遷移します。
種別	接続先のマシンの種別を表示します。
状態	接続先のマシンの状態を表示します。
電源	接続先の電源状態を表示します。
ホスト	接続先のホストを表示します。ホストをクリックすると、ホストの詳細情報に遷移します。

	アドレス	接続先のマシンのHBAアドレス、またはIPアドレスを表示します。
	(プルダウンボックス)	選択した接続先マシンの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / サスペンド / シャットダウン / マシン収集 / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。
イベント履歴		
	イベント番号	ディスクボリュームのイベント履歴番号を表示します。クリックすると、イベントの詳細情報へ遷移します。
	日付	イベント日付を表示します。
	レベル	イベントのレベルを表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

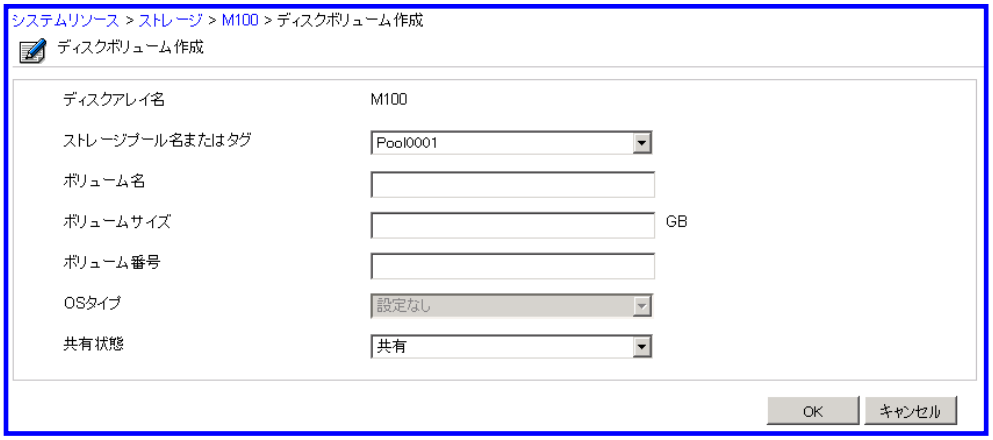
3.17.1. ディスクボリューム作成

ディスクボリュームの作成を行います。

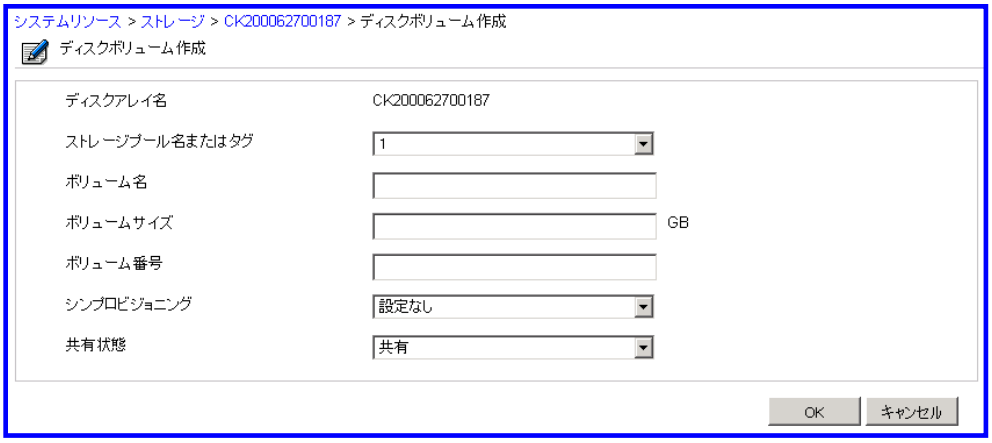
[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクボリューム作成] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクボリューム作成」が表示されます。作成するディスクアレイ情報を入力し、[OK] をクリックするとディスクボリュームが作成されます。

または、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[ストレージプール一覧] グループボックスから対象のストレージプール名をクリックすると、メインウィンドウにストレージプールの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [ディスクボリューム作成] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクボリューム作成」が表示されます。作成するディスクアレイ情報を入力し、[OK] をクリックするとディスクボリュームが作成されます。

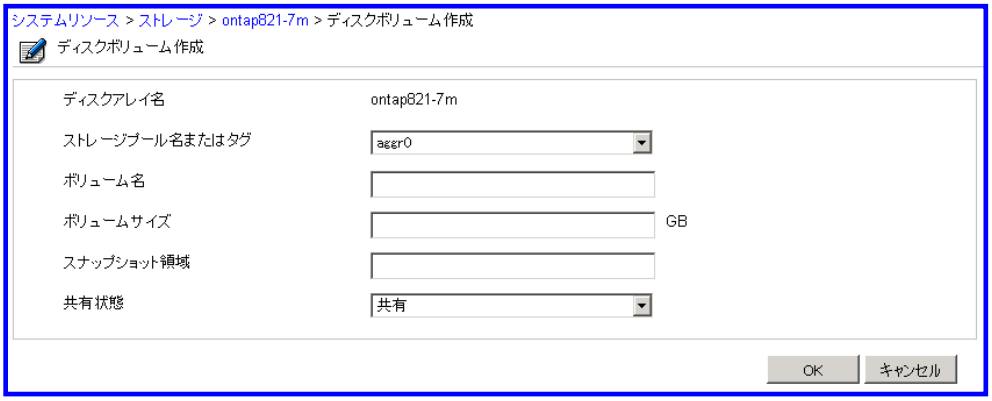
◆ iStorage の場合



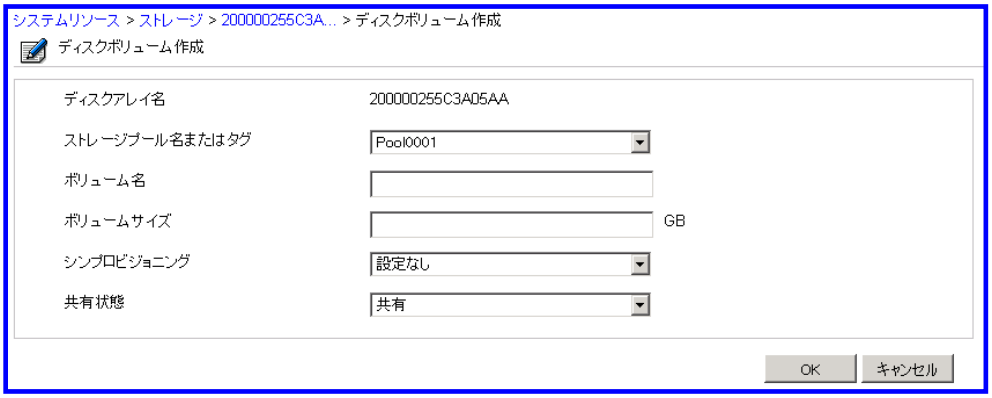
◆ CLARiX / VNXの場合



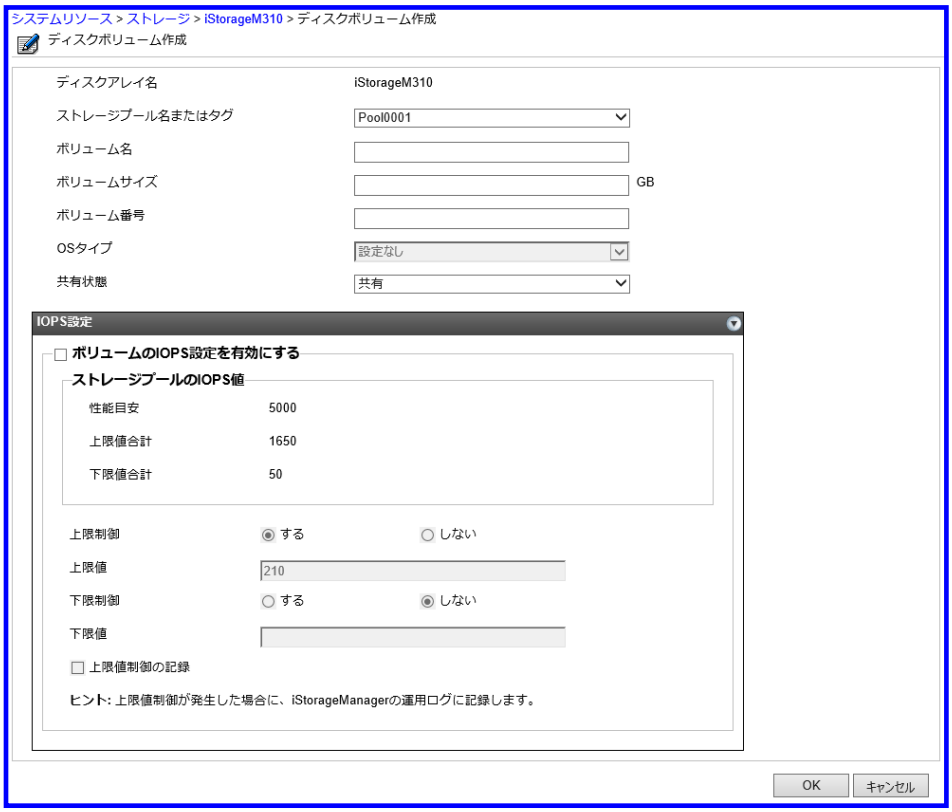
◆ NetApp の場合



◆ SMI-S の場合



◆ IOPS 制御機能が有効な iStorage の場合



ディスクボリューム作成	
ディスクアレイ名	ディスクボリュームを作成するディスクアレイの名称を表示します。
ストレージプール名またはタグ **(入力必須)**	ディスクボリュームを作成するストレージプール、またはストレージプールに設定したタグを選択します。 "直接指定" を選択することで、ストレージプールタグの手入力や複数タグの指定ができます。また、複数のストレージプールタグを指定する場合は、スペース区切りで指定します。 ストレージプールタグを指定した場合、作成先となるストレージプールは、ストレージプールタグの指定に基づいて自動で選択されます。 ストレージプールの詳細情報からディスクボリューム作成を行う場合は、本項目は選択できません。
ボリューム番号 **(iStorage、CLARiX、VNX の場合に表示)**	ディスクボリュームのボリューム番号を入力します。
ボリューム名	作成するディスクボリューム名を入力します。 NetAppの場合は入力必須です。

	ボリュームサイズ **(入力必須)**	作成するディスクボリュームのサイズ (GB) を入力します。
	OS タイプ **(iStorage の場合に表示)**	作成するディスクボリュームのOSタイプを選択します。 ボリューム名を指定していない場合は選択できません。
	スナップショット領域 **(NetApp の場合に表示)**	作成するディスクボリュームのスナップショット領域を指定します。指定範囲は、0～100%となります。
	シンプロビジョニング **(CLARiX、VNX、SMI-S の場合に表示)**	作成するディスクボリュームのシンプロビジョニングを選択します。 ストレージプールタグを指定している場合は選択できません。 CLARiXの場合、ストレージプールに仮想容量プールを指定している場合、"Thin"、または "Thick" を選択してください。また、実容量プールを指定している場合は、"設定なし" を選択してください。
	共有状態 **(選択必須)**	作成するディスクボリュームの共有状態を選択します。
	IOPS 設定 (IOPS 機能の利用が有効な iStorage の場合に表示)	
	ボリュームの IOPS 設定を有効にする	ボリューム作成時にIOPS値の設定を行う場合にチェックボックスをオンにします。 チェックボックスをオフでボリュームを作成した場合は、IOPS設置を無効としたボリュームを作成します。
	上限制御	"する" を選択した場合は、上限値に設定した値を上限制御値として設定します。 "しない" を選択した場合は、上限制御を無効にします。
	上限値	ボリュームに対するIOPS上限制御値を10から1000000の範囲で設定します。 既定値としてストレージプールに設定されたボリューム作成時の初期値が設定されています。
	下限制御	"する" を選択した場合は、下限値に設定した値を下限制御値として設定します。 "しない" を選択した場合は、下限制御を無効にします。
	下限値	ボリュームに対するIOPS下限制御値を10から1000000の範囲で設定します。 既定値としてストレージプールに設定されたボリューム作成時の初期値が設定されています。
	上限値制御の記録	上限値制御が発生した場合にiStorageManagerの運用ログに記録を残す場合は、チェックボックスをオンにします。
[OK]		ディスクボリューム作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ディスクボリューム作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

関連情報:

・ストレージプール種類の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.1 ストレージプール」を参照してください。

・シンプロビジョニング設定の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.7 ディスクボリュームのシンプロビジョニングの設定について」を参照してください。

・各ストレージ装置に対して設定可能なディスクボリューム名の最大サイズについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.3 ディスクボリューム作成・削除」を参照してください。

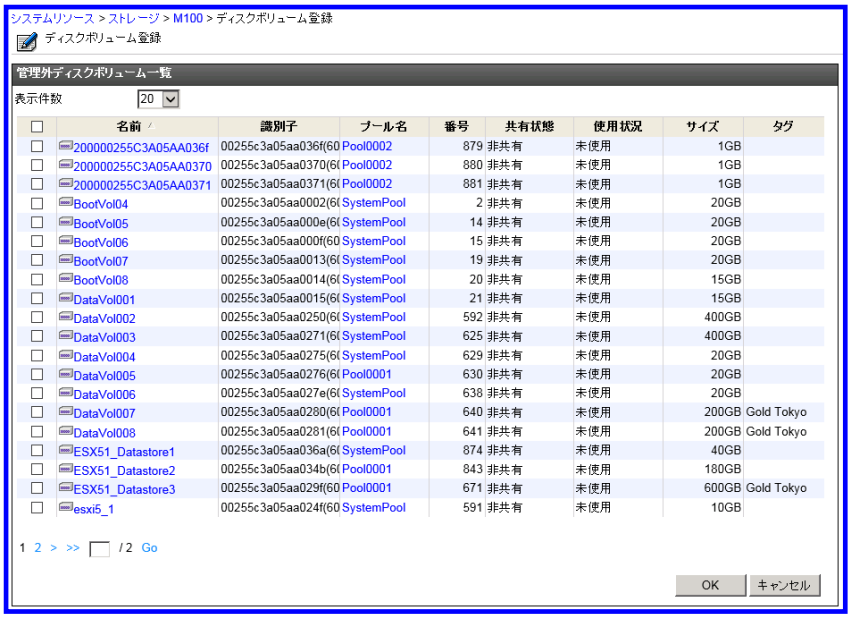
・SigmaSystemCenter の IOPS 制御機能の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「6.6.10 IOPS 制御」を参照してください。

3.17.2. ディスクボリューム登録

ディスクボリュームの登録を行います。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ディスクボリューム登録] をクリックすると、メインウィンドウに「ディスクボリューム登録」が表示されます。

または、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ統括情報を表示します。[ストレージプール一覧] グループボックスから対象のストレージプール名をクリックすると、メインウィンドウにストレージプールの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [ディスクボリューム登録] をクリックすると、「ディスクボリューム登録」ウィンドウが表示されます。登録するディスクボリュームを選択し、[OK] をクリックするとディスクボリュームが登録されます。



名前	識別子	プール名	番号	共有状態	使用状況	サイズ	タグ
200000255C3A05AA036f	00255c3a05aa036f(60	Pool0002	879	非共有	未使用	1GB	
200000255C3A05AA0370	00255c3a05aa0370(6(	Pool0002	880	非共有	未使用	1GB	
200000255C3A05AA0371	00255c3a05aa0371(6(	Pool0002	881	非共有	未使用	1GB	
BootVol04	00255c3a05aa0002(6(	SystemPool	2	非共有	未使用	20GB	
BootVol05	00255c3a05aa000e(6(	SystemPool	14	非共有	未使用	20GB	
BootVol06	00255c3a05aa000f(60	SystemPool	15	非共有	未使用	20GB	
BootVol07	00255c3a05aa0013(6(	SystemPool	19	非共有	未使用	20GB	
BootVol08	00255c3a05aa0014(6(	SystemPool	20	非共有	未使用	15GB	
DataVol001	00255c3a05aa0015(6(	SystemPool	21	非共有	未使用	15GB	
DataVol002	00255c3a05aa0250(6(	SystemPool	592	非共有	未使用	400GB	
DataVol003	00255c3a05aa0271(6(	SystemPool	625	非共有	未使用	400GB	
DataVol004	00255c3a05aa0275(6(	SystemPool	629	非共有	未使用	20GB	
DataVol005	00255c3a05aa0276(6(	Pool0001	630	非共有	未使用	20GB	
DataVol006	00255c3a05aa027e(6(	SystemPool	638	非共有	未使用	20GB	
DataVol007	00255c3a05aa0280(6(	Pool0001	640	非共有	未使用	200GB	Gold Tokyo
DataVol008	00255c3a05aa0281(6(	Pool0001	641	非共有	未使用	200GB	Gold Tokyo
ESX51_Datastore1	00255c3a05aa036a(6(	SystemPool	874	非共有	未使用	40GB	
ESX51_Datastore2	00255c3a05aa034b(6(	Pool0001	843	非共有	未使用	180GB	
ESX51_Datastore3	00255c3a05aa029f(60	Pool0001	671	非共有	未使用	600GB	Gold Tokyo
esxi5_1	00255c3a05aa024f(60	SystemPool	591	非共有	未使用	10GB	

管理外ディスクボリューム一覧	
名前	ディスクボリュームの名前を表示します。ディスクボリューム名をクリックすると、ディスクボリュームの詳細情報へ遷移します。
識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
プール名	ストレージプール名を表示します。クリックすると、ストレージプールの詳細情報に遷移します。
番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
タグ	ディスクボリュームのタグを表示します。
[OK]	ディスクボリューム登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ディスクボリューム登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.17.3. ディスクボリューム編集

ディスクボリュームを編集します。

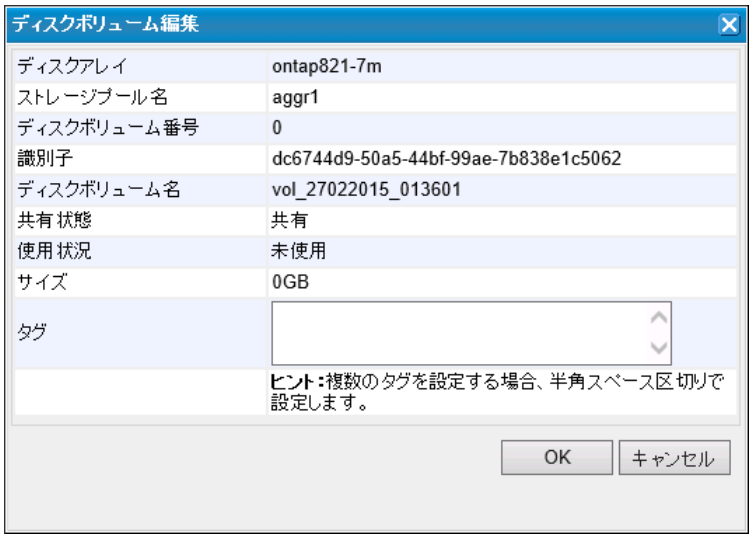
[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。対象のディスクボリュームの [編集] をクリックすると、「ディスクボリューム編集」ダイアログボックスが表示されます。対象のディスクボリューム情報を入力し、[OK] をクリックします。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。対象のディスクボリュームの [編集] をクリックすると、「ディスクボリューム編集」ダイアログボックスを表示されます。対象のディスクボリュームの情報を入力し、[OK] をクリックします。

◆ iStorage の場合

◆ CLARiX、VNX の場合

◆ NetApp の場合



◆ SMI-S の場合

ディスクボリューム編集	
ディスクアレイ	ディスクアレイ名を表示します。
ストレージプール名	ストレージプール名を表示します。
ディスクボリューム番号	ディスクボリューム番号を表示します。
識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
ディスクボリューム名	ディスクボリューム名を表示し、編集もできます。
OS タイプ **(iStorage の場合に表示)**	ディスクボリュームのOSタイプを表示します。
共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。

	使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
	サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
	タグ	ディスクボリュームのタグを入力します。入力できる文字数は、1200文字以内です。 複数のタグを設定する場合は、半角スペース区切りで設定します。
	IOPS 値 **(iStorage の場合に表示) ※1**	論理ディスクのIOPS上限値、下限値を10から1000000の範囲で設定します。 空を設定することで、上限値、または下限値を削除することができます。
	上限値制御の記録 **(iStorage の場合に表示) ※1**	IOPS上限値制御が発生した場合にiStorageManagerの運用ログに記録するかを設定します。
[OK]		ディスクボリューム編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ディスクボリューム編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 iStorageのIOPS制御機能が有効な場合に表示されます。

関連情報:

・ 各ストレージ装置に対して設定可能なディスクボリューム名の最大サイズについては、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド　概要編」の「6.6.3 ディスクボリューム作成・削除」を参照してください。

・ SigmaSystemCenter の IOPS 制御機能の詳細については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド　概要編」の「6.6.10 IOPS 制御」を参照してください。

3.17.4. ディスクボリューム削除

ディスクボリュームを削除します。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから削除するディスクボリュームを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

3.17.5. ディスクボリューム共有

ディスクボリュームを共有にします。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから共有にするディスクボリュームを選択し、[アクション] メニューから [共有] をクリックすると、ディスクボリュームが共有になります。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから共有にするディスクボリュームのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [共有] をクリックすると、ディスクボリュームが共有になります。

3.17.6. ディスクボリューム非共有

ディスクボリュームを非共有にします。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから非共有にするディスクボリュームを選択し、[アクション] メニューから [非共有] をクリックすると、ディスクボリュームが非共有になります。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから非共有にするディスクボリュームのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [非共有] をクリックすると、ディスクボリュームが非共有になります。

3.17.7. ディスクボリューム解除

ディスクボリュームを解除します。

[システムリソース] ツリーから対象のストレージのアイコンをクリックし、メインウィンドウにディスクアレイの詳細情報を表示します。[ディスクボリューム一覧] グループボックスから解除するディスクボリュームを選択し、[アクション] メニューから [解除] をクリックすると、解除されます。

3.18. ストレージプールの詳細情報

ストレージプールの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ストレージ] をクリックし、メインウィンドウにストレージ総括情報を表示します。[ストレージプール一覧] グループボックスから対象のストレージプール名をクリックすると、メインウィンドウにストレージプールの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ

ストレージプール情報	
名前	ストレージプール名を表示します。
RAID	ストレージプールのRAIDタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。

	タイプ	ストレージプール構成する物理ディスクのタイプを表示します。 ※表示内容は、ストレージ装置から提供される情報に依存します。そのため、空白の場合もあります。
	割り当て上限	ストレージプールの割り当て上限を表示します。
	割り当て容量	ストレージプールの割り当て容量を表示します。 また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
	物理容量	ストレージプールの物理容量を表示します。
	実消費量	ストレージプールの実消費量を表示します。 また、実消費状況 (実消費量 / 物理容量) をプログレスバーで表示します。 [プログレスバーの色の意味] 緑 ： 消費状況が60%未満 黄 ： 消費状況が60～80% 赤 ： 消費状況が80%以上
	ディスクボリューム数	ストレージプールに存在する管理中のディスクボリューム数を表示します。
	ハードウェアステータス	ストレージプールのハードウェアステータスを表示します。
	タグ	ストレージプールのタグを表示します。
ディスクアレイ情報		
	名前	ディスクアレイ名を表示します。ディスクアレイ名をクリックすると、ディスクアレイの詳細情報へ遷移します。
	識別子	ディスクアレイの識別子を表示します。
	稼動状態	ディスクアレイの稼動状態を表示します。
	タイプ	ディスクアレイの種類を表示します。
	番号	ディスクアレイの番号を表示します。
	管理状態	ディスクアレイの管理状態を表示します。
	サマリステータス	ディスクアレイのサマリステータスを表示します。
	ハードウェアステータス	ディスクアレイのサマリステータスを表示します。
	運用状態	ディスクアレイの運用状態を表示します。
IOPS 情報		
	IOPS 性能目安	I/O流量制御の性能目安を表示します。
	IOPS 上限制御	I/O流量制御の上限制御 (有効 / 無効) を表示します。
	IOPS 下限制御	I/O流量制御の下限制御 (有効 / 無効) を表示します。
	IOPS 合計値上限	ストレージプール配下のボリュームに設定されているI/O流量上限値の合計値を表示します。

	IOPS 合計値下限	ストレージプール配下のディスクボリュームに設定されているI/O流量下限値の合計値を表示します。
	IOPS 下限閾値	I/O流量制御の下限制御しきい値を表示します。
	IOPS ボリューム作成時の初期値上限	ディスクボリューム作成時に既定で設定されるI/O流量制御の上限値を表示します。
	IOPS ボリューム作成時の初期値下限	ディスクボリューム作成時に既定で設定されるI/O流量制御の下限値を表示します。
ディスクボリューム一覧		
	名前	ディスクボリューム名を表示します。ディスクボリューム名をクリックすると、ディスクボリュームの詳細情報へ遷移します。
	識別子	ディスクボリュームの識別子を表示します。
	プール名	ディスクボリュームの親となるストレージプール名を表示します。
	番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
	共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
	使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
	サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。
	タグ	ディスクボリュームのタグを表示します。
	編集	ディスクボリュームの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ディスクボリューム編集」ウィンドウに遷移します。「3.17.3 ディスクボリューム編集」を参照してください。
	共有	選択したディスクボリュームを共有にします。
	非共有	選択したディスクボリュームを非共有にします。
	解除	選択したディスクボリュームの登録を解除します。
	削除	選択したディスクボリュームを削除します。
イベント履歴		
	イベント番号	ストレージプールのイベント履歴番号を表示します。
	日付	イベント日付を表示します。
	レベル	イベントのレベルを表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

3.19. ネットワーク

[ネットワーク] は、論理ネットワークの設定情報、スイッチ、ロードバランサ、およびファイアウォールの管理を行います。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックすると、[論理ネットワーク一覧] グループボックス、[VLAN 利用状況] グループボックスが表示されます。

PFC 連携時は、[VTN 一覧] グループボックスが表示されます。

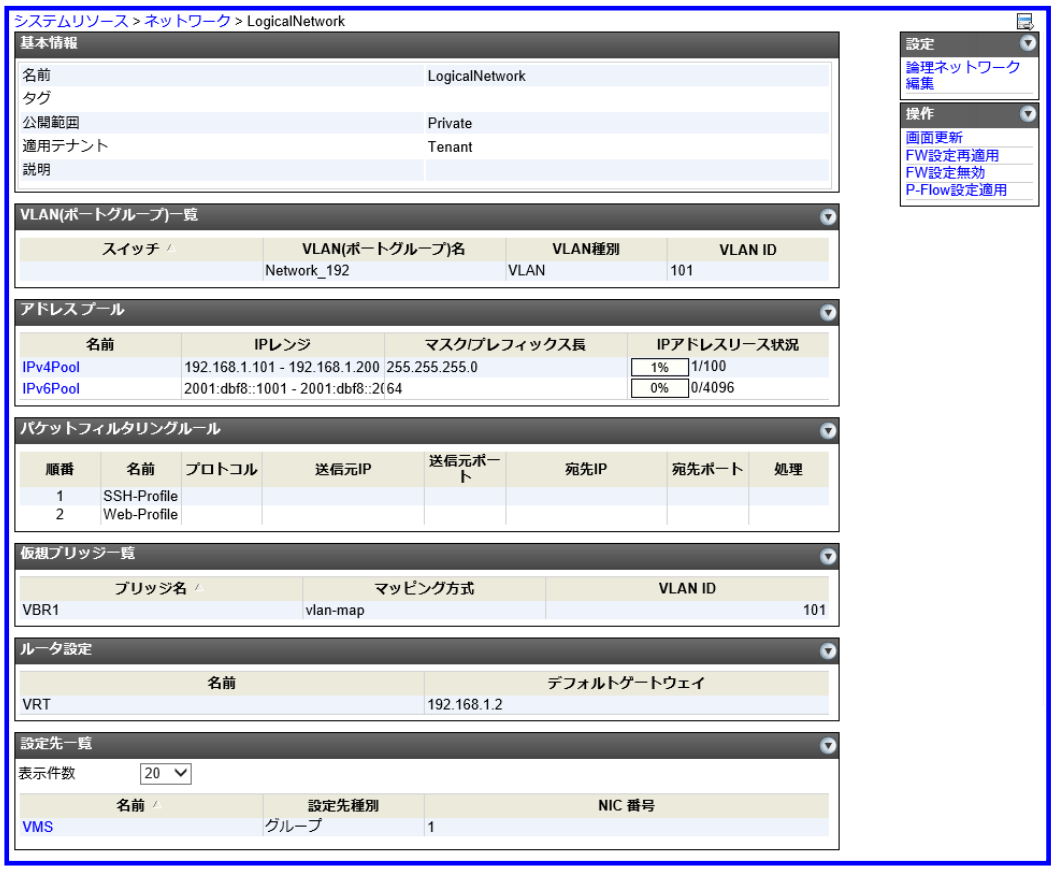
論理ネットワーク一覧	
名前	論理ネットワーク名を表示します。名前をクリックすると、メインウィンドウに論理ネットワークの詳細情報が表示されます。
VLAN ID	論理ネットワークに登録されているVLAN IDを表示します。物理スイッチ単位に個別設定されているVLAN IDは "()" で表示されます。
アドレス プール (IPv4)	論理ネットワークのIPv4アドレスプールを表示します。
アドレス プール (IPv6)	論理ネットワークのIPv6アドレスプールを表示します。
公開範囲	論理ネットワークの公開範囲を表示します。
適用テナント	論理ネットワークが適用されているテナント名を表示します。
編集	論理ネットワーク情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「論理ネットワーク編集」ウィンドウに遷移します。
削除	選択した論理ネットワークを削除します。
VLAN 利用状況	
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
VLAN(ポートグループ)名	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。

スイッチ名	VLANを利用しているスイッチ名を表示します。
VTN 一覧 (PFC 連携時のみ表示)	
名前	VTN名を表示します。VTN名をクリックすると、仮想ネットワークの詳細情報に遷移します。
設定先	VTNの設定先を表示します。
削除	選択したVTNを削除します。

3.20. 論理ネットワークの詳細情報

論理ネットワークの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックし、[論理ネットワーク一覧] グループボックスを表示します。[論理ネットワーク一覧] グループボックスからネットワーク名をクリックすると、メインウィンドウに論理ネットワークの詳細情報が表示されます。



基本情報		
	名前	論理ネットワーク名を表示します。
	タグ	検索用のタグを表示します。
	公開範囲	公開範囲の設定を表示します。
	適用グループ	公開範囲が設定されている場合、公開先のグループ名が表示されます。
	説明	論理ネットワークの説明を表示します。
VLAN (ポートグループ) 一覧		
	スイッチ	VLAN (ポートグループ) を適用するスイッチ名を表示します。スイッチ名をクリックすると、スイッチの詳細情報に遷移します。

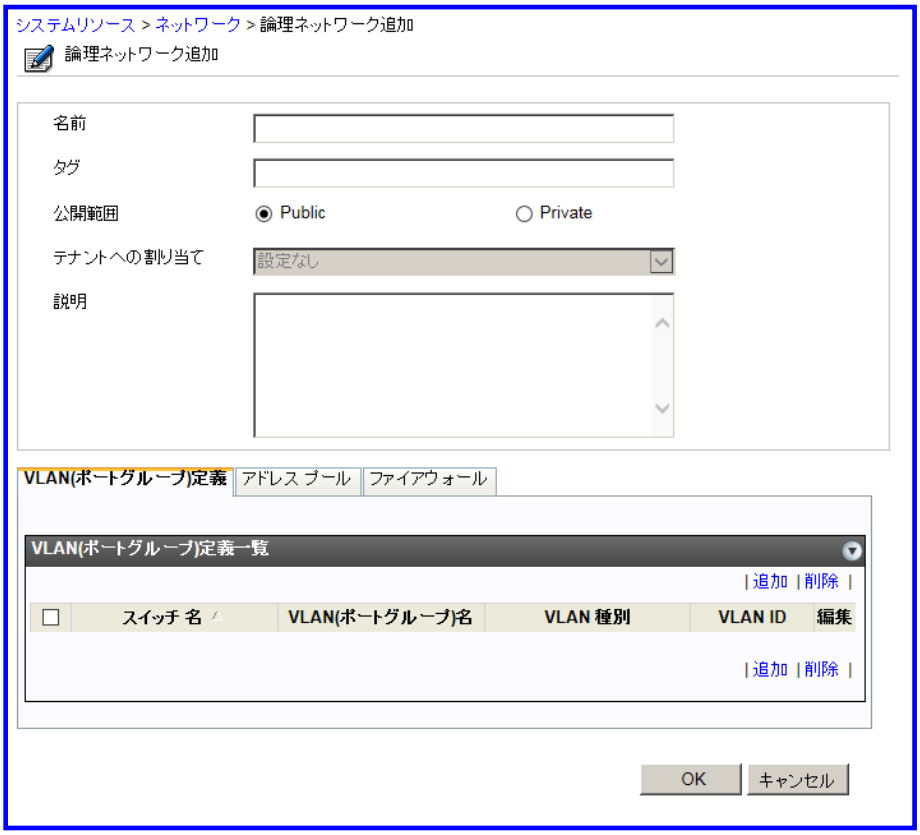
VLAN (ポートグループ) 名	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。VLAN (ポートグループ) をクリックすると、VLANの詳細情報に遷移します。
VLAN 種別	VLANの種別を表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
アドレス プール	
名前	アドレスプールの名前を表示します。
IP レンジ	設定されているIPアドレスの範囲を表示します。
マスク / プレフィックス長	IPv4の場合は、サブネットマスクを表示します。 IPv6の場合は、サブネットプレフィックス長を表示します。
IP アドレスリース状況	アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。
パケットフィルタリングルール	
順番	ルールが判定される順番を表示します。
名前	プロファイルの名前を表示します。 プロファイルを指定せず設定したものは、「ユーザ定義」として表示されます。
プロトコル	ユーザ定義ルールのプロトコルを表示します。
送信元 IP	ユーザ定義ルールの送信元IPアドレスを表示します。
送信元ポート	ユーザ定義ルールの送信元ポート番号を表示します。
宛先 IP	ユーザ定義ルールの宛先IPアドレスを表示します。
宛先ポート	ユーザ定義ルールの宛先ポート番号を表示します。
処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
仮想ブリッジ一覧 (PFC 連携時のみ表示)	
ブリッジ名	仮想ブリッジ名を表示します。
マッピング方式	仮想ブリッジを設定するマッピング方式を表示します。
VLAN ID	仮想ブリッジに設定するVLAN IDを表示します。
ルータ設定	
名前	ルータ名を表示します。
デフォルトゲートウェイ	ルータのデフォルトゲートウェイを表示します。
設定先一覧	
名前	論理ネットワークの設定先のグループ、またはモデルの名前を表示します。名前をクリックすると、運用グループ、またはモデルの詳細情報に遷移します。
設定先種別	設定先の種別を表示します。
NIC 番号	NIC番号を表示します。NIC番号を複数設定している場合は、(,) で分割します。

3.20.1. 論理ネットワーク追加

論理ネットワークを追加します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックし、[論理ネットワーク一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「論理ネットワーク追加」が表示されます。追加する論理ネットワーク情報、および各タブの定義を入力し、[OK] をクリックすると論理ネットワークが追加されます。

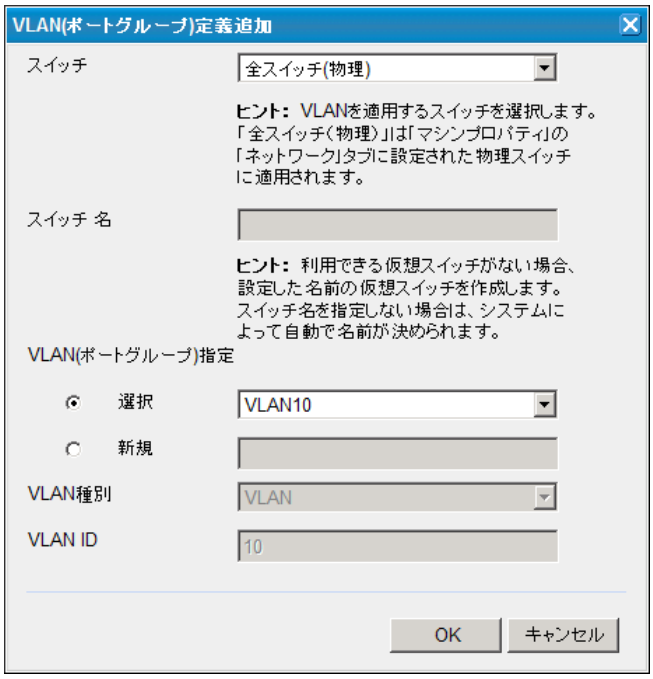
◆ [VLAN (ポートグループ) 定義] タブ



論理ネットワーク追加		
名前 (入力必須)		論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ		検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲		公開範囲の設定を選択します。
	Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
	Private	公開範囲を設定します。

	テナントへの割り当て		公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	ネットワーク仮想化 **(PFC 連携時のみ表示)**		利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明		論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	VLAN (ポートグループ) 定義一覧		
		スイッチ名	VLAN (ポートグループ) を適用するスイッチ名を表示します。
		VLAN (ポートグループ) 名	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。
		VLAN 種別	VLAN種別を表示します。
		VLAN ID	VLAN IDを表示します。
		編集	VLANを編集します。「VLAN (ポートグループ) 定義編集」ダイアログボックスが表示されます。
		追加	VLANを追加します。「VLAN (ポートグループ) 定義追加」ダイアログボックスが表示されます。
		削除	選択したVLAN情報を [VLAN (ポートグループ) 定義一覧] グループボックスから削除します。
[OK]			論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「VLAN (ポートグループ) 定義追加」ダイアログボックスが表示されます。



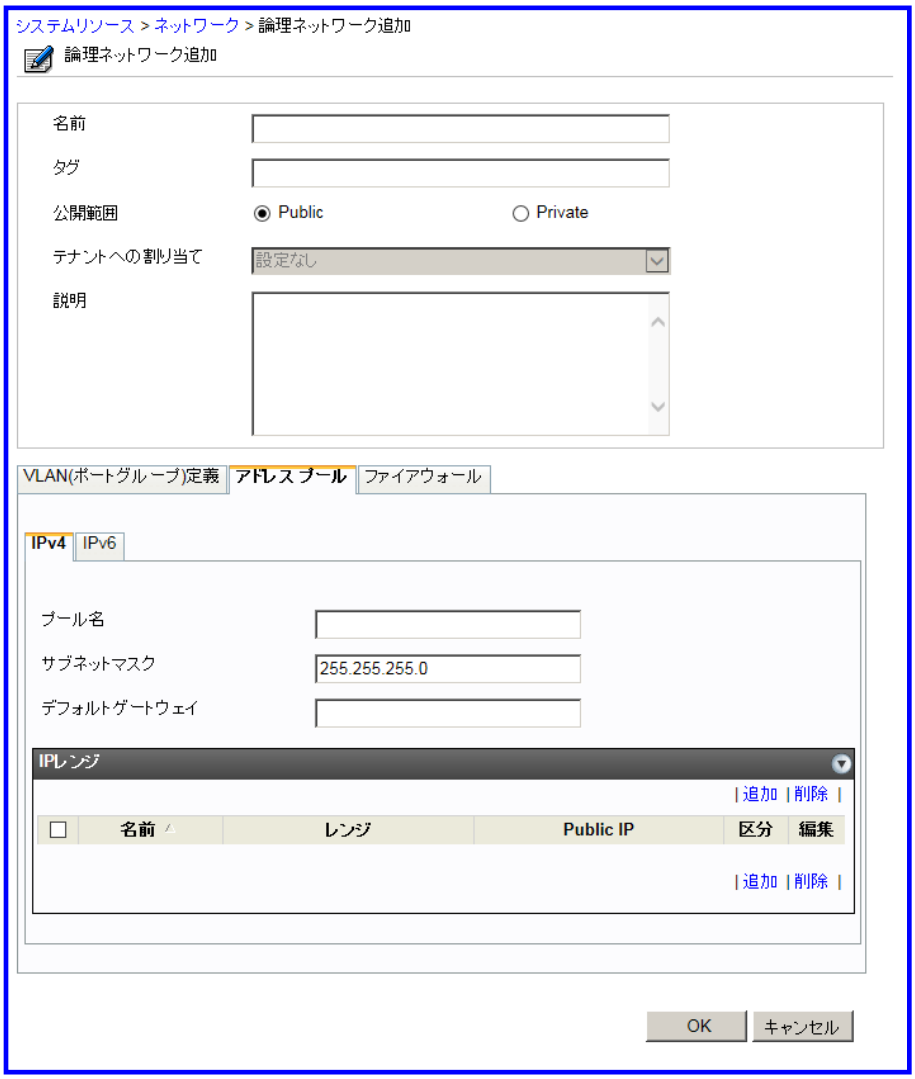
VLAN (ポートグループ) 定義追加		
	スイッチ (選択必須)	スイッチを表示します。プルダウンボックスをクリックすると、すべてのスイッチが表示されます。
	スイッチ名	スイッチ名を表示します。
	VLAN (ポートグループ) 指定 (選択必須)	
	選択	既存のVLANを選択する場合、チェックボックスをオンにします。また、プルダウンボックスからVLAN (ポートグループ) を選択します。
	新規	新規でVLANを作成する場合、チェックボックスをオンにします。また、テキストボックスには、VLAN (ポートグループ) 名を入力、もしくは表示します。
	VLAN 種別	VLAN種別を選択します。
	VLAN ID	VLAN IDを入力します。「1～4094」の範囲で入力できます。
[OK]		VLAN (ポートグループ) 定義追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		VLAN (ポートグループ) 定義追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

- 「VLAN (ポートグループ) 定義追加」ダイアログボックスは、以下の条件により、各入力欄が変化します。

スイッチ	スイッチ名	VLAN 名	VLAN 種別	VLAN ID
全スイッチ	入力不可	直接入力	VLAN	直接入力
		選択	VLAN	自動入力
物理スイッチ	自動入力	直接入力	VLAN	直接入力
		選択	VLAN	自動入力
仮想スイッチ	直接入力	直接入力	なし	入力不可
			VLAN	直接入力
分散スイッチ	自動入力	直接入力	なし	入力不可
			VLAN	直接入力
			プライベートVLAN	選択

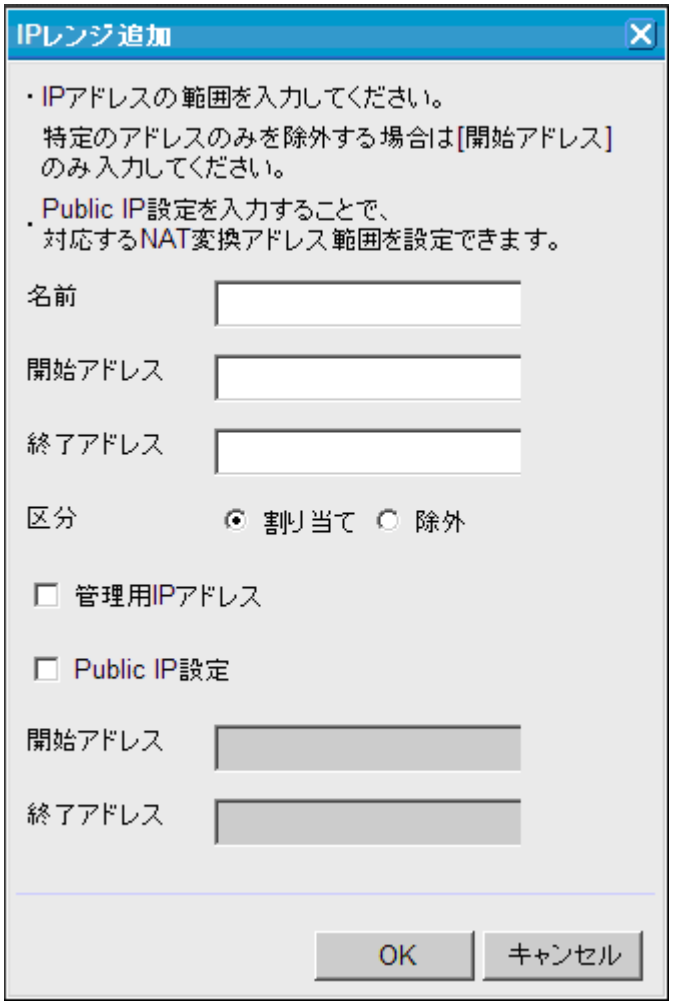
◆ [アドレスプール] タブ

<[IPv4] タブの場合>



論理ネットワーク追加	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
Private	公開範囲を設定します。
テナントへの割り当て	公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
ネットワーク仮想化 **(PFC 連携時のみ表示)**	利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
説明	論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
アドレス プール	
プール名	アドレスプールの名前を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
サブネットマスク	サブネットマスクを入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
IP レンジ	
名前	レンジ名を表示します。
レンジ	設定されているIPアドレスの範囲を表示します。
Public IP	対応付けされているPublic IPアドレスの範囲を表示します。
区分	レンジの設定区分を表示します。
編集	IPレンジの編集を行います。[編集] をクリックすると、「IPレンジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
追加	IPレンジを追加します。「IPレンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
削除	選択したIPレンジを [IPレンジ一覧] グループボックスから削除します。
[OK]	論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

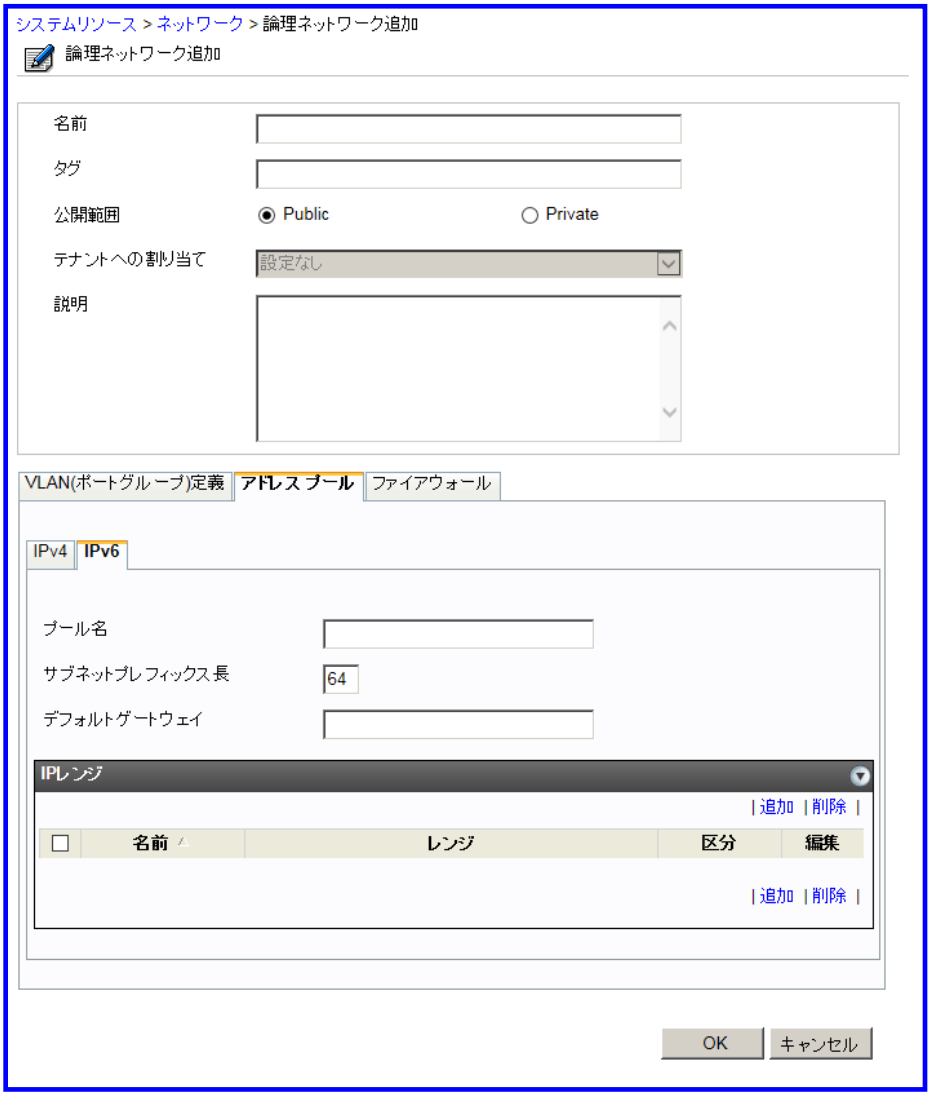
[追加] をクリックすると、「IP レンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。



IP レンジ追加	
名前 **(入力必須)**	IPレンジ名を入力します。入力できる文字数は、100文字以内です。また、以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? < > |
開始アドレス **(入力必須)**	IPレンジの開始アドレスを入力します。
終了アドレス	IPレンジの終了アドレスを入力します。
区分	IPレンジの設定区分を選択します。
割り当て	自動払い出しの対象に設定します
除外	自動払い出しの対象から除外します。
管理用 IP アドレス	払い出されたIPアドレスを管理用IPアドレスとして設定する場合、チェックボックスをオンにします。

	Public IP 設定	設定したIPレンジにPublic IPを対応付ける場合、チェックボックスをオンにします。
	開始アドレス	Public IPの開始アドレスを入力します。[Public IP設定]チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。
	終了アドレス	Public IPの終了アドレスを入力します。[Public IP設定]チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。
[OK]		IPレンジ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		IPレンジ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

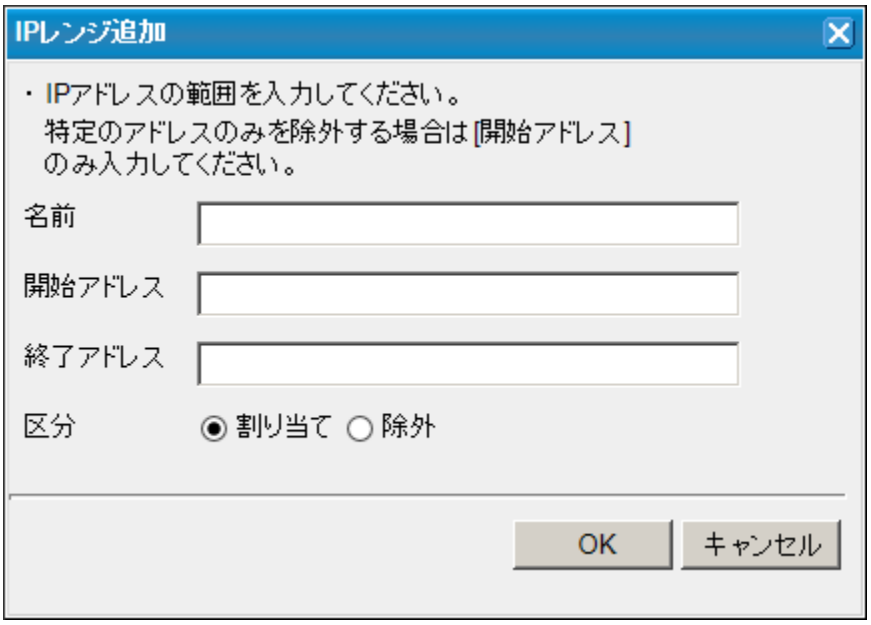
<[IPv6] タブの場合>



論理ネットワーク追加	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。

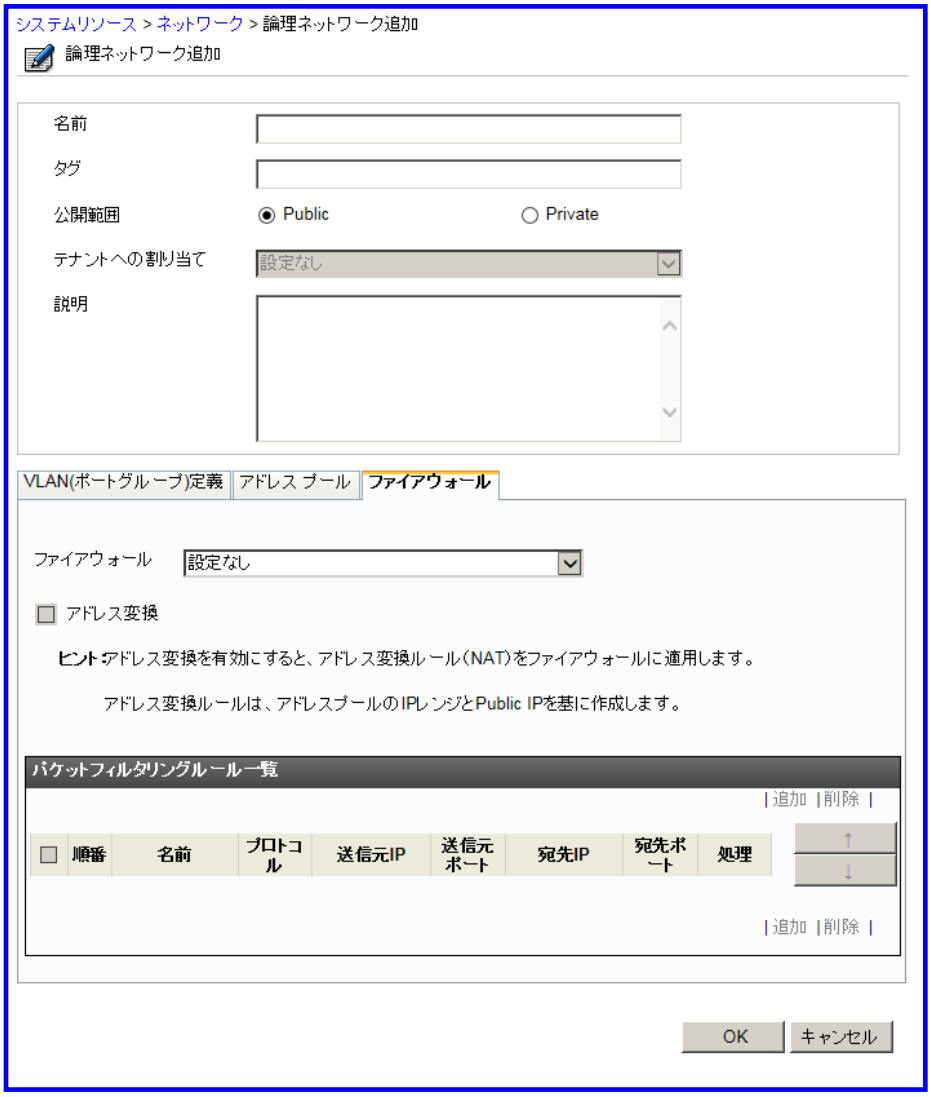
	タグ			検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
	公開範囲			公開範囲の設定を選択します。
		Public		公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
		Private		公開範囲を設定します。
	テナントへの割り当て			公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	ネットワーク仮想化 (PFC 連携時のみ表示)			利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明			論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	アドレス プール			
		プール名		アドレスプールの名前を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
		サブネットプレフィックス長		サブネットプレフィックス長を入力します。
		デフォルトゲートウェイ		デフォルトゲートウェイを入力します。
		IP レンジ		
			名前	レンジ名を表示します。
			レンジ	設定されているIPアドレスの範囲を表示します。
			区分	レンジの設定区分を表示します。
			編集	IPレンジの編集を行います。[編集] をクリックすると、「IPレンジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	IPレンジを追加します。「IPレンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したIPレンジを [IPレンジ一覧] グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「IP レンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。



IP レンジ追加		
	名前 **(入力必須)**	IPレンジ名を入力します。入力できる文字数は、100文字以内です。また、以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? < > |
	開始アドレス **(入力必須)**	IPレンジの開始アドレスを入力します。
	終了アドレス	IPレンジの終了アドレスを入力します。
	区分	IPレンジの設定区分を選択します。
	割り当て	自動払い出しの対象に設定します
	除外	自動払い出しの対象から除外します。
[OK]		IPレンジ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		IPレンジ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

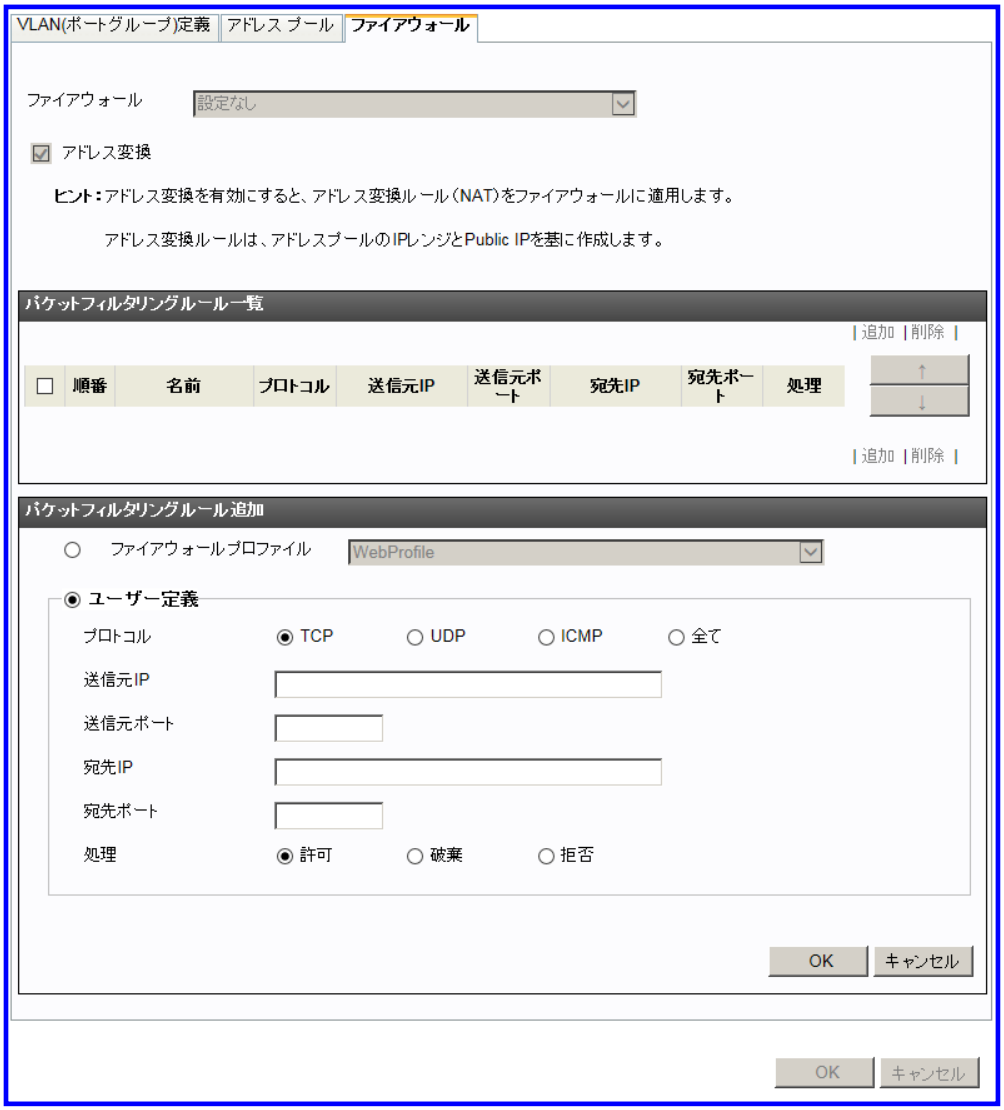
◆ [ファイアウォール] タブ



論理ネットワーク追加	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
Private	公開範囲を設定します。
テナントへの割り当て	公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。

	ネットワーク仮想化 (PFC 連携時のみ)			利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明			論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	ファイアウォール			
		ファイアウォール		ルールを適用するファイアウォールを選択します。
		アドレス交換		チェックボックスをオンにすると、アドレス交換（NAT）ルールを適用することができます。
		パケットフィルタリングルール一覧		
			順番	ルールが適用される順番を表示します。
			名前	プロファイルの名前を表示します。 プロファイルを指定せずに設定したものは、「ユーザ定義」として表示されます。
			プロトコル	ユーザ定義ルールのプロトコルを表示します。
			送信元 IP	ユーザ定義ルールの送信元IPアドレスを表示します。
			送信元ポート	ユーザ定義ルールの送信元ポート番号を表示します。
			宛先 IP	ユーザ定義ルールの宛先IPアドレスを表示します。
			宛先ポート	ユーザ定義ルールの宛先ポート番号を表示します。
			処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
			[↑]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ前に移動します。
			[↓]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ後ろに移動します。
			追加	パケットフィルタリングルールを追加します。クリックすると、[パケットフィルタリングルール一覧] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。
			削除	選択したパケットフィルタリングルールを [パケットフィルタリングルール一覧] グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。[追加] は、[ファイアウォール] を選択することでクリックすることができます。



パケットフィルタリングルール追加	
ファイアウォールプロファイル	あらかじめ作成したファイアウォールプロファイルを選択します。
ユーザ定義	ファイアウォールプロファイルを作成せず、直接設定を行います。
プロトコル	プロトコルを選択します。
送信元 IP	送信元のIPアドレスを入力します。
送信元ポート	送信元のポート番号を入力します。
宛先 IP	宛先のIPアドレスを入力します。

	宛先ポート	宛先のポート番号を入力します。
	処理	パケットを受け取った際の処理を選択します。
[OK]		パケットフィルタリングルール追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		パケットフィルタリングルール追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

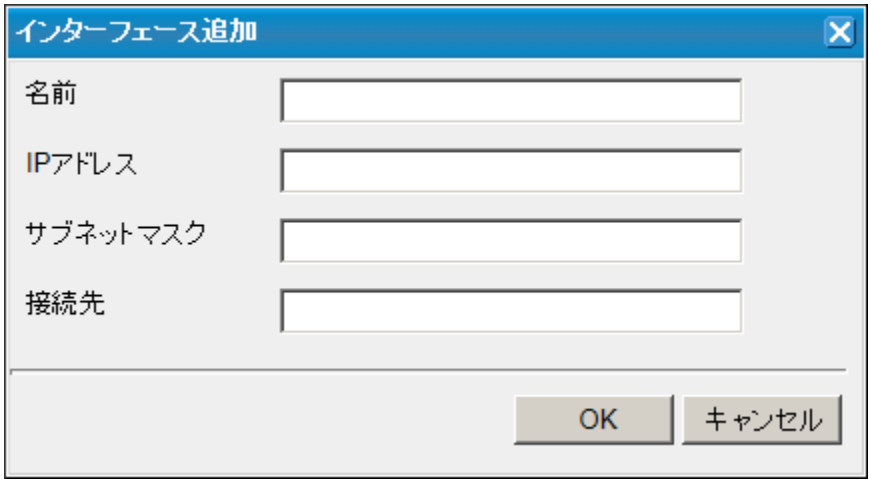
◆ [ルータ] タブ ([ネットワーク仮想化] プルダウンボックスで "Programmable Flow" を選択した場合)

論理ネットワーク追加	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。

	公開範囲		公開範囲の設定を選択します。
		Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
		Private	公開範囲を設定します。
	テナントへの割り当て		公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	ネットワーク仮想化		利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明		論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	ルータ		
		ルータ名	ルータ名を指定します。 入力できる文字数は31文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("_") です。 ルータ名を指定しなかった場合、[ルータ] タブの設定は保存されません。
		デフォルトゲートウェイ	ルータのデフォルトゲートウェイを指定します。デフォルトゲートウェイが必要ない場合は、省略することが可能です。
		インターフェース一覧	
			名前	インターフェース名を表示します。
			IP アドレス	インターフェースのIPアドレスとプレフィックスを表示します。
			接続先	インターフェースの接続先である仮想ブリッジ名を表示します。
			編集	インターフェースを編集します。「インターフェース編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	インターフェースを追加します。「インターフェース追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したインターフェースを [インターフェース一覧] グループボックスから削除します。
		ルーティング一覧	
			宛先 IP アドレス	ルーティングする宛先IPアドレスとプレフィックスを表示します。
			転送先 IP アドレス	ルーティングの転送先IPアドレスを表示します。
			編集	ルーティングを編集します。「スタティックルーティング編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	ルーティングを追加します。「スタティックルーティング追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したルーティングを [ルーティング一覧] グループボックスから削除します。

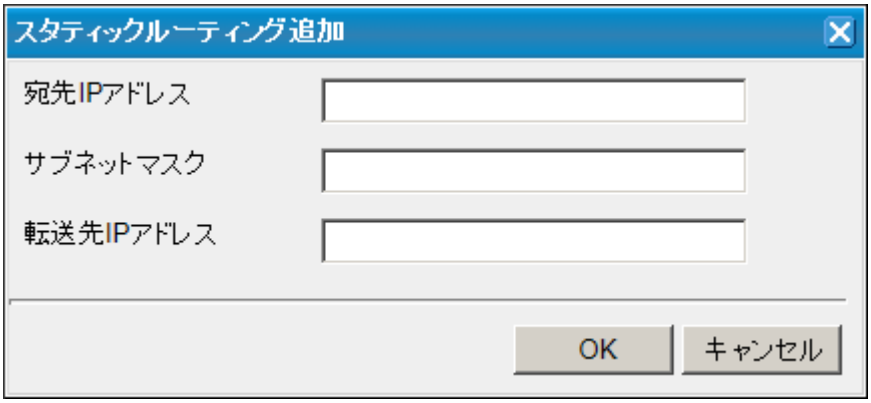
[OK]	論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[インターフェース一覧] グループボックスから [追加] をクリックすると、「インターフェース追加」ダイアログボックスが表示されます。



インターフェース追加	
名前	インターフェース名を指定します。
IP アドレス	インターフェースのIPアドレスを指定します。
サブネットマスク	インターフェースのサブネットマスクを指定します。
接続先	インターフェースの接続先である仮想ブリッジ名を指定します。
[OK]	インターフェース追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	インターフェース追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[ルーティング一覧] グループボックスから [追加] をクリックすると、「スタティックルーティング追加」ダイアログボックスが表示されます。

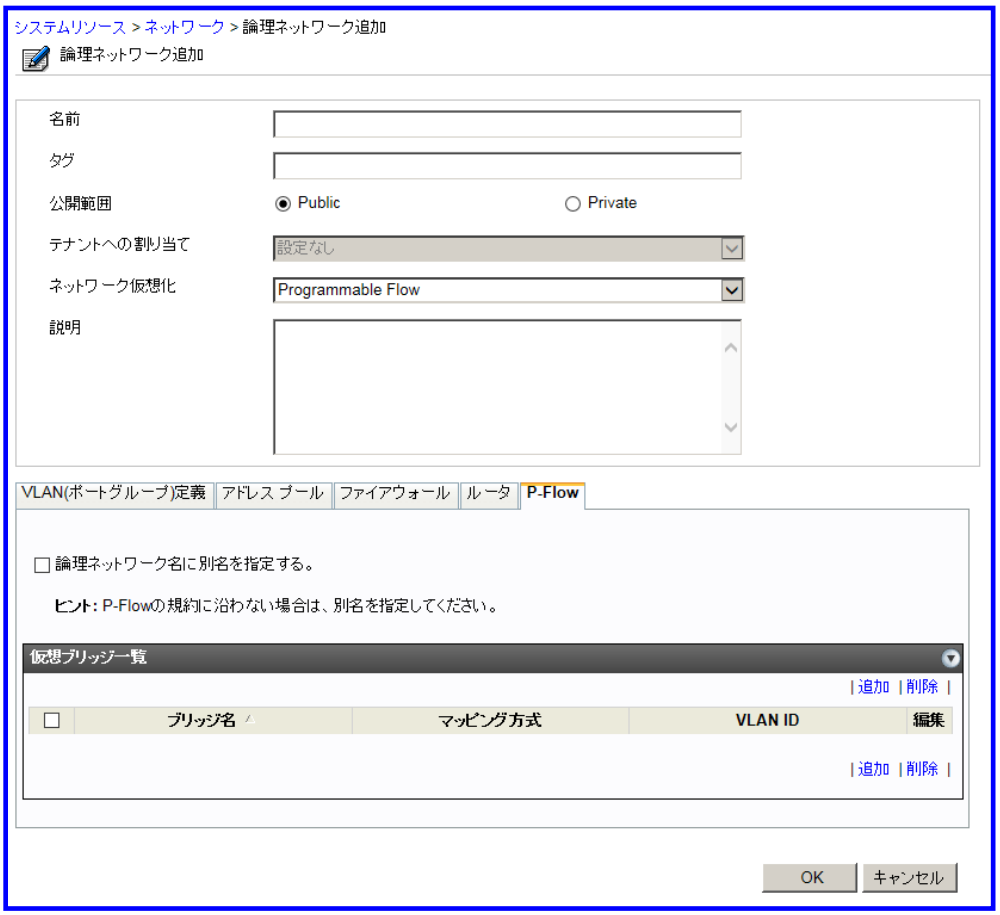


スタティックルーティング追加	
宛先 IP アドレス	宛先のネットワークアドレスを指定します。
サブネットマスク	サブネットマスクを指定します。
転送先 IP アドレス	転送先のIPアドレスを指定します。
[OK]	スタティックルーティング追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スタティックルーティング追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: [宛先 IP アドレス] テキストボックスに固定の IP アドレス (192.168.11.1 / 255.255.255.0 など) を指定しても、ネットワークアドレス (192.168.11.0 / 255.255.255.0 など)として認識されます。

必ずネットワークアドレスを指定してください。

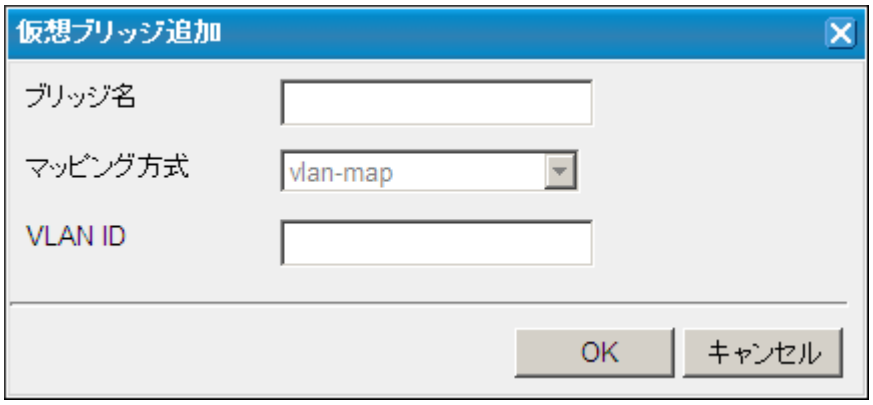
◆ [P-Flow] タブ ([ネットワーク仮想化] プルダウンボックスで "Programmable Flow" を選択した場合)



論理ネットワーク追加	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を指定します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。[P-Flow] タブの [論理ネットワーク名に別名を指定する。] チェックボックスがオフの場合、入力できる文字数は31文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("_") です。
タグ	検索用のタグを入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
Private	公開範囲を設定します。
テナントへの割り当て	公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
ネットワーク仮想化	利用するネットワーク仮想化機能を選択します。

	説明			論理ネットワークの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	P-Flow			
		論理ネットワーク名に別名を指定する。		論理ネットワーク名がP-Flowの規約に沿わない場合は、チェックボックスをオンにして別名を指定します。入力できる文字数は31文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号（"_"）です。
		仮想ブリッジ一覧		
			ブリッジ名	仮想ブリッジ名を表示します。
			マッピング方式	仮想ブリッジを設定するマッピング方式を表示します。
			VLAN ID	仮想ブリッジに設定するVLAN IDを表示します。
			編集	仮想ブリッジを編集します。「仮想ブリッジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	仮想ブリッジを追加します。「仮想ブリッジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択した仮想ブリッジを［仮想ブリッジ一覧］グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

［追加］をクリックすると、「仮想ブリッジ追加」ダイアログボックスが表示されます。



仮想ブリッジ追加		
	ブリッジ名 **(入力必須)**	仮想ブリッジ名を入力します。入力できる文字数は31文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号（"_"）です。
	マッピング方式	仮想ブリッジに設定するマッピング方式を選択します。本機能は、「vlan-map」から変更できません。

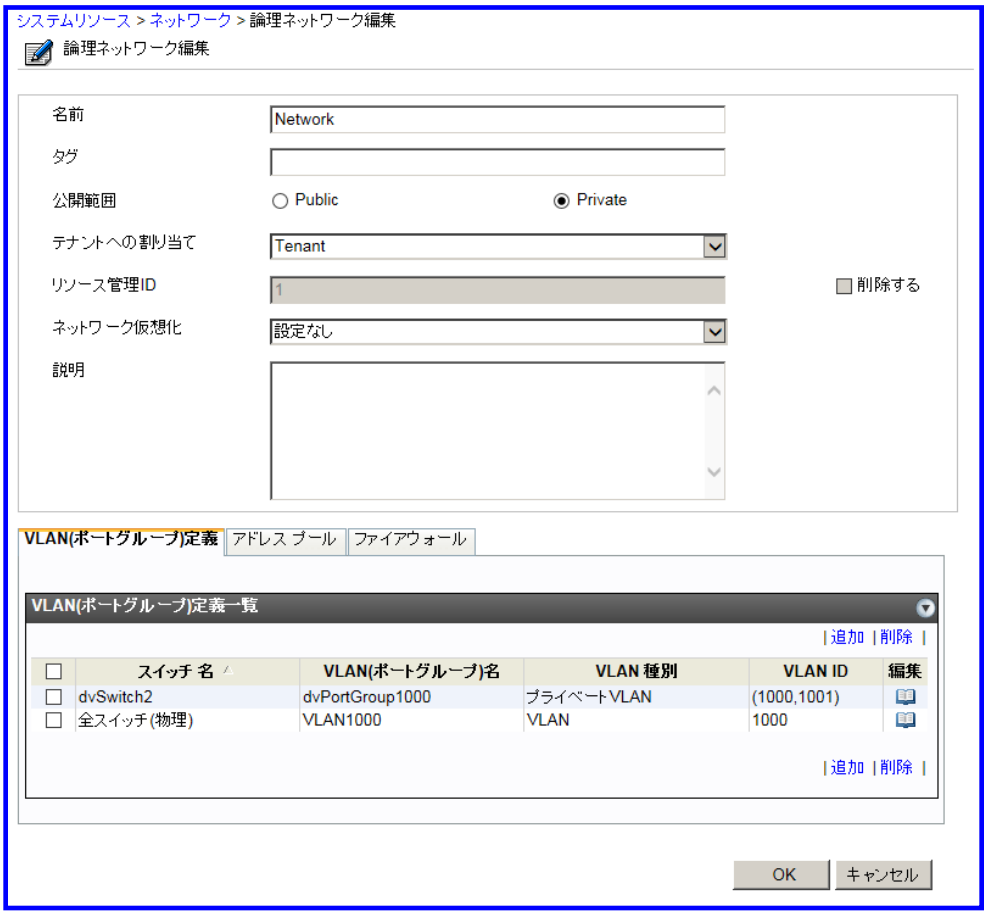
VLAN ID **(入力必須)**	VLAN IDを入力します。「1～4094」の範囲で設定できます。
[OK]	仮想ブリッジ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	仮想ブリッジ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.20.2. 論理ネットワーク編集

論理ネットワークを編集します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックし、[論理ネットワーク一覧] グループボックスを表示します。[論理ネットワーク一覧] グループボックスから [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「論理ネットワーク編集」が表示されます。編集する論理ネットワーク情報、および各タブの定義を入力し、[OK] をクリックすると論理ネットワークが編集されます。

◆ [VLAN (ポートグループ) 定義] タブ



論理ネットワーク編集		
名前 **(入力必須)**		論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ		検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲		公開範囲の設定を選択します。
	Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
	Private	公開範囲を設定します。
テナントへの割り当て		公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
リソース管理 ID		テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
削除する		リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
ネットワーク仮想化 **(PFC 連携時のみ表示)**		利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
説明		論理ネットワークの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
VLAN (ポートグループ) 定義一覧		
	スイッチ名	VLAN (ポートグループ) を適用するスイッチ名を表示します。
	VLAN (ポートグループ) 名	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。
	VLAN 種別	VLAN種別を表示します。
	VLAN ID	VLAN IDを表示します。
	編集	VLANを編集します。「VLAN (ポートグループ) 定義編集」ダイアログボックスが表示されます。
	追加	VLANを追加します。「VLAN (ポートグループ) 定義追加」ダイアログボックスが表示されます。
	削除	選択したVLAN情報を [VLAN (ポートグループ) 定義一覧] グループボックスから削除します。
[OK]		論理ネットワーク編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		論理ネットワーク編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「VLAN (ポートグループ) 定義追加」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「VLAN (ポートグループ)　定義追加」ダイアログボックスについては、「3.20.1 論理ネットワーク追加」を参照してください。

◆ [アドレスプール] タブ

<[IPv4] タブの場合>

論理ネットワーク編集	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。

			Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
			Private	公開範囲を設定します。
		テナントへの割り当て		公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
		リソース管理 ID		テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
		削除する		リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
		ネットワーク仮想化 (PFC 連携時のみ表示)		利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
		説明		ネットワークの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
		アドレスプール		
			名前	アドレスプールの名前を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
			サブネットマスク	サブネットマスクを表示します。
			デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを表示します。
			IP レンジ	
				名前	レンジ名を表示します。
				レンジ	設定されているIPアドレスの範囲を表示します。
				Public IP	対応付けされているPublic IPアドレスの範囲を表示します。
				区分	レンジの設定区分を表示します。
				編集	IPレンジの編集を行います。[編集] をクリックすると、「IP レンジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
				追加	IPレンジを追加します。「IPレンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
				削除	選択したIPレンジを [IPレンジ一覧] グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

IP レンジ一覧の [追加] をクリックすると、「IP レンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「IP レンジ追加」ダイアログボックスについては、「3.20.1　論理ネットワーク追加」を参照してください。

<[IPv6]　タブの場合>

論理ネットワーク編集	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。

			Private	公開範囲を設定します。
	テナントへの割り当て			公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	リソース管理 ID			テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
	削除する			リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
	ネットワーク仮想化 (PFC 連携時のみ表示)			利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明			ネットワークの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	アドレスプール			
		名前		アドレスプールの名前を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
		サブネットプレフィックス長		サブネットプレフィックス長を表示します。
		デフォルトゲートウェイ		デフォルトゲートウェイを表示します。
		IP レンジ		
			名前	レンジ名を表示します。
			レンジ	設定されているIPアドレスの範囲を表示します。
			区分	レンジの設定区分を表示します。
			編集	IPレンジの編集を行います。[編集] をクリックすると、「IP レンジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	IPレンジを追加します。「IPレンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したIPレンジを [IPレンジ一覧] グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

IP レンジ一覧の [追加] をクリックすると、「IP レンジ追加」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「IP レンジ追加」ダイアログボックスについては、「3.20.1 論理ネットワーク追加」を参照してください。

◆ [ファイアウォール] タブ

論理ネットワーク編集	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号（"-"）です。
タグ	検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
Private	公開範囲を設定します。

	テナントへの割り当て			公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	リソース管理 ID			テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
	削除する			リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
	ネットワーク仮想化 **(PFC 連携時のみ表示)**			利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
	説明			ネットワークの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	ファイアウォール			
		ファイアウォール		ルールを適用するファイアウォールを選択します。
		アドレス交換		チェックボックスをオンにすると、アドレス交換 (NAT) ルールを適用することができます。
		パケットフィルタリングルール一覧		
			順番	ルールが適用される順番を表示します。
			名前	プロファイルの名前を表示します。 プロファイルを指定せずに設定したものは、「ユーザ定義」として表示されます。
			プロトコル	ユーザ定義ルールのプロトコルを表示します。
			送信元 IP	ユーザ定義ルールの送信元IPアドレスを表示します。
			送信元ポート	ユーザ定義ルールの送信元ポート番号を表示します。
			宛先 IP	ユーザ定義ルールの宛先IPアドレスを表示します。
			宛先ポート	ユーザ定義ルールの宛先ポート番号を表示します。
			処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
			[↑]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ前に移動します。
			[↓]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ後ろに移動します。
			追加	パケットフィルタリングルールを追加します。クリックすると、[パケットフィルタリングルール一覧] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。
			削除	選択したパケットフィルタリングルールを [パケットフィルタリングルール一覧] グループボックスから削除します。
[OK]				論理ネットワーク追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				論理ネットワーク追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

パケットフィルタリングルール一覧の [追加] をクリックすると、[パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。

関連情報: [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスについては、「3.20.1 論理ネットワーク追加」を参照してください。

◆ [ルータ] タブ ([ネットワーク仮想化] プルダウンボックスで "Programmable Flow" を選択した場合)

論理ネットワーク編集	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。
タグ	検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。

	公開範囲		公開範囲の設定を選択します。
		公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
		公開範囲を設定します。	公開範囲を設定します。
	テナントへの割り当て		公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
	ネットワーク仮想化		テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
	説明		リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
	ルータ		
		ルータ名	ルータ名を表示し、編集もできます。 ルータ名を指定しなかった場合、編集内容を保存する際に、[ルータ] タブのすべての設定が削除されます。
		デフォルトゲートウェイ	ルータのデフォルトゲートウェイを表示し、編集もできます。
		インターフェース一覧	
			名前	インターフェース名を表示します。
			IP アドレス	インターフェースのIPアドレスとプレフィックスを表示します。
			接続先	インターフェースの接続先である仮想ブリッジ名を表示します。
			編集	インターフェースの編集を行います。[編集] をクリックすると、「インターフェース編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	インターフェースを追加します。「インターフェース追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したインターフェースを [インターフェース一覧] グループボックスから削除します。
		ルーティング一覧	
			宛先 IP アドレス	ルーティングする宛先IPアドレスを表示します。
			転送先 IP アドレス	ルーティングの転送先IPアドレスを表示します。
			編集	ルーティングの編集を行います。[編集] をクリックすると、「ルーティング編集」ダイアログボックスが表示されます。
			追加	ルーティングを追加します。「ルーティング追加」ダイアログボックスが表示されます。
			削除	選択したルーティングを [ルーティング一覧] グループボックスから削除します。
[OK]			論理ネットワーク編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

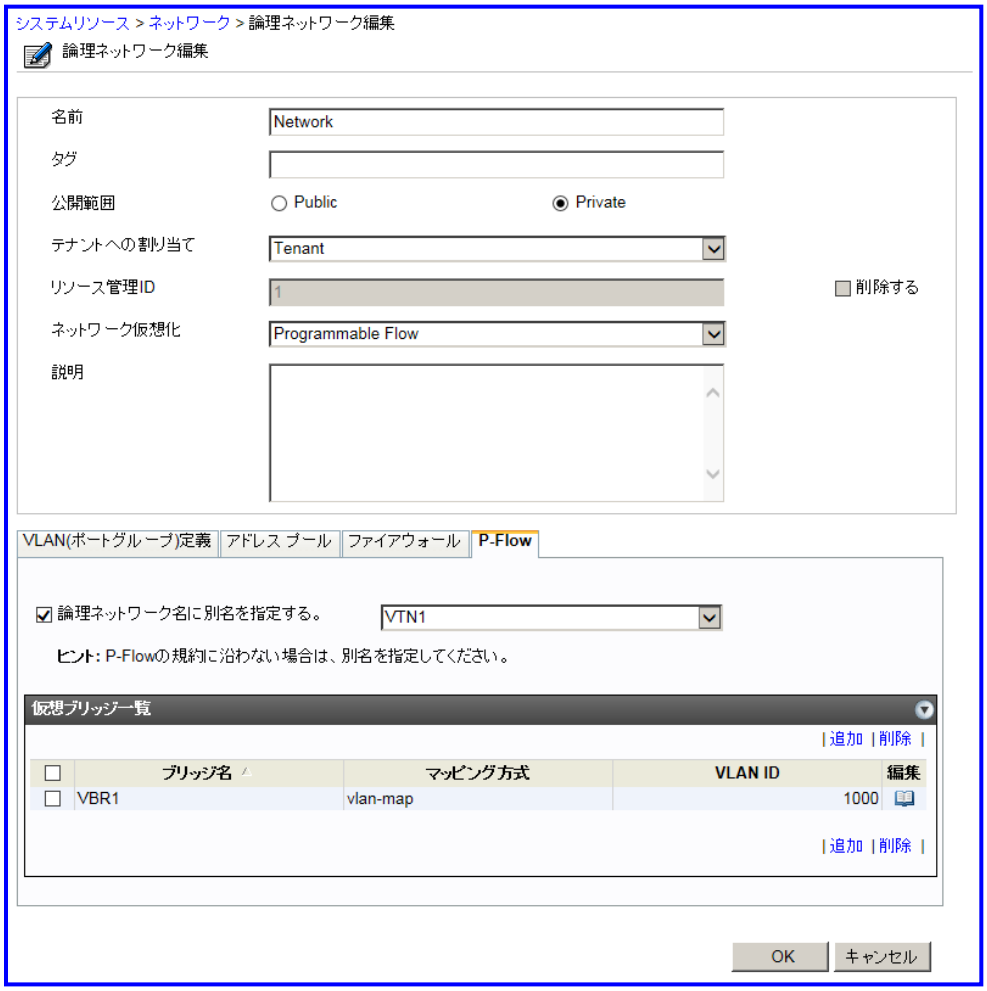
[キャンセル]	論理ネットワーク編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[インターフェース一覧] グループボックスから [追加] をクリックすると、「インターフェース追加」ダイアログボックスが表示されます。

また、[ルーティング一覧] グループボックスから [追加] をクリックすると、「スタティックルーティング追加」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「インターフェース追加」ダイアログボックス、「スタティックルーティング追加」ダイアログボックスについては、「3.20.1 論理ネットワーク追加」を参照してください。

◆ [P-Flow] タブ ([ネットワーク仮想化] プルダウンボックスで "Programmable Flow" を選択した場合)



論理ネットワーク編集	
名前 **(入力必須)**	論理ネットワーク名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。 [P-Flow] タブの [論理ネットワーク名に別名を指定する。] チェックボックスがオフの場合、入力できる文字数は31文字以内です。使用できる半角記号は、_ です。
タグ	検索用のタグを表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
公開範囲	公開範囲の設定を選択します。
Public	公開範囲を設定せずに、すべてのグループに公開します。
Private	公開範囲を設定します。
テナントへの割り当て	公開範囲を設定する場合、公開先のテナント名を選択します。公開範囲が "Private" の場合のみ設定することができます。
リソース管理 ID	テナントに割り当てられたリソースIDが表示されます。編集はできません。
削除する	リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。リソース管理IDが割り振られたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
ネットワーク仮想化	利用するネットワーク仮想化機能を選択します。
説明	ネットワークの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
P-Flow	
論理ネットワーク名に別名を指定する。	論理ネットワーク名がP-Flowの規約に沿わない場合は、チェックボックスをオンにして別名を指定します。入力できる文字数は31文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("_") です。
仮想ブリッジ一覧	
ブリッジ名	仮想ブリッジ名を表示します。
マッピング方式	仮想ブリッジを設定するマッピング方式を表示します。
VLAN ID	仮想ブリッジに設定するVLAN IDを表示します。
編集	仮想ブリッジを編集します。「仮想ブリッジ編集」ダイアログボックスが表示されます。
追加	仮想ブリッジを追加します。「仮想ブリッジ追加」ダイアログボックスが表示されます。
削除	選択した仮想ブリッジを [仮想ブリッジ一覧] グループボックスから削除します。
[OK]	論理ネットワーク編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	論理ネットワーク編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「仮想ブリッジ追加」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「仮想ブリッジ追加」ダイアログボックスについては、「3.20.1　論理ネットワーク追加」を参照してください。

3.20.3. 論理ネットワーク削除

論理ネットワークを削除します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックし、メインウィンドウに [論理ネットワーク一覧] グループボックスを表示します。[論理ネットワーク一覧] グループボックスから削除する論理ネットワークを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、論理ネットワークが削除されます。

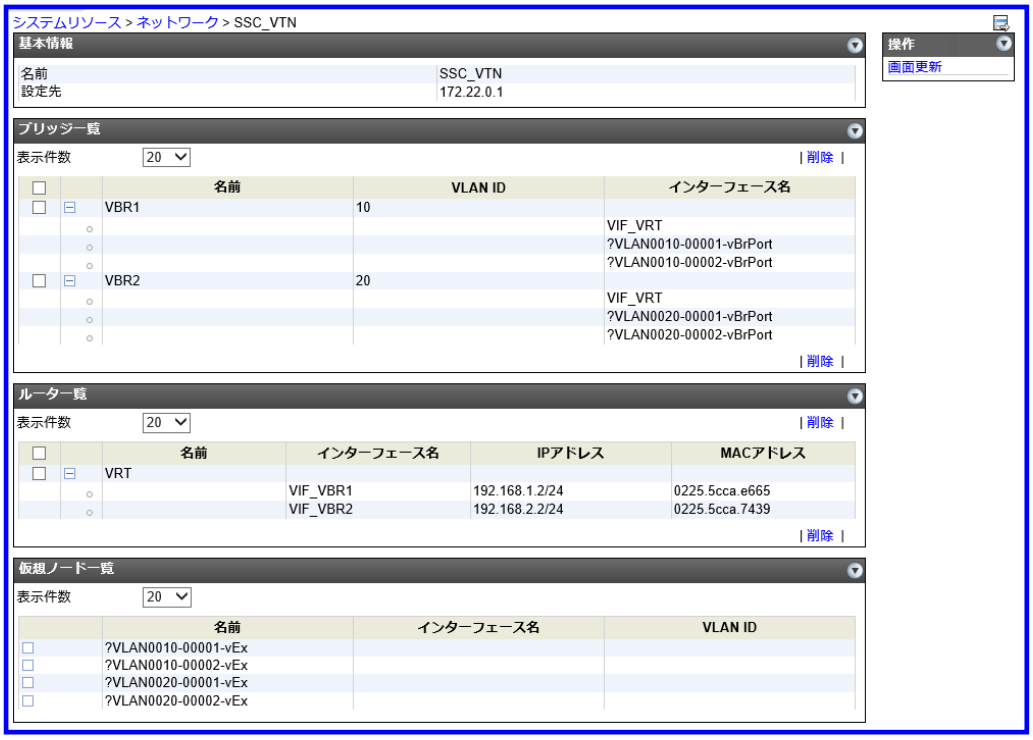
3.21. 仮想ネットワーク (VTN) の詳細情報

仮想ネットワーク (VTN) の詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックすると、[論理ネットワーク一覧] グループボックス、[VLAN 利用状況] グループボックスが表示されます。

PFC 連携時は、[VTN 一覧] グループボックスが表示されます。

[VTN 一覧] グループボックスからVTN名をクリックすると、メインウィンドウに仮想ネットワーク詳細情報が表示されます。



基本情報	
名前	VTN名を表示します。
設定先	VTNが設定されているPFCを表示します。
ブリッジ一覧	
名前	仮想ブリッジ名を表示します。
VLAN ID	仮想ブリッジに設定されているVLAN IDを表示します。
インターフェース名	インターフェース名を表示します。
削除	選択した仮想ブリッジを削除します。
ルーター一覧	
名前	仮想ルータ名を表示します。

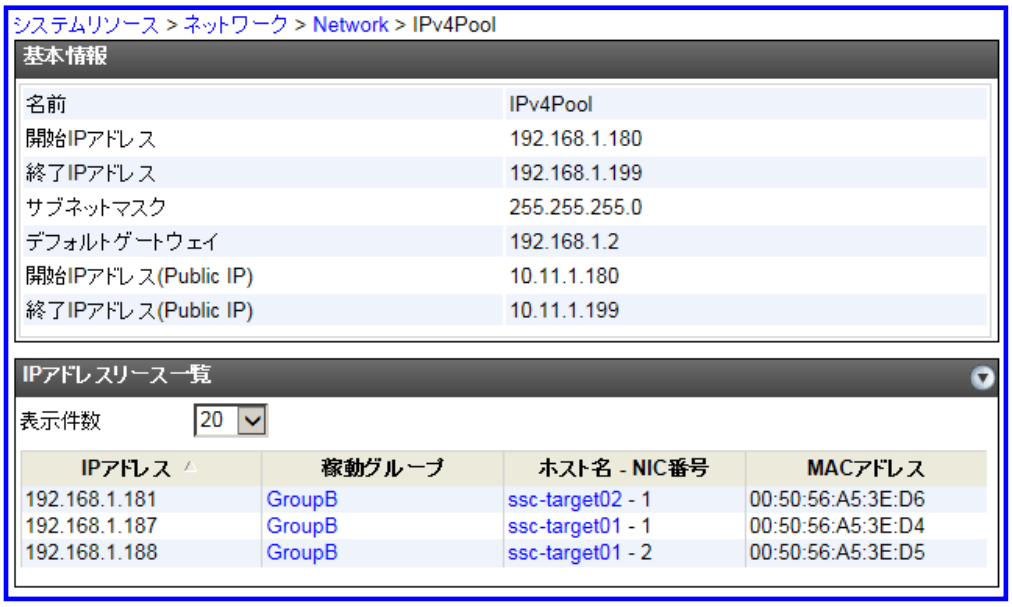
	インターフェース名	インターフェース名を表示します。
	IP アドレス	インターフェースのIPアドレスとプレフィックスを表示します。
	MAC アドレス	インターフェースのMACアドレスを表示します。
	削除	選択した仮想ルータを削除します。
仮想ノード一覧		
	名前	仮想ノード名を表示します。
	インターフェース名	インターフェース名を表示します。
	VLAN ID	インターフェースに設定されているVLAN IDを表示します。

3.22. アドレスプールの詳細情報

アドレスプールの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ネットワーク] をクリックすると、[論理ネットワーク一覧] グループボックス、[VLAN 利用状況] グループボックスが表示されます。[論理ネットワーク一覧] グループボックスからネットワーク名をクリックし、論理ネットワーク詳細画面を表示します。[アドレスプール] グループボックスからプール名をクリックすると、メインウィンドウにアドレスプールの詳細情報が表示されます。

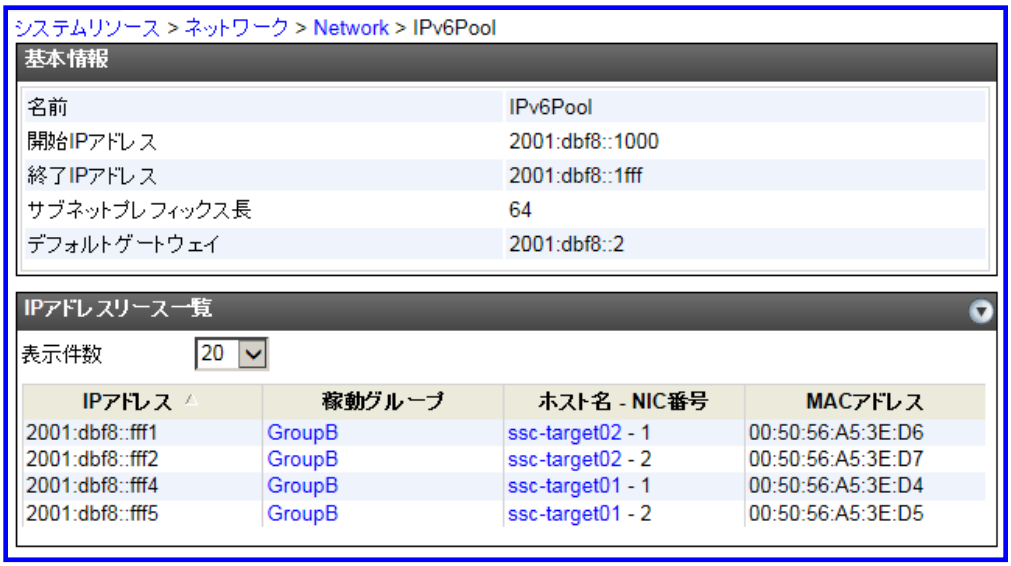
◆ IPv4 の場合



基本情報	
名前	アドレスプール名を表示します。
開始 IP アドレス	開始IPアドレスを表示します。
終了 IP アドレス	終了IPアドレスを表示します。
サブネットマスク	サブネットマスクを表示します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが設定されている場合、デフォルトゲートウェイを表示します。
開始 IP アドレス(Public IP)	Public IPとして設定した開始IPアドレスを表示します。
終了 IP アドレス(Public IP)	Public IPとして設定した終了IPアドレスを表示します。
IP アドレスリース一覧	
IP アドレス	アドレスプールから払い出したIPアドレスを表示します。
稼動グループ	払い出し先のホストが稼動しているグループを表示します。

ホスト名 - NIC 番号	払い出し先のホスト名とNIC番号を表示します。
MAC アドレス	NICのMACアドレスを表示します。

◆ IPv6 の場合

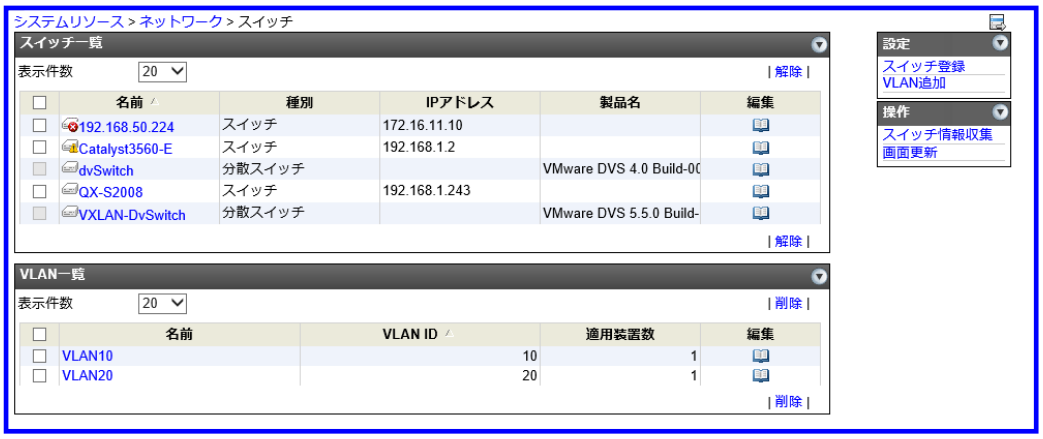


基本情報	
名前	アドレスプール名を表示します。
開始 IP アドレス	開始IPアドレスを表示します。
終了 IP アドレス	終了IPアドレスを表示します。
サブネットプレフィックス長	サブネットプレフィックス長を表示します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイが設定されている場合、デフォルトゲートウェイを表示します。
IP アドレスリース一覧	
IP アドレス	アドレスプールから払い出したIPアドレスを表示します。
稼動グループ	払い出し先のホストが稼動しているグループを表示します。
ホスト名 - NIC 番号	払い出し先のホスト名とNIC番号を表示します。
MAC アドレス	NICのMACアドレスを表示します。

3.23. スイッチ

[スイッチ] を表示します。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックすると、メインウィンドウに [スイッチ一覧] グループボックス、および [VLAN 一覧] グループボックスが表示されます。



スイッチ一覧	
名前	スイッチ名を表示します。名前をクリックすると、メインウィンドウにスイッチの詳細情報が表示されます。
種別	デバイスの種別を表示します。
IP アドレス	スイッチのIPアドレスを表示します。
製品名	スイッチの製品名を表示します。
編集	スイッチ情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「スイッチ編集」ウィンドウに遷移します。
解除	選択したスイッチを管理外にします。
VLAN 一覧	
名前	VLAN名を表示します。名前をクリックすると、メインウィンドウにVLANの詳細情報が表示されます。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
適用装置数	VLANに適用している装置の数を表示します。
編集	VLAN情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「VLAN編集」ウィンドウに遷移します。
削除	選択したVLANを削除します。

3.23.1. 仮想スイッチ登録

仮想スイッチを登録します。

仮想スイッチは、仮想化基盤製品の情報を収集することにより、SystemProvisioning に登録されます。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックすると、メインウィンドウにスイッチの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スイッチ情報収集] をクリックします。

登録された仮想スイッチの確認方法については、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、VM サーバの詳細情報が表示されます。[仮想スイッチ一覧] グループボックスに仮想スイッチが表示されます。

3.24. スイッチの詳細情報

スイッチの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のスイッチのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにスイッチの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ

基本情報	
名前	スイッチ名を表示します。
種別	スイッチの種別を表示します。
IP アドレス	スイッチのIPアドレスを表示します。
製品名	スイッチの製品名を表示します。
管理状態	スイッチの管理状態を表示します。
サマリステータス	スイッチのサマリステータスを表示します。
ハードウェアステータス	スイッチのハードウェアステータスを表示します。
説明	スイッチの説明を表示します。
ポリシー名#1	スイッチのポリシー名を表示します。
ポート一覧	
ポート	スイッチに設定されたポートを表示します。ポートをクリックすると、ポートの詳細情報に遷移します。

接続マシン - NIC 番号	ポートと結線されているマシンとNIC番号を表示します。接続マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報に遷移します。
タグ	スイッチにタグが設定されている場合、チェックが表示されます。
VLAN 名	ポートに設定されているVLAN名を表示します。VLAN名をクリックすると、VLANの詳細情報に遷移します。
適用状態	VLANの適用状態を表示します。
イベント履歴	
イベント番号	スイッチのイベント履歴番号を表示します。クリックすると、イベントの詳細情報へ遷移します。
日付	イベント日付を表示します。
レベル	イベントのレベルを表示します。
メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

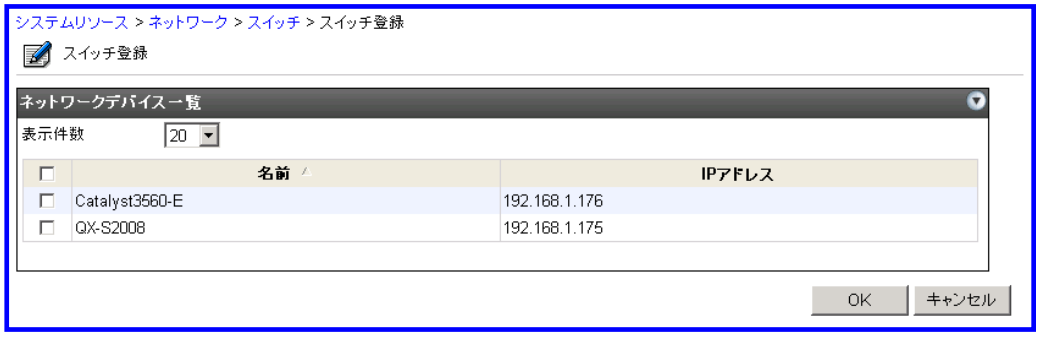
◆ [トポロジ]

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

3.24.1. スイッチ登録

物理スイッチの登録を行います。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックし、メインウィンドウに [スイッチ一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [スイッチ登録] をクリックすると、メインウィンドウに「スイッチ登録」が表示されます。登録するスイッチを選択し、[OK] をクリックするとスイッチが登録されます。



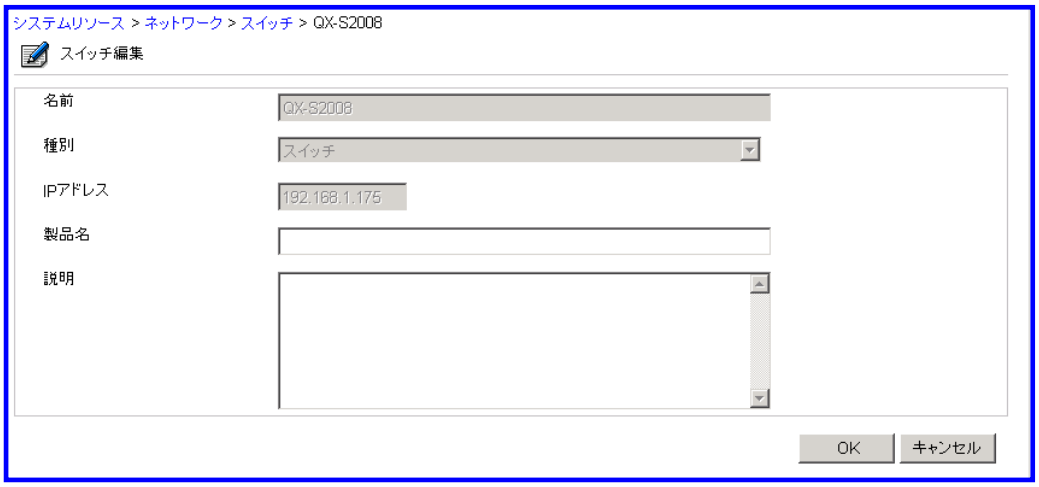
スイッチ登録	
ネットワークデバイス一覧	
名前	スイッチ名を表示します。
IP アドレス	IPアドレスを表示します。

[OK]	スイッチ登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スイッチ登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.24.2. スイッチ編集

スイッチの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから編集を行うスイッチのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスイッチの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スイッチ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「スイッチ編集」が表示されます。スイッチ情報を編集し、[OK] をクリックするとスイッチ情報が変更されます。



スイッチ編集	
名前	スイッチ名を表示します。編集はできません。
種別	スイッチの種別を表示します。編集はできません。
IP アドレス	IPアドレスを表示します。編集はできません。
製品名	製品名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。
説明	スイッチの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	スイッチ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スイッチ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.24.3. スイッチ解除

スイッチの解除を行います。

[システムリソース] ツリーから解除を行うスイッチのアイコンをクリックし、メインウィンドウにスイッチの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [スイッチ解除] をクリックすると、解除されます。

3.25. ポートの詳細情報

ポートの詳細情報を表示します。

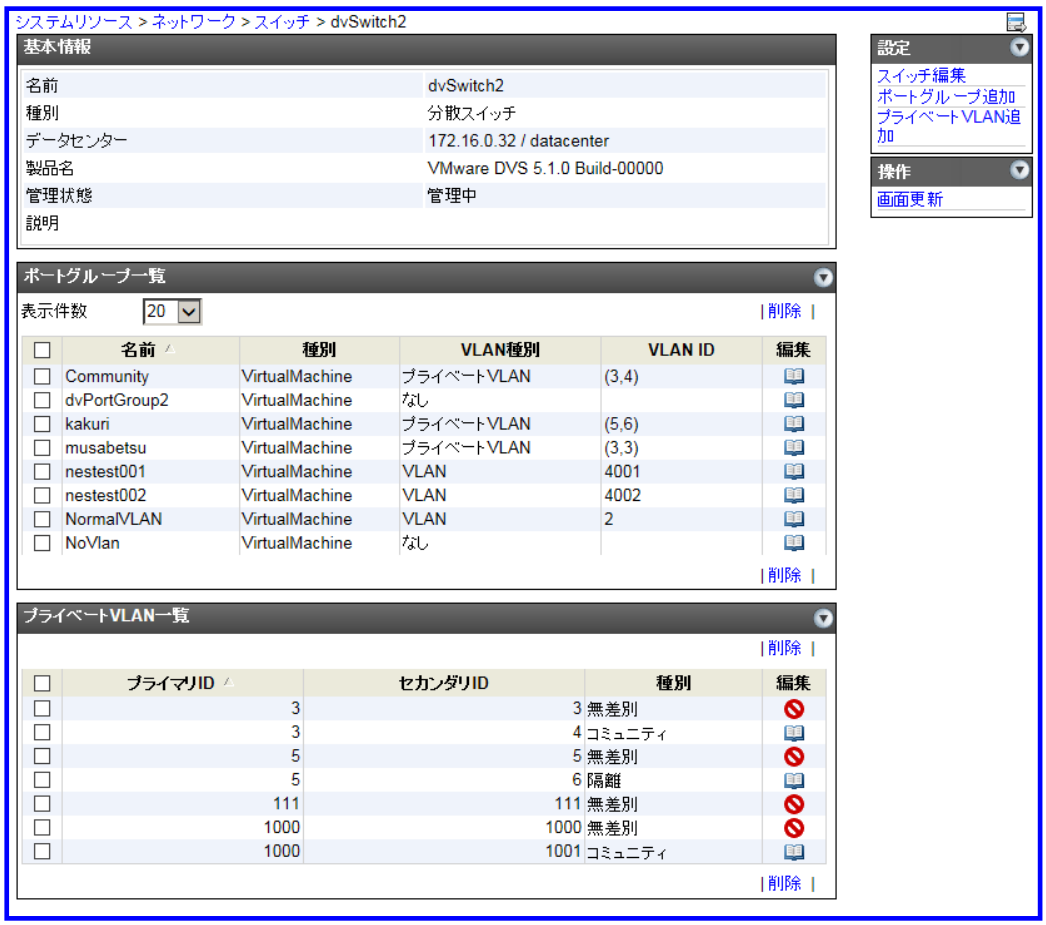
スイッチの詳細情報、または VLAN の詳細情報から対象のポート名を表示すると、メインウィンドウにポートの詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	ポート名を表示します。
接続マシン	ポートと結線されているマシン名を表示します。
NIC 番号	ポートと結線されているNIC番号を表示します。
MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスを表示します。
VLAN 一覧	
VLAN 名	ポートに適用されているVLAN名を表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
適用状態	VLANの適用状態を表示します。
解除	選択したVLANを解除します。

3.26. 分散スイッチの詳細情報

分散スイッチの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象の分散スイッチのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに分散スイッチの詳細情報が表示されます。



基本情報		
	名前	分散スイッチ名を表示します。
	種別	分散スイッチの種別を表示します。
	データセンター	分散スイッチを管理しているDataCenter名を表示します。
	製品名	分散スイッチの製品名を表示します。
	管理状態	分散スイッチの管理状態を表示します。
	説明	分散スイッチの説明を表示します。
ポートグループ一覧		
	名前	ポートグループ名を表示します。
	種別	ポートグループのネットワーク種別を表示します。

VLAN 種別	ポートグループのVLAN種別を表示します。
VLAN ID	ポートグループのVLAN IDを表示します。
編集	ポートグループ情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「ポートグループ追加 (編集)」ダイアログボックスが表示されます。
削除	選択したVLANを削除します。
プライベート VLAN 一覧	
プライマリ ID	プライベートVLANのプライマリIDを表示します。
セカンダリ ID	プライベートVLANのセカンダリIDを表示します。
種別	プライベートVLANの種別を表示します。
編集	プライベートVLANの編集を行います。[編集] をクリックすると、「プライベートVLAN追加(編集)」ダイアログボックスが表示されます。
削除	選択したプライベートVLANを削除します。

3.26.1. 分散スイッチ追加

分散スイッチを追加します。

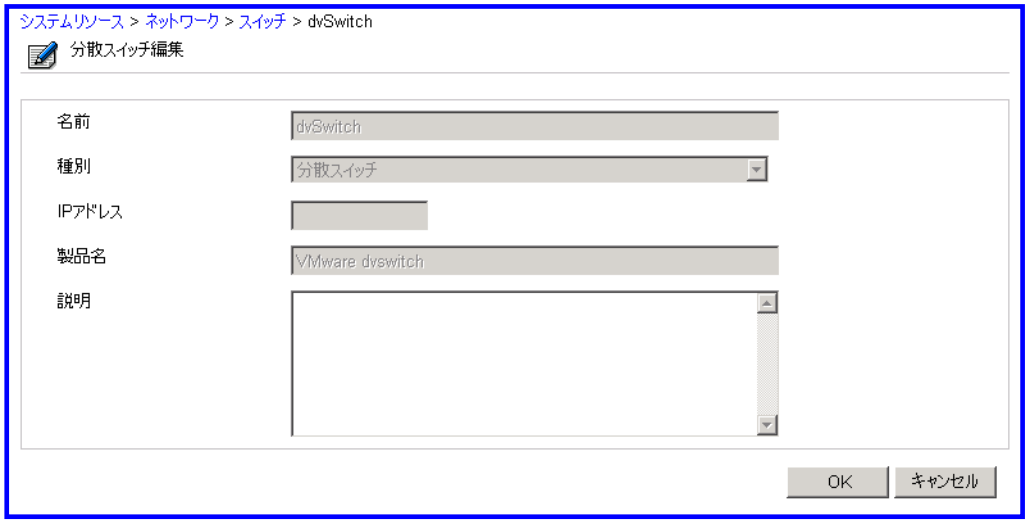
分散スイッチは、仮想化基盤製品 (XenServer Pool Master を除く) 上で事前に作成してください。分散スイッチは、仮想化基盤製品 (XenServer Pool Master を除く) の情報を収集することにより SystemProvisioning に登録されます。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックします。[設定] メニューから [スイッチ情報収集] をクリックすると、[スイッチ] の下に分散スイッチが追加されます。

3.26.2. 分散スイッチ編集

分散スイッチを編集します。

[システムリソース] ツリーから対象の分散スイッチのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに分散スイッチの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スイッチ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「分散スイッチ編集」が表示されます。分散スイッチは、[説明] テキストボックスのみ編集できます。

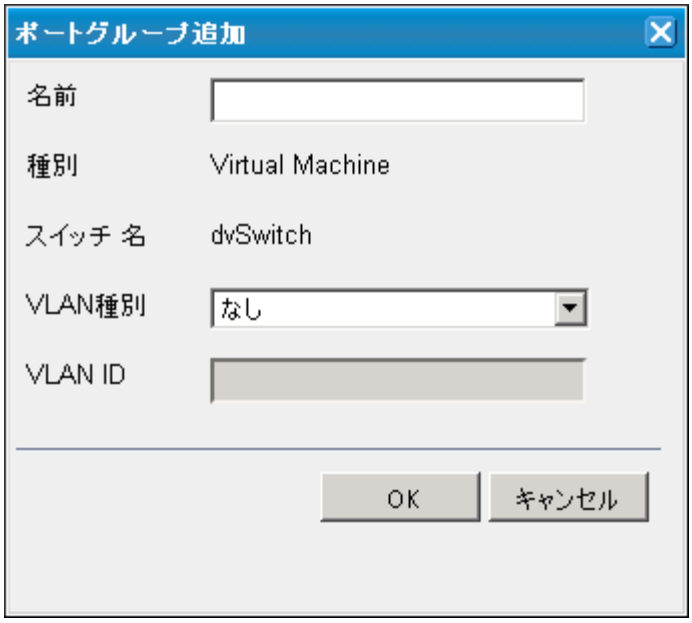


分散スイッチ編集	
名前	分散スイッチ名を表示します。編集はできません。
種別	分散スイッチの種別を表示します。変更はできません。
IP アドレス	分散スイッチのIPアドレスを表示します。編集はできません。
製品名	分散スイッチの製品名を表示します。変更はできません。
説明	分散スイッチの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	分散スイッチ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	分散スイッチ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.26.3. ポートグループ追加 / 編集

ポートグループを追加 / 編集します。

[システムリソース] ツリーから対象の分散スイッチのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに分散スイッチの詳細情報が表示されます。ポートグループを追加する場合、[設定] メニューから [ポートグループ追加] をクリックすると、「ポートグループ追加」ダイアログボックスが表示されます。ポートグループを編集する場合、[ポートグループ一覧] グループボックスから編集するポートグループを選択し、[編集] をクリックすると、「ポートグループ編集」ダイアログボックスが表示されます。

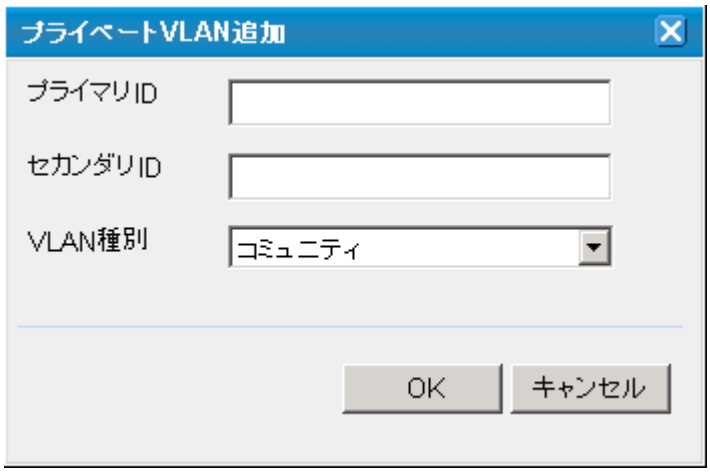


ポートグループ追加	
名前 **(入力必須)**	ポートグループ名を入力します。
種別	ポートグループのネットワーク種別を表示します。
スイッチ名	スイッチ名を表示します。
VLAN 種別	ポートグループに設定するVLAN種別を選択します。
VLAN ID	ポートグループに設定するVLAN IDを入力します。「1～4094」の範囲で入力できます。プライベートVLANで既に使われているVLAN IDは、使用できません。
[OK]	ポートグループ追加、もしくは編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ポートグループ追加、もしくは編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.26.4. プライベート VLAN 追加・編集

プライベート VLAN を追加します。

[システムリソース] ツリーから対象の分散スイッチのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに分散スイッチの詳細情報が表示されます。プライベート VLAN を追加する場合、[設定] メニューから [プライベート VLAN 追加] をクリックすると、「プライベート VLAN 追加」ダイアログボックスが表示されます。プライベートVLANを編集する場合、[プライベートVLAN一覧] グループボックスから編集するプライベートVLANを選択し、[編集] をクリックすると、「プライベート VLAN 編集」ダイアログボックスが表示されます。



プライベート VLAN 追加	
プライマリ ID	プライベートVLANのプライマリIDを入力します。VLAN (ポートグループ) で既に使われているVLAN IDは、使用できません。
セカンダリ ID	プライベートVLANのセカンダリIDを入力します。VLAN (ポートグループ) で既に使われているVLAN IDは、使用できません。
VLAN 種別	プライベートVLANのVLAN種別を選択します。
[OK]	プライベートVLAN追加、もしくは編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	プライベートVLAN追加、もしくは編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.27. VLAN の詳細情報

VLAN の詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックし、メインウィンドウに [VLAN 一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [スイッチ登録] をクリックすると、メインウィンドウに「スイッチ登録」が表示されます。[VLAN 一覧] グループボックスから VLAN 名をクリックすると、メインウィンドウに VLAN の詳細情報が表示されます。

もしくは、スイッチの詳細情報、ネットワークの詳細情報の [VLAN 一覧] グループボックスから VLAN 名をクリックすると、VLAN の詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	VLAN名を表示します。
ID	VLAN IDを表示します。
説明	VLANの説明を表示します。
ポート一覧	
スイッチ名	スイッチ名を表示します。スイッチ名をクリックすると、スイッチの詳細情報に遷移します。
ポート	スイッチに設定されたポートを表示します。ポートをクリックすると、ポートの詳細情報に遷移します。
適用状態	VLANの適用状態を表示します。
接続マシン - NIC 番号	ポートと結線されているマシンとNIC番号を表示します。接続マシン名をクリックすると、マシンの詳細情報に遷移します。
MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスが表示されます。
タグ	ポートにタグが設定されている場合、チェックが表示されます。
解除	選択したVLANを解除します。

3.27.1. VLAN 追加

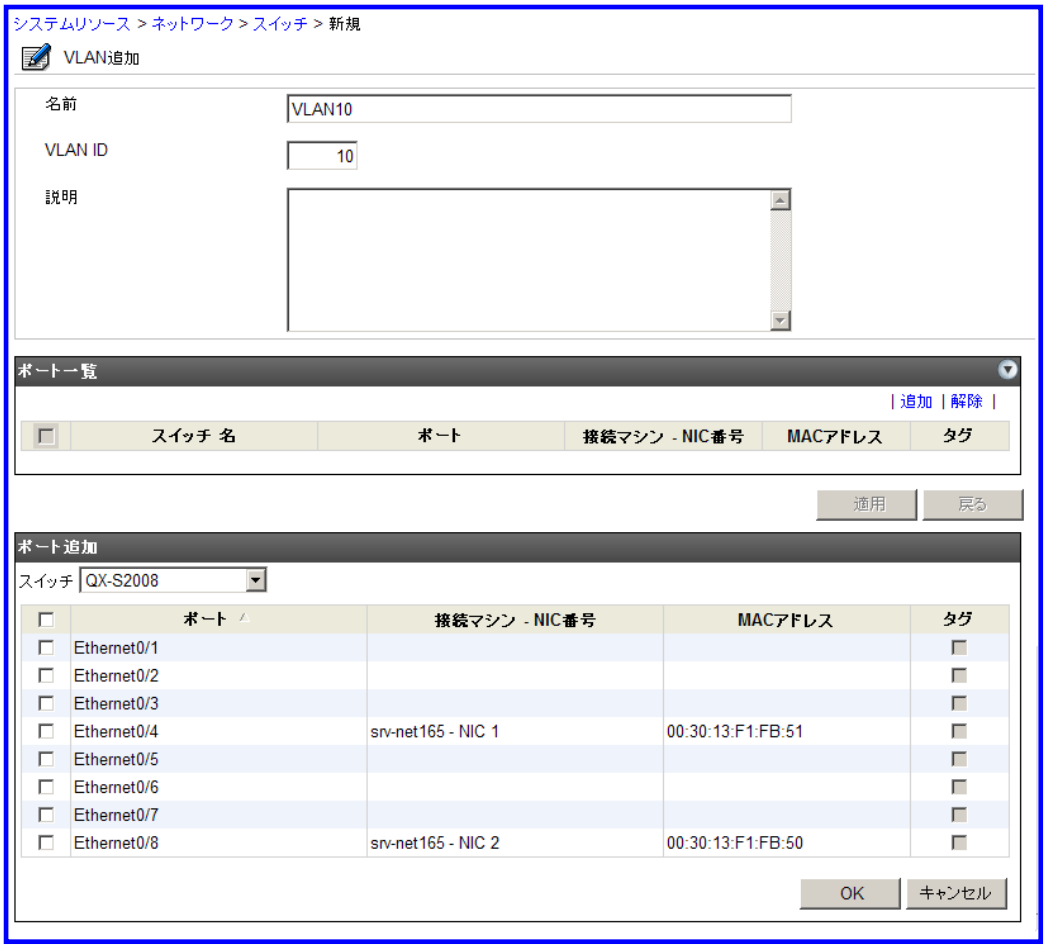
スイッチに VLAN を追加します。同時に、VLAN にスイッチ間を接続するポート、および外部ネットワークに接続するポートを割り当てます。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックし、メインウィンドウに [VLAN 一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [VLAN 追加] をクリックすると、メインウィンドウに「VLAN 追加」が表示されます。追加する VLAN 情報を入力、およびポートを選択し、[OK] をクリックすると VLAN が追加されます。

VLAN 追加		
	名前 **(入力必須)**	VLAN名を入力します。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
	VLAN ID	VLAN IDを入力します。VLAN IDに有効な数値は装置によって異なります。「1～4094」の範囲で入力できます。
	説明	VLANの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	ポート一覧	
	スイッチ名	スイッチ名を表示します。
	ポート	スイッチに設定されたポート名を表示します。
	接続マシン - NIC 番号	ポートと結線されているマシンとNIC番号を表示します。
	MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスを表示します。
	タグ	NetvisorProで管理、登録されているスイッチで、タグ情報が設定されている場合、チェックボックスはオンの状態で表示されます。設定されていない場合は、オフの状態で表示されます。

		追加	ポート情報を追加します。[ポート一覧] グループボックスの下部に [ポート追加] グループボックスが表示されます。
		解除	選択したポート情報を [ポート一覧] グループボックスから削除します。
[適用]			VLAN追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[戻る]			VLAN追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

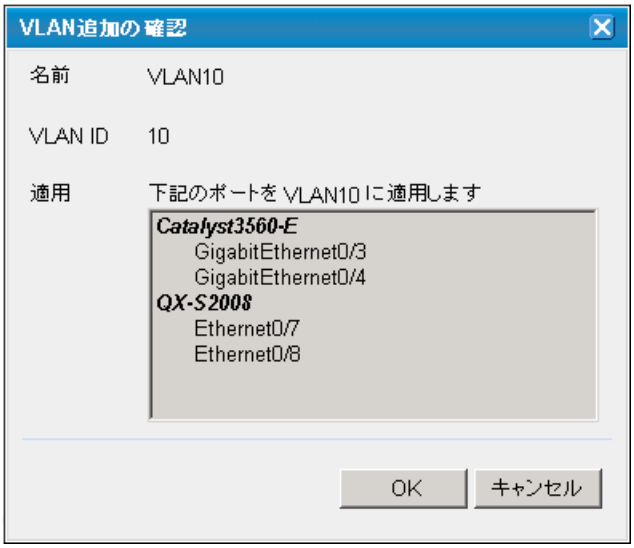
[追加] をクリックすると、[ポート一覧] グループボックスの下部に [ポート追加] グループボックスが表示されます。



ポート追加	
スイッチ	SigmaSystemCenterで管理するスイッチを選択します。
ポート	スイッチに設定されたポート名を表示します。
接続マシン - NIC 番号	ポートに結線されているマシンとNIC番号を表示します。
MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスを表示します。

タグ	NetvisorProで管理、登録されているスイッチで、タグ情報を設定する場合、チェックボックスはオンにします。ポートのチェックボックスがオンの場合のみ選択することができます。
[OK]	選択したポート情報を保存し、[ポート一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	選択したポート情報を保存せずに、[ポート追加] グループボックスを閉じます。

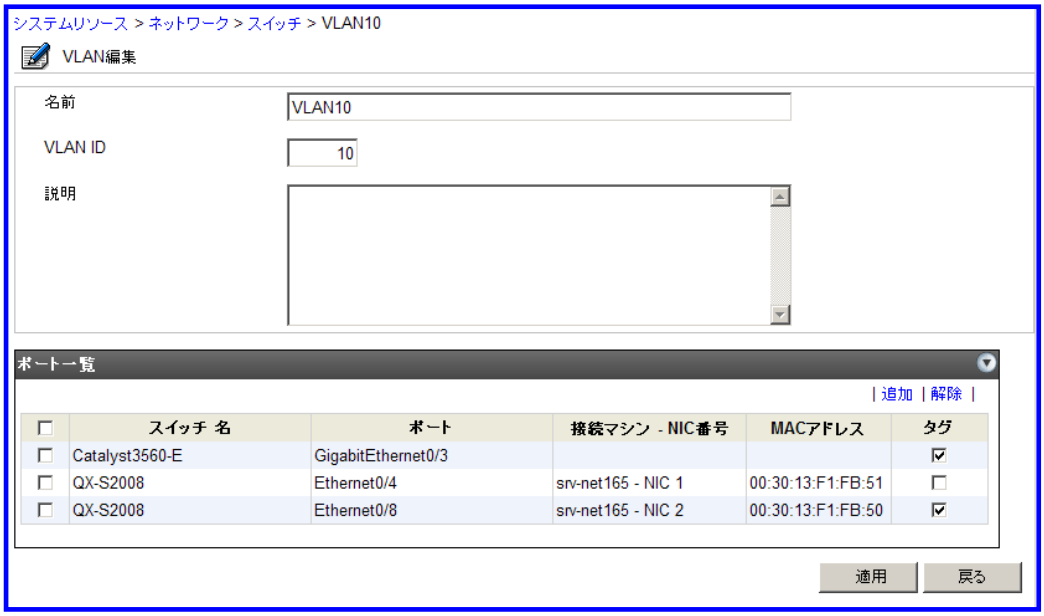
「VLAN 追加」ウィンドウの [適用] をクリックすると、「VLAN 追加の確認」ウィンドウが表示されます。



3.27.2. VLAN 編集

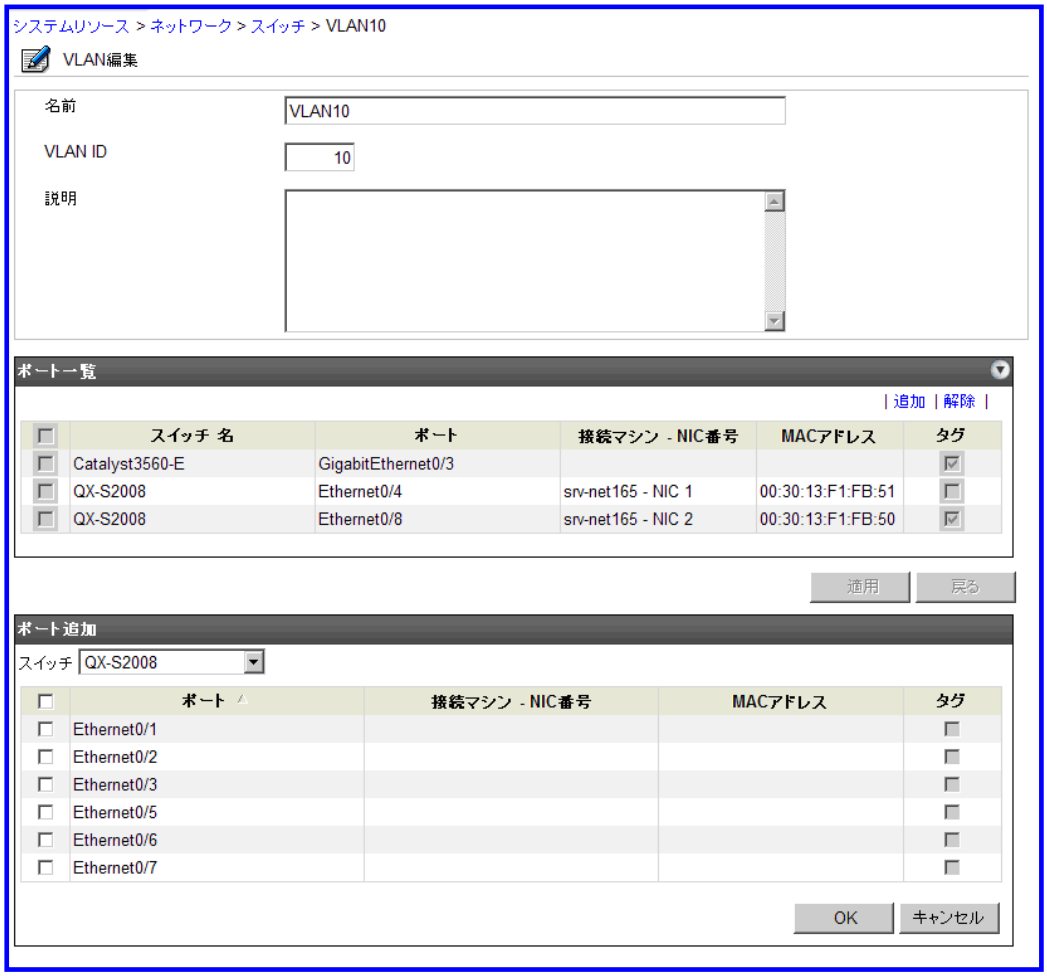
スイッチに登録されている VLAN を編集します。同時に、VLAN に登録されているスイッチ間を接続するポート、外部ネットワークに接続するポートを編集します。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックし、メインウィンドウに [VLAN 一覧] グループボックスを表示します。[VLAN 一覧] グループボックスから編集する VLAN の [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「VLAN 編集」が表示されます。VLAN 情報を編集し、[OK] をクリックすると VLAN 情報が変更されます。



VLAN 編集	
名前 **(入力必須)**	VLAN名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
VLAN ID **(入力必須)**	VLAN IDを表示し、編集もできます。VLAN IDに有効な数値は装置によって異なります。「1～4094」の範囲で入力できます。
説明	VLANの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
ポート一覧	
スイッチ名	スイッチ名を表示します。
ポート	スイッチに設定されたポートを表示します。
接続マシン - NIC 番号	ポートと結線されているマシンとNIC番号を表示します。
MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスを表示します。
タグ	NetvisorProで管理、登録されているスイッチで、タグ情報が設定されている場合、チェックボックスはオンの状態で表示され、設定されていない場合は、オフの状態で表示されます。
追加	ポート情報を追加します。[ポート一覧] グループボックスの下部に [ポート追加] グループボックスが表示されます。
削除	削除したポート情報を [ポート一覧] グループボックスから削除します。
[適用]	VLAN編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[戻る]	VLAN編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[ポート一覧] グループボックスの下部に [ポート一覧] グループボックスが表示されます。



ポート追加	
スイッチ	SigmaSystemCenterで管理するスイッチを選択します。
ポート	スイッチに設定されたポート名を表示します。
接続マシン - NIC 番号	ポートと結線されているマシンとNIC番号を表示します。
MAC アドレス	ポートと結線されているNICのMACアドレスを表示します。
タグ	NetvisorProで管理、登録されているスイッチで、タグ情報を設定する場合、チェックボックスをオンにします。ポートのチェックボックスがオンの場合のみ選択することができます。
[OK]	選択したポート情報を保存し、[ポート一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	選択したポート情報を保存せずに、[ポート追加] グループボックスを閉じます。

「VLAN 編集」ウィンドウの [適用] をクリックすると、「VLAN 追加の確認」ウィンドウが表示されます。

3.27.3. VLAN 削除

VLAN の削除を行います。

[システムリソース] ツリーから VLAN の削除を行うスイッチのアイコンをクリックし、メインウィンドウに [VLAN 一覧] グループボックスを表示します。削除する VLAN のチェックボックスをオンにし、[VLAN 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [VLAN 削除] をクリックすると、削除されます。

3.28. ロードバランサ

[ロードバランサ] を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ロードバランサ] をクリックすると、メインウィンドウに [ロードバランサー覧] グループボックスが表示されます。

ロードバランサー覧	
名前	ロードバランサ名を表示します。名前をクリックすると、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報が表示されます。
IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。
製品名	ロードバランサの製品名を表示します。
編集	ロードバランサ情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「ロードバランサ編集」ウィンドウに遷移します。
解除	選択したロードバランサを管理外にします。

3.29. ロードバランサの詳細情報

ロードバランサの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のロードバランサのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	ロードバランサ名を表示します。
種別	ロードバランサの種別を表示します。
IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。
製品名	ロードバランサの製品名を表示します。
管理状態	ロードバランサの管理状態を表示します。
サマリステータス	スイッチのサマリステータスを表示します。
ハードウェアステータス	スイッチのハードウェアステータスを表示します。
説明	ロードバランサの説明を表示します。
ロードバランサグループ一覧	
名前	ロードバランサグループ名を表示します。ロードバランサグループ名をクリックすると、ロードバランサグループの詳細情報に遷移します。
IP アドレス	ロードバランサグループのIPアドレスを表示します。
ポート	ロードバランサグループのポートを表示します。
リアルサーバ	リアルサーバのネットワークアドレスを表示します。
RS ポート	リアルサーバのRSポートを表示します。
編集	ロードバランサグループの編集を行います。「ロードバランサグループ編集」ウィンドウに遷移します。

	削除	チェックボックスを選択したロードバランサグループを削除します。
イベント履歴		
	イベント番号	ロードバランサのイベント履歴番号を表示します。クリックすると、イベントの詳細情報へ遷移します。
	日付	イベント日付を表示します。
	レベル	イベントのレベルを表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

3.29.1. ロードバランサ登録

ロードバランサの登録を行います。

[システムリソース] ツリーから [ロードバランサ] をクリックし、メインウィンドウに [ロードバランサ一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [LB 登録] をクリックすると、メインウィンドウに「ロードバランサ登録」が表示されます。登録するロードバランサを選択し、[OK] をクリックするとロードバランサが登録されます。

ロードバランサ登録		
	ネットワークデバイス一覧	
		名前	ロードバランサ名を表示します。
		IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。
	[OK]	ロードバランサ登録情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
	[キャンセル]	ロードバランサ登録情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.29.2. ロードバランサ編集

ロードバランサの編集を行います。

[システムリソース] ツリーから編集を行うロードバランサのアイコンをクリックし、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [LB 編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ロードバランサ編集」が表示されます。ロードバランサ情報を編集し、[OK] をクリックするとロードバランサ情報が変更されます。

ロードバランサ編集	
名前	ロードバランサ名を表示します。編集はできません。
種別	ロードバランサの種別を表示します。編集はできません。
IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。編集はできません。
製品名	ロードバランサの製品名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
説明	ロードバランサの説明を表示し、編集もできます。
[OK]	ロードバランサ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ロードバランサ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.29.3. ロードバランサ解除

ロードバランサの解除を行います。

[システムリソース] ツリーから解除を行うロードバランサのアイコンをクリックし、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [LB 解除] をクリックすると、解除されます。

3.30. ロードバランサグループの詳細情報

ロードバランサグループの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のロードバランサのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報が表示されます。[ロードバランサグループ一覧] グループボックスから対象のロードバランサグループ名をクリックすると、メインウィンドウにロードバランサグループの詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	ロードバランサグループ名を表示します。
仮想サーバ	ロードバランサグループの仮想サーバ名を表示します。
IP アドレス	ロードバランサグループのIPアドレスを表示します。
ポート	ロードバランサグループのポート番号を表示します。
負荷分散方式	ロードバランサグループの負荷分散方式を表示します。
セッション維持方式	ロードバランサグループのセッション維持方式を表示します。
クッキー	ロードバランサグループのクッキーを表示します。
プロトコル	ロードバランサグループのプロトコルを表示します。
リアルサーバ一覧	
名前	リアルサーバ名を表示します。リアルサーバ名をクリックすると、ホストの詳細情報に遷移します。
IP アドレス	リアルサーバのIPアドレスを表示します。
ポート	リアルサーバのポート番号を表示します。
重み	リアルサーバに設定された重みを表示します。
解除	選択したリアルサーバを解除します。

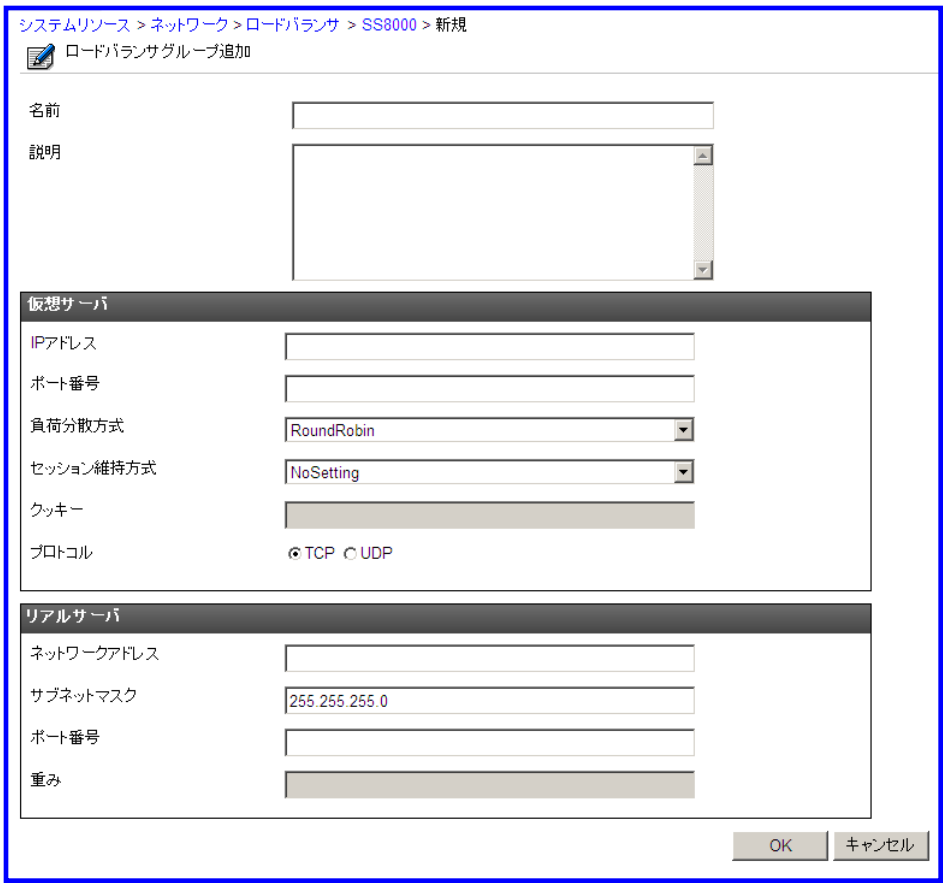
3.30.1. ロードバランサグループ追加

ロードバランサグループの追加を行います。

[システムリソース] ツリーからロードバランサグループを追加する対象のロードバランサのアイコンをクリックし、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [LB グループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ロードバランサグループ追加」が表示されます。追加するロードバランサグループ情報を入力し、[OK] をクリックするとロードバランサグループが追加されます。

ロードバランサとソフトウェアロードバランサの場合で画面が異なります。

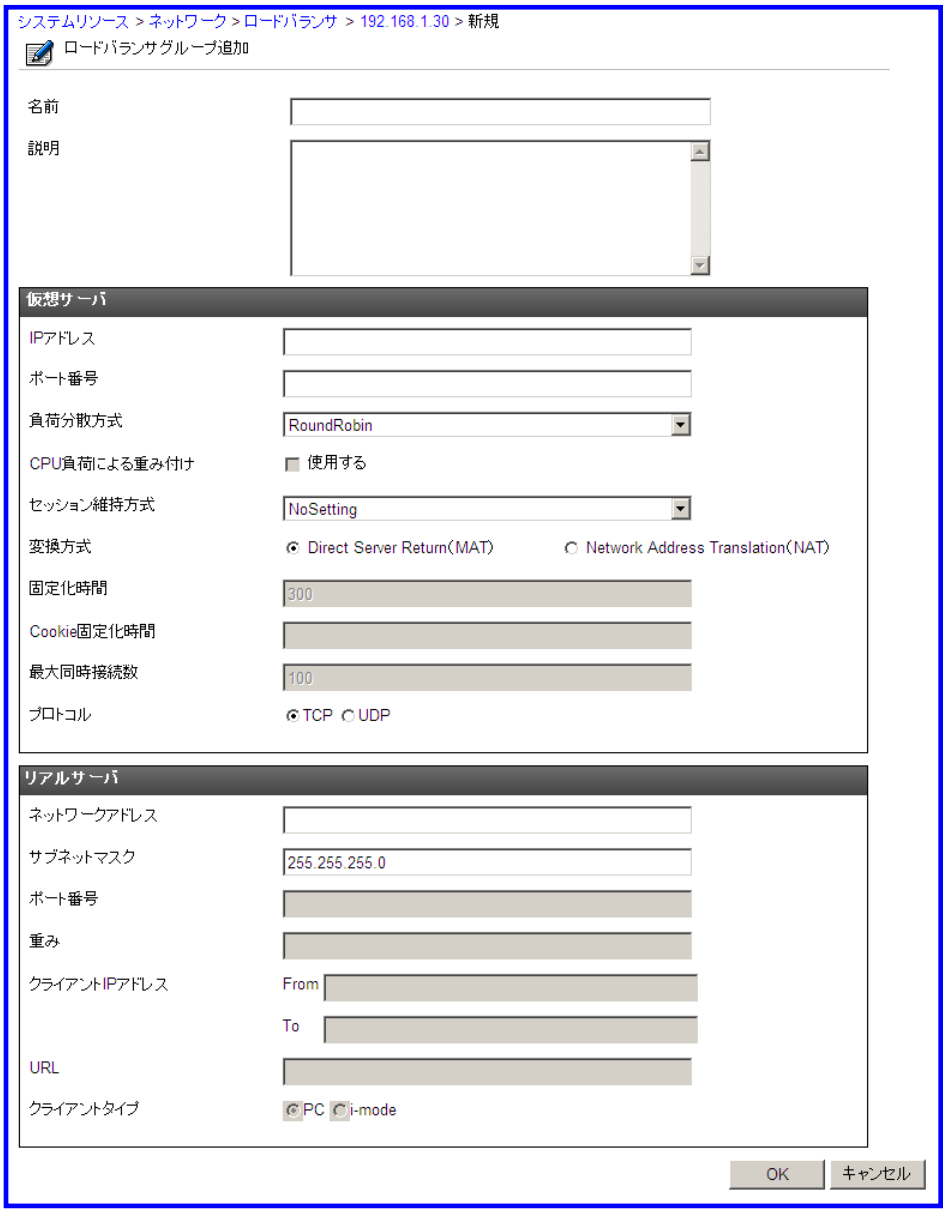
◆ NetvisorPro 管理ロードバランサの場合



ロードバランサグループ追加	
名前 **(入力必須)**	ロードバランサグループ名を入力します。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
説明	ロードバランサグループの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。

仮想サーバ		
	IP アドレス **(入力必須)**	仮想サーバのIPアドレスを入力します。
	ポート番号 **(入力必須)**	仮想サーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。
	負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を選択します。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。
	セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を選択します。使用する装置によりセッション維持方式で選択できる項目が変わります。
	クッキー	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie" を選択している場合のみクッキーを入力します。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字はアルファベットで始まる英数字、および半角記号 ("."、"-"、"_") です。
	プロトコル	仮想サーバのプロトコルを選択します。
リアルサーバ		
	ネットワークアドレス **(入力必須)**	リアルサーバのネットワークアドレスを入力します。
	サブネットマスク **(入力必須)**	リアルサーバのサブネットマスクを入力します。サブネットマスクに「255.255.255.255」に設定することで、サーバごとの設定を作成することができます。
	ポート番号 **(入力必須)**	リアルサーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。
	重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみ重みを入力します。「0～65000」の範囲で設定できます。
[OK]		ロードバランサグループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ロードバランサグループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ InterSecVM/LB の場合

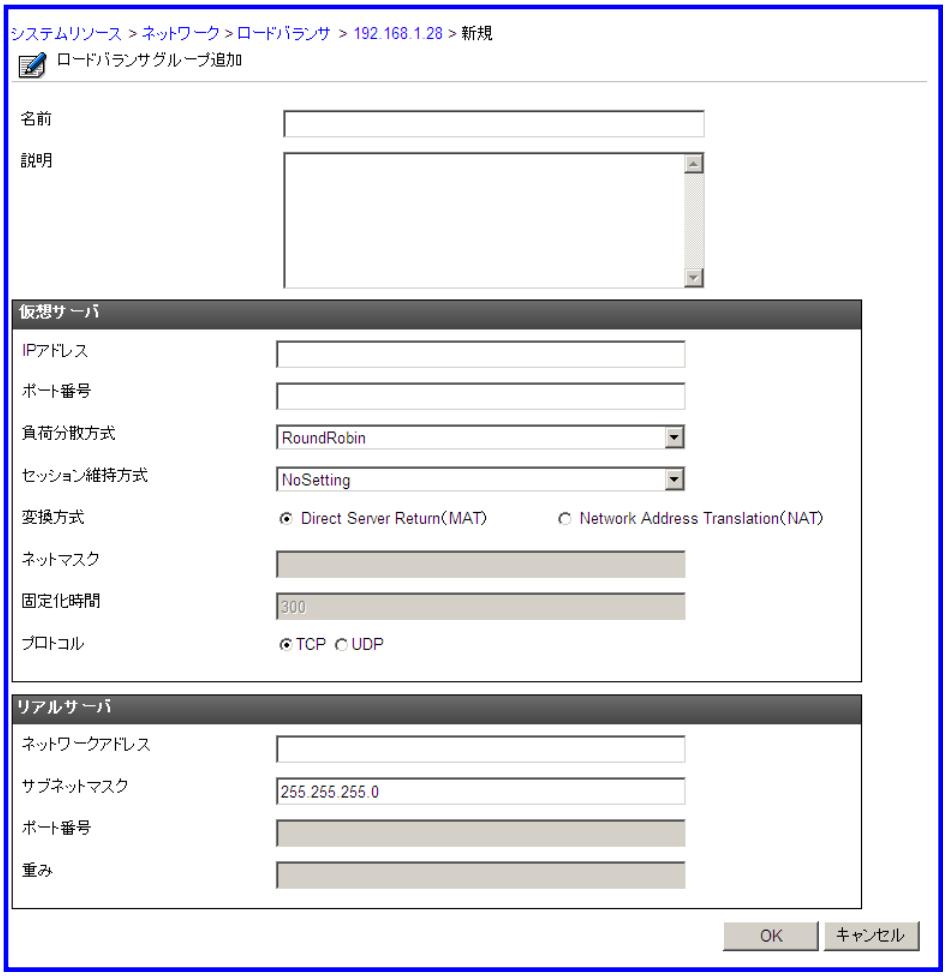


ロードバランサグループ追加	
名前 **(入力必須)**	ロードバランサグループ名を入力します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号（"_"、"-"）です。
説明	ロードバランサグループの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
仮想サーバ	
IP アドレス **(入力必須)**	仮想サーバのIPアドレスを入力します。

	ポート番号 **(入力必須)**	仮想サーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。 ポート番号を複数入力する場合、ポート番号を ", (カンマ区切り)" で入力してください。 例) 80,443 ポート番号の範囲指定を利用する場合、ポート番号を "-(ハイフン)" で入力してください。 例) 1024-2048
	負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を選択します。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。 InterSecVM V3.0以降の場合は、セッション維持方式に "RangeIp" が選択されているときは、負荷分散は選択できません。
	CPU 負荷による重み付け	[負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみ設定できます。
	セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を選択します。
	変換方式	仮想サーバの変換方式を選択します。
	固定化時間	仮想サーバの [セッション維持方式] プルダウンボックスを設定した場合、固定化時間を入力します。選択するセッション維持方式により、設定可能な範囲が以下のように変わります。 "SingleIp"、"RangeIp" のとき、「120～86400」 "Cookie"、"Url"、"ClientType" のとき、「0～86400」 InterSecVM V3.0以降の場合は、セッション維持方式に "RangeIp" が選択されているときは、固定化時間は入力できません。
	Cookie 固定化時間	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie" を選択した場合のみCookieによる固定化時間を入力します。「300～86400」の範囲で設定できます。
	最大同時接続数	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie"、"Url"、もしくは "ClientType" を選択している場合、クライアントの最大同時接続数を設定します。「1～8000」の範囲で設定できます。
	プロトコル	仮想サーバのプロトコルを選択します。
リアルサーバ		
	ネットワークアドレス **(入力必須)**	リアルサーバのネットワークアドレスを入力します。
	サブネットマスク **(入力必須)**	リアルサーバのサブネットマスクを入力します。サブネットマスクに「255.255.255.255」を設定することで、サーバごとの設定を作成することができます。
	ポート番号	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie"、"Url"、もしくは "ClientType" を選択した場合、リアルサーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。

	重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみ重みを入力します。「0～65000」の範囲で設定できます。
	クライアント IP アドレス	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "RangeIp" を選択した場合のみクライアントのIPアドレス範囲を入力します。範囲が単一のIPアドレスの場合、[From] と [TO] に同じIPアドレスを入力します。InterSecVM V3.0以降の場合は表示されません。
	URL	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "Url" を選択した場合のみ対象のURLを入力します。
	クライアントタイプ	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "ClientType" を選択した場合のみクライアントのタイプを選択します。
[OK]		ロードバランサグループの追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ロードバランサグループの追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Linux Virtual Server の場合



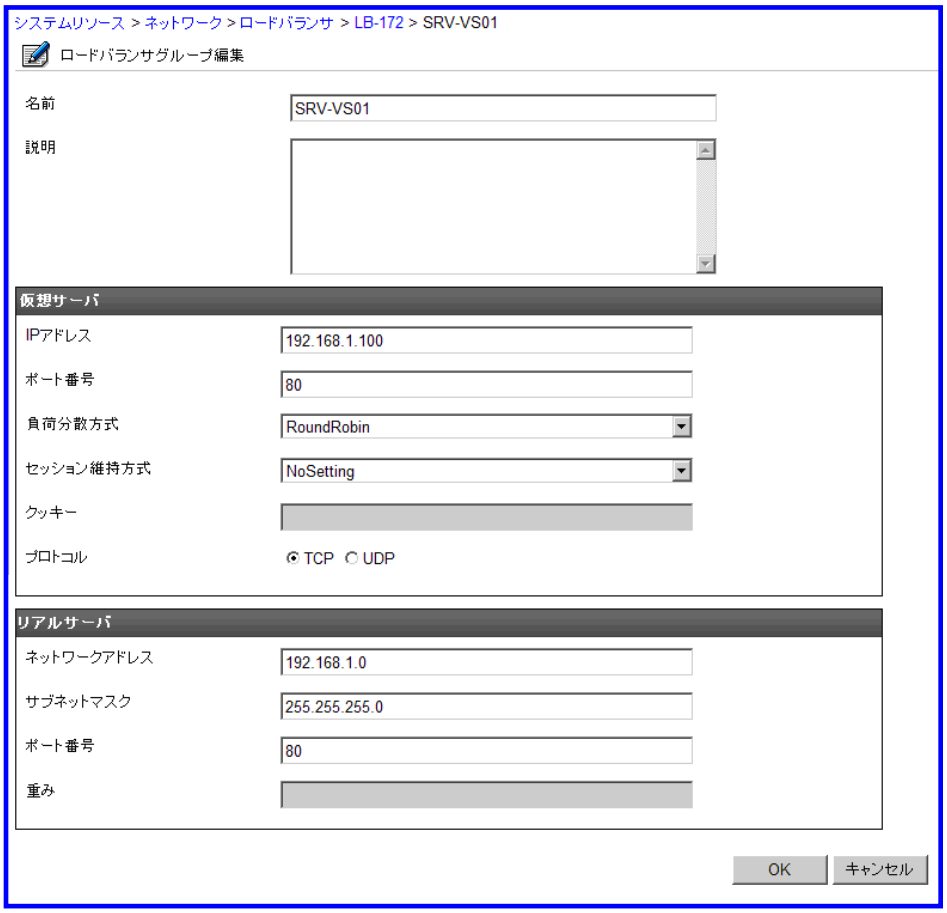
ロードバランサグループ追加	
名前 **(入力必須)**	ロードバランサグループ名を入力します。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
説明	ロードバランサグループの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
仮想サーバ	
IP アドレス **(入力必須)**	仮想サーバのIPアドレスを入力します。
ポート番号 **(入力必須)**	仮想サーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。
負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を選択します。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。
セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を選択します。
変換方式	仮想サーバの変換方式を選択します。
ネットマスク	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "RangeIp" を選択した場合のみクライアントのネットマスクを入力します。
固定化時間	[セッション維持方式] プルダウンボックスを設定した場合、固定化時間を入力します。「1～86400」の範囲で設定できます。
プロトコル	仮想サーバのプロトコルを選択します。
リアルサーバ	
ネットワークアドレス **(入力必須)**	リアルサーバのネットワークアドレスを入力します。
サブネットマスク **(入力必須)**	リアルサーバのサブネットマスクを入力します。サブネットマスクに「255.255.255.255」に設定することで、サーバごとの設定を作成することができます。
ポート番号	[仮想サーバ] グループボックスの [変換方式] に "Network Address Translation(NAT)" を選択した場合のみリアルサーバのポート番号を入力します。「1～65535」の範囲で設定できます。
重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみ重みを入力します。「0～65000」の範囲で設定できます。
[OK]	ロードバランサグループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ロードバランサグループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.30.2. ロードバランサグループ編集

ロードバランサグループの編集を行います。

[システムリソース] ツリーからロードバランサグループを編集するロードバランサのアイコンをクリックし、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報を表示します。[ロードバランサグループ一覧] グループボックスから編集するロードバランサグループの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ロードバランサグループ編集」が表示されます。ロードバランサグループ情報を編集し、[OK] をクリックするとロードバランサグループ情報が変更されます。

◆ NetvisorPro 管理ロードバランサの場合



ロードバランサグループ編集	
名前	ロードバランサグループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
説明	ロードバランサグループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
仮想サーバ	
IP アドレス	仮想サーバのIPアドレスを表示し、編集もできます。

	ポート番号	仮想サーバのポート番号を表示し、編集もできます。
	負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を表示し、変更もできます。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。
	セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を表示し、変更もできます。使用する装置によりセッション維持方式で選択できる項目が変わります。
	クッキー	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie" を選択した場合のみクッキーを表示し、編集もできます。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字はアルファベットで始まる英数字、および半角記号 (".", "-"、"_") です。
	プロトコル	仮想サーバのプロトコルを表示し、変更もできます。
リアルサーバ		
	ネットワークアドレス	リアルサーバのネットワークアドレスを表示し、編集もできます。
	サブネットマスク	リアルサーバのサブネットマスクを表示し、編集もできます。
	ポート番号	リアルサーバのポート番号を表示し、編集もできます。
	重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみリアルサーバの重みを表示し、編集もできます。
[OK]		ロードバランサグループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ロードバランサグループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

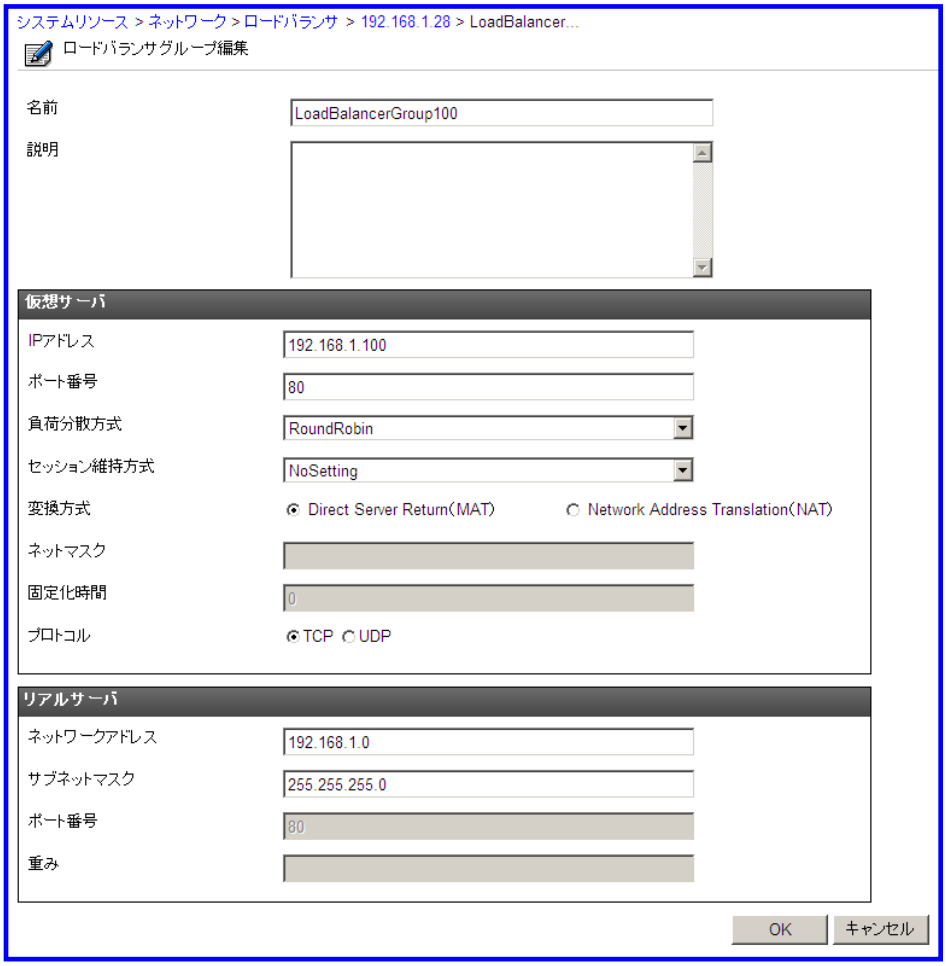
◆ InterSecVM/LB の場合

ロードバランサグループ編集	
名前 **(入力必須)**	ロードバランサグループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("_"、"-") です。
説明	ロードバランサグループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
仮想サーバ	
IP アドレス **(入力必須)**	仮想サーバのIPアドレスを表示し、編集もできます。

	ポート番号 **(入力必須)**	仮想サーバのポート番号を表示し、編集もできます。
	負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を表示し、変更もできます。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。 InterSecVM V3.0以降の場合は、セッション維持方式に "RangeIp" が選択されているときは、負荷分散は選択できません。
	CPU 負荷による重み付け	[負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみCPUによる重み付けのオプションを表示し、変更もできます。
	セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を表示し、変更もできます。
	変換方式	仮想サーバの変換方式を表示し、変更もできます。
	固定化時間	[セッション維持方式] プルダウンボックスを設定した場合のみ固定化時間を表示し、編集もできます。
	Cookie 固定化時間	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie" を選択した場合のみCookieによる固定化時間を表示し、編集もできます。 InterSecVM V3.0以降の場合は、セッション維持方式に "RangeIp" が選択されているときは、固定化時間は入力できません。
	最大同時接続数	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie"、"Url"、もしくは "ClientType" を選択した場合、クライアントの最大同時接続数を表示し、編集もできます。
	プロトコル	仮想サーバのプロトコルを表示し、変更もできます。
リアルサーバ		
	ネットワークアドレス **(入力必須)**	リアルサーバのネットワークアドレスを表示し、編集もできます。
	サブネットマスク **(入力必須)**	リアルサーバのサブネットマスクを表示し、編集もできます。
	ポート番号	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "Cookie"、"Url"、もしくは "ClientType" を選択した場合、リアルサーバのポート番号を表示し、編集もできます。
	重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択した場合のみリアルサーバの重みを表示し、編集もできます。
	クライアント IP アドレス	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "RangeIp" を選択した場合のみクライアントIPアドレス範囲を表示し、編集もできます。 InterSecVM V3.0以降の場合は表示されません。
	URL	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "Url" を選択した場合のみ対象のURLを表示し、編集もできます。

クライアントタイプ	[仮想サーバ] グループボックスの [セッション維持方式] プルダウンボックスに "ClientType" を選択した場合のみクライアントのタイプを表示し、変更もできます。
[OK]	ロードバランサグループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ロードバランサグループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Linux Virtual Server の場合



ロードバランサグループ編集	
名前 **(入力必須)**	ロードバランサグループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は256文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号です。以下の半角記号は除きます。 ¥ / : * ? < > | ' "
説明	ロードバランサグループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
仮想サーバ	

	IP アドレス **(入力必須)**	仮想サーバのIPアドレスを表示し、編集もできます。
	ポート番号 **(入力必須)**	仮想サーバのポート番号を表示し、編集もできます。
	負荷分散方式	仮想サーバの負荷分散方式を表示し、変更もできます。使用する装置により負荷分散方式で選択できる項目が変わります。
	セッション維持方式	仮想サーバのセッション維持方式を表示し、変更もできます。
	変換方式	仮想サーバの変換方式を表示し、変更もできます。
	ネットマスク	[セッション維持方式] プルダウンボックスに "RangeIp" を選択した場合のみクライアントのネットマスクを表示し、修正もできます。
	固定化時間	[セッション維持方式] プルダウンボックスを設定した場合のみ固定化時間を表示し、編集もできます。
	プロトコル	仮想サーバのプロトコルを表示し、変更もできます。
リアルサーバ		
	ネットワークアドレス **(入力必須)**	リアルサーバのネットワークアドレスを表示し、編集もできます。
	サブネットマスク **(入力必須)**	リアルサーバのサブネットマスクを表示し、編集もできます。
	ポート番号	[仮想サーバ] グループボックスの [変換方式] に "Network Address Translation(NAT)" を選択した場合のみリアルサーバのポート番号を表示し、編集することもできます。
	重み	[仮想サーバ] グループボックスの [負荷分散方式] プルダウンボックスに "Weight" を選択したバイのみリアルサーバの重みを表示し、編集もできます。
[OK]		ロードバランサグループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ロードバランサグループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.30.3. ロードバランサグループ削除

ロードバランサグループの削除を行います。

[システムリソース] ツリーから削除を行うロードバランサのアイコンをクリックし、メインウィンドウにロードバランサの詳細情報を表示します。削除するロードバランサグループのチェックボックスをオンにし、[ロードバランサグループ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

3.31. ファイアウォール

[ファイアウォール] を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックすると、メインウィンドウに [ファイアウォール一覧] グループボックス、および [ファイアウォールセキュリティ一覧] グループボックスが表示されます。

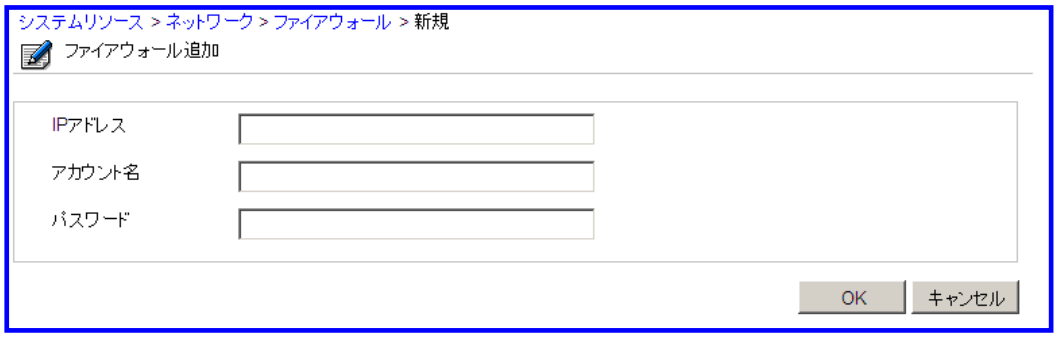
ファイアウォール一覧	
名前	ファイアウォール名を表示します。
IP アドレス	ファイアウォールのIPアドレスを表示します。
製品名	ファイアウォールの製品名を表示します。
編集	ファイアウォール情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「ファイアウォール編集」ウィンドウに遷移します。
解除	選択したファイアウォールとの連携を解除します。
ファイアウォールプロファイル	
名前	プロファイル名を表示します。
プロトコル	ルールのプロトコルを表示します。
送信元 IP	ルールの送信元のIPアドレスを表示します。
送信先ポート	ルールの送信元のポート番号を表示します。
宛先 IP	ルールの宛先のIPアドレスを表示します。
宛先ポート	ルールの宛先のポート番号を表示します。
処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
編集	ファイアウォールプロファイル情報の編集を行います。[編集] をクリックすると、「ファイアウォールプロファイル編集」ウィンドウに遷移します。

解除	選択したファイアウォールプロファイルを解除します。

3.31.1. ファイアウォール追加

仮想ファイアウォールの追加を行います。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォール一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [FW 追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ファイアウォール追加」が表示されます。ファイアウォールの情報を入力し、[OK] をクリックすると、ファイアウォールが追加されます。

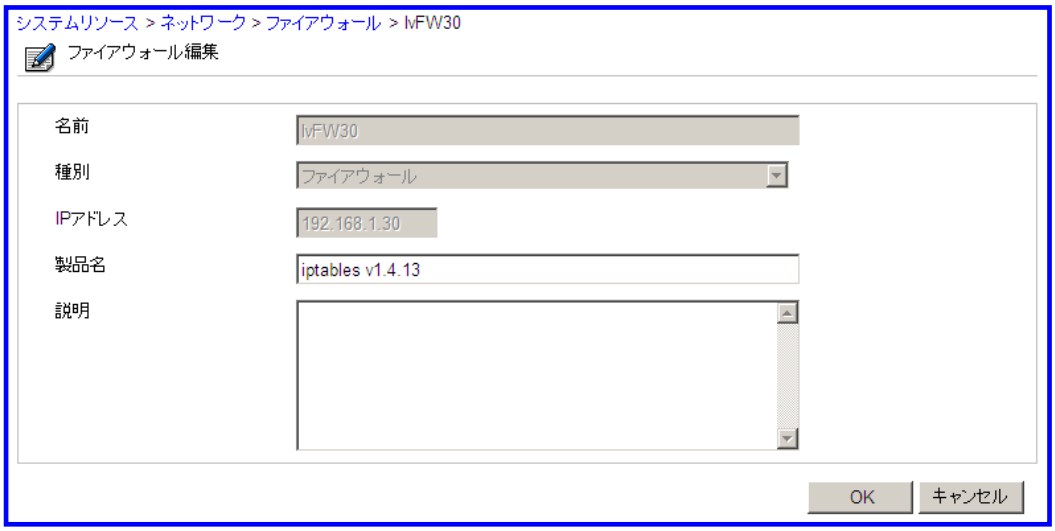


ファイアウォール追加	
IP アドレス	ファイアウォールのIPアドレスを入力します。
アカウント名	ファイアウォールとアクセスするアカウントを入力します。
パスワード	ファイアウォールとアクセスするアカウントのパスワードを入力します。
[OK]	ファイアウォール追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ファイアウォール追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.31.2. ファイアウォール編集

ファイアウォールを編集します。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォール一覧] グループボックスを表示します。[ファイアウォール一覧] グループボックスから編集するファイアウォールの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ファイアウォール編集」が表示されます。ファイアウォール情報を編集し、[OK] をクリックすると、ファイアウォール情報が変更されます。



ファイアウォール編集	
名前	ファイアウォール名を表示します。
種別	種別を表示します。
IP アドレス	IPアドレスを表示します。
製品名	製品名を表示し、編集もできます。
説明	ファイアウォールの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	ファイアウォール編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ファイアウォール編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.31.3. ファイアウォール削除

ファイアウォールの削除を行います。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォール一覧] グループボックスを表示します。削除するファイアウォールのチェックボックスをオンにし、[ファイアウォール一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

3.31.4. ファイアウォールプロファイル追加

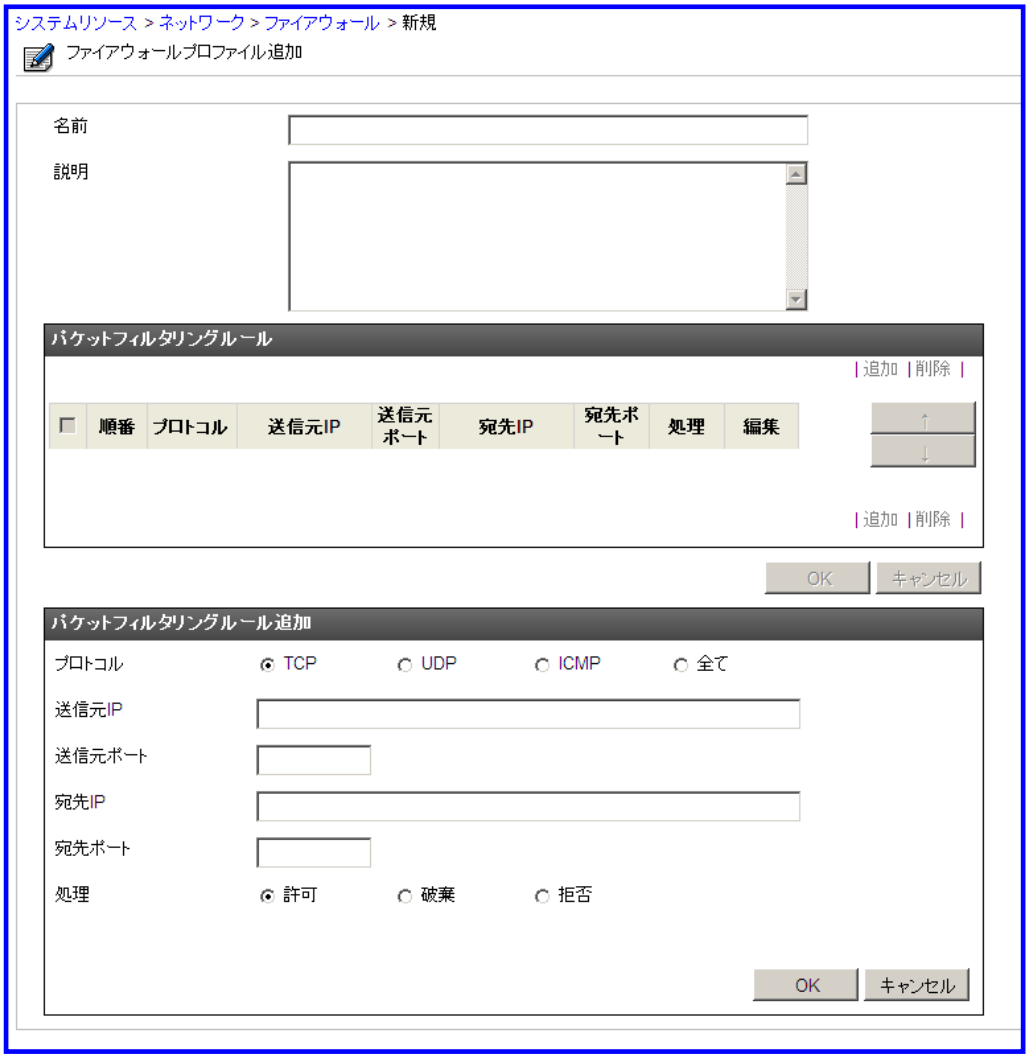
ファイアウォールプロファイルを追加します。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォール一覧] グループボックスを表示します。[設定] メニューから [FW プロファイル - 追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ファイアウォールプロファイル追加」が表示されます。追加するファイアウォールプロファイル情報を入力、およびパケットフィルタリングルール情報を入力し、[OK] をクリックすると、ファイアウォールプロファイルが追加されます。

ファイアウォールプロファイル追加		
	名前 (入力必須)	プロファイル名を入力します。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号("-") です。
	説明	プロファイルの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	パケットフィルタリングルール	
	順番	判定する順番を表示します。
	プロトコル	プロトコルを表示します。
	送信元 IP	送信元のIPアドレスを表示します。
	送信元ポート	送信元のポート番号を表示します。
	宛先 IP	宛先のIPアドレスを表示します。
	宛先ポート	宛先のポート番号を表示します。
	処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
	編集	ロードバランサグループの編集を行います。「ロードバランサグループ編集」ウィンドウに遷移します。
	[↑]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ前に移動します。

		[↓]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ後ろに移動します。
		追加	パケットフィルタリングルール情報を追加します。[パケットフィルタリングルール] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。
		削除	選択したパケットフィルタリングルール情報を [パケットフィルタリングルール] グループボックスから削除します。
	[OK]		ファイアウォールプロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
	[キャンセル]		ファイアウォールプロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[パケットフィルタリングルール] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。



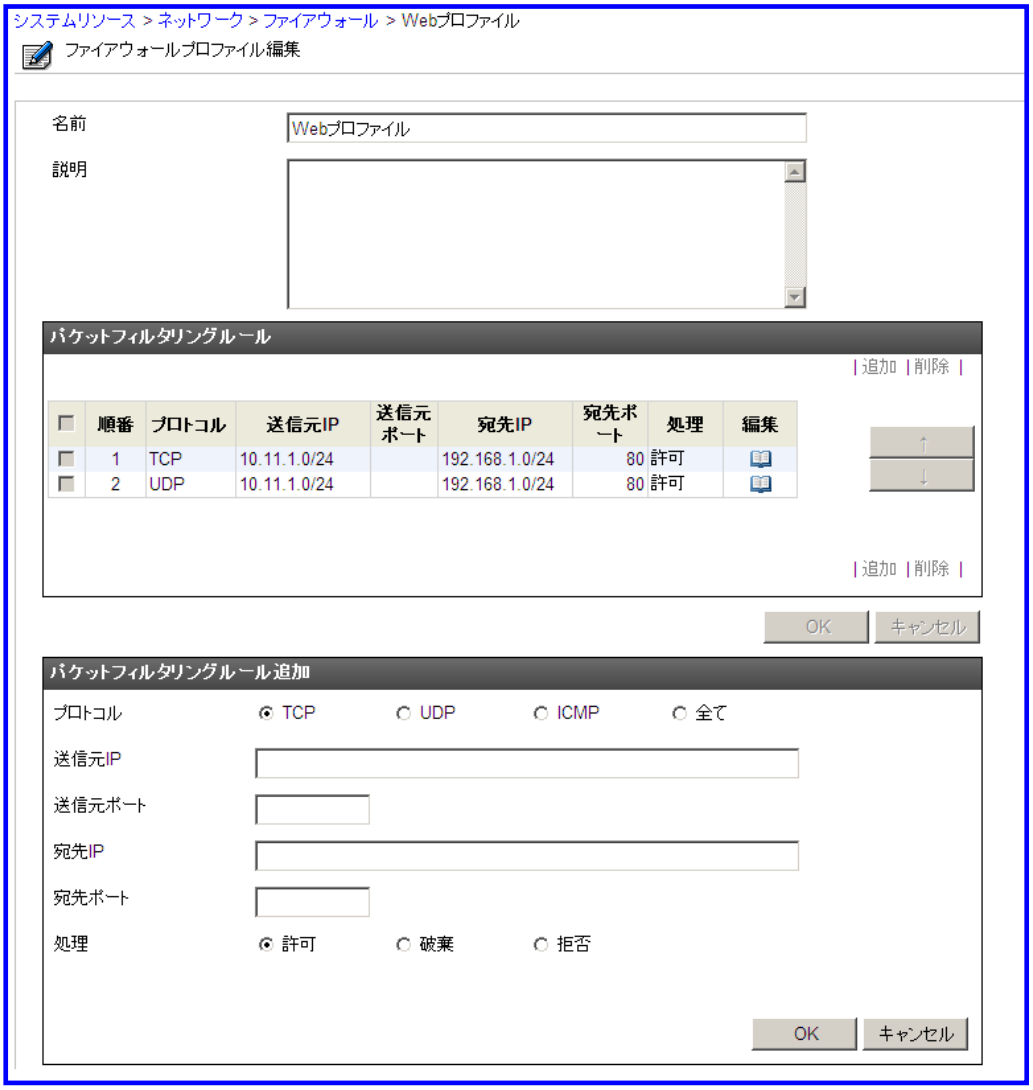
パケットフィルタリングルール追加	
プロトコル	プロトコルを選択します。
送信元 IP	送信元のIPアドレスを入力します。
送信元ポート	送信元のポート番号を入力します。
宛先 IP	宛先のIPアドレスを入力します。
宛先ポート	宛先のポート番号を入力します。
処理	パケットを受け取った際の処理を選択します。
[OK]	パケットフィルタリングルール追加情報を保存し、グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	パケットフィルタリングルール追加情報を保存せずに、グループボックスを閉じます。

3.31.5. ファイアウォールプロファイル編集

ファイアウォールプロファイルを編集します。

[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォールプロファイル一覧] グループボックスを表示します。[ファイアウォールプロファイル一覧] グループボックスから編集するファイアウォールプロファイルの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ファイアウォールプロファイル編集」が表示されます。ファイアウォールプロファイル情報を編集し、[OK] をクリックすると、ファイアウォールプロファイル情報が変更されます。

ファイアウォールプロファイル編集	
名前 **(入力必須)**	プロファイル名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。使用できる文字は半角英数字、および半角記号 ("-") です。 -
説明	プロファイルの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
パケットフィルタリングルール	
順番	判定する順番を表示します。
プロトコル	プロトコルを表示します。
送信元 IP	送信元のIPアドレスを表示します。
送信元ポート	送信元のポート番号を表示します。
宛先 IP	宛先のIPアドレスを表示します。
宛先ポート	宛先のポート番号を表示します。
処理	パケットを受け取った際の処理を表示します。
編集	パケットフィルタリングルール情報の編集を行います。[パケットフィルタリングルール] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。
[↑]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ前に移動します。
[↓]	チェックボックスを選択したパケットフィルタリングルールの適用順序を1つ後ろに移動します。
追加	パケットフィルタリングルール情報を追加します。[パケットフィルタリングルール] グループボックスの下部に [パケットフィルタリングルール追加] グループボックスが表示されます。
削除	選択したパケットフィルタリングルール情報を [パケットフィルタリングルール] グループボックスから削除します。
[OK]	ファイアウォールプロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ファイアウォールプロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。



パケットフィルタリングルール追加	
プロトコル	プロトコルを選択します。
送信元 IP	送信元のIPアドレスを入力します。
送信元ポート	送信元のポート番号を入力します。
宛先 IP	宛先のIPアドレスを入力します。
宛先ポート	宛先のポート番号を入力します。
処理	パケットを受け取った際の処理を選択します。
[OK]	パケットフィルタリングルール追加情報を保存し、グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	パケットフィルタリングルール追加情報を保存せずに、グループボックスを閉じます。

3.31.6. ファイアウォールプロファイル削除

ファイアウォールプロファイルの削除を行います。

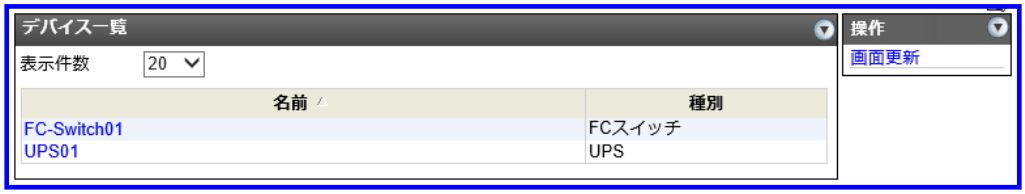
[システムリソース] ツリーから [ファイアウォール] をクリックし、メインウィンドウに [ファイアウォールプロファイル一覧] グループボックスを表示します。削除するファイアウォールプロファイルのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

3.32. デバイス

[デバイス] を表示します。

カスタムオブジェクトを登録することで、デバイスとして一覧に表示されるようになります。

[システムリソース] ツリーから [デバイス] をクリックすると、メインウィンドウに [デバイス一覧] グループボックスが表示されます。



デバイス一覧	
名前	デバイス名が表示されます。
種別	デバイスの種別が表示されます。

3.33. デバイスの詳細情報

デバイスの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のデバイスのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにデバイスの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ

基本情報	
名前	デバイス名を表示します。
種別	デバイスの種別を表示します。
識別子	デバイスの識別子を表示します。
製品名	デバイスの製品名を表示します。
管理状態	デバイスの管理状態を表示します。
サマリステータス	デバイスのサマリステータスを表示します。
ハードウェアステータス	デバイスのハードウェアステータスを表示します。
ポリシー名#1	デバイスのポリシーを表示します。
関連設定	
方向	デバイスと関連設定を行っている対象に対する向きを表示します。
関連設定 (種別)	デバイスと関連設定を行っている対象の名前と種別を表示します。
ノード (ポート) 一覧	

ノード	デバイスのノードを表示します。
方向	デバイスのノードと関連設定を行っている対象に対する向きを表示します。
関連設定 (種別)	デバイスのノードと関連設定を行っている対象の名前と種別を表示します。
イベント履歴	
イベント番号	デバイスのイベント履歴番号を表示します。クリックすると、イベントの詳細情報へ遷移します。
日付	イベントの日付を表示します。
レベル	イベントのレベルを表示します。
メッセージ	イベントのメッセージを表示します。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

3.34. ノード (ポート) の詳細情報

デバイスの詳細情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから対象のデバイスのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにデバイスの詳細情報が表示されます。[ノード (ポート) 一覧] グループボックスから対象のノード名をクリックすると、メインウィンドウにノード (ポート) の詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	ノード (ポート) 名を表示します。
関連設定	
方向	デバイスのノードと関連設定を行っている対象に対する向きを表示します。
関連設定 (種別)	デバイスのノードと関連設定を行っている対象の名前と種別を表示します。

3.35. ソフトウェア

[ソフトウェア] は、ソフトウェアの管理を行います。

[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックすると、基本情報、および [サマリー情報] グループボックスが表示されます。

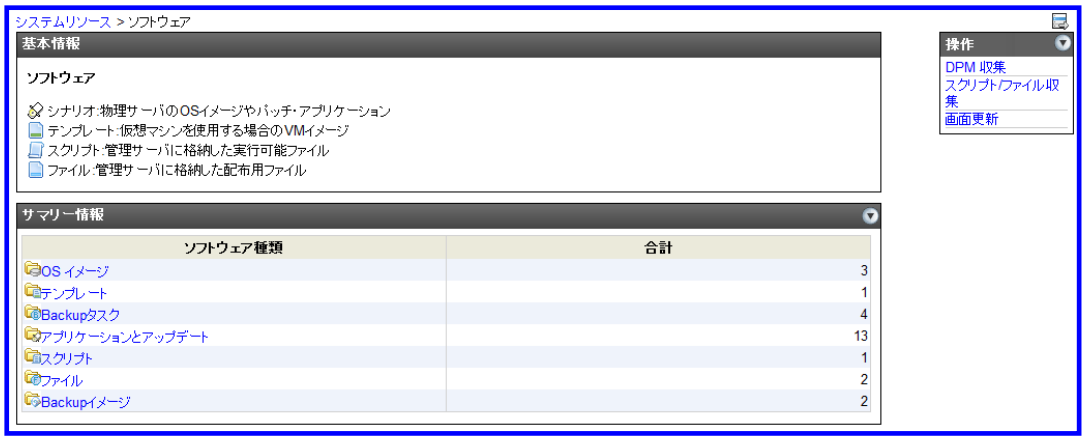
表示されるソフトウェアは、DeploymentManager の OS イメージ、仮想マシンのテンプレート、Backup タスク、アプリケーションとアップデート、Backup イメージ、および管理サーバ上のスクリプト、ファイルの 7 種類があります。

DeploymentManager のシナリオ情報を更新する場合、[操作] メニューから [DPM 収集] をクリックして最新の情報に更新します。または、[管理] ビューのサブシステムの詳細情報で対象のサブシステムを選択し、[アクション] メニューから [収集] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

仮想マシンのテンプレート情報は、[管理] ビューのサブシステムの詳細情報で対象のサブシステムを選択し、[アクション] メニューから [収集] をクリックすると、最新の情報に更新されます。

スクリプト、およびファイルの情報を更新する場合、[操作] メニューから [スクリプト/ファイル収集] をクリックして最新の情報に更新します。

すべてのソフトウェア情報を更新する場合、[管理] ビューの [操作] メニューから [収集] をクリックして最新の情報に更新します。



基本情報	ソフトウェアの定義、および説明を表示します。
サマリー情報	
ソフトウェア種類	ソフトウェアの種類を表示します。 表示されるソフトウェアの種類は、OSイメージ、テンプレート、Backupタスク、Backupイメージ、アプリケーションとアップデート、スクリプト、およびファイルの7種類です。
合計	ソフトウェアの種類ごとにソフトウェア数の合計値を表示します。

注: ソフトウェアの種類は、各種類のソフトウェアが登録されている場合に表示されます。各種類のソフトウェアの合計値が 0 (登録数が 0) の場合は、表示されません。

3.36. ソフトウェア一覧

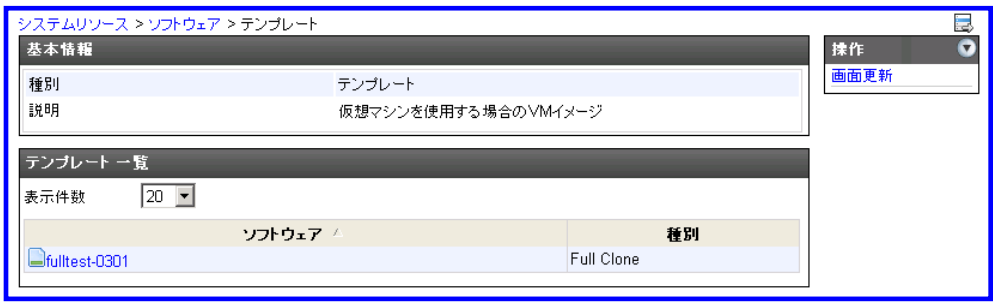
ソフトウェア一覧では "OS イメージ"、"テンプレート"、"Backup タスク"、"Backup イメージ"、"アプリケーションとアップデート"、"スクリプト"、"ファイル" を分類したソフトウェアを表示します。

[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスに表示されるソフトウェア種別欄から基本情報を表示するソフトウェアの種類をクリックします。もしくは [システムリソース] ツリーから「ソフトウェアの種別」のアイコンをクリックします。選択された種類に分類されるソフトウェアを表示します。

◆ OS イメージ

基本情報		
	種別	ソフトウェアの種別を表示します。
	説明	種別の説明を表示します。
OS イメージ一覧		
	ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
	種別	種別名を表示します。

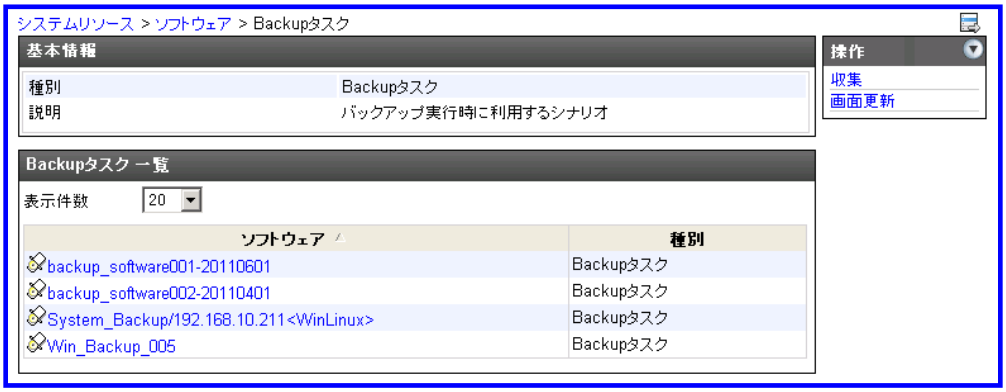
◆ テンプレート



基本情報	

種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。
テンプレート一覧	
ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
種別	種別名を表示します。

◆ Backup タスク



基本情報	
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。
Backup タスク一覧	
ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
種別	種別名を表示します。

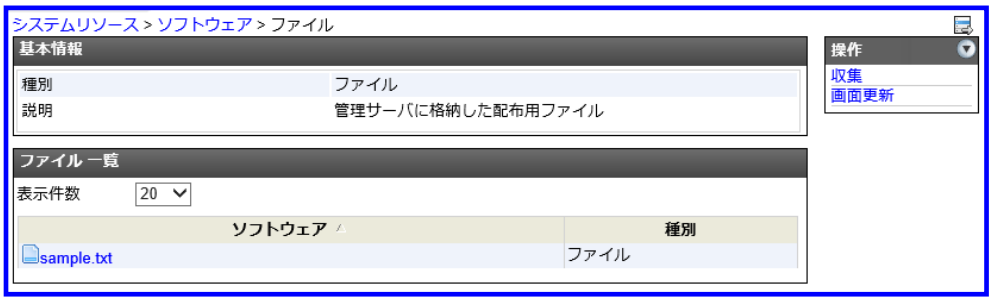
◆ アプリケーションとアップデート

基本情報	
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。
アプリケーションとアップデート一覧	
ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
種別	種別名を表示します。

◆ スクリプト

基本情報	
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。
スクリプト一覧	
ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
種別	種別名を表示します。

◆ ファイル



基本情報	
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。

ファイル一覧	
ソフトウェア	ソフトウェアの名前を表示します。
種別	種別名を表示します。

◆ Backup イメージ

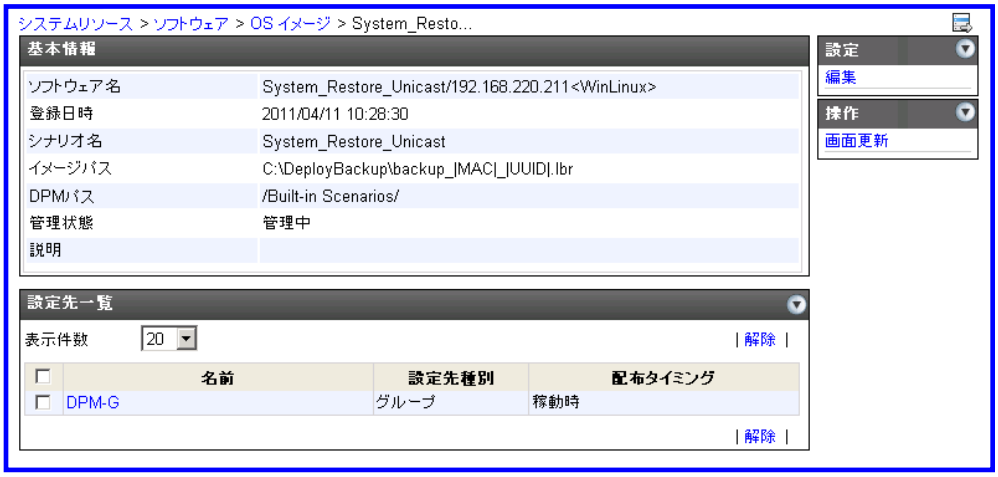
基本情報	
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
説明	種別の説明を表示します。
Backup イメージ一覧	
イメージ名	Backupイメージ名を表示します。
種別	種別名を表示します。

3.37. ソフトウェアの基本情報

ソフトウェアの基本情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスに表示されるソフトウェア種別欄から基本情報を表示するソフトウェアの種類をクリックします。各ソフトウェア一覧からソフトウェア名、もしくは [システムリソース] ツリーから対象のソフトウェアのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにソフトウェアの基本情報が表示されます。

◆ シナリオ、ローカルスクリプトの場合



基本情報		
	ソフトウェア名	ソフトウェア名を表示します。
	登録日時	ソフトウェアの登録、もしくは更新日時を表示します。
	シナリオ名	サブシステム内で管理されているシナリオ名、またはローカルスクリプト名を表示します。
	イメージパス	シナリオに設定されているイメージファイルのパスを表示します。(シナリオで種別がOSイメージ、またはBackupタスクの場合のみ表示します)
	DPM パス	DPMサーバに登録されている場合、DeploymentManagerでの登録先のシナリオグループを表示します。本情報は、DPM収集を実行すると、最新の情報に更新されます。(シナリオの場合のみ表示します。)
	管理状態	管理状態を表示します。
	説明	ソフトウェアの説明を表示します。
設定先一覧		
	名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
	設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。

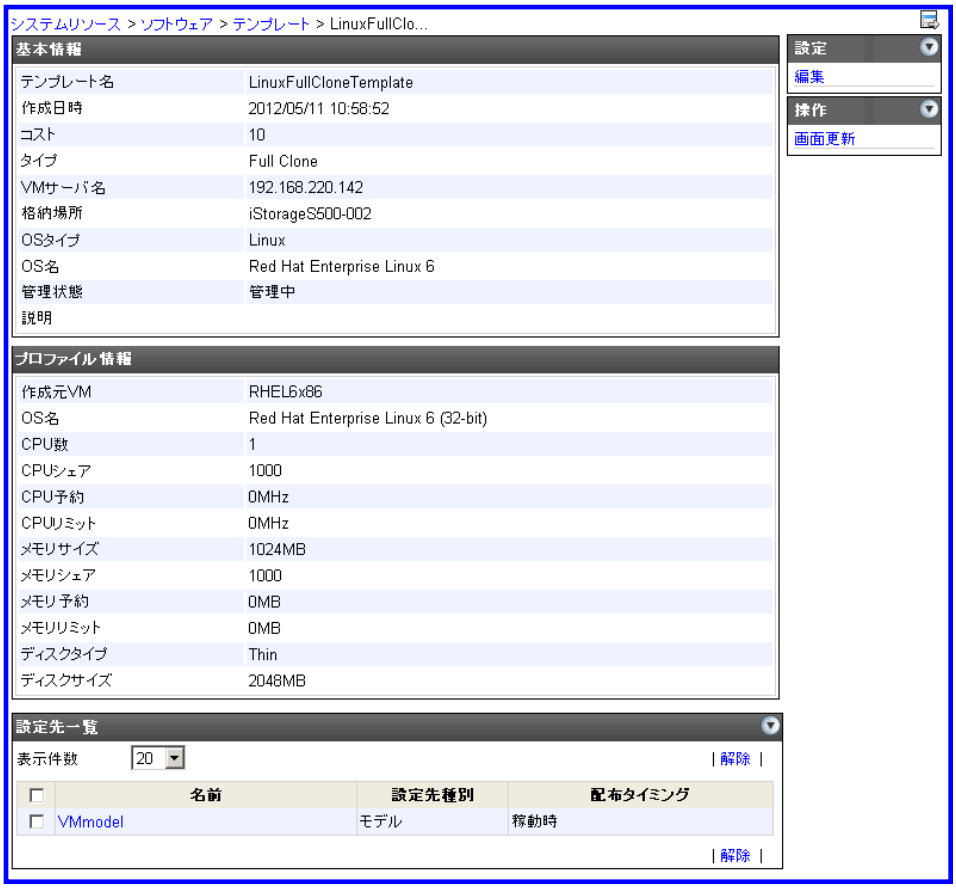
配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。
解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ Full Clone 用のテンプレートの場合

[所有者]、[組織名]、[タイムゾーン]、[プロダクトキー] は、Windows Client、もしくは Windows Server の場合に表示します。[ライセンスモード]、[最大コネクション数] は、Windows Server の場合のみ表示します。

<Windows の場合>

<Windows 以外の場合>



基本情報	
テンプレート名	テンプレート名を表示します。
作成日時	テンプレートの作成、もしくは編集日時を表示します。
コスト	テンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を表示します。
タイプ	テンプレートのタイプを表示します。
VM サーバ名	テンプレートが登録されている仮想マシンサーバの名前を表示します。
格納場所	テンプレートが保存されているデータストアを表示します。
OS タイプ	テンプレートに登録されているOSの種類を表示します。
OS 名	テンプレートに登録されているOS名を表示します。
所有者	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有者名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。
組織名	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有組織名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。
タイムゾーン	テンプレートに登録されているタイムゾーンを表示します (Linuxの場合は表示されません)。

	プロダクトキー	テンプレートに登録されているOSライセンスのプロダクトキーを表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	ライセンスモード	テンプレートに登録されているライセンスモードを表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	最大コネクション数	テンプレートに登録されているライセンスモードでPerServerが表示されている場合、WindowsのPerServerMode (同時使用ユーザ数モード) に設定されるユーザ数を表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	管理状態	テンプレートの管理状態を表示します。
	説明	テンプレートの説明を表示します。
プロファイル情報		
	作成元 VM	テンプレート作成時に指定した、マスタマシン名を表示します。インポートしたテンプレートの場合は、テンプレート名が表示されます。
	OS 名	テンプレート作成時に指定したマスタマシンにインストールされていたOS名を表示します。
	CPU 数	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPU数を表示します。
	CPU シェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUのシェア値を表示します。
	CPU 予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUの予約値を表示します。
	CPU リミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのリミットを表示します。
	メモリサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリを表示します。
	メモリシェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのシェア値を表示します。
	メモリ予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリの予約値を表示します。
	メモリリミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのリミット値を表示します。
	ディスクタイプ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクタイプを表示します。
	ディスクサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクサイズを表示します。
設定先一覧		
	名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
	設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。
	配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。

	解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ HW Profile Clone 用のテンプレートの場合

基本情報		
	テンプレート名	テンプレート名を表示します。
	作成日時	日時は表示されず、空白になります。
	コスト	テンプレートのコストを表示します。
	タイプ	テンプレートのタイプを表示します。
	VM サーバ名	テンプレートが登録されている仮想マシンサーバの名前を表示します。
	格納場所	テンプレートの格納場所を表示します。
	管理状態	テンプレートの管理状態を表示します。
	説明	テンプレートの説明を表示します。
プロファイル情報		
	作成元 VM	テンプレート作成時に指定したマスタマシン名を表示します。
	OS 名	テンプレート作成時に指定したマスタマシンにインストールされていたOS名を表示します。

	CPU 数	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPU数を表示します。
	CPU シェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUのシェア値を表示します。
	CPU 予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUの予約値を表示します。
	CPU リミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのリミットを表示します。
	メモリサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリを表示します。
	メモリシェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのシェア値を表示します。
	メモリ予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリの予約値を表示します。
	メモリリミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのリミット値を表示します。
	ディスクタイプ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクタイプを表示します。
	ディスクサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクサイズを表示します。
設定先一覧		
	名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
	設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。
	配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。
	解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ Differential Clone 用のテンプレートの場合

[所有者]、[組織名]、[タイムゾーン]、[プロダクトキー] は、Windows Client、もしくは Windows Server の場合に表示します。[ライセンスモード]、[最大コネクション数] は、Windows Server の場合のみ表示します。

<Windows の場合>

システムリソース > ソフトウェア > テンプレート > DiffCloneTem...
基本情報
テンプレート名 DiffCloneTemplate
作成日時 2012/05/11 10:41:16
コスト 10
タイプ Differential Clone
VMサーバ名 192.168.220.142
格納場所 iStorageS500-002
OSタイプ Windows Server
OS名 Windows Server 2008 R2 Enterprise (x64)
所有者 NEC
組織名 NEC
タイムゾーン (GMT+09:00) 大阪、札幌、東京
プロダクトキー xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx
ライセンスモード PerSeat
管理状態 管理中
説明
設定
編集
イメージ作成
操作
画面更新
プロファイル情報
作成元VM W2K8R2
OS名 Microsoft Windows Server 2008 R2 (64 ビット)
CPU数 1
CPUシェア 1000
CPU予約 0MHz
CPUリミット 0MHz
メモリサイズ 4096MB
メモリシェア 1000
メモリ予約 0MB
メモリリミット 0MB
ディスクタイプ Thick
ディスクサイズ 5120MB
イメージ一覧
表示件数 20
| デフォルト登録 | 削除 |
イメージ名 世代 スナップショット 作成日時 格納場所 参照VM数
W2K8R2-1-1-... 1 01 2012/05/11 10:41:16 iStorageS5... 0
| デフォルト登録 | 削除 |
設定先一覧
表示件数 20
| 解除 |
名前 設定先種別 配布タイミング
| 解除 |

<Windows 以外の場合>

基本情報	
テンプレート名	テンプレート名を表示します。
作成日時	テンプレートの作成日時を表示します。
コスト	テンプレートのコストを表示します。
タイプ	テンプレートのタイプを表示します。
VM サーバ名	テンプレートが登録されている仮想マシンサーバの名前を表示します。
格納場所	作成元のマスタVMの格納場所を表示します。マスタVMがない場合は、空白が表示されます。
OS タイプ	テンプレートに登録されているOSの種類を表示します。
OS 名	テンプレートに登録されているOS名を表示します。
所有者	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有者名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。

	組織名	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有組織名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	タイムゾーン	テンプレートに登録されているタイムゾーンを表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	プロダクトキー	テンプレートに登録されているOSライセンスのプロダクトキーを表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	ライセンスモード	テンプレートに登録されているライセンスモードを表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	最大コネクション数	テンプレートに登録されているライセンスモードでPerServerが表示されている場合、WindowsのPerServerMode (同時使用ユーザ数モード) に設定されるユーザ数を表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	管理状態	テンプレートの管理状態を表示します。
	説明	テンプレートの説明を表示します。
プロファイル情報		
	作成元 VM	テンプレート作成時に指定したマスタマシン名を表示します。インポートされたテンプレートの場合は、レプリカ名が表示されます。
	OS 名	テンプレート作成時に指定したマスタマシンにインストールされていたOS名を表示します。
	CPU 数	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPU数を表示します。
	CPU シェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUのシェア値を表示します。
	CPU 予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUの予約値を表示します。
	CPU リミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのリミットを表示します。
	メモリサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリを表示します。
	メモリシェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのシェア値を表示します。
	メモリ予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリの予約値を表示します。
	メモリリミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのリミット値を表示します。
	ディスクタイプ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクタイプを表示します。
	ディスクサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクサイズを表示します。
イメージ一覧		
	イメージ名	イメージ名を表示します。

世代	イメージの世代番号を表示します。
スナップショット	イメージの作成元となったスナップショット名を表示します。
作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
格納場所	イメージが格納されているデータストア名を表示します。
参照 VM 数	イメージを参照して作成された仮想マシン数を表示します。
デフォルト登録	選択したイメージをテンプレートのデフォルトイメージに登録します。
削除	選択したイメージを削除します。ただし、デフォルトイメージに登録されているイメージは削除できません。
設定先一覧	
名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。
配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。
解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ Disk Clone 用のテンプレートの場合の場合

[所有者]、[組織名]、[タイムゾーン]、[プロダクトキー] は、Windows Client、もしくは Windows Server の場合に表示します。[ライセンスモード]、[最大コネクション数] は、Windows Server の場合のみ表示します。

<Windows の場合>

<Windows 以外の場合>

基本情報	
テンプレート名	テンプレート名を表示します。
作成日時	テンプレートの作成、もしくは編集日時を表示します。
コスト	テンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を表示します。
タイプ	テンプレートのタイプを表示します。
VM サーバ名	テンプレートが登録されている仮想マシンサーバの名前を表示します。
格納場所	作成元のマスタVMが格納されているデータストアを表示します。マスタVMがない場合は、空白が表示されます。
OS タイプ	テンプレートに登録されているOSの種類を表示します。
OS 名	テンプレートに登録されているOS名を表示します。
所有者	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有者名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。

	組織名	テンプレートに登録されているOSライセンスの所有組織名を表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	タイムゾーン	テンプレートに登録されているタイムゾーンを表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	プロダクトキー	テンプレートに登録されているOSライセンスのプロダクトキーを表示します (Linuxの場合は表示されません)。
	ライセンスモード	テンプレートに登録されているライセンスモードを表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	最大コネクション数	テンプレートに登録されているライセンスモードでPerServerが表示されている場合、WindowsのPerServerMode (同時使用ユーザ数モード) に設定されるユーザ数を表示します (Windows Serverの場合のみ表示)。
	管理状態	テンプレートの管理状態を表示します。
	説明	テンプレートの説明を表示します。
プロファイル情報		
	作成元 VM	テンプレート作成時に指定した、マスタマシン名を表示します。インポートされたテンプレートの場合は、レプリカ名が表示されます。
	OS 名	テンプレート作成時に指定したマスタマシンにインストールされていたOS名を表示します。
	CPU 数	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPU数を表示します。
	CPU シェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUのシェア値を表示します。
	CPU 予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのCPUの予約値を表示します。
	CPU リミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのリミットを表示します。
	メモリサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリを表示します。
	メモリシェア	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのシェア値を表示します。
	メモリ予約	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリの予約値を表示します。
	メモリリミット	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのメモリのリミット値を表示します。
	ディスクタイプ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクタイプを表示します。
	ディスクサイズ	テンプレート作成時に指定したマスタマシンのディスクサイズを表示します。
イメージ一覧		
	イメージ名	イメージ名を表示します。

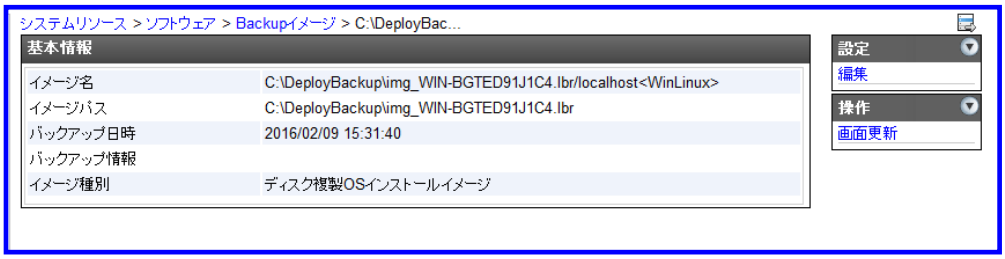
世代	イメージの世代番号を表示します。
作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
格納場所	イメージが格納されているデータストア名を表示します。
デフォルト登録	選択したイメージをテンプレートのデフォルトイメージに登録します。
削除	選択したイメージを削除します。ただし、デフォルトイメージに登録されているイメージは削除できません。
設定先一覧	
名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。
配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。
解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ ファイルの場合

基本情報	
ソフトウェア名	ソフトウェア名 (既定値は、[サブフォルダ名¥]配信ファイル名) を表示します。
登録日時	配信ファイルの登録、もしくは更新日時を表示します。
ファイル名	配信ファイル名を表示します。
配信先フォルダ	配信先のフォルダを表示します。
管理状態	管理状態を表示します。
説明	配信ファイルの説明を表示します。
設定先一覧	

名前	ソフトウェアが設定されているグループ、ホスト、モデル、マシンの名前を表示します。
設定先種別	ソフトウェアが設定されている種別 (グループ、ホスト、モデル、マシン) を表示します。
配布タイミング	ソフトウェアが設定されている配布タイミングを表示します。
解除	選択した設定先のソフトウェア設定を解除します。

◆ Backup イメージ



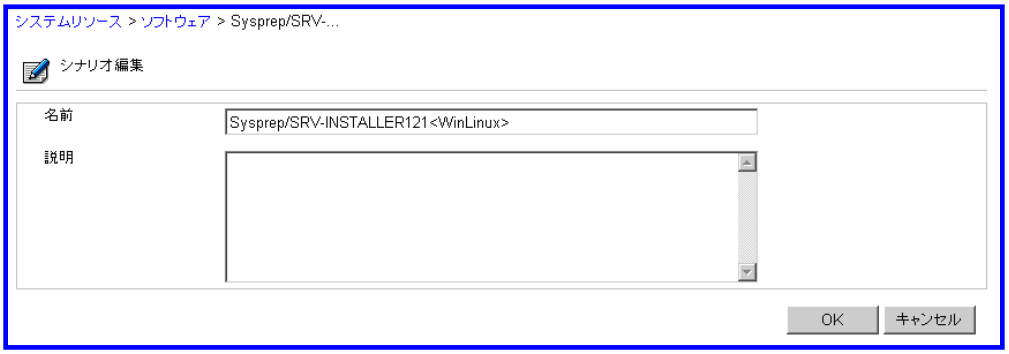
基本情報	
イメージ名	Backupイメージ名を表示します。
イメージパス	Backupイメージのファイルパスを表示します。 DPMサーバに格納されているイメージのフルパスを表示します。
バックアップ日時	Backupイメージのバックアップ日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
イメージ種別	Backupイメージのイメージ種別を表示します。

3.37.1. ソフトウェア編集

ソフトウェア名の編集を行います。

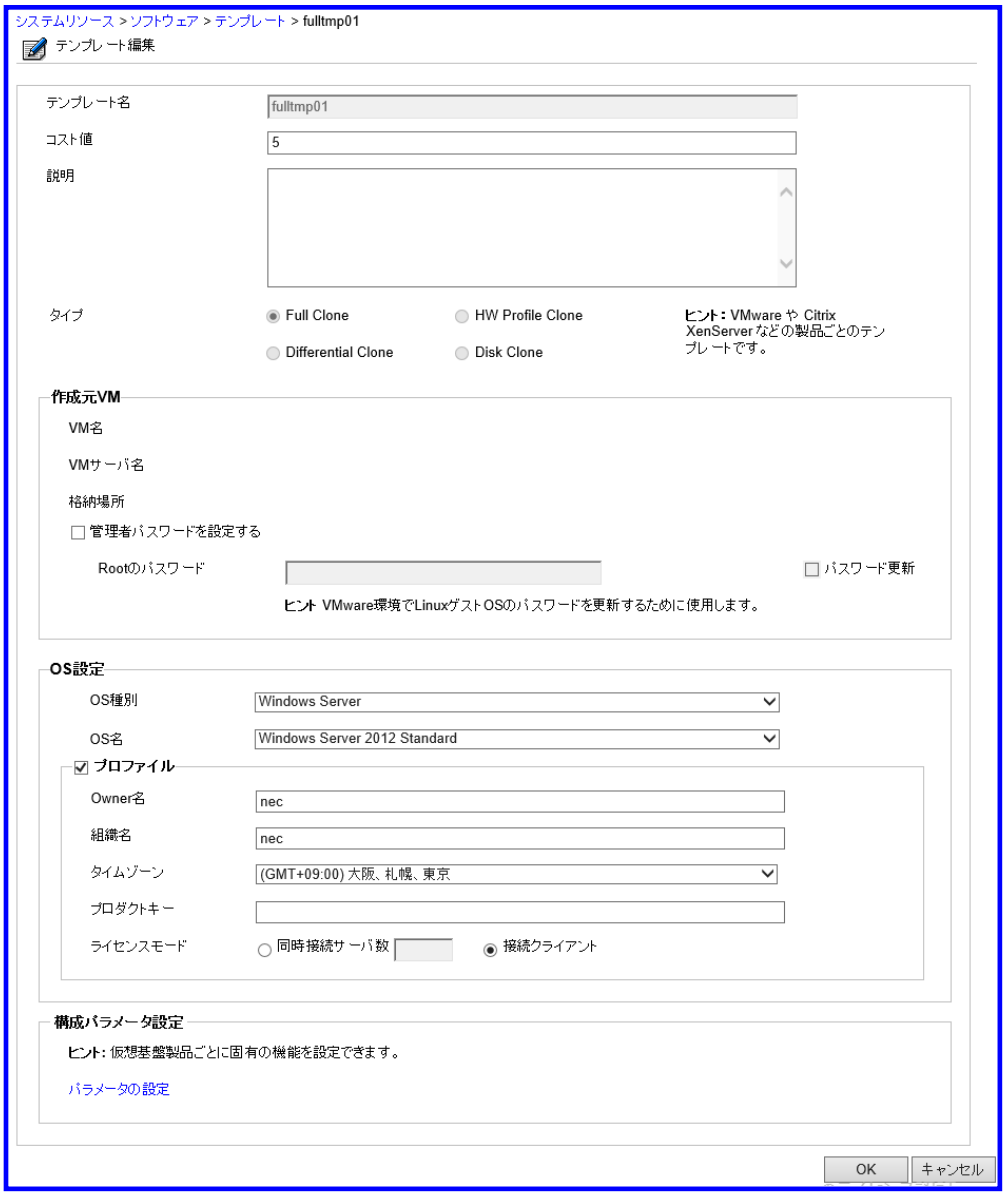
[システムリソース] ツリーから名前を変更するソフトウェアのアイコンをクリックし、メインウィンドウにソフトウェアの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [編集] をクリックすると、メインウィンドウにソフトウェアの編集ウィンドウが表示されます。ソフトウェア情報を編集し、[OK] をクリックするとソフトウェア情報が変更されます。

◆ シナリオ、ローカルスクリプトの場合



シナリオ編集	
名前 **(入力必須)**	ソフトウェア名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
説明	ソフトウェアの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	シナリオ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	シナリオ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Full Clone 用のテンプレートの場合

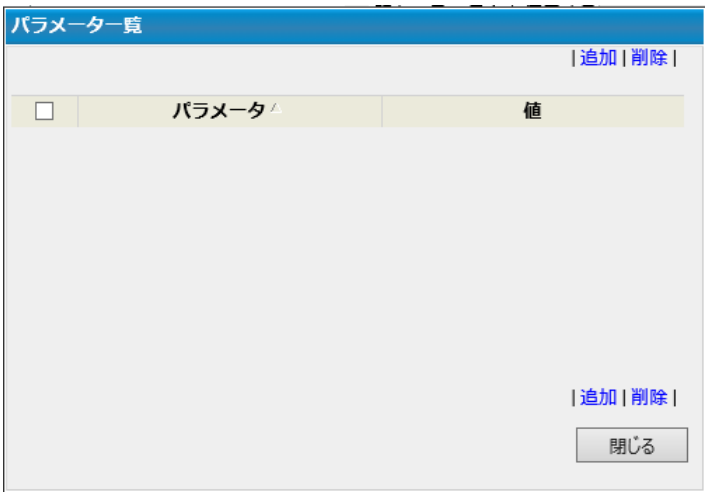


テンプレート編集	
テンプレート名	テンプレートの名称を表示します。編集はできません。
コスト値	テンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	テンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Full Clone" を表示します。変更はできません。
作成元 VM	

VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。Full Cloneテンプレートの場合、仮想マシン名は表示されません。
VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。Full Cloneテンプレートの場合、仮想マシンサーバ名は表示されません。
格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが格納されているデータストアを表示します。Full Cloneテンプレートの場合、格納場所は表示されません。
管理者パスワードを設定する	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを設定した場合にチェックボックスがオンになります。
Root のパスワード	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを表示し、更新もできます。
パスワード更新	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
OS 設定	
OS 種別	Full Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
OS 名	Full Clone用のテンプレートのOS名を表示し、変更もできます。
プロファイル	テンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX)　形式で入力します。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。OS種別が、Windows Serverの場合のみ表示されます。
構成パラメータ設定	

パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」
[OK]	テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。



パラメーター覧	
パラメータ	設定対象の項目を示すパラメータ名が表示されます。
値	パラメータに対する値が表示されます。
追加	新規にパラメータと値を入力するための行を追加します。
削除	既存のパラメータと値が入力されている行を削除します。
[閉じる]	表示されているパラメータと値を保存し、「パラメーター覧」ダイアログボックスを閉じます。

◆ HW Profile Clone 用のテンプレートの場合

テンプレート編集		
	テンプレート名 **(入力必須)**	テンプレート名を表示し、入力もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。
	コスト値 **(入力必須)**	テンプレートのコスト値を表示し、入力もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
	説明	テンプレートの説明を表示し、入力もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	タイプ	"HW Profile Clone" を表示します。変更はできません。
	作成元 VM	
		VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。変更はできません。
		VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。変更はできません。
		格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが格納されているデータストアを表示します。変更はできません。
	構成パラメータ設定	
		パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]		テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「◆Full Clone 用のテンプレートの場合」を参照してください。

◆ Differential Clone 用のテンプレートの場合

テンプレート編集			
	テンプレート名 **(入力必須)**		テンプレートの名称を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号 ("_"、"-"、"("、")") です。
	コスト値		テンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
	説明		テンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	タイプ		"Differential Clone" を表示します。変更はできません。
	作成元 VM		
		VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。変更はできません。
		VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。変更はできません。
		格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが格納されているデータストアを表示します。変更はできません。
	イメージ一覧		
		イメージ名	イメージ名を表示します。
		世代	イメージの世代番号を表示します。
		スナップショット	イメージの作成元となったスナップショット名を表示します。
		作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
		格納場所	イメージが格納されているデータストア名を表示します。
		参照 VM 数	イメージを参照して作成された仮想マシン数を表示します。
	OS 設定		
		OS 種別	Differential Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
		OS 名	Differential Clone用のテンプレートのOS名を表示し、変更もできます。
		プロファイル	テンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
			Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。

		組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
		タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
		プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
		ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。OS種別が、Windows Serverの場合のみ表示されます。
	構成パラメータ設定		
		パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]			テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「◆Full Clone 用のテンプレートの場合」を参照してください。

◆ Disk Clone 用のテンプレートの場合

テンプレート編集	
テンプレート名 **(入力必須)**	テンプレート名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。
コスト値 **(入力必須)**	テンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	テンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Disk Clone" を表示します。変更はできません。
作成元 VM	

		VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。変更はできません。
		VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。変更はできません。
		格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが格納されているデータストアを表示します。変更はできません。
	イメージ一覧		
		イメージ名	イメージ名を表示します。
		世代	イメージの世代番号を表示します。
		作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
		格納場所	イメージが格納されているデータストア名を表示します。
	OS 設定		
		OS 種別	Differential Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
		OS 名	Differential Clone用のテンプレートのOS名を表示し、変更もできます。
		プロファイル	テンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
			Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
			組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
			タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
			プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。OS種別が、Linuxの場合は表示されません。
			ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。OS種別が、Windows Serverの場合のみ表示されます。
	構成パラメータ設定		
		パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。

[OK]	テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「◆Full Clone 用のテンプレートの場合」を参照してください。

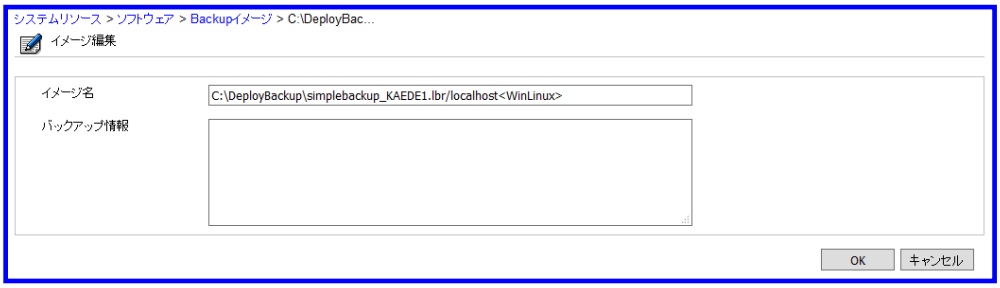
◆ ファイルの場合

ファイル編集	
名前 **(入力必須)**	ソフトウェア名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
説明	ソフトウェアの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。

操作設定	
配信先フォルダ	配信先フォルダを指定します。[配信先フォルダ] テキストボックスに何も入力されていない場合は、[ファイル詳細設定] の設定内容は保存されません。
配信後に実行する	ファイルを配信して実行する場合にチェックボックスをオンにします。VMwareの仮想マシンに配信する場合のみ有効です。
Windows	配信先がWindowsでファイルにアクセス許可を設定する場合にチェックボックスをオンにします。
ユーザまたはグループ	配信するファイルのアクセス許可を設定するユーザ、またはグループ名を入力します。
フルコントロール	配信するファイルにフルコントロールのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。フルコントロールのチェックボックスをオンにすると変更、読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
変更	配信するファイルに変更のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。変更のチェックボックスをオンにすると読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
読み取りと実行	配信するファイルに読み取りと実行のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。読み取りと実行のチェックボックスをオンにすると読み取りにもチェックが入ります。
読み取り	配信するファイルに読み取りのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
書き込み	配信するファイルに書き込みのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
Linux	配信先がLinuxでファイルや配信先のディレクトリのパーミッションを指定する場合にチェックボックスをオンにします。
ディレクトリパーミッション ※配信先フォルダのディレクトリのパーミッションを指定します (ディレクトリが既に存在する場合は、パーミッションは変更されません)。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
ファイルパーミッション ※配信するファイルのパーミッションを指定します。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。

その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
[OK]	ファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Backup イメージ



イメージ編集	
イメージ名 (入力必須)	イメージ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は320文字以内です。
バックアップ情報	バックアップ情報を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	イメージ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	イメージ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.37.2. ローカルスクリプト追加

ローカルスクリプトを追加します。

ローカルスクリプトファイルを<*SystemProvisioning のインストールフォルダ*>¥Script に格納し、[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[操作] メニューから [スクリプト/ファイル収集] をクリックして更新します。[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、追加したローカルスクリプトが表示されることを確認します。

注: 既定値は (C:¥Program Files (x86)¥NEC¥PVM¥Script) です。

3.37.3. ローカルスクリプト削除

ローカルスクリプトを削除します。

ローカルスクリプトファイルを<*SystemProvisioning のインストールフォルダ*>¥Script から削除し、[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[操作] メニューから [スクリプト/ファイル収集] をクリックして更新します。[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、削除したローカルスクリプトが表示されないことを確認します。

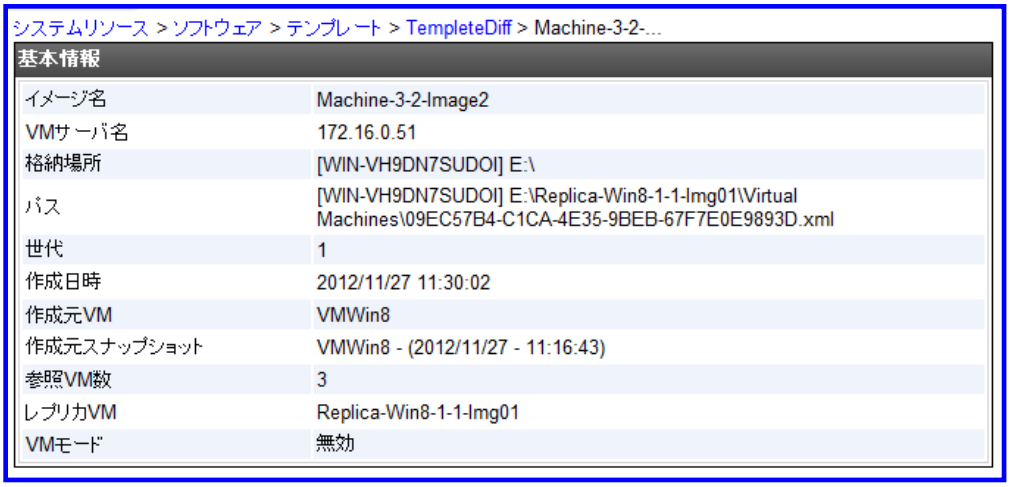
注: 既定値は (C:¥Program Files (x86)¥NEC¥PVM¥Script) です。

3.38. イメージの詳細情報

イメージの基本情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスに表示されるソフトウェア種類欄から「テンプレート」をクリックします。テンプレート一覧から種別が "Differential Clone" か、"Disk Clone" のテンプレートをクリックします。イメージ一覧からイメージ名、もしくは [システムリソース] ツリーから対象のイメージのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにイメージの基本情報が表示されます。

◆ Differential Clone 用のテンプレートに表示されるイメージの場合



基本情報	
イメージ名	イメージ名を表示します。
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
格納場所	保存先データストア名を表示します。
パス	仮想マシン構成ファイル名のパス情報を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。
作成日時	イメージの作成日時を表示します。
作成元 VM	作成元の仮想マシン名を表示します。
作成元スナップショット	作成元のスナップショットを表示します。
参照 VM 数	イメージを参照している仮想マシン数を表示します。
レプリカ VM	イメージに対応する実仮想マシン名を表示します。レプリカVMを指定のデータストアに固定している場合、レプリカVMの後ろに (固定) が表示されます。
VM モード	レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でsysprep実行時に/mode vmオプションの有効 / 無効を表示します。

◆ Disk Clone 用のテンプレートに表示されるイメージの場合

基本情報	
イメージ名	イメージ名を表示します。
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
格納場所	保存先データストア名を表示します。
パス	仮想マシン構成ファイル名のパス情報を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。
作成日時	イメージの作成日時を表示します。
作成元 VM	作成元の仮想マシン名を表示します。
レプリカ VM	イメージに対応する実仮想マシン名を表示します。
VM モード	レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でsysprep実行時に/mode vmオプションの有効 / 無効を表示します。

3.38.1. イメージ作成

イメージの作成を行います。

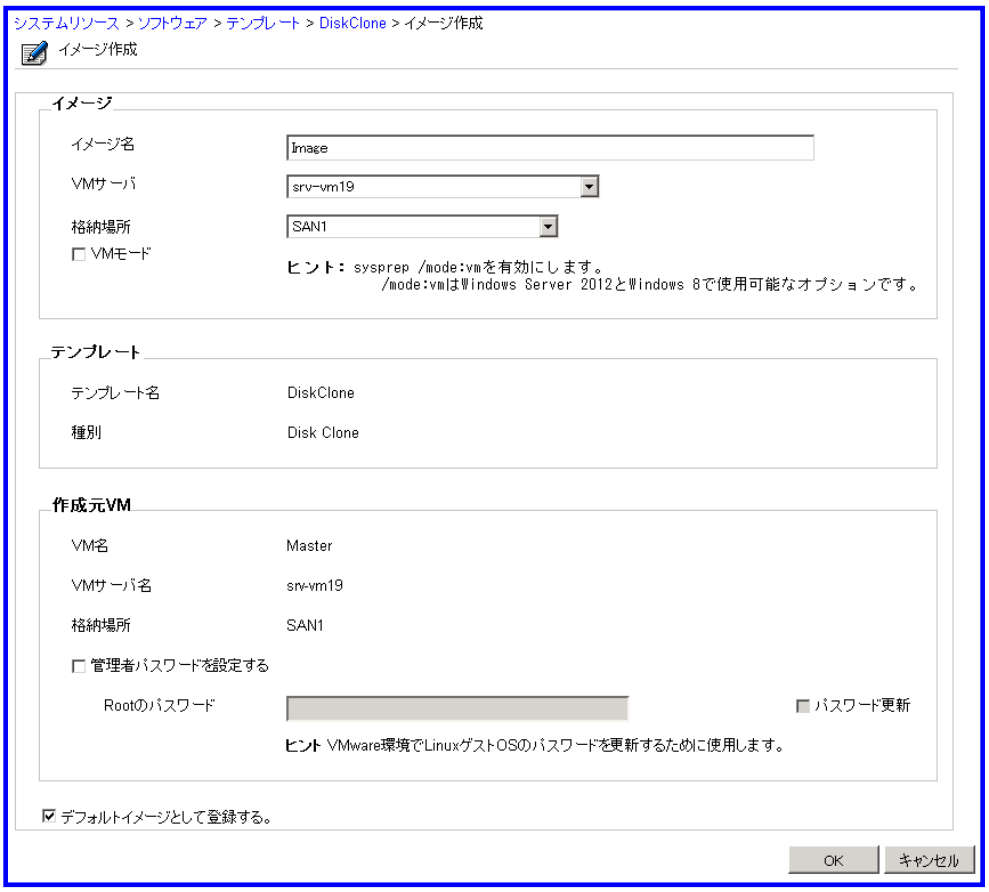
[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスに表示されるソフトウェア種類列から "テンプレート" をクリックします。テンプレート一覧から種別が "Differential Clone" か "Disk Clone" のテンプレートをクリックし、メインウィンドウにソフトウェアの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [イメージ作成] をクリックすると、メインウィンドウにイメージの作成ウィンドウが表示されます。イメージ情報を入力し、[OK] をクリックするとイメージが作成されます。

◆ Differential Clone 用のテンプレートの場合

イメージ作成		
イメージ		
	イメージ名 (入力必須)	イメージ名を入力します。入力できる文字数は53文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。既定値は、"Image" が入力されています。 vCenter Server環境以外でSysprepの自動実行の設定が行われている場合は、半角空白を使用することはできません。
	VM サーバ	格納先の仮想マシンサーバを選択します。
	格納場所	イメージの格納場所を選択します。
	レプリカ VM を指定の位置に固定する	レプリカVMを指定のデータストアに固定し、エッジ キャッシュ レプリカVMを作成しない場合は、チェックボックスをオンにします。Xen環境の場合は表示されません。

		作成元スナップショット	
		スナップショット名	スナップショット名を表示します。テンプレートの種別が "Differential Clone" の場合のみ表示されます。
		作成日時	スナップショットの作成日時を表示します。テンプレートの種別が "Differential Clone" の場合のみ表示されます。
		パス	スナップショットのパスを表示します。テンプレートの種別が "Differential Clone" の場合のみ表示されます。
	VM モード		レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でsysprep実行時に/mode vmオプションを有効にする場合、チェックボックスをオンにします。
テンプレート			
	テンプレート名		テンプレート名を表示します。
	種別		テンプレートの種別を表示します。
作成元 VM			
	VM 名		仮想マシン名を表示します。
	VM サーバ名		格納先の仮想マシンサーバ名を表示します。
	格納場所		仮想マシンの格納場所を表示します。
	管理者パスワードを設定する		仮想マシンのパスワードを設定する場合は、チェックボックスをオンにします。
	Root のパスワード		仮想マシンのパスワードを表示し、更新もできます。
	パスワード更新		仮想マシンのパスワードを更新する場合は、チェックボックスをオンにします。
デフォルトイメージとして登録する			イメージ作成後にテンプレートが使用するイメージとしてすぐに登録する場合、チェックボックスをオンにします。
[OK]			イメージ作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			イメージ作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Disk Clone 用のテンプレートの場合



イメージ作成		
イメージ		
	イメージ名 **(入力必須)**	イメージ名を入力します。入力できる文字数は53文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。既定値は、"Image" が入力されています。 vCenter Server環境以外でSysprepの自動実行の設定が行われている場合は、半角空白を使用することはできません。
	VM サーバ	格納先の仮想マシンサーバを選択します。
	格納場所	イメージの格納場所を選択します。
	VM モード	レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でsysprep実行時に/mode vmオプションを有効にする場合、チェックボックスをオンにします。
テンプレート		
	テンプレート名	テンプレート名を表示します。
	種別	テンプレートの種別を表示します。
作成元 VM		

		VM 名	仮想マシン名を表示します。
		VM サーバ名	格納先の仮想マシンサーバ名を表示します。
		格納場所	仮想マシンの格納場所を表示します。
		管理者パスワードを設定する	仮想マシンのパスワードを設定する場合は、チェックボックスをオンにします。
		Root のパスワード	仮想マシンのパスワードを表示し、更新もできます。
		パスワード更新	仮想マシンのパスワードを更新する場合は、チェックボックスをオンにします。
	デフォルトイメージとして登録する		イメージ作成後にテンプレートが使用するイメージとしてすぐに登録する場合、チェックボックスをオンにします。
[OK]			イメージ作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			イメージ作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.38.2. イメージ削除

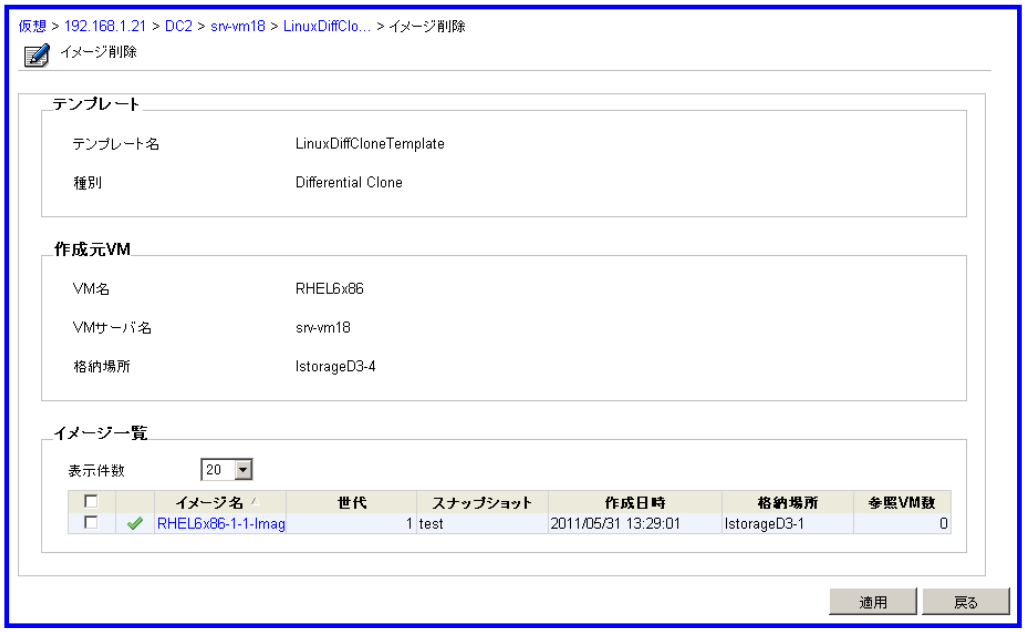
イメージの削除を行います。

[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスに表示されるソフトウェア種別欄から基本情報を表示するソフトウェアの種類をクリックします。ソフトウェア一覧からソフトウェア名、もしくは [システムリソース] ツリーから対象のソフトウェアのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにソフトウェアの基本情報が表示されます。[イメージ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [削除] をクリックします。

また、[仮想] ツリーからも以下の各操作でイメージの削除を行うことができます。

- ◆ [仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報が表示されます。[テンプレート一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [イメージ削除] をクリックします。
- ◆ [仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックすると、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報が表示されます。[テンプレート一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [イメージ削除] をクリックします。
- ◆ [仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[テンプレート一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [イメージ削除] をクリックします。

[仮想] ビューからイメージを削除する場合、以下のウィンドウが表示されます。

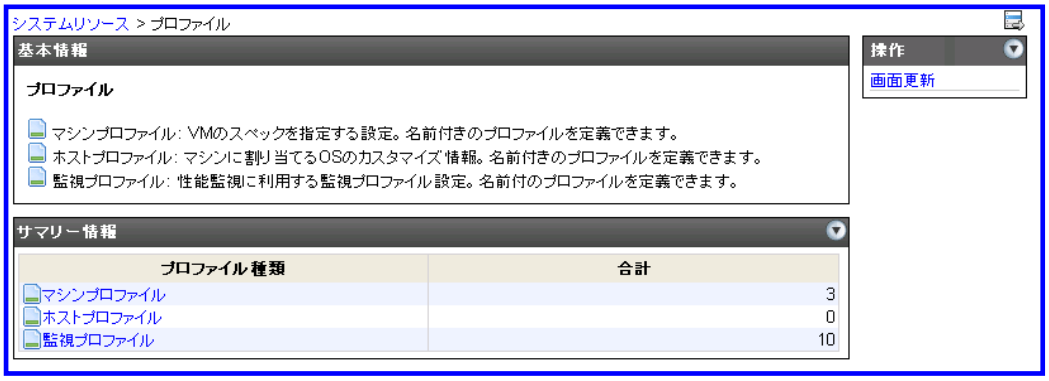


イメージ削除		
テンプレート		
	テンプレート名	テンプレート名を表示します。
	種別	テンプレートの種別を表示します。
作成元 VM		
	VM 名	仮想マシン名を表示します。
	VM サーバ名	格納先の仮想マシンサーバ名を表示します。
	格納場所	仮想マシンの格納場所を表示します。
イメージ一覧		
	イメージ名	イメージ名を表示します。
	世代	イメージの世代番号を表示します。
	スナップショット	イメージの作成元となったスナップショット名を表示します。
	作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
	格納場所	イメージが格納されているデータストア名を表示します。
	参照 VM 数	イメージを参照して作成された仮想マシン数を表示します。
[適用]		イメージ削除情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[戻る]		イメージ削除情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.39. プロファイル

プロファイルの管理を行います。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックすると、基本情報、および [サマリー情報] グループボックスが表示されます。



基本情報	プロファイルの定義、および説明を表示します。
サマリー情報	
プロファイル種類	プロファイルの種類を表示します。 表示されるプロファイルの種類は、マシンプロファイル、ホストプロファイル、監視プロファイルの3種類です。
合計	プロファイルの種類ごとにプロファイル数の合計値を表示します。

3.40. マシンプロファイル

マシンプロファイルの基本情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。

基本情報	
名前	マシンプロファイルを表示します。
説明	マシンプロファイルの説明を表示します。
マシンプロファイル一覧	
名前	マシンプロファイル名を表示します。
サマリ情報	マシンプロファイルのサマリ情報を表示します。
公開範囲	マシンプロファイルの公開範囲を表示します。
適用テナント	マシンプロファイルが適用されているテナント名を表示します。
編集	マシンプロファイルの編集を行います。「マシンプロファイル編集」ウィンドウに遷移します。
追加	マシンプロファイルを追加します。「マシンプロファイル追加」ウィンドウに遷移します。
削除	選択したマシンプロファイルを削除します。

3.40.1. マシンプロファイル追加

マシンプロファイルを追加します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。[マシンプロファイル一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「マシンプロファイル追加」が表示されます。マシンプロファイル情報を入力し、[OK] をクリックすると、マシンプロファイルが追加されます。

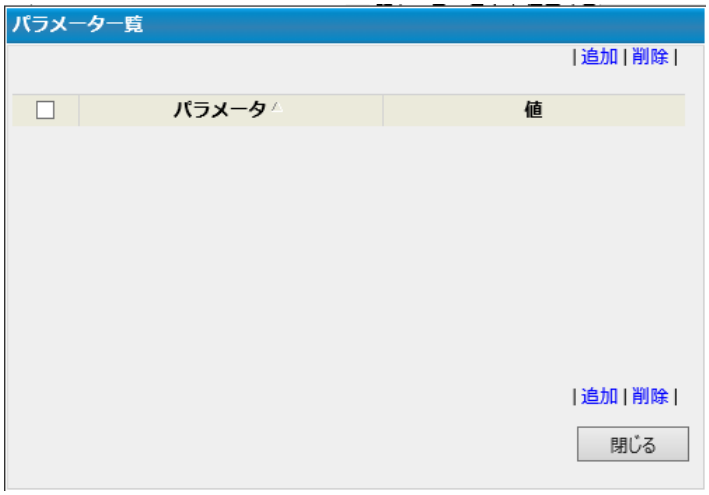
マシンプロファイル追加	
名前 **(入力必須)**	マシンプロファイル名を入力します。
公開範囲	マシンプロファイルの公開範囲を "Public" と "Private" のどちらかを選択します。
テナントへの割り当て	公開範囲で "Private" が選択された場合に選択可能です。テナントに割り当てることが可能です。
マシンプロファイルの参照	他のマシンプロファイルを参考にする場合、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
コスト情報	仮想マシンのコストを設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンします。
コスト値	コスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	仮想マシンに割り当てるCPU数やCPUの能力を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
CPU 数	CPU数を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。
CPU シェア	
最高 (4000)	CPUリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * CPU数 Hyper-V： 設定値 / 10 XenServer： 設定値 * 256 / 1000 KVM： 設定値 * 1024 / 1000
高 (2000)	
標準 (1000)	
低 (500)	
最低 (250)	
手動で設定する	CPUリソースの割当優先度を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	CPU予約を入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境、KVM環境では設定できません。 Hyper-Vでは、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境では設定できません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報	仮想マシンに割り当てるメモリの設定を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
メモリサイズ	メモリサイズを入力します。「1～99999999」の範囲で設定できます。
メモリシェア	
高 (2000)	メモリリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下
標準 (1000)	

	低 (500)	の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V： 設定値 * 5 XenServer, KVM ： 設定不可
	手動で設定する	メモリリソースの割当優先度を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
メモリ予約		仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では設定できません。
メモリリミット (0=unlimited)		仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では設定できません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報 (※ 公開範囲に Private 選択時のみ表示)		
	仮想 NIC #1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANか、[リソース] ビューで作成するネットワークを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」： 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」： 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 `NetworkName-VLAN:VlanId` `NetworkName` ： 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 `-VLAN:` ： 固定文字列です。 `VlanId` ： 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」： 接続先のネットワークの名前を設定します。
	[仮想 NIC 追加]	マシンプロファイルの仮想NIC設定を追加する場合にクリックします。最大10まで仮想NIC設定を追加することができます。
ディスク情報		
	システムディスク	仮想マシンのOSインストール先となるディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。

			タイプ	Thick / Thinのどちらかを選択します。Hyper-VのDifferential Cloneでは、設定は無効となります。 「Thick」： 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」： ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。
			サイズ	システムディスクサイズを入力します。「10～99999999」の範囲で設定できます。
			作成先データストア (省略可)	作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。
		拡張ディスク		データ用のディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
			タイプ	Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想) のいずれかを選択します。 「Thick」： 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。Xen環境では、設定は反映されません。 「Thin」： ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。Xen環境では、設定は反映されません。 「RDM (物理)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。
			サイズ	拡張ディスクサイズを入力します。タイプが 「Thick」、「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。タイプが「RDM (物理)」、「RDM (仮想)」の場合は、使用するLUN (ディスクボリューム) の条件を10GBの倍数で指定します。指定サイズ以上で指定サイズ ＋10GB未満のサイズのLUNが候補となります。10GB未満は対象になりません。
			作成先データストア(省略可)	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。
			コントローラ	作成するディスクの追加先となるコントローラを選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に使用可能なコントローラをSigmaSystemCenterが選択します。

			ディスク番号	作成するディスクの追加先となるコントローラ内の番号を選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に未使用の番号をSigmaSystemCenterが選択します。
			ターゲット LUN (タグ指定、省略可)	タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に、使用するLUN (ディスクボリューム) に設定したタグ (キーワード) を入力します。タグの指定は省略できます。省略した場合は、サイズを元に使用するLUN (ディスクボリューム) が自動的に選択されます。
	構成パラメータ設定			
		パラメータの設定		構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
	[OK]			マシンプロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
	[キャンセル]			マシンプロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。



パラメーター覧	
パラメータ	設定対象の項目を示すパラメータ名が表示されます。
値	パラメータに対する値が表示されます。
追加	新規にパラメータと値を入力するための行を追加します。
削除	既存のパラメータと値が入力されている行を削除します。
[閉じる]	表示されているパラメータと値を保存し、「パラメーター覧」ダイアログボックスを閉じます。

3.40.2. マシンプロファイル編集

マシンプロファイルを編集します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。[マシンプロファイル一覧] グループボックスから編集するマシンプロファイルの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「マシンプロファイル編集」が表示されます。マシンプロファイル情報を編集し、[OK] をクリックすると、マシンプロファイルが変更されます。

マシンプロファイル編集	
名前 **(入力必須)**	マシンプロファイル名を表示し、編集もできます。

公開範囲	マシンプロファイルの公開範囲を表示します。編集はできません。
テナントへの割り当て	割り当てられたテナントを表示し、編集もできます。
リソース管理 ID	テナントに設定されたリソースIDが表示されます。編集はできません。グループへの割り当てにテナントが選択されている場合のみ表示されます。
削除する	リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。グループへの割り当てに設定されていたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
コスト情報	仮想マシンのコストを設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンします。
コスト値	コスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	仮想マシンに割り当てるCPU数やCPUの能力を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
CPU 数	CPU数を表示し、編集もできます。「1～9999」の範囲で設定できます。
CPU シェア	
最高 (4000)	CPUリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * CPU数 Hyper-V： 設定値 / 10 XenServer： 設定値 * 256 / 1000 KVM： 設定値 * 1024 / 1000
高 (2000)	
標準 (1000)	
低 (500)	
最低 (250)	
手動で設定する	CPUリソースの割当優先度を表示し、編集もできます。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	CPU予約を表示し、編集もできます。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境、KVM環境では設定できません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを表示し、編集もできます。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境では設定できません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報	仮想マシンに割り当てるメモリの設定を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
メモリサイズ	メモリサイズを表示し、編集もできます。「1～99999999」の範囲で設定できます。
メモリシェア	
高 (2000)	メモリリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下
標準 (1000)	

	低 (500)	の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V： 設定値 * 5 XenServer, KVM ： 設定不可
	手動で設定する	メモリリソースの割当優先度を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
メモリ予約		仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では設定できません。
メモリリミット (0=unlimited)		仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では設定できません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報 (※ 公開範囲に Private 選択時のみ表示)		
	仮想 NIC #1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANか、[リソース] ビューで作成するネットワークを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」： 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」： 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 `NetworkName-VLAN:VlanId` `NetworkName` ： 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 `-VLAN:` ： 固定文字列です。 `VlanId` ： 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」： 接続先のネットワークの名前を設定します。
	[仮想 NIC 追加]	マシンプロファイルの仮想NIC設定を追加する場合にクリックします。最大10まで仮想NIC設定を追加することができます。
ディスク情報		
	システムディスク	仮想マシンのOSインストール先となるディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。

			タイプ	Thick / Thinのどちらかを選択します。Hyper-VのDifferential Cloneでは、設定は無効となります。 「Thick」： 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」： ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。
			サイズ	システムディスクサイズを表示し、編集もできます。「10～99999999」の範囲で設定できます。
			作成先データストア (省略可)	作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。
		拡張ディスク		データ用のディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。
			キャンセル	表示されている拡張ディスクの定義を削除します。
			タイプ	Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想) のいずれかを選択します。 「Thick」： 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。Xen環境では、設定は反映されません。 「Thin」： ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。Xen環境では、設定は反映されません。 「RDM (物理)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。
			サイズ	拡張ディスクサイズを表示し、編集もできます。タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。タイプが「RDM(物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合は、使用するLUN (ディスクボリューム) の条件を10GBの倍数で指定します。指定サイズ以上で指定サイズ ＋10GB未満のサイズのLUNが候補となります。10GB未満は対象になりません。
			作成先データストア (省略可)	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。

			コントローラ	作成するディスクの追加先となるコントローラを選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスクの追加時に使用可能なコントローラをSigmaSystemCenterが選択します。
			ディスク番号	作成するディスクの追加先となるコントローラ内の番号を選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に未使用の番号をSigmaSystemCenterが選択します。
	[OK]			マシンプロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
	[キャンセル]			マシンプロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「3.40.1 マシンプロファイル追加」を参照してください。

3.40.3. マシンプロファイル削除

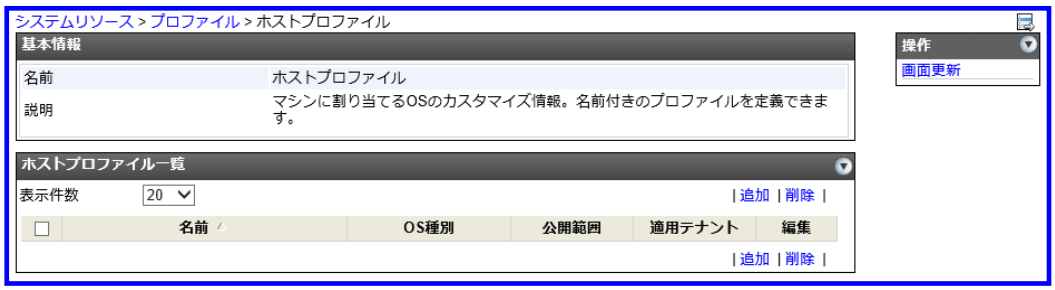
マシンプロファイルを削除します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [マシンプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。[マシンプロファイル一覧] グループボックスから削除するマシンプロファイルを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

3.41. ホストプロファイル

ホストプロファイルの基本情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。



基本情報		
	名前	ホストプロファイルを表示します。
	説明	ホストプロファイルの説明を表示します。
ホストプロファイル一覧		
	名前	ホストプロファイル名を表示します。
	OS 種別	ホストプロファイルのOS種別を表示します。
	公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を表示します。
	適用テナント	ホストプロファイルが適用されているテナント名を表示します。
	編集	ホストプロファイルの編集を行います。「ホストプロファイル編集」ウィンドウに遷移します。
	追加	ホストプロファイルを追加します。「ホストプロファイル追加」ウィンドウに遷移します。
	削除	選択したホストプロファイルを削除します。

3.41.1. ホストプロファイル追加

ホストプロファイルを追加します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [ホストプロファイル] をクリックすると、マシンプロファイルの基本情報が表示されます。[ホストプロファイル一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「ホストプロファイル追加」が表示されます。ホストプロファイル情報を入力し、[OK] をクリックすると、ホストプロファイルが追加されます。

◆ Windows Server の場合

ホストプロファイル追加	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を入力します。
OS 種別	プルダウンボックスから "Windows Server" を選択します。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を "Public" と "Private" のどちらかを選択します。
テナントへの割り当て	公開範囲で "Private" が選択された場合に選択可能です。テナントに割り当てることが可能です。

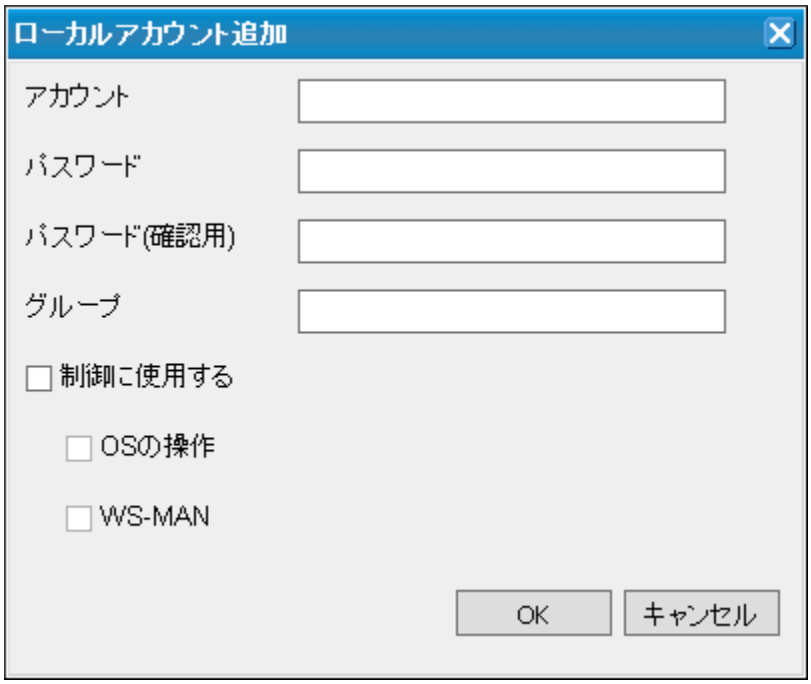
	ホストプロファイルの参照		他のホストプロファイルを参考にする場合、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
	OS 設定 ※1		
		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
			アカウント アカウント名を表示します。
			パスワード アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
			グループ アカウントが所属するグループを表示します。
			ビルトイン管理者 管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
			制御用 制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
			編集 選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを使用する場合、プルダウンボックスからSysprep応答ファイルを選択します。 Sysprep応答ファイルは、<*SystemProvisioningのインストールフォルダ*>¥conf¥oscustomにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	使用するタイムゾーンを選択します。
		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。
		ライセンスモード	[同時接続ユーザ数]、もしくは [接続クライアント数] から選択します。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。

		ワークグループ設定	[ワークグループ]、もしくは [ドメイン] を選択します。
		ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] でワークグループを選択した場合はワークグループ名、ドメインを選択した場合はドメイン名を入力します。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
		ドメインアカウント	ドメインアカウントを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
		ドメインパスワード	ドメインパスワードを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
		パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。
	DNS / WINS 設定		
		NIC 一覧	
		NIC 番号	NIC番号を表示します。
		優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示します。
		編集	選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
		追加	NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
		削除	チェックボックスを選択したNICを削除します。
	拡張設定		
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		
		サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[OK]			ホストプロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	ホストプロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

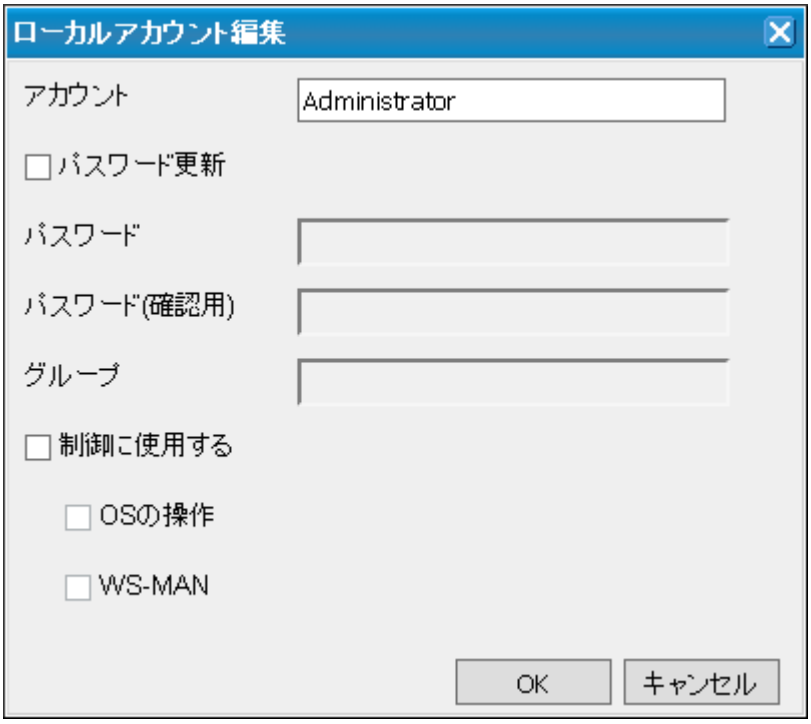
[OS 設定] グループボックスの [アカウント追加] をクリックすると、「ローカルアカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。



ローカルアカウント追加		
	アカウント	アカウントの名前を指定します。
	パスワード	アカウントのパスワードを指定します。
	パスワード (確認用)	確認のため再度同じパスワードを入力します。
	グループ	アカウントの所属するグループを指定します。複数指定する場合は、","で区切ります。
	制御に使用する	OSの操作、もしくはESMPRO/ServerAgentServiceに登録する場合にチェックボックスをオンにします。
	OS の操作	OSの操作に使用する場合にチェックボックスをオンにします。
	WS-MAN	ESMPRO/ServerAgentServiceに登録する場合にチェックボックスをオンにします。
[OK]		ローカルアカウント追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	ローカルアカウント追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

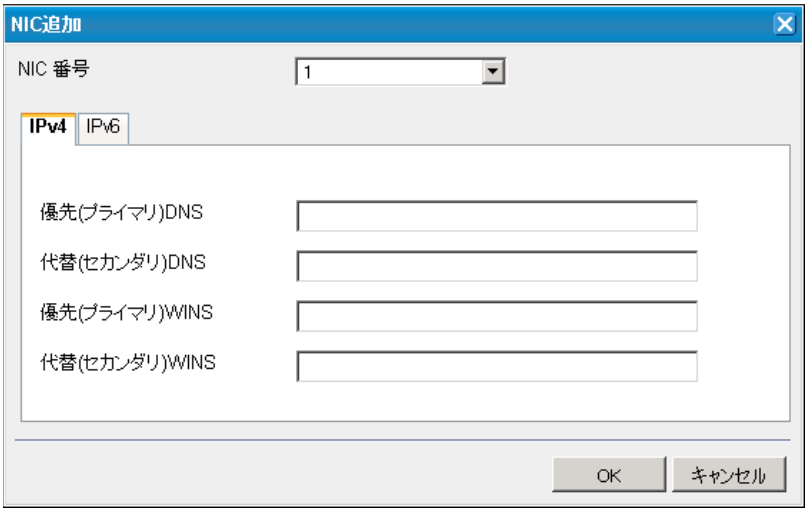
[OS 設定] グループボックスのローカルアカウント設定の表から、ローカルアカウントの編集を行う場合、編集するアカウントの [編集] をクリックし、「ローカルアカウント編集」ダイアログボックスを表示されます。



ローカルアカウント編集		
	アカウント	アカウントの名前を表示し、編集できます。
	パスワード更新	パスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
	パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、アカウントのパスワードを入力します。
	パスワード (確認用)	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、確認のため再度同じパスワードを入力します。
	グループ	アカウントが所属するグループを表示し、編集できます。
	制御に使用する	OSの操作、もしくはESMPRO/ServerAgentServiceに登録する場合にチェックボックスをオンにします。
	OS の操作	OSの操作に使用する場合にチェックボックスをオンにします。
	WS-MAN	ESMPRO/ServerAgentServiceに登録する場合にチェックボックスをオンにします。
[OK]		ローカルアカウント編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

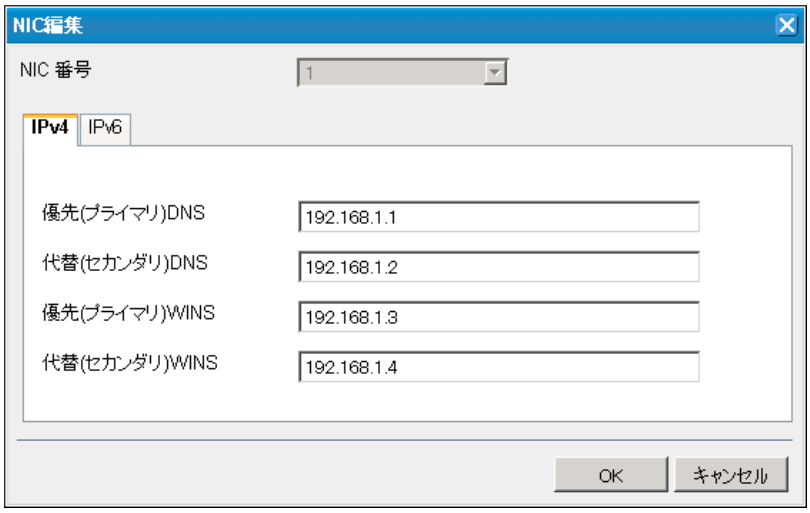
[キャンセル]	ローカルアカウント編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



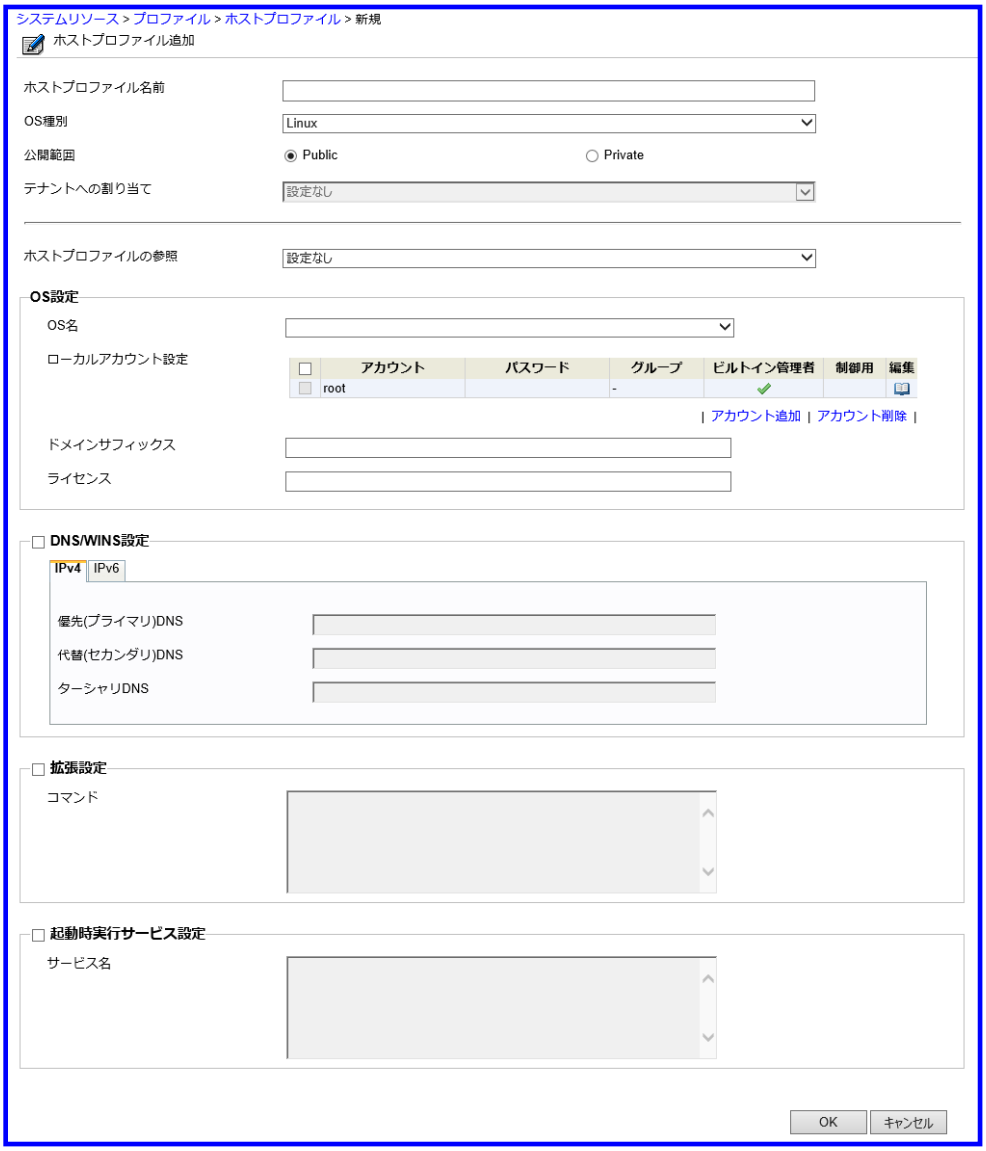
NIC 追加	
NIC 番号	NIC番号を選択します。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]	NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC一覧] グループボックスから編集するNIC の [編集] をクリックすると、「NIC編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Linux の場合



ホストプロファイル追加	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を入力します。
OS 種別	プルダウンボックスから "Linux" を選択します。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を "Public" と "Private" のどちらかを選択します。
テナントへの割り当て	公開範囲で "Private" が選択された場合に選択可能です。テナントに割り当てることが可能です。
ホストプロファイルの参照	他のホストプロファイルを参考にする場合、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
OS 設定 ※1	

		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。 vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
			アカウント	アカウント名を表示します。
			パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
			グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
			ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
			制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
			編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		ドメインサフィックス	ドメインサフィックスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
		ライセンス	適用するライセンスキーを入力します。
	DNS/WINS 設定		
		優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。
		代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。
		ターシャリ DNS	ターシャリDNSのIPアドレスを入力します。
	拡張設定		
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		
		サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[OK]			ホストプロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			ホストプロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

◆ Windows Client の場合

ホストプロファイル追加	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を入力します。
OS 種別	プルダウンボックスから "Windows Client" を選択します。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を "Public" と "Private" のどちらかを選択します。

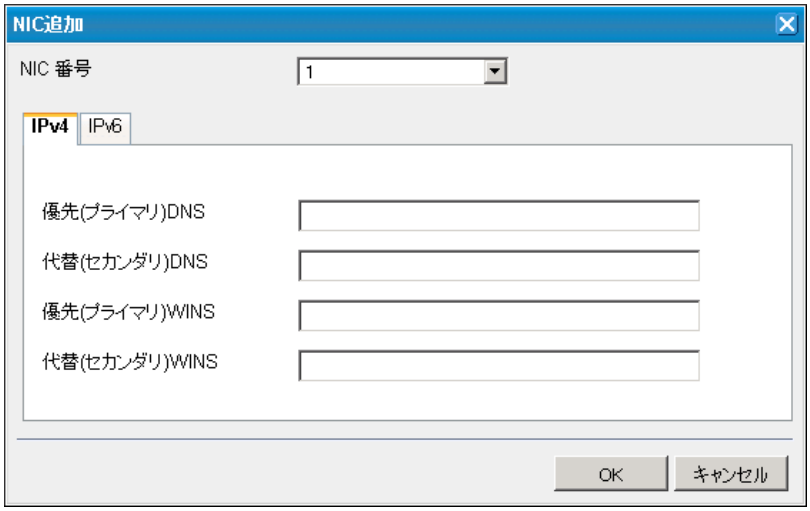
	テナントへの割り当て		公開範囲で "Private" が選択された場合に選択可能です。テナントに割り当てることが可能です。
	ホストプロファイルの参照		他のホストプロファイルを参考にする場合、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
	OS 設定 ※1		
		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
		アカウント	アカウント名を表示します。
		パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
		グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
		ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
		制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
		編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを使用する場合、プルダウンボックスからSysprep応答ファイルを選択します。 Sysprep応答ファイルは、<*System Provisioning のインストールフォルダ*>¥conf¥oscustomにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	使用するタイムゾーンを選択します。

		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は (XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。
		ワークグループ設定	[ワークグループ]、もしくは [ドメイン] を選択します。
		ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] でワークグループを選択した場合はワークグループ名、ドメインを選択した場合はドメイン名を入力します。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
		ドメインアカウント	ドメインアカウントを入力します。[ワークグループ設定] が、ドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
		ドメインパスワード	ドメインパスワードを入力します。[ワークグループ設定] が、ドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
		パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。
	DNS / WINS 設定		
		NIC 一覧	
		NIC 番号	NIC番号を表示します。
		優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		編集	選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
		追加	NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
		削除	チェックボックスを選択したNICを削除します。
	拡張設定		
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		

	サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[OK]		ホストプロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ホストプロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

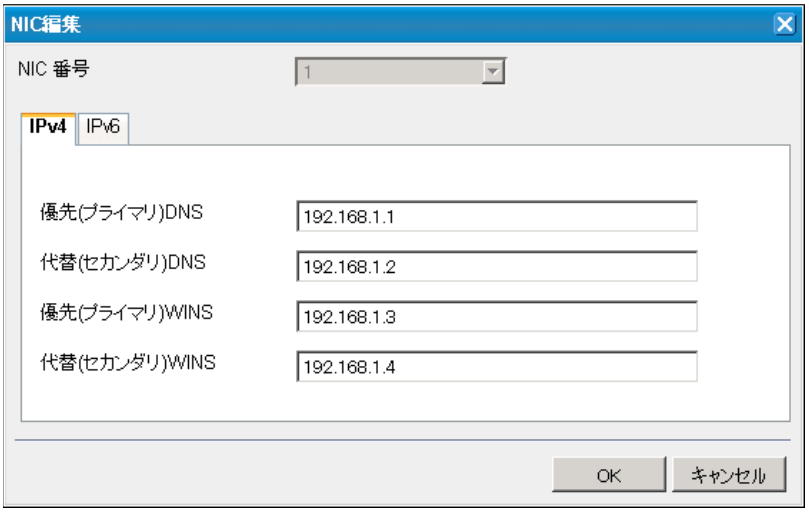
※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 追加		
	NIC 番号	NIC番号を選択します。
	優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
	代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]		NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC一覧] グループボックスから編集するNICの [編集] をクリックすると、「NIC編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.41.2. ホストプロファイル編集

ホストプロファイルを編集します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。[ホストプロファイル一覧] グループボックスから編集するマシンプロファイルの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「ホストプロファイル編集」が表示されます。ホストプロファイル情報を編集し、[OK] をクリックすると、ホストプロファイルが変更されます。

◆ Windows Server の場合

ホストプロファイル編集	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を表示し、編集もできます。
OS 種別	OSの種別を表示します。変更はできません。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を表示します。
テナントへの割り当て	割り当てられたテナントを表示し、編集もできます。
リソース管理 ID	テナントに設定されたリソースIDが表示されます。編集はできません。グループへの割り当てにテナントが選択されている場合のみ表示されます。

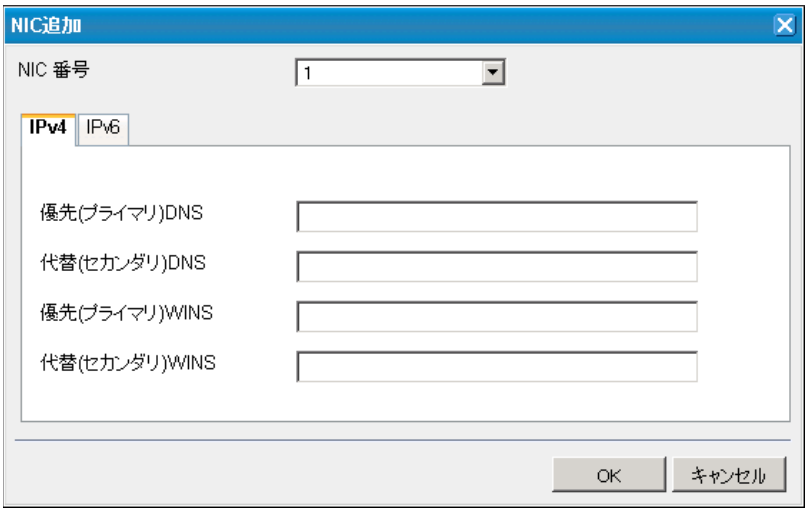
	削除する		リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。グループへの割り当てに設定されていたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
	OS 設定 ※1		
		OS 名	OS名を表示し、変更もできます。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
			アカウント アカウント名を表示します。
			パスワード アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
			グループ アカウントが所属するグループを表示します。
			ビルトイン管理者 管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
			制御用 制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
			編集 選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを表示し、変更もできます。 Sysprep応答ファイルは、<*SystemProvisioningのインストールフォルダ*>¥conf¥oscustomにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	使用するタイムゾーンを表示し、変更もできます。
		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は (XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。

ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。
ワークグループ設定	ワークグループ設定を表示し、変更もできます。
ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] がワークグループの場合はワークグループ名、ドメインの場合はドメイン名を表示し、編集もできます。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
ドメインアカウント	ドメインアカウントを表示し、編集もできます。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
ドメインパスワード	ドメインパスワードを表示し、編集もできます。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。
DNS / WINS 設定	
NIC 一覧	
NIC 番号	NIC番号を表示します。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示します。
編集	選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
追加	NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
削除	チェックボックスを選択したNICを削除します。
拡張設定	
コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
起動時実行サービス設定	
サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を指定します。

[OK]	ホストプロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ホストプロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

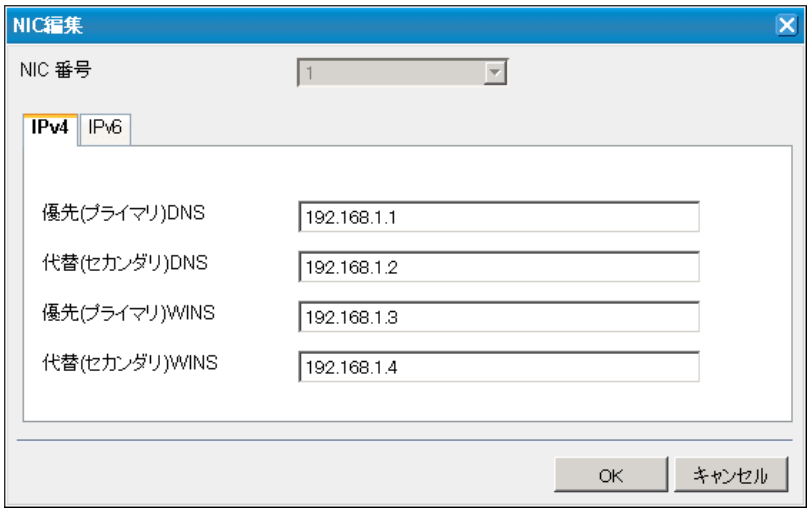
※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 追加	
NIC 番号	NIC番号を選択します。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]	NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC一覧] グループボックスから編集するNIC の [編集] をクリックすると、「NIC編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ Linux の場合

ホストプロファイル編集	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を表示し、編集もできます。
OS 種別	OSの種別を表示します。変更はできません。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を表示します。
テナントへの割り当て	割り当てられたテナントを表示し、編集もできます。
リソース管理 ID	テナントに設定されたリソースIDが表示されます。編集はできません。グループへの割り当てにテナントが選択されている場合のみ表示されます。
削除する	リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。グループへの割り当てに設定されていたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
OS 設定 ※1	

		OS 名	OS名を表示し、変更もできます。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
			アカウント	アカウント名を表示します。
			パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
			グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
			ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
			制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
			編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		ドメインサフィックス	ドメインサフィックスを表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
		ライセンス	適用するライセンスキーを表示し、編集もできます。
	DNS/WINS 設定		
			優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
			代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
			ターシャリ DNS	ターシャリDNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
	拡張設定		
			コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		
			サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[OK]			ホストプロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			ホストプロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

◆ Windows Client の場合

ホストプロファイル編集	
ホストプロファイル名前	ホストプロファイル名を表示し、編集もできます。
OS 種別	OSの種別を表示します。変更はできません。
公開範囲	ホストプロファイルの公開範囲を表示します。
テナントへの割り当て	割り当てられたテナントを表示し、編集もできます。

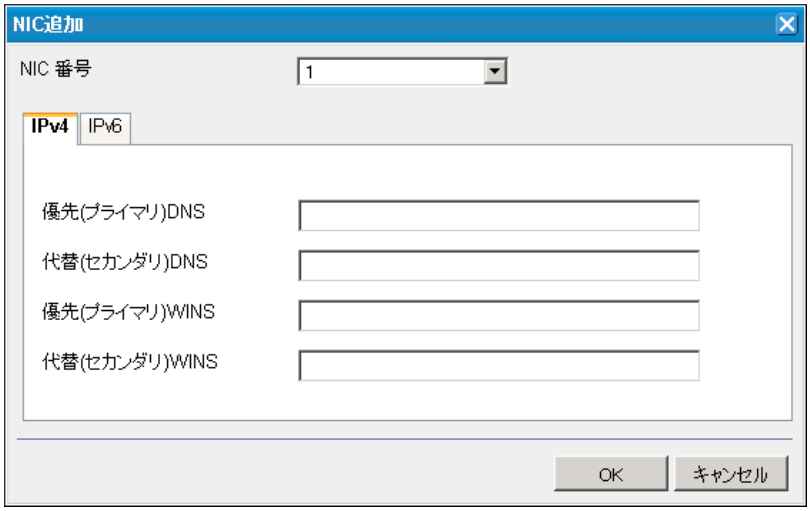
	リソース管理 ID		テナントに設定されたリソースIDが表示されます。編集はできません。グループへの割り当てにテナントが選択されている場合のみ表示されます。
	削除する		リソース管理IDを削除する場合にチェックボックスをオンにします。グループへの割り当てに設定されていたテナントが削除されている場合のみ設定できます。
	OS 設定 ※1		
		OS 名	OS名を表示し、変更もできます。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
		アカウント	アカウント名を表示します。
		パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
		グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
		ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
		制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
		編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを表示し、変更もできます。 Sysprep応答ファイルは、<*System Provisioning のインストールフォルダ*>¥conf¥os customにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	使用するタイムゾーンを表示し、変更もできます。

		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。
		ワークグループ設定	ワークグループ設定を表示し、変更もできます。
		ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] がワークグループの場合はワークグループ名、ドメインの場合はドメイン名を表示し、編集もできます。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
		ドメインアカウント	ドメインアカウントを表示し、編集もできます。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
		ドメインパスワード	ドメインパスワードを表示し、編集もできます。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
		パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。
	DNS / WINS 設定		
		NIC 一覧	
		NIC 番号	NIC番号を表示します。
		優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
		優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
		代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示します。
		編集	選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
		追加	NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
		削除	チェックボックスを選択したNICを削除します。
	拡張設定		
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		

	サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[OK]		ホストプロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		ホストプロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

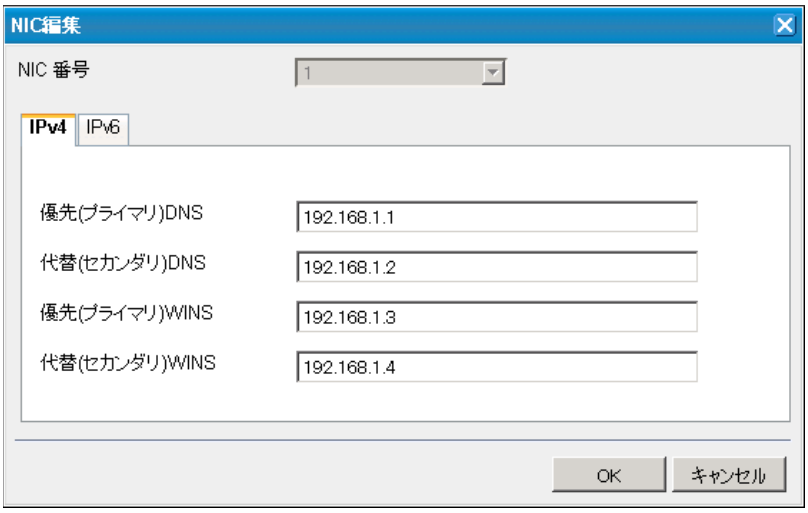
※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 追加		
	NIC 番号	NIC番号を選択します。
	優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
	代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]		NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC 一覧] グループボックスから編集する NIC の [編集] をクリックすると、「NIC 編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.41.3. ホストプロファイル削除

ホストプロファイルを削除します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [ホストプロファイル] をクリックすると、ホストプロファイルの基本情報が表示されます。[ホストプロファイル一覧] グループボックスから削除するホストプロファイルを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

3.42. 監視プロファイル

監視プロファイルの基本情報を表示します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。

基本情報	
名前	監視プロファイルを表示します。
説明	監視プロファイルの説明を表示します。
監視プロファイル一覧	
名前	監視プロファイル名を表示します。
説明	監視プロファイルの説明を表示します。
公開範囲	監視プロファイルの公開範囲を表示します。
適用テナント	監視プロファイルが適用されているテナント名を表示します。
編集	監視プロファイルの編集を行います。「監視プロファイル編集」ウィンドウに遷移します。
コピー	選択した監視プロファイルをコピーします。コピー元監視プロファイルと同じ設定の監視プロファイルを追加します。
追加	監視プロファイルの追加を行います。「監視プロファイル追加」ウィンドウに遷移します。

削除	選択した監視プロファイルを削除します。

3.42.1. 監視プロファイル追加

監視プロファイルを追加します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。[監視プロファイル一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「監視プロファイル追加」が表示されます。監視プロファイル情報を入力し、[OK] をクリックすると、監視プロファイルが追加されます。

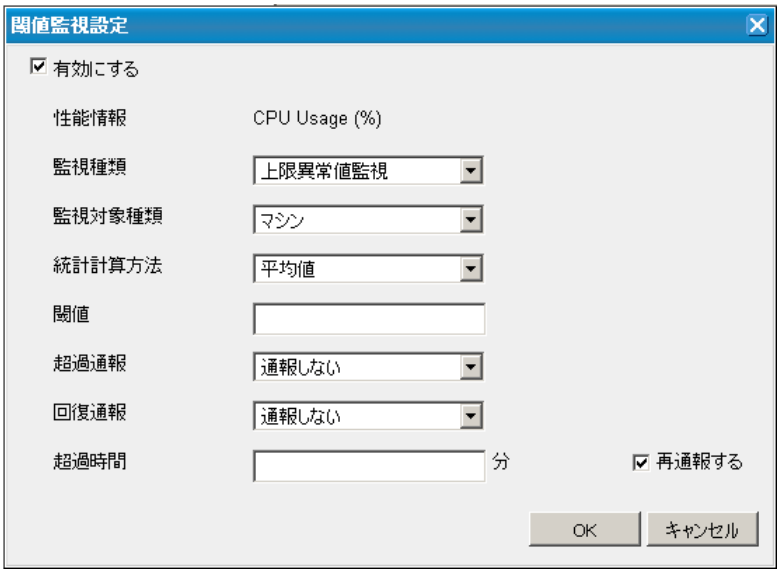
監視プロファイル追加	
プロファイル名 **(入力必須)**	監視プロファイルの名前を入力します。入力できる文字数は63文字以内です。使用可能な文字列は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ( ) - _ [ ]
公開範囲	
Public	全グループへ適用できる監視プロファイルを定義します。
Private	割り当てられたテナントのみ適用できるプロファイルを定義します。
テナントへの割り当て	公開範囲で "Private" を選択された場合のみ選択できます。テナントに割り当てることが可能です。
説明	監視プロファイルの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。

性能情報一覧		
	性能情報	性能情報の名前を表示します。
	収集間隔	性能情報の収集間隔を表示します。
	編集	性能情報の編集を行います。[性能情報一覧] グループボックスの下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。
	追加	性能情報の追加を行います。[性能情報一覧] グループボックスの下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。
	削除	選択した性能情報を削除します。
[OK]		監視プロファイル追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		監視プロファイル追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[性能情報一覧] グループボックス下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。

性能情報設定		
	リソース	リソースの種類を選択します。CPU、Disk、Network、Memory、Power Supply、Resource Pool、およびOtherの中から指定できます。
	性能情報	性能情報を選択します。 [リソース] プルダウンボックスで "Other" を選択する場合、性能情報を手入力することができます。入力できる文字数は256文字以内です。使用可能な文字列はSystem Monitor性能監視のビルトイン性能情報のタイトル以外の文字列です。
	収集間隔	性能データの収集間隔を選択します。収集間隔は、1分、5分、30分、1時間、4時間、1日、1週間、1ヶ月から選択できます。
	閾値監視情報一覧	
	監視種類	閾値設定の種類を表示します。
	監視対象種類	閾値監視対象単位を表示します。
	統計計算方法	統計計算方法を表示します。
	閾値	閾値を表示します。
	監視状態	閾値設定の状態を表示します。
	編集	閾値監視情報の編集を行います。「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。
	追加	閾値監視情報の追加を行います。「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。
	削除	選択した閾値監視情報を削除します。
[OK]		性能情報と閾値監視情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		性能情報と閾値監視情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。



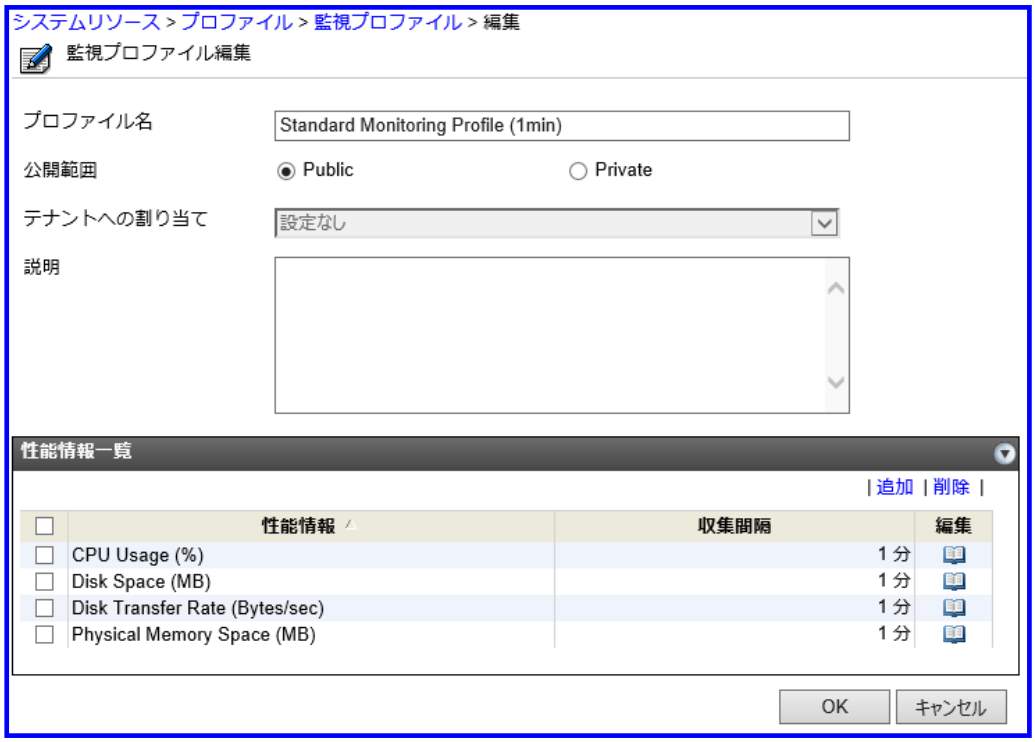
閾値監視設定	
有効にする	チェックボックスをオンにすると、閾値監視を有効にします。
性能情報	性能情報を表示します。
監視種類	閾値の種類を選択します。以下の4つの中から閾値を設定できます。 ・上限異常値監視 ・上限警告値監視 ・下限警告値監視 ・下限異常値監視
監視対象種類	監視対象の種類を "マシン" と "グループ" から選択します。
統計計算方法	統計計算方法を選択します。以下の統計計算方法を指定できます。 ・最大値 ・平均値 ・最小値 ・合計値
閾値 **(入力必須)**	閾値を入力します。入力できる数字の範囲は、「0～999999999999999999999999999999(30桁)」です。
超過通報	上限異常値超過時のSystem Provisioningへの通報処理を指定します。
回復通報	既に上限異常値超過状態で、上限異常値超過から回復するときのSystem Provisioningへの通報処理を指定します。

超過時間 **(入力必須)**	連続した性能データチェック期間を指定します。超過時間に指定できる数字は、以下を確保する必要があります。 超過時間 / 性能情報の収集間隔 ≦ 1000
再通報する	閾値超過から回復しない場合の再通報の有無を指定します。
[OK]	閾値監視情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	閾値監視情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.42.2. 監視プロファイル編集

閾値プロファイルを編集します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。[監視プロファイル一覧] グループボックスから編集する監視プロファイルの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「監視プロファイル編集」が表示されます。監視プロファイル情報を収集し、[OK] をクリックすると、監視プロファイルが変更されます。



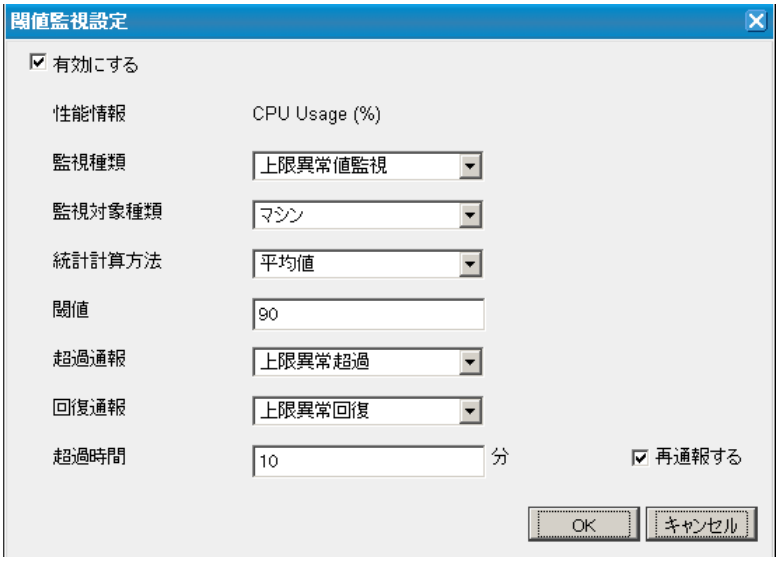
監視プロファイル編集	
プロファイル名 **(入力必須)**	監視プロファイルの名前を表示し、編集もできます。
公開範囲	
Public	全グループへ適用できる監視プロファイルを定義します。
Private	割り当てられたテナントのみ適用できるプロファイルを定義します。
テナントへの割り当て	公開範囲が "Private" の場合のみ選択できます。テナントに割り当てることが可能です。
説明	監視プロファイルの説明を表示し、編集もできます。
性能情報一覧	
性能情報	性能情報の名前を表示します。
収集間隔	性能情報の収集間隔を表示します。
編集	性能情報の編集を行います。[性能情報一覧] グループボックスの下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。
追加	性能情報の追加を行います。[性能情報一覧] グループボックスの下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。
削除	選択した性能情報を削除します。
[OK]	監視プロファイル編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	監視プロファイル編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[編集] をクリックすると、[性能情報一覧] グループボックス下部に [性能情報設定] グループボックスが表示されます。

性能情報設定		
	リソース	リソース種類を表示し、編集もできます。
	性能情報	性能情報を表示し、編集もできます。
	収集間隔	性能データの収集間隔を表示し、編集もできます。
	閾値監視情報一覧	
	監視種類	閾値設定の種類を表示します。

	監視対象種類	閾値監視対象単位を表示します。
	統計計算方法	統計計算方法を表示します。
	閾値	閾値を表示します。
	監視状態	閾値設定の状態を表示します。
	編集	閾値監視情報の編集を行います。「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。
	追加	閾値監視情報の追加を行います。「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。
	削除	選択した閾値監視情報を削除します。
[OK]		性能情報と閾値監視情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		性能情報と閾値監視情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[編集] をクリックすると、「閾値監視設定」ダイアログボックスが表示されます。



閾値監視設定	
有効にする	チェックボックスをオンにすると、閾値監視を有効にします。
性能情報	性能情報を表示します。
監視種類	閾値の種類を表示し、編集もできます。
監視対象種類	監視対象の種類を表示し、編集もできます。
統計計算方法	統計計算方法を表示し、編集もできます。

閾値 **(入力必須)**	閾値を表示し、編集もできます。
超過通報	上限異常値超過時のSystemProvisioningへの通報処理を表示し、編集もできます。
回復通報	既に上限異常値超過状態で、上限異常値超過から回復するときのSystemProvisioningへの通報処理を表示し、編集もできます。
超過時間 **(入力必須)**	連続した性能データチェック期間を表示し、編集もできます。
再通報する	閾値超過から回復しない場合の再通報の有無を表示し、編集もできます。
[OK]	閾値監視情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	閾値監視情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

3.42.3. 監視プロファイルコピー

既存の監視プロファイルをコピーして新しく監視プロファイルを作成します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。または、[システムリソース] ツリーから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。[監視プロファイル一覧] グループボックスからコピーする監視プロファイルのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [コピー] をクリックすると、選択した監視プロファイルがコピーされ、[監視プロファイル一覧] グループボックスに表示されます。

3.42.4. 監視プロファイル削除

監視プロファイルを削除します。

[システムリソース] ツリーから [プロファイル] をクリックし、[サマリー情報] グループボックスから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。

または、[システムリソース] ツリーから [監視プロファイル] をクリックすると、監視プロファイルの基本情報が表示されます。[監視プロファイル一覧] グループボックスから削除する監視プロファイルを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

3.43. リソースへのメニュー操作

リソースで使用する操作に関するメニューについて説明します。

3.43.1. 起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド

マシンの起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドを行います。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン]、もしくは [サスペンド] をクリックすると、マシンの電源を操作することができます。または、[システムリソース] ツリーからリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[マシン一覧] グループボックスからマシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン]、もしくは [サスペンド] をクリックします。

3.43.2. 収集 (ALL) / マシン収集 / ソフトウェア収集 / センサー収集

マシン収集は、マシンの基本的な情報の収集です。UUID や NIC、電源状態などのマシンを構成する一般的な情報が収集されます。

ソフトウェア収集は、マシンに対し適用されているパッチ情報の収集です。

センサー収集は、マシンの IPMI 情報として管理されるセンサー情報の収集です。

収集 (ALL) は、マシン収集とソフトウェア収集、センサー収集、すべてを一度に実行します。

グループに対しては、「収集 (ALL) / マシン収集 / ソフトウェア収集 / センサー収集」を実行することができます。各収集操作を行う場合は、[システムリソース] ツリーからスマートグループ / グループ / ラックを選択し、[操作] メニューから実行します。

マシン単位に収集を行う場合は、「マシン収集」のみが実行可能となります。実行するには、以下の 2 つの方法があります。

- [システムリソース] ツリーから対象のマシンを選択し、[操作] メニューから [マシン収集] をクリックする。
- [システムリソース] ツリーから [マシン] を選択、あるいは対象のマシンが所属するスマートグループ / グループ / ラックを選択し、[マシン一覧] グループボックスから対象のマシンのチェックボックスをオンにした上で、[マシン個別操作] プルダウンボックスから [マシン収集] をクリックする。

3.43.3. 再構成

マシンを再構成します。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。

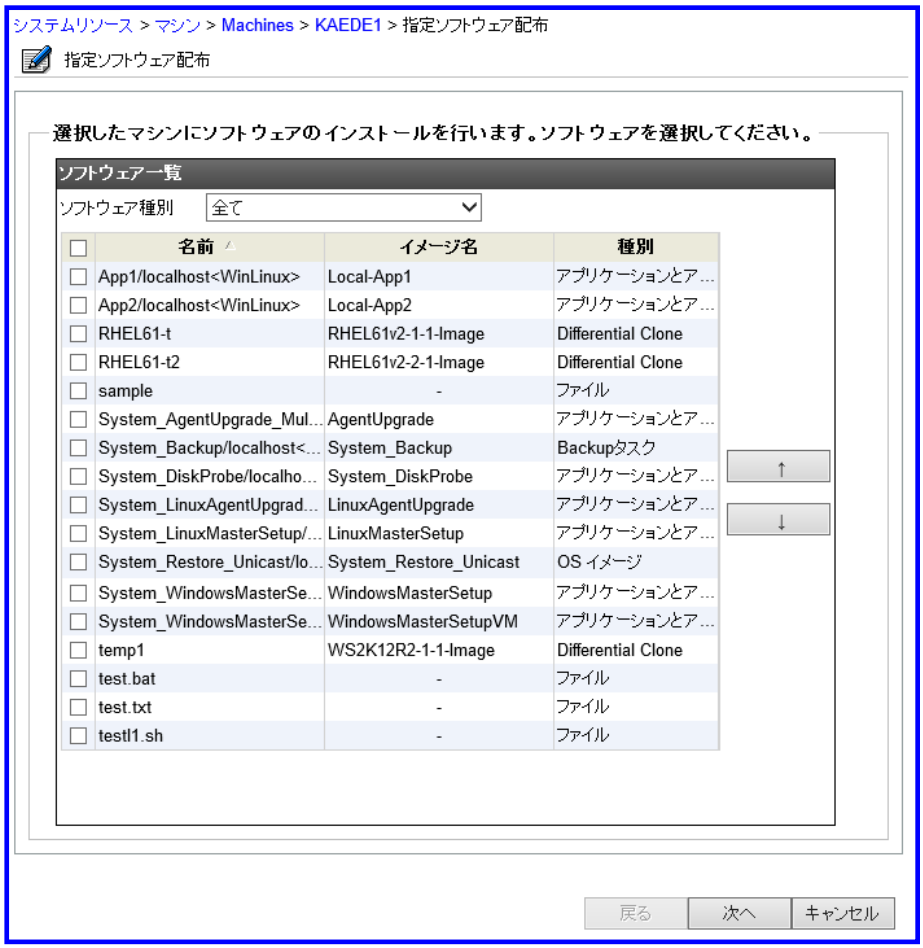
または、[システムリソース] ツリーからリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[マシン一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [再構成] をクリックします。

再構成については、「4.19.17 再構成」を参照してください。

3.43.4. 指定ソフトウェア配布

対象のマシンに指定ソフトウェアの配布を行います。

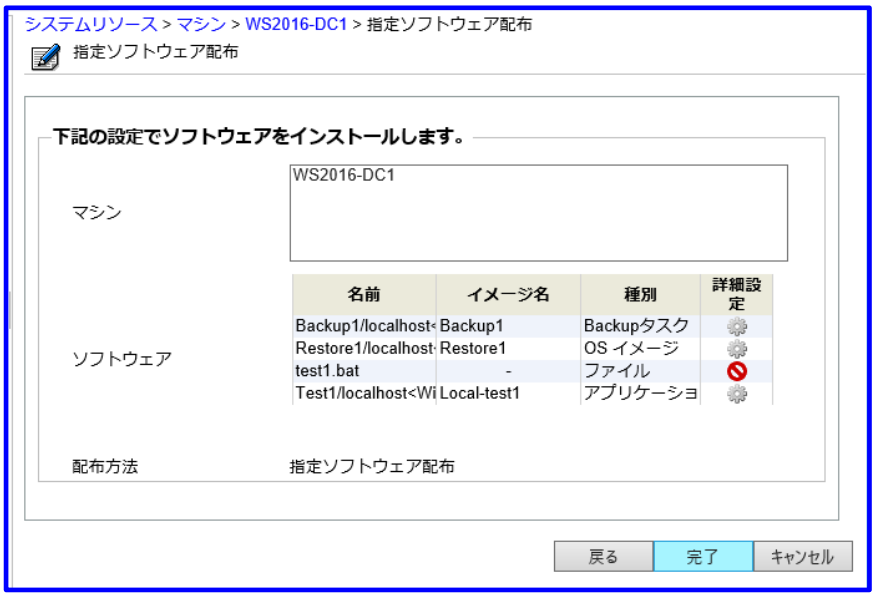
[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [指定ソフトウェア配布] をクリックすると、メインウィンドウに「指定ソフトウェア配布」が表示されます。または、[システムリソース] ツリーからソフトウェアを配布するマシンが所属するリソースグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにリソースグループの詳細情報を表示します。[マシン一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [指定ソフトウェア配布] をクリックすると、メインウィンドウに「指定ソフトウェア配布」が表示されます。指定するソフトウェアを選択し、[OK] をクリックするとソフトウェアが指定されます。



指定ソフトウェア配布

ソフトウェア一覧

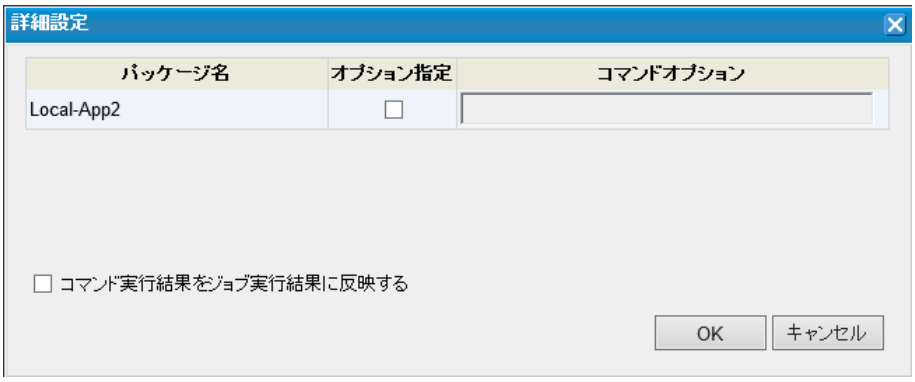
	ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイル配信の中から選択できます。
	名前	ソフトウェア名を表示します。ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
	イメージ	イメージ名を表示します。
	種別	ソフトウェアの種別を表示します。
	[↑]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。
	[↓]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。
[次へ]		次のウィンドウに移動します。
[キャンセル]		指定したソフトウェアの配布を行わずに、元のウィンドウに戻ります。



指定ソフトウェア配布		
下記の設定でソフトウェアをインストールします。		
	マシン	インストール先のマシンを表示します。
	ソフトウェア	
	名前	インストールするソフトウェア名を表示します。
	イメージ名	イメージ名を表示します。

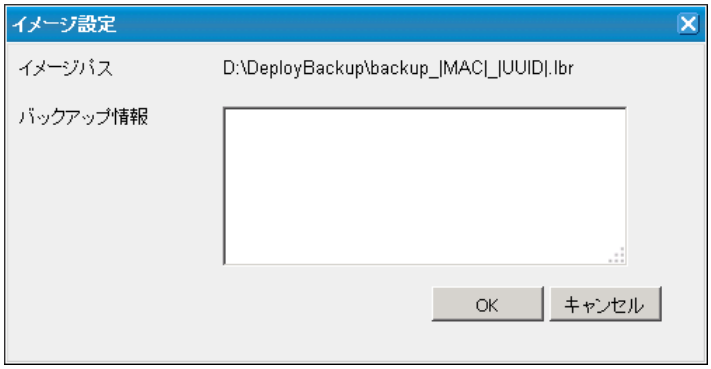
		種別	ソフトウェアの種別を表示します。
		詳細設定	ソフトウェアの設定を行う場合、アイコンをクリックします。 ソフトウェアの種別がアプリケーションとアップデートの場合のみ設定が可能です。
	配布方法		指定ソフトウェア配布を表示します。
[戻る]			元のウィンドウに戻ります。
[完了]			指定したソフトウェアの配布を行います。
[キャンセル]			指定したソフトウェアの配布を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

ソフトウェアの種別がアプリケーション、またはアップデートの場合、[詳細設定] をクリックすると、以下の「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。



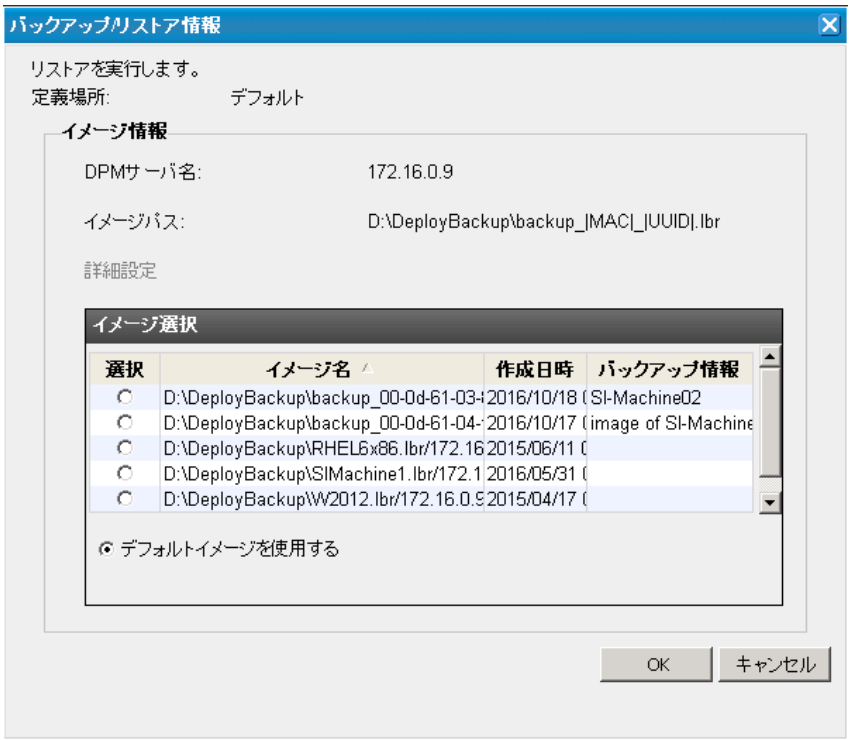
詳細設定	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。
[OK]	詳細設定情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	詳細設定情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

ソフトウェアの種別がバックアップの場合、[詳細設定] をクリックすると、以下の「イメージ設定」ダイアログボックスが表示されます。



イメージ設定	
イメージパス	バックアップのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

ソフトウェアの種別がリストアの場合、[イメージ選択] をクリックすると、以下の「イメージ選択」ダイアログボックスが表示されます。



イメージ選択	
イメージパス	リストアのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオに設定されているイメージを選択する場合は、「デフォルトイメージを使用する」を選択します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

3.43.5. ジョブ実行結果のリセット

SystemProvisioning は、何らかの理由によりポリシーによるアクションや Web コンソールの操作などからマシンの起動・停止など、アクションの実行に失敗するとリソースの状態を「異常終了」に設定します。「異常」となっているマシンに関してログの採取や障害原因を取り除いた後、ジョブ実行結果をリセットします。

[システムリソース] ツリーから対象マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [ジョブ実行結果のリセット] をクリックすると、マシンのジョブ実行結果をリセットすることができます。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [マシン]、または対象のマシンが所属するリソースグループのアイコンをクリックし、[マシン一覧] グループボックスから対象のマシンのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [ジョブ実行結果のリセット] をクリックします。

3.43.6. 故障状態の解除

マシン、ネットワークデバイス (物理スイッチ、ロードバランサ)、ストレージデバイス (ディスクアレイ、ディスクボリューム) やカスタムオブジェクトのハードウェア状態を故障から正常に解除します。

[システムリソース] ツリーから対象のリソースのアイコンをクリックし、メインウィンドウに選択したリソースの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [故障状態の解除] をクリックすると、選択したリソースの故障状態を解除することができます。

マシンの場合は、この他の方法として、[システムリソース] ツリーから [マシン]、または対象のマシンが所属するリソースグループのアイコンをクリックし、[マシン一覧] グループボックスから対象のマシンのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [故障状態の解除] をクリックします。

3.43.7. メンテナンスモードオン / メンテナンスモードオフ

メンテナンスモードをオン、もしくはオフにします。

[システムリソース] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウにマシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [メンテナンスオン]、もしくは [メンテナンスオフ] をクリックすると、メンテナンスモードがオン / オフになります。

もしくは、[システムリソース] ツリーから [マシン]、または対象のマシンが所属するリソースグループのアイコンをクリックし、[マシン一覧] グループボックスから対象のマシンのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [メンテナンスオン]、もしくは [メンテナンスオフ] をクリックします。

3.43.8. 収集

SigmaSystemCenter の情報を最新にするため、マシンなどの情報収集を行います。

[管理] ビューのサブシステムの詳細情報、[システムリソース] ツリーの [操作] メニュー、もしくは [仮想] ツリーの [操作] メニューから [収集] をクリックすると、各サブシステムからの情報収集が行われます。

注:

・ 関連製品の構成変更 / 操作を行った場合は、収集を実行して必ず SigmaSystemCenter の情報を最新の状態にしてください。

・ 管理対象マシンの台数が多くなると、収集に時間がかかることがあります。

・ 定期的に自動で収集する機能がありますが、既定はオフの設定になっています。機能を有効にするためには、環境設定の [全般] タブから設定してください。定期的に自動で収集する機能を有効に設定するには、「2.13.1 [全般] タブ」を参照してください。

3.43.9. スイッチ情報収集

NetvisorPro で管理するスイッチと VLAN と仮想化基盤製品で管理する仮想スイッチの情報を収集します。

[システムリソース] ツリーから [スイッチ] をクリックすると、メインウィンドウに [スイッチ一覧] グループボックスが表示されます。[操作] メニューから [スイッチ情報収集] をクリックすると、スイッチ情報収集と VLAN 情報収集が実行されます。

3.43.10. ロードバランサ情報収集

NetvisorPro で管理するロードバランサとロードバランサグループ設定の情報に加え、ソフトウェアロードバランサとロードバランサグループ設定を収集します。

[システムリソース] ツリーから [ロードバランサ] をクリックすると、メインウィンドウに [ロードバランサ一覧] グループボックスが表示されます。[操作] メニューから [ロードバランサ情報収集] をクリックすると、ロードバランサ情報収集とロードバランサグループ設定の情報収集が実行されます。

3.43.11. DPM 収集

SigmaSystemCenter で管理するシナリオの情報、および Backup イメージを収集します。[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックすると、基本情報、および [サマリー情報] グループボックスが表示されます。[操作] メニューから [DPM 収集] をクリックすると、DeploymentManager のシナリオ、Backup イメージ収集が実行されます。

3.43.12. スクリプト / ファイル収集

SigmaSystemCenter で管理するスクリプト、およびファイルの情報を収集します。[システムリソース] ツリーから [ソフトウェア] をクリックすると、基本情報、および [サマリー情報] グループボックスが表示されます。[操作] メニューから [スクリプト / ファイル収集] をクリックすると、スクリプト、およびファイルの収集が実行されます。

3.44. 権限設定

リソースグループ、ラック、スマートグループ、マシンにロールによるアクセス権限・操作権限を設定します。

[リソース] ツリーから対象のリソースグループ、ラック、スマートグループ、またはマシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられた権限一覧] グループボックスが表示されます。

権限設定については、「4.17 権限設定」を参照してください。

注:

・ マシンの [割り当てられている権限一覧] グループボックスには、[アクション] メニューの [追加]、[権限変更]、[解除] は表示されません。マシンに対してロールを有効にするには、マシンが所属するリソースに対して、[子のリソースへ設定を引き継ぐ] チェックボックスをオンに設定したロールを設定してください。

・ スマートグループにロールを設定する場合は、[子のリソースへ設定を引き継ぐ] チェックボックスの設定値は無効になります。スマートグループにより抽出されたマシンに対して、スマートグループに設定されたロール設定を引き継ぐことはできません。

3.44.1. 権限追加

リソースグループ、ラック、スマートグループにロールによるアクセス権限・操作権限を追加します。

[リソース] ツリーから対象のリソースグループ、ラック、またはスマートグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。[アクション] メニューから [追加] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限追加] グループボックスが表示されます。権限を追加するロール、割り当てるユーザ情報を入力し、[OK] をクリックすると権限が追加されます。

権限追加については、「4.17.1 権限追加」を参照してください。

3.44.2. 権限変更

リソースグループ、ラック、スマートグループに設定されているロールの設定内容を変更します。

[リソース] ツリーから対象のリソースグループ、ラック、またはスマートグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を変更するユーザのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [権限変更] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限変更] グループボックスが表示されます。権限を変更するロールを入力し、[OK] をクリックすると権限が変更されます。

権限変更については、「4.17.2　権限変更」を参照してください。

3.44.3. 権限解除

リソースグループ、ラック、スマートグループに設定されているロールを解除します。

[リソース] ツリーから対象のリソースグループ、ラック、またはスマートグループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を解除するユーザのチェックボックスをオンし、[アクション] メニューから [解除] をクリックすると、選択したユーザの権限が解除されます。

4. 運用

[運用] ビューでは、SigmaSystemCenter の運用について説明をします。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 4.1 [運用] ビュー 382
- 4.2 テナント 383
- 4.3 テナントの詳細情報 383
- 4.4 カテゴリ 388
- 4.5 カテゴリの詳細情報 388
- 4.6 運用グループ 394
- 4.7 運用グループの詳細情報 394
- 4.8 依存関係 402
- 4.9 リソースプールの詳細情報 407
- 4.10 マシン操作履歴 427
- 4.11 グループプロパティ設定 433
- 4.12 モデルプロパティ設定 488
- 4.13 ホストの詳細情報 521
- 4.14 ホスト設定 526
- 4.15 設定一覧 562
- 4.16 保守操作を表示 565
- 4.17 権限設定 567
- 4.18 トポロジ 570
- 4.19 運用グループへのメニュー操作 592

4.1. [運用] ビュー

[運用] ビューでは、SigmaSystemCenter での運用の中心となるビューです。

タイトルバーの [運用] をクリックすると、[運用] ビューに切り替わります。

注: ログインユーザに対し、テナント / カテゴリ / 運用グループへのアクセス権限を設定していない場合、テナント / カテゴリ / 運用グループが表示されません。ユーザに対してアクセス権限を設定する場合は、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「5.3. アクセス権限・操作権限を設定する」を参照してください。

◆ [全般] タブ

テナント / カテゴリ / グループ一覧	
名前	テナント名、カテゴリ名、および運用グループ名を表示します。名前をクリックすると、それぞれの詳細情報へ遷移します。
種別	テナント、カテゴリ、もしくは運用グループの種別を表示します。
異常マシン	テナント / カテゴリ / 運用グループで稼動しているマシンのうち、故障状態、もしくは処理が異常終了したマシンの数を表示します。
警告マシン	テナント / カテゴリ / 運用グループで稼動しているマシンのうち、一部故障状態、もしくはサブシステム上から削除されたマシンの数を表示します。
削除	選択したテナント、カテゴリ、もしくは運用グループを削除します。

注: グループプールに登録されているマシンは、異常マシン、警告マシンの合計値には含まれません。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

4.2. テナント

運用するマシンをテナントごとに管理します。

4.3. テナントの詳細情報

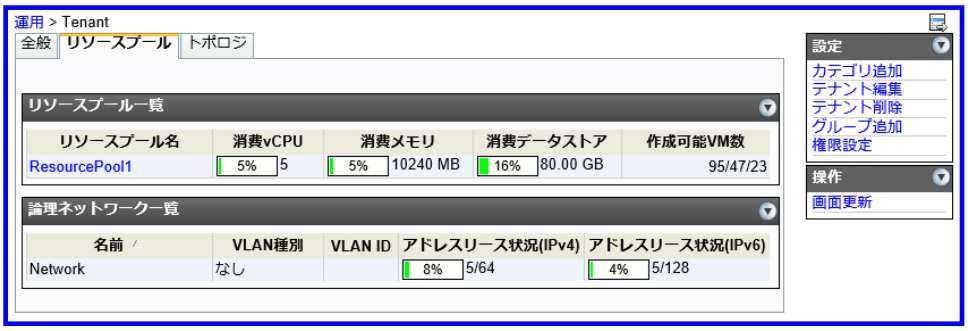
テナントの詳細情報を表示します。

[運用] ツリーから対象のテナントのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにテナントの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ

基本情報		
	名前	テナント名を表示します。
	説明	テナントの説明を表示します。
	リソース管理 ID	テナントのリソース管理IDを表示します。
カテゴリ / グループ一覧		
	名前	テナントに登録されているカテゴリ名、および運用グループ名を表示します。名前をクリックすると、カテゴリの詳細情報、もしくは運用グループの詳細情報へ遷移します。
	種別	カテゴリ、もしくは運用グループの種別を表示します。
	異常マシン	テナントに所属するグループで稼動しているマシンの状態が異常のマシン数の合計値を表示します。
	警告マシン	テナントに所属するグループで稼動しているマシンの状態が警告のマシン数の合計値を表示します。
	削除	チェックボックスを選択したカテゴリ、もしくは運用グループを削除します。

◆ [リソースプール] タブ



リソースプール一覧	
リソースプール名	テナントに割り当てられているリソースプールの名前を表示します。リソースプール名をクリックすると、リソースプール詳細情報に遷移します。
消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。
作成可能 VM 数	マシンプロファイル "Small"、"Medium"、"Large" 使用した場合に作成可能な仮想マシンの数を表示します。
論理ネットワーク一覧	
名前	論理ネットワーク名を表示します。
VLAN 種別	VLANの種別を表示します。
VLAN ID	VLAN IDを表示します。
アドレスリース状況 (IPv4)	IPv4アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。
アドレスリース状況 (IPv6)	IPv6アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。

◆ [トポロジ] タブ

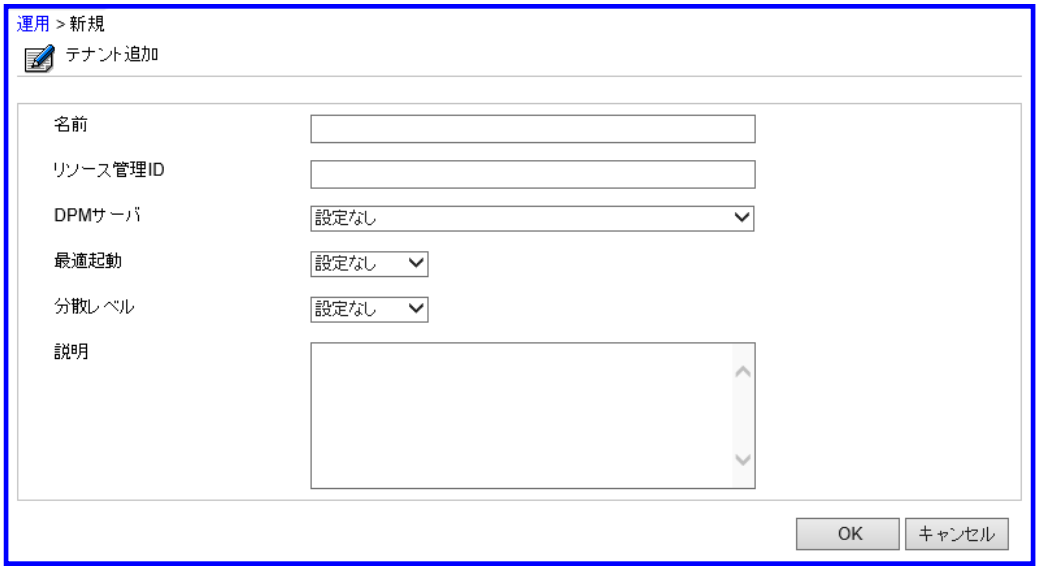
[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

4.3.1. テナント追加

テナントの追加を行います。

[運用] ツリーの直下にテナントを追加できます。

タイトルバーの [運用] をクリックすると、[運用] ビューに切り替わります。[設定] メニューから [テナント追加] をクリックすると、メインウィンドウに「テナント追加」が表示されます。テナント情報を入力し、[OK] をクリックするとテナントが追加されます。

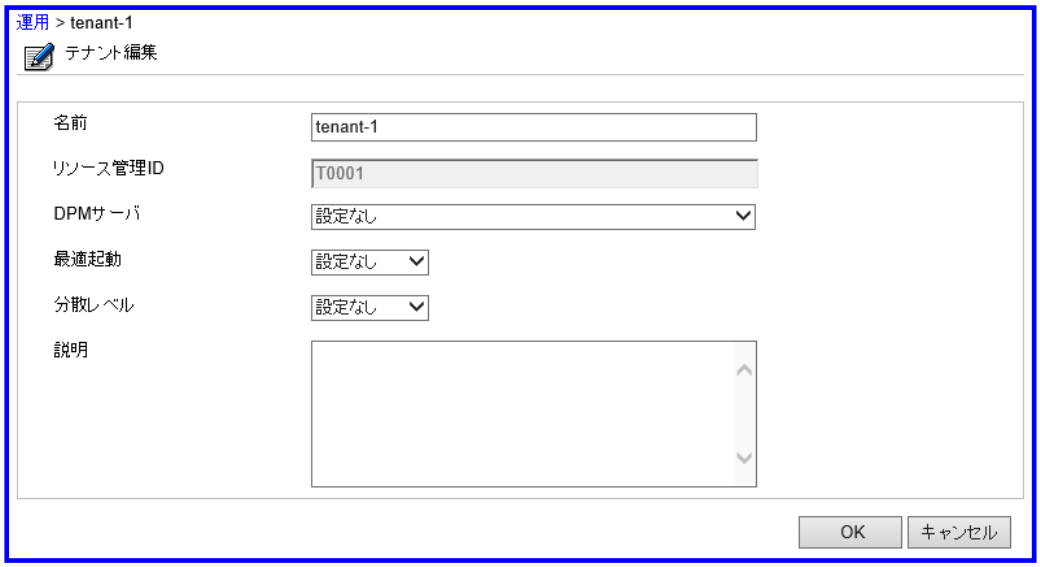


テナント追加	
名前 **(入力必須)**	テナント名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
リソース管理 ID **(入力必須)**	リソース管理を行うためのIDを入力します。 入力できる文字数は63文字以内です。半角英数字、および "_"、"-" のみ使用可能です。
DPM サーバ	仮想マシンの稼動時にDeploymentManagerに登録する場合、DPMサーバを選択します。
最適起動	テナント下の仮想マシンに対して最適起動の有効または無効を指定する場合は、プルダウンボックスから "有効" または "無効" を選択します。"設定なし" の場合は、仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定が使用されます。
分散レベル	テナント下の仮想マシンに対して最適起動時の分散レベルを指定する場合は、プルダウンボックスから分散レベルの値を選択します。"設定なし" の場合は、仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定が使用されます。
説明	テナントの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	テナント追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テナント追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.3.2. テナント編集

テナントの編集を行います。

[運用] ツリーから編集を行うテナントのアイコンをクリックし、メインウィンドウにテナントの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テナント編集] をクリックすると、メインウィンドウに「テナント編集」が表示されます。テナント情報を編集し、[OK] をクリックするとテナント情報が変更されます。



テナント編集	
名前 **(入力必須)**	テナント名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
リソース管理 ID	リソース管理IDを表示します。変更はできません。
DPM サーバ	DPMサーバの設定を表示し、変更もできます。
最適起動	テナント下の仮想マシンに対する最適起動の有効または無効の設定を表示・選択します。"設定なし" の場合は、仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定が使用されます。
分散レベル	テナント下の仮想マシンに対する最適起動時の分散レベルの設定を表示・選択します。"設定なし" の場合は、仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定が使用されます。
説明	テナントの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	テナント編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テナント編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.3.3. テナント削除

テナントの削除を行います。

[運用] ツリーから削除を行うテナントのアイコンをクリックし、メインウィンドウにテナントの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テナント削除] をクリックすると、削除されます。

注: リソースを割り当てたままグループ (テナント) 削除を行う場合は、下記に注意してください。(削除する (あるいは過去に削除した) グループと同じリソース管理 ID でグループの再作成を行う場合にのみ、下記の対応が必要です。同じリソース管理 ID でグループの再作成を行わない場合は、下記を実施する必要はありません。)

・リソースを割り当てたままグループを削除した場合

割り当てていたリソースをいったん削除する、もしくはリソースを別のグループに割り当て直してください。

・リソースを割り当てたままグループを削除した後に、同じリソース管理 ID でグループの再作成を行った場合

各リソース設定画面の公開範囲、または適用グループには、再作成したグループ名が表示されます。グループ名は表示されていますが、再作成後にはリソースは実際にはグループに割り当たっていませんので、グループの割り当てを再度実施するか、リソースの削除を実施してください。

4.4. カテゴリ

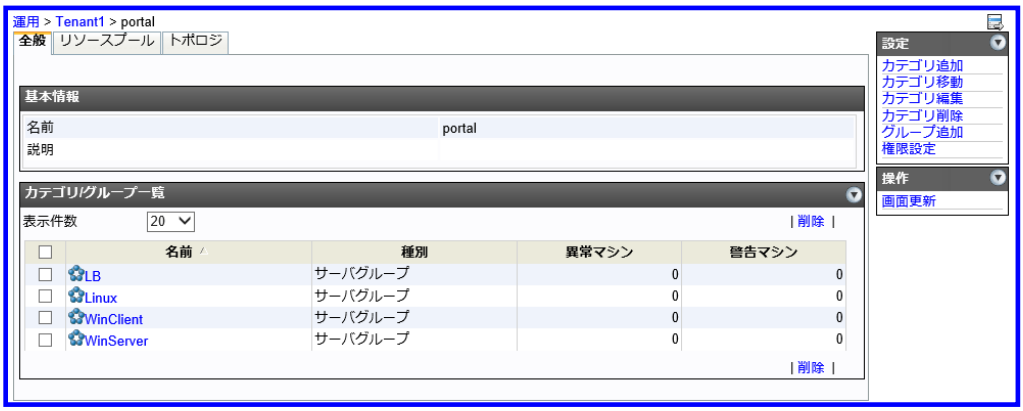
運用するマシンをカテゴリごとに管理します。

4.5. カテゴリの詳細情報

カテゴリの詳細情報を表示します。

[運用] ツリーから対象のカテゴリのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにカテゴリの詳細情報が表示されます。

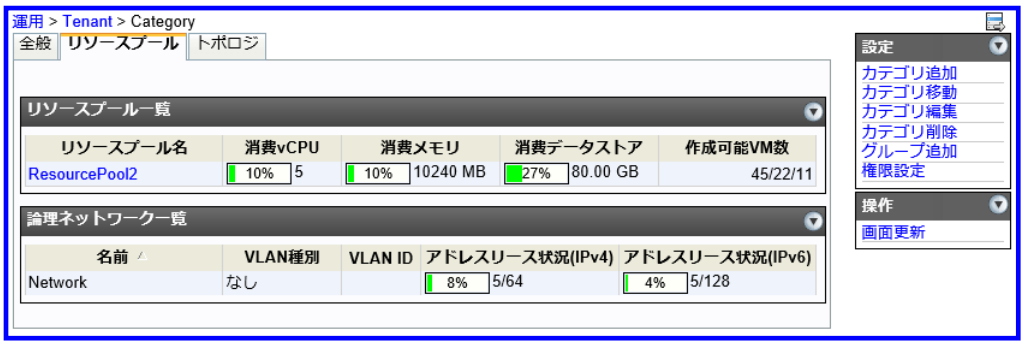
◆ [全般] タブ



基本情報		
	名前	カテゴリ名を表示します。
	説明	カテゴリの説明を表示します。
カテゴリ / グループ一覧		
	名前	カテゴリに登録されているカテゴリ名、および運用グループ名を表示します。名前をクリックすると、カテゴリの詳細情報、もしくは運用グループの詳細情報へ遷移します。
	種別	カテゴリ、もしくは運用グループの種別を表示します。
	異常マシン	カテゴリに所属するグループで稼動しているマシンの状態が異常のマシン数の合計値を表示します。
	警告マシン	カテゴリに所属するグループで稼動しているマシンの状態が警告のマシン数の合計値を表示します。
	削除	チェックボックスを選択したカテゴリ、もしくは運用グループを削除します。

注: 各グループのグループプールで稼動しているマシンの数は、異常マシン、警告マシンの合計値に含まれません。

◆ [リソースプール] タブ



リソースプール一覧		
	リソースプール名	カテゴリに割り当てられているリソースプールの名前を表示します。リソースプール名をクリックすると、リソースプール詳細情報に遷移します。
	消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
	消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
	消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。
	作成可能 VM 数	マシンプロファイル "Small"、"Medium"、"Large" を使用した場合に作成可能な仮想マシンの数を表示します。
論理ネットワーク一覧		
	名前	論理ネットワーク名を表示します。
	VLAN 種別	VLANの種別を表示します。
	VLAN ID	VLAN IDを表示します。
	アドレスリース状況 (IPv4)	IPv4アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。
	アドレスリース状況 (IPv6)	IPv6アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

4.5.1. カテゴリ追加

カテゴリの追加を行います。

[運用] ツリー直下、カテゴリの配下にカテゴリを追加できます。

[運用] ツリーから対象のカテゴリのアイコンをクリックすると、メインウィンドウにカテゴリの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [カテゴリ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「カテゴリ追加」が表示されます。カテゴリ情報を入力し、[OK] をクリックするとカテゴリが追加されます。

注:

・同一の階層ではテナント、カテゴリ、および運用グループの名前は重複できません。

・HW Profile Clone を利用して仮想マシンを作成する場合は、テナント、カテゴリ、グループ、モデル (仮想マシンの場合) のいずれかで DPM サーバを選択して DeploymentManager に登録する設定が必須です。Differential Clone、もしくは Disk Clone 用のテンプレートは、VMware vCenter Server 環境以外の場合、DeploymentManager に登録する設定が必須です。

カテゴリ追加	
名前 **(入力必須)**	カテゴリ名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
リソースプール	リソースプールを割り当てる場合、プルダウンボックスから選択します。
DPM サーバ	仮想マシンの稼動時にDeploymentManagerに登録する場合、DPMサーバを選択します。
最適起動	カテゴリ下の仮想マシンに対して最適起動の有効または無効を指定する場合は、プルダウンボックスから "有効" または "無効" を選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。

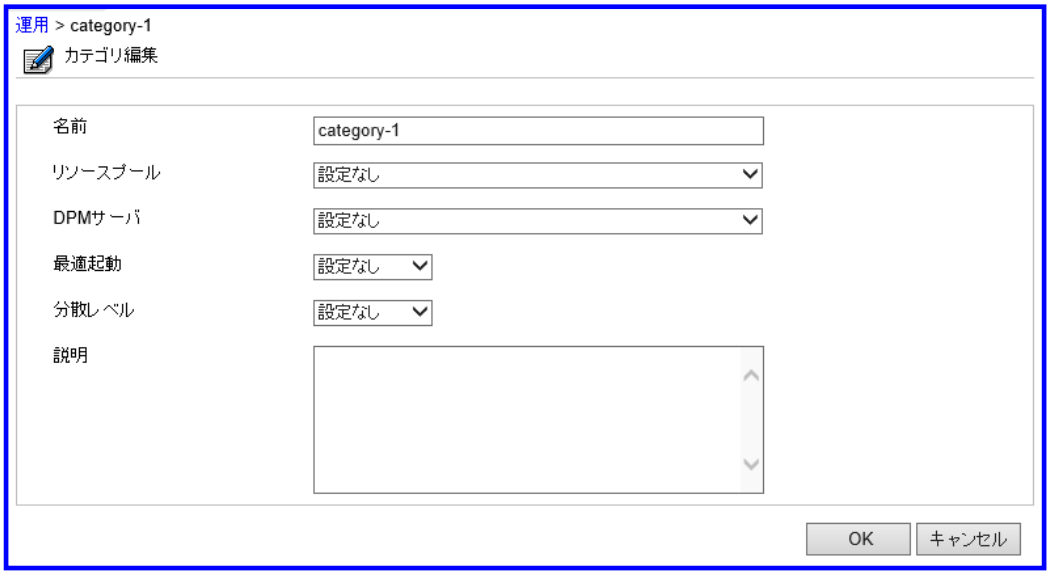
分散レベル	カテゴリ下の仮想マシンに対して最適起動時の分散レベルを指定する場合は、プルダウンボックスから分散レベルの値を選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。
説明	カテゴリの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	カテゴリ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	カテゴリ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.5.2. カテゴリ編集

カテゴリの編集を行います。

[運用] ツリーから編集を行うカテゴリのアイコンをクリックし、メインウィンドウにカテゴリの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [カテゴリ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「カテゴリ編集」が表示されます。カテゴリ情報を編集し、[OK] をクリックするとカテゴリ情報が変更されます。

注: 同一の階層ではテナント、カテゴリ、および運用グループの名前は重複できません。



カテゴリ編集	
名前 **(入力必須)**	カテゴリ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
リソースプール	リソースプールの設定を表示し、変更もできます。
DPM サーバ	DPMサーバの設定を表示し、変更もできます。

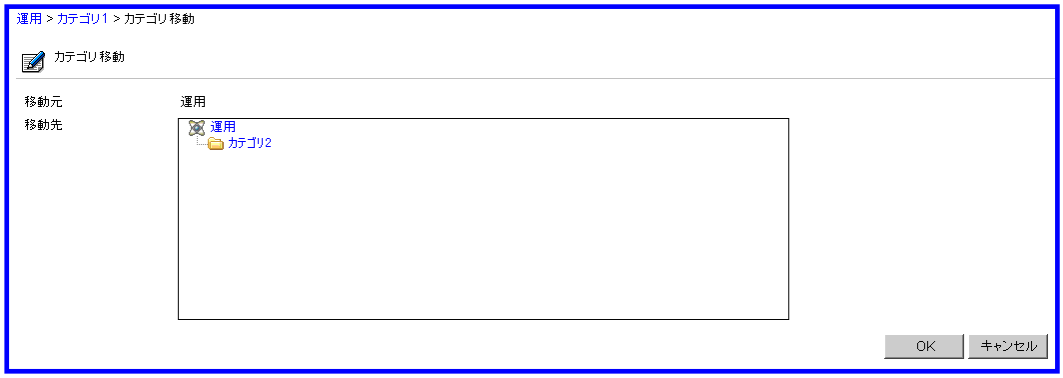
最適起動	カテゴリ下の仮想マシンに対する最適起動の有効または無効の設定を表示・選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。
分散レベル	カテゴリ下の仮想マシンに対する最適起動時の分散レベルの設定を表示・選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。
説明	カテゴリの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	カテゴリ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	カテゴリ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.5.3. カテゴリ移動

カテゴリの移動を行います。

カテゴリを [運用] の直下、または他のカテゴリの配下に移動します。

[運用] ツリーから移動を行うカテゴリのアイコンをクリックし、メインウィンドウにカテゴリの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [カテゴリ移動] をクリックすると、メインウィンドウに「カテゴリ移動」が表示されます。カテゴリの移動先を選択し、[OK] をクリックするとカテゴリが移動します。



カテゴリ移動	
移動元	移動元のテナント、親カテゴリ名、または "運用" を表示します。
移動先	ツリーより移動先のカテゴリを選択します。
[OK]	カテゴリ移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	カテゴリ移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.5.4. カテゴリ削除

カテゴリを削除します。

[運用] ツリーから削除を行うカテゴリのアイコンをクリックし、メインウィンドウにカテゴリの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [カテゴリ削除] をクリックすると、削除されます。

4.6. 運用グループ

運用するマシンをグループごとに管理します。

4.7. 運用グループの詳細情報

運用グループの詳細情報を表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。

◆ [全般] タブ

注: [ホスト タグ一覧] グループボックスは、閉じられた状態で初期表示されます。右側の矢印をクリックすることで、[ホスト タグ一覧] グループボックスを開くことができます。

ホスト タグ一覧 (タグクラウド)	
タグ	選択したタグのパンくずリストを表示します。
[状態]	ホストのタグ情報をホストが稼動するマシンのステータス情報で分類したタブです。タグの表記は下記の表、マシンステータス情報の状態に対応しています。
[タグ]	ホストのタグ情報をユーザが設定したタグで分類したタブです。
[ライフサイクル]	ホストのタグ情報をホストのライフサイクル情報で分類したタブです。
[すべて]	ホストのタグ情報を分類せずに表示します。
基本情報	
名前	グループ名を表示します。
プライオリティ	グループのプライオリティを表示します。
マシン種別	グループのマシンの種別を表示します。
OS 種別	グループのOSの種類を表示します。グループにホストプロファイルが設定されている場合は、ホストプロファイルに設定されているOS種別を表示します。
ポリシー名#1	ポリシー名を表示します。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示されます。
グループプール利用方式	グループプール利用方式を表示します。
説明	グループの説明を表示します。
ホスト一覧	
ホスト名	ホスト名を表示します。ホスト名をクリックすると、「ホストの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
状態	ホストの状態を表示します。
電源	ホストの電源状態を表示します。
IP アドレス	ホストのIPアドレスを表示します。
リソース	リソース名を表示します。リソース名をクリックすると「マシンの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
優先度	ホストの優先度を表示します。優先度の設定により、複数マシン起動時の起動順序、VM退避時の仮想マシンの移動順序、VM退避時の非常用ホストの使用順序が制御されます。
モデル	グループにモデルが追加されている場合、リソースが所属しているモデルを表示します。リソースがモデルに所属していない場合、空白が表示されます。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
マシン性能サマリ	「マシン性能サマリ」ウィンドウに遷移します。

	プロパティ	ホストプロパティ設定を行います。「ホスト設定」ウィンドウに遷移します。
	ホスト追加	ホストを追加します。「ホスト追加」ダイアログボックスが表示されます。
	ホスト削除	チェックボックスで選択したホストを削除することができます。
	新規割当	チェックボックスを選択したホストのマシンを新規リソース割り当てします。状態が "定義のみ" のホストのみ割り当てられます。「新規リソース割り当て」ウィンドウに遷移します。
	VM 削除	チェックボックスを選択したホストの仮想マシンを削除します。
	マスタ登録	チェックボックスを選択したホストのマシンをマスタマシンに登録します。「マスタマシン登録」ウィンドウに遷移します。
	起動	チェックボックスを選択したホストのマシンを起動します。
	シャットダウン	チェックボックスを選択したホストのマシンをシャットダウンします。
	(プルダウンボックス)	チェックボックスを選択したホストの個別操作を行います。 [ホスト一覧] グループボックスから操作するマシンのチェックボックスをオンにし、起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド / マシン収集 / リソース割り当て / 新規リソース割り当て / マスタマシン登録 / バックアップ / リストア / マシンの置換 / マシンの用途変更 / 割り当て解除 / 構成変更 / VM移動 / 再構成 / VM削除 / ソフトウェア配布 / マシン性能状況 / 性能情報比較 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。
グループプール		
	リソース名	マシン名を表示します。マシン名をクリックすると、「マシンの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
	状態	マシンの状態を表示します。
	電源	マシンの電源状態を表示します。
	種別	マシンの種別を表示します。
	MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
	共有	マシンの共有状態を表示します。
	モデル	マシンが所属しているモデルを表示します。マシンがモデルに所属していない場合は、空白になります。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
	プールから削除	チェックボックスを選択したマシンをプールから削除します。

	(プルダウンボックス)	チェックボックスを選択したグループプールの個別操作を行います。 起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド / 指定ソフトウェア配布 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

- タグ表記

タグ名	マシンステータス情報	状態
電源状態不明	電源状態	ー
電源OFF		Off
電源ON		On
サスペンド		サスペンド
運用待機 / 未割当	稼動ステータス	Off
運用稼動中		On
OS状態不明	OSステータス	ー
OS OFF		Off
OS ON		On
HW 不明	ハードウェアステータス	ー
HW 正常		正常
HW 故障		故障
HW 機能低下		一部故障
Job待機中	実行ステータス	ー
Job実行中		処理中
Job異常終了		異常終了
メンテナンスオフ	メンテナンスステータス	Off
メンテナンスオン		On

◆ [リソースプール] タブ

- マシン種別が [VM サーバ] の場合

  リソースプールが作成されている場合、[リソースプール] タブが表示されます。詳細については、「4.9 リソースプール」を参照してください。

- マシン種別が [VM] の場合

  グループがテナント配下に存在する場合、[リソースプール] タブが表示されます。

リソースプール一覧		
	リソースプール名	グループに割り当てられているリソースプールの名前を表示します。リソースプール名をクリックすると、リソースプール詳細情報に遷移します。
	消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
	消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
	消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。
	作成可能 VM 数	マシンプロファイル "Small"、"Medium"、"Large" を使用した場合に作成可能な仮想マシンの数を表示します。
論理ネットワーク一覧		
	名前	論理ネットワーク名を表示します。
	VLAN 種別	VLANの種別を表示します。
	VLAN ID	VLAN IDを表示します。
	アドレスリース状況 (IPv4)	IPv4アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。
	アドレスリース状況 (IPv6)	IPv6アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。

◆ [マシン操作履歴] タブ

[マシン操作履歴] タブについては、「4.10 マシン操作履歴」を参照してください。

◆ [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについては、「4.18 トポロジ」を参照してください。

4.7.1. 運用グループ追加

運用グループの追加を行います。

[運用] ツリー直下、テナント、カテゴリの配下に運用グループを追加できます。

[運用] ツリー直下に運用グループを追加する場合、[運用] ツリーをクリックし、[設定] メニューから [グループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。テナント、またはカテゴリ配下に運用グループを追加する場合、対象のテナント、またはカテゴリのアイコンをクリックし、メインウィンドウに詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ追加」が表示されます。運用グループ情報を入力し、[OK] をクリックすると運用グループが追加されます。

注: 同一の階層ではテナント、カテゴリ、およびグループの名前は重複できません。

グループ追加	
名前 **(入力必須)**	グループ名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
マシン種別 **(選択必須)**	マシンの種別を選択します。
OS 種別 **(選択必須)**	OSの種類を選択します。
説明	グループの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	グループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	グループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.7.2. 運用グループ編集

運用グループの編集を行います。

[運用] ツリーから編集を行う運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ編集」が表示されます。運用グループ情報を編集し、[OK] をクリックすると運用グループ情報が変更されます。

注: 同一の階層ではテナント、カテゴリ、およびグループの名前は重複できません。

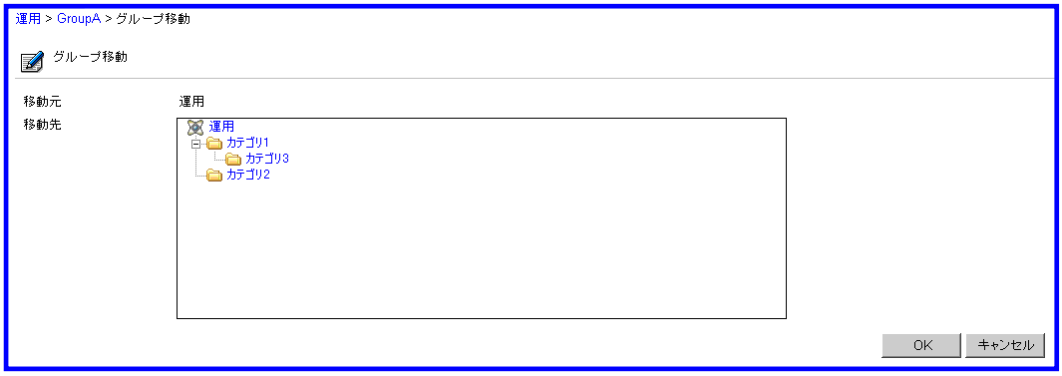
グループ編集		
	名前 **(入力必須)**	グループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
	マシン種別	マシンの種別を表示します。変更はできません。
	説明	グループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]		グループ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		グループ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.7.3. 運用グループ移動

運用グループの移動を行います。

運用グループを [運用] の直下、または他のテナント、カテゴリの配下に移動します。

[運用] ツリーから移動を行う運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ移動] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ移動」が表示されます。運用グループの移動先を選択し、[OK] をクリックすると運用グループが移動します。



グループ移動	
移動元	移動元の親テナント / カテゴリ名、または "運用" を表示します。
移動先	ツリーより移動先のテナント名、カテゴリ名、または [運用] を選択します。
[OK]	グループ移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	グループ移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.7.4. 運用グループ削除

運用グループを削除します。

[運用] ツリーから削除を行う運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [グループ削除] をクリックすると、削除されます。

もしくは、[運用] ツリーから削除を行う運用グループが所属するテナント、またはカテゴリのアイコンをクリックし、詳細情報を表示します。[カテゴリ / グループ一覧] グループボックスから、対象の運用グループのチェックボックスをオンにします。[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

4.8. 依存関係

依存関係の設定を行います。

タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。[設定] メニューから [依存関係] をクリックすると、メインウィンドウに「依存関係」が表示されます。

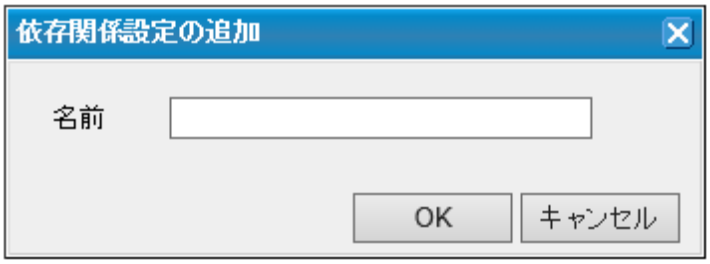
「依存関係」ウィンドウでは、依存関係設定の一覧が表示されます。これらの依存関係設定に対して、ホスト間の依存関係の追加、およびオプションの設定を行います。ホスト間の依存関係は、依存元 (依存する側) のホストと依存先 (依存される側) のホストの組み合わせによって指定します。

依存関係	
依存関係設定一覧	
名前	依存関係設定の名前を表示します。
起動	起動操作に対して、依存関係による順序制御が有効かどうかを表示します。
停止	停止 (シャットダウン・サスペンド) 操作に対して、依存関係による順序制御が有効かどうかを表示します。
再起動	再起動操作に対して、依存関係による順序制御が有効かどうかを表示します。
VM 退避	VM退避 (VMサーバ障害時) 操作に対して、依存関係による順序制御が有効かどうかを表示します。
編集	依存関係設定をします。「依存関係設定の編集」ウィンドウが表示されます。
追加	依存関係設定を追加します。「依存関係設定の追加」ダイアログボックスが表示されます。
削除	選択した依存関係設定を削除します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

4.8.1. 依存関係設定の追加

依存関係設定を追加します。

タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。[設定] メニューから [依存関係] をクリックすると、メインウィンドウに「依存関係」が表示されます。[依存関係設定一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「依存関係設定の追加」ダイアログボックスが表示されます。



依存関係設定の追加	
名前	依存関係設定の名前を入力します。
[OK]	依存関係設定を追加し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	依存関係設定を追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.8.2. 依存関係設定の編集

依存関係設定を編集します。

タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。[設定] メニューから [依存関係] をクリックすると、メインウィンドウに「依存関係」が表示されます。[依存関係設定一覧] グループボックスの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「依存関係設定の編集」が表示されます。

依存関係設定の編集		
	依存関係一覧	
		依存元	依存元のホストのパスを表示します。
		依存先	依存先のホストのパスを表示します。
		追加	依存関係を追加します。「依存関係の追加」ダイアログボックスが表示されます。
		削除	選択した依存関係を削除します。
	名前		依存関係設定の名前を入力します。
	起動時に依存関係による順序制御を有効にする		起動操作に対して、依存関係による順序制御を有効にするかどうかを指定します。
		自動的に依存先を起動する	依存元のマシンを指定して起動操作を実行する際に依存先のマシンを自動的に起動するかどうかを指定します。
		依存先が起動していない場合にも起動を許可する	依存先のマシンが起動状態でない場合にも依存元のマシンの起動を許可するかどうかを指定します。

	停止時に依存関係による順序制御を有効にする	停止（シャットダウン・サスペンド）操作に対して、依存関係による順序制御を有効にするかどうかを指定します。
	自動的に依存元を停止する	依存先のマシンを指定して停止操作を実行する際に依存元のマシンを自動的に停止するかどうかを指定します。
	依存元が停止していない場合にも停止を許可する	依存元のマシンが停止状態でない場合にも依存先のマシンの停止を許可するかどうかを指定します。
	再起動時に依存関係による順序制御を有効にする	再起動操作に対して、依存関係による順序制御を有効にするかどうかを指定します。
	自動的に依存先を起動・依存元を再起動する	依存元のマシンを指定して再起動操作を実行する際に依存先のマシンを自動的に起動するかどうか、および依存先のマシンを指定して再起動動作を実行する際に依存元のマシンを自動的に再起動するかどうかを指定します。
	依存先が起動していない場合、依存元が停止していない場合にも再起動を許可する	依存先のマシンが起動状態でない場合にも依存元のマシンの再起動を許可するかどうか、および依存元のマシンが停止状態でない場合にも依存先のマシンの再起動を許可するかどうか指定します。
	VM 退避時に依存関係による順序制御を有効にする	VM退避（VMサーバ障害時）操作に対して、依存関係による順序制御を有効にするかどうかを指定します。
	自動的に依存先を起動する	依存元のVMがVM退避操作の対象となる場合に依存先のマシンを自動的に起動するかどうかを表示します。この設定は、VM退避操作における [依存先が起動していない場合にも起動を許可する] の指定によって、自動的に決定されます。
	依存先が起動していない場合にも起動を許可する	依存先のマシンが起動状態でない場合にも依存元のVMの退避、および起動を許可するかどうかを指定します。
	[適用]	依存関係設定の名前、および各チェックボックスの設定を保存します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

[依存関係一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「依存関係の追加」ダイアログボックスが表示されます。

依存関係の追加	
依存元	依存元のホストを選択します。
依存先	依存先のホストを選択します。
[OK]	依存関係を追加し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	依存関係を追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

[依存関係一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [削除] をクリックすると、選択した依存関係が削除されます。

4.8.3. 依存関係設定の削除

依存関係設定を削除します。

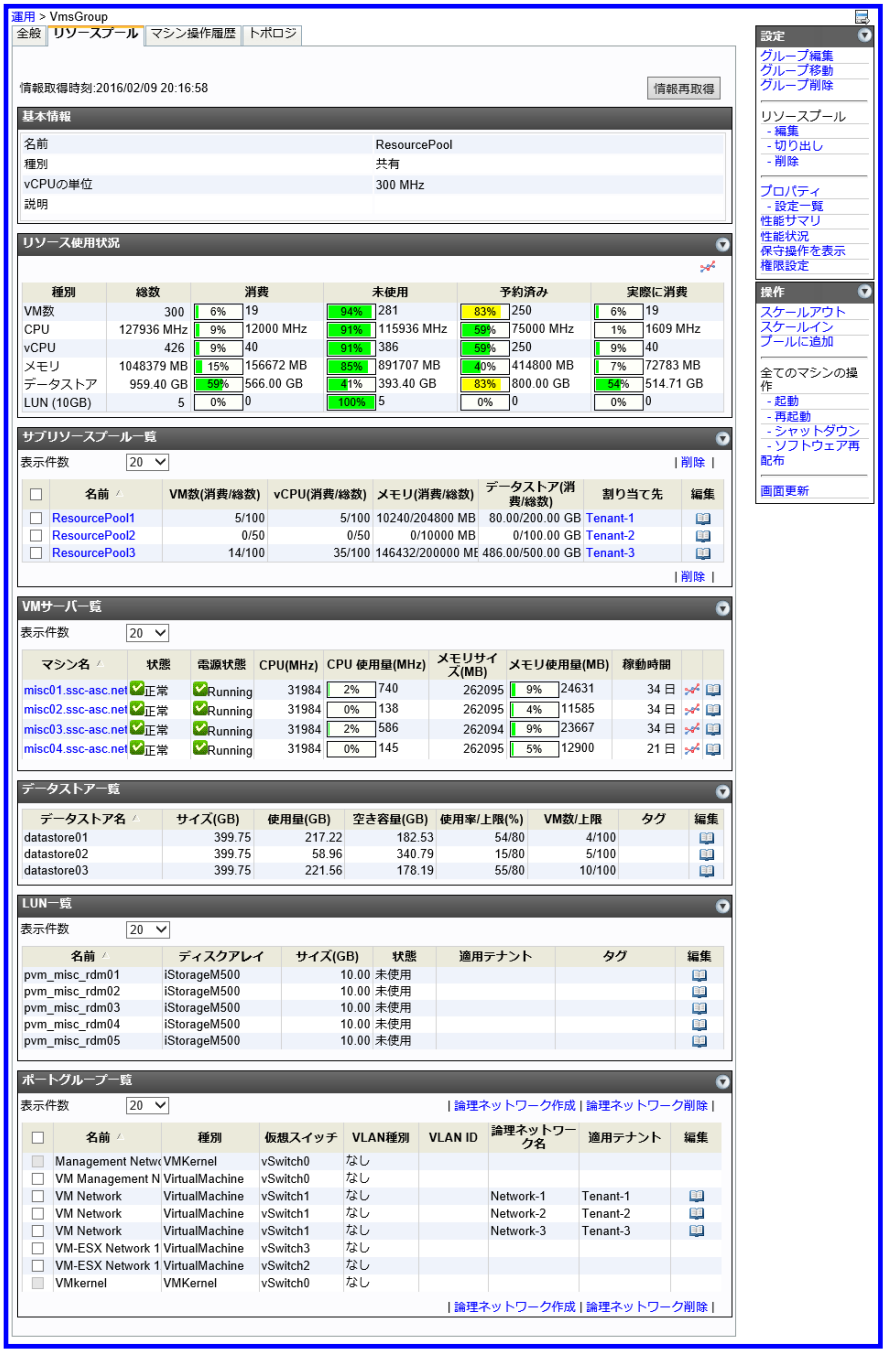
タイトルバーの [運用] をクリックし、[運用] ビューに切り替えます。[設定] メニューから [依存関係] をクリックすると、メインウィンドウに「依存関係」が表示されます。[依存関係設定一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [削除] をクリックすると、選択した依存関係設定が削除されます。

4.9. リソースプールの詳細情報

リソースプールの詳細情報を表示します。

◆ 最上位のリソースプールを表示する場合

[運用] ツリーから対象のグループ (仮想マシンサーバ) のアイコンをクリックし、[リソースプール] タブを選択すると、メインウィンドウにリソースプールの詳細情報が表示されます。

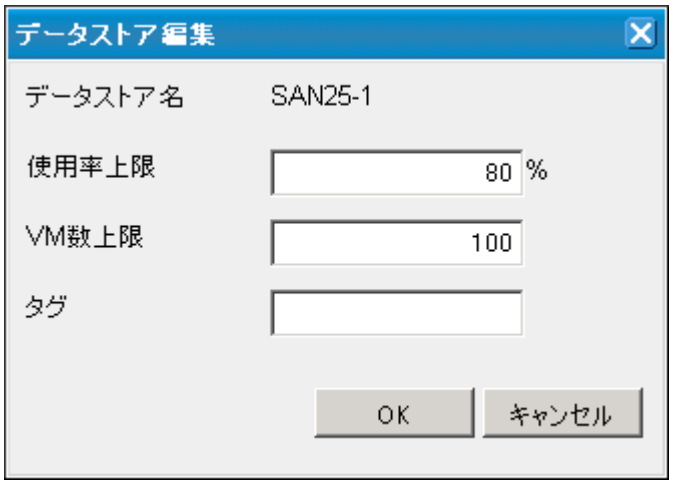


情報取得時刻	リソースプールの情報を取得した時間を表示します。
[情報再取得]	リソースプールの情報を再取得します。
基本情報	
名前	リソースプール名を表示します。
種別	リソースプールの種別を表示します。
vCPU の単位	vCPUの単位を表示します。CPUリソースからvCPUの数を算出するために使用されます。
説明	リソースプールの説明を表示します。
リソース使用状況	
種別	リソースの種別を表示します。
総数	リソースの全体の量を種別ごとに表示します。
消費	消費されているリソースの量を種別ごとに表示します。
未使用	未使用のリソースの量 (総数から消費を引いた値) を種別ごとに表示します。
予約済み	サブリソースプールに切り出されたリソースの合計値を種別ごとに表示します。
実際に消費	稼動中の仮想マシンサーバから取得した実際のリソース使用量を種別ごとに表示します。仮想マシンサーバに接続できない場合や一時的に情報が取得できない場合、[実際に消費] が正しく表示されない場合があります。
サブリソースプール一覧	
名前	切り出したサブリソースプールの名前を表示します。名前をクリックすると、「サブリソースプールの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
VM 数 (消費/総数)	サブリソースプールのVM数を消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの数を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
vCPU (消費/総数)	サブリソースプールのvCPU数を消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
メモリ (消費/総数)	サブリソースプールのメモリを消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
データストア (消費/総数)	サブリソースプールのデータストアを消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。

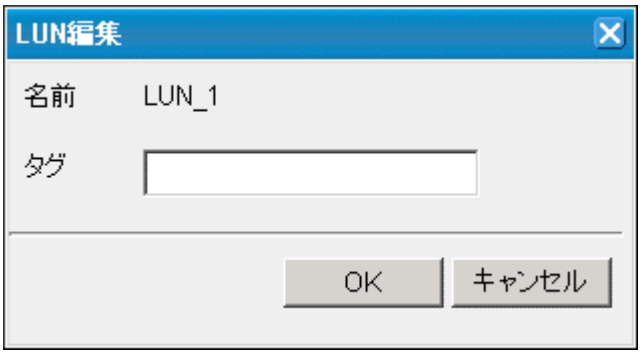
	割り当て先	サブリソースプールの割り当て先を表示します。
	編集	サブリソースプールを編集します。「4.9.5 サブリソースプール編集」ウィンドウへ遷移します。
	削除	選択したサブリソースプールを削除します。
VM サーバ一覧		
	マシン名	仮想マシンサーバ名を表示します。マシン名をクリックすると、「マシンの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
	状態	仮想マシンサーバのサマリステータス情報を表示します。
	電源状態	仮想マシンサーバの電源状態を表示します。
	CPU (MHz)	仮想マシンサーバのプロセッサを表示します。
	CPU 使用量 (MHz)	仮想マシンサーバの現在のCPU使用量を表示します。
	メモリサイズ (MB)	仮想マシンサーバのメモリサイズを表示します。
	メモリ使用量 (MB)	仮想マシンサーバの現在のメモリ使用量を表示します。
	稼動時間	仮想マシンサーバの稼動時間を表示します。
	マシン性能サマリ	「マシン性能サマリ」ウィンドウに遷移します。
	編集	データストア設定を行います。「データストア設定」ウィンドウに遷移します。
データストア一覧		
	データストア名	データストア名を表示します。
	サイズ (GB)	データストアのサイズを表示します。
	使用量 (GB)	データストアの使用量を表示します。
	空き容量 (GB)	データストアの空き容量を表示します。
	使用率 / 上限 (%)	データストアの使用率を「使用率/上限」で表示します。
	VM 数 / 上限	データストアのVM数を「VM数/上限」で表示します。VM数は、該当データストアを使用して作成した仮想マシンの数を表します。上限値は、作成可能なVM数の上限値を表します。
	タグ	データストアのタグを表示します。
	編集	データストアの編集を行います。「データストア編集」ダイアログボックスが表示されます。
LUN 一覧		
	名前	LUN名を表示します。
	ディスクアレイ	LUNが存在するディスクアレイを表示します。
	サイズ (GB)	LUNのサイズを表示します。

	状態	LUNの状態を表示します。 未使用: 仮想マシンに割り当てられていない状態で、割り当て可能なLUNであることを示します。 使用中: 仮想マシンに割り当てられている状態であることを示します。 使用済み: 過去に仮想マシンに割り当てられてから解除され、現在は仮想マシンに割り当てられていない状態であることを示します。仮想マシンに割り当てるためには、必要に応じてLUNのフォーマットを行い、"未使用" 状態にする必要があります。
	適用グループ	LUNを使用している仮想マシンが所属するグループ名を表示します。
	タグ	LUNに設定されたタグを表示します。
	編集	LUNの編集を行います。「LUN編集」ダイアログボックスが表示されます。
ポートグループ一覧		
	名前	仮想マシンサーバ上のポートグループ名を表示します。
	種別	ポートグループの種別を表示します。種別がVirtual Machineの場合のみ論理ネットワークの編集が可能です。
	仮想スイッチ	仮想スイッチ名を表示します。
	VLAN 種別	使用するVLANの種別を表示します。
	VLAN ID	ポートグループに設定するVLANのIDを表示します。
	論理ネットワーク名	論理ネットワーク名を表示します。
	適用テナント	ネットワークを適用しているテナント名を表示します。
	編集	論理ネットワークの編集を行います。「ネットワーク編集」ウィンドウに遷移します。論理ネットワーク編集については、「3.20.2 論理ネットワーク編集」を参照してください。
	論理ネットワーク作成	論理ネットワークを作成するネットワークのチェックボックスをオンにし、[論理ネットワーク作成] をクリックすると、「ネットワーク作成」ウィンドウに遷移します。論理ネットワーク作成については、「3.20.1 論理ネットワーク追加」を参照してください。
	論理ネットワーク削除	削除する論理ネットワークのチェックボックスをオンにし、[論理ネットワーク削除] をクリックすると、論理ネットワークは削除されます。

[データストア一覧] グループボックスから [編集] をクリックすると、「データストア編集」ダイアログボックスが表示されます。



データストア編集	
データストア名	データストア名を表示します。
使用率上限	データストア使用率の上限を入力します。
VM 数上限	VM数の上限を入力します。
タグ	タグを入力します。
[OK]	データストア編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	データストア編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

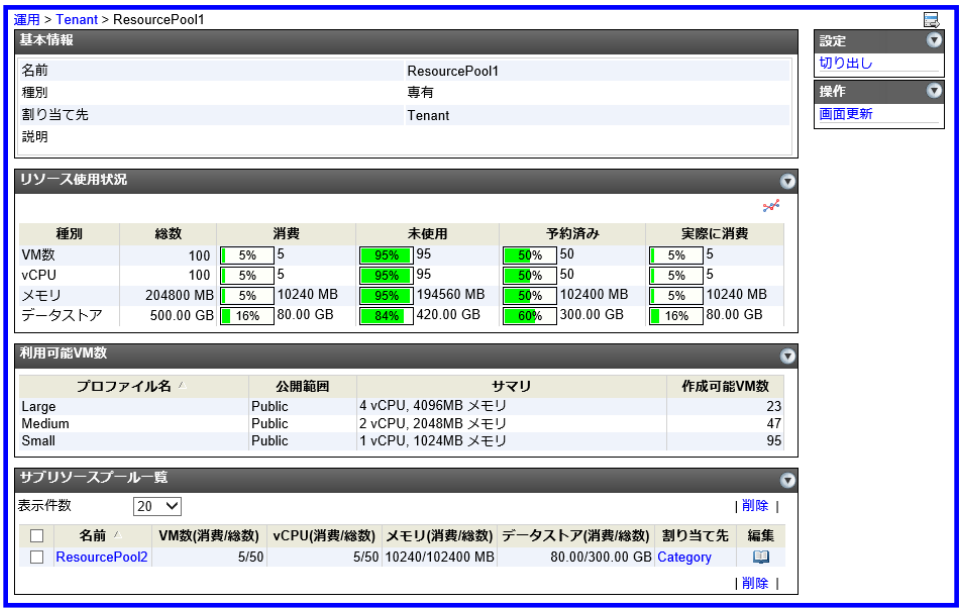


LUN 編集	
名前	LUN名を表示します。
タグ	タグを入力します。
[OK]	LUN編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	LUN編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: [LUN 一覧] グループボックスは、リソースプールに RDM 用途の LUN が存在する場合のみ表示されます。RDM についての詳細、および利用手順については、「SigmaSystemCenter リファレンスガイド 概要編」の「4.3.13 Raw Device Mapping (RDM)」、および「4.3.14 RDM の利用方法 (LUN 作成時)」を参照してください。

◆ テナント / カテゴリ / グループに割り当てられたリソースプールを表示する場合

[運用] ツリーから対象のテナント / カテゴリ / 運用グループのアイコンをクリックし、[リソースプール] タブの [リソースプール一覧] グループボックスからリソースプール名をクリックすると、メインウィンドウにリソースプールの詳細情報が表示されます。



基本情報	
名前	リソースプール名を表示します。
種別	リソースプールの種別を表示します。
割り当て先	リソースプールが割り当てられているグループを表示します。
説明	リソースプールの説明を表示します。
リソース使用状況	
種別	リソースの種別を表示します。
総数	リソースの全体の量を種別ごとに表示します。
消費	消費されているリソースの量を種別ごとに表示します。
未使用	未使用のリソースの量 (総数から消費を引いた値) を種別ごとに表示します。
予約済み	サブリソースプールに切り出されたリソースの合計値を種別ごとに表示します。

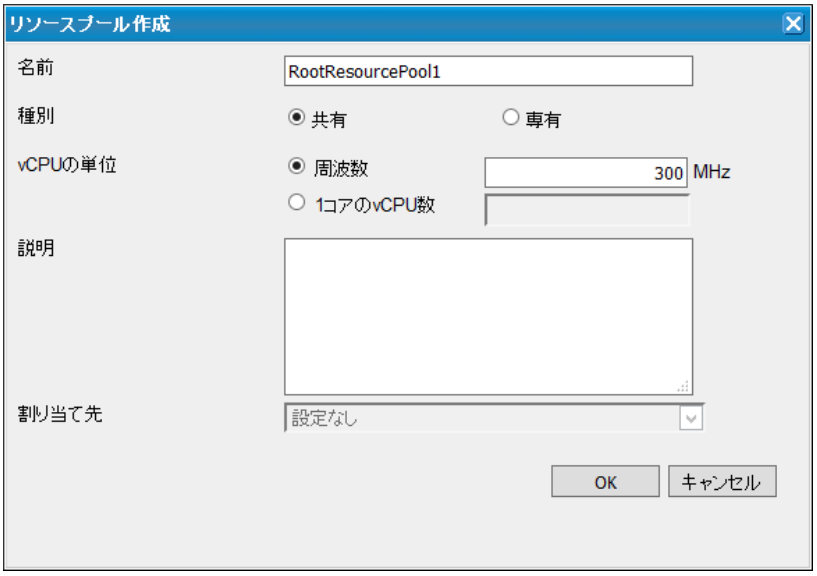
実際に消費	実際に使用されているリソースの量を種別ごとに表示します。リソースプールからリソースを割り当てられて作成された仮想マシンが起動状態の場合、VM数・vCPU・メモリのリソースは使用中とみなされ、実際に消費の値にカウントされます。データストアのリソースは、仮想マシンが起動状態かどうかにかかわらず常に実際に消費の値にカウントされます。
利用可能 VM 数	
プロファイル名	マシンプロファイルの名前を表示します。
公開範囲	マシンプロファイルの公開範囲を表示します。
サマリ	マシンプロファイルのサマリを表示します。
作成可能 VM 数	各マシンプロファイルを利用してVMを作成した場合に作成可能なVM数を表示します。
サブリソースプール	
名前	切り出したサブリソースプールの名前を表示します。名前をクリックすると、「サブリソースプールの詳細情報」ウィンドウに遷移します。
VM 数 (消費 / 総数)	サブリソースプールのVM数を消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの数を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
vCPU (消費 / 総数)	サブリソースプールのvCPUを消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
メモリ (消費 / 総数)	サブリソースプールのメモリを消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
データストア (消費 / 総数)	サブリソースプールのデータストアを消費 / 総数の順で表示します。消費は、サブリソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表します。総数は、リソースプールから切り出したリソースの総量を表します。
割り当て先	サブリソースプールの割り当て先のグループを表示します。
編集	サブリソースプールを編集します。「4.9.5 サブリソースプール編集」ウィンドウへ遷移します。
削除	選択したサブリソースプールを削除します。

4.9.1. リソースプール作成

リソースプールを作成します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューからリソースプール － [作成] をクリックすると、メインウィンドウに「リソースプール作成」が表示されます。リソースプールの情報を入力し、[OK] をクリックするとリソースプールが作成されます。

注: リソースプールは、グループのマシン種別が [VM サーバ] の場合のみ追加することができます。マシン種別が [VM サーバ] の運用グループの場合に、[設定] メニューにリソースプール関連メニューが表示されます。



リソースプール作成	
名前 **(入力必須)**	リソースプール名を入力します。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。
種別 **(選択必須)**	リソースプールの種別をどちらか選択します。 [共有] は、複数の設定先で共有されるタイプのリソースプール種別です。 [専有] は、割り当てられた設定先のみ設定されるリソースプール種別です。
vCPU の単位 **(選択必須･入力必須)**	vCPUの単位を選択します。"周波数" を選択した場合は、MHz単位で指定してください。"1コアあたりのvCPU数" を選択した場合は、vCPUの個数を指定してください。
説明	リソースプールの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
割り当て先	割り当てを行うテナントをプルダウンボックスから選択します。種別が "専有" の場合に選択することができます。

[OK]	リソースプール追加情報を保存し、[リソースプール] タブに遷移します。
[キャンセル]	リソースプール追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.9.2. リソースプール編集

リソースプールを編集します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューからリソースプール － [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「リソースプール編集」が表示されます。リソースプールの情報を入力し、[OK] をクリックするとリソースプールが編集されます。

リソースプール編集	
名前 **(入力必須)**	リソースプール名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。
種別 **(選択必須)**	リソースプールのタイプをどちらか選択します。 [共有] は、複数の設定先で共有されるタイプのリソースプール種別です。 [専有] は、割り当てられた設定先のみ設定されるリソースプール種別です。
vCPU の単位 **(選択必須・入力必須)**	vCPUの単位を選択します。"周波数" を選択した場合は、MHz単位で指定してください。"1コアあたりのvCPU数" を選択した場合は、vCPUの個数を指定してください。
説明	リソースプールの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。

[OK]	リソースプール編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	リソースプール編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.9.3. リソースプール削除

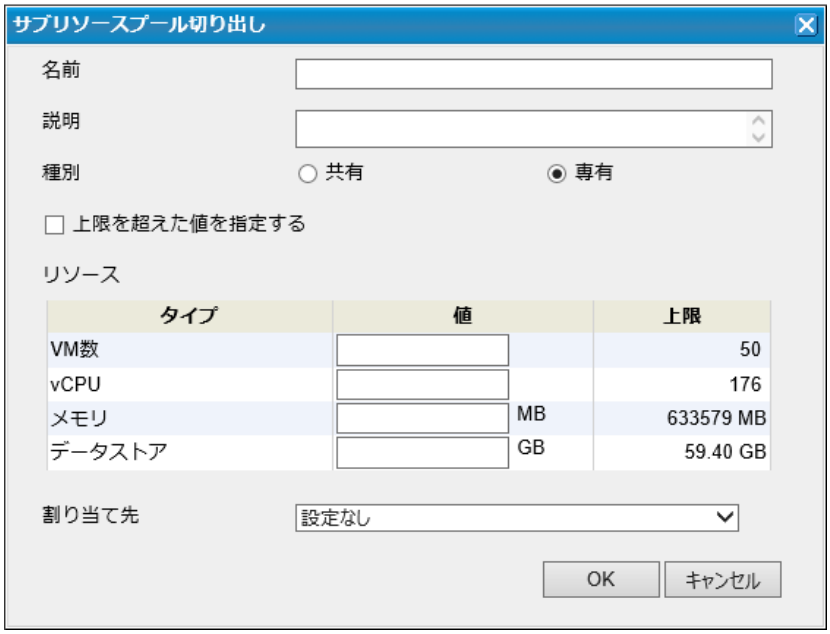
リソースプールを削除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューからリソースプール － [削除] をクリックすると、リソースプールが削除されます。

4.9.4. サブリソースプール切り出し

◆ 最上位のリソースプールからサブリソースプールを切り出す場合

[運用] ツリーから対象のグループ (仮想マシンサーバ) のアイコンをクリックすると、メインウィンドウにグループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューからリソースプール － [切り出し] をクリックすると、「サブリソースプール切り出し」ダイアログボックスが表示されます。リソースプールからの切り出し情報を入力し、[OK] をクリックするとサブリソースプールが作成されます。

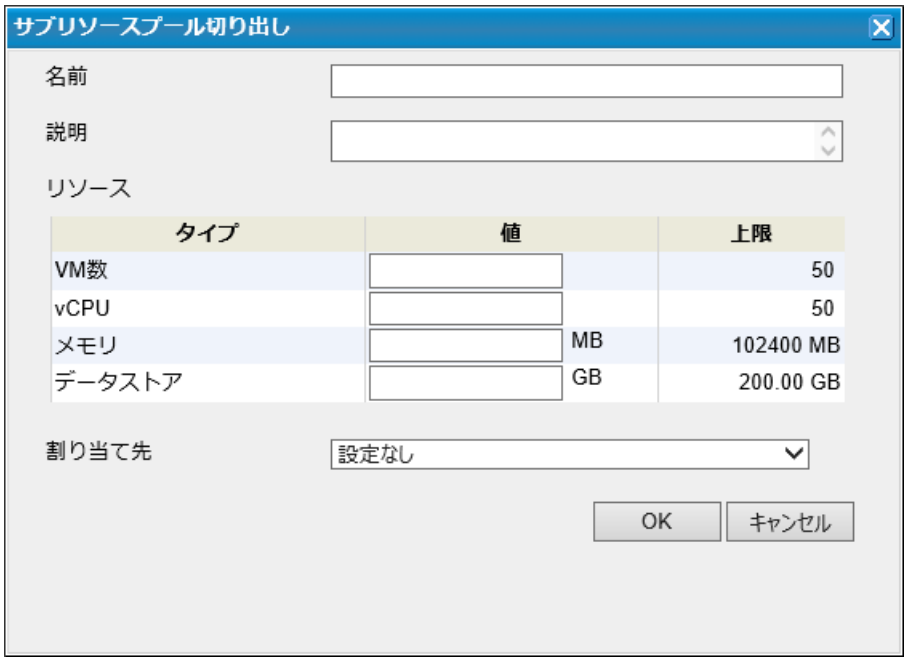


サブリソースプール切り出し	
名前 (入力必須)	サブリソースプール名を入力します。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。

	説明	サブリソースプールの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	種別	サブリソースプールの種別を選択します。 共有の場合、複数のカテゴリ / グループでサブリソースプールを共有することができます。 専有の場合、「割り当て先」で指定したテナント内でのみ使用可能となります。
	上限を超えた値を指定する	上限 (リソースプールの残り容量) を超えた値を割り当てる場合に指定します。
	リソース	
	VM 数	VM数を入力します。
	vCPU	vCPU数を入力します。
	メモリ	メモリの容量を入力します。単位は (MB) です。
	データストア	データストアの容量を入力します。単位は (GB) です。 タグが設定されたデータストアが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
	LUN	LUNのサイズと数を入力します (RDM用のLUNが存在する場合のみ)。 タグが設定されたLUNが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
	データストア追加	タグが設定されたデータストアが存在する場合、割り当てるデータストアの種類を追加することができます。タグが設定されたデータストアが存在しない場合は表示されません。
	LUN 追加	RDM用のLUNが存在する場合、割り当てるLUNの種類を追加することができます。RDM用のLUNが存在しない場合は表示されません。
	割り当て先	割り当て先のテナントを選択します。
[OK]		サブリソースプールを作成し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		サブリソースプールを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ テナント / カテゴリ / グループ (仮想マシン) に割り当てられたリソースプールからサブリソースプールを切り出す場合

[運用] ツリーから対象のテナント / カテゴリ / グループ (仮想マシン) のアイコンをクリックし、[リソースプール] タブを選択すると、そのテナント / カテゴリ / グループに割り当てられているリソースプールが [リソースプール一覧] グループボックスに表示されます。一覧から対象のリソースプールをクリックして、リソースプール詳細情報を表示し、さらに [設定] メニューから [切り出し] をクリックすると、「サブリソースプール切り出し」ダイアログボックスが表示されます。リソースプールからの切り出し情報を入力し、[OK] をクリックするとサブリソースプールが作成されます。



サブリソースプール切り出し	
名前 **(入力必須)**	サブリソースプール名を入力します。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。
説明	サブリソースプールの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
リソース	
VM 数	VM数を入力します。
vCPU	vCPU数を入力します。
メモリ	メモリの容量を入力します。単位は (MB) です。
データストア	データストアの容量を入力します。単位は (GB) です。 タグが設定されたデータストアが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
LUN	LUNのサイズと数を入力します (RDM用のLUNが存在する場合のみ)。 タグが設定されたLUNが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
データストア追加	タグが設定されたデータストアが存在する場合、割り当てるデータストアの種類を追加することができます。タグが設定されたデータストアが存在しない場合は表示されません。
LUN 追加	RDM用のLUNが存在する場合、割り当てるLUNの種類を追加することができます。RDM用のLUNが存在しない場合は表示されません。
割り当て先	割り当て先のカテゴリ / グループ / モデルを選択します。対象のテナント / カテゴリ / グループより下の階層のもののみ指定することができます。

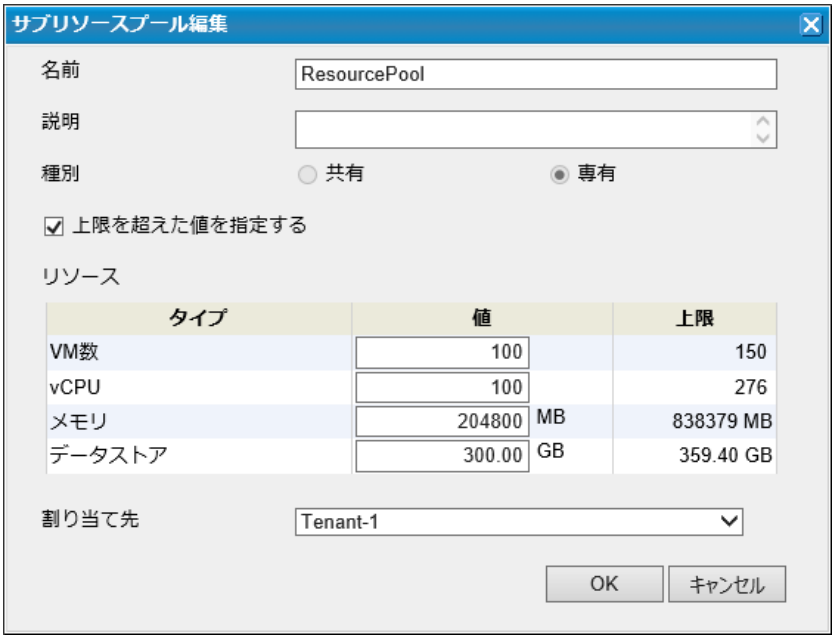
[OK]	サブリソースプールを作成し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	サブリソースプールを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: データストアの値に最大値と同じ値を入力して [OK] をクリックすると、「指定した xxx は上限値以上です。」というメッセージが表示される場合があります。最大値には、小数点第 3 位で四捨五入した値を表示しているため、実際の値とは誤差があります。そのため、表示されている最大値と同じ値を入力した場合、実際の最大値を超えてしまい、保存に失敗する場合があります。上記の場合は、表示されている最大値よりも小さな値を再入力してください。

4.9.5. サブリソースプール編集

◆ 最上位のリソースプールから切り出したサブリソースプールを編集する場合

[運用] ツリーから対象のグループ (仮想マシンサーバ) のアイコンをクリックすると、メインウィンドウにグループの詳細情報が表示されます。[リソースプール] タブを選択し、[サブリソースプール一覧] グループボックスから対象のサブリソースプールの [編集] をクリックすると、「サブリソースプール編集」ダイアログボックスが表示されます。サブリソースプールの情報を入力し、[OK] をクリックすると、サブリソースプールが更新されます。

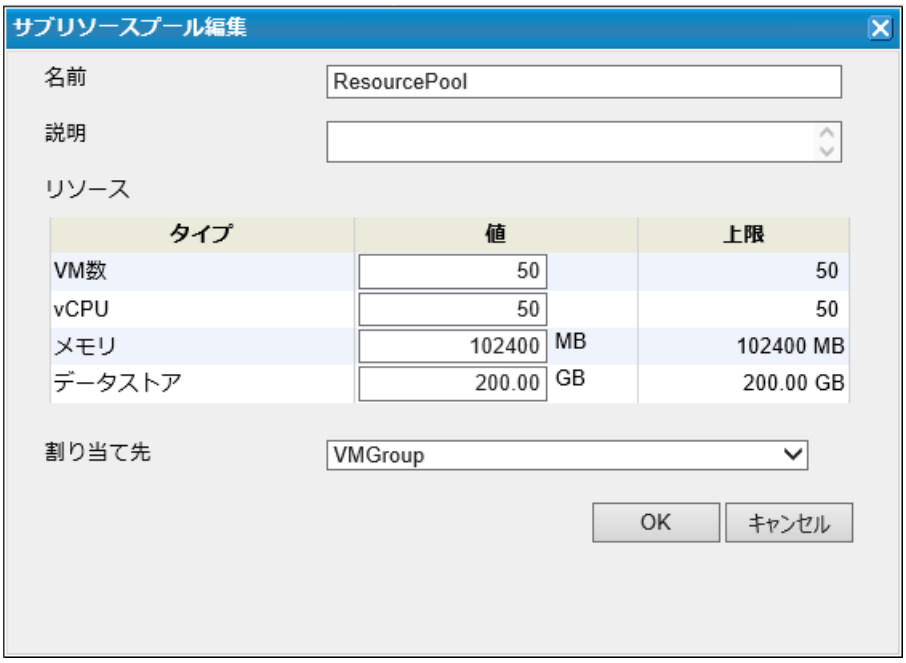


サブリソースプール編集	
名前 **(入力必須)**	サブリソースプール名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。

	説明	サブリソースプールの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	種別	サブリソースプールの種別を表示します。種別を変更することはできません。
	上限を超えた値を指定する	上限 (リソースプールの残り容量) を超えた値を割り当てる場合に指定します。
	リソース	
	VM 数	VM数を表示し、編集もできます。
	vCPU	vCPU数を表示し、編集もできます。
	メモリ	メモリの容量を表示し、編集もできます。単位は (MB) です。
	データストア	データストアの容量を表示し、編集もできます。単位は (GB) です。 タグが設定されたデータストアが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
	LUN	LUNのサイズと数を表示し、編集もできます(RDM用のLUNが存在する場合のみ)。 タグが設定されたLUNが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
	データストア追加	タグが設定されたデータストアが存在する場合、割り当てるデータストアの種類を追加することができます。タグが設定されたデータストアが存在しない場合は表示されません。
	LUN 追加	RDM用のLUNが存在する場合、割り当てるLUNの種類を追加することができます。RDM用のLUNが存在しない場合は表示されません。
	割り当て先	割り当て先のテナントを選択します。
[OK]		サブリソースプールを更新し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		サブリソースプールを更新せずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ テナント / カテゴリ / グループ (仮想マシン) に割り当てられたリソースプールから切り出されたサブリソースプールを編集する場合

[運用] ツリーから対象のテナント / カテゴリ / グループ (仮想マシン) のアイコンをクリックし、[リソースプール] タブを選択すると、そのテナント / カテゴリ / グループに割り当てられているリソースプールが [リソースプール一覧] に表示されます。一覧から対象のリソースプールをクリックしてリソースプール詳細情報を表示し、さらに [サブリソースプール一覧] グループボックスから対象のサブリソースプールの [編集] をクリックすると、「サブリソースプール編集」ダイアログボックスが表示されます。サブリソースプールの情報を入力し、[OK] をクリックすると、サブリソースプールが更新されます。



サブリソースプール編集	
名前 **(入力必須)**	サブリソースプール名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は64文字以内です。使用できる文字は半角英数字です。
説明	サブリソースプールの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
リソース	
VM 数	VM数を表示し、編集もできます。
vCPU	vCPU数を表示し、編集もできます。
メモリ	メモリの容量を表示し、編集もできます。単位は(MB) です。
データストア	データストアの容量を表示し、編集もできます。単位は (GB) です。 タグが設定されたデータストアが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
LUN	LUNのサイズと数を表示し、編集もできます(RDM用のLUNが存在する場合のみ)。 タグが設定されたLUNが存在する場合、タグ毎に割り当てる数を指定することができます。
データストア追加	タグが設定されたデータストアが存在する場合、割り当てるデータストアの種類を追加することができます。タグが設定されたデータストアが存在しない場合は表示されません。

	LUN 追加	RDM用のLUNが存在する場合、割り当てるLUNの種類を追加することができます。RDM用のLUNが存在しない場合は表示されません。
	割り当て先	割り当て先のカテゴリ / グループ / モデルを選択します。対象のテナント / カテゴリ / グループより下の階層のもののみ指定することができます。
[OK]		サブリソースプールを更新し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		サブリソースプールを更新せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: データストアの値に最大値と同じ値を入力して [OK] をクリックすると、「指定した xxx は上限値以上です。」というメッセージが表示される場合があります。最大値には、小数点第 3 位で四捨五入した値を表示しているため、実際の値とは誤差があります。そのため、表示されている最大値と同じ値を入力した場合、実際の最大値を超えてしまい、保存に失敗する場合があります。上記の場合は、表示されている最大値よりも小さな値を再入力してください。

4.9.6. サブリソースプール削除

サブリソースプールを削除します。

[運用] ビューでグループ (仮想マシンサーバ) の [リソースプール] タブ、またはテナント / カテゴリ / グループ (仮想マシン) に割り当てられたリソースプールの詳細画面を表示します。[サブリソースプール一覧] グループボックスから削除するサブリソースプールを選択し、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、サブリソースプールが削除されます。

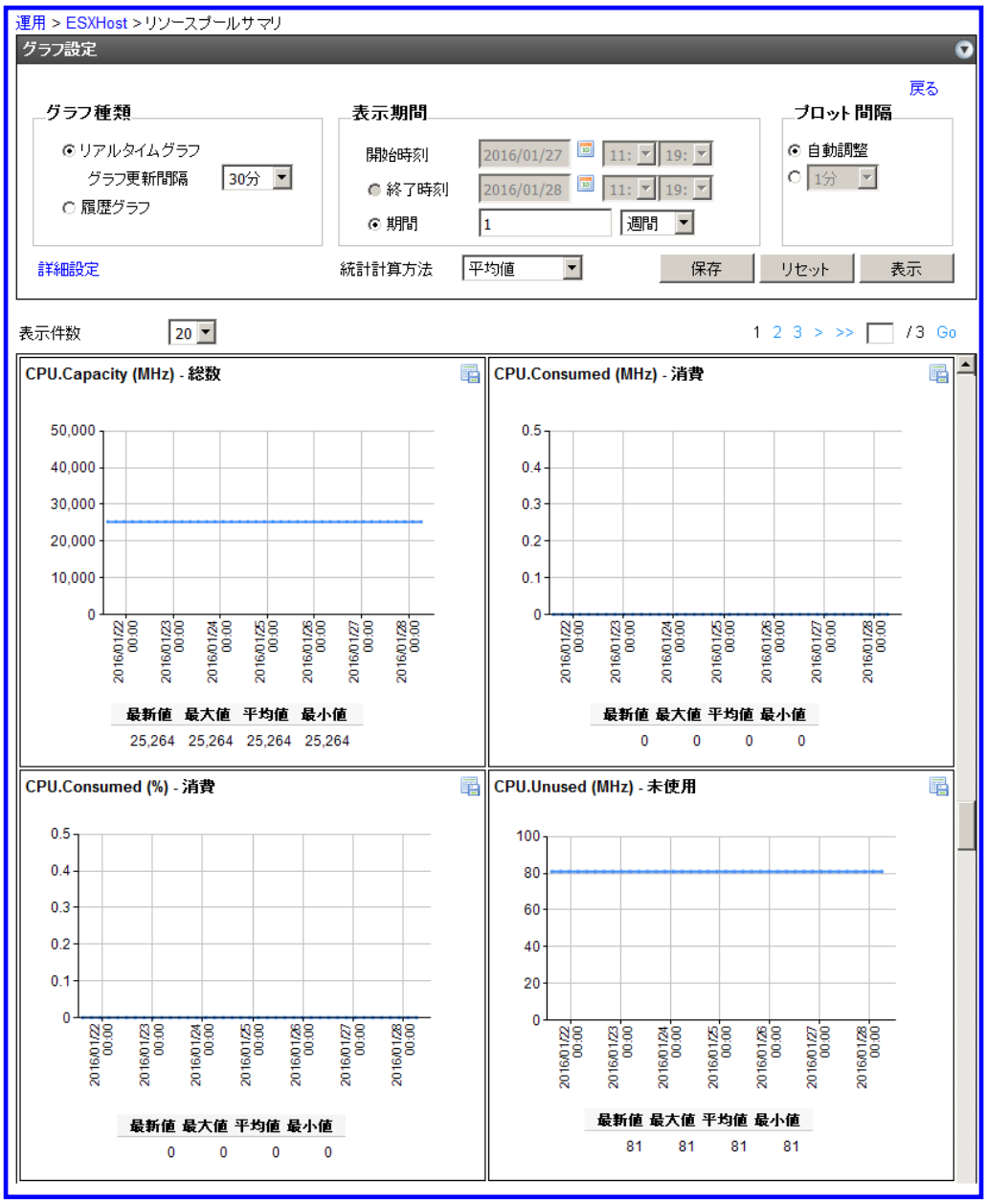
注: 削除対象のサブリソースプールがグループに割り当てられている場合、割り当てられているグループ、あるいは配下のグループ上でマシンが稼動している状態ではサブリソースプールの削除は行えません。該当のサブリソースプールのグループの割り当てを "設定なし" に変更するか、あるいは稼動マシンがない状態にしてから削除を実行してください。

4.9.7. リソースプールの履歴データ

リソースプール、サブリソースプールの履歴データをグラフで表示します。

[運用] ツリーからリソースプールの履歴データを表示する対象の運用グループをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[リソースプール] タブをクリックし、[リソース使用状況] グループボックスの をクリックすると、リソースプール履歴データが表示されます。

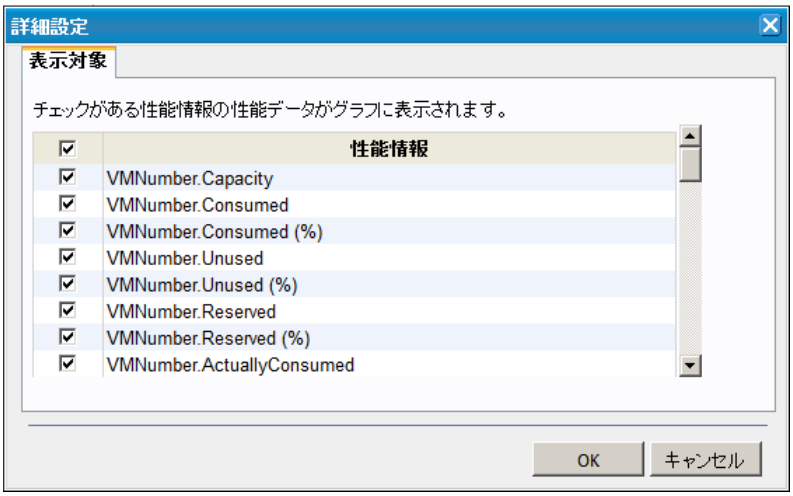
リソースプール履歴データは、リソースプール単位で性能情報ごとに別々のグラフとして表示します。リソースプールの各性能情報について個別に確認することができます。



グラフ設定		
	グラフ種類	
	リアルタイムグラフ	最新のグラフを表示したい場合に選択します。
	グラフ更新間隔	指定したグラフ更新間隔で自動的にグラフが更新されます。
	履歴グラフ	特定の開始時刻から特定の期間のグラフを表示したい場合に選択します。
	表示期間	
	開始時刻	グラフの表示を開始する時刻を指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。

		終了時刻	グラフの表示を終了する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
		期間	グラフの表示期間を指定します。
	プロット間隔		
		自動調整	表示期間、データの収集間隔に合わせて、自動的にプロット間隔を調整して表示します。
		(プルダウンボックス)	指定したプロット間隔でグラフを表示します。
	詳細設定		グラフに性能データを表示する性能情報を設定する「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。
	統計計算方法		統計計算方法を選択します。統計計算方法は、最大値、平均値、最小値、または合計値の中から選択します。
	[保存]		グラフ設定をグループの共通設定、もしくは個別設定として保存します。
	[リセット]		保存したグラフ個別設定情報を削除します。
	[表示]		グラフ設定より性能グラフを表示します。
グラフ			
	性能データファイル出力 ( )		グラフで表示中の性能データをCSVファイルとして出力します。性能データファイル出力 ( ) については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
	最新値		表示期間中のデータの最新値を表示します。
	最大値		表示期間中のデータの最大値を表示します。
	平均値		表示期間中のデータの平均値を表示します。
	最小値		表示期間中のデータの最小値を表示します。

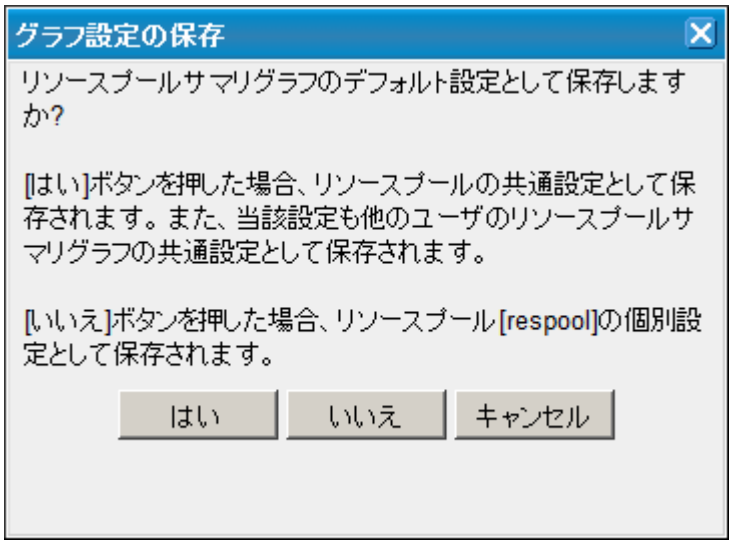
[詳細設定] をクリックすると、「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。



詳細設定	
表示対象	
性能情報	グラフに性能データを表示する性能情報を選択します。
[OK]	グラフに性能データを表示する性能情報を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	グラフに性能データを表示する性能情報を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

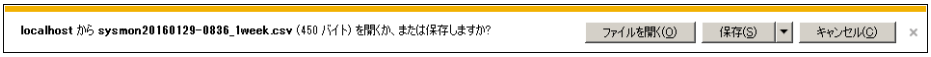
[保存] をクリックすると、「グラフ設定の保存」ダイアログボックスが表示されます。

「グラフ設定の保存」ダイアログボックスから [はい] をクリックする場合、グラフ設定はリソースプールの共通設定と個別設定の両方に保存しますが、[いいえ] をクリックした場合、個別設定のみ保存します。[キャンセル] をクリックした場合は、「グラフ設定の保存」ダイアログボックスは何も保存せずに閉じます。

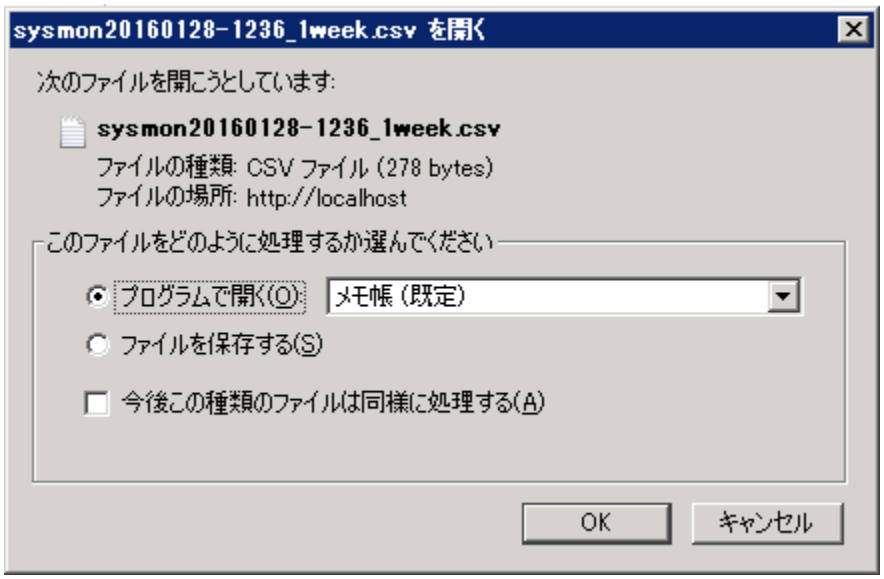


各性能グラフの右上に表示される をクリックすると、「ファイルダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。

◆ Internet Explorer の場合



◆ Firefox の場合


sysmon20160128-1236_1week.csv を開く
次のファイルを開こうとしています:
sysmon20160128-1236_1week.csv
ファイルの種類: CSV ファイル (278 bytes)
ファイルの場所: http://localhost
このファイルをどのように処理するか選んでください
プログラムで開く(O):
メモ帳 (既定)
ファイルを保存する(S)
今後この種類のファイルは同様に処理する(A)
OK
キャンセル

4.10. マシン操作履歴

本節では、運用グループの詳細情報の [マシン操作履歴] タブについて説明します。運用グループの詳細情報の他のタブについては、「4.7 運用グループの詳細情報」を参照してください。

4.10.1. マシンサマリー覧

運用グループで稼動中のマシンの操作履歴サマリを一覧で表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報が表示されます。[マシン操作履歴] タブをクリックすると、グループで稼動中のマシンの操作履歴サマリが表示されます。

注: [起動日時]、[起動日時] といった時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

マシン一覧	
名前	マシンの名前を表示します。
リビジョン	最新のリビジョン番号を表示します。
起動日時	マシンの起動日時を表示します。
停止日時	マシンの停止日時を表示します。
起動時間	マシンの累積起動時間を表示します。

プロパティ	アイコンをクリックすると、「マシン操作履歴の詳細情報」ウィンドウに遷移します。

4.10.2. リビジョン一覧

運用グループで稼動中のマシンの操作履歴リビジョンの一覧を表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報が表示されます。[マシン操作履歴] タブをクイックし、[マシン一覧] グループボックスからマシン名をクリックすると、選択したマシンの操作履歴リビジョン情報が表示されます。

注: [起動時間] に表示される時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

基本情報	
名前	マシンの名前を表示します。
UUID	マシンのUUIDを表示します。
登録日時	マシンがSigmaSystemCenterで管理された日時を表示します。
操作履歴一覧	
リビジョン	リビジョン番号を表示します。
リビジョン開始日時	リビジョン開始日時を表示します。

起動時間	マシンのリビジョン内の起動時間を表示します。
運用グループ登録時間	マシンのリビジョン内の運用グループ上稼動時間を表示します。
プロパティ	アイコンをクリックすると、「マシン操作履歴の詳細情報」ウィンドウに遷移します。
[戻る]	前のウィンドウに戻ります。

4.10.3. マシン操作履歴の詳細情報

運用グループで稼動中のマシンの操作履歴の詳細情報を表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報が表示されます。[マシン操作履歴] タブをクリックし、[マシン一覧] グループボックスから編集アイコンをクリックすると、マシン操作履歴の詳細情報が表示されます。

もしくは、[マシン操作履歴] タブをクリックし、[マシン一覧] グループボックスをクリックすると、選択したマシンの操作履歴リビジョン情報が表示されます。[操作履歴一覧] グループボックスの編集アイコンをクリックすると、マシン操作履歴の詳細情報が表示されます。

注:

・ [起動日時]、[起動時間] といった時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

・ [プロファイル情報] グループボックスは、リビジョン内にプロファイルが存在する場合、表示されます。

基本情報	
名前	マシンの名前を表示します。
UUID	マシンのUUIDを表示します。
登録日時	マシンがSigmaSystemCenterで管理された日時を表示します。
リビジョンの開始日時	リビジョンの開始日時を表示します。
リビジョンの終了日時	リビジョンの終了日時を表示します。
稼動グループ	稼動している運用グループのパス情報を表示します。
リソースプール	払い出し元のリソースプール名を表示します。
サービス開始日時	仮想マシンに設定されたサービス開始日時を表示します。
サービス終了日時	仮想マシンに設定されたサービス終了日時を表示します。
運用情報	
起動日時	マシンの起動日時を表示します。
停止日時	マシンの停止日時を表示します。

サスペンド日時	マシンのサスペンド日時を表示します。
運用グループ登録日時	運用グループ登録成功日時を表示します。
運用グループ解除日時	運用グループから解除された日時を表示します。
構成変更日時	マシン構成の変更を実施した日時を表示します。
ソフトウェア収集日時	インストール済みソフトウェア情報収集日時を表示します。
起動時間	リビジョン内の電源オン累積時間を表示します。
運用グループ登録時間	マシンのリビジョンの運用グループ上稼動時間を表示します。
起動累積時間	電源オン総合累積時間を表示します。
運用グループ登録累計時間	運用グループ上累積稼動時間を表示します。
プロファイル情報	
CPU	
CPU 数	仮想マシンに割り当てられた仮想CPU数を表示します。
CPU シェア	仮想マシンに適用されたCPUシェア値を表示します。
CPU 予約	仮想マシンに適用されたCPU予約値を表示します。
CPU リミット	仮想マシンに適用されたCPUリミット値を表示します。
メモリ	
メモリサイズ	仮想マシンに適用されたメモリサイズ値を表示します。
メモリシェア	仮想マシンに適用されたメモリシェア値を表示します。
メモリ予約	仮想マシンに適用されたメモリ予約値を表示します。
メモリリミット	仮想マシンに適用されたメモリリミット値を表示します。
ネットワーク	
NIC 番号	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの番号を表示します。
NIC 名	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの名前を表示します。
接続先デバイス	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの接続先デバイス名を表示します。
MAC アドレス	仮想マシンに割り当てられた仮想NICのMACアドレスを表示します。
接続状態	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの接続状態を表示します。
ディスク	
名前	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクの名前を表示します。
サイズ (GB)	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクのサイズ (GB) を表示します。
データストア	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクが格納されているデータストアを表示します。

	タイプ	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクタイプを表示します。
	用途	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクの使用用途の種類を表示します。
[戻る]		前のウィンドウに戻ります。

4.11. グループプロパティ設定

グループプロパティの表示、設定を行います。

[運用] ツリーからグループプロパティ設定を行うグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [プロパティ] をクリックすると、メインウィンドウに [全般] タブ、[モデル] タブ、[ホスト] タブ、[ストレージ] タブ、[ソフトウェア] タブ、[ネットワーク] タブ、[LB 設定] タブ、[マシンプロファイル] タブ、[ホストプロファイル] タブ、[VM 最適配置] タブ、[VM 配置制約] タブ、[データストア設定] タブ、[死活監視] タブ、[性能監視] タブ、[カスタム] タブで構成された「グループプロパティ設定」が表示されます。また、グループのマシン種別によって、表示されるタブが変わります。

4.11.1. [全般] タブ

グループ全般に関する情報の表示、設定を行います。

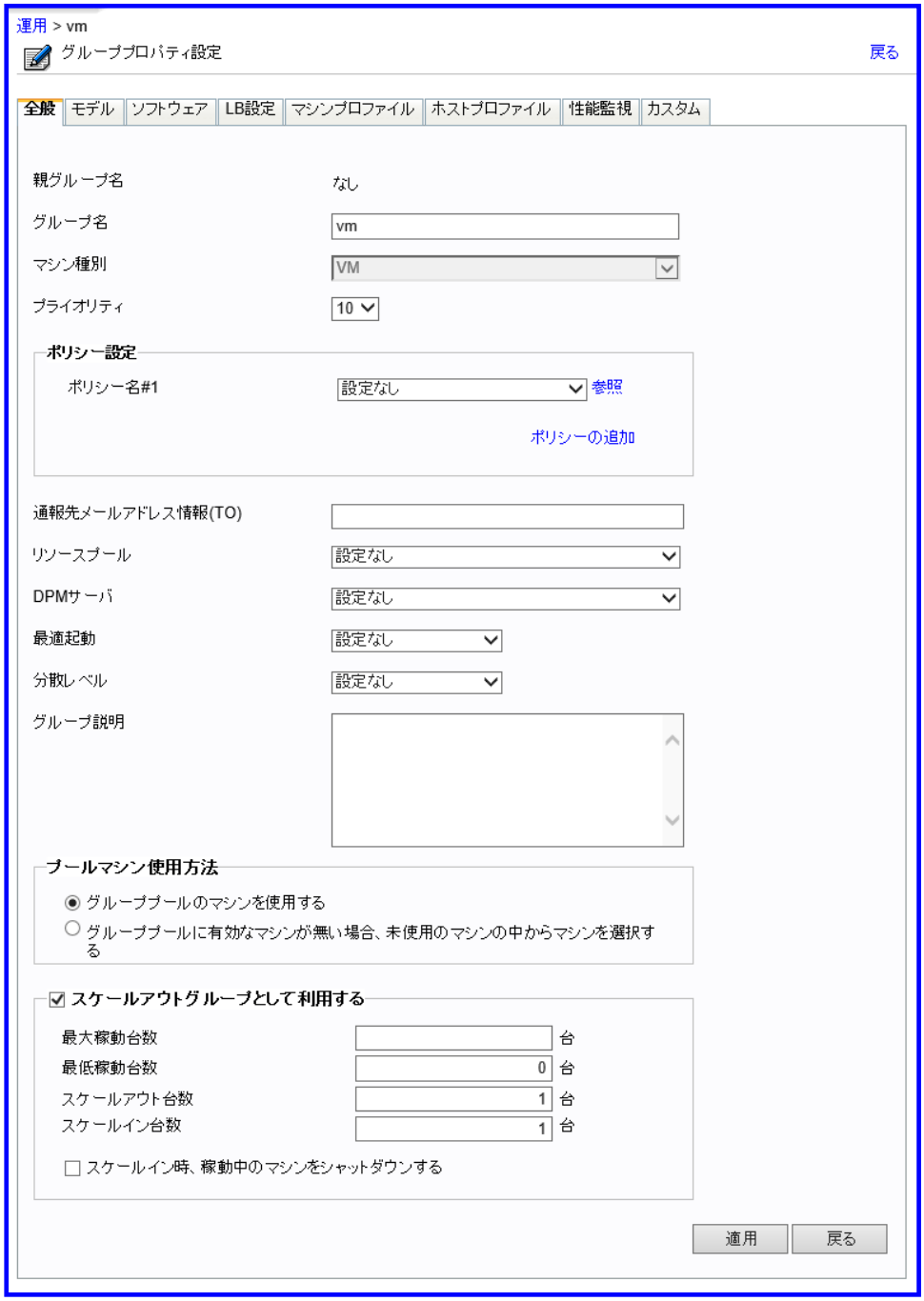
注:

・ HW Profile Clone を利用して仮想マシンを作成する場合は、テナント、カテゴリ、グループ、モデル (仮想マシンの場合) のいずれかで DPM サーバを選択して DeploymentManager に登録する設定が必須です。Differential Clone、もしくは Disk Clone 用のテンプレートは、VMware vCenter Server 環境以外の場合、DeploymentManager に登録する設定が必須です。

・ DPM サーバの設定がない状態で仮想マシンを作成した際、DeploymentManager への登録が必要な場合は、以下のいずれかの条件により自動的に DPM サーバを選択して設定します。DPM サーバの設定は、モデルが指定されていればモデル、モデルが指定されていなければグループに設定されます。

・ テナント、カテゴリ、グループ、あるいはモデルの [ソフトウェア] タブに 1 台の DPM サーバのシナリオが設定されている場合

・ サブシステムに DeploymentManager が 1 台だけ登録されている場合 (vCenter Server 環境で HW Profile Clone 以外のときのみ)



全般	
親グループ名	親グループ名を表示します。
グループ名 **(入力必須)**	グループ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
マシン種別	マシンの種別を表示します。グループにモデルが追加されておらず、グループに所属するマシンが存在しない場合は、変更もできます。"物理"、"VM"、"VMサーバ" から選択します。

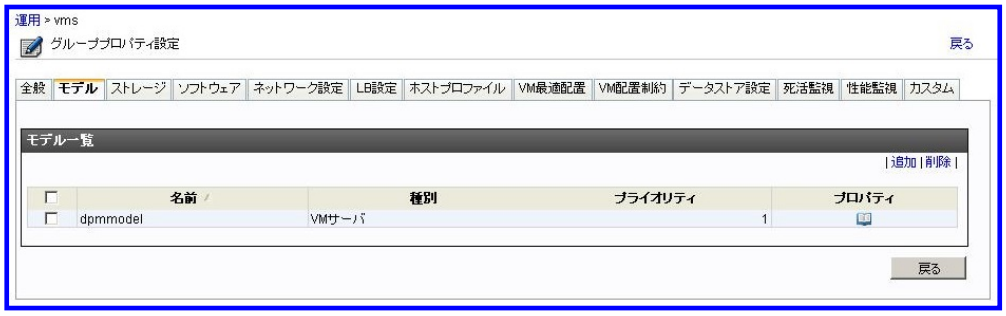
プライオリティ	プライオリティを表示し、変更もできます。「1～10」の範囲で選択できます。
ポリシー設定	
ポリシー名#1	ポリシー名を表示し、変更もできます。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示され、#1から順に検索を行います。ポリシーに対象のイベントが含まれていると、そのポリシーが実行され、検索を終了します。
参照	プルダウンボックスで指定したポリシーの「ポリシープロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
ポリシーの追加	ポリシー設定を追加する場合にクリックします。 最大5つまでポリシー設定を追加することができます。
通報先メールアドレス情報(TO)	通報先のメールアドレスを表示します。
リソースプール	グループとリソースプールを関連付ける場合、[リソースプール] プルダウンボックスからリソースプールを選択します。マシン種別が [VM] に設定されている場合のみ表示されます。
DPM サーバ	仮想マシンの稼動時にDeploymentManagerに登録する場合、DPMサーバを選択します。マシン種別が [VM] に設定されている場合のみ表示されます。
最適起動	グループ下の仮想マシンに対して最適起動の有効または無効を指定する場合は、プルダウンボックスから "有効" または "無効" を選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。マシン種別が [VM] に設定されている場合のみ表示されます。
分散レベル	グループ下の仮想マシンに対して最適起動時の分散レベルを指定する場合は、プルダウンボックスから分散レベルの値を選択します。"設定なし" の場合は、上位のテナントまたはカテゴリの設定 (上位が存在しない場合は仮想マシンのホスト仮想マシンサーバが稼動するグループ / モデルの設定) が使用されます。マシン種別が [VM] に設定されている場合のみ表示されます。
データセンター	グループで使用するDataCenterを選択します。マシン種別が [VMサーバ] に設定されている場合のみ表示されます。
グループ説明	グループの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
プールマシン使用方法	
グループプールのマシンを使用する	グループプールのマシンを使用する場合に選択します。
グループプールに有効なマシンが無い場合、未使用のマシンの中からマシンを選択する	グループプールに有効なマシンがなく、未使用のマシンの中から選択する場合に選択します。

スケールアウトグループとして利用する		チェックボックスをオンにすると、スケールアウトグループを設定することができます。 スケールアウトグループは、最大稼動台数、最低稼動台数、スケールアウトで一度に割り当てる台数、およびスケールインで一度に割り当て解除する台数をそれぞれ設定することができます。
	最大稼動台数	運用グループでの最大稼動台数を入力します。「0～10000」の範囲で設定できます。 [スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。 "0"、または空欄の場合、稼動台数に上限がなくなります。
	最低稼動台数	運用グループでの最低稼動台数を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。[スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。
	スケールアウト台数	スケールアウトで一度にマシンを割り当てる台数を入力します。「1～100」の範囲で設定できます。[スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。
	スケールイン台数	スケールインで一度にマシンの割り当て解除する台数を入力します。「1～100」の範囲で設定できます。[スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオンの場合のみ入力できます。
	スケールイン時、稼動中のマシンをシャットダウンする	チェックボックスをオンにすると、スケールイン実行中に、稼動中のマシン割り当てを解除せずにシャットダウンします。
[適用]		グループプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		グループプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.11.2. [モデル] タブ

モデルに関する情報を表示、設定を行います。

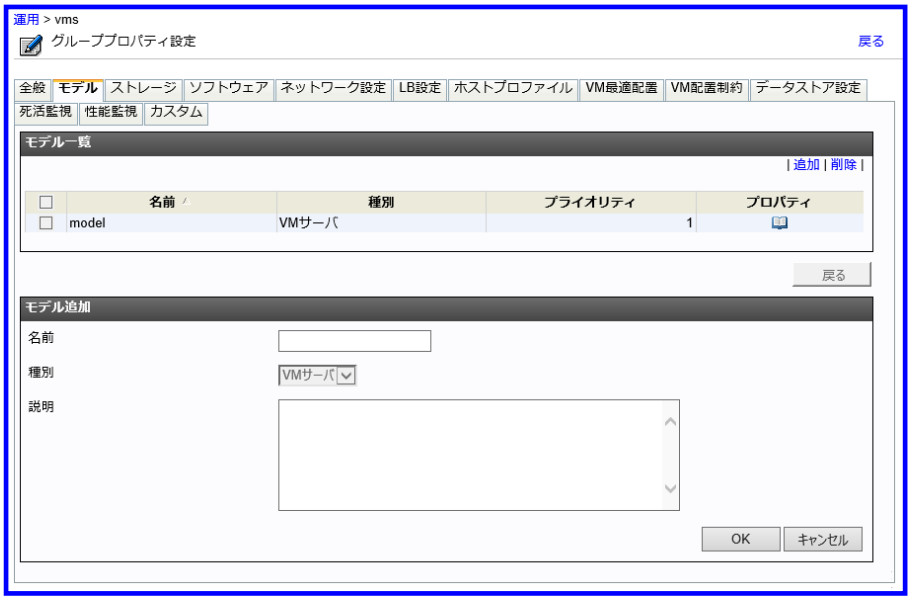
注: モデルを追加する場合、異なる種別のモデルは追加できません。



モデル

モデル一覧		
	名前	グループに設定されているモデル名の一覧を表示します。
	種別	モデルの種別を表示します。
	プライオリティ	プライオリティを表示します。
	プロパティ	選択したモデルの編集を行います。「モデルプロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
	追加	モデルを追加します。[モデル一覧] グループボックスの下部に [モデル追加] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したモデルを削除します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

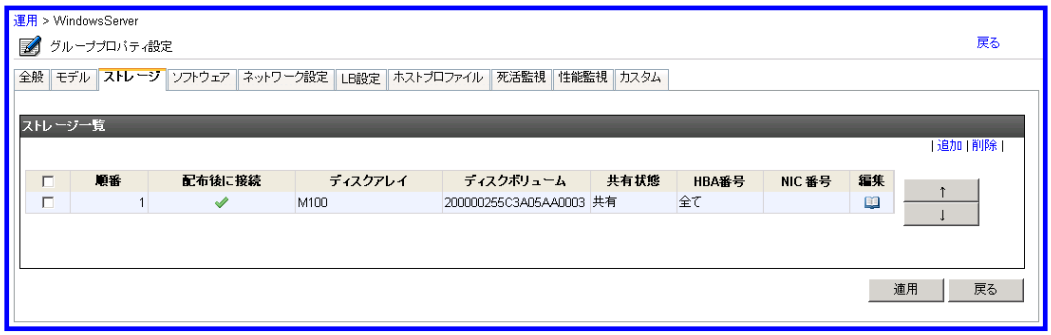
[追加] をクリックすると、[モデル一覧] グループボックス下部に [モデル追加] グループボックスが表示されます。



モデル追加		
	名前 **(入力必須)**	モデル名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
	種別	モデルの種別を表示します。
	説明	モデルの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]		モデル追加情報を保存し、[モデル一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]		モデル追加情報を保存せずに、[モデル追加] グループボックスを閉じます。

4.11.3. [ストレージ] タブ

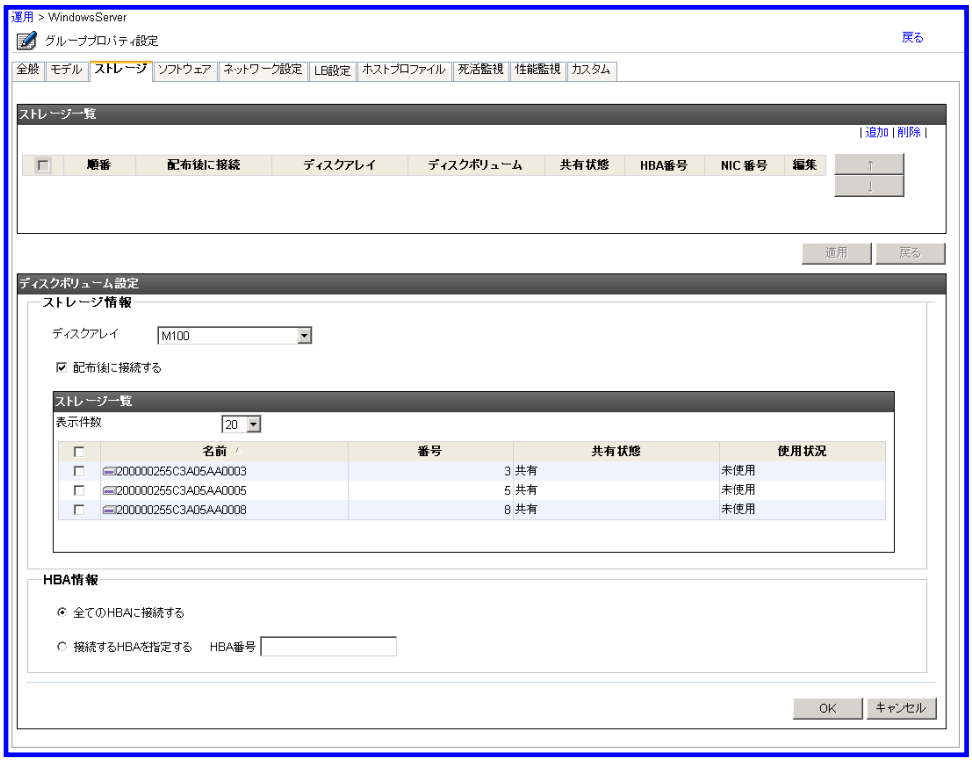
ストレージに関する情報を表示、設定を行います。



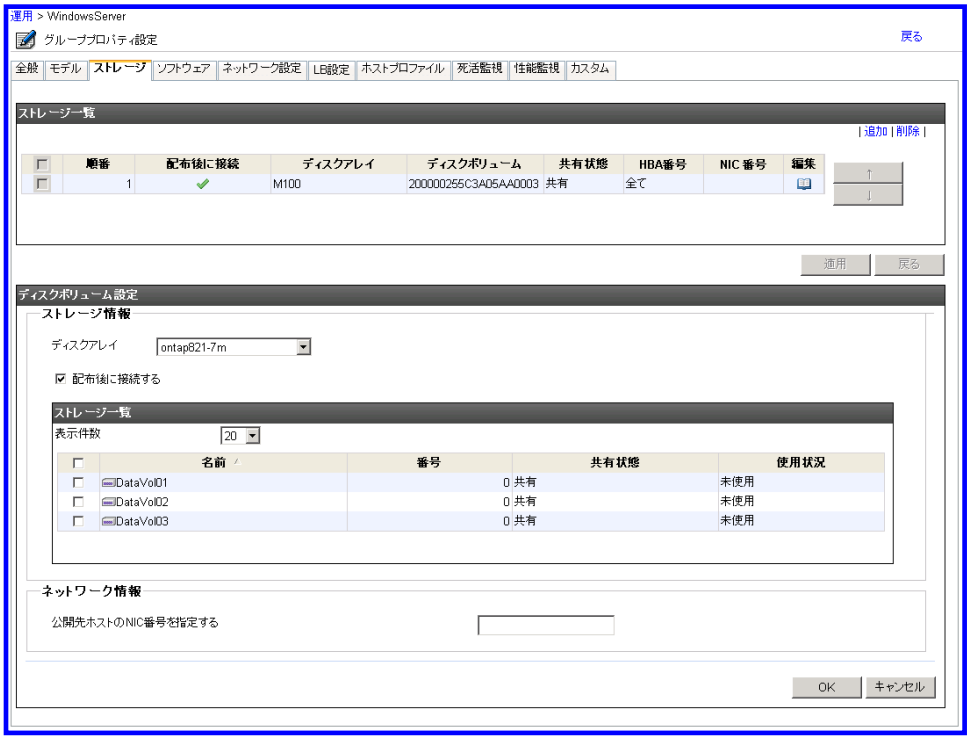
ストレージ		
	ストレージ一覧	
	順番	グループで稼動するホストへのディスクボリューム接続順序を表示します。
	配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
	ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
	ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
	共有状態	共有状態を表示します。
	HBA 番号	HBA番号を表示します。
	NIC 番号	NIC番号を表示します。
	編集	ディスクボリュームを編集します。[編集] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
	[↑]	チェックしたディスクボリュームの接続順序を1つ前に移動します。
	[↓]	チェックしたディスクボリュームの接続順序を1つ後に移動します。
	追加	ディスクボリュームを追加します。[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスが選択したディスクアレイ設定情報を [ストレージ一覧] グループボックスから削除します。
[適用]		グループプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		グループプロパティ設定情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックス下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。

◆ iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合



◆ NetApp の場合



ディスクボリューム設定	
ストレージ情報	
ディスクアレイ	ディスクアレイを選択します。
配布後に接続する	稼動時配布ソフトウェアの配布を行った後にディスクボリュームの接続制御を行う場合、チェックボックスをオンにします。
ストレージ一覧	
名前	ディスクボリュームの名前を表示します。
番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
HBA 情報 (iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合)	
全ての HBA に接続する	すべてのHBAに接続する場合に選択します。
接続する HBA を指定する	接続するHBAを指定する場合に選択します。
HBA 番号	HBA番号を入力します。[接続するHBAを指定する] を選択している場合のみ入力できます。
ネットワーク情報 (NetApp の場合)	
公開先ホストの NIC 番号を指定する	ディスクボリュームの公開先IPアドレスを持つNIC番号を指定します。(例: 1) 1つのNIC番号に対して複数のIPアドレスを設定している場合、「1/2」のように半角スラッシュで区切ることにより、2つ目以降のIPアドレスを指定することができます。ホスト名で公開する場合は、空白を設定してください。
[OK]	設定したディスクボリュームを追加し、[ストレージ一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ディスクボリューム設定情報を保存せずに、[ディスクボリューム設定] グループボックスを閉じます。

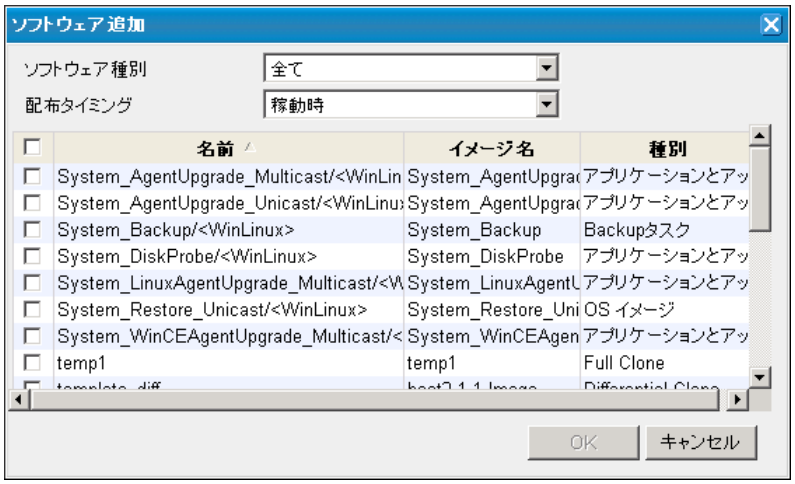
4.11.4. [ソフトウェア] タブ

ソフトウェアに関する情報の表示、設定を行います。

ソフトウェア	
ソフトウェア一覧	
名前	グループに設定されているソフトウェアの一覧を表示します。ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを表示します。
詳細設定	シナリオの種別が以下の場合、編集アイコンが表示されます。 (1) アプリケーションとアップデートの場合 (2) Differential Clone、またはDisk Cloneのイメージの場合 (3) ファイルの場合 編集アイコンをクリックすると、それぞれのグループボックス画面が表示されます。 (1) [コマンドオプション設定] グループボックスが表示され、コマンドオプションを指定することができます。また、[コマンド実行結果をジョブ結果に反映する] チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。 (2) [イメージ変更] グループボックスが表示され、イメージを変更することができます。 (3) [ファイル詳細設定] グループボックスが表示され、配信先フォルダを変更することができます。

	[↑]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	[↓]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	追加	ソフトウェアを追加します。[ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したソフトウェアを削除します。
[適用]		ソフトウェア一覧情報を適用します。
[戻る]		ソフトウェア一覧情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「ソフトウェア追加」ダイアログボックスが表示されます。



ソフトウェア追加	
ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイルの中から選択できます。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを、稼動時 / 待機時 / 待機時・シャットダウン後、(用途別) 置換時 / リソース割り当て時 / バックアップ実行時 / リストア実行時 / 起動実行時、(用途別-論理マシン) 構築時 / 解体時から選択します。
名前	SigmaSystemCenterに登録されているソフトウェア一覧を表示します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。

	[OK]	チェックボックスを選択したソフトウェアを追加し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
	[キャンセル]	ソフトウェア追加情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

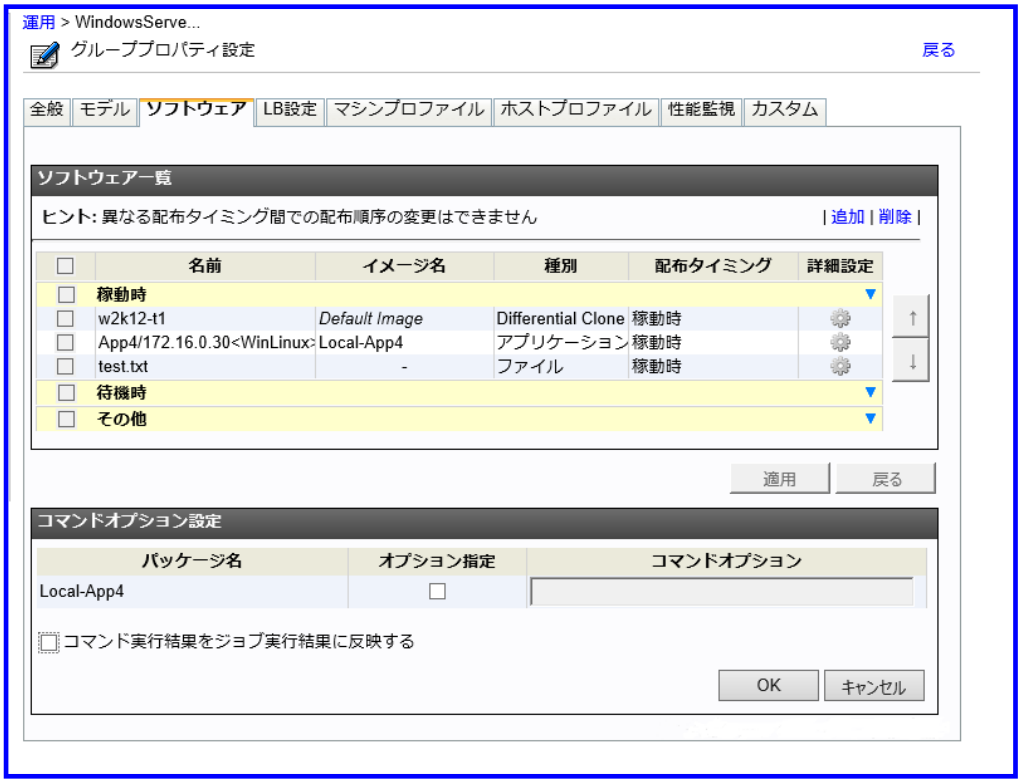
注:

・ 仮想マシンのテンプレートは、ある仮想マシンサーバに登録されているテンプレートが利用できない場合に、別の仮想マシンサーバに登録されているテンプレートを利用するように複数のテンプレートを設定しておくことができます。設定するテンプレートは同じイメージのテンプレートを設定してください。

・ DeploymentManager の機能を利用して仮想マシンを作成する場合は、HW Profile Clone 用のテンプレートを登録してください。また、タイプが異なる仮想マシンのテンプレートを混在して登録はできません。Differential Clone 用のテンプレートの場合は、スタンドアロン ESXi 環境と VMware vCenter Server 環境で作成したテンプレートも混在して登録できません。

[詳細設定] の編集アイコンをクリックすると、[ソフトウェア一覧] グループボックス下部に [コマンドオプション設定] グループボックス、[イメージ変更] グループボックス、もしくは [ファイル詳細設定] グループボックスが表示されます。

<コマンドオプション設定の場合>



コマンドオプション設定		
	パッケージ名	パッケージ名を表示します。

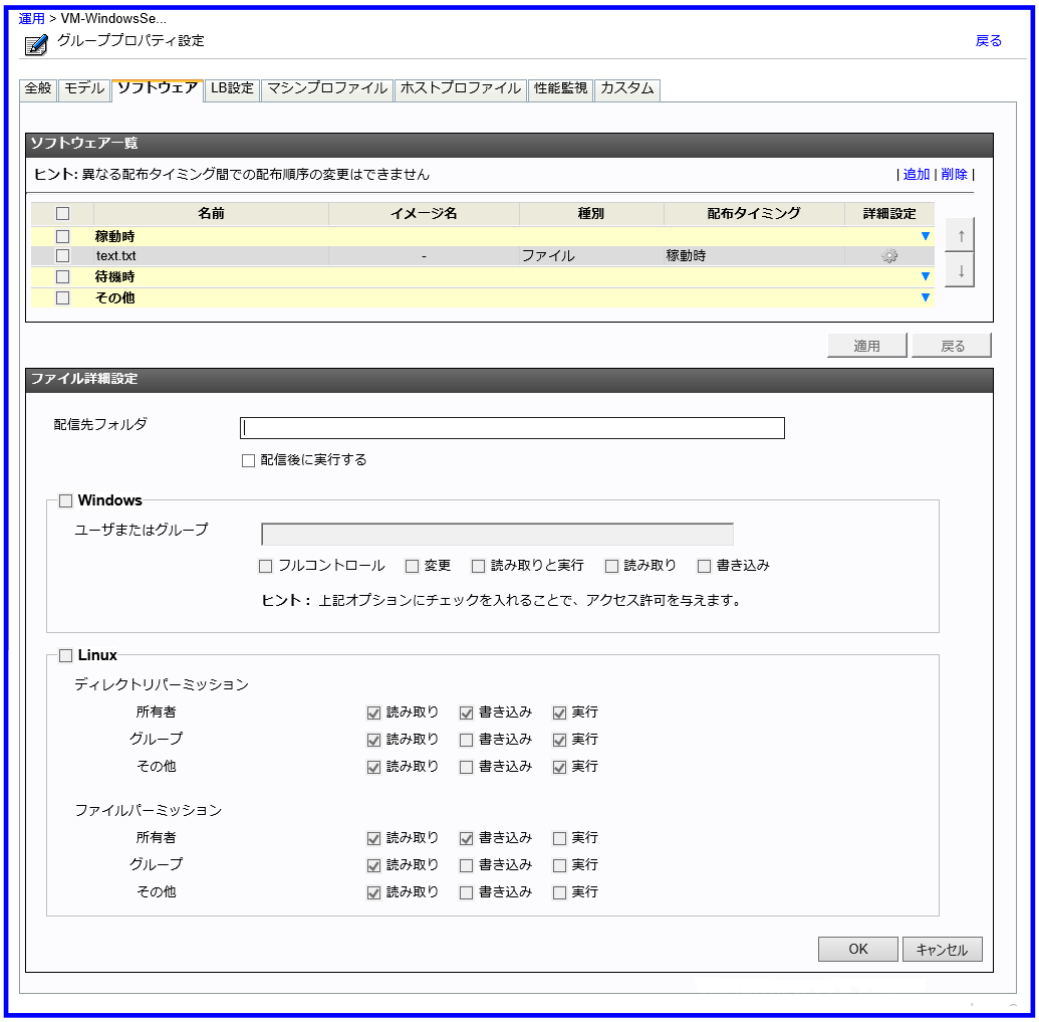
オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。 コマンドオプションは、半角文字で128文字まで指定可能です。
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。
[OK]	コマンドオプション設定を保存し、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	コマンドオプション設定を保存せずに、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。

<イメージ変更の場合>

イメージ変更	
(ラジオボタン)	[ソフトウェア一覧] グループボックスに追加するイメージを選択します。
イメージ名	イメージ名を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。

	スナップショット	スナップショット名を表示します。
	作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
	格納場所	イメージの保存先データストア名を表示します。
	参照 VM 数	参照している仮想マシンの数を表示します。 Differential Cloneテンプレートの場合のみ表示されます。
	[デフォルトイメージを使用する]	イメージを固定せずにテンプレートのデフォルトイメージを使用する場合に選択します。
	[OK]	選択したラジオボタンのイメージをソフトウェアに設定し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
	[キャンセル]	イメージ変更情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

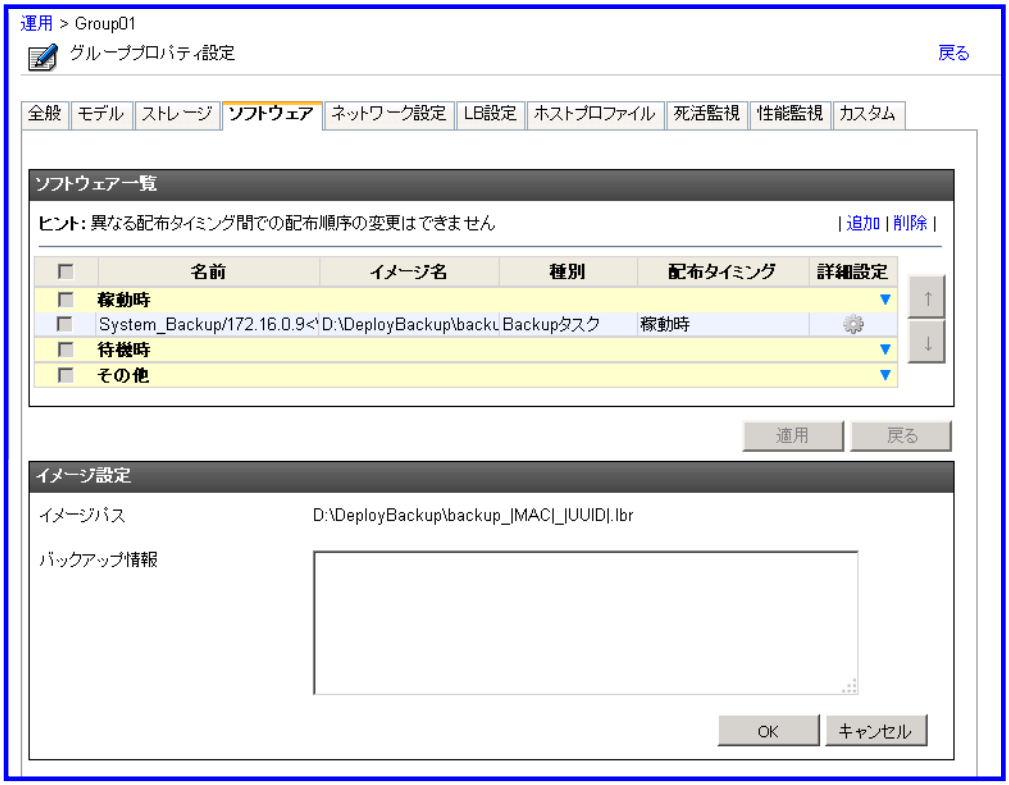
<ファイル詳細設定の場合>



ファイル詳細設定	
配信先フォルダ	配信先フォルダを指定します。[配信先フォルダ] テキストボックスに何も入力されていない場合は、[ファイル詳細設定] の設定内容は保存されません。
配信後に実行する	ファイルを配信して実行する場合にチェックボックスをオンにします。VMwareの仮想マシンに配信する場合のみ有効です。
Windows	配信先がWindowsでファイルにアクセス許可を設定する場合にチェックボックスをオンにします。
ユーザまたはグループ	配信するファイルのアクセス許可を設定するユーザ、またはグループ名を入力します。
フルコントロール	配信するファイルにフルコントロールのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンににします。フルコントロールのチェックボックスをオンにすると変更、読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
変更	配信するファイルに変更のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。変更のチェックボックスをオンにすると読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
読み取りと実行	配信するファイルに読み取りと実行のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。読み取りと実行のチェックボックスをオンにすると読み取りにもチェックが入ります。
読み取り	配信するファイルに読み取りのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
書き込み	配信するファイルに書き込みのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
Linux	配信先がLinuxでファイルや配信先のディレクトリのパーミッションを指定する場合にチェックボックスをオンにします。
ディレクトリパーミッション ※配信先フォルダのディレクトリのパーミッションを指定します (ディレクトリが既に存在する場合は、パーミッションは変更されません)。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
ファイルパーミッション ※配信するファイルのパーミッションを指定します。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。

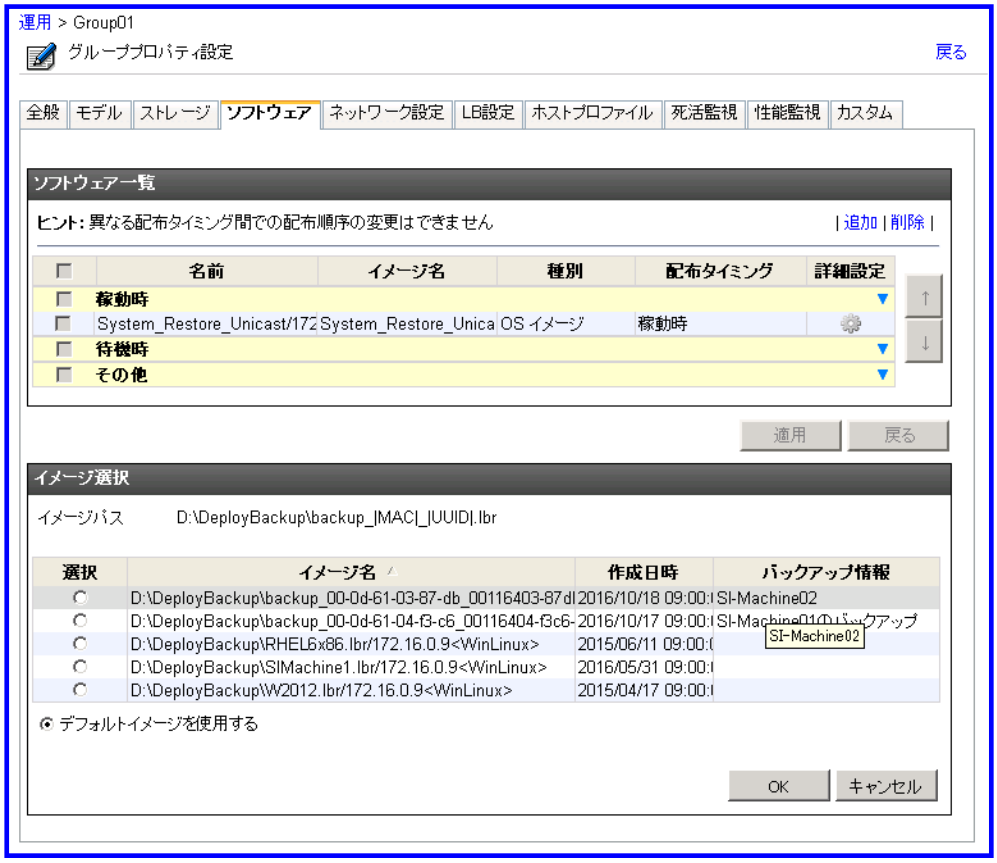
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
[OK]	ファイルの詳細設定を保存し、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	ファイルの詳細設定を保存せずに、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。

<バックアップの場合>



イメージ設定	
イメージパス	バックアップのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

<リストアの場合>

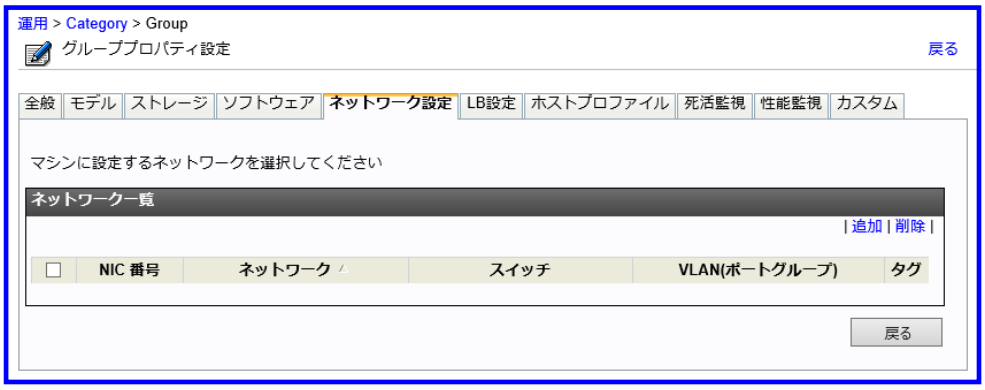


イメージ選択	
イメージパス	リストアのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオに設定されているイメージを選択する場合は、「デフォルトイメージを使用する」を選択します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
[OK]	イメージ選択情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ選択情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

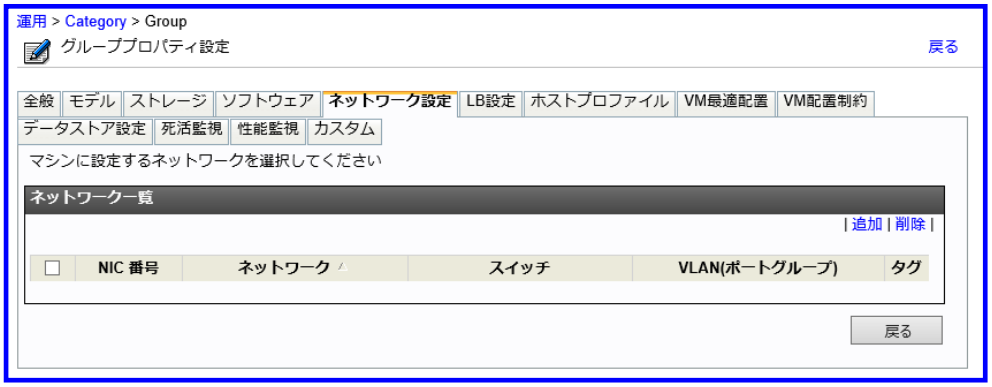
4.11.5. [ネットワーク設定] タブ (マシン種別が [物理]、[VM サーバ] の場合)

ネットワークに関する情報の表示、設定を行います。

<マシン種別が [物理] の場合>



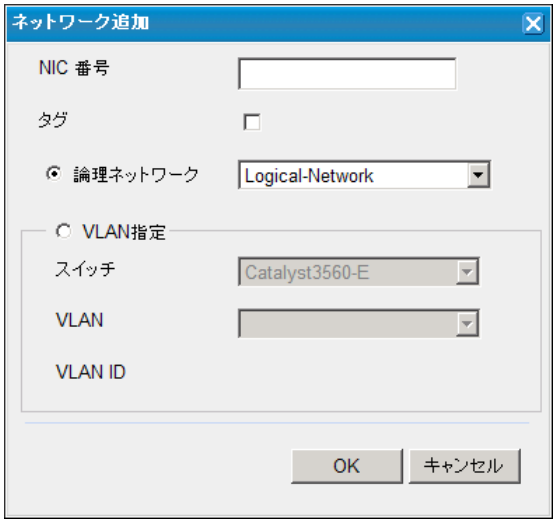
<マシン種別が [VM サーバ] の場合>



ネットワーク設定		
	ネットワーク一覧	
	NIC 番号	NIC番号を表示します。NIC番号を複数設定している場合は、(,) で分割します。
	ネットワーク	ネットワーク名を表示します。
	スイッチ	スイッチ名を表示します。ネットワークを選択している場合は、表示されません。
	VLAN(ポートグループ)	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。
	タグ	タグ情報が設定されている場合、チェックが表示されます。
	追加	ネットワークを追加します。「ネットワーク追加」ダイアログボックスが表示されます。

	削除	チェックボックスを選択したネットワークを削除します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。

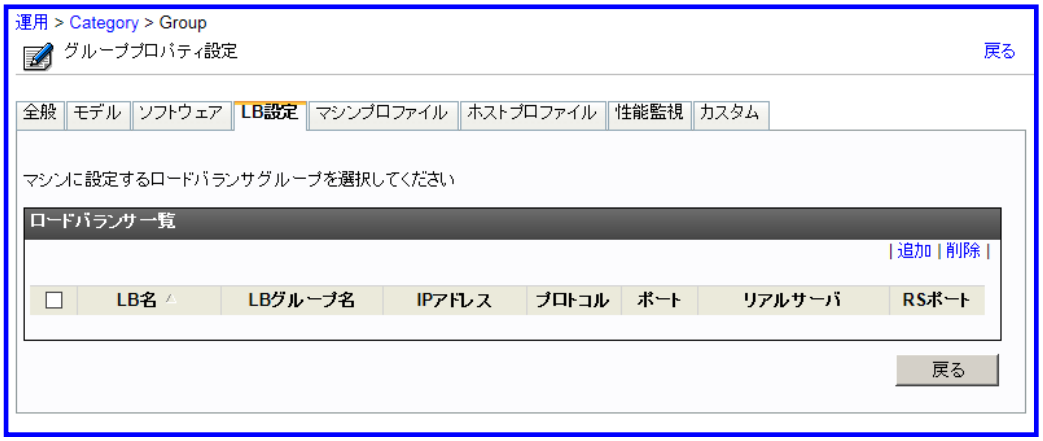
[追加] をクリックすると、「ネットワーク追加」ダイアログボックスが表示されます。



ネットワーク追加		
	NIC 番号	ネットワークを設定するポートを特定するためのNIC番号を入力します。NIC番号を複数設定する場合は、(,) で分割します。
	タグ	ネットワークにタグを設定する場合、チェックボックスをオンにします。
	論理ネットワーク	論理ネットワークを選択する場合、ラジオボタンをオンにし、プルダウンボックスから接続するネットワークを選択します。
	VLAN 指定	
		スイッチ VLAN指定を選択する場合ラジオボタンをオンにし、プルダウンボックスからスイッチを選択します。[VLAN指定] が選択された場合のみ選択できます。
		VLAN VLANを選択します。[VLAN指定] が選択された場合のみ選択できます。
		VLAN ID 選択したVLANのVLAN IDを表示します。
[OK]		ネットワーク追加情報を保存し、[ネットワーク一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]		ネットワーク追加情報を保存せずに、「ネットワーク追加」ダイアログボックスを閉じます。

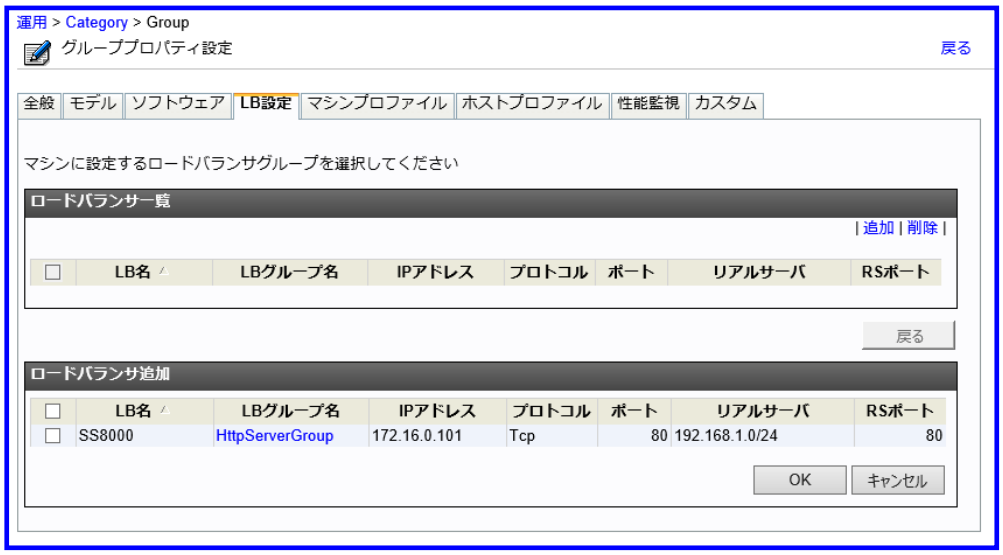
4.11.6. [LB 設定] タブ

ロードバランサに関する情報の表示、設定を行います。



LB 設定		
	ロードバランサ一覧	
	LB 名	ロードバランサ名を表示します。
	LB グループ名	ロードバランサグループを表示します。
	IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。
	プロトコル	ロードバランサが使用するプロトコルを表示します。
	ポート	ロードバランサのポート番号を表示します。
	リアルサーバ	リアルサーバのネットワークアドレスを表示します。
	RS ポート	リアルサーバのポート番号を表示します。
	追加	ロードバランサを追加します。[ロードバランサ一覧] グループボックスの下部に、[ロードバランサ追加] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したロードバランサを削除します。
	[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[ロードバランサ一覧] グループボックス下部に [ロードバランサ追加] グループボックスが表示されます。



ロードバランサ追加	
LB 名	NetvisorProから収集されたロードバランサ名を表示します。
LB グループ名	ロードバランサグループを表示します。
IP アドレス	ロードバランサのIPアドレスを表示します。
プロトコル	ロードバランサが使用するプロトコルを表示します。
ポート	ロードバランサのポート番号を表示します。
リアルサーバ	リアルサーバのネットワークアドレスを表示します。
RS ポート	リアルサーバのポート番号を表示します。
[OK]	チェックボックスを選択したロードバランサを追加し、[ロードバランサ一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ロードバランサ追加情報を保存せずに、[ロードバランサ追加] グループボックスを閉じます。

4.11.7. [マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合のみ)

グループのマシンプロファイルを設定します。

マシンプロファイルとは、新規に作成する仮想マシンや再構成する仮想マシンのハードウェアスペックを指定する設定です。新規リソース割り当て、または再構成の操作を実行したとき、マシンプロファイルで設定したハードウェアスペックを持つ仮想マシンが作成されます。

管理対象マシンが、仮想マシン以外の場合、マシンプロファイルの設定は必要ありません。

マシン種別が [VM] の場合に、[マシンプロファイル] タブが表示されます。

マシンプロファイルの設定は、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定の [マシンプロファイル] タブで行うことができます。各階層間の関係は、グループ < モデル < ホストの定義で優先されるようになっています。グループ配下のモデルやホストで個別に設定していない場合は、グループプロパティ設定のマシンプロファイルの設定が使用されます。

[リソース] ビューで作成したマシンプロファイル設定を適用する、または引用して一部を変更し、設定を行うこともできます。

グループプロパティ設定のマシンプロファイルの既定値は、テンプレートの設定値となります。また、グループにモデルが追加されている場合、[モデル] プルダウンボックスが表示されます。モデルを指定すると、指定モデルの設定を既定値として引用することができます。

運用 > vm-group01

グループプロパティ設定　　戻る

全般 | モデル | ソフトウェア | LB設定 | マシンプロファイル | ホストプロファイル | 性能監視 | カスタム

モデル

☐ 公開されたプロファイルを利用する　Large

既存のプロファイルからコピーする

☐ コスト情報

定義場所

コスト値

☐ CPU情報

定義場所

CPU数

CPUシェア

- 最高(4000)
- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 最低(250)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値 * CPU数
Xen	設定値 * 256 / 1000
Hyper-V	設定値 / 10
KVM	設定値 * 1024 / 1000

CPU予約　0 MHz

CPUリミット(0=unlimited)　0 MHz

☐ メモリ情報

定義場所

メモリサイズ　MB

メモリシェア

- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値 * メモリサイズ / 100
Xen	設定不可
Hyper-V	設定値 * 5
KVM	設定不可

メモリ予約　0 MB

メモリリミット(0=unlimited)　0 MB

☐ ネットワーク情報

定義場所

仮想NIC #1　設定なし

[仮想NIC追加]

ディスク情報

☐ システムディスク

定義場所

作成先データストア(省略可)　設定なし

ディスクファイル　新規に作成する / 既存のディスクを使用する　参照

タイプ　Thin

モード　☐ 独立型　ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ　MB

☐ 拡張ディスク

定義場所

拡張ディスク #1 | +

[キャンセル]

作成先データストア(省略可)　設定なし

ディスクファイル　新規に作成する / 既存のディスクを使用する　参照

タイプ　Thin

モード　☐ 独立型　ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ　MB

コントローラ　自動選択

ディスク番号　自動選択

☐ 構成パラメータ設定

定義場所

ヒント: 仮想基盤製品ごとに固有の機能を設定できます。

パラメータの設定

適用　戻る

マシンプロファイル	
モデル	モデルを選択します。 モデルを選択した場合、選択したモデルに設定されているマシンプロファイル情報と組み合わせた情報が表示されます。 仮想マシンが選択したモデルで稼動する場合に利用される情報を参照したい場合や、モデルに設定した情報をグループ共通情報に設定する場合に使用します。 グループにモデルが追加されている場合に表示されます。
公開されたプロファイルを利用する	公開されているマシンプロファイルをそのまま利用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
既存のプロファイルからコピーする	公開されているマシンプロファイルをコピーして利用する場合にクリックし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
コスト情報	仮想マシンのコストを設定します。
定義場所	コスト情報の設定がある定義場所を表示します。
コスト値	コスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	仮想マシンに割り当てるCPU数やCPUの能力を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	CPU情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Named プロファイル)。
CPU 数	CPU数を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。
CPU シェア	
最高 (4000)	CPUリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * CPU数 Hyper-V： 設定値 / 10 XenServer： 設定値 * 256 / 1000 KVM： 設定値 * 1024 / 1000
高 (2000)	
標準 (1000)	
低 (500)	
最低 (250)	
手動で設定する	CPUリソースの割当優先度を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	CPU予約を入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 = 設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストク

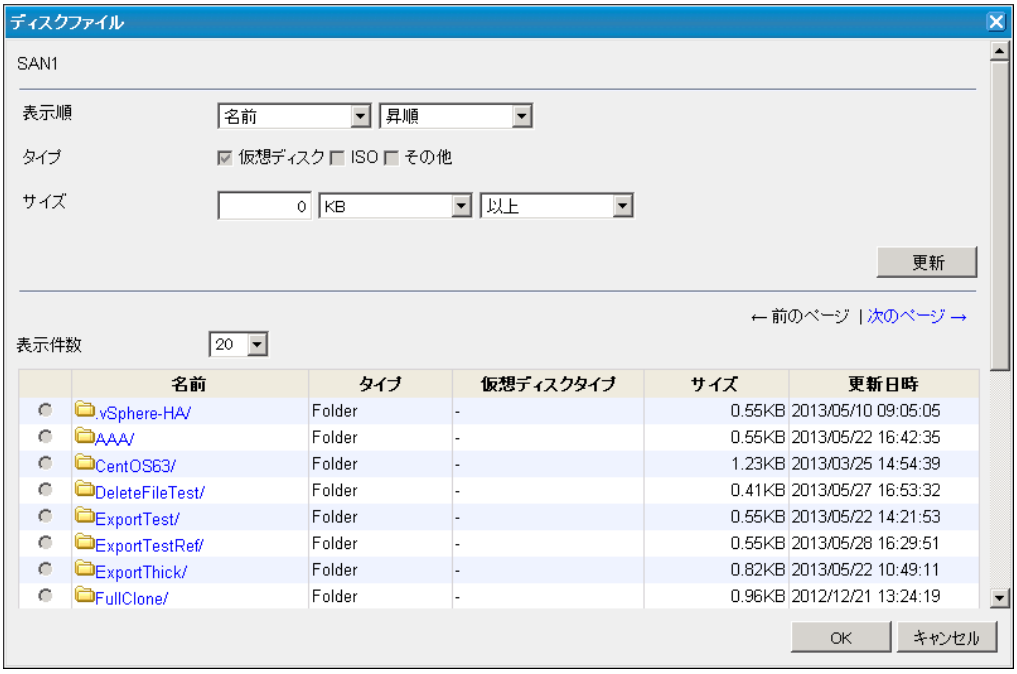
				ロック値 (MHz)
	メモリ情報			仮想マシンに割り当てるメモリの設定を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
		定義場所		メモリ情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Named プロファイル)。
		メモリサイズ		メモリサイズを入力します。「1～99999999」の範囲で設定できます。
		メモリシェア		
			高 (2000)	メモリリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V： 設定値 * 5 XenServer, KVM ： 設定不可
			標準 (1000)	
			低 (500)	
			手動で設定する	メモリリソースの割当優先度を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
		メモリ予約		仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。
		メモリリミット (0=unlimited)		仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
	ネットワーク情報			仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
		定義場所		ネットワーク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Namedプロファイル)。
		仮想 NIC #1		仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANか、[リソース] ビューで作成するネットワークを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」： 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」： 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。

			NetworkName-VLAN:*VlanId* *NetworkName* ： 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN:： 固定文字列です。 *VlanId*： 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」： 接続先のネットワークの名前を設定します。
		[仮想 NIC 追加]	マシンプロファイルの仮想NIC設定を追加する場合にクリックします。最大10まで仮想NIC設定を追加することができます。
	ディスク情報		
		システムディスク	仮想マシンのOSインストール先となるディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
		定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル)。
		作成先データストア (省略可)	作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
		ディスクファイル	
		新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
		既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
		参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
		タイプ	Thick / Thinのどちらかを選択します。Hyper-VのDifferential Cloneでは、設定は無効となります。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。 「Thick」： 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」： ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 Xen環境では、設定は反映されません。
		モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。
		サイズ	システムディスクサイズを入力します。タイプが、「Thick」、「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。
		拡張ディスク	データ用のディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。

定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (グループ、モデル)。
作成先データストア (省略可)	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
ディスクファイル	
新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
タイプ	Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想) のいずれかを選択します。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。 「Thick」: 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。Xen環境では、設定は反映されません。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。Xen環境では、設定は変更されません。 「RDM (物理)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。
サイズ	拡張ディスクサイズを入力します。タイプが「Thick」、「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。 既存のディスクを使用する場合は指定できません。 タイプが「RDM (物理)」、「RDM (仮想)」の場合は、使用するLUN (ディスクボリューム) の条件を10GBの倍数で指定します。指定サイズ以上で指定サイズ + 10GB未満のサイズのLUNが候補となります。10GB未満は対象になりません。
コントローラ	作成するディスクの追加先となるコントローラを選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に使用可能なコントローラをSigmaSystemCenterが選択します。
ディスク番号	作成するディスクの追加先となるコントローラ内の番号を選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に未使用の番号をSigmaSystemCenterが選択します。

ターゲット LUN (タグ指定、省略可)	タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に、使用するLUN (ディスクボリューム) に設定したタグ (キーワード) を入力します。タグの指定は省略できます。省略した場合は、サイズを元に使用するLUN (ディスクボリューム) が自動的に選択されます。
構成パラメータ設定	構成パラメータ設定の定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	構成パラメータ設定がある定義場所を表示します。
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[適用]	マシンプロファイル設定情報を適用します。
[戻る]	マシンプロファイル設定情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

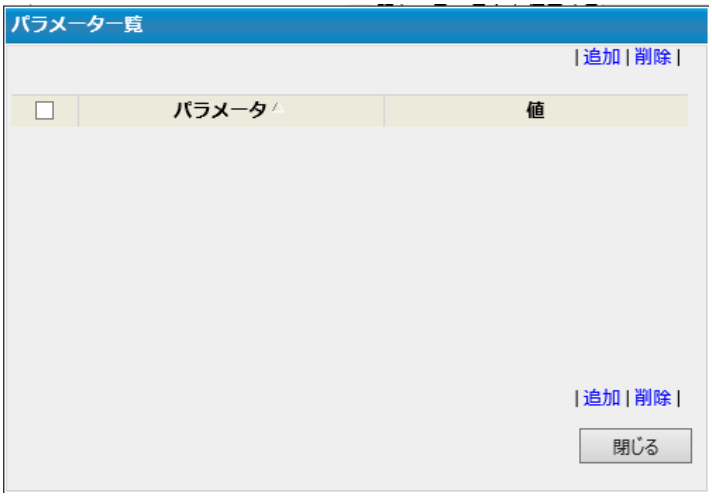
[ディスク情報] グループボックス内の [拡張ディスク] タブの [参照] をクリックすると、「ディスクファイル」ダイアログボックスが表示されます。



ディスクファイル	
表示順	ファイルフォルダの表示する順番を指定します。
タイプ	ファイルは、仮想ディスクのみ表示されます。
サイズ	表示するファイルのサイズを指定します。
[更新]	フォルダ / ファイルの表示を更新します。

	名前	フォルダ / ファイルの名前を表示します。
	タイプ	フォルダ / ファイルのタイプを表示します。
	仮想ディスクタイプ	仮想ディスクの場合、ディスクのタイプを表示します。
	サイズ	フォルダ / ファイルのサイズを表示します。
	更新日時	フォルダ / ファイルの更新日時を表示します。
[OK]		ディスクファイル情報を保存し、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]		ディスクファイル情報を保存せずに、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。

[構成パラメータ設定] チェックボックスをオンにし、[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。



パラメーター覧	
パラメータ	設定対象の項目を示すパラメータ名が表示されます。
値	パラメータに対応する値が表示されます。
追加	新規にパラメータと値を入力するための行を追加します。
削除	既存のパラメータと値が入力されている行を削除します。
[閉じる]	表示されているパラメータと値を保存し、「パラメーター覧」ダイアログボックスを閉じます。

4.11.8. [ホストプロファイル] タブ (Windows Server の場合)

ホスト設定プロファイル (Windows Server の場合) に関する情報の表示、設定を行います。

ホストプロファイル	
OS 種別	OSの種類を表示し、変更することができます。
公開されたプロファイルを利用する	公開されているホストプロファイル設定をそのまま使用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
既存のプロファイルからコピーする	公開されているホストプロファイル設定をコピーする場合にクリックし、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
OS 設定 ※1	
定義場所	OS設定情報の設定がある定義場所を表示します。(テンプレート、グループ、ホスト、Named プロファイル)

		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。OS名の設定により、DeploymentManagerによる固有情報反映でマスタマシンのパラメータファイルを用意する必要がなくなります。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
		アカウント	アカウント名を表示します。
		パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
		グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
		ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
		制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
		編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを使用する場合、プルダウンボックスからSysprep応答ファイルを選択します。Sysprep応答ファイルは、*(PVMインストールフォルダ)*:¥conf¥oscustomにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。DeploymentManagerによる固有情報反映ではXML形式のみ使用できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	プルダウンボックスから使用するタイムゾーンを選択します。DeploymentManagerによる固有情報反映ではSysprep応答ファイルを使用する場合のみ反映されます。
		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は、半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。

ライセンスモード	[同時接続ユーザ数]、もしくは [接続クライアント数] から選択します。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。DeploymentManagerによる固有情報反映では使用しません。
ワークグループ設定	ワークグループ、もしくはドメインを選択します。
ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] でワークグループを選択した場合はワークグループ名、ドメインを選択した場合はドメイン名を入力します。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
ドメインアカウント	ドメインアカウントを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
ドメインパスワード	ドメインパスワードを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
パスワード更新	ドメインパスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。

DNS / WINS 設定

定義場所	DNS / WINSの設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)

NIC 一覧

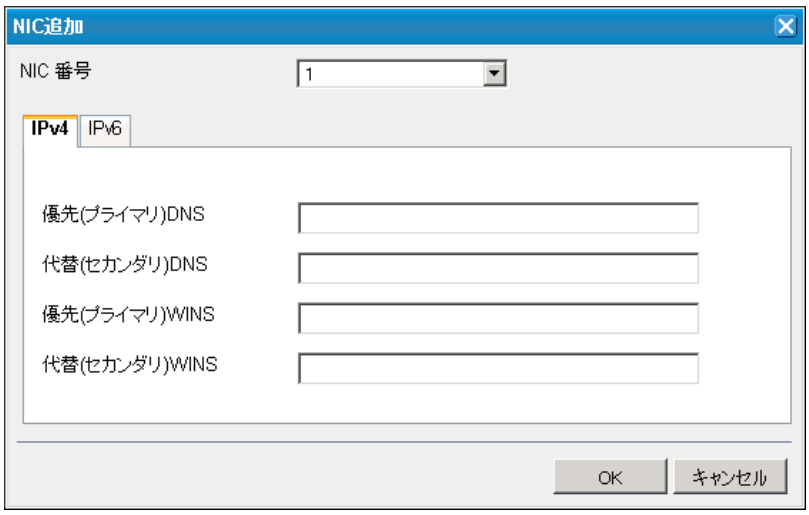
NIC 番号	NIC番号を表示します。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示します。
編集	選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
追加	NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
削除	チェックボックスを選択したNICを削除します。

拡張設定

	定義場所	拡張設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)
	コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
起動時実行サービス設定		
	定義場所	起動時実行サービス設定がある定義場所を表示します (グループ、ホスト、Named プロファイル)。
	サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[適用]		グループプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		グループプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

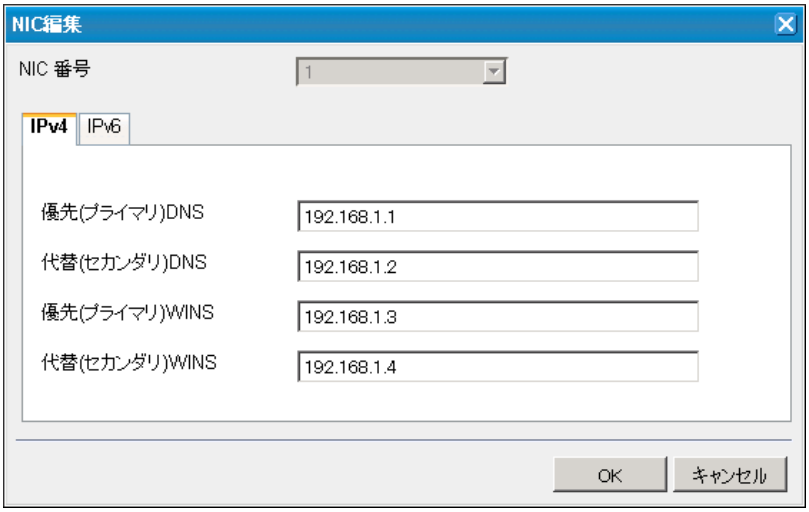
[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 追加		
	NIC 番号	NIC番号を選択します。
	優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
	優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
	代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]		NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC 一覧] グループボックスから編集する NIC の [編集] をクリックすると、「NIC 編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.11.9. [ホストプロファイル] タブ (Linux の場合)

ホストプロファイル (Linux の場合) に関する情報の表示、設定を行います。

ホストプロファイル	
OS 種別	OSの種類を選択し、変更することができます。
公開されたプロファイルを利用する	公開されているホストプロファイル設定をそのまま使用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからホストファイルを選択します。

	既存のプロファイルからコピーする		公開されているホストプロファイル設定をコピーして使用する場合、クリックし、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
	OS 設定 ※1		
		定義場所	OS設定情報の設定がある定義場所を表示します。(テンプレート、グループ、ホスト、Named プロファイル)
		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。固有情報反映の処理では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
			アカウント アカウント名を表示します。
			パスワード アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
			グループ アカウントが所属するグループを表示します。
			ビルトイン管理者 管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
			制御用 制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
			編集 選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		ドメインサフィックス	ドメインサフィックスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
		ライセンス	ライセンスキーを入力します。マシン種別が [VMサーバ] の場合に表示されます。(xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx-xxxxx) 形式で入力できます。
	DNS / WINS 設定		
		定義場所	DNS / WINSの設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)
			優先 (プライマリ) DNS 優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。
			代替 (セカンダリ) DNS 代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。
			ターシャリ DNS ターシャリDNSのIPアドレスを入力します。
	拡張設定		
		定義場所	拡張設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。

起動時実行サービス設定		
	定義場所	起動時実行サービス設定がある定義場所を表示します (グループ、ホスト、Named プロファイル)。
	サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[適用]		グループプロパティ設定を適用します。
[戻る]		グループプロパティ設定を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

4.11.10. [ホストプロファイル] タブ (Windows Client の場合)

ホスト設定プロファイル (Windows Client の場合) に関する情報の表示、設定を行います。

ホストプロファイル	
OS 種別	OSの種類を表示し、変更することができます。
公開されたプロファイルを利用する	公開されているホストプロファイル設定をそのまま使用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
既存のプロファイルからコピーする	公開されているホストプロファイル設定をコピーする場合にクリックし、プルダウンボックスからホストプロファイルを選択します。
OS 設定 ※1	
定義場所	OS設定情報の設定がある定義場所を表示します。(テンプレート、グループ、ホスト、Named プロファイル)

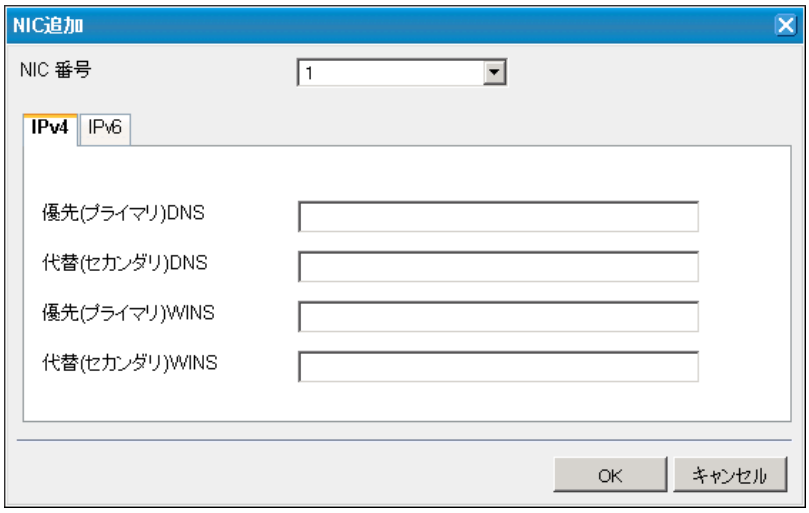
		OS 名	プルダウンボックスからOSの種類を選択します。OS名の設定により、DeploymentManagerによる固有情報反映でマスタマシンのパラメータファイルを用意する必要がなくなります。vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		ローカルアカウント設定	
		アカウント	アカウント名を表示します。
		パスワード	アカウントのパスワードを表示します。 パスワードが設定されている場合、"******" を表示します。 設定されていない場合、何も表示されません。
		グループ	アカウントが所属するグループを表示します。
		ビルトイン管理者	管理者アカウントの場合、チェックが表示されます。
		制御用	制御用アカウントの場合、チェックが表示されます。
		編集	選択したアカウントの編集を行います。「アカウント編集」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント編集」ダイアログボックスについては、「3.41.2 ホストプロファイル編集」を参照してください。
		アカウント追加	アカウントの追加を行います。「アカウント追加」ダイアログボックスが表示されます。「アカウント追加」ダイアログボックスについては、「3.41.1 ホストプロファイル追加」を参照してください。
		アカウント削除	選択したアカウントを削除します。
		Sysprep 応答ファイル	Sysprep応答ファイルを使用する場合、プルダウンボックスからSysprep応答ファイルを選択します。Sysprep応答ファイルは、*(PVMインストールフォルダ)*:¥conf¥oscustomにある、*.xml,*.infが指定できます。本指定がされている場合はSysprep応答ファイルの設定が優先されますが、Sysprep応答ファイル内にTagを設定することでホストプロファイルの設定が反映できます。DeploymentManagerによる固有情報反映ではXML形式のみ使用できます。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は英数字、空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = +
		タイムゾーン	プルダウンボックスから使用するタイムゾーンを選択します。DeploymentManagerによる固有情報反映ではSysprep応答ファイルを使用する場合のみ反映されます。
		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は、半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。
		ワークグループ設定	ワークグループ、もしくはドメインを選択します。

		ワークグループ (ドメイン名)	[ワークグループ設定] でワークグループを選択した場合はワークグループ名、ドメインを選択した場合はドメイン名を入力します。 ワークグループ名の入力できる文字数は15文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , : ; < = > ? ¥ | ドメイン名の入力できる文字数は155文字以内です。半角空白、および以下の記号は使用できません。 " * , / : ; < > ? [¥] |
		ドメインアカウント	ドメインアカウントを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。入力できる文字数は255文字以内です。以下の記号は使用できません。 " * + , / : ; < = > ? [¥] |
		ドメインパスワード	ドメインパスワードを入力します。[ワークグループ設定] がドメインの場合に有効です。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、ドメインパスワードを入力できます。入力できる文字数は256文字以内です。以下の記号は利用できません。 " ,
		パスワード更新	ドメインパスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオンにすると、[ドメインパスワード] テキストボックスが入力できます。
	DNS / WINS 設定		
		定義場所	DNS / WINSの設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)
		NIC 一覧	
			NIC 番号 / NIC番号を表示します。
			優先 (プライマリ) DNS / 優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示します。
			代替 (セカンダリ) DNS / 代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示します。
			優先 (プライマリ) WINS / 優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示します。
			代替 (セカンダリ) WINS / 代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示します。
			編集 / 選択したNICの編集を行います。「NIC編集」ウィンドウに遷移します。
			追加 / NICを追加します。「NIC追加」ウィンドウに遷移します。
			削除 / チェックボックスを選択したNICを削除します。
	拡張設定		
		定義場所	拡張設定がある定義場所を表示します。(グループ、ホスト、Named プロファイル)
		コマンド	仮想マシンにログインする際に一度だけ実行するRunOnceコマンドを指定します。
	起動時実行サービス設定		
		定義場所	起動時実行サービス設定がある定義場所を表示します (グループ、ホスト、Named プリファイル)。

	サービス名	マシンの起動時に起動を待つサービスの名前を入力します。
[適用]		グループプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		グループプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

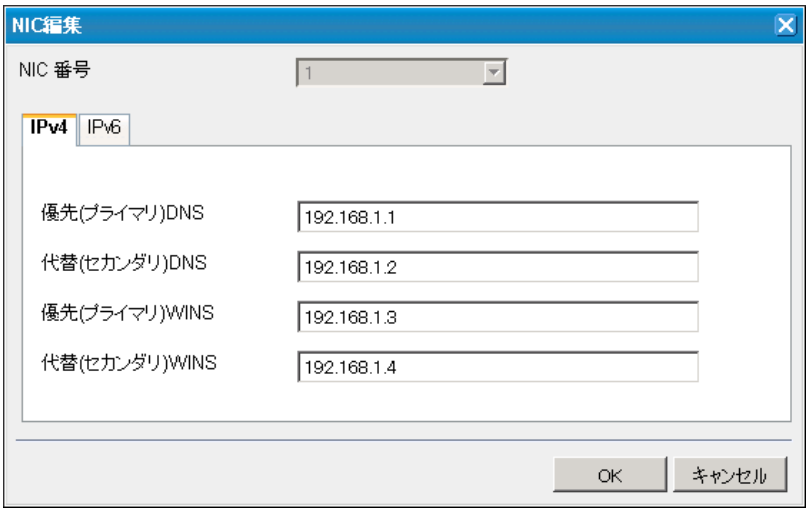
※1 DeploymentManagerによる固有情報反映をする場合は、「DeploymentManagerリファレンスガイド ツール編」の「1.4. セットアップパラメータファイルの作成」を参照してください。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「NIC 追加」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 追加	
NIC 番号	NIC番号を選択します。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを入力します。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを入力します。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを入力します。
[OK]	NIC追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC 一覧] グループボックスから編集する NIC の [編集] をクリックすると、「NIC 編集」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 編集	
NIC 番号	NIC番号を表示します。編集はできません。
優先 (プライマリ) DNS	優先 (プライマリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
代替 (セカンダリ) DNS	代替 (セカンダリ) DNSのIPアドレスを表示し、編集もできます。OS配布後、ドメインに参加する場合は入力必須です。
優先 (プライマリ) WINS	優先 (プライマリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
代替 (セカンダリ) WINS	代替 (セカンダリ) WINSのIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	NIC情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.11.11. [VM 最適配置] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)

仮想マシンサーバの VM 最適配置に関する情報を表示、設定します。

モデルに割り当てた仮想マシンサーバは、モデルの設定に従います。

マシン種別が [VM サーバ] の場合に、[VM 最適配置] タブが表示されます。

VM 最適配置	
高負荷境界	仮想マシンサーバの高負荷境界 (%) を入力します。整数のみ入力できます。既定値は (60) です。SystemMonitor性能監視による負荷監視において、仮想マシンサーバが高負荷状態かどうかを判断するための境界値として使用されます。
稼動目標域	仮想マシンサーバの負荷の目標の範囲 (%～%) を入力します。整数のみ入力できます。既定値は (10～50) です。負荷分散 / 省電力機能では、仮想マシンサーバのCPU負荷が稼動目標域の範囲内となるように仮想マシンを配置します。 仮想マシンの最適起動が有効になっている場合は、稼動目標域の上限を超過しないことが見込まれる仮想マシンサーバ上で仮想マシンが起動されます。 状況によっては、稼動目標域の範囲外となる場合もあります。
低負荷境界	仮想マシンサーバの低負荷境界 (%) を入力します。整数のみ入力できます。既定値は (5) です。SystemMonitor性能監視による負荷監視において、仮想マシンサーバが低負荷状態かどうかを判断するための境界値として使用されます。
SystemMonitor 性能監視から高負荷・低負荷イベントを受信する	SystemMonitor性能監視から上記の高負荷 / 低負荷境界に基づいて高負荷 / 低負荷イベントを受信する場合、チェックボックスをオンにします。 この設定を有効にすることにより、SystemMonitor性能監視による負荷監視において、仮想マシンサーバのCPU負荷が高負荷境界を上回った場合に高負荷イベントが、低負荷境界を下回った場合に低負荷イベントが通知されるようになります。 負荷分散 / 省電力機能を利用するためには、SystemMonitor性能監視による負荷監視を有効にしたうえ

		で、本設定により高負荷 / 低負荷イベントの通知を有効にし、さらに、通知された高負荷 / 低負荷イベントに対して負荷分散 / 省電力機能を実行するようにポリシー設定を行う必要があります。
	負荷の変動に対応するため、停止せずに待機する予備マシンの台数 (省電力)	省電力機能を利用する場合、停止せずに待機する予備マシン (仮想マシンサーバ) の台数を設定します。 予備マシンを設定することにより、仮想マシンサーバの負荷上昇時・障害発生時などに仮想マシンを素早く移動することができるようになります。(1以上を推奨)
	VM 起動時に VM サーバを自動選択する (最適起動)	仮想マシンの最適起動を有効にする場合、チェックボックスをオンにします。最適起動を有効にすることにより、仮想マシンの起動時に起動先として適切な仮想マシンサーバが自動的に選択されるようになります。
	VM 起動時の分散レベル (最適起動)	仮想マシンの最適起動における分散レベルを設定します。分散レベルの値が大きくなるほど、仮想マシンの起動時により負荷の低い仮想マシンサーバが起動先として優先的に選択されるようになります。
	[適用]	グループプロパティ設定情報を適用します。
	[戻る]	グループプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.11.12. [VM 配置制約] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)

仮想マシンサーバグループに対して、配置制約を有効にする設定を行います。

配置制約を有効にした場合、仮想マシンの起動 / 移動操作に対し、配置制約による制限が有効になります。

モデルに割り当てた仮想マシンサーバは、モデルの設定に従います。

マシン種別が [VM サーバ] の場合に、[VM 配置制約] タブが表示されます。

VM 配置制約		
	配置制約を有効にする	配置制約を有効にする場合、チェックボックスをオンにします。 配置制約を有効にすると、最適起動 / 最適配置において、制約一覧に設定された制約に従い、仮想マシンの起動 / 移動先が選択されます。
	制約一覧	
	VM	制約対象の仮想マシン / VM制約グループを表示します。
	VM サーバ	制約先の仮想マシンサーバを表示します。 Pin制約の場合のみ、表示されます。
	種別	制約の種別を表示します。
	優先度	制約の優先度を表示します。
	オプション	制約のオプションを表示します。 オプションが指定されていない場合、空欄となります。
	編集	制約の編集を行います。 メインウィンドウに「配置制約の編集」が表示されます。 Pin制約のみ、編集することができます。それ以降の制約は、編集することができません。
	追加	制約の追加を行います。 メインウィンドウに「配置制約の追加」が表示されます。
	削除	チェックボックスを選択した制約を削除します。
	VM 制約グループ一覧	
	名前	VM制約グループの名前を表示します。
	EQ	VM制約グループにEQ制約が設定されているかどうかを表示します。
	NE	VM制約グループにNE制約が設定されているかどうかを表示します。
	Hold	VM制約グループにHold制約が設定されているかどうかを表示します。
	編集	VM制約グループの編集を行います。 メインウィンドウに「VM制約グループの編集」が表示されます。
	追加	VM制約グループの追加を行います。 メインウィンドウに「VM制約グループの追加」が表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したVM制約グループを削除します。
	VM サーバ制約グループ一覧	
	名前	VMサーバ制約グループの名前を表示します。

	編集	VMサーバ制約グループの編集を行います。 メインウィンドウに「VMサーバ制約グループの編集」が表示されます。
	追加	VMサーバ制約グループの追加を行います。 メインウィンドウに「VMサーバ制約グループの追加」が表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したVMサーバ制約グループを削除します。
[戻る]		グループプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[制約一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「配置制約の追加」が表示されます。

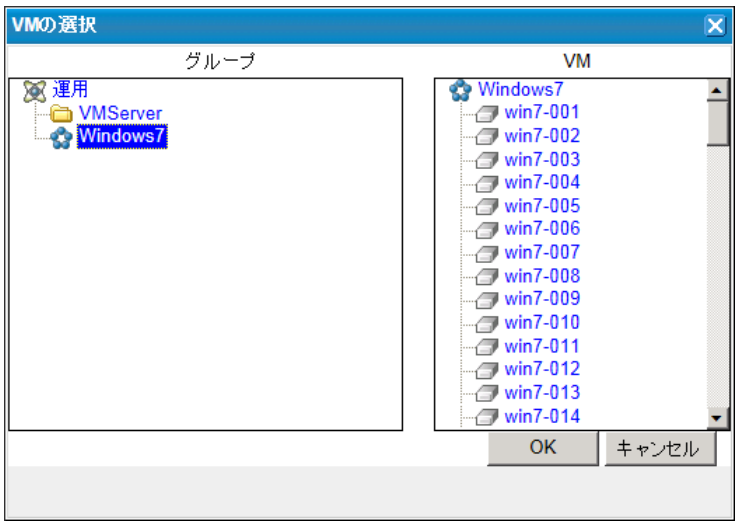
注： [種別] に "EQ"、"NE"、または "Hold" を選択した場合、[VM サーバ]、[オプション] チェックボックスおよび [優先度] プルダウンボックスは表示されません。

配置制約の追加	
種別	配置制約の種別を選択します。 Pin制約を設定する場合は、Pinを選択します。 EQ制約を設定する場合は、EQを選択します。 NE制約を設定する場合は、NEを選択します。 Hold制約を設定する場合は、Holdを選択します。
VM	配置制約の制約対象を選択します。 [VM] を選択した場合、仮想マシンに対する制約を設定します。[VM制約グループ] を選択した場合、VM制約グループに対する制約を設定します。
参照	[参照] をクリックすると、「VMの選択」、もしくは「VM制約グループの選択」ダイアログボックスが表示されます。

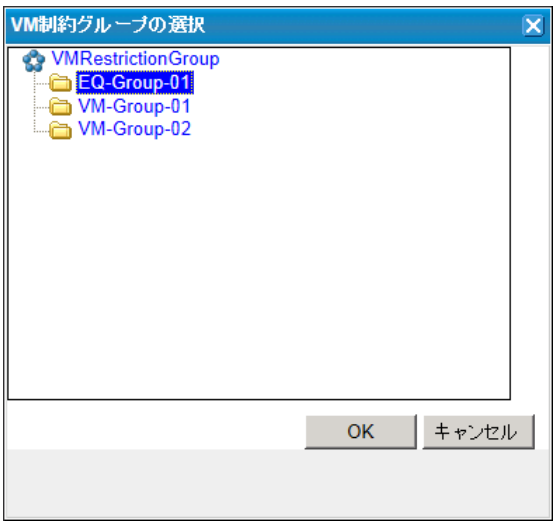
VM サーバ	配置制約の制約先を選択します。 [VMサーバ] を選択した場合、仮想マシンサーバを制約先に設定します。[VMサーバ制約グループ] 選択した場合、VMサーバ制約グループを制約先に設定します。
参照	[参照] をクリックすると、「VMサーバの選択」、もしくは「VMサーバ制約グループの選択」ダイアログボックスが表示されます。
オプション	配置制約のオプションを選択します。
優先度	「1～4」の範囲で選択し、値の小さいものが優先されます。 制約対象に複数のPin制約がある場合、優先度の高いものを優先的に利用します。
[OK]	選択した内容で配置制約を作成 / 更新します。
[キャンセル]	配置制約を作成 / 更新せずに、元のウィンドウに戻ります。

[VM] の [参照] をクリックすると、「VM の選択」、もしくは「VM 制約グループの選択」ダイアログボックスが表示されます。

<VM 参照の場合>

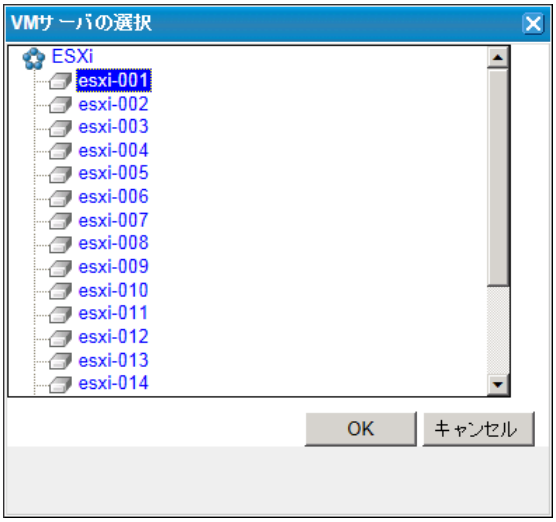


<VM 制約グループ参照の場合>

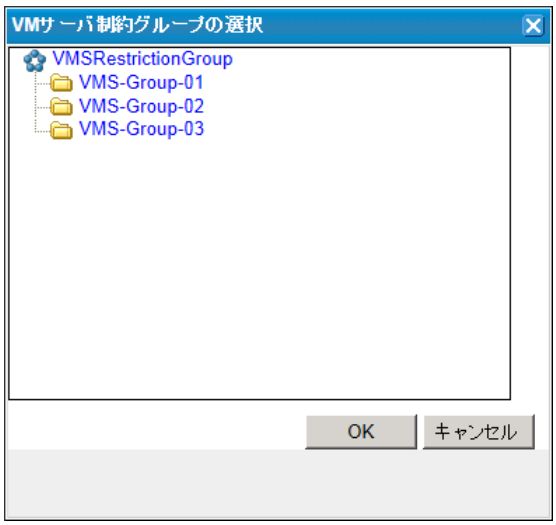


[VM サーバ] の [参照] をクリックすると、「VM サーバの選択」、もしくは「VM サーバ制約グループの選択」ダイアログボックスが表示されます。

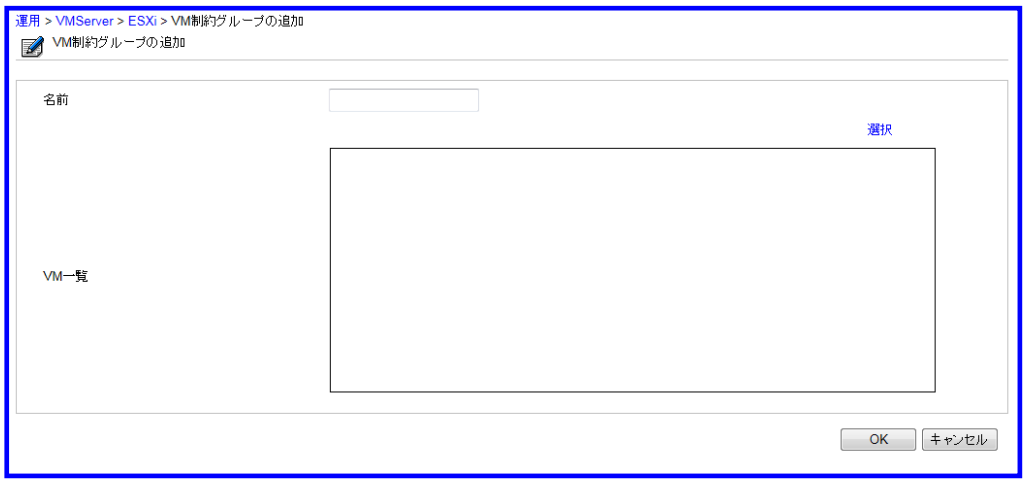
<VM サーバ参照の場合>



<VM サーバ制約グループ参照の場合>

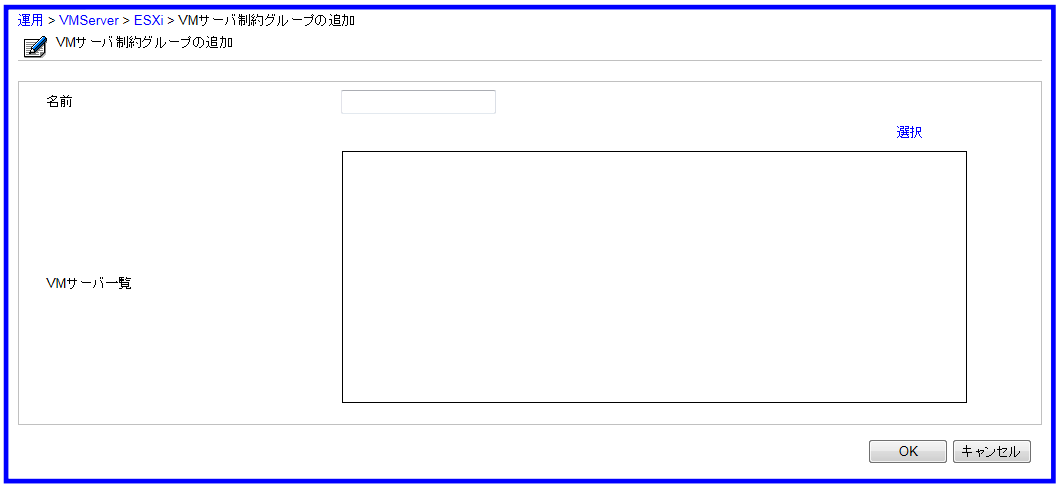


[VM 制約グループ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「VM 制約グループの追加」が表示されます。



VM 制約グループの追加	
名前	VM制約グループの名前を入力します。 他のグループに利用している名前は利用できません。
選択	[選択] をクリックすると、「VMの選択」ダイアログボックスが表示されます。VM制約グループに追加するホストを選択します。
VM 一覧	選択したホストの一覧を表示します。
[OK]	選択した内容でVM制約グループを作成します。
[キャンセル]	VM制約グループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

[VM サーバ制約グループ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「VM サーバ制約グループの追加」が表示されます。



VM サーバ制約グループの追加	
名前	VMサーバ制約グループの名前を入力します。 他のグループに利用している名前は利用できません。
選択	[選択] をクリックすると、「VMサーバの選択」ダイアログボックスが表示されます。VMサーバ制約グループに追加するホストを選択します。
VM サーバ一覧	選択したホストの一覧を表示します。
[OK]	選択した内容でVMサーバ制約グループを作成します。
[キャンセル]	VMサーバ制約グループを作成せずに、元のウィンドウに戻ります。

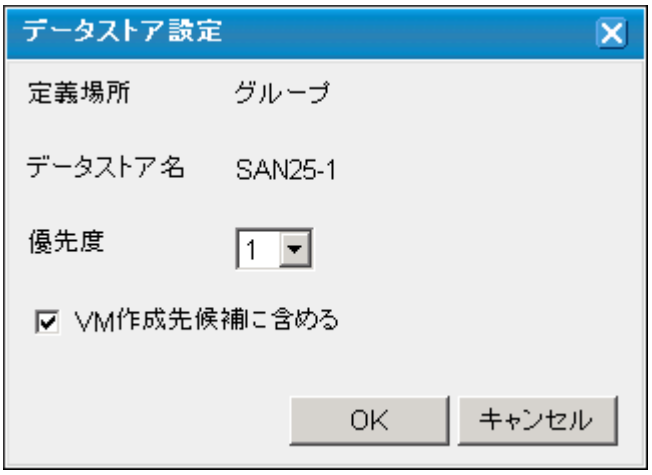
4.11.13. [データストア設定] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)

グループのデータストアに関する情報の表示、設定を行います。

データストア設定は、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定の [データストア設定] タブで行うことができます。各階層間の関係は、グループ < モデル < ホストの設定で優先されるようになっています。グループ / モデル / ホストのいずれの階層にも設定が存在しない場合は、既定値 (※1) が使用されます。

データストア設定		
	データストア一覧	
		データストア名	データストア名を表示します。
		サイズ (GB)	データストアのサイズを表示します。
		使用率 / 上限 (%)	データストアの使用率 / 上限を表示します。
		VM 数 / 上限	データストアに格納された稼動中のVM数 / 上限を表示しします。
		優先度	仮想マシン作成時のデータストアの優先度を表示します。仮想マシン作成時に作成先データストアを "自動選択" とする場合、優先度の高い (値の小さい) データストアが優先されます。
		VM 作成先	データストアを仮想マシン作成先の候補に含めるかどうかを表示します。作成先候補でないデータストア上に仮想マシンを作成することはできません。
		定義場所	データストア設定の定義場所を表示します (グループ / モデル / ホスト)。設定が存在しない場合は、"既定値" と表示されます。
		編集	データストア設定を編集します。「データストア設定」ダイアログボックスが表示されます。
		設定を破棄	選択したデータストア設定を破棄します。表示している階層で定義された設定のみ破棄することができます。
	[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

[編集] をクリックすると、「データストア設定」ダイアログボックスが表示されます。



データストア設定	
定義場所	データストア設定の定義場所を表示します。
データストア名	データストア名を表示します。
優先度	VM作成時のデータストアの優先度を選択します。「1～10」の範囲で設定できます。
VM 作成先候補に含める	データストアを仮想マシン作成先の候補に含める場合、チェックボックスをオンにします。
[OK]	データストア設定を保存します。
[キャンセル]	データストア設定を保存せずに、「データストア設定」ダイアログボックスを閉じます。

(※1)

データストア設定の既定値は以下の通りです。

データストアがシステムディスク (例: Windows Server の C ドライブ) かどうかにより値が異なります。

- ◆ データストアがシステムディスクでない場合 ： 優先度 1、作成先候補 ： 含める
- ◆ データストアがシステムディスクである場合 ： 優先度 10、作成先候補 ： 含めない

4.11.14. [死活監視] タブ

SystemProvisioning から ESMPRO/ServerManager に登録されるマシンのサーバ状態監視間隔、サーバダウン検出リトライ回数を既定値から変更する場合、本設定を行います。また、ESMPRO/ServerManager による監視を行わない場合、SystemProvisioning が死活監視を行うこともできます。SystemProvisioning が行う監視項目は、Ping 監視、Port 監視、仮想化基盤監視です。

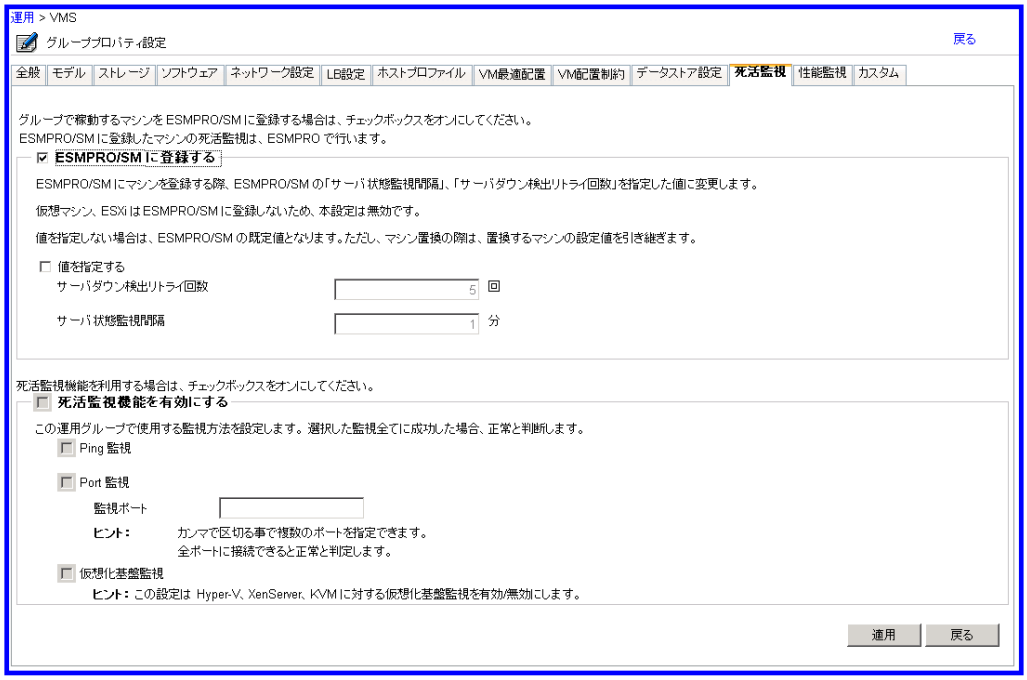
注:

・環境設定の [死活監視] タブの "監視対象モデル種別" で、[物理]、[VM サーバ] のチェックボックスがオンになっている場合、[運用] ビューのグループプロパティ設定で、マシン種別が "物理"、"VM サーバ" の場合、グループプロパティ設定に表示される [死活監視] タブは、[ESMPRO/SM に登録する]、[死活監視機能を有効にする] チェックボックス (SystemProvisioning の監視) 両方が表示されます。"監視対象モデル種別" で [物理]、[VM サーバ] チェックボックスがオフの場合、[ESMPRO/SM に登録する] チェックボックスのみが表示されます。

・環境設定の [死活監視] タブの "監視対象モデル種別" で、[VM] チェックボックスがオンになっている場合、[運用] ビューのグループプロパティ設定で、マシン種別が "VM" の場合、グループプロパティ設定に表示される [死活監視] タブは、[死活監視機能を有効にする] チェックボックス (SystemProvisioning の監視) の設定ができるようになります。"監視対象モデル種別" で [VM] チェックボックスがオフの場合は、[運用] ビューのグループプロパティ設定で [死活監視] タブは表示されません。

・[仮想化基盤監視] チェックボックスは、グループに設定されたマシン種別が [VM サーバ] の場合にのみ設定できます。

・設定を既定値に戻す場合は、[ESMPRO/SM に登録する] チェックボックス、[値を指定する] チェックボックス、または [死活監視機能を有効にする] チェックボックス、をオフにしてください。



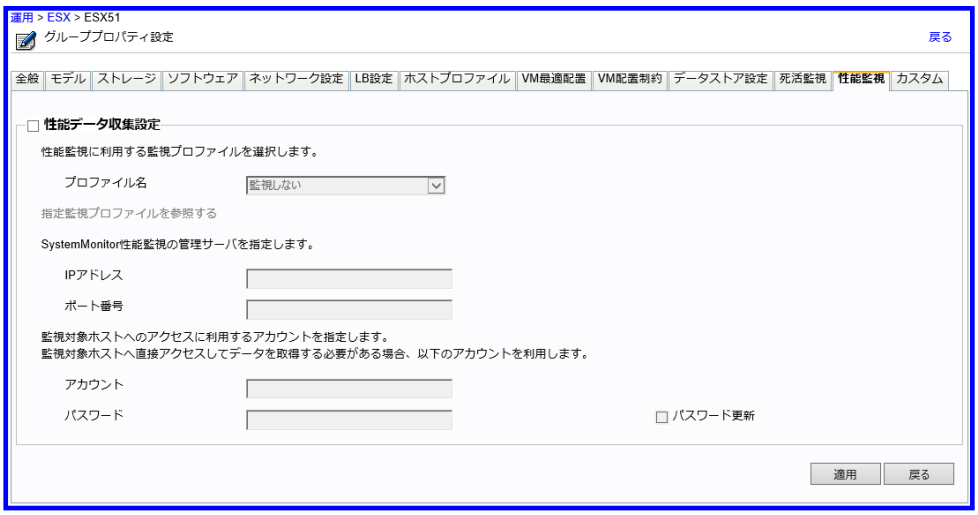
死活監視	
ESMPRO/SM に登録する	グループで稼動するマシンをESMPRO/ServerManagerに登録する場合、チェックボックスをオンにします。

	値を指定する	ESMPRO/ServerManagerに登録されるマシンのサーバ状態監視間隔、サーバダウン検出リトライ回数の設定を行う場合、チェックボックスをオンにします。チェックボックスをオフにしている場合は、設定は無効となります。
	サーバダウン検出リトライ回数	サーバダウン検出リトライ回数を入力します。既定値は (5) 回です。「0～100」の範囲で設定できます。
	サーバ状態監視間隔	サーバ状態監視間隔を入力します。既定値は (1) 分です。「1～1440」の範囲で設定できます。
	死活監視機能を有効にする	SystemProvisioningで死活監視を行う場合、チェックボックスをオンにします。[ESMPRO/SMに登録する] チェックボックスがオンの場合、利用することはできません。 グループに設定されたマシン種別が、環境設定の監視対象モデル種別で監視対象外 (チェックボックスをオフ) となっている場合は、表示されません。
	Ping 監視	グループで稼動するマシンをPingで監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	Port 監視	グループで稼動するマシンのTCP Portに接続可能であるかを監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	監視ポート	Port監視を行う場合、監視するTCP Portを指定します。複数指定する場合は、カンマ (,) で区切ります。複数指定した場合、すべてのポートに接続できた場合に "正常" と判断します。
	仮想化基盤監視	仮想マシンサーバに対して仮想化基盤監視を行う場合、チェックボックスをオンにします。 グループに設定されたマシン種別が、[VMサーバ] 以外の場合は、本項目は表示されません。
	[適用]	グループプロパティ設定を適用します。
	[戻る]	グループプロパティ設定を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

4.11.15. [性能監視] タブ

グループの性能監視に関する設定を行います。

ここでは、SystemMonitor 性能監視で性能データを収集し、Web コンソールで性能グラフを表示するための設定を行います。



性能監視		
	性能データ収集設定	グループに所属するホストの性能データをSystem Monitor性能監視で収集するかどうかを設定します。収集する場合、チェックボックスをオンにします。
	プロファイル名	監視プロファイルは、System Monitor性能監視でデータを収集する性能項目のセットです。選択するプロファイルによって、System Monitor性能監視でデータを収集する性能項目、収集間隔を切り替えることができます。監視プロファイルの詳細については、[指定監視プロファイルを参照する] をクリックし、表示される「監視プロファイル編集」ウィンドウで確認してください。
	指定監視プロファイルを参照する	[プロファイル名] プルダウンボックスで指定した監視プロファイルの「監視プロファイル編集」ウィンドウに遷移します。監視プロファイル編集については、「3.42.2 監視プロファイル編集」を参照してください。
	IP アドレス	System Monitor性能監視のサービスが動作する管理サーバのIPアドレスを指定します。
	ポート番号	System Monitor性能監視のサービスに接続するためのポート番号を指定します。System Monitor性能監視インストール直後のポート番号の既定値は、(26200) です。
	アカウント	グループで稼動するホストのOSアカウントのユーザ名を入力します。ここで入力したアカウントは、System Monitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。
	パスワード	グループで稼動するホストのOSアカウントのパスワードを入力します。ここで入力したアカウントは、System Monitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。
	パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
[適用]		性能監視情報を適用します。
[戻る]		性能監視情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

4.11.16. [カスタム] タブ

カスタムプロパティの表示、および設定を行います。

カスタムプロパティ一覧	
プロパティ名	プロパティ名を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。 「PVM_」、および数字で始まる文字列は指定できません。
値	値を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。
追加	カスタムプロパティを設定する欄を追加します。
削除	選択したカスタムプロパティを [カスタムプロパティ一覧] グループボックスから削除します。
[適用]	カスタムプロパティを適用します。
[戻る]	カスタムプロパティを適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

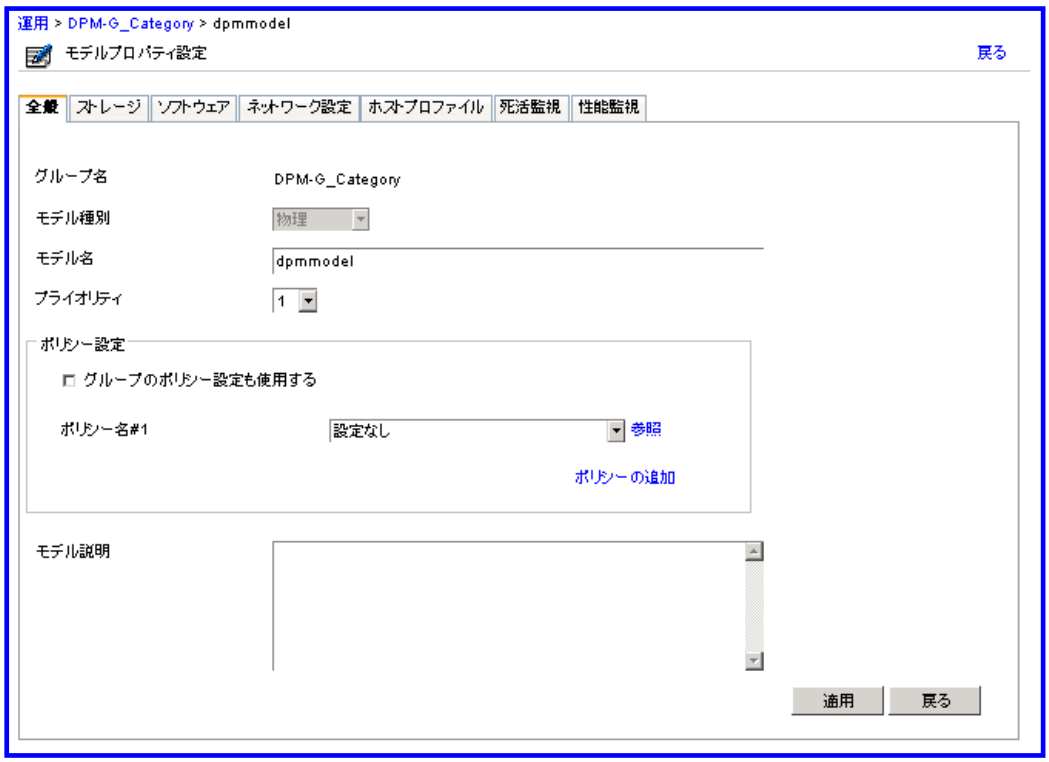
4.12. モデルプロパティ設定

モデルプロパティの表示、設定を行います。

グループプロパティ設定の [モデル] タブから [モデル一覧] グループボックスのプロパティの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「モデルプロパティ設定」が表示されます。

4.12.1. [全般] タブ (物理マシンの場合)

モデルの種別が [物理] の場合、モデル全般の設定を表示、設定を行います。



全般	
グループ名	グループ名を表示します。
モデル種別	モデルの種類を表示します。編集はできません。
モデル名 **(入力必須)**	モデル名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
プライオリティ	プライオリティを表示し、変更もできます。「1～10」の範囲で選択できます。
ポリシー設定	

	グループのポリシー設定も使用する	モデルに設定したポリシーに対象のイベントが含まれていない場合、グループのポリシー設定も使用し、検索を行います。 モデルにポリシーを設定しない場合、チェックボックスがオフの場合でもグループのポリシー設定を使用します。
	ポリシー名#1	ポリシー名を表示し、変更もできます。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示され、#1から順に検索を行います。ポリシーに対象のイベントが含まれていると、そのポリシーが実行され、検索を終了します。
	参照	[ポリシー名] プルダウンボックスで指定した「ポリシープロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
	ポリシーの追加	ポリシー設定を追加する場合にクリックします。 最大5つまでポリシー設定を追加することができます。
モデル説明		モデルの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[適用]		モデルプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.12.2. [全般] タブ (仮想マシンの場合)

モデルの種別が [VM] の場合、モデル全般の設定を表示、設定を行います。

注:

・ HW Profile Clone を利用して仮想マシンを作成する場合は、テナント、カテゴリ、グループ、モデル (仮想マシンの場合) のいずれかで DPM サーバを選択して DeploymentManager に登録する設定が必須です。Differential Clone、もしくは Disk Clone 用のテンプレートは、VMware vCenter Server 環境以外の場合、DeploymentManager に登録する設定が必須です。

・ DPM サーバの設定がない状態で仮想マシンを作成した際、DeploymentManager への登録が必要な場合は、以下のいずれかの条件により自動的に DPM サーバを選択して設定します。DPM サーバの設定は、モデルが指定されていればモデル、モデルが指定されていなければグループに設定されます。

・ テナント、カテゴリ、グループ、あるいはモデルの [ソフトウェア] タブに 1 台の DPM サーバのシナリオが設定されている場合

・ サブシステムに DeploymentManager が 1 台だけ登録されている場合 (vCenter Server 環境で HW Profile Clone 以外のときのみ)

全般		
	グループ名	グループ名を表示します。
	モデル種別	モデルの種類を表示します。編集はできません。
	モデル名 **(入力必須)**	モデル名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
	プライオリティ	プライオリティを表示し、変更もできます。「1～10」の範囲で選択できます。
	ポリシー設定	
	グループのポリシー設定も使用する	モデルに設定したポリシーに対象のイベントが含まれていない場合、グループのポリシー設定も使用し、検索を行います。 モデルにポリシーを設定しない場合、チェックボックスがオフの場合でもグループのポリシー設定を使用します。

	ポリシー名#1	ポリシー名を表示し、変更もできます。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示され、#1から順に検索を行います。ポリシーに対象のイベントが含まれていると、そのポリシーが実行され検索を終了します。
	参照	[ポリシー名] プルダウンボックスで指定した「ポリシープロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
	ポリシーの追加	ポリシー設定を追加する場合にクリックします。 最大5つまでポリシー設定を追加することができます。
リソースプール		グループとリソースプールを関連付ける場合、[リソースプール] プルダウンボックスからリソースプールを選択します。
DPM サーバ		仮想マシンの稼動時にDeploymentManagerに登録する場合、DPMサーバを選択します。
最適起動		モデル下の仮想マシンに対して最適起動の有効または無効を指定する場合は、プルダウンボックスから "有効" または "無効" を選択します。"設定なし" の場合は、グループの設定が使用されます。
分散レベル		モデル下の仮想マシンに対して最適起動時の分散レベルを指定する場合は、プルダウンボックスから分散レベルの値を選択します。"設定なし" の場合は、グループの設定が使用されます。
モデル説明		モデルの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[適用]		モデルプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.12.3. [全般] タブ (仮想マシンサーバの場合)

モデルの種別が [VM サーバ] の場合、モデル全般の設定を表示、設定を行います。

全般		
	グループ名	グループ名を表示します。
	モデル種別	モデルの種類を表示します。編集はできません。
	モデル名 **(入力必須)**	モデル名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。以下の記号は使用できません。 ¥ / : . ; * ? " < > |
	プライオリティ	プライオリティを表示し、変更もできます。「1～10」の範囲で選択できます。
	ポリシー設定	
	グループのポリシー設定も使用する	モデルに設定したポリシーに対象のイベントが含まれていない場合、グループのポリシー設定も使用し、検索を行います。 モデルにポリシーを設定しない場合、チェックボックスがオフの場合でもグループのポリシー設定を使用します。
	ポリシー名#1	ポリシー名を表示し、変更もできます。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示され、#1から順に検索を行います。ポリシーに対象のイベントが含まれていると、そのポリシーが実行され検索を終了します。
	参照	[ポリシー名] プルダウンボックスで指定した「ポリシープロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
	ポリシーの追加	ポリシー設定を追加する場合にクリックします。 最大5つまでポリシー設定を追加することができます。

データセンター	モデルで使用するDataCenterを選択します。
モデル説明	モデルの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[適用]	モデルプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]	モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.12.4. [ストレージ] タブ (物理マシン、仮想マシンサーバの場合)

モデルの種別が [物理]、もしくは [VM サーバ] の場合、ストレージの設定を表示、設定を行います。

ストレージ	
ストレージ一覧	
順番	モデルで稼動するホストへのディスクボリューム接続順序を表示します。
配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
共有状態	共有状態を表示します。
HBA 番号	HBA番号を表示します。
NIC 番号	NIC番号を表示します。

		編集	ディスクボリュームを編集します。[編集] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
		[↑]	チェックしたディスクボリュームの接続順序を1つ前に移動します。
		[↓]	チェックしたディスクボリュームの接続順序を1つ後に移動します。
		追加	ディスクボリュームを追加します。[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
		削除	チェックボックスを選択したディスクアレイ設定情報を [ストレージ一覧] グループボックスから削除します。
	グループ設定一覧		
		順番	ディスクボリュームの接続順序を表示します。
		配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
		ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
		ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
		共有状態	共有状態を表示します。
		HBA 番号	HBA番号を表示します。
		NIC 番号	NIC番号を表示します。
	[適用]		モデルプロパティ設定情報を適用します。
	[戻る]		モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。

◆ iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合

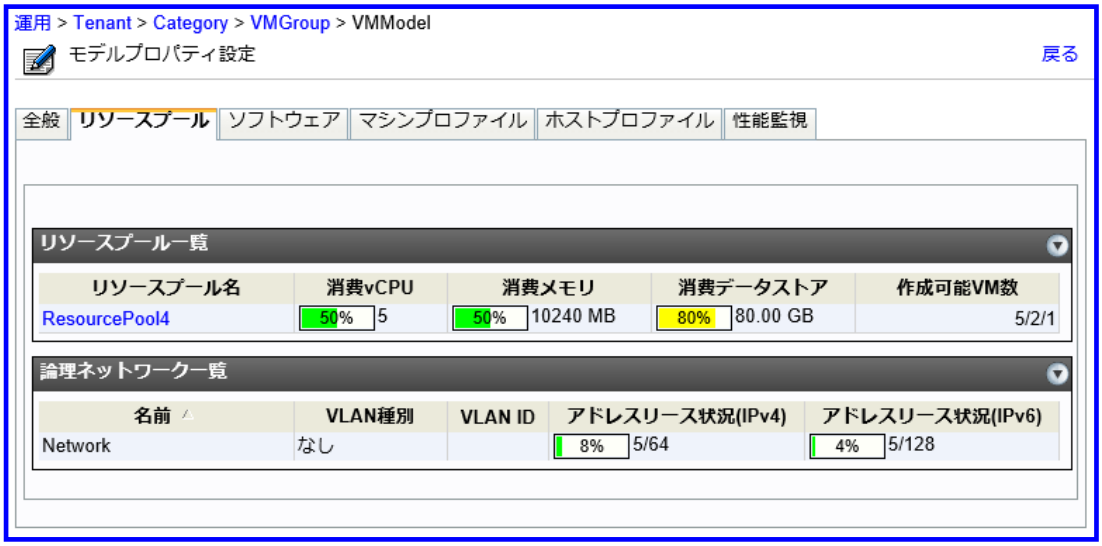
◆ NetApp の場合

ディスクボリューム設定		
ストレージ情報		
	ディスクアレイ	ディスクアレイを選択します。
	配布後に接続する	稼動時配布ソフトウェアの配布を行った後にディスクボリュームの接続制御を行う場合、チェックボックスをオンにします。
	ストレージ一覧	
		名前 ディスクボリュームの名前を表示します。
		番号 ディスクボリュームの番号を表示します。
		共有状態 ディスクボリュームの共有状態を表示します。

使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
HBA 情報 (iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合)	
全ての HBA に接続する	すべてのHBAに接続する場合に選択します。
接続する HBA を指定する	接続するHBAを指定する場合に選択します。
HBA 番号	HB番号を入力します。[接続するHBAを指定する] を選択している場合のみ入力できます。
ネットワーク情報 (NetApp の場合)	
公開先ホストの NIC 番号を指定する	ディスクボリュームの公開先IPアドレスを持つNIC番号を指定します。(例: 1) 1つのNIC番号に対して複数のIPアドレスを設定している場合、「1/2」のように半角スラッシュで区切ることにより、2つ目以降のIPアドレスを指定することができます。ホスト名で公開する場合は、空白を設定してください。
[OK]	設定したディスクボリュームを追加し、[ストレージ一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ディスクボリューム設定情報を保存せずに、[ディスクボリューム設定] グループボックスを閉じます。

4.12.5. [リソースプール] タブ (仮想マシンの場合)

モデルの種別が [VM] の場合、リソースプールの設定を表示、設定を行います。



リソースプール	
リソースプール一覧	
リソースプール名	モデルに割り当てられているリソースプールの名前を表示します。リソースプール名をクリックすると、リソースプール詳細情報に遷移します。

	消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
	消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
	消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。
	作成可能 VM 数	マシンプロファイル "Small"、"Medium"、"Large" を使用した場合に作成可能な仮想マシンの数を表示します。
論理ネットワーク一覧		
	名前	論理ネットワーク名を表示します。
	VLAN 種別	VLANの種別を表示します。
	VLAN ID	VLAN IDを表示します。
	アドレスリース状況 (IPv4)	IPv4アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。
	アドレスリース状況 (IPv6)	IPv6アドレスプールからリースされたIPアドレスの状況を表示します。

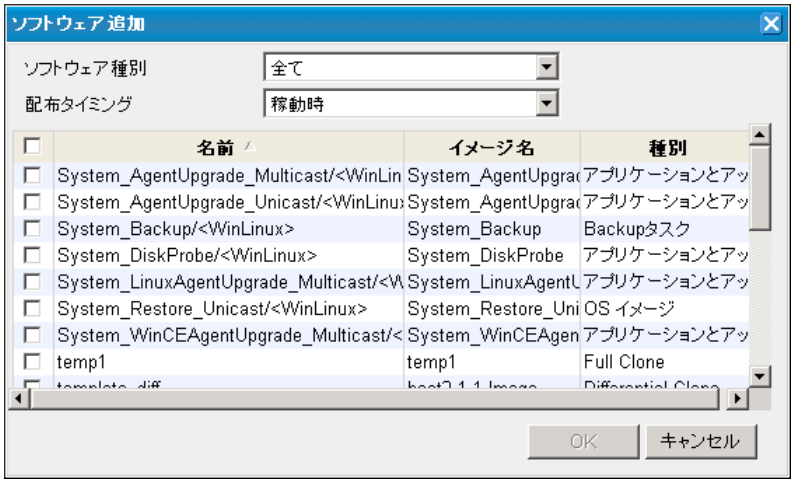
4.12.6. [ソフトウェア] タブ

モデルのソフトウェアに関する情報の表示、設定を行います。

ソフトウェア	
	ソフトウェア一覧

	名前	モデルに設定されているソフトウェアの一覧を表示します。 ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
	イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
	種別	ソフトウェアの種別を表示します。
	配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを表示します。
	詳細設定	シナリオの種別が以下の場合、編集アイコンが表示されます。 (1) アプリケーションとアップデートの場合 (2) Differential Clone、またはDisk Cloneのイメージの場合 (3) ファイルの場合 編集アイコンをクリックすると、それぞれのグループボックス画面が表示されます。 (1) [コマンドオプション設定] グループボックスが表示され、コマンドオプションを指定することができます。また、[コマンド実行結果をジョブ結果に反映する] チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。 (2) [イメージ変更] グループボックスが表示され、イメージを変更することができます。 (3) [ファイル詳細設定] グループボックスが表示され、配信先フォルダを変更することができます。
	[↑]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	[↓]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	追加	ソフトウェアを追加します。[ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に、[ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したソフトウェアを削除します。
[適用]		モデルプロパティ設定情報を適用します。
[戻る]		モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「ソフトウェア追加」ダイアログボックスが表示されます。



ソフトウェア追加	
ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイルの中から選択できます。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを、稼動時 / 待機時 / 待機時・シャットダウン後 / (用途別) 置換時 / リソース割り当て時 / バックアップ実行時 / リストア実行時 / 起動実行時、(用途別－論理マシン) 構築時 / 解体時から選択します。
名前	SigmaSystemCenterに登録されているソフトウェア一覧を表示します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
[OK]	チェックボックスを選択したソフトウェアを追加し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ソフトウェア追加情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

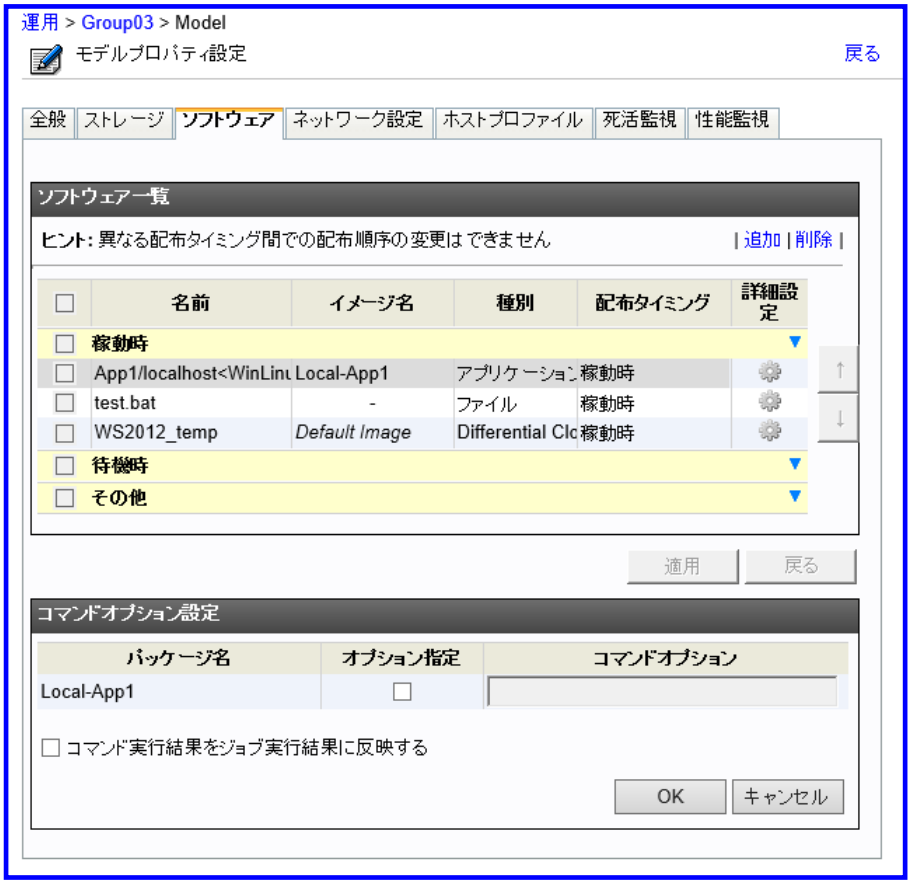
注:

・ 仮想マシンのテンプレートは、ある仮想マシンサーバに登録されているテンプレートが利用できない場合に、別の仮想マシンサーバに登録されているテンプレートを利用するように複数のテンプレートを設定しておくことができます。設定するテンプレートは同じイメージのテンプレートを設定してください。

・ DeploymentManager の機能を利用して仮想マシンを作成する場合は、HW Profile Clone 用のテンプレートを登録してください。また、タイプが異なる仮想マシンのテンプレートを混在して登録はできません。Differential Clone 用のテンプレートの場合は、スタンドアロン ESXi 環境と VMware vCenter Server 環境で作成したテンプレートも混在して登録できません。

[詳細設定] の編集アイコンをクリックすると、[ソフトウェア一覧] グループボックス下部に [コマンドオプション設定] グループボックス、[イメージ変更] グループボックス、もしくは[ファイル詳細設定] グループボックスが表示されます。

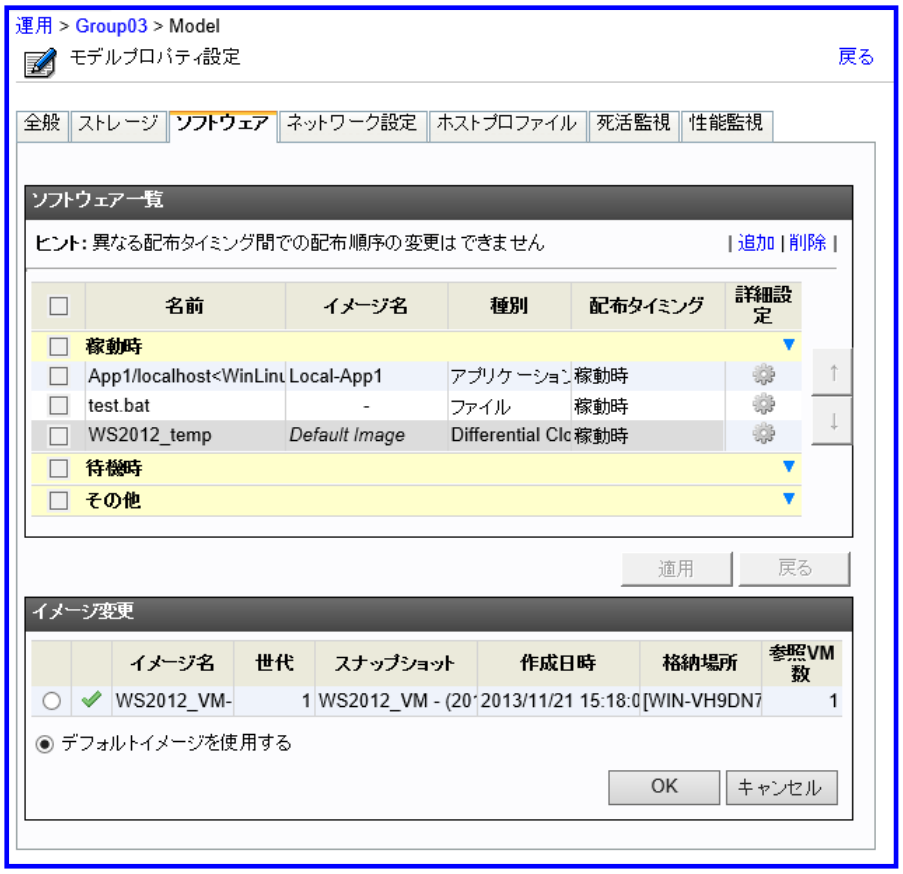
<コマンドオプション設定の場合>



コマンドオプション設定	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。 コマンドオプションは、半角文字で128文字まで指定可能です。
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。

	[OK]	コマンドオプション設定を保存し、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。
	[キャンセル]	コマンドオプション設定を保存せずに、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。

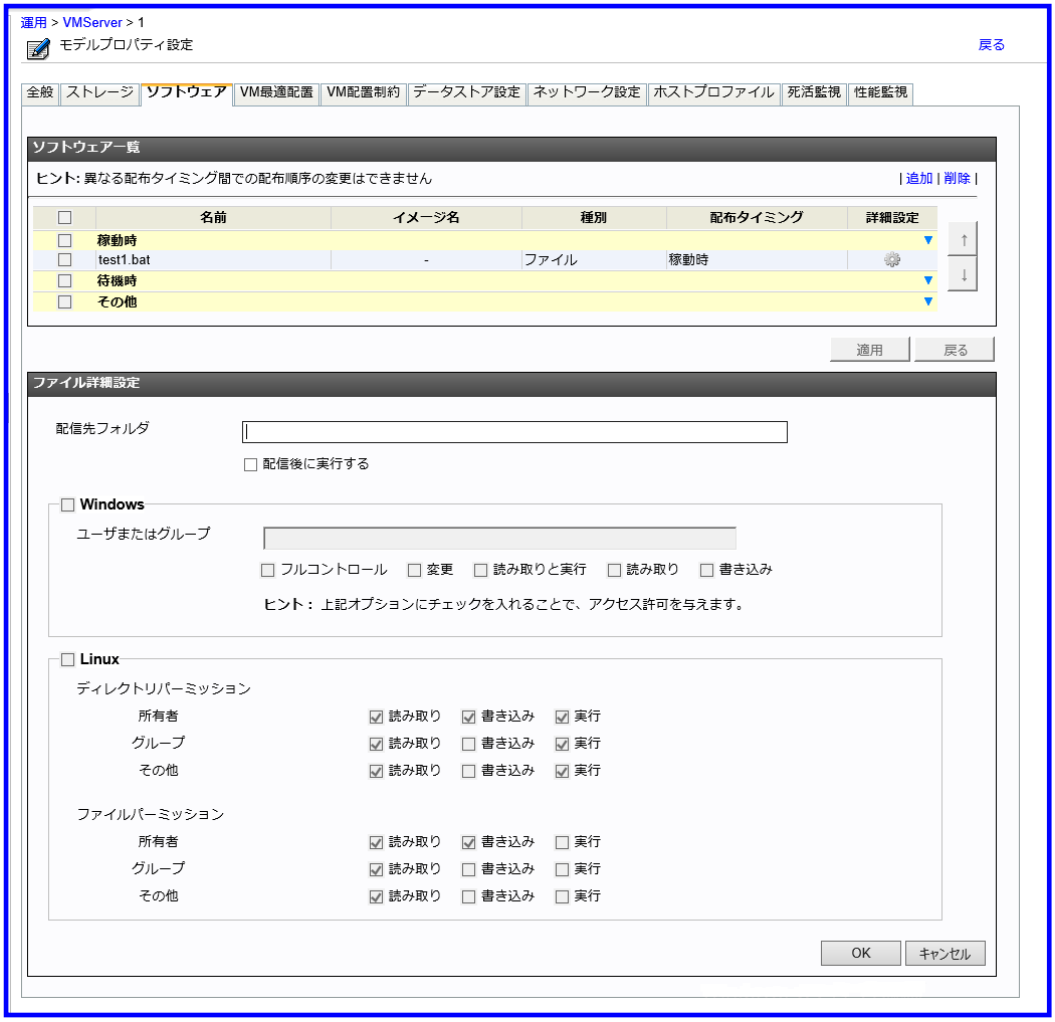
<イメージ変更の場合>



イメージ変更	
(ラジオボタン)	新たに使用するイメージを選択します。
イメージ名	イメージ名を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。
スナップショット	スナップショット名を表示します。
作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
格納場所	イメージの保存先データストア名を表示します。
参照 VM 数	参照する仮想マシンの数を表示します。 Differential Cloneテンプレートの場合のみ表示されます。
[デフォルトイメージを使用する]	イメージを固定せずにテンプレートのデフォルトイメージを使用する場合に選択します。

	[OK]	選択したラジオボタンのイメージをソフトウェアに設定し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
	[キャンセル]	イメージ変更情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

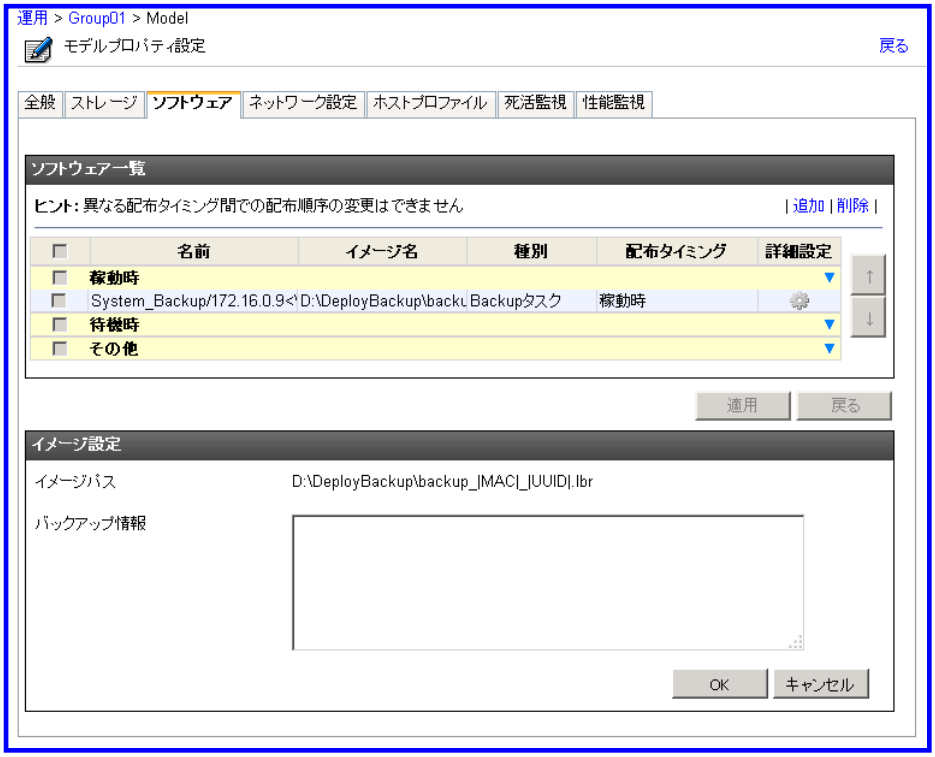
<ファイル詳細設定の場合>



ファイル詳細設定		
	配信先フォルダ	配信先フォルダのパスを設定します。[配信先フォルダ] テキストボックスに何も入力されていない場合は、[ファイル詳細設定] の設定内容は保存されません。
	配信後に実行する	ファイルを配信して実行する場合にチェックボックスをオンにします。VMwareの仮想マシンに配信する場合のみ有効です。
	Windows	配信先がWindowsでファイルにアクセス許可を設定する場合にチェックボックスをオンにします。
	ユーザまたはグループ	配信するファイルのアクセス許可を設定するユーザ、またはグループ名を入力します。

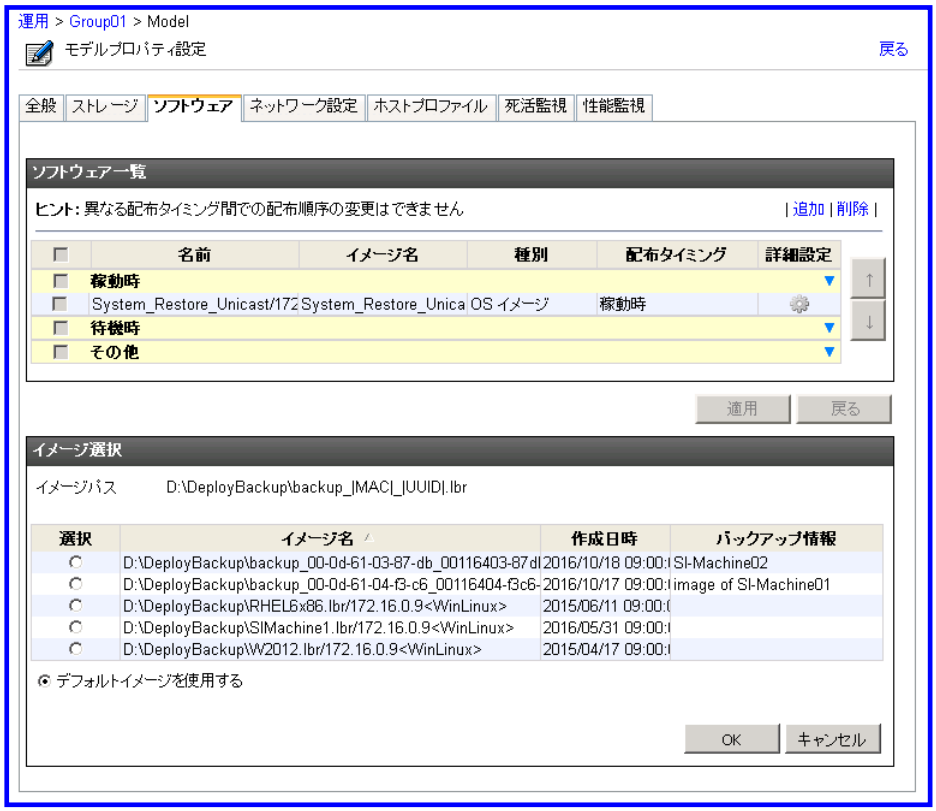
フルコントロール	配信するファイルにフルコントロールのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。フルコントロールのチェックボックスをオンにすると変更、読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
変更	配信するファイルに変更のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。変更のチェックボックスをオンにすると読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
読み取りと実行	配信するファイルに読み取りと実行のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。読み取りと実行のチェックボックスをオンにすると読み取りにもチェックが入ります。
読み取り	配信するファイルに読み取りのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
書き込み	配信するファイルに書き込みのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
Linux	配信先がLinuxでファイルや配信先のディレクトリのパーミッションを指定する場合にチェックボックスをオンにします。
ディレクトリパーミッション ※配信先フォルダのディレクトリのパーミッションを指定します (ディレクトリが既に存在する場合は、パーミッションは変更されません)。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
ファイルパーミッション ※配信するファイルのパーミッションを指定します。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
[OK]	ファイルの詳細設定を保存し、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	ファイルの詳細設定を保存せずに、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。

<バックアップの場合>



イメージ設定	
イメージパス	バックアップのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

<リストアの場合>



イメージ選択	
イメージパス	リストアのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオに設定されているイメージを選択する場合は、「デフォルトイメージを使用する」を選択します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
[OK]	イメージ選択情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ選択情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

4.12.7. [ネットワーク設定] タブ (物理マシン、仮想マシンサーバの場合)

モデルのネットワークに関する情報の表示、設定を行います。

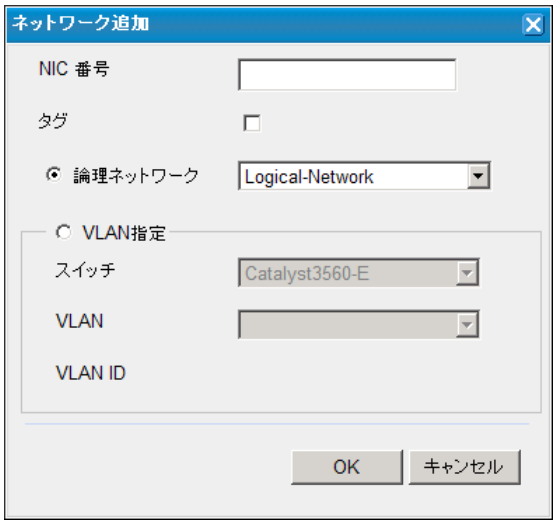
モデル種別が [物理]、[VM サーバ] のモデルが設定された場合に、[ネットワーク] タブが表示されます。

<マシン種別が [物理] の場合>

<マシン種別が [VM サーバ] の場合>

ネットワーク設定		
	ネットワーク一覧	
	NIC 番号	NIC番号を表示します。NIC番号を複数設定している場合は、(,) で分割します。
	ネットワーク	ネットワーク名を表示します。
	スイッチ	スイッチ名を表示します。ネットワークを選択している場合は、表示されません。
	VLAN(ポートグループ)	VLAN (ポートグループ) 名を表示します。
	タグ	タグ情報が設定されている場合、チェックが表示されます。
	追加	ネットワークを追加します。「ネットワーク追加」ダイアログボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したネットワークを削除します。
	[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「ネットワーク追加」ダイアログボックスが表示されます。



ネットワーク追加	
NIC 番号	ネットワークを設定するポートを特定するためのNIC番号を入力します。NIC番号を複数設定する場合は、(,) で分割します。
タグ	ネットワークにタグを設定する場合、チェックボックスをオンにします。
論理ネットワーク	論理ネットワークを選択する場合、ラジオボタンをオンにし、プルダウンボックスから接続するネットワークを選択します。
VLAN 指定	
スイッチ	VLAN指定を選択する場合ラジオボタンをオンにし、プルダウンボックスからスイッチを選択します。[VLAN指定] が選択された場合のみ選択できます。
VLAN	VLANを選択します。[VLAN指定] が選択された場合のみ選択できます。
VLAN ID	選択したVLANのVLAN IDを表示します。
[OK]	ネットワーク追加情報を保存し、[ネットワーク一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ネットワーク追加情報を保存せずに、「ネットワーク追加」ダイアログボックスを閉じます。

4.12.8. [マシンプロファイル] タブ (仮想マシンの場合)

モデルのマシンプロファイルを設定します。

マシンプロファイルとは、新規に作成する仮想マシンや再構成する仮想マシンのハードウェアスペックを指定する設定です。新規リソース割り当て、または再構成の操作を実行したとき、マシンプロファイルで定義したハードウェアスペックを持つ仮想マシンが作成されます。

管理対象マシンが仮想マシン以外の場合、マシンプロファイルの設定は必要ありません。

モデル種別が [VM] のモデルが設定された場合に、[マシンプロファイル] タブが表示されます。

マシンプロファイルの設定は、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定の [マシンプロファイル] タブで行うことができます。各階層間の関係は、グループ < モデル < ホストの定義で優先されるようになっています。モデルプロパティ設定でのマシンプロファイルの設定は、ホスト設定で個別にマシンプロファイルの設定を行わない場合に使用されます。

[リソース] ビューで作成したマシンプロファイル設定を適用する、または引用して一部を変更し、設定を行うこともできます。

モデルプロパティ設定のマシンプロファイルの既定値は、グループプロパティ設定に設定されているマシンプロファイルの設定、またはテンプレートの設定値となります。グループプロパティ設定やホスト設定のマシンプロファイル設定ウィンドウでは、指定モデルの設定を既定の設定として引用することができます。

運用 > VMware > VM_Windows > Model

モデルプロパティ設定　戻る

全般 | ソフトウェア | マシンプロファイル | ホストプロファイル | 性能監視

公開されたプロファイルを利用する　Large

既存のプロファイルからコピーする

コスト情報

定義場所

コスト値

CPU情報

定義場所

CPU数

CPUシェア

- 最高(4000)
- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 最低(250)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値 * CPU数
Xen	設定値 * 256 / 1000
Hyper-V	設定値 / 10
KVM	設定値 * 1024 / 1000

CPU予約　0 MHz

CPUリミット(0=unlimited)　0 MHz

メモリ情報

定義場所

メモリサイズ　MB

メモリシェア

- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値 * メモリサイズ / 100
Xen	設定不可
Hyper-V	設定値 * 5
KVM	設定不可

メモリ予約　0 MB

メモリリミット(0=unlimited)　0 MB

ネットワーク情報

定義場所　モデル

仮想NIC #1　VM Network

仮想NIC #2　VM Network

[仮想NIC追加]

ディスク情報

システムディスク

定義場所

作成先データストア(省略可)　設定なし

ディスクファイル　新規に作成する / 既存のディスクを使用する　参照

タイプ　Thin

モード　独立型　ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ　MB

拡張ディスク

定義場所

拡張ディスク #1　+

キャンセル

作成先データストア(省略可)　設定なし

ディスクファイル　新規に作成する / 既存のディスクを使用する　参照

タイプ　Thin

モード　独立型　ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ　MB

コントローラ　自動選択

ディスク番号　自動選択

構成パラメータ設定

定義場所

ヒント：仮想基盤製品ごとに固有の機能を設定できます。

パラメータの設定

適用　戻る

マシンプロファイル	
公開されたプロファイルを利用する	公開されているマシンプロファイルをそのまま利用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
既存のプロファイルからコピーする	公開されているマシンプロファイルをコピーして利用する場合にクリックし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
コスト情報	仮想マシンのコストを設定します。
定義場所	コスト情報の設定がある定義場所を表示します。(テンプレート、グループ、モデル、Namedプロファイル)
コスト値	コスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	仮想マシンに割り当てるCPU数やCPUの能力を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。モデルで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	CPU情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Named プロファイル)。
CPU 数	CPU数を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。
CPU シェア	
最高 (4000)	CPUリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * CPU数 Hyper-V： 設定値 / 10 XenServer： 設定値 * 256 / 1000 KVM： 設定値 * 1024 / 1000
高 (2000)	
標準 (1000)	
低 (500)	
最低 (250)	
手動で設定する	CPUリソースの割当優先度を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	CPU予約を入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報	仮想マシンに割り当てるメモリの設定を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。モデルで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	メモリ情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレー

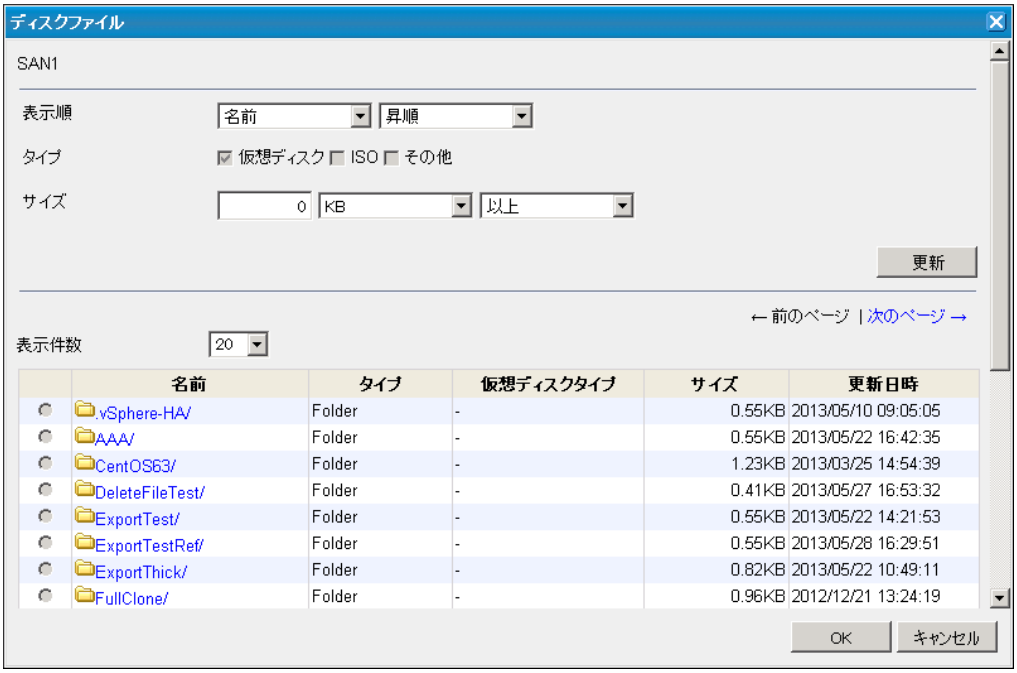
	ト、グループ、モデル、Named プロファイル)。
メモリサイズ	メモリサイズを入力します。メモリサイズの入力範囲は「1～99999999」です。
メモリシェア	
高 (2000)	メモリリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V： 設定値 *5 XenServer, KVM ： 設定不可
標準 (1000)	
低 (500)	
手動で設定する	メモリリソースの割当優先度を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Xen環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
メモリ予約	仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。
メモリリミット (0=unlimited)	仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。モデルで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	ネットワーク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Namedプロファイル)。
仮想 NIC #1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANか、[リソース] ビューで作成するネットワークを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」： 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」： 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 *NetworkName*-VLAN:*VlanId* *NetworkName* ： 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN: ： 固定文字列です。 *VlanId* ： 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。

				VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」: 接続先のネットワークの名前を設定します。
		[仮想 NIC 追加]		マシンプロファイルの仮想NIC設定を追加する場合にクリックします。最大10まで仮想NIC設定を追加することができます。
	ディスク情報			
		システムディスク		仮想マシンのOSインストール先となるディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。モデルで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
			定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、Namedプロファイル)。
			作成先データストア (省略可)	作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
			ディスクファイル	
				新規に作成する 作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
				既存のディスクを使用する 作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
				参照 作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
			タイプ	Thick / Thinのどちらかを選択します。Hyper-VのDifferential Cloneでは、設定は無効となります。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。 「Thick」: 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 Xen環境では、設定は反映されません。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。 既定のディスクを使用する場合は、指定できません。
			サイズ	システムディスクサイズを入力します。「10～99999999」の範囲で設定できます。 既定のディスクを使用する場合は、指定できません。
		拡張ディスク		データ用のディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。モデルで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
			定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (グループ、モデル、Namedプロファイル)。
			作成先データストア (省略	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データ

		可)		ストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
		ディスクファイル		
			新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
			既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
			参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
		タイプ		Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想) のいずれかを選択します。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。 「Thick」: 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。Xen環境では、設定は反映されません。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。Xen環境では、設定は反映されません。 「RDM (物理)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
		モード		ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスク独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。
		サイズ		拡張ディスクサイズを入力します。タイプが「Thick」、「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。 タイプが「RDM (物理)」、「RDM (仮想)」の場合は、使用するLUN (ディスクボリューム) の条件を10GBの倍数で指定します。指定サイズ以上で指定サイズ + 10GB未満のサイズのLUNが候補となります。10GB未満は対象になりません。
		コントローラ		作成するディスクの追加先となるコントローラを選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に使用可能なコントローラをSigmaSystemCenterが選択します。
		ディスク番号		作成するディスクの追加先となるコントローラ内の番号を選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に未使用の番号をSigmaSystemCenterが選択します。
		ターゲット LUN (タグ指定、省略可)		タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に、使用するLUN (ディスクボリューム) に設定したタグ (キーワード) を入力します。タグの指定は省略できます。省略した場合は、サイズを元に使用するLUN (ディスクボリューム) が自

	動的に選択されます。
構成パラメータ設定	構成パラメータ設定の定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	構成パラメータ設定がある定義場所を表示します。
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[適用]	マシンプロファイル設定情報を適用します。
[戻る]	マシンプロファイル設定情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

[ディスク情報] グループボックス内の [拡張ディスク] タブの [参照] をクリックすると、「ディスクファイル」ダイアログボックスが表示されます。



ディスクファイル	
表示順	ファイルフォルダの表示する順番を指定します。
タイプ	ファイルは、仮想ディスクのみ表示されます。
サイズ	表示するファイルのサイズを指定します。
[更新]	フォルダ / ファイルの表示を更新します。
名前	フォルダ / ファイルの名前を表示します。
タイプ	フォルダ / ファイルのタイプを表示します。
仮想ディスクタイプ	仮想ディスクの場合、ディスクのタイプを表示します。

	サイズ	フォルダ / ファイルのサイズを表示します。
	更新日時	フォルダ / ファイルの更新日時を表示します。
[OK]		ディスクファイル情報を保存し、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]		ディスクファイル情報を保存せずに、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「4.11.7 [マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合のみ)」を参照してください。

4.12.9. [ホストプロファイル] タブ (Windows Server の場合)

Windows Server のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Windows Server) については、「4.11.8 [ホストプロファイル] タブ (Windows Server の場合)」を参照してください。

4.12.10. [ホストプロファイル] タブ (Linux の場合)

Linux のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Linux) については、「4.11.9 [ホストプロファイル] タブ (Linux の場合)」を参照してください。

4.12.11. [ホストプロファイル] タブ (Windows Client の場合)

Windows Client のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Windows Client) については、「4.11.10 [ホストプロファイル] タブ (Windows Client の場合)」を参照してください。

4.12.12. [VM 最適配置] タブ (仮想マシンサーバの場合)

仮想マシンサーバの VM 最適配置に関する情報を表示、設定します。

モデルのマシン種別が [VM サーバ] の場合に、[VM 最適配置] タブが表示されます。

[VM 最適配置] タブについては、「4.11.11 [VM 最適配置] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)」を参照してください。

4.12.13. [VM 配置制約] タブ (仮想マシンサーバの場合)

仮想マシンサーバモデルに対して、配置制約を有効にする設定を行います。

モデルのマシン種別が [VM サーバ] の場合に、[VM 配置制約] タブが表示されます。

[VM 配置制約] タブについては、「4.11.12 [VM 配置制約] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)」を参照してください。

4.12.14. [データストア設定] タブ (仮想マシンサーバの場合)

モデルのデータストアに関する情報の表示、設定を行います。

モデルのマシン種別が [VM サーバ] の場合に、[データストア設定] タブが表示されます。

[データストア設定] タブについては、「4.11.13 [データストア設定] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)」を参照してください。

4.12.15. [死活監視] タブ

モデルの死活監視情報を表示、設定します。

グループプロパティで設定した値をモデルごとに設定変更することができます。特定のモデルだけ死活監視を行わないように設定、監視ポートの変更などが設定できます。

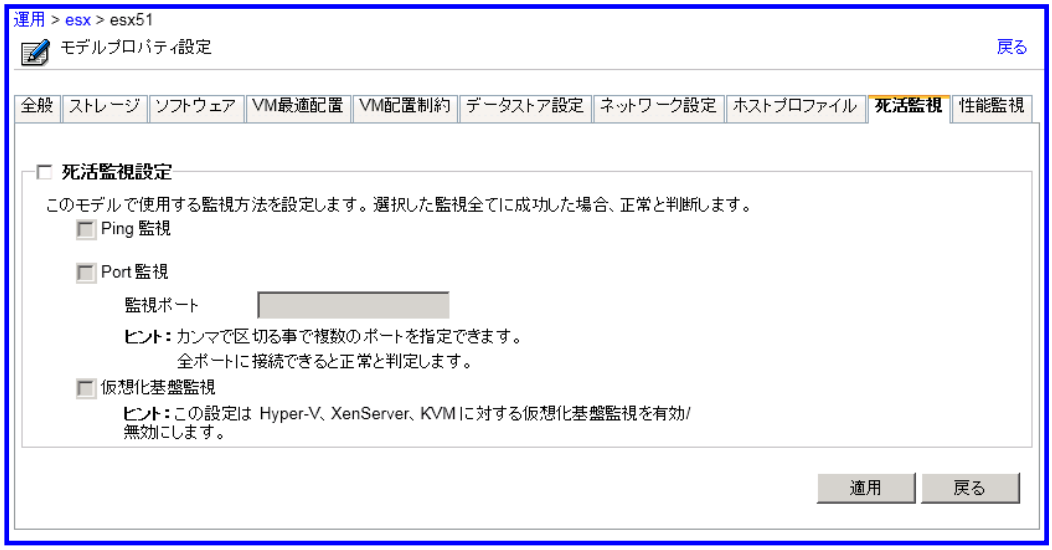
注:

・ 環境設定の [死活監視] タブの "監視対象モデル種別" で、[物理]、[VM サーバ]、[VM] チェックボックスがオンになっている場合、[運用] ビューのモデルプロパティ設定で、マシン種別が "物理"、"VM サーバ"、"VM" の場合、モデルプロパティ設定に表示される [死活監視] タブは、[死活監視機能を有効にする] チェックボックス (SystemProvisioning の監視) の設定ができるようになります。"監視対象モデル種別" で [物理]、[VM サーバ]、[VM] チェックボックスがオフの場合は、[運用] ビューのモデルプロパティ設定で [死活監視] タブは表示されません。

・ [運用] ビューのグループプロパティ設定で、死活監視機能を有効にした場合のみ設定することができます。

・ [仮想化基盤監視] チェックボックスは、設定対象のモデル種別が [VM サーバ] の場合にのみ設定できます。

・ 本設定を行わなかった場合、[運用] ビューのグループプロパティ設定に設定した値が有効となります。

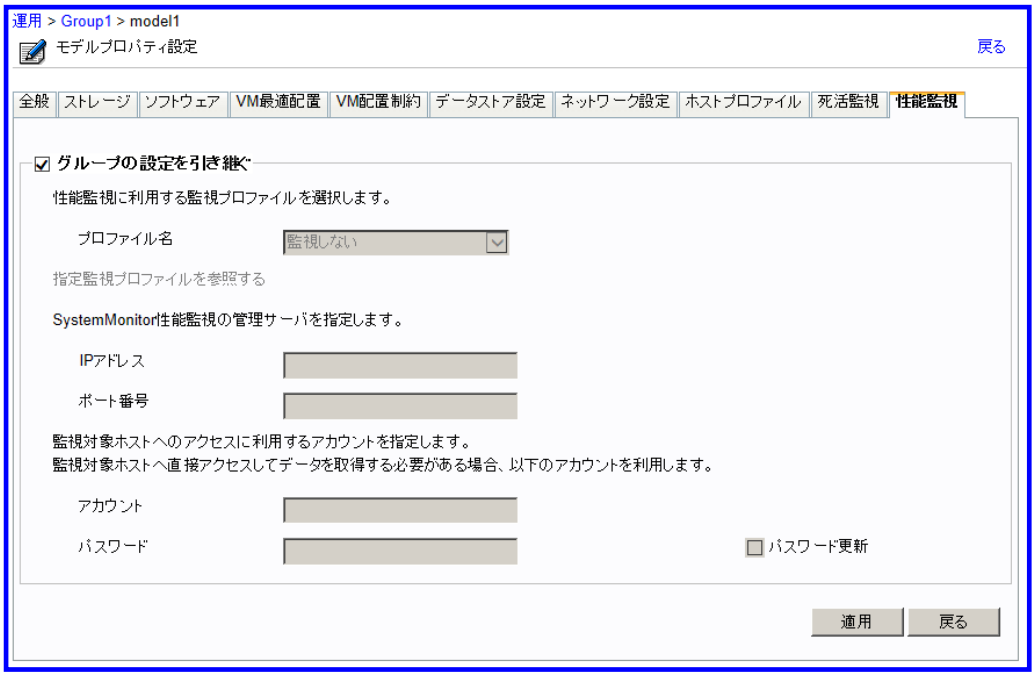


死活監視		
	死活監視設定	グループプロパティ設定で設定した値をモデル単位で変更する場合、チェックボックスをオンにします。
	Ping 監視	モデルに所属するホストをPingで監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	Port 監視	モデルに所属するホストのTCP Portに接続可能であるかを監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	監視ポート	Port監視を行う場合、監視するTCP Portを指定します。複数指定する場合は、カンマ (,) で区切ります。複数指定した場合、すべてのポートに接続できた場合に "正常" と判断します。
	仮想化基盤監視	仮想マシンサーバに対して仮想化基盤監視を行う場合、チェックボックスをオンにします。モデル種別が [VMサーバ] 以外の場合は、本項目は表示されません。
	[適用]	モデルプロパティ設定情報を適用します。
	[戻る]	モデルプロパティ設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.12.16. [性能監視] タブ

モデルの性能監視に関する設定を行います。

ここでは、SystemMonitor 性能監視で性能データを収集し、Web コンソールで性能グラフを表示するための設定を行います。



性能監視	
グループの設定を引き継ぐ	モデルが所属しているグループの性能情報設定を引き継ぐかどうか設定します。設定を引き継ぐ場合、チェックボックスをオンにします。モデルにグループと違う監視情報を設定する場合、チェックボックスをオフにしてください。
プロファイル名	監視プロファイルは、SystemMonitor性能監視でデータを収集する性能項目のセットです。選択するプロファイルによって、SystemMonitor性能監視でデータを収集する性能項目、収集間隔を切り替えることができます。監視プロファイルの詳細については、[指定監視プロファイルを参照する] をクリックし、表示される「監視プロファイル編集」ウィンドウで確認してください。
指定監視プロファイルを参照する	[プロファイル名] プルダウンボックスで指定した監視プロファイルの「監視プロファイル編集」ウィンドウに遷移します。監視プロファイル編集については、「3.42.2 監視プロファイル編集」を参照してください。
IP アドレス	SystemMonitor性能監視のサービスが動作する管理サーバのIPアドレスを指定します。
ポート番号	SystemMonitor性能監視のサービスに接続するためのポート番号を指定します。SystemMonitor性能監視インストール直後のポート番号の既定値は、(26200) です。
アカウント	グループで稼動するホストのOSアカウントのユーザ名を入力します。ここで入力したアカウントは、SystemMonitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。
パスワード	グループで稼動するホストのOSアカウントのパスワードを入力します。ここで入力したアカウントは、SystemMonitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。

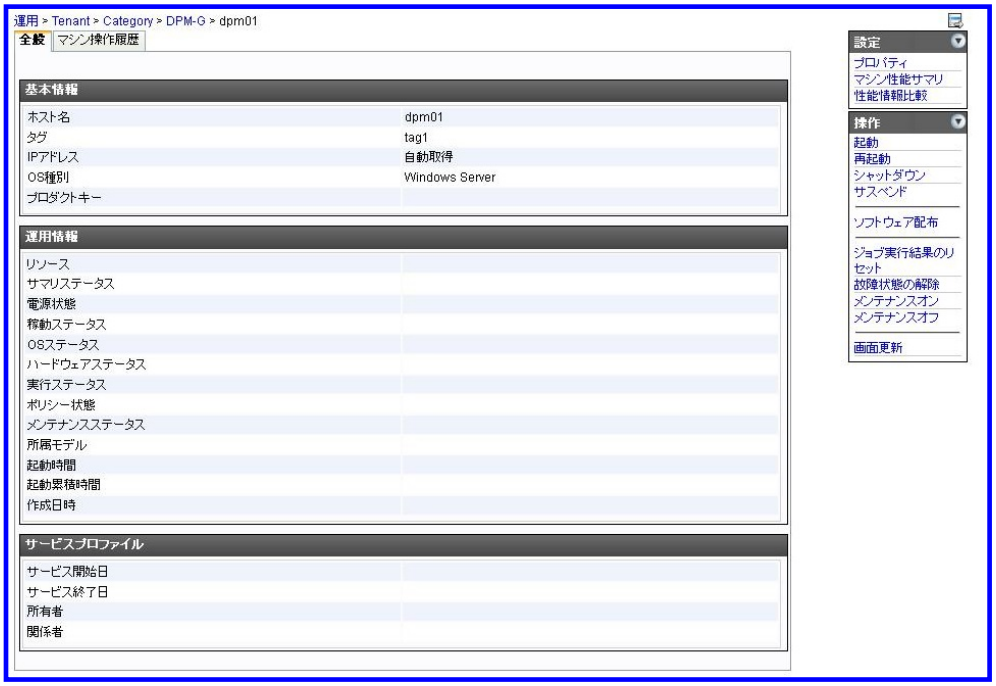
		パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
	[適用]		性能監視情報を適用します。
	[戻る]		性能監視情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

4.13. ホストの詳細情報

ホストの詳細情報を表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから [ホスト名] をクリックすると、メインウィンドウにホストの詳細情報が表示されます。

◆ [全般] タブ



基本情報	
ホスト名	ホスト名を表示します。
タグ	ホストのタグ (キーワード) を表示します。
IP アドレス	ホストのIPアドレスを表示します。
OS 種別	ホストのOS種別を表示します。
プロダクトキー	ホストのプロダクトキーを表示します。
運用情報	
リソース	ホストで運用しているリソースを表示します。
サマリステータス	リソースのサマリステータスを表示します。
電源状態	リソースの電源状態を表示します。
稼動ステータス	リソースの稼動ステータスを表示します。
OS ステータス	リソースのOSステータスを表示します。
ハードウェアステータス	リソースのハードウェアステータスを表示します。

	実行ステータス	リソースのハードウェアステータスを表示します。
	ポリシー状態	リソースのポリシー状態を表示します。
	メンテナンスステータス	リソースのメンテナンスステータスを表示します。
	所属モデル	リソースの所属モデルを表示します。
	起動時間	リソースの起動時間を表示します。
	起動累積時間	リソースの起動累積時間を表示します。
	作成日時	リソースの作成時間を表示します。
サービスプロファイル		
	サービス開始日	サービスプロファイルに設定されたサービス開始日時を表示します。
	サービス終了日	サービスプロファイルに設定されたサービス終了日時を表示します。
	所有者	サービスプロファイルに設定された所有者を表示します。
	関係者	サービスプロファイルに設定された関係者を表示します。

注:

・[起動時間]、[起動累積時間] に表示される時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

・サービスプロファイルにサービス開始日を設定せずマシンが稼動状態となった場合、[サービス開始日] には対象マシンが運用グループに登録された日時が表示されます。

◆ [マシン操作履歴] タブ

基本情報		
	名前	マシン名を表示します。
	UUID	マシンのUUIDを表示します。

登録日時	登録日時を表示します。
操作履歴一覧	
リビジョン	リビジョンを表示します。
リビジョン開始日時	リビジョン開始日時を表示します。
起動時間	起動時間を表示します。
運用グループ登録時間	運用グループ登録時間を表示します。
詳細	詳細アイコンを表示します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

[詳細] をクリックすると、メインウィンドウにマシン操作履歴の詳細情報が表示されます。

注:

・[起動日時]、[起動時間] といった時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

・[プロファイル情報] グループボックスは、リビジョン内にプロファイルが存在する場合、表示されます。

基本情報	
名前	マシンの名前を表示します。
UUID	マシンのUUIDを表示します。
登録日時	登録日時を表示します。
リビジョンの開始日時	リビジョン開始日時を表示します。

リビジョンの終了日時	リビジョン終了日時を表示します。
稼動グループ	稼動グループを表示します。
リソースプール	リソースプールを表示します。
サービス開始日時	サービス開始日時を表示します。
サービス終了日時	サービス終了日時を表示します。
運用情報	
起動日時	起動日時を表示します。
停止日時	停止日時を表示します。
サスペンド日時	サスペンド日時を表示します。
運用グループ登録日時	運用グループ登録日時を表示します。
運用グループ解除日時	運用グループ解除日時を表示します。
構成変更日時	構成変更日時を表示します。
ソフトウェア収集日時	ソフトウェア収集日時を表示します。
起動時間	起動時間を表示します。
運用グループ登録日時	運用グループ登録時間を表示します。
起動累積時間	起動累積時間を表示します。
運用グループ登録累積時間	運用グループ登録累積時間を表示します。
プロファイル情報	
CPU	
CPU 数	仮想マシンに割り当てられた仮想CPU数を表示します。
CPU シェア	仮想マシンに適用されたCPUシェア値を表示します。
CPU 予約	仮想マシンに適用されたCPU予約値を表示します。
CPU リミット	仮想マシンに適用されたCPUリミット値を表示します。
メモリ	
メモリサイズ	仮想マシンに適用されたメモリサイズ値を表示します。
メモリシェア	仮想マシンに適用されたメモリシェア値を表示します。
メモリ予約	仮想マシンに適用されたメモリ予約値を表示します。
メモリリミット	仮想マシンに適用されたメモリリミット値を表示します。
ネットワーク	
NIC 番号	仮想マシンに適用された仮想NICの番号を表示します。
NIC 名	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの名前を表示します。
接続先デバイス	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの接続先デバイス名を表示します。

		MAC アドレス	仮想マシンに割り当てられた仮想NICのMACアドレスを表示します。
		接続状態	仮想マシンに割り当てられた仮想NICの接続状態を表示します。
	ディスク		
		名前	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクの名前を表示します。
		サイズ(GB)	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクのサイズ (GB) を表示します。
		データストア	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクが格納されているデータストアを表示します。
		タイプ	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクタイプを表示します。
		用途	仮想マシンに割り当てられた仮想ディスクの使用用途の種類を表示します。
[戻る]			元のウィンドウに戻ります。

4.14. ホスト設定

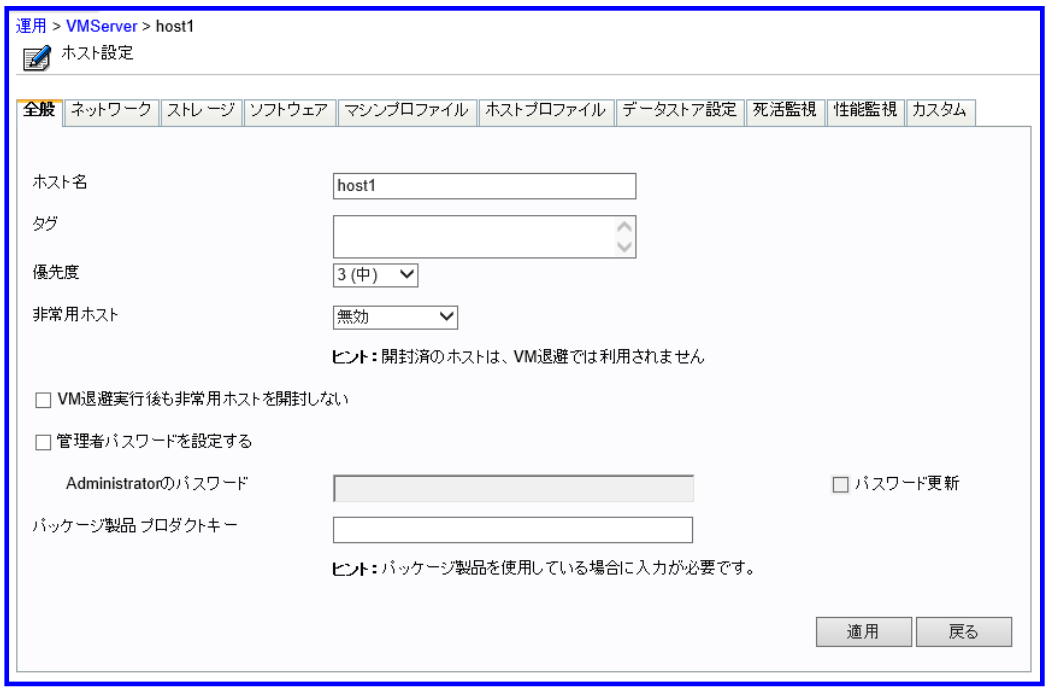
ホストの表示、設定を行います。

[運用] ツリーから運用グループのアイコンをクリックし、[ホスト一覧] グループボックスから [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [プロパティ] をクリックします。

4.14.1. [全般] タブ

ホスト全般に関する情報の表示、設定を行います。

注: ホスト設定にマシンが割り当たっている場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。



全般	
ホスト名 **(入力必須)**	ホスト名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は63文字以内です。
タグ	タグ (キーワード) を表示し、編集もできます。入力できる文字数は1200文字以内です。
優先度	優先度の値を選択します。優先度の設定により、複数マシン起動時の起動順序、VM退避時の仮想マシンの移動順序、VM退避時の非常用ホストの使用順序について、制御することができます。

非常用ホスト	非常用ホストを設定する場合に選択します。「有効」に設定した場合、非常用ホストに設定されます。開封された非常用ホストは、「有効 (開封済)」に設定され、VM退避以外の操作で利用されます。マシン種別が [VMサーバ] の場合のみ表示されます。
VM 退避実行後も非常用ホストを開封しない	非常用ホストに設定されている場合で、VM退避処理の実行後に非常用ホストを開封しない場合に設定します。マシン種別が [VMサーバ] の場合のみ表示されます。
VM サーバの起動に連動して自動的に起動する	ホスト仮想マシンサーバの起動時に自動的に仮想マシンを起動する場合は、チェックボックスをオンにします。マシン種別が [VM] の場合のみ表示されます。
管理者パスワードを設定する	管理者パスワードを設定する場合に選択します。
(Windows Server、または Windows Client の場合) **Administrator のパスワード** **(Linux の場合)** **Root のパスワード**	OSがWindows Server、またはWindows Clientの場合、Administratorのパスワード、Linuxの場合、Rootパスワードを表示し、編集もできます。[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、入力します。
パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。[ホストに設定されている管理者パスワードを使用する] が選択されている場合に限り、チェックボックスをオンにできます。
パッケージ製品プロダクトキー	パッケージ製品プロダクトキーを表示し、編集もできます。OSがLinuxの場合は、本項目は表示されません。
[適用]	ホスト設定情報を適用します。
[戻る]	ホスト設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.14.2. [ネットワーク] タブ

ホストのネットワークに関する情報の表示、設定を行います。

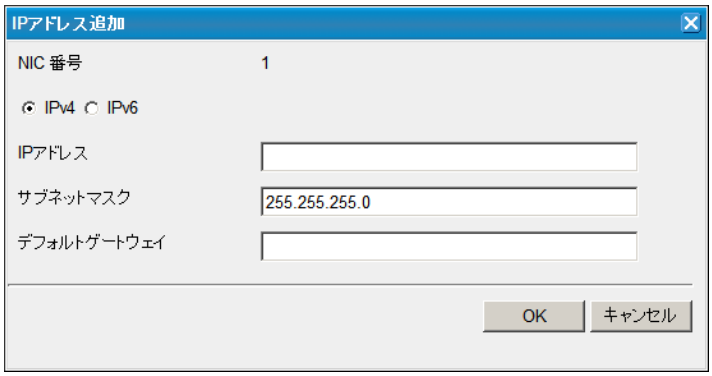
注: ホスト設定にマシンが割り当たっている場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。

ネットワーク		
	NIC 一覧	
	NIC 番号	NIC番号を表示します。
	IP アドレス	IPアドレスを表示します。1つのNICに複数のIPアドレスを設定できます。ただし、vCenter Serverを利用した固有情報反映の場合、1つ目のIPアドレスは無視されます。
	マスク / プレフィックス長	サブネットマスク、またはサブネットプレフィックス長を表示します。
	デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを表示します。
	編集	IPアドレス設定を編集します。[IPアドレス設定] グループボックスがNIC一覧の下部に表示されます。
	追加	IPアドレス設定情報を追加します。NIC一覧の下部に [IPアドレス設定] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したIPアドレス設定情報をNIC一覧から削除します。
	管理用 IP アドレス	管理用IPアドレスを選択します。管理用IPアドレスが [なし] に設定されているホストは、ESMPRO/ServerManagerに自動登録されません。そのため、ESMPRO/ServerManagerによる障害の検出を契機とした障害復旧処理を行うことができません。 SystemProvisioningは、本管理用IPアドレスを指定して管理対象マシンを自動的にESMPRO/ServerManagerに登録します。 SystemMonitor性能監視は、ここで指定する管理用IPアドレスを取得し、SystemMonitor性能監視が監視対象マシンへ接続する際のアドレスとして使用します。
	[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

[NIC 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、NIC 一覧の下部に [NIC 設定] グループボックスが表示されます。

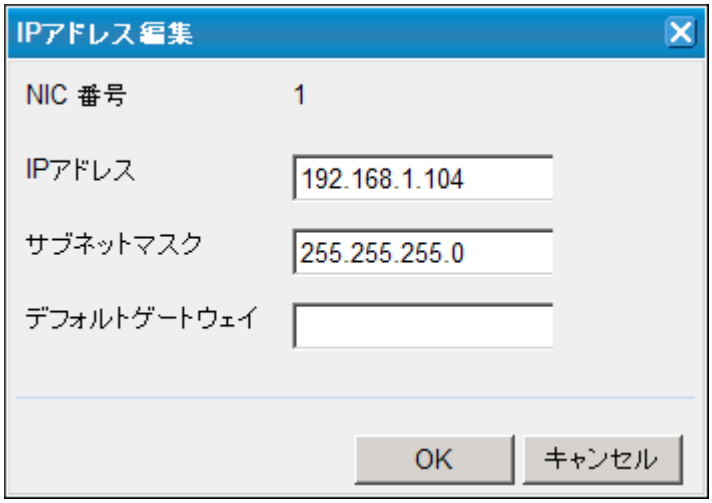
NIC 設定	
NIC 番号	NIC番号を選択します。
IP アドレス	IPアドレスを表示し、編集もできます。1つのNICに対して複数のIPアドレスを設定することができます。 マシン種別が [VMサーバ] の場合、NIC#1の1番目に登録されたIPアドレスが仮想マシンサーバのIPアドレスになります。NIC#1の2番目に登録されたIPアドレスは、VMotion用のIPアドレスとして設定されます。
マスク / プレフィックス長	サブネットマスク、またはサブネットプレフィックス長を表示し、編集もできます。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを表示し、編集もできます。
編集	IPアドレス設定を編集します。「IPアドレス編集」ダイアログボックスが表示されます。
追加	対象NICにIPアドレス設定を追加します。「IPアドレス追加」ダイアログボックスが表示されます。
削除	チェックボックスを選択したIPアドレス設定情報をNIC設定から削除します。
[OK]	設定したIPアドレスを対象NICに追加し、IPアドレスの一覧に表示します。
[キャンセル]	IPアドレス設定情報を保存せずに、[IPアドレス設定] グループボックスを閉じます。

[NIC 番号] プルダウンボックスから NIC 番号を選択し、[NIC 設定] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、「IP アドレス追加」ダイアログボックスが表示されます。



IP アドレス追加	
NIC 番号	NIC番号が表示されます。
IPv4	IPv4の入力画面を表示します。
IPv6	IPv6の入力画面を表示します。
IP アドレス	IPアドレスを入力します。
サブネットマスク	サブネットマスクを表示し、編集もできます。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
[OK]	IPアドレス追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	IPアドレス追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[NIC 番号] プルダウンボックスから NIC 番号を選択し、[NIC 設定] グループボックスから編集する IP アドレスの [編集] をクリックすると、「IP アドレス編集」ダイアログボックスが表示されます。



IP アドレス編集	
NIC 番号	NIC番号が表示されます。
IP アドレス	IPアドレスを表示し、編集もできます。
サブネットマスク	サブネットマスクを表示し、編集もできます。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを表示し、編集もできます。
[OK]	IPアドレス編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	IPアドレス編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.14.3. [ストレージ] タブ (マシン種別 [物理]、[VM サーバ] の場合のみ)

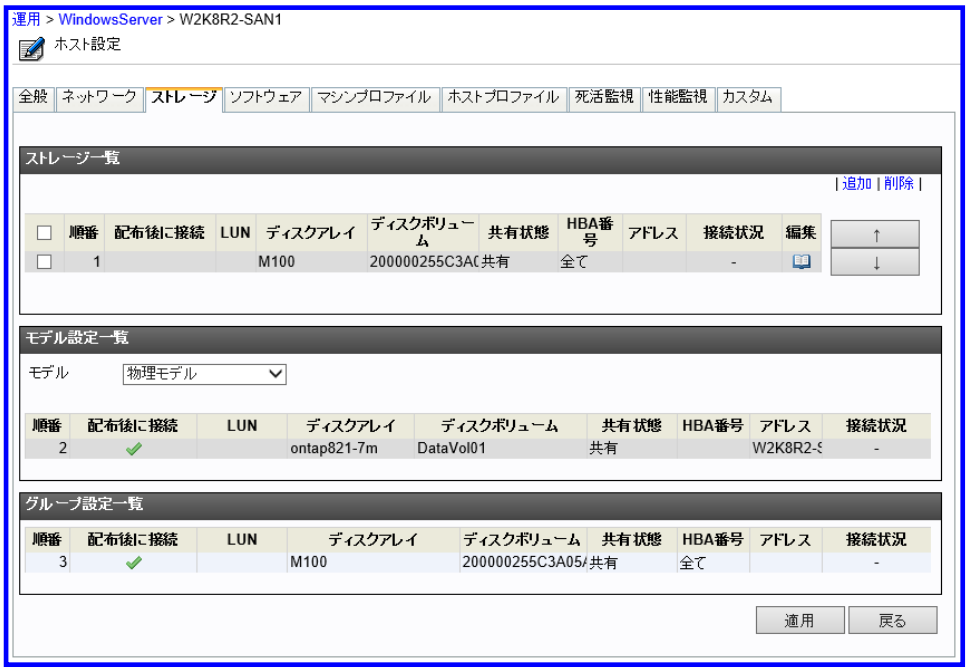
ホストのストレージに関する情報の表示、設定を行います。

マシン種別に [物理]、[VM サーバ] が設定されている場合に、[ストレージ] タブが表示されます。

注:

・ホスト設定にマシンが割り当たっている場合は、SigmaSystemCenter のメンテナンスモードを有効にしてください。

・グループにモデルが追加されていない場合、[モデル設定一覧] グループボックスは表示されません。



ストレージ

ストレージ一覧

順番	ホストへのディスクボリューム接続順序を表示します。
配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
LUN	LUNを表示します。
ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
共有状態	共有状態を表示します。
HBA 番号	HBA番号を表示します。
アドレス	ホスト名、またはIPアドレスを表示します。
接続状況	ストレージの接続状況を表示します。
編集	ディスクボリュームを編集します。[編集] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
[↑]	チェックボックスを選択したホストに接続するストレージの1つ前に移動します。
[↓]	チェックボックスを選択したホストに接続するストレージの1つ後に移動します。
追加	ディスクボリュームを追加します。[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。
削除	チェックボックスを選択したディスクアレイ設定情報を [ストレージ一覧] グループボックスから削除します。

モデル設定一覧

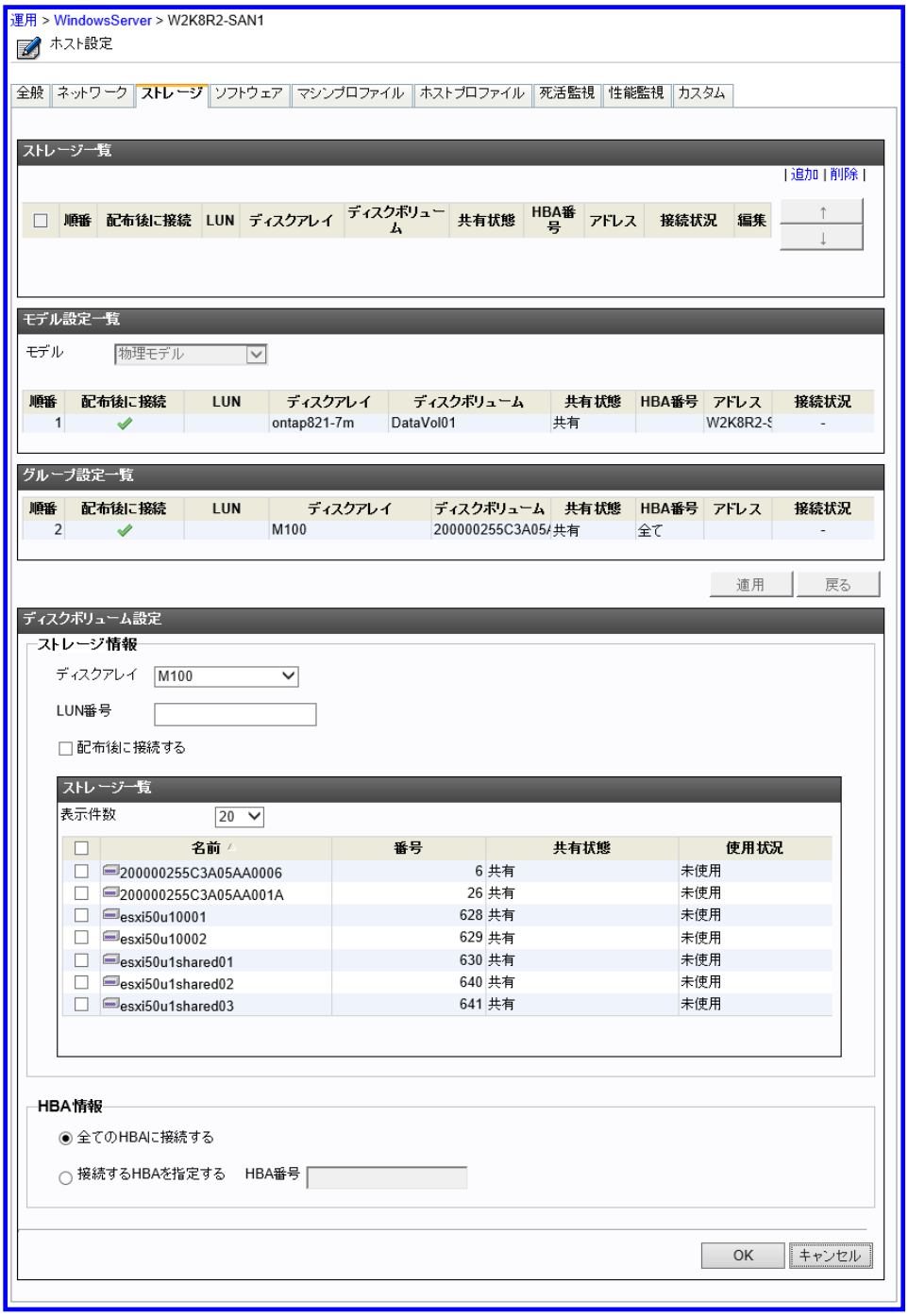
モデル	モデルを選択します。
順番	ホストへのディスクボリューム接続順序を表示します。
配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
LUN	LUNを表示します。
ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
共有状態	共有状態を表示します。
HBA 番号	HBA番号を表示します。
アドレス	ホスト名、またはIPアドレスを表示します。
接続状況	ストレージの接続状況を表示します。

グループ設定一覧

	順番	ホストへのディスクボリューム接続順序を表示します。
	配布後に接続	ディスクボリュームの接続制御の実行タイミングを表示します。
	LUN	LUNを表示します。
	ディスクアレイ	ディスクボリュームが存在するディスクアレイを表示します。
	ディスクボリューム	ディスクボリュームを表示します。
	共有状態	共有状態を表示します。
	HBA 番号	HBA番号を表示します。
	アドレス	ホスト名、またはIPアドレスを表示します。
	接続状況	ストレージの接続状況を表示します。
[適用]		ホスト設定情報を適用します。
[戻る]		ホスト設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。

◆ iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合



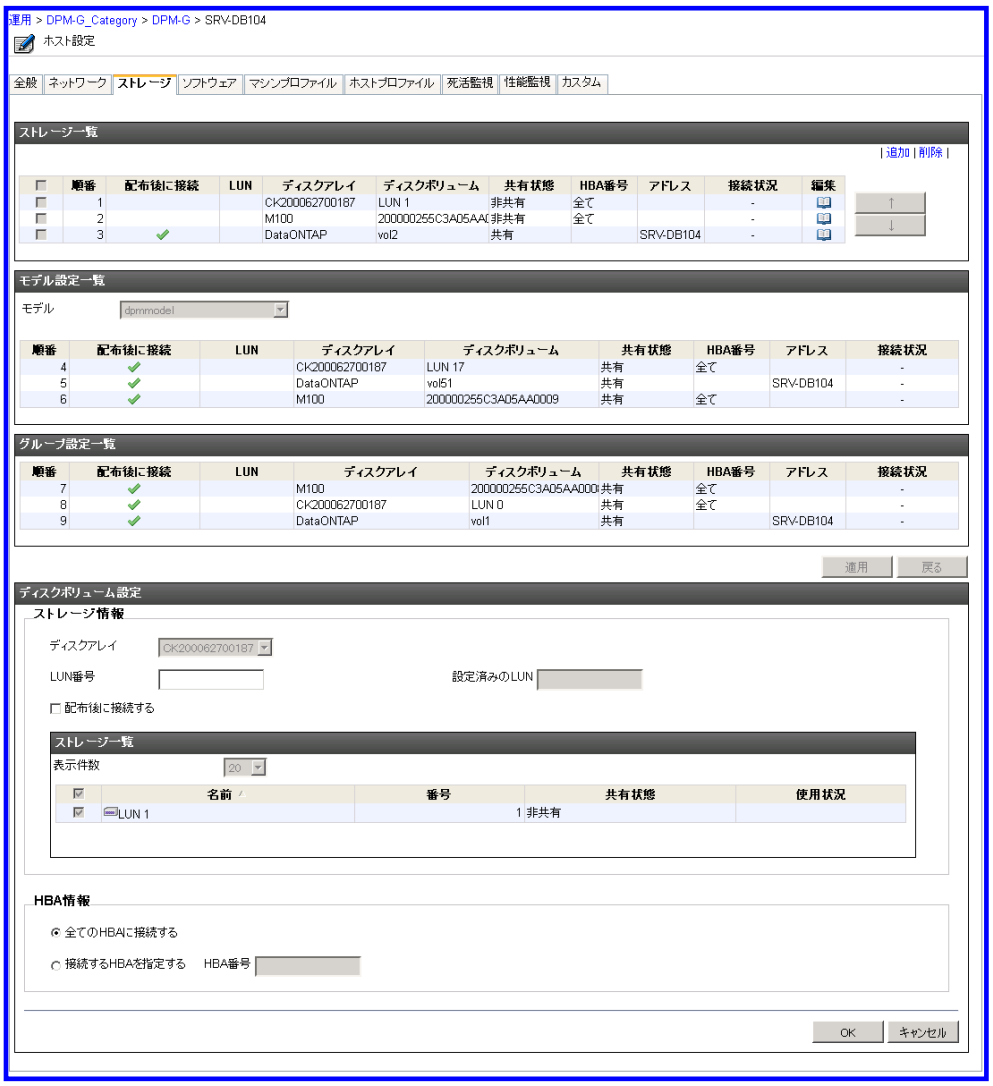
◆ NetApp の場合

ディスクボリューム設定		
ストレージ情報		
	ディスクアレイ	ディスクアレイを選択します。
	LUN 番号	LUN番号を入力します。使用できる文字は半角数字です。Symmetrix、SMI-S、およびNetAppの場合は、入力できません。省略した場合は、自動的にLUN番号が付与されます。

		配布後に接続する	稼動時配布ソフトウェアの配布を行った後にディスクボリュームの接続制御を行う場合に、チェックボックスをオンにします。
		ストレージ一覧	
		名前	ディスクボリュームの名前を表示します。
		番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
		共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
		使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
	HBA 情報 (iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合)		
		全ての HBA に接続する	すべてのHBAに接続する場合に選択します。
		接続する HBA を指定する	接続するHBAを指定する場合に選択します。
		HBA 番号	HBA番号を入力します。[接続するHBAを指定する] を選択している場合に限り、入力できます。
	ネットワーク情報 (NetApp の場合)		
		公開先ホストの IP アドレスを指定する	接続するホスト名、またはIPアドレスを選択します。
[OK]			設定したディスクボリュームを追加し、[ストレージ一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]			ディスクボリューム設定情報を保存せずに、[ディスクボリューム設定] グループボックスを閉じます。

[編集] をクリックすると、[ストレージ一覧] グループボックスの下部に [ディスクボリューム設定] グループボックスが表示されます。

◆ iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合



◆ NetApp の場合

ディスクボリューム設定		
ストレージ情報		
	ディスクアレイ	ディスクアレイを選択します。編集はできません。
	LUN 番号	LUN番号を表示します。使用できる文字は半角数字です。Symmetrix、SMI-S、およびNetAppの場合は、編集できません。
	設定済みの LUN	既に設定されているLUNを表示します。編集はできません。Symmetrixの場合は、表示されません。
	配布後に接続する	稼動時配布ソフトウェアの配布を行った後にディスクボリュームの接続制御を行う場合に、チェックボックスをオンにします。
	ストレージ一覧	
		名前 ディスクボリュームの名前を表示します。

番号	ディスクボリュームの番号を表示します。
共有状態	ディスクボリュームの共有状態を表示します。
使用状況	ディスクボリュームの使用状況を表示します。
HBA 情報 (iStorage、CLARiX、Symmetrix、SMI-S の場合)	
全ての HBA に接続する	すべてのHBAに接続する場合に選択します。
接続する HBA を指定する	接続するHBAを指定する場合に選択します。
HBA 番号	HBA番号を入力します。[接続するHBAを指定する] を選択している場合に限り、編集できます。
ネットワーク情報 (NetApp の場合)	
公開先ホストの IP アドレスを指定する	接続するホスト名、またはIPアドレスを表示し、編集もできます。
[OK]	ディスクボリューム編集情報を保存し、[ストレージ一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ディスクボリューム編集情報を保存せずに、[ディスクボリューム設定] グループボックスを閉じます。

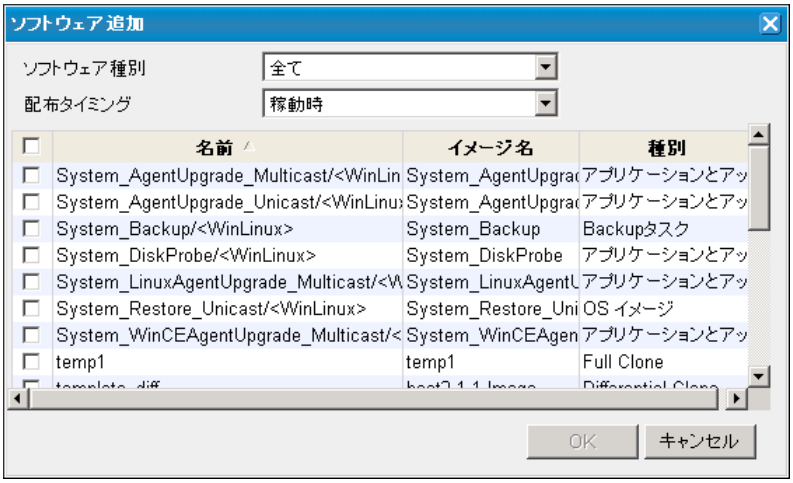
4.14.4. [ソフトウェア] タブ

ホストのソフトウェアに関する情報の表示、設定を行います。

ソフトウェア	
ソフトウェア一覧	
名前	ホストに設定されているソフトウェアの一覧を表示します。 ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。

	配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを表示します。
	詳細設定	シナリオの種別が以下の場合、編集アイコンが表示されます。 (1) アプリケーションとアップデートの場合 (2) Differential Clone、またはDisk Cloneのイメージの場合 (3) ファイルの場合 編集アイコンをクリックすると、それぞれのグループボックス画面が表示されます。 (1) [コマンドオプション設定] グループボックスが表示され、コマンドオプションを指定することができます。また、[コマンド実行結果をジョブ結果に反映する] チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。 (2) [イメージ変更] グループボックスが表示され、イメージを変更することができます。 (3) [ファイル詳細設定] グループボックスが表示され、配信先フォルダを変更することができます。
	[↑]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	[↓]	チェックボックスを選択した配布ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。 異なる配布タイミング間での配布順序の変更はできません。
	追加	ソフトウェアを追加します。[ソフトウェア一覧] グループボックスの下部に [ソフトウェア追加] グループボックスが表示されます。
	削除	チェックボックスを選択したソフトウェア情報を [ソフトウェア一覧] グループボックスから削除します。
[適用]		ホスト設定情報を適用します。
[戻る]		ホスト設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

[追加] をクリックすると、「ソフトウェア追加」ダイアログボックスが表示されます。



ソフトウェア追加	
ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイルの中から選択できます。
配布タイミング	ソフトウェアの配布のタイミングを、稼動時・グループ配布前 / 稼動時 / 稼動時・グループ配布後 / 待機時・グループ配布前 / 待機時 / 待機時・グループ配布後 / 待機時・シャットダウン後 / (用途別) 置換時 / リソース割り当て時 / バックアップ実行時 / リストア実行時 / 起動実行時、(用途別ー論理マシン) 構築時 / 解体時から選択します。
名前	SigmaSystemCenterに登録されているソフトウェア名の一覧を表示します。
イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
[OK]	チェックボックスを選択したソフトウェアを追加し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ソフトウェア追加情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

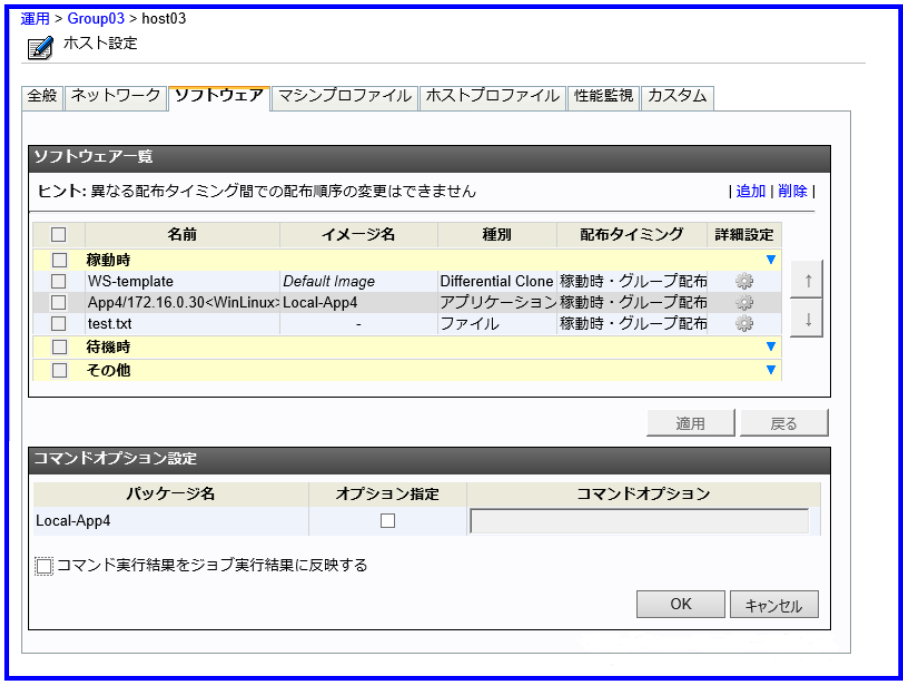
注:

・仮想マシンのテンプレートは、ある仮想マシンサーバに登録されているテンプレートが利用できない場合に、別の仮想マシンサーバに登録されているテンプレートを利用するように複数のテンプレートを設定しておくことができます。設定するテンプレートは同じイメージのテンプレートを設定してください。

・DeploymentManager の機能を利用して仮想マシンを作成する場合は、HW Profile Clone 用のテンプレートを登録してください。また、タイプが異なる仮想マシンのテンプレートを混在して登録はできません。Differential Clone 用のテンプレートの場合は、スタンドアロン ESXi 環境と VMware vCenter Server 環境で作成したテンプレートも混在して登録できません。

[詳細設定] の編集アイコンをクリックすると、[ソフトウェア一覧] グループボックス下部に [コマンドオプション設定] グループボックス、[イメージ変更] グループボックス、もしくは [ファイル詳細設定] グループボックスが表示されます。

<コマンドオプション設定の場合>



コマンドオプション設定	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。 コマンドオプションは、半角文字で128文字まで指定可能です。

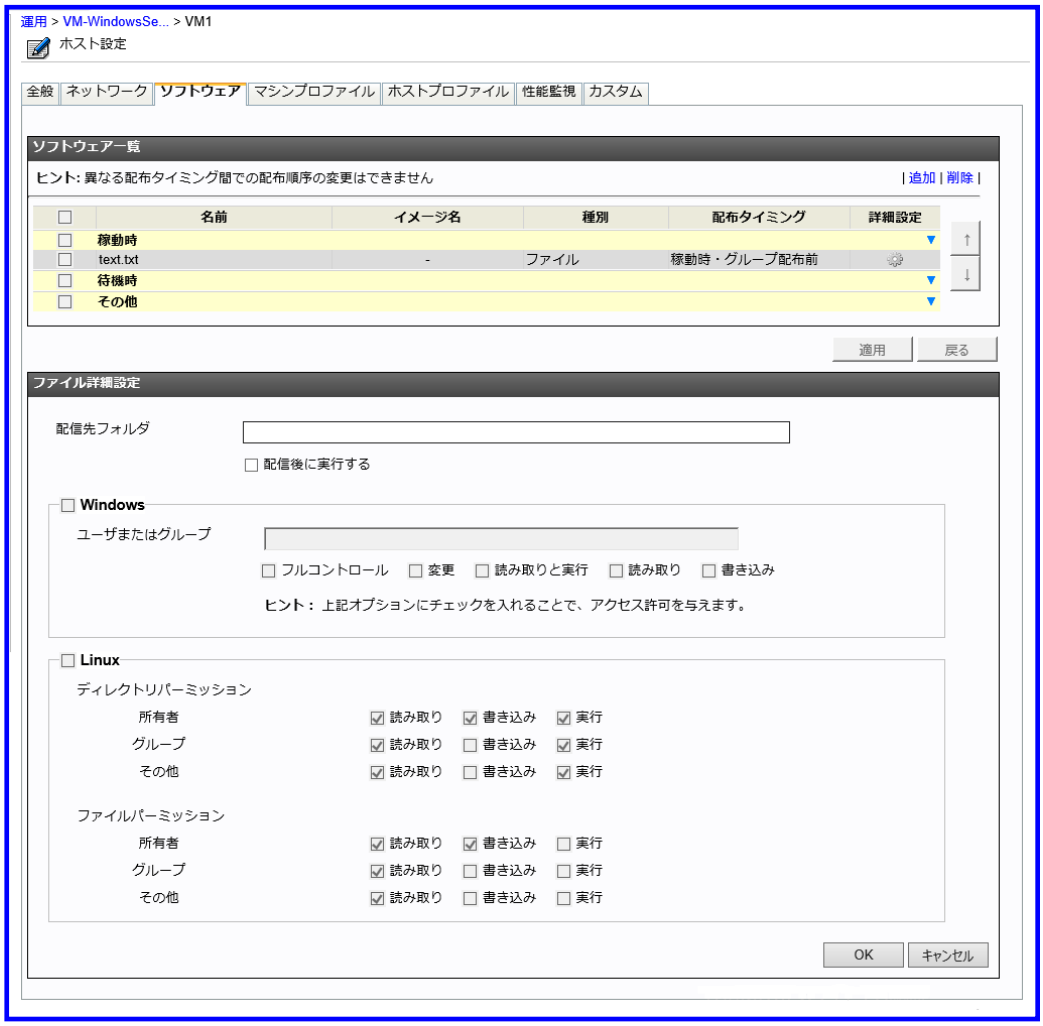
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。
[OK]	コマンドオプション設定を保存し、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	コマンドオプション設定を保存せずに、[コマンドオプション設定] グループボックスを閉じます。

<イメージ変更の場合>

イメージ変更	
(ラジオボタン)	新たに使用するイメージを選択します。
イメージ名	イメージ名を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。
スナップショット	スナップショット名を表示します。
作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
格納場所	イメージの保存先データストア名を表示します。
参照 VM 数	参照する仮想マシンの数を表示します。 Differential Cloneテンプレートの場合のみ表示されます。
[デフォルトイメージを使用する]	イメージを固定せずにテンプレートのデフォルトイメージを使用する場合に選択します。

[OK]	選択したラジオボタンのイメージをソフトウェアに設定し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ変更情報を保存せずに、[ソフトウェア追加] グループボックスを閉じます。

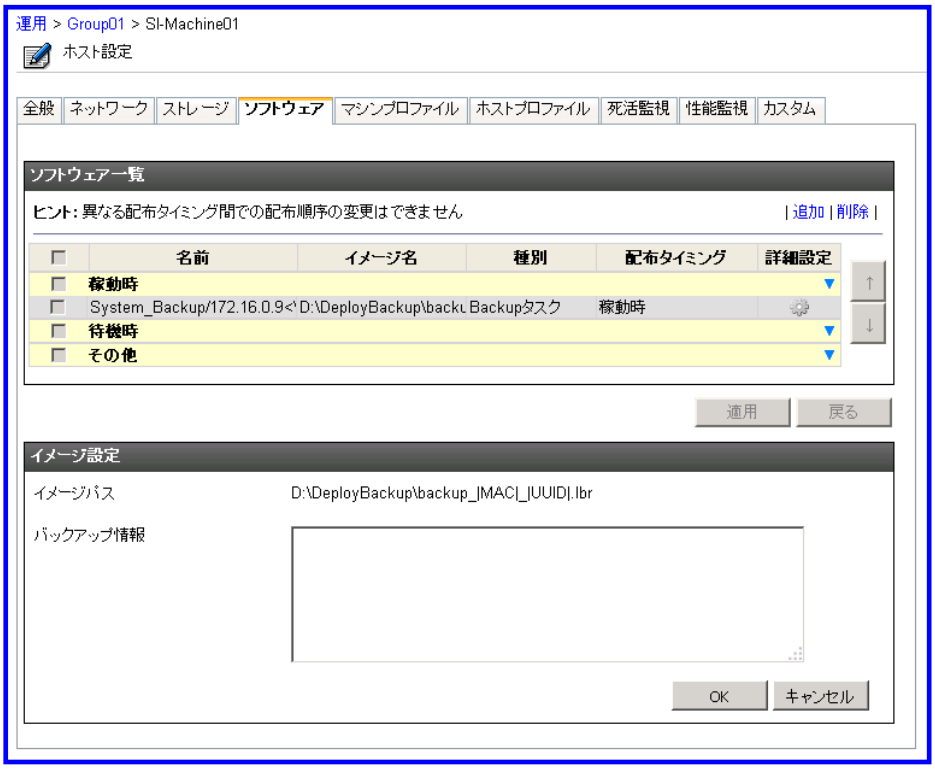
<ファイル詳細設定の場合>



ファイル詳細設定	
配信先フォルダ	配信先フォルダのパスを設定します。[配信先フォルダ] テキストボックスに何も入力されていない場合は、[ファイル詳細設定] の設定内容は保存されません。
配信後に実行する	ファイルを配信して実行する場合にチェックボックスをオンにします。VMwareの仮想マシンに配信する場合のみ有効です。
Windows	配信先がWindowsでファイルにアクセス許可を設定する場合にチェックボックスをオンにします。
ユーザまたはグループ	配信するファイルのアクセス許可を設定するユーザ、またはグループ名を入力します。

フルコントロール	配信するファイルにフルコントロールのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。フルコントロールのチェックボックスをオンにすると変更、読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
変更	配信するファイルに変更のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。変更のチェックボックスをオンにすると読み取りと実行、読み取り、書き込みにもチェックが入ります。
読み取りと実行	配信するファイルに読み取りと実行のアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。読み取りと実行のチェックボックスをオンにすると読み取りにもチェックが入ります。
読み取り	配信するファイルに読み取りのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
書き込み	配信するファイルに書き込みのアクセス許可を与える場合にチェックボックスをオンにします。
Linux	配信先がLinuxでファイルや配信先のディレクトリのパーミッションを指定する場合にチェックボックスをオンにします。
ディレクトリパーミッション ※配信先フォルダのディレクトリのパーミッションを指定します (ディレクトリが既に存在する場合は、パーミッションは変更されません)。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
ファイルパーミッション ※配信するファイルのパーミッションを指定します。	
所有者	所有者に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
グループ	グループに設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
その他	その他に設定するパーミッションを指定します。設定するパーミッションのチェックボックスをオンにします。
[OK]	ファイルの詳細設定を保存し、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。
[キャンセル]	ファイルの詳細設定を保存せずに、[ファイル詳細設定] グループボックスを閉じます。

<バックアップの場合>



イメージ設定	
イメージパス	バックアップのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

<リストアの場合>

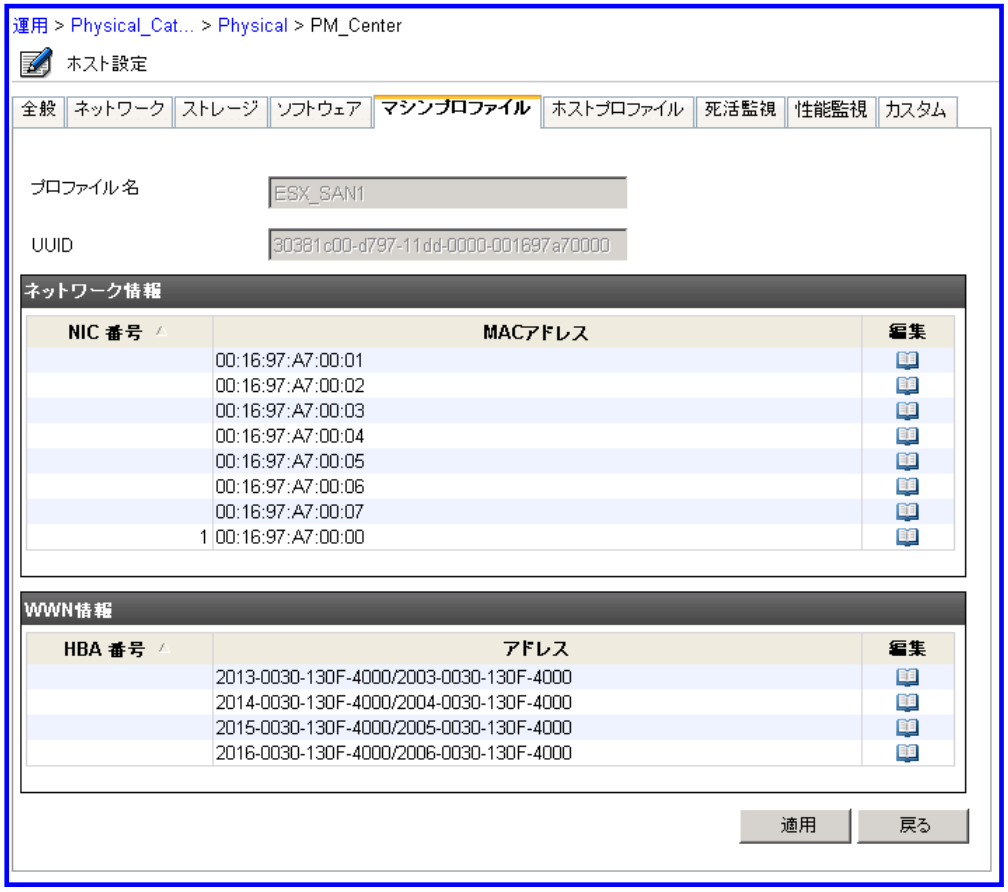
イメージ選択	
イメージパス	リストアのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオに設定されているイメージを選択する場合は、「デフォルトイメージを使用する」を選択します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
[OK]	イメージ選択情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ選択情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

4.14.5. [マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [物理]、[VM サーバ] の場合)

ホストのマシンプロファイルを設定します。

論理マシン運用を行わない場合、本画面でのマシンプロファイル設定は必要ありません。

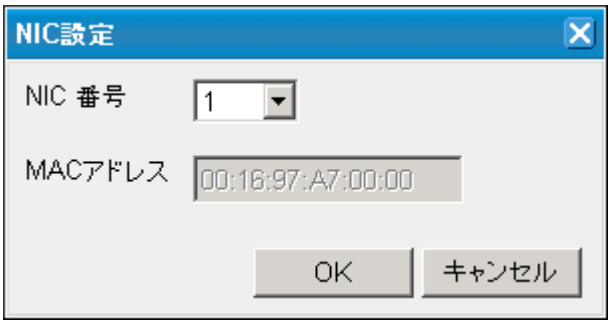
関連情報: 論理マシン運用を行う場合の環境構築方法については、「SigmaSystemCenter ブートコンフィグ運用ガイド」を参照してください。



マシンプロファイル	
プロファイル名	適用するプロファイル名を表示します。
UUID	UUIDを表示します。
ネットワーク情報	マシンに割り当てるNICのNIC番号を設定します。設定を変更する場合、[編集] をクリックします。
NIC 番号	NIC番号を表示します。
MAC アドレス	MACアドレスを表示します。
[編集]	NIC番号を編集します。「NIC設定」ダイアログボックスが表示されます。
WWN 情報	マシンに割り当てるHBAのHBA番号を設定します。設定を変更する場合、[編集] をクリックします。
HBA 番号	HBA番号を表示します。

	アドレス	アドレスを表示します。
	[編集]	HBA番号を編集します。「HBA設定」ダイアログボックスが表示されます。
[適用]		マシンプロファイル設定情報を適用します。
[戻る]		マシンプロファイル設定情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

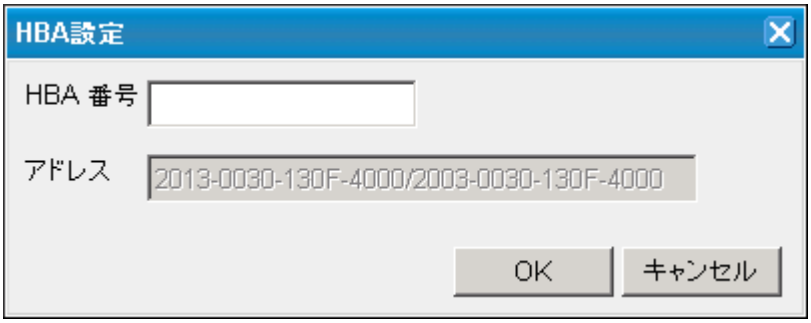
[ネットワーク情報] グループボックスから [編集] をクリックすると、「NIC 設定」ダイアログボックスが表示されます。



NIC 設定	
NIC 番号	NIC番号を設定します。
MAC アドレス	MACアドレスを表示します。
[OK]	NIC設定情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	NIC設定情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

注: NIC 番号に 1 を設定する MAC アドレスは、DeploymentManager で使用する MAC アドレスと一致している必要があります。

[WWN 情報] グループボックスから [編集] をクリックすると、「HBA 設定」ダイアログボックスが表示されます。



HBA 設定	
HBA 番号	HBA番号を入力します。ディスクボリュームの設定を行う場合に、ここで設定したHBA番号を指定します。「0～9999」の範囲で設定できます。
アドレス	WWNを表示します。
[OK]	HBA設定情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	HBA設定情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.14.6. [マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合)

ホストのマシンプロファイルを設定します。

マシンプロファイルとは、新規に作成する仮想マシンや再構成する仮想マシンのハードウェアスペックを指定する設定です。新規リソース割り当て、または再構成の操作を実行したとき、マシンプロファイルで定義したハードウェアスペックを持つ仮想マシンが作成されます。

マシンプロファイルの設定は、グループプロパティ設定、モデルプロパティ設定、ホスト設定の [マシンプロファイル] タブで行うことができます。各階層間の関係は、グループ < モデル < ホストの定義で優先されるようになっています。個々のホストに対して、個別のマシンプロファイルを設定したい場合にホスト設定で設定します。設定を行わない場合は、モデルプロパティ設定、グループプロパティ設定優先順に設定されているマシンプロファイル設定が使用されます。

[リソース] ビューで作成したマシンプロファイル設定を適用する、または引用して一部を変更し、設定を行うこともできます。

ホスト設定のマシンプロファイルの既定値は、モデルプロパティ設定、グループプロパティ設定の順に設定されているマシンプロファイルの設定、またはテンプレートの設定値となります。また、グループにモデルが追加されている場合、[モデル] プルダウンボックスが表示されます。モデルを指定すると、指定モデルの設定を既定値として引用することができます。

運用 > VMware > VM_Windows > win7copy

ホスト設定

全般 | ネットワーク | ソフトウェア | マシンプロファイル | ホストプロファイル | 性能監視 | カスタム

モデル: Model

公開されたプロファイルを利用する: Large

既存のプロファイルからコピーする

コスト情報

定義場所: テンプレート

コスト値: 1

CPU情報

定義場所: テンプレート

CPU数: 2

CPUシェア
- 最高(4000)
- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 最低(250)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値* CPU数
Xen	設定値* 256 / 1000
Hyper-V	設定値 / 10
KVM	設定値* 1024 / 1000

CPU予約: 0 MHz

CPUリミット(0=unlimited): 0 MHz

メモリ情報

定義場所: テンプレート

メモリサイズ: 1024 MB

メモリシェア
- 高(2000)
- 標準(1000)
- 低(500)
- 手動で設定する

各仮想基盤の設定値

VMware	設定値* メモリサイズ / 100
Xen	設定不可
Hyper-V	設定値* 5
KVM	設定不可

メモリ予約: 0 MB

メモリリミット(0=unlimited): 0 MB

ネットワーク情報

定義場所: モデル

仮想NIC #1: VM Network

仮想NIC #2: VM Network

[仮想NIC追加]

ディスク情報

システムディスク

定義場所: テンプレート

作成先データストア(省略可): 設定なし

ディスクファイル: 新規に作成する / 既存のディスクを使用する 参照

タイプ: Thin

モード: 独立型 ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ: 32768 MB

拡張ディスク

定義場所

拡張ディスク #1 +

[キャンセル]

作成先データストア(省略可): 設定なし

ディスクファイル: 新規に作成する / 既存のディスクを使用する 参照

タイプ: Thin

モード: 独立型 ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。

サイズ: MB

コントローラ: 自動選択

ディスク番号: 自動選択

構成パラメータ設定

定義場所: ホスト

ヒント：仮想基盤製品ごとに固有の機能を設定できます。

パラメータの設定

適用 | 戻る

マシンプロファイル	
モデル	モデルを選択します。 モデルを選択した場合、選択したモデルに設定されているマシンプロファイル情報と組み合わせた情報が表示されます。 仮想マシンが選択したモデルで稼動する場合に利用される情報を参照したい場合や、モデルに設定した情報をグループ共通情報に設定する場合に使用します。 グループにモデルが追加されている場合に表示されます。
公開されたプロファイルを利用する	公開されているマシンプロファイルをそのまま利用する場合、チェックボックスをオンにし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
既存のプロファイルからコピーする	公開されているマシンプロファイルをコピーして利用する場合にクリックし、プルダウンボックスからマシンプロファイルを選択します。
コスト情報	仮想マシンのコストを設定します。
定義場所	コスト情報の設定がある定義場所を表示します。(テンプレート、グループ、モデル、ホスト、Namedプロファイル)
コスト値	コスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	仮想マシンに割り当てるCPU数やCPUの能力を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。ホストで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	CPU情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、ホスト、Namedプロファイル)。
CPU 数	CPU数を入力します。「1～9999」の範囲で設定できます。
CPU シェア	
最高 (4000)	CPUリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * CPU数 Hyper-V： 設定値 / 10 XenServer： 設定値 * 256 / 1000 KVM： 設定値 * 1024 / 1000
高 (2000)	
標準 (1000)	
低 (500)	
最低 (250)	
手動で設定する	CPUリソースの割当優先度を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	CPU予約を入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。「0～99999」の範囲で設定できます。Xen環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。

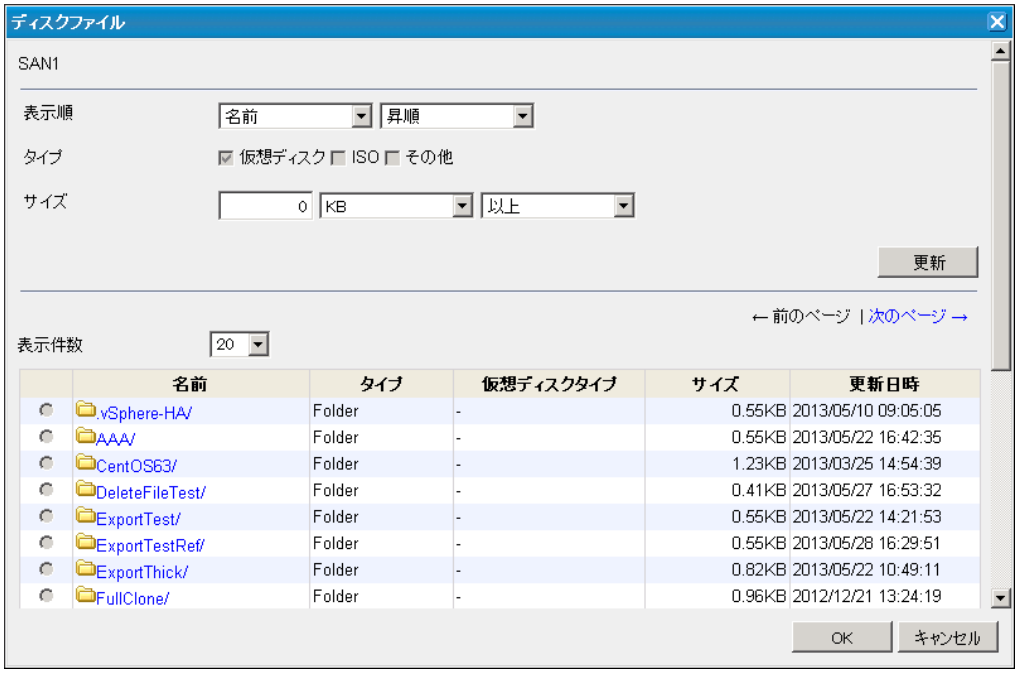
		quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報		仮想マシンに割り当てるメモリの設定を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。ホストで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
	定義場所	メモリ情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、ホスト、Named プロファイル)。
	メモリサイズ	メモリサイズを入力します。「1～99999999」の範囲で設定できます。
	メモリシェア	
	高 (2000)	メモリリソースの割当優先度を設定します。 各仮想化基盤製品に制御を行う際、設定値を使用して以下の計算を行った結果を使用します。 VMware： 設定値 * メモリサイズ / 100 Hyper-V： 設定値 * 5 XenServer, KVM ： 設定不可
	標準 (1000)	
	低 (500)	
	手動で設定する	メモリリソースの割当優先度を設定します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
	メモリ予約	仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。
	メモリリミット (0=unlimited)	仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では、設定は反映されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報		仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。ホストで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
	定義場所	ネットワーク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、ホスト、Namedプロファイル)。
	仮想 NIC #1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANか、[リソース] ビューで作成するネットワークを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」： 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」： 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。

		NetworkName-VLAN:*VlanId* *NetworkName* : 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN: : 固定文字列です。 *VlanId* : 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」: 接続先のネットワークの名前を設定します。
	[仮想 NIC 追加]	マシンプロファイルの仮想NIC設定を追加する場合にクリックします。最大10まで仮想NIC設定を追加することができます。
ディスク情報		
	システムディスク	仮想マシンのOSインストール先となるディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。ホストで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
	定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (テンプレート、グループ、モデル、ホスト、Namedプロファイル)。
	作成先データストア (省略可)	作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
	ディスクファイル	
	新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
	既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
	参照	作成先データストア上のデータストアブラウザを表示します。
	タイプ	Thick / Thinのどちらかを選択します。Hyper-VのDifferential Cloneでは、設定は無効となります。 「Thick」: 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 Xen環境では、設定は反映されません。
	モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。
	サイズ	システムディスクサイズを入力します。「10～99999999」の範囲で設定できます。
	拡張ディスク	データ用のディスクの定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。ホストで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。

定義場所	ディスク情報の設定がある定義場所を表示します (グループ、モデル、ホスト、Namedプロファイル)。
作成先データストア (省略可)	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に作成するディスクのデータの置き場所となるデータストアを指定します。データストアの指定は省略できます。省略した場合は、仮想マシン作成時に自動的に選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
ディスクファイル	
新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
タイプ	Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想) のいずれかを選択します。 「Thick」: 作成時に指定したサイズのディスクを作成します。Xen環境では、設定は反映されません。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。Xen環境では、設定は反映されません。 「RDM (物理)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにします。オンにした場合、ディスクは独立型通常となります。VMware環境のみ有効となる設定です。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。
サイズ	拡張ディスクサイズを入力します。タイプが「Thick」、「Thin」の場合は、「10～99999999」の範囲で設定できます。タイプが「RDM (物理)」、「RDM (仮想)」の場合は、使用するLUN (ディスクボリューム) の条件を10GBの倍数で指定します。指定サイズ以上で指定サイズ +10GB未満のサイズのLUNが候補となります。10GB未満は対象になりません。
コントローラ	作成するディスクの追加先となるコントローラを選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に使用可能なコントローラをSigmaSystemCenterが選択します。
ディスク番号	作成するディスクの追加先となるコントローラ内の番号を選択します。既定では、自動選択が指定されています。自動選択の場合は、ディスク追加時に未使用の番号をSigmaSystemCenterが選択します。
ターゲット LUN (タグ指定、省略可)	タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に、使用するLUN (ディスクボリューム) に設定したタグ (キーワード) を入力します。タグの指定は省略できます。省略した場合は、サイズを元に使用するLUN (ディスクボリューム) が自

	動的に選択されます。
構成パラメータ設定	構成パラメータ設定の定義を行います。設定を変更する場合、チェックボックスをオンにします。グループで設定が行われている場合、チェックボックスはオンで表示されます。
定義場所	構成パラメータ設定がある定義場所を表示します。
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[適用]	マシンプロファイル設定情報を適用します。
[戻る]	マシンプロファイル設定情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

[ディスク情報] グループボックス内の [拡張ディスク] タブの [参照] をクリックすると、「ディスクファイル」ダイアログボックスが表示されます。



ディスクファイル	
表示順	ファイルフォルダの表示する順番を指定します。
タイプ	ファイルは、仮想ディスクのみ表示されます。
サイズ	表示するファイルのサイズを指定します。
[更新]	フォルダ / ファイルの表示を更新します。
名前	フォルダ / ファイルの名前を表示します。
タイプ	フォルダ / ファイルのタイプを表示します。
仮想ディスクタイプ	仮想ディスクの場合、ディスクのタイプを表示します。

	サイズ	フォルダ / ファイルのサイズを表示します。
	更新日時	フォルダ / ファイルの更新日時を表示します。
[OK]		ディスクファイル情報を保存し、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]		ディスクファイル情報を保存せずに、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「4.11.7 [マシンプロファイル] タブ (マシン種別 [VM] の場合のみ)」を参照してください。

4.14.7. [ホストプロファイル] タブ (Windows Server の場合)

Windows Server のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Windows Server) については、「4.11.8 [ホストプロファイル] タブ (Windows Server の場合)」を参照してください。

4.14.8. [ホストプロファイル] タブ (Linux の場合)

Linux のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Linux) については、「4.11.9 [ホストプロファイル] タブ (Linux の場合)」を参照してください。

4.14.9. [ホストプロファイル] タブ (Windows Client の場合)

Windows Client のホストプロファイルを設定します。

[ホストプロファイル] タブ (Windows Client) については、「4.11.10 [ホストプロファイル] タブ (Windows Client の場合)」を参照してください。

4.14.10. [データストア設定] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)

ホストのデータストアに関する情報の表示、設定を行います。

[データストア設定] タブについては、「4.11.13 [データストア設定] タブ (マシン種別 [VM サーバ] の場合のみ)」を参照してください。

4.14.11. [死活監視] タブ

ホストに対して死活監視情報を表示、設定します。

グループプロパティやモデルプロパティで設定した値をホストごとに設定変更することができます。設定の優先順は、ホスト、モデル、グループです。

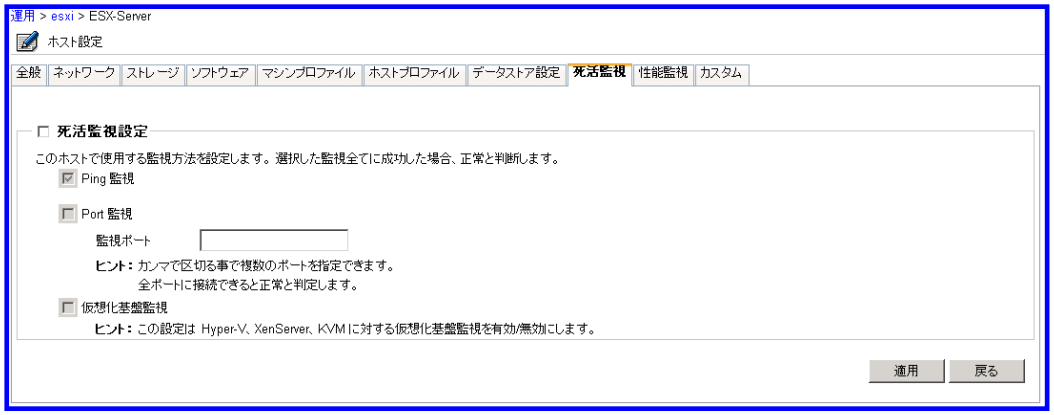
注:

・環境設定の [死活監視] タブの "監視対象モデル種別" で [物理]、[VM サーバ]、[VM] チェックボックスがオンになっている場合、グループのマシン種別が "物理"、"VM サーバ"、"VM" の場合、ホスト設定に表示される [死活監視] タブは、[死活監視機能を有効にする] チェックボックス (SystemProvisioning の監視) の設定ができるようになります。"監視対象モデル種別" で [物理]、[VM サーバ]、[VM] チェックボックスがオフの場合は、ホスト設定で [死活監視] タブは表示されません。

・グループプロパティ設定で、死活監視機能を有効にした場合のみ設定することができます。

・[仮想化基盤監視] チェックボックスは、設定対象のマシン種別が [VM サーバ] の場合にのみ設定できます。

・本設定を行わなかった場合、モデル、グループの順に設定が有効となります。



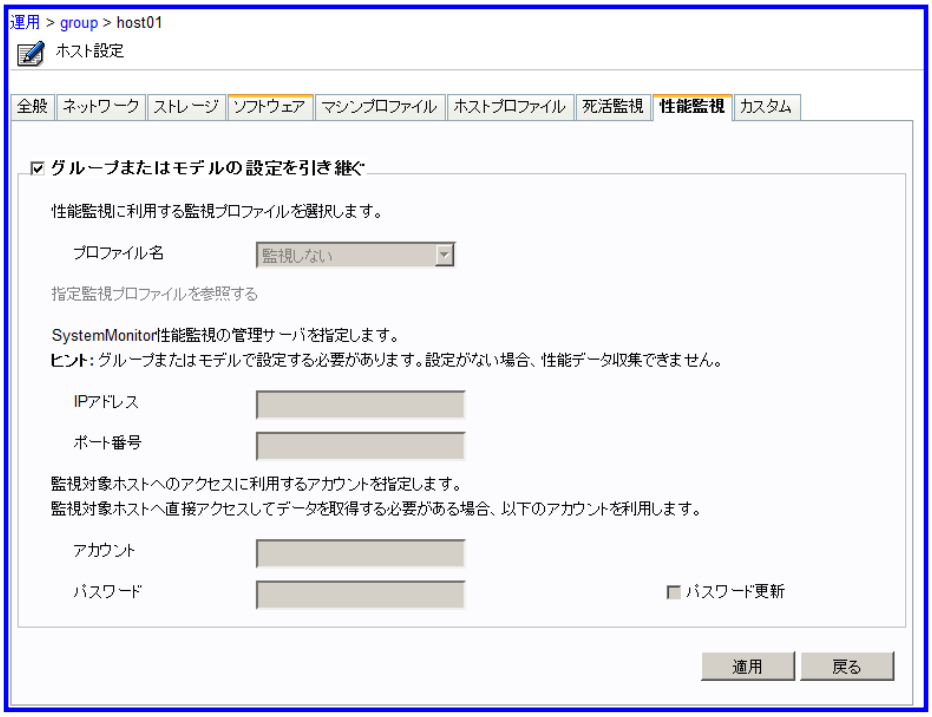
死活監視		
モデル		選択したモデルの設定値を各項目に反映します。また、モデルの選択を変更することで、モデルの設定値を各項目に再設定することができます。 グループにモデルが追加されている場合に表示されます。
死活監視設定		グループプロパティやモデルプロパティ設定で設定した値をホスト単位で変更する場合、チェックボックスをオンにします。
	Ping 監視	Pingで監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	Port 監視	TCP Portに接続可能であるかを監視する場合、チェックボックスをオンにします。
	監視ポート	Port監視を行う場合、監視するTCP Portを指定します。複数指定する場合は、カンマ (,) で区切ります。複数指定した場合、すべてのポートに接続できた場合に "正常" と判断します。

	仮想化基盤監視	仮想マシンサーバに対して仮想化基盤監視を行う場合、チェックボックスをオンにします。モデル種別が [VMサーバ] 以外の場合は、本項目は表示されません。
	[適用]	ホスト設定情報を適用します。
	[戻る]	ホスト設定情報を適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.14.12. [性能監視] タブ

ホストの性能監視に関する設定を行います。

ここでは、SystemMonitor 性能監視で性能データを収集し、Web コンソールで性能グラフを表示するための設定を行います。

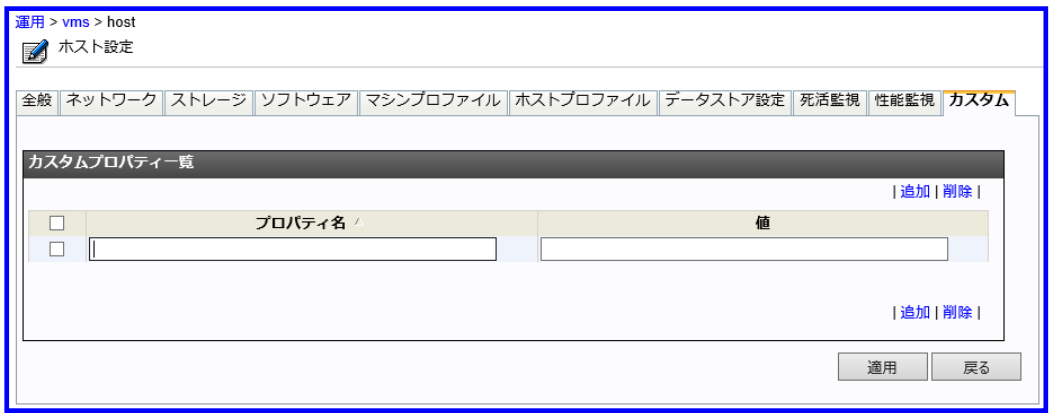


性能監視		
	グループまたはモデルの設定を引き継ぐ	ホストが所属しているグループ、またはモデルの性能情報設定を引き継ぐかどうかを設定します。設定を引き継ぐ場合、チェックボックスをオンにします。ホストにグループ、またはモデルと異なる監視プロファイルとアカウント情報を設定する場合、チェックボックスをオフにしてください。
	プロファイル名	監視プロファイルは、SystemMonitor性能監視でデータを収集する性能項目のセットです。選択するプロファイルによって、SystemMonitor性能監視でデータを収集する性能項目、収集間隔を切り替えることができます。監視プロファイルの詳細については、[指定監視プロファイルを参照する] をクリックし、表示される「監視プロファイル編集」ウィンドウで確認してください。

	指定監視プロファイルを参照する	[プロファイル名] プルダウンボックスで指定した監視プロファイルの「監視プロファイル編集」ウィンドウに遷移します。監視プロファイル編集については、「3.42.2 監視プロファイル編集」を参照してください。
	IP アドレス	SystemMonitor性能監視のサービスが動作する管理サーバのIPアドレスを指定します。
	ポート番号	SystemMonitor性能監視のサービスに接続するためのポート番号を指定します。SystemMonitor性能監視インストール直後のポート番号の既定値は、(26200) です。
	アカウント	グループで稼動するホストのOSアカウントのユーザ名を入力します。ここで入力したアカウントは、SystemMonitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。
	パスワード	グループで稼動するホストのOSアカウントのパスワードを入力します。ここで入力したアカウントは、SystemMonitor性能監視がグループで稼動するホストの性能データを取得する際にアクセスアカウントとして利用します。
	パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
[適用]		性能監視情報を適用します。
[戻る]		性能監視情報を適用せず、元のウィンドウに戻ります。

4.14.13. [カスタム] タブ

カスタムプロパティの表示、および設定を行います。



カスタムプロパティ一覧	
プロパティ名	プロパティ名を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。 半角英数字と "_" のみ指定可能です。 「PVM_」、および数字で始まる文字列は指定できません。

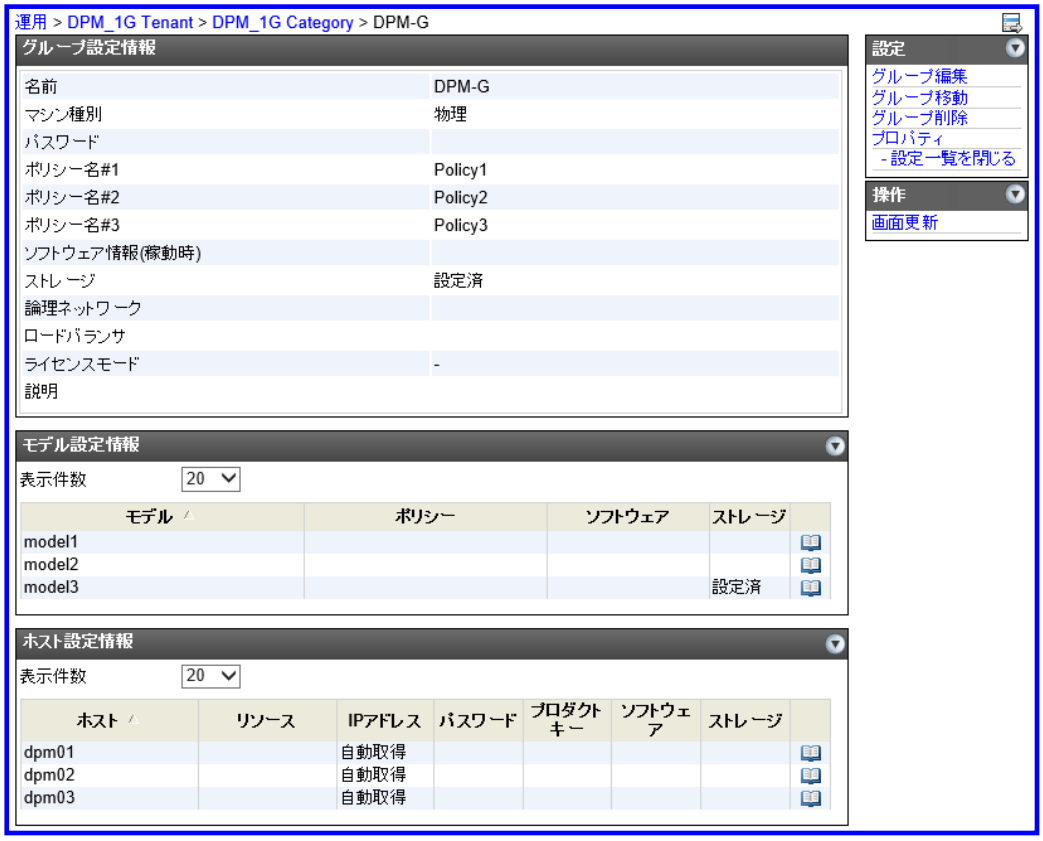
値	値を表示し、編集もできます。 入力できる文字数は、256文字以内です。
追加	カスタムプロパティを設定する欄を追加します。
削除	選択したカスタムプロパティを [カスタムプロパティ一覧] グループボックスから削除します。
[適用]	カスタムプロパティを適用します。
[戻る]	カスタムプロパティを適用せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.15. 設定一覧

運用グループの設定情報の一覧を表示します。

[運用] ツリーから設定一覧を表示する運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [設定一覧] をクリックすると、メインウィンドウに運用グループの設定情報一覧が表示されます。

注: グループにモデルが追加されていない場合、[モデル設定情報] グループボックスは表示されません。



グループ設定情報	
名前	グループ名を表示します。
マシン種別	グループのマシン種別を表示します。
パスワード	[ホストプロファイル] タブの [OS設定] にて設定されている管理者パスワードの有無を表示します。設定されている場合は、"******" が表示されます。
ポリシー名#1	グループに設定されているポリシー名を表示します。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示されます。

リソースプール	グループ、または上位のカテゴリに設定されているリソースプール名を表示します。グループに設定がない場合は、上位のカテゴリに設定されたリソースプール名が表示されます。マシン種別が "VM" の場合のみ表示されます。
DPM 登録	グループ、または上位のテナント / カテゴリに設定されているDPMサーバ設定の有無を表示します。設定されている場合は "ON"、設定されていない場合は "OFF" と表示されます。マシン種別が "VM" の場合のみ表示されます。
最適起動	グループ、または上位のテナント / カテゴリに設定されている最適起動設定の有無を表示します。設定が "有効" の場合は "ON"、設定が "無効"、または "設定なし" の場合は "OFF" と表示されます。マシン種別が "VM" の場合のみ表示されます。
ソフトウェア情報 (稼動時)	グループに設定されているソフトウェアの種類が「マシン稼動時に配布」のソフトウェア名を表示します。
ストレージ	グループプロパティ設定の [ストレージ] タブが設定されているかの有無を表示します。設定されている場合は、"設定済"、設定されていない場合、またはグループのマシン種別が [VM] の場合は空欄となります。
論理ネットワーク	グループに設定されている論理ネットワーク名を表示します。マシン種別が "VMサーバ"、または "物理" の場合に表示されます。
ロードバランサ	グループに設定されているロードバランサグループ名を表示します。
ライセンスモード	グループに設定されているライセンスモード名を表示します。マシン種別が "VMサーバ" 以外の場合は "-" と表示されます。
説明	グループの説明を表示します。
モデル設定情報	
モデル	モデル名を表示します。
ポリシー	モデルに設定されているポリシー名を表示します。複数ポリシーが設定されている場合は、複数行で表示されます。
リソースプール	モデルに設定されているリソースプール名を表示します。設定されていない場合は、空欄となります。モデル種別が "VM" の場合のみ表示されます。
最適起動	モデル、またはグループ、上位のテナント / カテゴリに設定されている最適起動設定の有無を表示します。設定が "有効" の場合は "ON"、設定が "無効"、または "設定なし" の場合は "OFF" と表示されます。モデル種別が "VM" の場合のみ表示されます。
DPM 登録	モデル、またはグループ、上位のテナント / カテゴリに設定されているDPMサーバ設定の有無を表示します。設定されている場合は "ON"、設定されていない場合は "OFF" と表示されます。モデル種別が "VM" の場合のみ表示されます。
データセンター	モデルに設定されているDataCenter名を表示します。モデル種別が "VMS" の場合のみ表示されます。

VM 最適配置	モデルプロパティ設定の [VM最適配置] タブ の [負荷監視を有効にする] 設定の有無を表示します。モデル種別が "VMS" の場合のみ表示されます。
ソフトウェア	モデルプロパティ設定の [ソフトウェア] タブで [ソフトウェアの種類] プルダウンボックスが "マシン稼動時に配布" のソフトウェアが設定されているかの有無を表示します。設定されている場合は "設定済"、設定されていない場合は空欄となります。
ストレージ	モデルプロパティ設定の [ストレージ] タブが設定されているかの有無を表示します。設定されている場合は、"設定済"、設定されていない場合、またはグループのマシン種別が [VM] の場合は空欄となります。
編集	「モデルプロパティ設定」ウィンドウに遷移します。
ホスト設定情報	
ホスト	ホスト名を表示します。
リソース	ホストで稼動しているマシン名を表示します。ホスト定義のみの場合は空欄となります。
IP アドレス	ホストのIPアドレスを表示します。
パスワード	ホスト設定に設定されているパスワード設定情報を表示します。ホスト設定の [全般] タブの [ホストに設定されている管理者パスワードを使用する]、ホスト設定、またはグループプロパティ設定の [ホストプロファイル] タブのOS設定の管理者パスワードが設定されている場合は、"******" が表示されます。いずれにも設定されていない場合は、空欄となります。
プロダクトキー	ホスト設定に設定されているプロダクトキーの設定の有無を表示します。設定されている場合は "設定済"、設定されていない場合は空欄となります。
ソフトウェア	ホスト設定の [ソフトウェア] タブで [ソフトウェア種類] プルダウンボックスに "稼動時・グループ配布前"、"稼動時・配布"、"稼動時・グループ配布後" にソフトウェアが設定されているかの有無を表示します。設定されている場合は "設定済"、設定されていない場合は空欄となります。
ストレージ	ホスト設定の [ストレージ] タブが設定されているかの有無を表示します。設定されている場合は "設定済"、設定されていない場合、またはグループのマシン種別が [VM] の場合は空欄となります。
編集	「ホスト設定」ウィンドウに遷移します。

4.16. 保守操作を表示

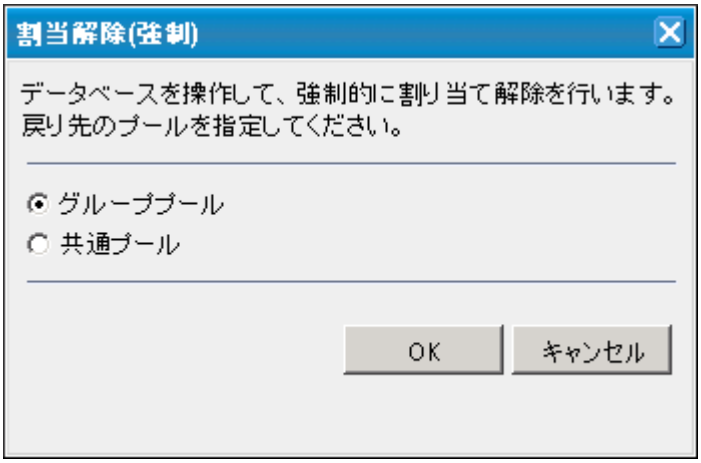
運用グループの保守操作を表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューから [保守操作を表示] をクリックすると保守操作のウィンドウに切り替わります。

4.16.1. 割当解除 (強制)

ホストの割り当てを強制的に解除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに運用グループの詳細情報の [全般] タブが表示されます。[設定] メニューから [保守操作を表示] をクリックすると保守操作のウィンドウに切り替わります。[ホスト一覧] グループボックスから割り当てを強制解除するホストを選択し、[割当解除 (強制)] をクリックすると、ホストが強制的に割り当て解除されます。



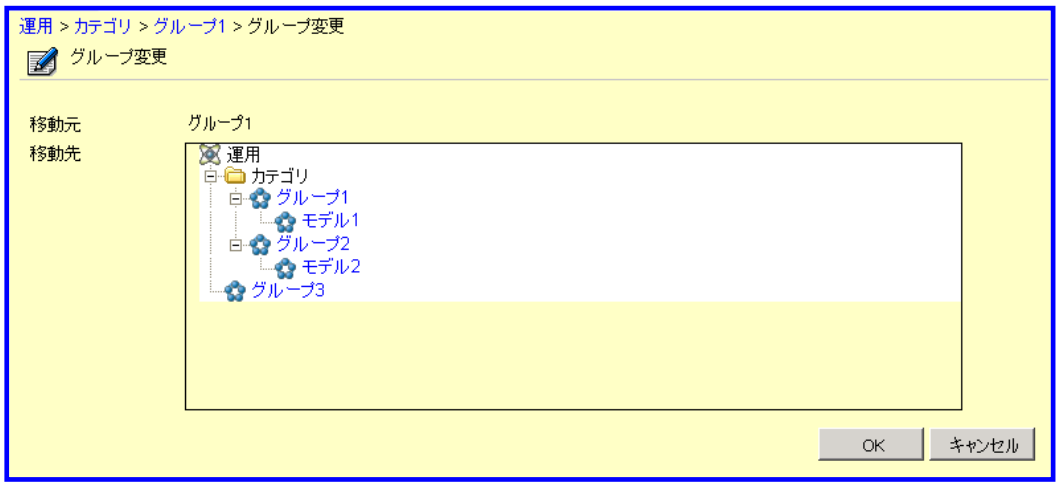
割り当て解除 (強制)	
グループプール	割り当て解除後、戻り先のプールはグループプールに戻ります。
共通プール	割り当て解除後、戻り先のプールは共通プールに戻ります。
[OK]	割り当て解除を実行し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	割り当て解除を実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.16.2. グループ変更

ホストを別のグループへ移動します。

[運用] ツリーから保守用の操作メニューを表示する運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [保守操作を表示] をクリックすると、メインウィンドウの [ホスト一覧] グループボックスの [アクション] メニューに "グループ変更" が表示されます。[ホスト一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [グループ変更] をクリックすると、メインウィンドウに「グループ変更」が表示されます。移動先のグループ、またはモデルを選択し、[OK] をクリックするとグループが変更されます。

注: Administrator 権限でない場合は、[設定] メニューに [保守操作を表示] は表示されません。また、対象の運用グループのマシン種別が [VM] の場合のみ表示されます。



グループ変更	
移動元	移動元のグループ名、モデル名を表示します。
移動先	ツリーより移動先のグループ、またはモデルを選択します。
[OK]	グループ変更情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	グループ変更情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.17. 権限設定

テナント、カテゴリ、および運用グループにロールによるアクセス権限・操作権限を設定します。

[運用] ツリーから対象のテナント、カテゴリ、または運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。

割り当てられている権限一覧	
割り当てる対象	ロールが割り当てられているユーザ / ユーザグループを表示します。
ロール	ユーザ / ユーザグループに割り当てられているロールを表示します。
定義場所	割り当てられているロールの定義場所を表示します。
子へ引き継ぐ	子リソースに権限が引き継がれている場合は、チェックが表示されます。
権限変更	チェックボックスを選択した権限を変更します。[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限変更] グループボックスが表示されます。
追加	権限を追加します。[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限追加] グループボックスが表示されます。
解除	チェックボックスを選択した権限を解除します。

4.17.1. 権限追加

テナント、カテゴリ、または運用グループにロールによるアクセス権限・操作権限を追加します。

[運用] ツリーから対象のテナント、カテゴリ、または運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。[アクション] メニューから [追加] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限追加] グループボックスが表示されます。権限を追加するロール、割り当てるユーザ情報を入力し、[OK] をクリックすると権限が追加されます。

権限追加	
ロール	ユーザ / ユーザグループに割り当てるロールを選択します。
割り当てる対象	ロールを割り当てる対象を選択します。
定義場所	ロールを割り当てる場所を表示します。
子のリソースへ設定を引き継ぐ	子リソースに設定を引き継ぐ場合、チェックボックスをオンにします。
[OK]	権限を追加し、[割り当てられている権限一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	権限追加情報を保存せずに、[権限追加] グループボックスを閉じます。

4.17.2. 権限変更

テナント、カテゴリ、または運用グループに設定されているロールの設定内容を変更します。

[運用] ツリーから対象のテナント、カテゴリ、または運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を変更するユーザのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [権限変更] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限変更] グループボックスが表示されます。権限を変更するロールを入力し、[OK] をクリックすると権限が変更されます。

権限変更	
ロール	ユーザ / ユーザグループに割り当たっているロールを表示し、変更もできます。
割り当てる対象	ロールを割り当てる対象を表示します。
定義場所	ロールを割り当てる場所を表示します。
子のリソースへ設定を引き継ぐ	子リソースに設定を引き継ぐ場合、チェックボックスはオンで表示されます。
[OK]	権限を変更し、[割り当てられている権限一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	権限変更情報を保存せずに、[権限変更] グループボックスを閉じます。

4.17.3. 権限解除

テナント、カテゴリ、または運用グループに設定されているにロールによるアクセス権限・操作権限を解除します。

[運用] ツリーから対象のテナント、カテゴリ、または運用グループのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに各詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を解除するユーザ / ユーザグループのチェックボックスをオンし、[アクション] メニューから [解除] をクリックすると、選択したユーザ / ユーザグループの権限が解除されます。

4.18. トポロジ

本節では、トポロジ操作について説明します。

4.18.1. [トポロジ] タブ

[トポロジ] タブについて説明します。

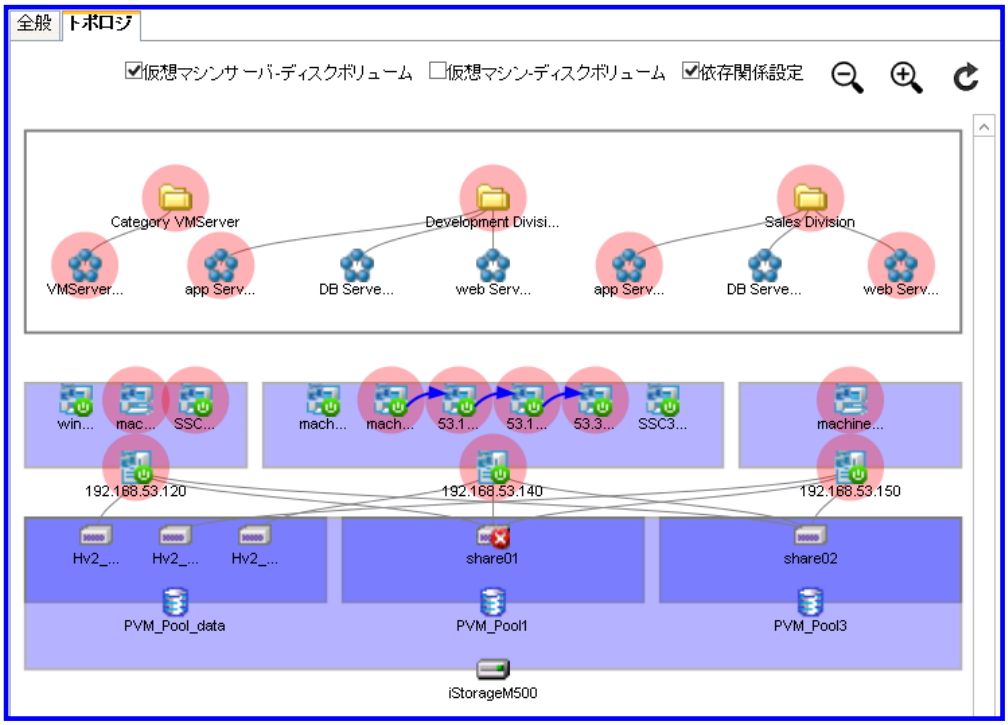
[トポロジ] タブは、[運用] ビュー、および [リソース] ビューにおける以下のビューで閲覧できます。

- [運用] ビュー
- テナントの詳細情報
- カテゴリの詳細情報
- 運用グループの詳細情報
- マシンの詳細情報
- スイッチの詳細情報
- ディスクアレイの詳細情報
- ディスクボリュームの詳細情報
- ストレージプールの詳細情報
- デバイスの詳細情報

[トポロジ] タブは、表示中の詳細情報を起点として、関連するノード (テナント、カテゴリ、運用グループ、仮想マシン、仮想マシンサーバ、ディスクボリューム、ストレージプール、ディスクアレイ、物理スイッチ、カスタムオブジェクト) を表示します。なお、[運用] ビューの [トポロジ] タブでは、すべてのテナント、カテゴリ、運用グループに関連するノードを表示します。

赤い丸は、障害の影響を受けていることを示します。以下の図では、ディスクボリュームに障害が起きており、その障害から影響を受けているノードに印 (赤い丸) が付与されます。

その他に、マシンの依存関係設定 (青矢印) を表示します。



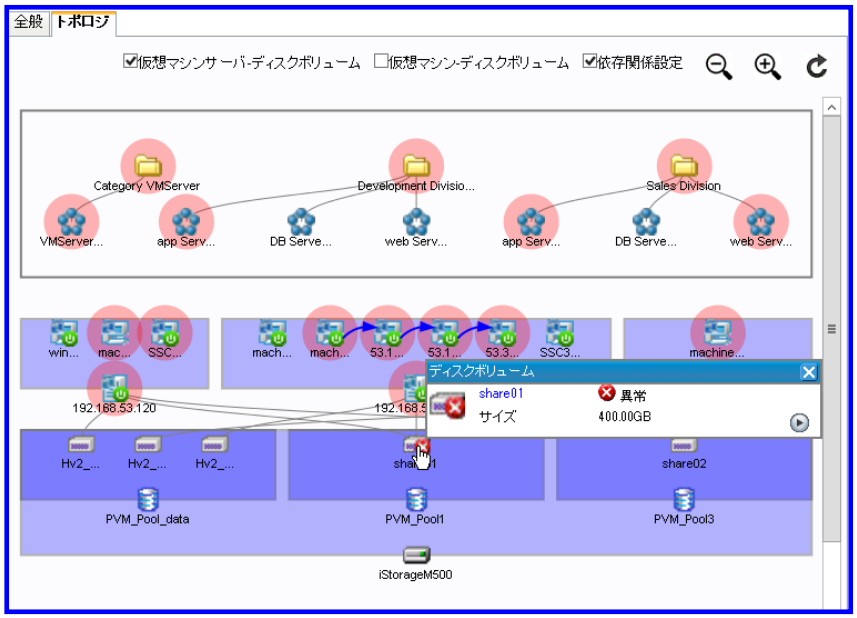
トポロジ操作	
仮想マシンサーバ-ディスクボリューム	仮想マシンサーバ、およびディスクボリュームの接続を表示します。
仮想マシン-ディスクボリューム	仮想マシン、およびディスクボリュームの接続を表示します。
依存関係設定	依存関係設定を表示します。依存関係を青色の矢印で表示します。
縮小アイコン ( )	トポロジ表示を縮小します。
拡大アイコン ( )	トポロジ表示を拡大します。
リセットアイコン ( )	トポロジ表示を元に戻します。
ノードを左にクリック	関連するノードを表示します。選択したノードと関連のないノードはグレーアウトで表示します。
ノードを右にクリック	ノードのポップアップを表示します。ノードの名前、ステータスを表示します。ノードの詳細情報へ遷移したい場合は、[詳細を表示] をクリックします。
ノードをダブルクリック	ノードの詳細情報へ遷移します。詳細情報の [トポロジ] タブをデフォルトで表示します。

ノードを右クリックすると、ノード名やノードステータスなど、ノードの基本情報を表示します。

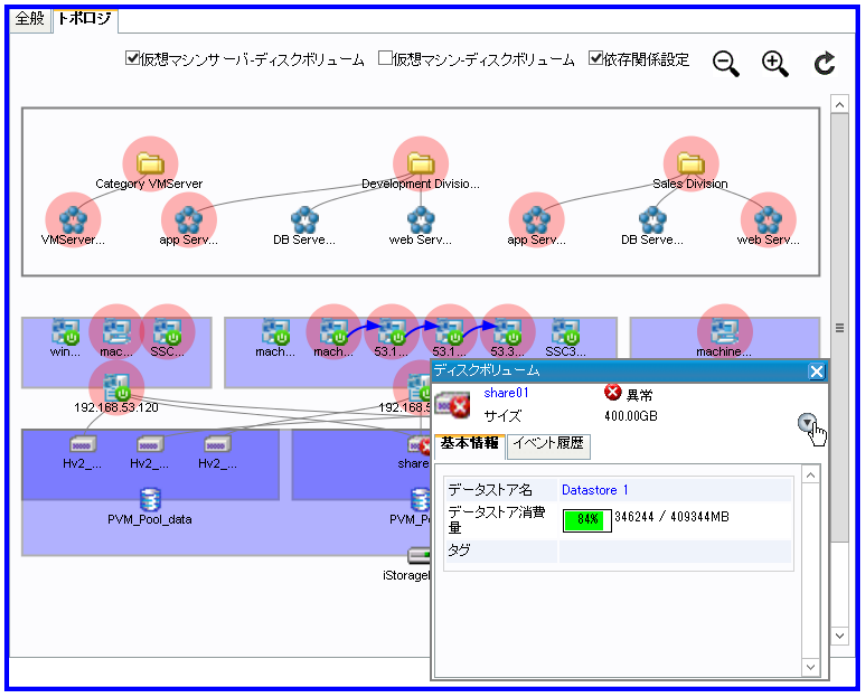
さらに、右下の詳細アイコンをクリックすると、基本情報やイベント履歴、ジョブ、リソースプール情報を表示できます。

なお、ノードの種別により表示内容が異なります (4.18.2～4.18.13 参照)。

<ノードを右クリックした場合のポップアップ表示>



<アイコンをクリックした場合のポップアップ表示>

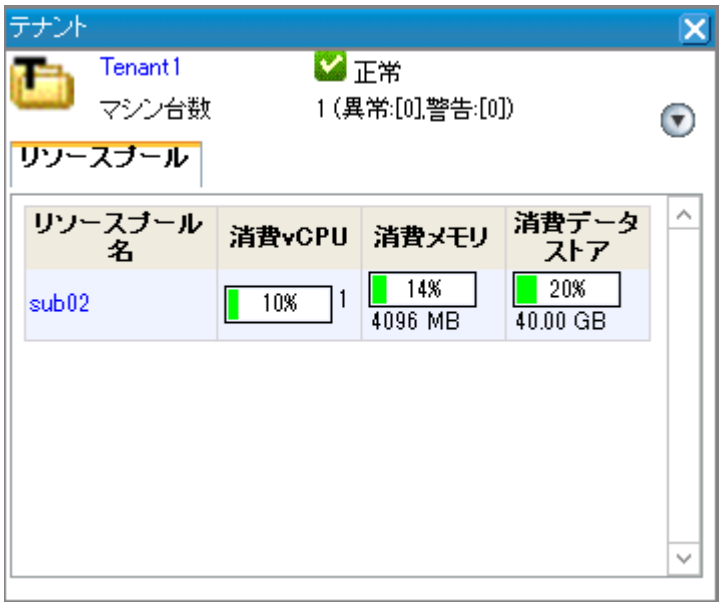


4.18.2. [テナント] ノード

[テナント] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、マシン台数を表示します。ノードをクリックすると、テナントの詳細情報へ遷移します。

テナントノード情報	
マシン台数	テナント管理下のマシンの台数を表示します。警告状態のマシン数、および異常状態のマシン数も表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[リソースプール]　タブを表示します。



リソースプール	
リソースプール名	リソースプール名を表示します。クリックするとリソースプールの詳細情報に遷移します。
消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。

4.18.3. [カテゴリ] ノード

[カテゴリ] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、マシン台数を表示します。ノード名をクリックすると、カテゴリの詳細情報に遷移します。

カテゴリノード情報	
マシン台数	カテゴリ管理下のマシンの台数を表示します。警告状態のマシン数、および異常状態のマシン数も表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[リソースプール] タブを表示します。

リソースプール	
リソースプール名	リソースプール名を表示します。クリックするとリソースプールの詳細情報に遷移します。
消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。
消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。

消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。

4.18.4. [運用グループ] ノード

[運用グループ] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、マシン台数を表示します。ノード名をクリックすると、運用グループの詳細情報へ遷移します。

運用グループノード情報	
マシン台数	運用グループ管理下のマシンの台数を表示します。警告状態のマシン数、および異常状態のマシン数も表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[リソースプール] タブを表示します。

リソースプール	
リソースプール名	リソースプール名を表示します。クリックするとリソースプールの詳細情報に遷移します。
消費 vCPU	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのvCPU数の合計値を表示します。

消費メモリ	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンのメモリサイズの合計値を表示します。
消費データストア	リソースプールからリソースが割り当てられて作成された仮想マシンの仮想ディスクサイズの合計値を表示します。

4.18.5. [仮想マシン] ノード

[仮想マシン] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、OS 名、IP アドレスを表示します。ノード名をクリックすると、仮想マシンの詳細情報に遷移します。

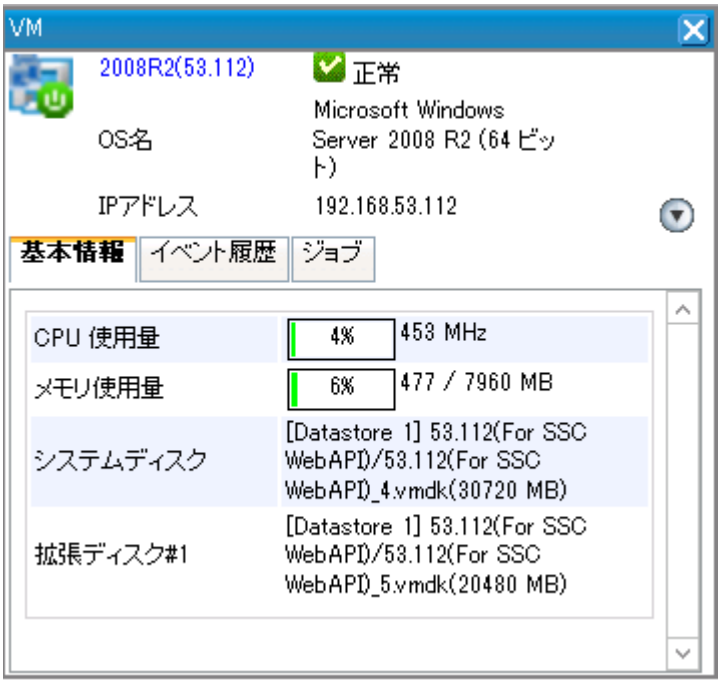
仮想マシンノード情報	
OS 名	仮想マシンのOS名を表示します。
IP アドレス	仮想マシンのIPアドレスを表示します。

注: IP アドレスは IPv6 のリンクローカルアドレスを表示できません。また、仮想マシンサーバ、およびマネージャの接続状態が「接続可能」ではない場合、IP アドレスは表示できません。

仮想マシンの情報が一時的に情報取得できない場合は、IP アドレスを表示できない場合があります。

右下の アイコンをクリックすると、[基本情報]、[イベント履歴]、[ジョブ情報] タブを表示します。なお、イベント履歴、およびジョブは最新上位 20 件を表示します。

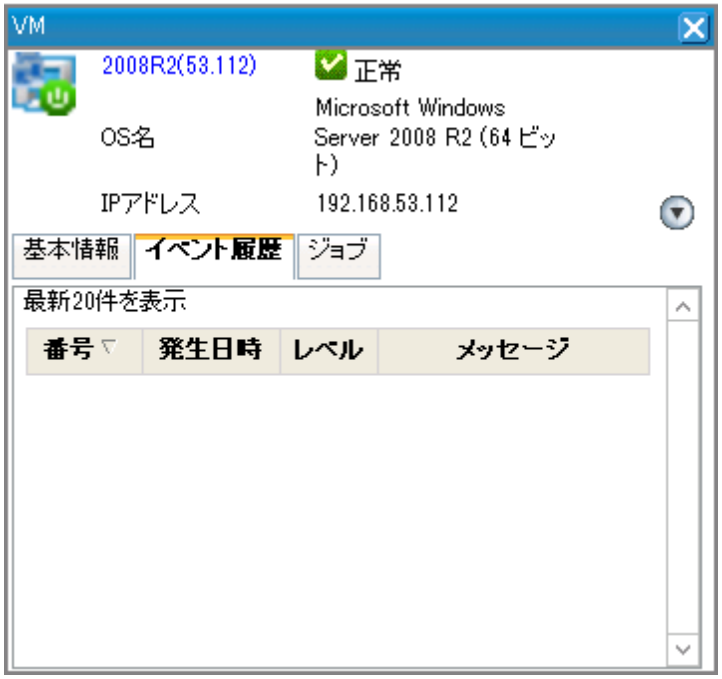
◆ [基本情報] タブ



基本情報	
CPU 使用量	仮想マシンが使用しているCPU使用量を表示します。
メモリ使用量	仮想マシンが使用しているメモリ使用量を表示します。
システムディスク	仮想マシンのシステムディスク情報を表示します。
拡張ディスク	仮想マシンの拡張ディスクを表示します。

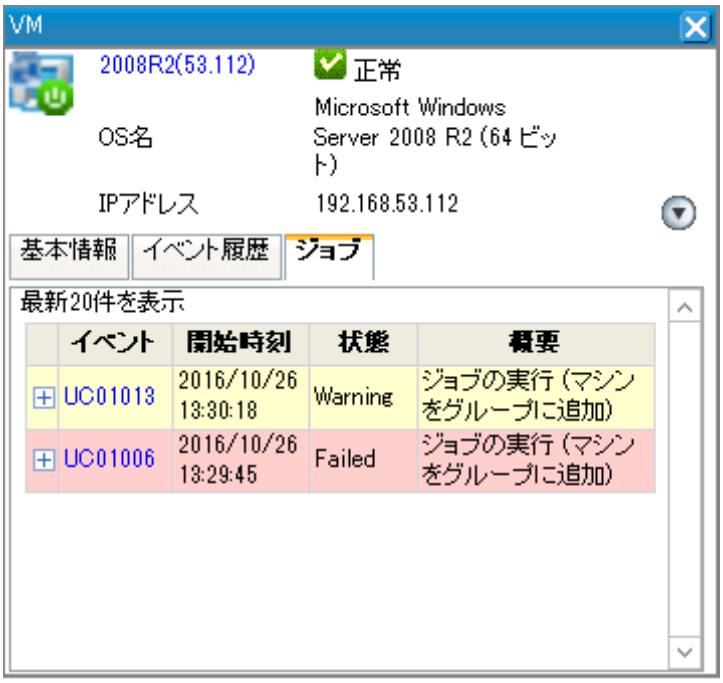
注: 仮想マシンの情報が一時的に情報取得できない場合は、各項目が表示されない場合があります。仮想マシンサーバ、およびマネージャの接続状態が「接続可能」ではない場合、CPU 使用量、メモリ使用量を表示できません。

◆ [イベント履歴] タブ



イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックするとイベント履歴の詳細情報に遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

◆ [ジョブ] タブ



ジョブ	
イベント	ジョブ番号を表示します。クリックすると、ジョブの詳細情報に遷移します。
開始時刻	ジョブの開始時刻を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
概要	ジョブの概要を表示します。

4.18.6. [仮想マシンサーバ] ノード

[仮想マシンサーバ] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、OS 名、モデル名を表示します。ノード名をクリックすると、仮想マシンの詳細情報へ遷移します。

仮想マシンサーバノード情報

OS 名	仮想マシンサーバのOS名を表示します。
モデル名	仮想マシンサーバのモデル名を表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[基本情報]、[イベント履歴]、[ジョブ情報] タブを表示します。なお、イベント履歴、およびジョブは最新上位 20 件を表示します。

◆ [基本情報] タブ

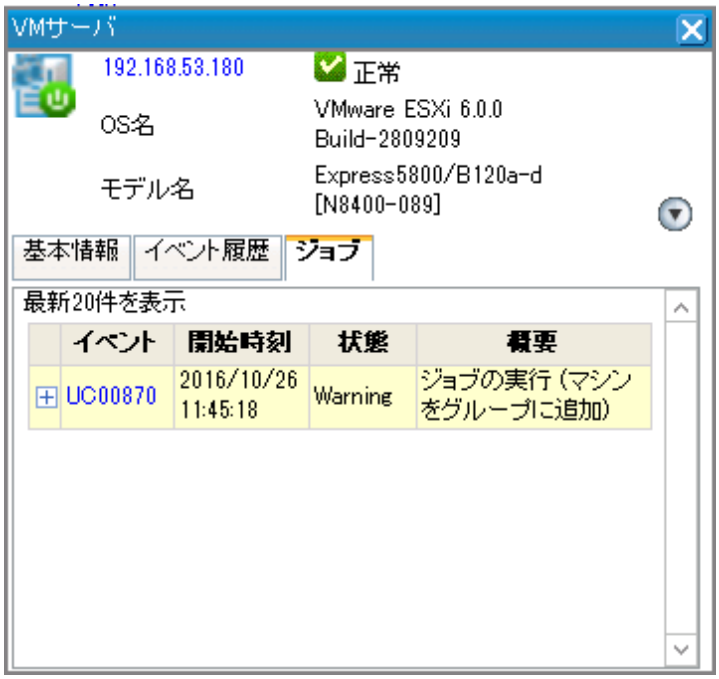
基本情報	
UUID	仮想マシンサーバのUUIDを表示します。
CPU 種別	仮想マシンサーバのCPU種別を表示します。
プロセッサ	仮想マシンサーバのプロセッサを表示します。
CPU 使用量	仮想マシンサーバのCPU使用量を表示します。
メモリ使用量	仮想マシンサーバのメモリ使用量を表示します。

注: 仮想マシンサーバの情報が一時的に情報取得できない場合は、各項目が表示されない場合があります。仮想マシンサーバ、およびマネージャの接続状態が「接続可能」ではない場合、CPU 使用量、メモリ使用量を表示できません。

◆ [イベント履歴] タブ

イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

◆ [ジョブ] タブ



ジョブ	
イベント	ジョブ番号を表示します。クリックすると、ジョブの詳細情報へ遷移します。
開始時刻	ジョブの開始時刻を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
概要	ジョブの概要を表示します。

4.18.7. [ディスクボリューム] ノード

[ディスクボリューム] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、ディスクボリュームのサイズを表示します。

ディスクボリュームノード情報	
サイズ	ディスクボリュームのサイズを表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[基本情報]、[イベント履歴] タブを表示します。なお、イベント履歴は最新上位 20 件を表示します。

◆ [基本情報] タブ

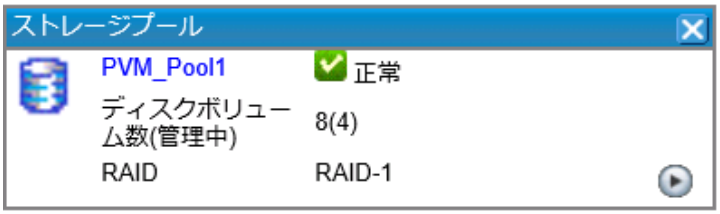
基本情報	
データストア名	ディスクボリュームに設定しているデータストア名を表示します。クリックすると、データストアの詳細情報へ遷移します。ディスクボリュームにデータストアが設定されていない場合は表示できません。
データストア消費量	データストアの消費量を表示します。ディスクボリュームにデータストアが設定されていない場合は表示されません。
タグ	ディスクボリュームに設定したるタグ情報を表示します。

◆ [イベント履歴] タブ

イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

4.18.8. [ストレージプール] ノード

[ストレージプール] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、ディスクボリューム数、RAID 情報を表示します。



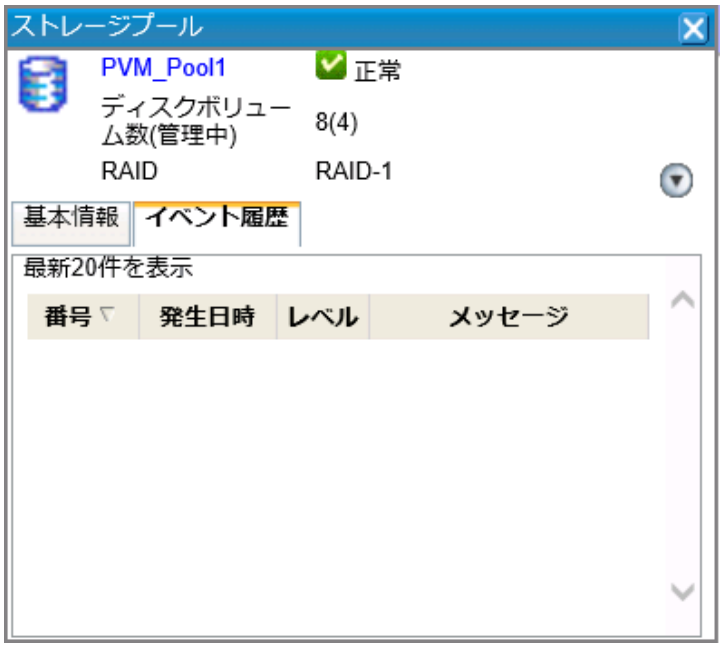
ストレージプールノード情報	
ディスクボリューム数 (管理中)	ディスクボリューム数を表示します。管理中のディスクボリューム数を表示します。
RAID	RAID情報を表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[基本情報]、[イベント履歴] タブを表示します。なお、イベント履歴は最新上位 20 件を表示します。

◆ [基本情報] タブ

基本情報	
割り当て上限	ストレージプール全体の割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	管理中ストレージプール全体の割り当て容量の合計値を表示します。また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	ストレージプールの物理容量の合計値を表示します。
実消費量	ストレージプール全体の実消費量の合計値を表示します。
タグ	ストレージプールに設定してあるタグ情報を表示します。

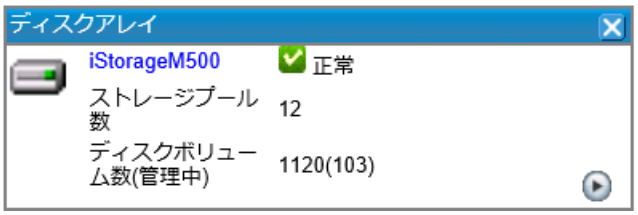
◆ [イベント履歴] タブ



イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

4.18.9. [ディスクアレイ] ノード

[ディスクアレイ] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、ストレージプール数、ディスクボリューム数を表示します。



ディスクアレイノード情報	
ストレージプール数	ストレージプール数を表示します。
ディスクボリューム数 (管理中)	ディスクボリューム数を表示します。管理中のディスクボリューム数も表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[基本情報]、[イベント履歴] タブを表示します。なお、イベント履歴は最新上位 20 件を表示します。

◆ [基本情報] タブ

基本情報	
割り当て上限	ディスクアレイ全体の割り当て上限の合計値を表示します。
割り当て容量	管理中ディスクアレイ全体の割り当て容量の合計値を表示します。また、割り当て状況 (割り当て容量 / 割り当て上限) をプログレスバー (青色) で表示します。
物理容量	ディスクアレイの物理容量の合計値を表示します。
実消費量	ディスクアレイ全体の実消費量の合計値を表示します。

◆ [イベント履歴] タブ

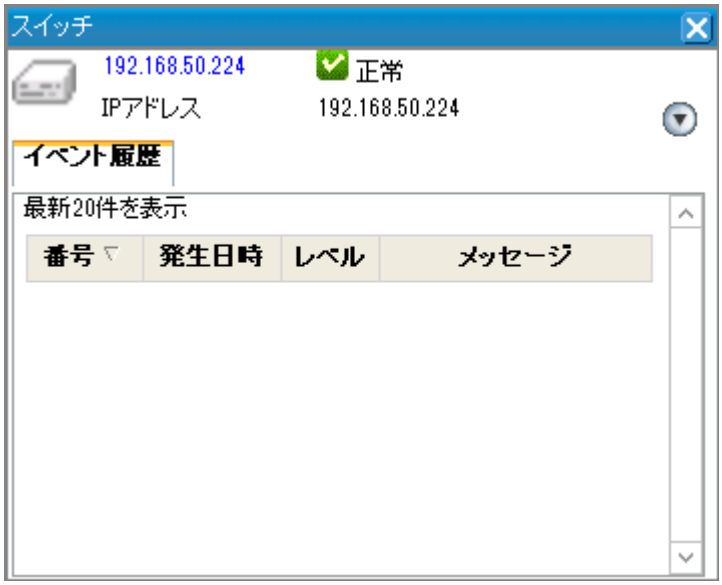
イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

4.18.10. [スイッチ] ノード

[スイッチ] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータス、IP アドレスを表示します。

スイッチノード情報	
IP アドレス	スイッチのIPアドレスを表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[イベント履歴] タブを表示します。なお、イベント履歴は最新上位 20 件を表示します。



イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

4.18.11. [物理マシン / 論理マシン] ノード

[物理マシン / 論理マシン] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータスを表示します。

4.18.12. [カスタムオブジェクト] ノード

[カスタムオブジェクト] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ステータス、種別、識別子を表示します。

右下の アイコンをクリックすると、[イベント履歴] タブを表示します。なお、イベント履歴は最新上位 20 件を表示します。

イベント履歴	
番号	イベント履歴の番号を表示します。クリックすると、イベント履歴の詳細情報へ遷移します。
発生日時	イベント履歴の発生日時を表示します。
レベル	イベント履歴のレベルを表示します。
メッセージ	イベント履歴のメッセージを表示します。

4.18.13. [ラック] ノード

[ラック] ノードを右クリックするとポップアップを表示します。ノード名、ノードステータスを表示します。

4.19. 運用グループへのメニュー操作

運用グループで使用する操作に関するメニューについて説明します。

4.19.1. スケールアウト

「スケールアウト」は、稼動中のマシンで電源オンでないものを起動、もしくは運用グループプールで待機しているマシンを稼動します。

マシン種別に [VM] を設定したグループでは、稼動中の仮想マシンで電源オンでないものを起動、もしくは新規に仮想マシンを作成し、稼動します。

グループプロパティ設定で、[スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオフの場合、実行されません。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [スケールアウト] をクリックすると、運用グループプールで待機していたマシンが稼動を開始し、[ホスト一覧] グループボックスに表示されます。

注: スケールアウトするマシンが仮想マシンサーバであり、マシン上に仮想マシン、またはテンプレートが既に存在する場合、スケールアウトを行うことはできません。

4.19.2. スケールイン

「スケールイン」は、稼動しているマシンをシャットダウン、または待機させます。

マシン種別に [VM] を設定したグループでは、稼動しているマシンをシャットダウン、または VM 削除します。

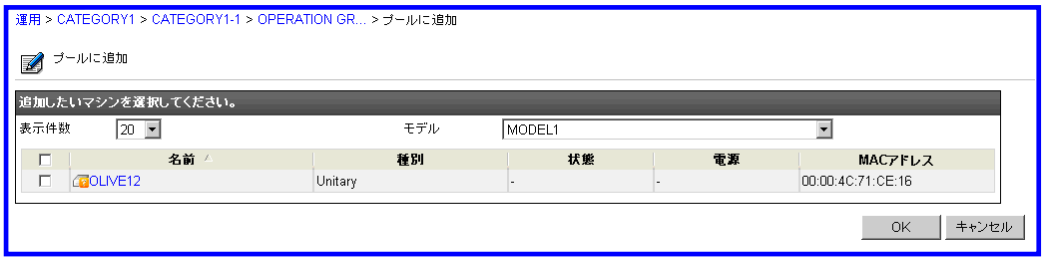
グループプロパティ設定で、[スケールアウトグループとして利用する] チェックボックスがオフの場合、実行されません。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [スケールイン] をクリックすると、[ホスト一覧] グループボックスで稼動していたマシンがプールに待機し、[グループプール] グループボックスに表示されます。

4.19.3. プールに追加

「プールに追加」は、管理対象マシンをプールマシンとして追加します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [プールに追加] をクリックすると、メインウィンドウに「プールに追加」が表示されます。プールに追加するマシンのチェックボックスをオンにし、[OK] をクリックするとマシンがプールに追加されます。



プールに追加		
追加したいマシンを選択してください。		
	モデル	プールに追加するマシンが所属するモデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
	名前	管理対象マシンのマシン名を表示します。
	種別	管理対象マシンの種別を表示します。
	状態	管理対象マシンの状態を表示します。
	電源	管理対象マシンの電源状態を表示します。
	MAC アドレス	管理対象マシンのMACアドレスを表示します。
[OK]		チェックボックスを選択した管理対象マシンをプールに追加し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		プールに管理対象マシンを追加せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.4. 起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド

マシンの起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドを行います。

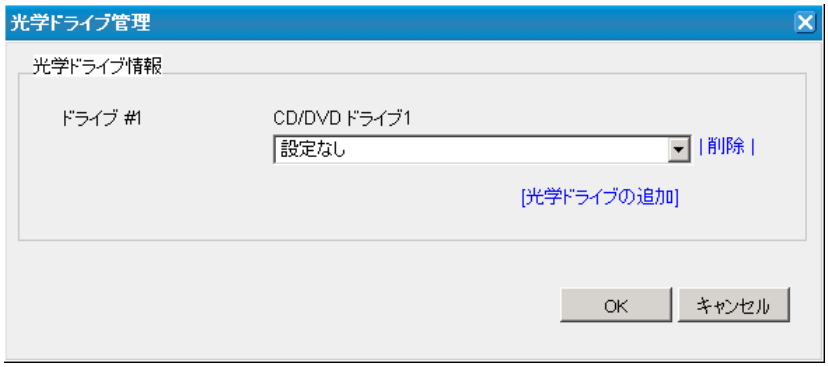
[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン]、もしくは [サスペンド] をクリックすると、ホストにリソースが割り当てられているすべてのマシンの電源を操作することができます。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックス、もしくは [グループプール] グループボックスの [アクション] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン]、もしくは [サスペンド] をクリックすると、各グループボックスのチェックボックスがオンとなっているマシンの電源を操作することができます。

4.19.5. 光学ドライブ管理

[運用] ツリーから光学ドライブを管理するグループのアイコンをクリックします。

[ホスト一覧] グループボックスから置換するマシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [光学ドライブ管理] をクリックすると、「光学ドライブ管理」ダイアログボックスが表示されます。



光学ドライブ管理		
	光学ドライブ情報	
	ドライブ#1	光学ドライブ名を表示します。
	(プルダウンボックス)	ISOファイルをマウントしている場合は、ファイルパスが表示されます。マウントしていない場合は、「設定なし」が表示されます。 ISOファイルをマウントする場合は、プルダウンから選択し、アンマウントする場合は、「設定なし」を選択します。
	削除	光学ドライブを削除します。
	光学ドライブの追加	光学ドライブを追加します。 最大4個まで追加できます。 (Hyper-Vの場合、最大3個までとなります。)
[OK]		光学ドライブを編集し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		光学ドライブを編集せずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.6. マシン収集

マシンの情報をマシン単位に収集します。

[運用] ツリーから対象のマシンが稼動している運用グループを選択します。[ホスト一覧] グループボックスから対象のマシンが稼動するホストを選択し、[アクション] メニューから [マシン収集] を選択すると、マシン収集が実行されます。

4.19.7. リソース割り当て

「リソース割り当て」は、ホストにリソースの割り当てを行い、グループにマシンを登録します。

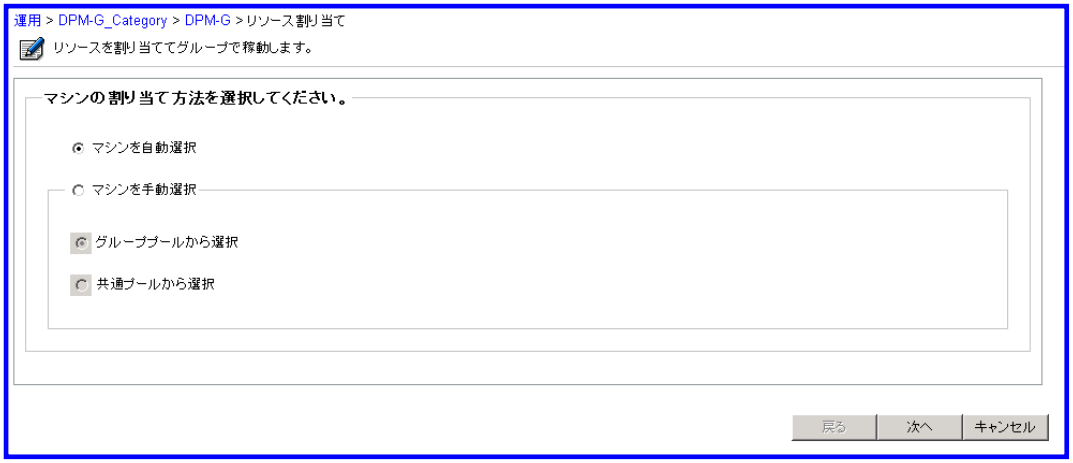
[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからリソースを割り当てるホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [リソース割り当て] をクリックすると、メインウィンドウに「リソースを割り当てグループで稼動します」が表示されます。

注:

・[ホスト一覧] グループボックスから複数のホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [リソース割り当て] をクリックすると、「リソースを割り当てグループで稼動します」が表示されずに、リソースが割り当てられます。

・リソースの割り当てを行うマシンが仮想マシンサーバであり、マシン上に仮想マシン、またはテンプレートが既に存在する場合、リソースの割り当てを行うことはできません。

・Full Clone (vCenter Server 環境)、Differential Clone (vCenter Server 環境)、Disk Clone (vCenter Server 環境)、または HW Profile Clone の仮想マシンに対して実行できます。

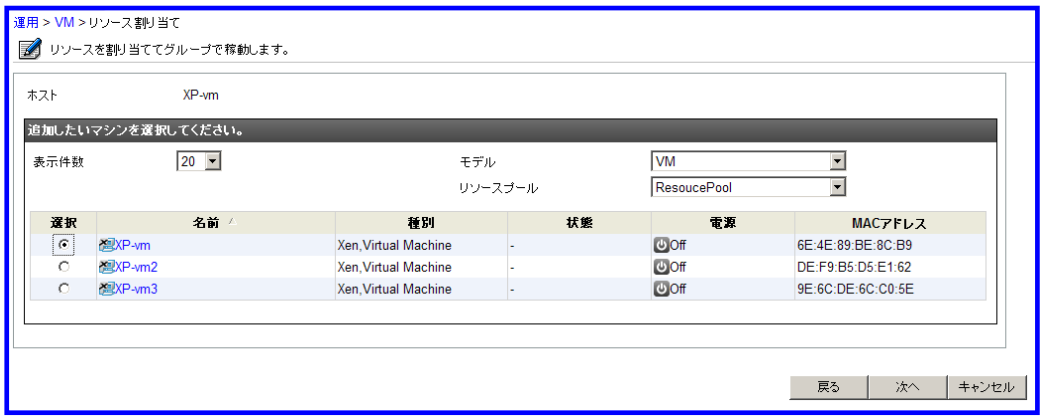


リソースを割り当ててグループで稼動します。		
	マシンの割り当て方法を選択してください。	
	マシンを自動選択	割り当てるリソースを自動で選択させる場合に選択します。
	マシンを手動選択	割り当てるリソースを手動で選択する場合に選択します。
	グループプールから選択	グループプールから選択する場合に選択します。
	共通プールから選択	共通プールから選択する場合に選択します。
	[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
	[次へ]	次のウィンドウに移動します。
	[キャンセル]	リソース割り当てを行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[次へ] をクリックすると、[マシンを手動選択] を選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。

<物理マシン、および仮想マシンサーバの場合>

<仮想マシンの場合>

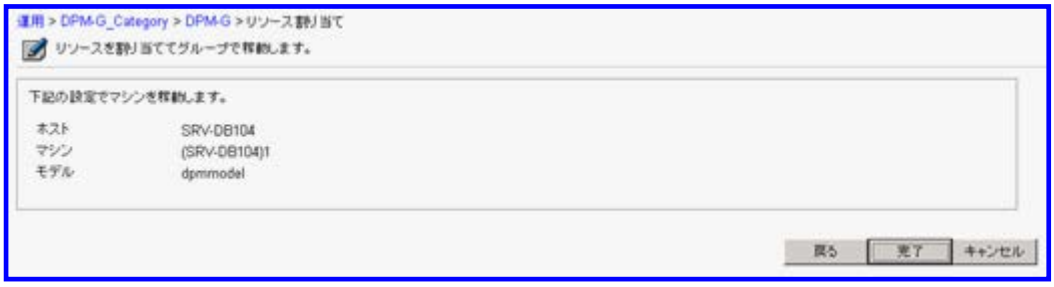


リソースを割り当ててグループで稼動します。		
	ホスト	リソースを割り当てるホスト名を表示します。
	追加したいマシンを選択してください。	
	モデル	追加するマシンが所属するモデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
	リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを選択します。仮想マシンの場合のみ表示されます。
	選択	リソースに割り当てるマシンを選択します。
	名前	選択したモデルに所属するマシン名の一覧を表示します。

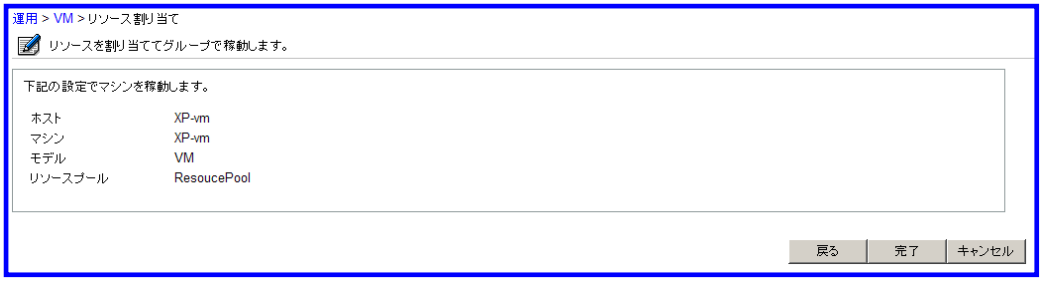
	種別	マシンの種別を表示します。
	状態	マシンの状態を表示します。
	電源	マシンの電源状態を表示します。
	MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[戻る]		前のウィンドウに移動します。
[次へ]		次のウィンドウに移動します。
[キャンセル]		リソース割り当てを行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[次へ] をクリックすると、以下の確認ウィンドウが表示されます。

<物理マシン、および仮想マシンサーバの場合>



<仮想マシンの場合>



リソースを割り当ててグループで稼動します。		
下記の設定でマシンを稼動します。		
	ホスト	リソースを割り当てるホスト名を表示します。
	マシン	稼動するマシン名を表示します。
	モデル	モデル名を表示します。 モデルを選択していない場合、表示されません。
	リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを表示します。仮想マシンの場合のみ表示されます。
[戻る]		前のウィンドウに移動します。
[完了]		リソース割り当てを行い、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	リソース割り当てを行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.8. 新規リソース割り当て、新規割当

「新規リソース割り当て」は、仮想マシンを作成してグループにマシンを登録します。

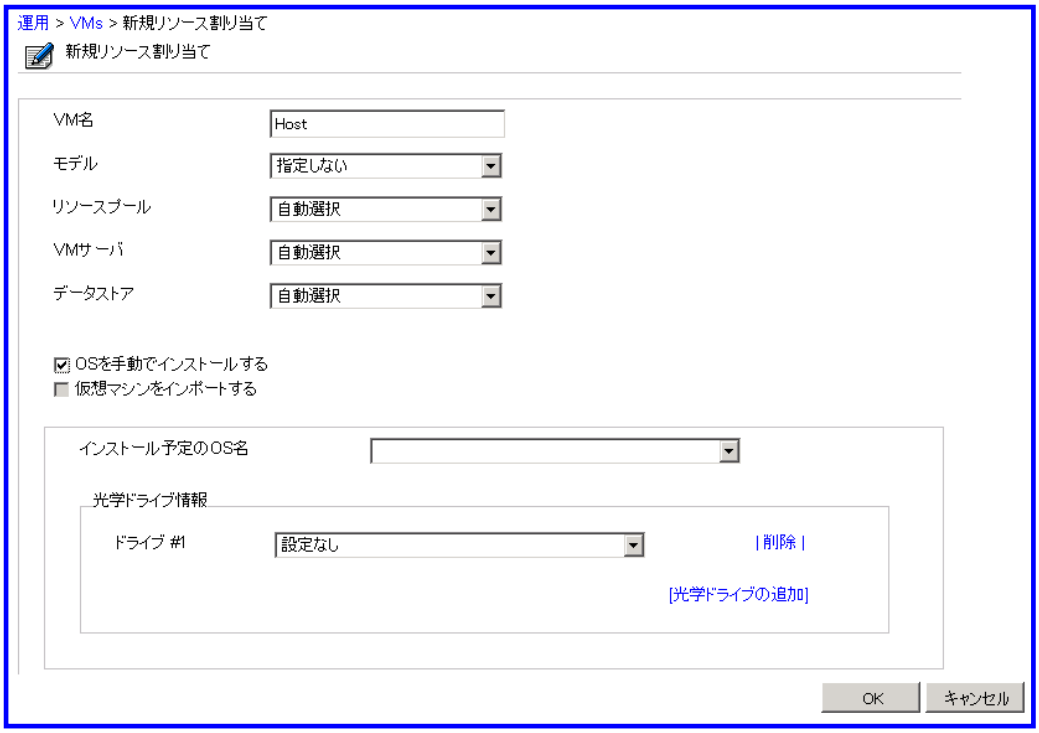
[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから新規リソース割り当てを行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [新規リソース割り当て] をクリックすると、メインウィンドウに「新規リソース割り当て」が表示されます。ホストは複数選択することができます。

[OS を手動でインストールする]、[仮想マシンをインポートする] チェックボックスがどちらもオフの場合は、テンプレートを利用して仮想マシンを作成します。

注: 新規リソース割り当ての同時実行可能数は、"20" です。

<テンプレートから仮想マシンを作成する場合>

<OS を手動でインストールする場合>



<仮想マシンをインポートする場合>

新規リソース割り当て	
VM 名	仮想マシン名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。ホストが複数選択されている場合、VM名を入力することはできません。

モデル	仮想マシンを作成するモデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合、表示されません。
リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを選択します。
VM サーバ	仮想マシンサーバを選択します。
データストア	データストアを選択します。データストアは省略できます。データストアがなしの場合、自動選択されます。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
OS を手動でインストールする	OSをインストールしていない仮想マシンを作成する場合、チェックボックスをオンにします。
インストール予定の OS 名	仮想マシンにインストールするOSの種類を選択します。
光学ドライブ情報	
ドライブ #1	ドライブの番号を表示します。
(プルダウンボックス)	マウントするファイルを表示します。 「設定なし」の場合は、マウントしていない光学ドライブが作成されます。
削除	光学ドライブ情報を削除します。
光学ドライブの追加	光学ドライブを追加する場合にクリックします。 光学ドライブは#4まで追加可能です。
仮想マシンをインポートする	仮想マシンをインポートする場合、チェックボックスをオンにします。
タイプ	インポートするファイルのタイプを選択します。
ファイル選択	インポートするファイルを指定します。
[参照]	ファイルダイアログを表示します。
[OK]	仮想マシンの作成を行い、「新規リソース割り当て」ダイアログボックスを表示します。
[キャンセル]	仮想マシンの作成を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[OK] をクリックすると、「新規リソース割り当て」ダイアログボックスが表示されます。

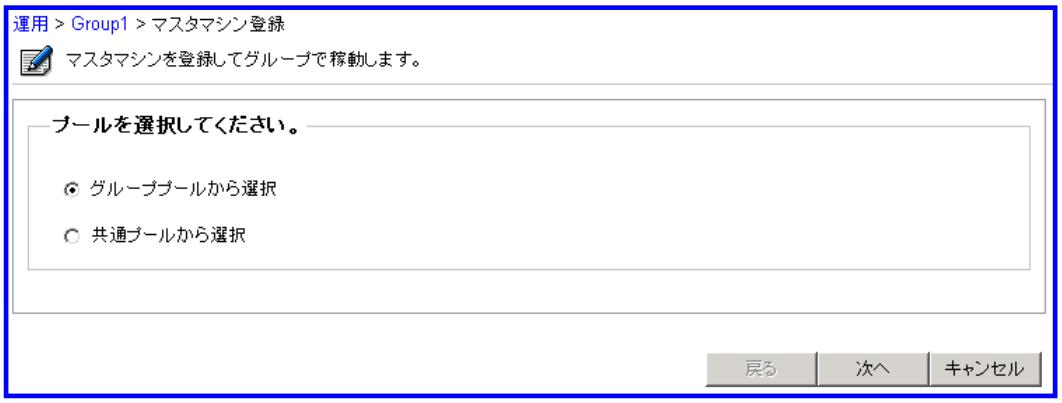
4.19.9. マスタマシン登録、マスタ登録

「マスタマシン登録」は、マスタマシンの登録を行います。SigmaSystemCenter では、ネットワーク設定やソフトウェアのインストールなどが完了しており、そのまま運用に使用できるマシンを "マスタマシン" と呼びます。また、ソフトウェアの配布やネットワーク設定を行わずにマスタマシンをグループで稼動することを "マスタマシン登録" と呼びます。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからマスタマシンを登録するホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [マスタマシン登録] をクリックすると、メインウィンドウに「マスタマシンを登録してグループで稼動します。」が表示されます。追加したいマシンを選択して、[次へ] をクリックするとマスタマシンを登録して運用グループで稼動します。

ホストを指定せずに実行することも可能です。その場合、設定確認画面にて、マスタマシンを登録するホスト名を指定します。指定したホスト名と一致するホストが存在する場合は、そのホストに存在しない場合は指定されたホスト名でホストを作成し、マスタマシンを登録します。

<物理マシン、および仮想マシンサーバの場合>



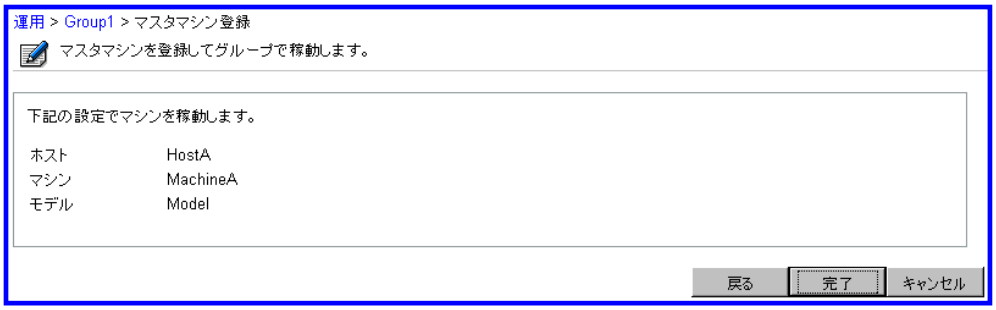
マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
プールを選択してください。	
グループプールから選択	グループプールから選択する場合に選択します。
共通プールから選択	共通プールから選択する場合に選択します。
[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
[次へ]	次のウィンドウに移動します。
[キャンセル]	マスタマシンの登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
ホスト	マスタマシンを登録するホスト名を表示します。ホストを指定していない場合は、表示されません。
追加したいマシンを選択してください。	
モデル	モデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを選択します。仮想マシンの場合のみ表示されます。
選択	マスタマシンに登録するマシンを選択します。
名前	マシン名を表示します。
種別	マシンの種別を表示します。
状態	マシンの状態を表示します。
電源	マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
[次へ]	次のウィンドウへ移動します。

[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

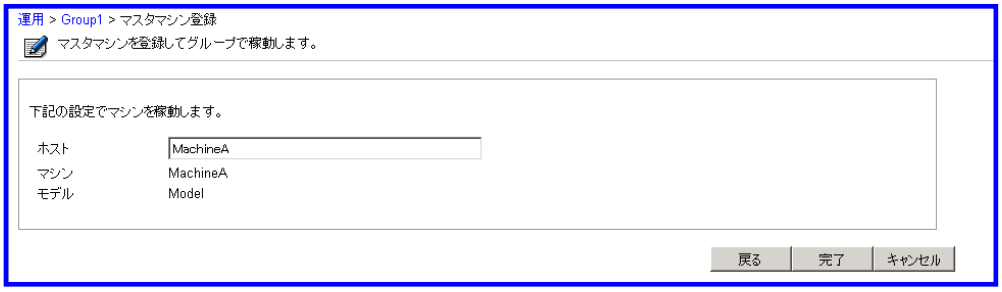
[次へ] をクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。

◆ ホスト指定ありの場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。		
	下記の設定でマシンを稼動します。	
	ホスト	マスタマシンを登録するホスト名を表示します。
	マシン	稼動するマシン名を表示します。
	モデル	モデル名を表示します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
	[戻る]	前のウィンドウに移動します。
	[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
	[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

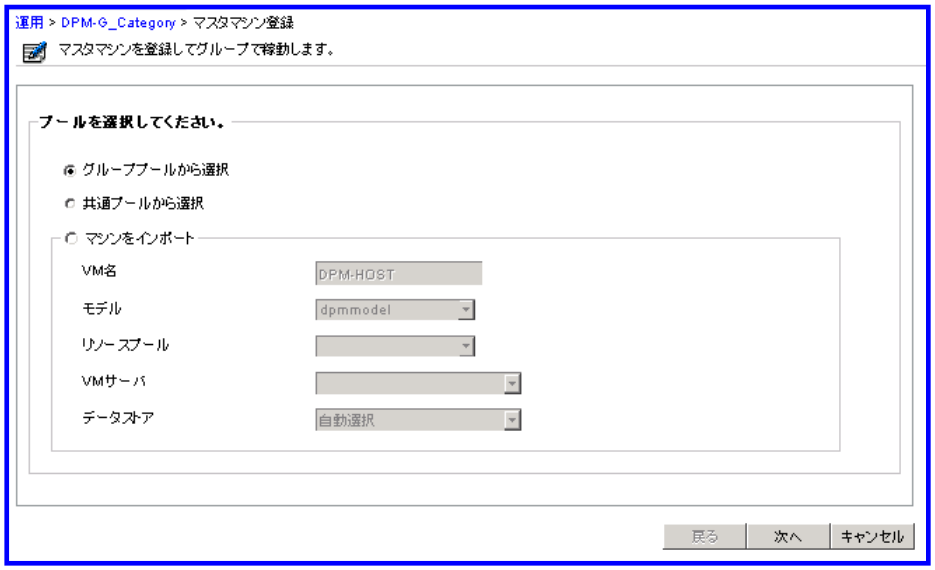
◆ ホスト指定なしの場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
	下記の設定でマシンを稼動します。

ホスト **(入力必須)**	マスタマシンを登録するホスト名を表示し、編集もできます。初期値は、稼動するマシンの名前です。マシン名がIPアドレスの場合は空白が、マシン名に ". (ピリオド)" が含まれる場合は先頭から最初の ". (ピリオド)" までを表示します。
マシン	稼動するマシン名を表示します。
モデル	モデル名を表示します。 モデルを選択していない場合は、表示されません。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

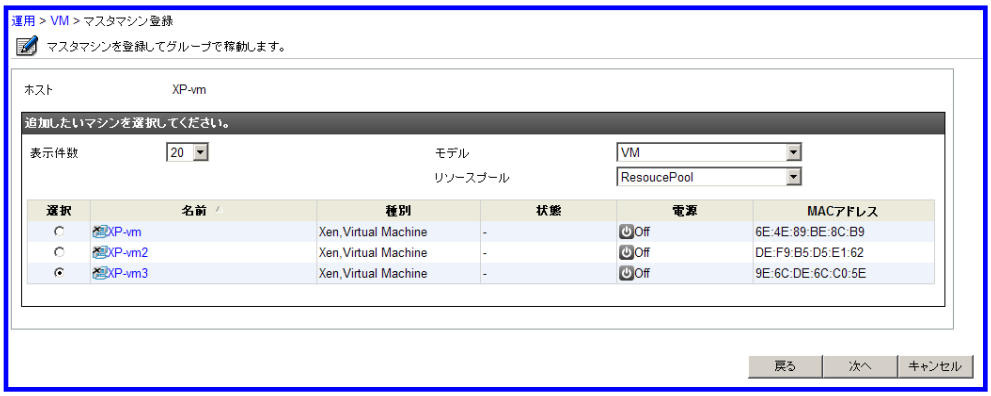
<仮想マシンの場合>



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
プールを選択してください。	
グループプールから選択	グループプールから選択する場合に選択します。
共通プールから選択	共通プールから選択する場合に選択します。
マシンをインポート	
VM 名	仮想マシンの名前を入力します。既定値はホスト名を表示します。
モデル	仮想マシンを登録するモデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
リソースプール	仮想マシンと登録するリソースプールを選択します。

VM サーバ	仮想マシンをインポートする仮想マシンサーバを選択します。
データストア	仮想マシンをインポートするデータストアを選択します。
[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
[次へ]	次のウィンドウに移動します。
[キャンセル]	マスタマシンの登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

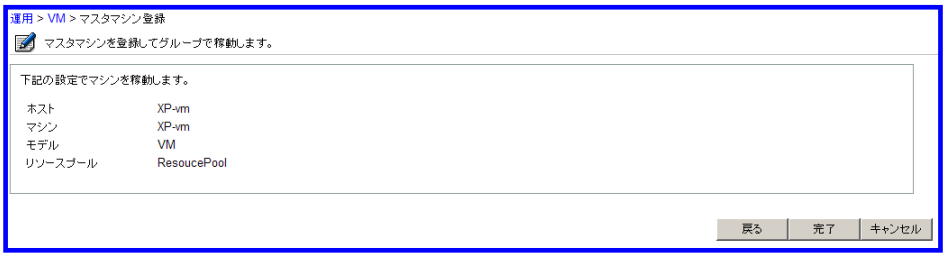
◆ グループプール、共通プールから選択する場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
ホスト	マスタマシンを登録するホスト名を表示します。ホストを指定していない場合は、表示されません。
追加したいマシンを選択してください。	
モデル	モデルを選択します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを選択します。
選択	マスタマシンに登録するマシンを選択します。
名前	マシン名を表示します。
種別	マシンの種別を表示します。
状態	マシンの状態を表示します。
電源	マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
[次へ]	次のウィンドウへ移動します。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

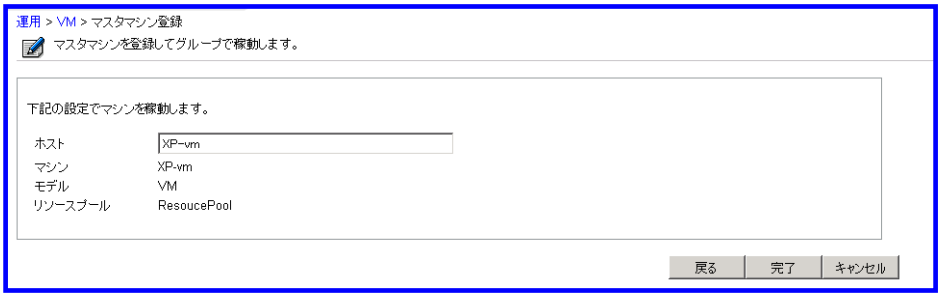
[次へ] をクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。

- ホスト指定ありの場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
下記の設定でマシンを稼動します。	
ホスト	マスタマシンを登録するホスト名を表示します。
マシン	稼動するマシン名を表示します。
モデル	モデル名を表示します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを表示します。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

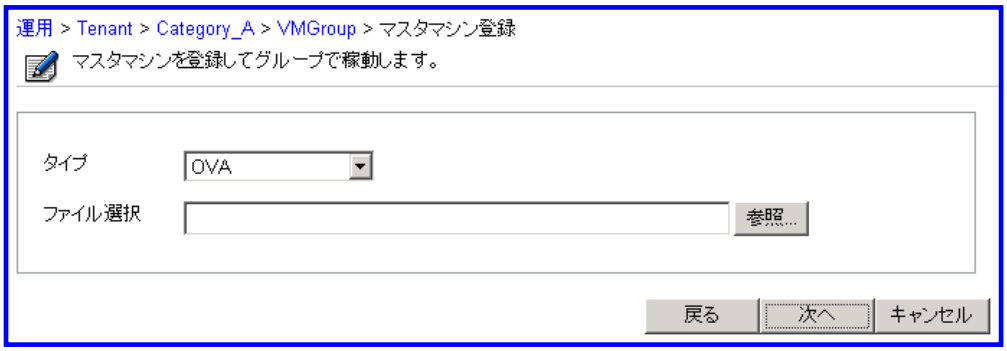
- ホスト指定なしの場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
下記の設定でマシンを稼動します。	
ホスト **(入力必須)**	マスタマシンを登録するホスト名を表示し、編集もできます。初期値は、稼動するマシンの名前です。マシン名がIPアドレスの場合は空白が、マシン名に ". (ピリオド)" が含まれる場合は先頭から最初の ". (ピリオド)" までを表示します。
マシン	稼動するマシン名を表示します。

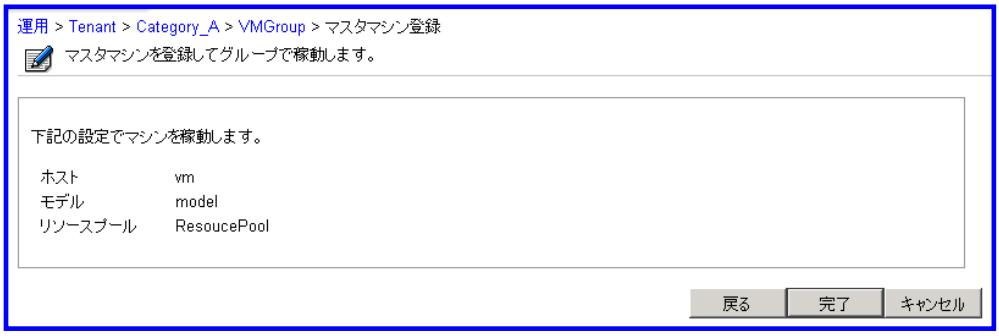
モデル	モデル名を表示します。 モデルを選択していない場合は、表示されません。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ マシンをインポートする場合



マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
タイプ	インポートするファイルのタイプを選択します。
ファイル選択	インポートするファイルを指定します。
[参照]	ファイルダイアログを表示します。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[次へ] をクリックすると、以下のウィンドウが表示されます。



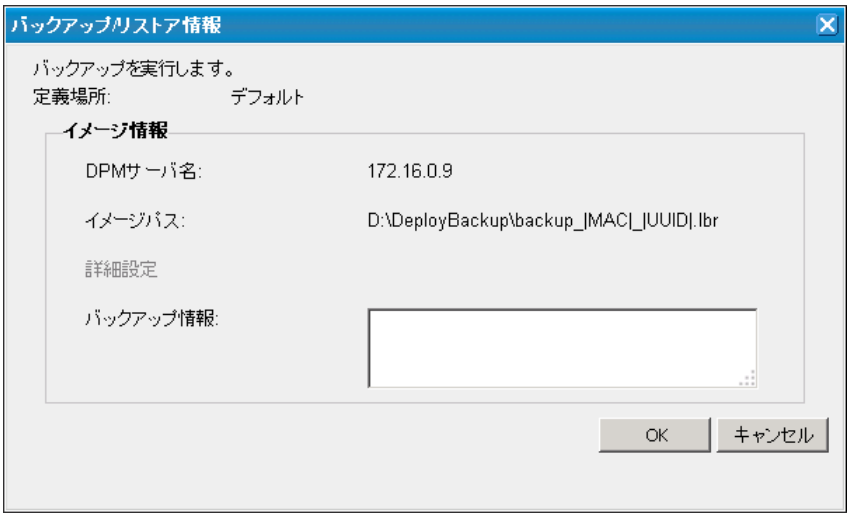
マスタマシンを登録してグループで稼動します。	
下記の設定でマシンを稼動します。	
ホスト	マスタマシンを登録するホスト名を表示します。
モデル	モデル名を表示します。 グループにモデルが追加されていない場合は、表示されません。
リソースプール	仮想マシンが使用するリソースプールを表示します。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マスタマシン登録を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マスタマシン登録を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.10. バックアップ

マシンのバックアップを行います。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからバックアップするするホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [バックアップ] をクリックします。

注: 仮想マシンサーバのバックアップはできません。



バックアップ / リストア情報	
定義場所	バックアップのシナリオを設定した場所を表示します。 (グループ、モデル、ホスト、モデル、デフォルト)

イメージ情報		
	DPM サーバ名	バックアップのシナリオを管理しているDPMサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示します。
	イメージパス	バックアップのシナリオに表示されているイメージファイルのパスを表示します。
	詳細設定	バックアップの詳細設定を開く場合にクリックします。
	バックアップ情報:	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]		バックアップを行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		バックアップを行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.11. リストア

マシンのリストアを行います。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからリストアを行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [リストア] をクリックします。

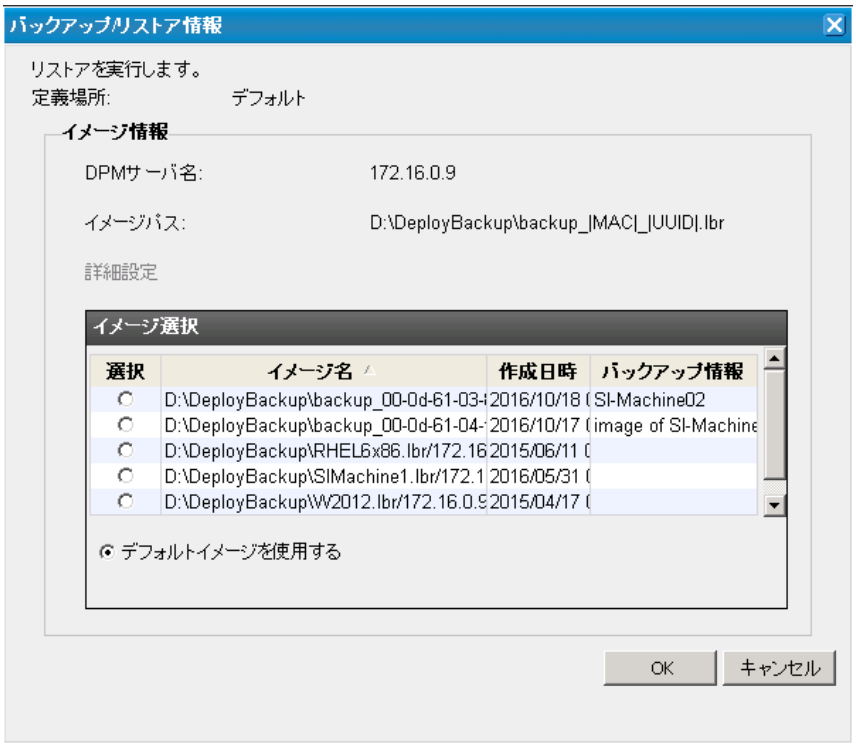
注:

・ 仮想マシンサーバのリストアはできません。

・ [デフォルトイメージを使用する] を選択した場合は、リストアのシナリオで設定されているイメージでリストアされます。

Backup イメージのイメージ種別が [ディスク複製 OS インストールイメージ] を選択する場合、リストアのシナリオのイメージ種別が [ディスク複製 OS インストールイメージ] のシナリオを使用してください。

Backup イメージを指定する場合、事前に DPM 収集で Backup イメージ情報の収集を行い、最新の状態にしてください。DPM 収集については、「SigmaSystemCenter コンフィグレーションガイド」の「4.9.5 Backup イメージを確認するには」を参照してください。



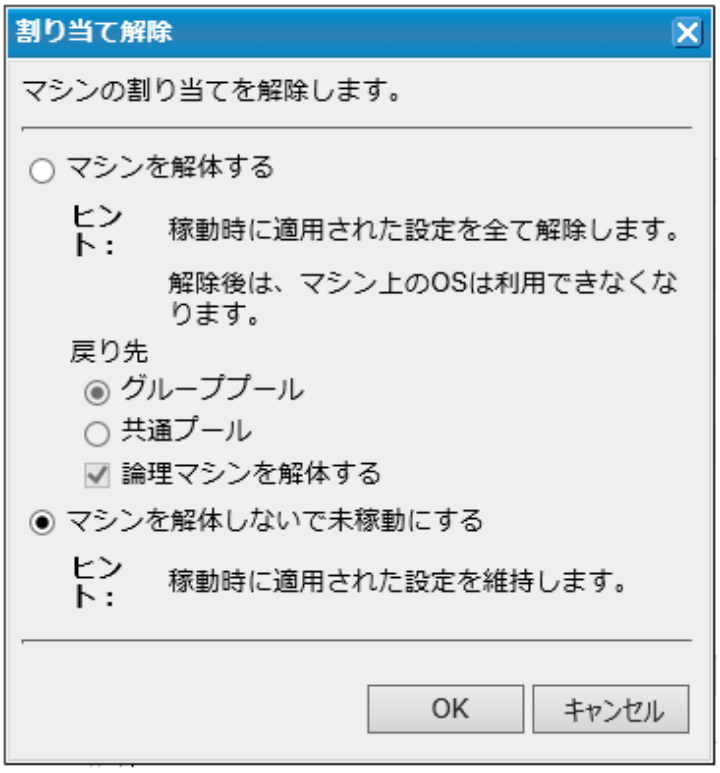
バックアップ / リストア情報	
定義場所	リストアのシナリオを設定した場所を表示します。 (グループ、モデル、ホスト、マシン、デフォルト)
イメージ情報	
DPM サーバ名	リストアのシナリオを管理しているDPMサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示します。
イメージパス	リストアのシナリオに設定されているイメージファイルのパスを表示します。
詳細設定	リストアの詳細設定を開く場合にクリックします。
イメージ選択	
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオで設定されているイメージを使用する場合は既定の [デフォルトイメージを使用する] を選択します。
イメージ名	Backupイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
デフォルトイメージを使用する	既定の設定です。リストアシナリオに設定されているイメージを使用します。
[OK]	リストアを行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	リストアを行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.12. 割り当て解除

ホストに割り当てられたリソースを解除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから割り当てを解除するホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [割り当て解除] をクリックします。「割り当て解除」ダイアログボックスが表示されます。

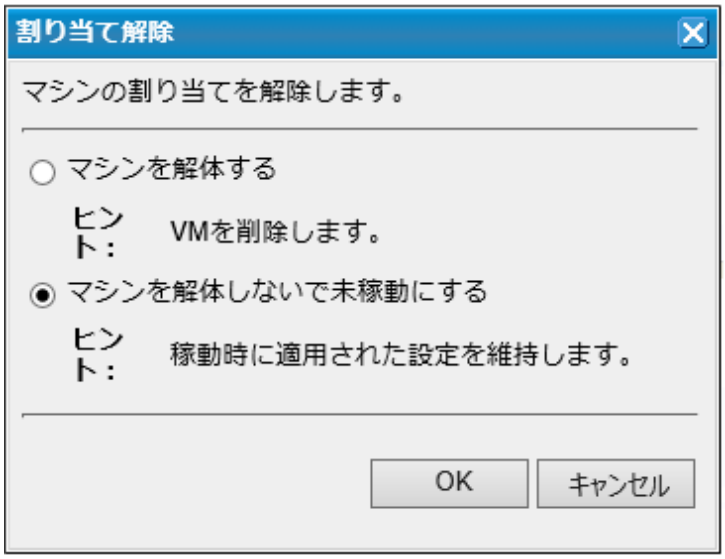
◆ 物理マシン、または仮想マシンサーバの場合



割り当て解除	
マシンを解体する	稼動時に適用された設定をすべて解除します。解体後はマシン上のOSは利用できなくなります。
戻り先	割り当てを解除したマシンの戻り先を選択します。
グループプール	割り当て解除後、グループプールへ戻します。既定値はオンです。
共通プール	割り当て解除後、共通プールへ戻します。既定値はオフです。
論理マシンを解体する	割り当て解除時に論理マシンを解体します。
マシンを解体しないで未稼動にする	稼動時に適用された設定を維持したまま未稼動にします。
[OK]	マシンの割り当て解除を行い、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	マシンの割り当て解除を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

◆ 仮想マシンの場合



割り当て解除		
	マシンを解体する	仮想マシンを削除します。
	マシンを解体しないで未稼動にする	稼動時に適用された設定を維持したまま未稼動にします。
[OK]		マシンの割り当て解除を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		マシンの割り当て解除を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

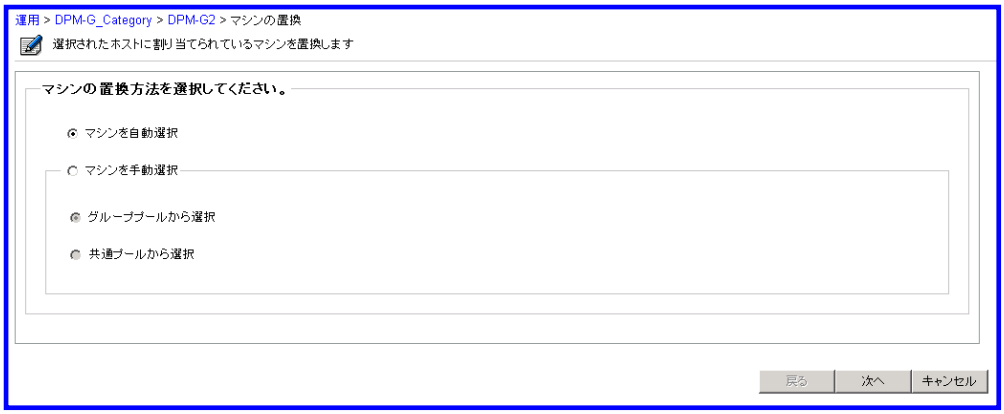
4.19.13. マシンの置換

「マシンの置換」は、運用グループの稼動中のマシンとプールマシンを置換します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからマシンの置換を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [マシンの置換] をクリックすると、マシンが置換されます。

注:

- 物理マシン、および仮想マシンサーバが対象となります。
- 仮想マシンサーバの場合は、ブートコンフィグ置換がサポートされます。
- ESMPRO/ServerManager 上で変更した設定は、マシンの置換で引き継がれません。設定を変更している場合は、必要に応じて再設定を行ってください。



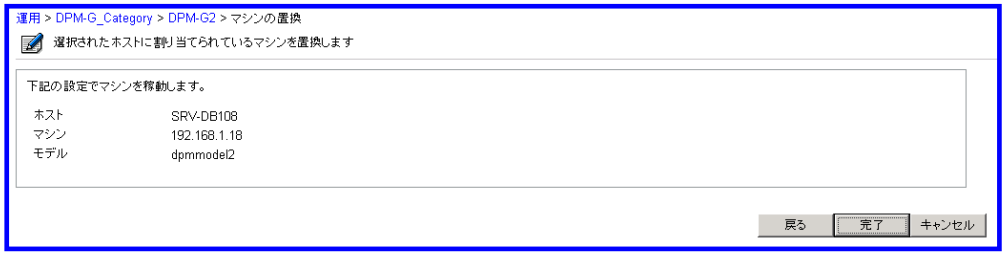
選択されたホストに割り当てられているマシンを置換します	
マシンの置換方法を選択してください。	
マシンを自動選択	置換するマシンを自動で選択させる場合に選択します。
マシンを手動選択	置換するマシンを手動で選択する場合に選択します。
グループプールから選択	置換するマシンをグループプールから選択する場合に選択します。
共通プールから選択	置換するマシンを共通プールから選択する場合に選択します。
[戻る]	このウィンドウではクリックできません。
[次へ]	次のウィンドウに移動します。
[キャンセル]	マシンの置換を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[次へ] をクリックすると、[マシンを手動選択] を選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。

選択されたホストに割り当てられているマシンを置換します	
ホスト	マシンを置換するホスト名を表示します。

置換先のマシンを選択してください	
モデル	置換元のマシンが所属するモデルを表示します。 置換元のマシンがモデルに所属していない場合は、表示されません。
選択	置換を行うマシンを選択します。
名前	選択したモデルに所属するマシン名の一覧を表示します。
種別	マシンの種別を表示します。
状態	マシンの状態を表示します。
電源	マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[次へ]	次のウィンドウへ移動します。
[キャンセル]	マシンの置換を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

[次へ] をクリックすると、以下の確認ウィンドウが表示されます。

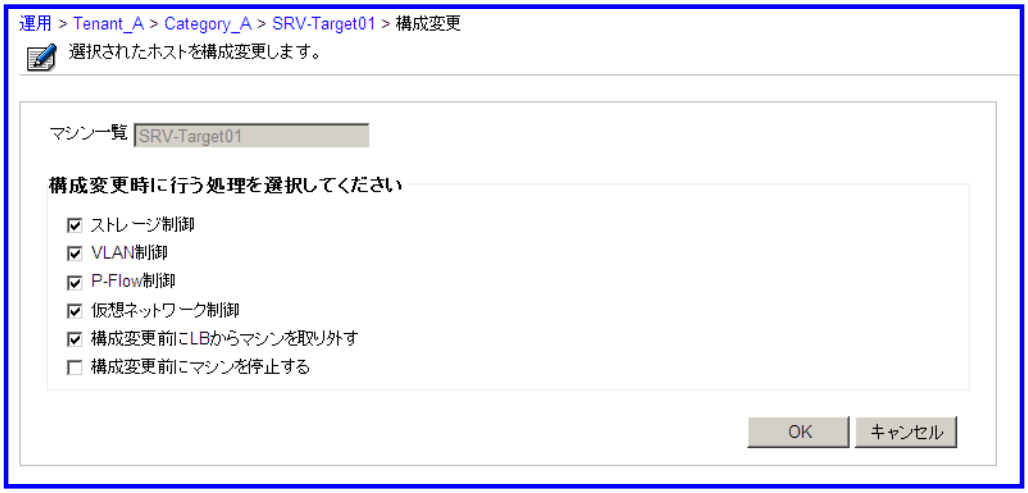


選択されたホストに割り当てられているマシンを置換します	
下記の設定でマシンを稼動します。	
ホスト	マシンの置換で割り当てられるホスト名を表示します。
マシン	置換されるマシン名を表示します。
モデル	置換元のマシンが所属するモデル名を表示します。 置換元のマシンがモデルに所属していない場合は、表示されません。
[戻る]	前のウィンドウに移動します。
[完了]	マシンの置換を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マシンの置換を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.14. 構成変更

運用グループで稼動中のマシンの構成変更を行います。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから構成変更を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [構成変更] をクリックすると、メインウィンドウに「選択されたホストを構成変更します。」が表示されます。



選択されたホストを構成変更します。	
マシン一覧	
ストレージ制御	チェックボックスがオンの場合、変更したストレージ設定の内容に従って、指定したマシンにディスクボリュームの接続が行われます。
VLAN 制御	チェックボックスがオンの場合、変更したネットワーク設定の内容に従って、指定したマシンにVLANの接続 / 解除処理が行われます。
P-Flow 制御	チェックボックスがオンの場合、変更したP-Flow設定の内容に従って、VTNの追加処理が行われます。
仮想ネットワーク制御	チェックボックスがオンの場合、変更した仮想ネットワーク設定の内容に従って、指定した仮想マシンサーバに仮想ネットワークの追加 / 変更処理が行われます。
構成変更前に LB からマシンを取り出す	チェックボックスがオンの場合、マシンがLBに登録されている場合に、構成変更による運用への影響を避けるために、構成変更処理の前にマシンを削除します。
構成変更前にマシンを停止する	構成変更後、グループのプロパティから設定するLB設定に従って、指定したマシンのLBへの登録処理が行われます。
[OK]	マシンの構成変更を行い、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	マシンの構成変更を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

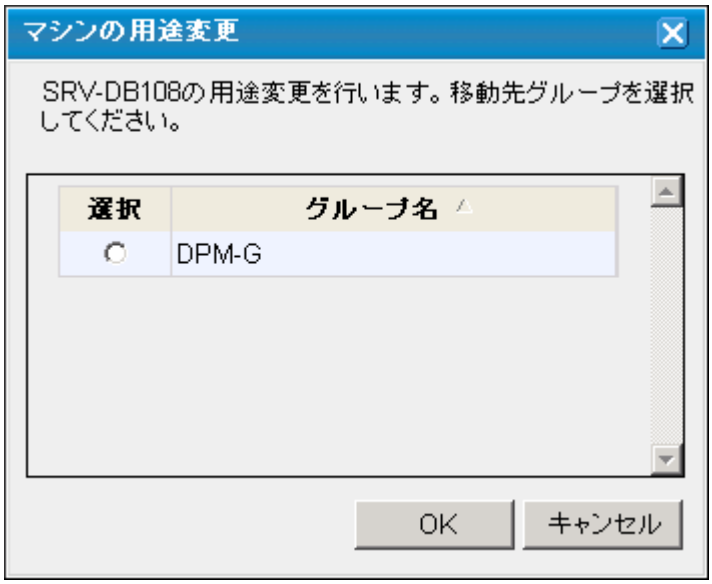
4.19.15. マシンの用途変更

「マシンの用途変更」は、稼動マシンをプールマシンとして登録している他のグループの稼動マシンへ用途変更します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからマシンの用途変更を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [マシンの用途変更] をクリックすると、「マシンの用途変更」ダイアログボックスが表示されます。移動先グループを選択して、[OK] をクリックすると用途変更先のグループへマシンが移動します。

注:

- マシン種別が VM サーバの運用グループで稼動中の仮想マシンサーバは、物理の運用グループに用途変更を行うことはできません。
- 仮想マシンサーバに仮想マシン、またはテンプレートが存在する場合、用途変更を行うことはできません。
- 仮想マシンサーバの場合、テンプレートが存在しない、仮想マシンが電源オン状態、稼動状態でないことが必要です。
- XenServer の用途変更はサポートしておりません。
- 仮想マシンの用途変更を行うことはできません。



マシンの用途変更	
選択	用途変更先のグループを選択します。
グループ名	用途変更先候補のグループを表示します。
[OK]	マシンの用途変更を行い、元のウィンドウに戻ります。

[キャンセル]	マシンの用途変更を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.16. VM 移動

仮想マシンを別の仮想マシンサーバへ移動します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから VM 移動を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [VM 移動] をクリックすると、メインウィンドウに「VM 移動」が表示されます。仮想マシンの移動先、移動方法、移動後の状態を指定し、[OK] をクリックして仮想マシンを移動します。

VM 移動については、「5.11.2 VM 移動」を参照してください。

4.19.17. 再構成

仮想マシンを再構成します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから再構成を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [再構成] をクリックすると、メインウィンドウに「再構成」が表示されます。再構成の種類、最大同時実行数、実行間隔、実行条件を指定し、[OK] をクリックして仮想マシンの再構成をします。

再構成が完了した仮想マシンは、再構成前に仮想マシンが電源オンであった場合、電源状態がオンに、それ以外は電源状態がオフとなります。

注:

・ 再構成により拡張ディスクのドライブレターが変更される場合があります。再構成を行う場合は、あらかじめ仮想マシンの CD デバイスのドライブレターを拡張ディスクより後になるように変更してください。

・ 再構成を行うと、拡張ディスクへの変更を除いた変更部分やスナップショットが破棄されます。機能を理解した上でご利用ください。

・ 複数台を同時に指定した場合、実行条件に一致しない仮想マシンは処理を行いません。また、イメージが同じ場合などで処理をスキップする場合があります。マシン毎の実行結果については、運用ログを確認してください。

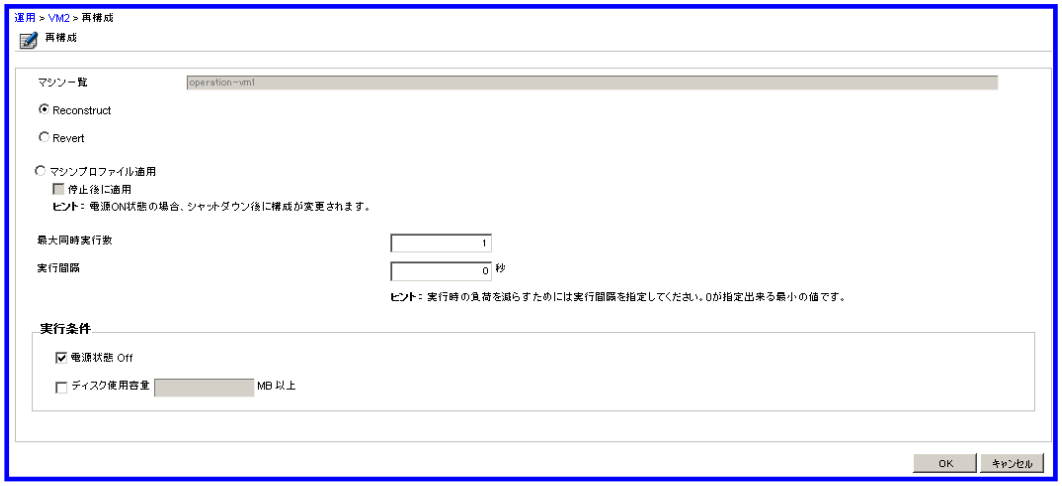
・ Revert / Reconstruct を実行する場合は、サブシステムにパスワードを入力する必要があります。

・ Revert は、Differential Clone のテンプレートで作成した仮想マシンのみサポートしています。

・ Reconstruct は、Differential Clone のテンプレート、および Disk Clone のテンプレートで作成した仮想マシンのみサポートしています。

・ 再構成を行うとマシンプロファイルの設定を元に仮想マシンの構成が変更されます。ただし、Differential Clone のテンプレートで作成した仮想マシンに対して再構成を行った場合は、システムディスクのマシンプロファイル設定は無視されます。

・ 拡張ディスクは追加のみ行います。拡張ディスクのプロファイルを更新して再構成を実行してもプロファイルの変更は適用されません。ただし、拡張ディスクのプロファイルが 1 個のみで、かつ仮想マシンの拡張ディスクが 1 個のみの場合に限りプロファイルの変更が適用されます。また、既存の仮想ディスクをプロファイルに設定している場合も再構成の対象外となります。



再構成	
マシン一覧	対象のマシン名を表示します。
Reconstruct	対象のマシンを再作成する場合に指定します。拡張ディスク、およびテンプレート中にあるシステムディスク以外のディスクは、そのままの状態で維持されます。

	Revert		対象のマシンのシステムディスクを作成時の状態に戻す場合に指定します。拡張ディスク、およびテンプレート中にあるシステムディスク以外のディスクは、そのままの状態で維持されます。
	マシンプロファイル適用		対象のマシンを運用グループ、モデル、ホストに設定されたマシンプロファイルの構成に変更します。
		停止後に適用	対象のマシンを停止後にマシンプロファイルを適用する場合、オンに設定します。
	最大同時実行数		再構成を行う最大同時実行数を指定します。「1～100」の範囲で設定できます。
	実行間隔 (秒)		複数の対象のマシンを連続で再構成を行う場合の実行間隔を指定します。「0～99999」の範囲で設定できます。
	実行条件		
		電源状態 Off	電源状態を指定します。チェックボックスをオフにすると、電源状態に関係なく実行します。電源オンの仮想マシンは、シャットダウンしてから実行します。指定がない場合は、すべてのマシンが対象になります。
		ディスク使用容量 (MB 以上)	ディスク使用容量を指定します。指定したサイズ以上を使用している場合に実行します。「10～99999999」の範囲で設定できます。
[OK]			再構成を実行し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			再構成を実行せずに、元のウィンドウに戻ります。

例) 5 台のマシンに対して、最大同時実行数 3、実行間隔 30 秒を指定した場合

[1 台目ジョブ起動] → [30 秒後、2 台目ジョブ起動] → [30 秒後、3 台目起動] → [30 秒後、4 台目] で最大同時実行数の指定により、いずれかのジョブが完了するのを待ち合わせします。

[1 台目ジョブ完了→4 台目起動] → [30 秒後、5 台目の多重度待ち合わせ]、[2 台目ジョブ完了→5 台目起動] となります。

4.19.18. VM 削除

仮想マシンを削除します。仮想マシンが使用しているディスクも削除されます。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから VM 削除を行うホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [VM 削除] をクリックすると、ダイアログボックスが表示されます。[OK] をクリックすると仮想マシンが削除されます

注:

・ 仮想マシンが登録されている仮想マシンサーバが電源オフの場合、仮想マシンサーバを起動して削除を行います。

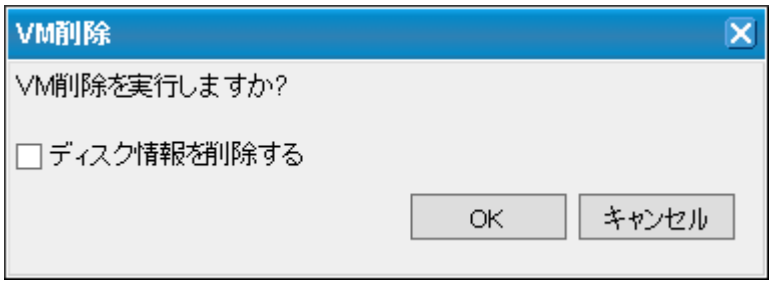
仮想マシンサーバに対して省電力イベントを設定したポリシーを適用している場合、省電力イベント発生後に仮想マシンサーバが自動でシャットダウンされますが、その他の場合は、仮想マシンサーバが起動した場合、仮想マシン削除後に仮想マシンサーバのシャットダウンを行ってください。

・ マスタ VM は、削除できません。

・ Differential Clone タイプの仮想マシンを削除、もしくは再構成 (Reconstruct) すると、その仮想マシンが参照しているエッジキャッシュレプリカ VM も、他に参照する仮想マシンが存在しない場合は、自動的に削除されます。また、Xen 環境の場合は、エッジキャッシュレプリカ VM は、同時に削除されません。

・ Xen 環境の場合、不要になったエッジキャッシュレプリカ VM は手動で削除してください。

・ スタンドアロン ESXi 環境の場合は、レプリカVM は [ディスク情報を削除する] チェックボックスをオンにしても、ディスク情報は削除されません。



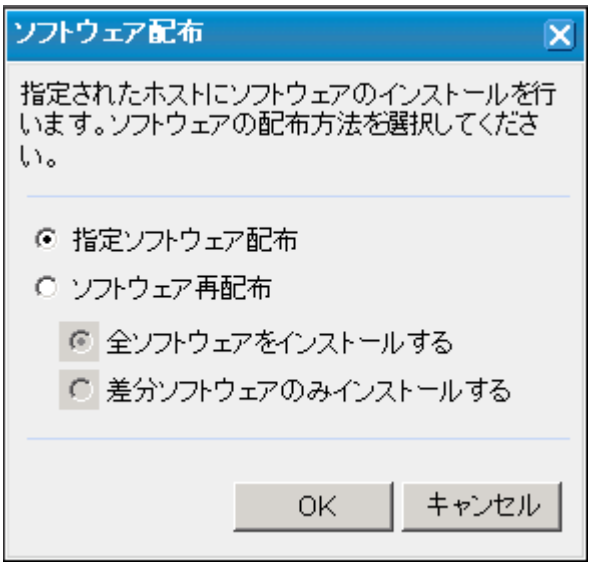
4.19.19. ソフトウェア配布 ([ホスト一覧] グループボックス)

「ソフトウェア配布」は、指定された単一のホストに指定されたソフトウェアを配布します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからソフトウェアを配布するホストのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [ソフトウェア配布] をクリックすると、「ソフトウェア配布」ダイアログボックスが表示されます。

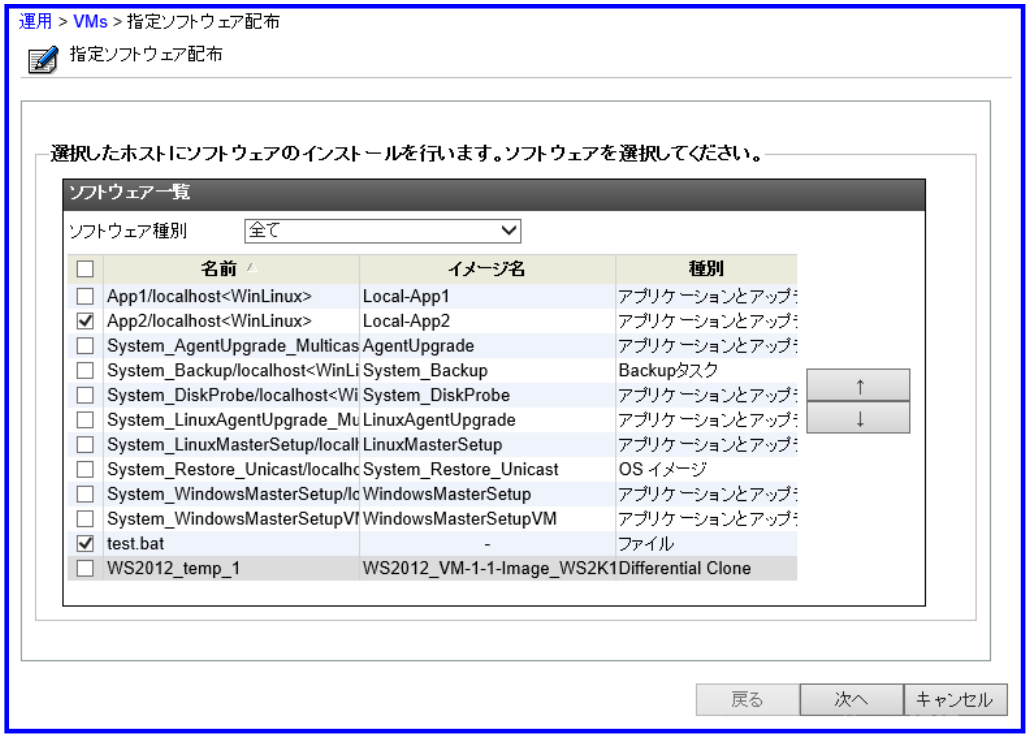
もしくは、運用グループの詳細情報の [ホスト一覧] グループボックスから対象のホストの [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [ソフトウェア配布] をクリックします。ソフトウェアの配布方法を選択し、[OK] をクリックしソフトウェアの配布を行います。

注: この操作はリソースが割り当てられていないホストに対しては、実行できません。

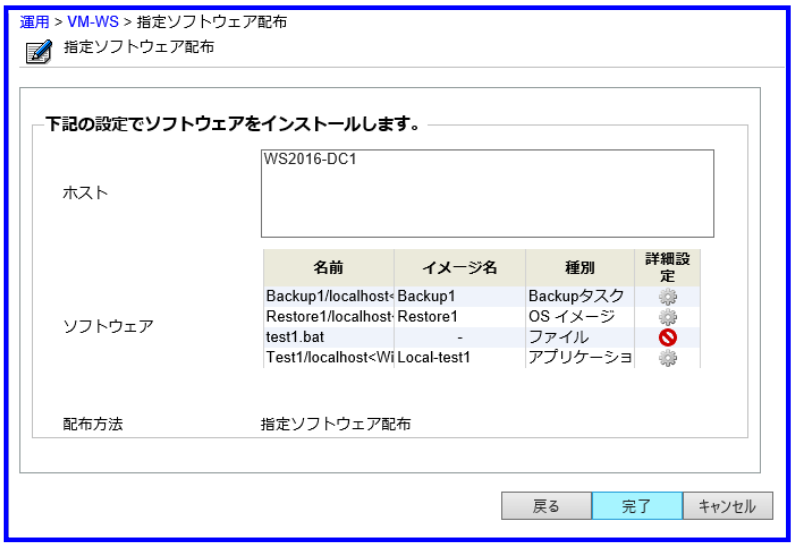


ソフトウェア配布		
	指定ソフトウェア配布	指定ソフトウェアの配布を指定します。次のウィンドウへ遷移します。
	ソフトウェア再配布	
	全ソフトウェアをインストールする	既にインストールしているソフトウェアを含め、全ソフトウェアをインストールします。
	差分ソフトウェアのみインストールする	差分ソフトウェアのみをインストールします。
[OK]		指定ソフトウェアの場合、次のウィンドウに遷移します。ソフトウェア再配布の場合、ソフトウェアの配布を行います。
[キャンセル]		ソフトウェアの配布をせずに、元のウィンドウに戻ります。

[指定ソフトウェア配布] を選択した場合、以下のウィンドウが表示されます。

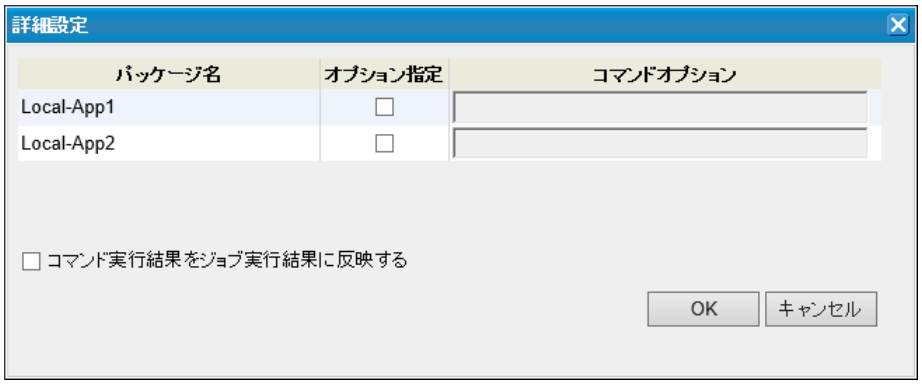


指定ソフトウェア配布		
	ソフトウェア一覧	
	ソフトウェア種別	表示するソフトウェアを絞り込みます。 全て / OSイメージ / テンプレート / Backupタスク / アプリケーションとアップデート / スクリプト / ファイル配信の中から選択できます。
	名前	システムリソースに登録されているソフトウェア名を表示します。ソフトウェアは、表示されている順番で配布されます。順序を変更するには、変更するソフトウェアのチェックボックスを選択し、[↑]、および [↓] で操作します。
	イメージ名	ソフトウェアに設定されているイメージ名を表示します。
	種別	ソフトウェアの種別を表示します。
	[↑]	チェックボックスを選択した指定ソフトウェアの配布順序を1つ前に移動します。
	[↓]	チェックボックスを選択した指定ソフトウェアの配布順序を1つ後に移動します。
[戻る]		元のウィンドウに戻ります。
[次へ]		次のウィンドウへ移動します。
[キャンセル]		指定したソフトウェアの配布を行わずに、元のウィンドウに戻ります。



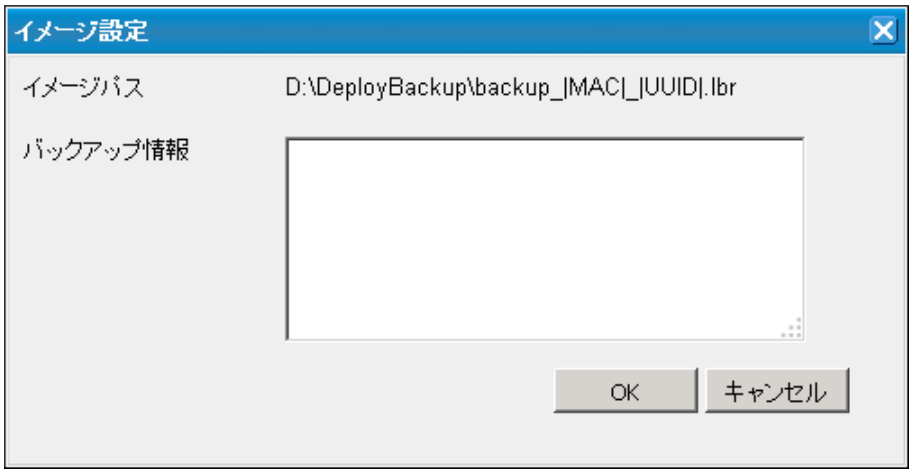
指定ソフトウェア配布	
下記の設定でソフトウェアをインストールします。	
ホスト	インストール先のマシンを表示します。
ソフトウェア	
名前	インストールするソフトウェア名を表示します。
イメージ名	イメージ名を表示します。
種別	ソフトウェアの種別を表示します。
詳細設定	ソフトウェアの設定を行う場合、アイコンをクリックします。 ソフトウェアの種別がアプリケーションとアップデートの場合のみ設定が可能です。
配布方法	指定ソフトウェア配布を表示します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。
[完了]	指定したソフトウェアの配布を行います。
[キャンセル]	指定したソフトウェアの配布を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

ソフトウェアの種類がアプリケーション、またはアップデートの場合、[詳細設定] をクリックすると、以下の「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。



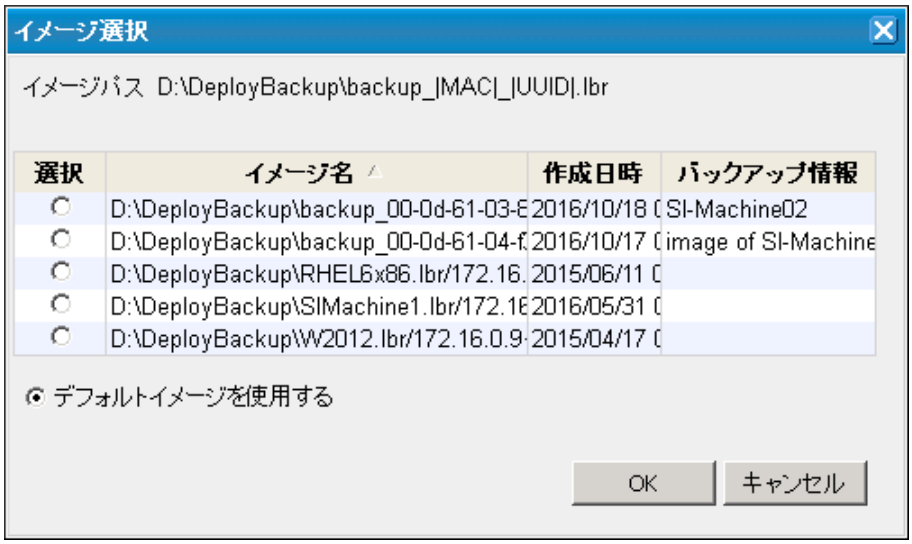
詳細設定	
パッケージ名	パッケージ名を表示します。
オプション設定	コマンドオプションを指定する場合、チェックボックスをオンにします。
コマンドオプション	コマンドのオプションを入力します。[オプション設定] チェックボックスがオンの場合のみ有効となります。
コマンド実行結果をジョブ実行結果に反映する	チェックボックスをオンにすると、コマンドの実行結果がジョブ実行結果に反映されます。 すべてのコマンドの実行が失敗とみなされた場合、ジョブはすべて失敗となります。 1つでもコマンドの実行が成功した場合は、ジョブ実行結果は失敗になりません。
[OK]	詳細設定情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	詳細設定情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

ソフトウェアの種別がバックアップの場合、[詳細設定] をクリックすると、以下の「イメージ設定」ダイアログボックスが表示されます。



イメージ設定	
イメージパス	バックアップのシナリオに設定されているイメージのパスを表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を入力します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ設定] グループボックスを閉じます。

ソフトウェアの種別がリストアの場合、[イメージ選択] をクリックすると、以下の「イメージ選択」ダイアログボックスが表示されます。



イメージ選択	
イメージパス	リストアのシナリオで設定されているイメージのパスを表示します。
選択	リストアするBackupイメージを選択します。 リストアのシナリオに設定されているイメージを選択する場合は、「デフォルトイメージを使用する」を選択します。
イメージ名	Backupイメージのイメージ名を表示します。
作成日時	Backupイメージの作成日時を表示します。
バックアップ情報	Backupイメージのバックアップ情報を表示します。
デフォルトイメージを使用する	既定の設定です。リストアシナリオに設定されているイメージを使用します。
[OK]	イメージ設定情報を保存し、[ソフトウェア一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	イメージ設定情報を保存せずに、[イメージ選択] グループボックスを閉じます。

4.19.20. ソフトウェア配布 ([グループプール] グループボックス)

対象のリソースに指定ソフトウェアの配布を行います。

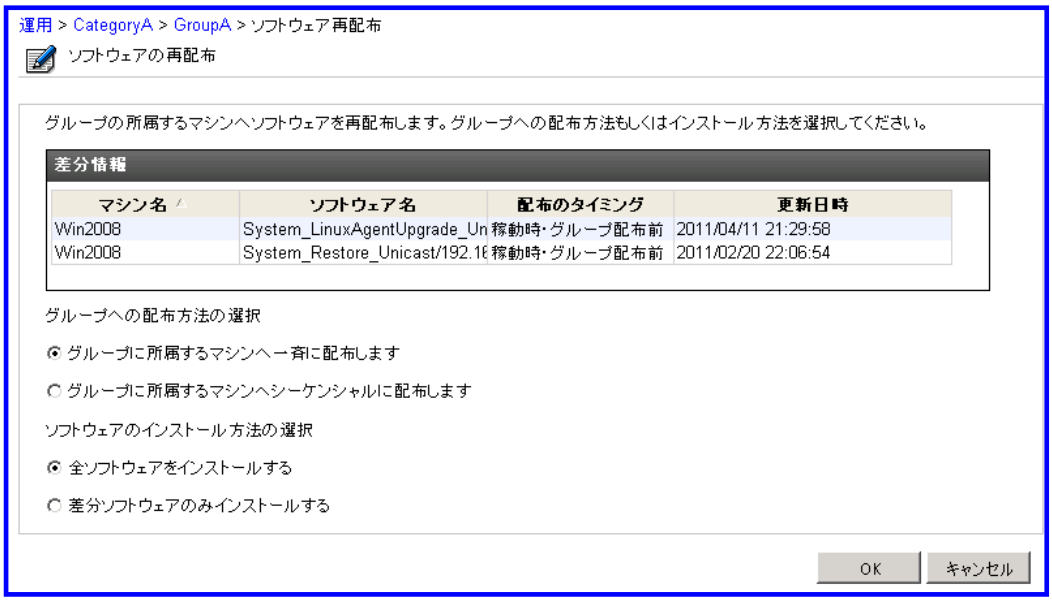
[運用] ツリーから対象のグループのアイコンをクリックし、メインウィンドウにグループの詳細情報を表示します。[グループプール] グループボックスからソフトウェアを配布するリソースのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [指定ソフトウェア配布] をクリックすると、メインウィンドウに「指定ソフトウェア配布」が表示されます。配布するソフトウェア、配布順を指定し、[OK] をクリックしてソフトウェアの配布を行います。

指定ソフトウェア配布については、「4.19.19 ソフトウェア配布 ([ホスト一覧] グループボックス)」を参照してください。

4.19.21. ソフトウェア再配布

「ソフトウェアの再配布」は、グループに所属するマシンへソフトウェアの再配布をします。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [ソフトウェア再配布] をクリックすると、メインウィンドウに「ソフトウェアの再配布」が表示されます。ソフトウェアの再配布の方法を選択し、[OK] をクリックしてソフトウェアを再配布します。



ソフトウェアの再配布	
差分情報	
マシン名	マシン名を表示します。
ソフトウェア名	配布済みソフトウェア名を表示します。
配布のタイミング	ソフトウェアを配布するタイミングを表示します。
更新日時	ソフトウェアの更新日時を表示します。
グループへの配布方法の選択	
グループに所属するマシンへ一斉に配布します	グループに所属するマシンに一斉配布する場合に選択します。
グループに所属するマシンへシーケンシャルに配布します	グループに所属するマシンにシーケンシャル配布する場合に選択します。
ソフトウェアのインストール方法の選択	
全ソフトウェアをインストールする	すべてのソフトウェアをインストールする場合に選択します。
差分ソフトウェアのみインストールする	差分のあるソフトウェアのみインストールする場合に選択します。
[OK]	ソフトウェアの再配布を行います。
[キャンセル]	ソフトウェアの再配布を行わずに、元のウィンドウに戻ります。

4.19.22. マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力

性能グラフを表示します。

[運用] ツリーから保守用の操作メニューを表示する運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [マシン性能比較]、もしくは [性能情報比較] をクリックすると、各グループボックスのチェックボックスがオンとなっているマシンについての性能グラフが表示されます。

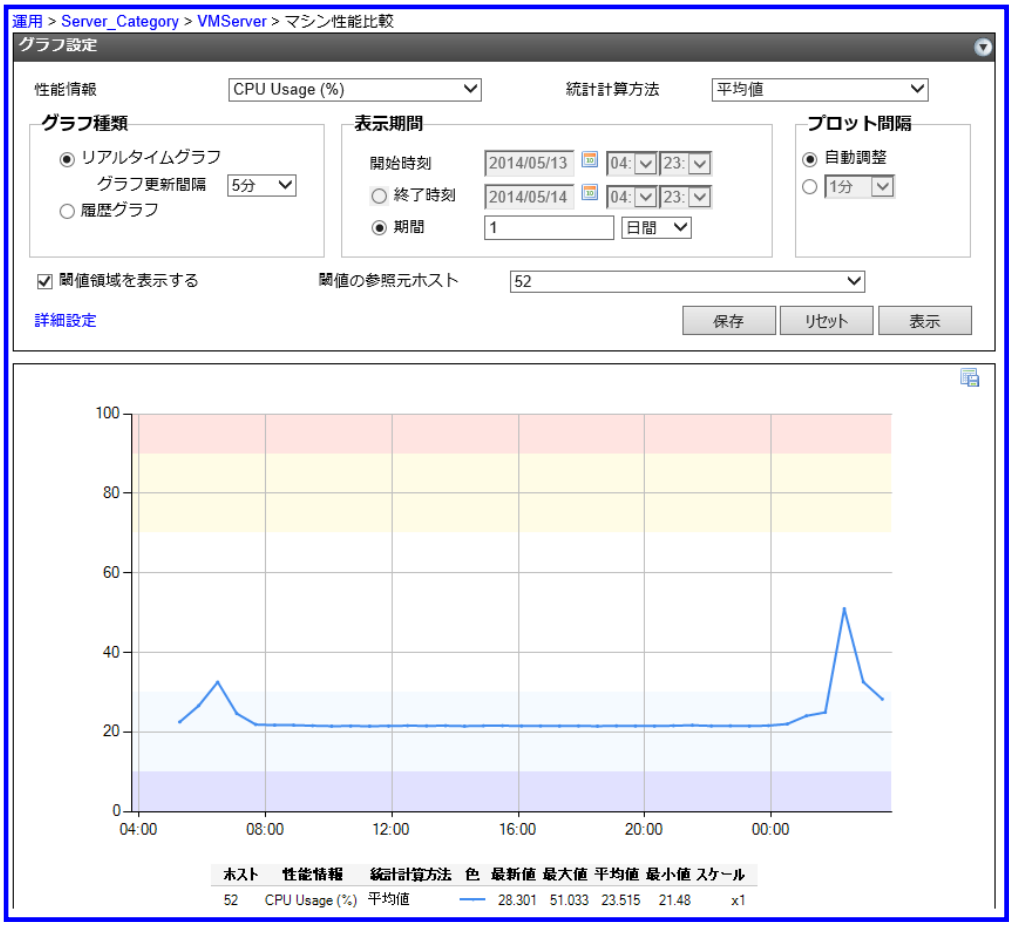
[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスから [ホスト名] をクリックすると、メインウィンドウにホストの詳細情報が表示されます。ホストの詳細情報の [設定] メニューから [性能情報比較] をクリックすると、マシンの性能情報比較グラフが表示されます。

また、[設定] メニューから [性能状況] をクリックすると、グループの性能グラフが表示されます。

[マシン性能比較] は、マシンの性能状況をグラフで表示し、確認することができます。複数のマシンについてチェックボックスをオンにすることで、ある性能情報について、複数のマシンの性能データを 1 つのグラフ上に表示することができます。

[性能情報比較] は、指定したマシンの性能状況をグラフで表示し、確認することができます。チェックボックスをオンにできるホストは 1 つだけです。指定したマシンについて、収集中の複数の性能情報に関する性能データを 1 つのグラフ上に表示することができます。

[グループ性能状況] は、グループ配下のモデルの性能状況をグラフで表示し、確認することができます。グループ配下の複数のモデルについてグラフを表示することで、モデルの性能状況をグラフで比較することができます。

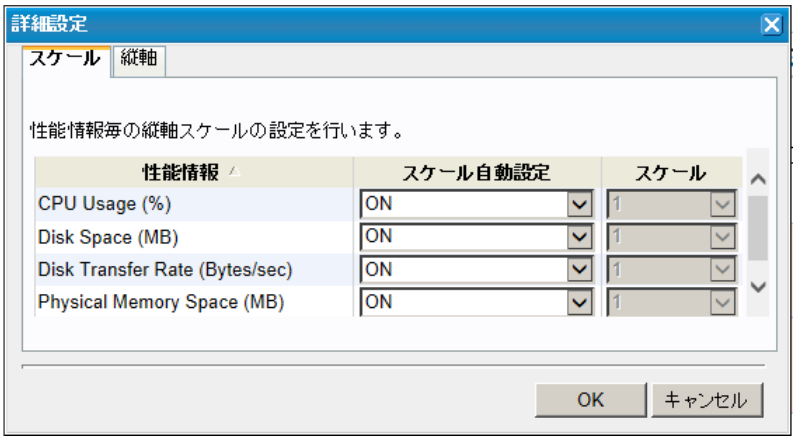


グラフ設定	
性能情報	表示する性能情報を選択します。[マシン性能状況] 選択時のみ選択可能です。
統計計算方法	統計計算方法を選択します。統計計算方法は、最大値、平均値、最小値、または合計値の中から選択します。
グラフ種類	
リアルタイムグラフ	最新のグラフを表示したい場合に選択します。指定したグラフ更新間隔で自動的にグラフが更新されます。
履歴グラフ	特定の開始時刻から特定の期間のグラフを表示したい場合に選択します。
表示期間	
開始時刻	グラフ表示を開始する時刻に指定します。グラフ種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
終了時刻	グラフ表示を終了する時刻に指定します。グラフ種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
期間	グラフの表示期間を指定します。
プロット間隔	

	自動調整	表示期間、データの収集間隔に合わせて、自動的にプロット間隔を調整して表示します。
	プロット間隔指定	指定したプロット間隔でグラフを表示します。
閾値領域表示		閾値領域を表示したい場合、チェックボックスをオンにします。
閾値の参照元		閾値領域表示用チェックボックスを有効にして、閾値の参照元を選択します。
詳細設定		性能情報ごとの縦軸スケールと縦軸の表示範囲を設定する「詳細設定」ダイアログボックスを表示します。また、「性能情報比較」ウィンドウの場合は、性能データを表示するホスト / 論理ディスクと性能情報を設定します。
[保存]		グラフ設定をグループの共通設定、もしくは個別設定として保存します。
[リセット]		保存したグラフ個別設定情報を削除します。
[表示]		グラフ設定より性能グラフを表示します。
グラフ		
性能データファイル出力 ( )		グラフで表示中の性能データをCSVファイルとして出力します。
ノード		グラフで表示中のホスト名を表示します。
性能情報		グラフで表示中の性能情報を表示します。
統計計算方法		グラフで表示中の統計計算方法を表示します。
色		グラフで表示中のグラフの色を表示します。
最新値		表示期間中のデータの最新値を表示します。
最大値		表示期間中のデータの最大値を表示します。
平均値		表示期間中のデータの平均値を表示します。
最小値		表示期間中のデータの最小値を表示します。
スケール		表示中のグラフのスケールを表示します。実際の値をスケール倍した値でグラフ表示します。

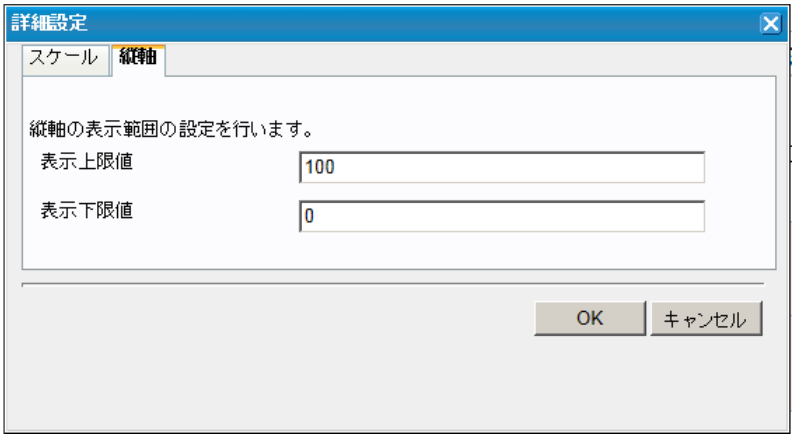
[詳細設定] をクリックすると、「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。

<[スケール] タブ>



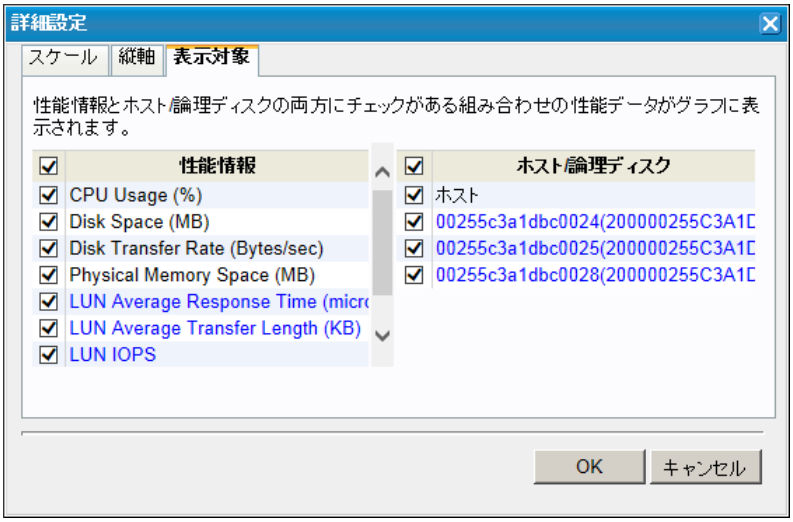
詳細設定	
スケール	
性能情報	性能情報の名前を表示します。
スケール自動設定	性能情報に対し、スケールを自動設定するか個別設定するかを選択します。[ON] を選択する場合、スケールは自動に設定します。[OFF] を設定する場合、スケールを手動に設定する必要があります。
スケール	スケール自動設定が [OFF] の場合、性能情報ごとにスケールを指定します。スケールは10のn乗 (nは、-10～10の整数) から選択できます。
[OK]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲を保存せず、ダイアログボックスを閉じます。

<[縦軸] タブ>



詳細設定	
縦軸	
表示上限値	グラフの縦軸の表示上限値を設定します。
表示下限値	グラフの縦軸の表示下限値を設定します。
[OK]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲を保存せず、ダイアログボックスを閉じます。

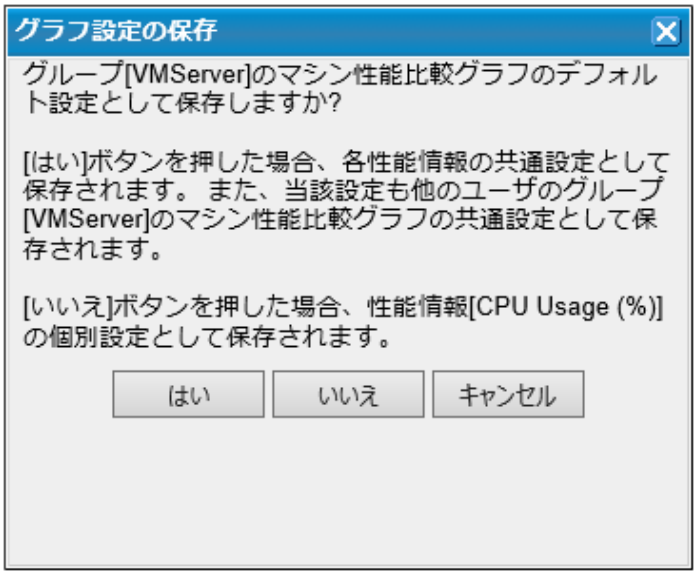
<[表示対象] タブ (「性能情報比較」ウィンドウの場合のみ)>



詳細設定	
表示対象	
性能情報	グラフ内に表示する性能情報を設定します。
ホスト / 論理ディスク	グラフ内に表示するホスト、または論理ディスクを設定します。
[OK]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲、表示対象を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	性能情報ごとのスケールと縦軸の表示範囲、表示対象を保存せず、ダイアログボックスを閉じます。

[保存] をクリックすると、「グラフ設定の保存」ダイアログボックスが表示されます。

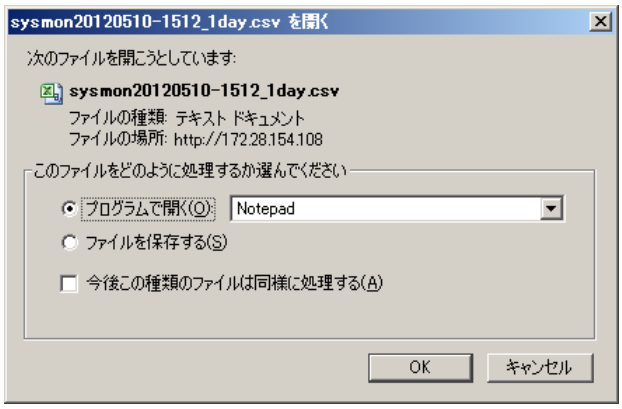
「グラフ設定の保存」ダイアログボックスの [はい] をクリックする場合、グラフ設定はグループの共通設定と個別設定の両方を保存しますが、[いいえ] をクリックした場合は、個別設定のみ保存します。[キャンセル] をクリックした場合は、「グラフ設定の保存」ダイアログボックスが削除されます。



性能グラフ右上の アイコンをクリックすると、「ファイルダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。

◆ Internet Explorer の場合

◆ Firefox の場合

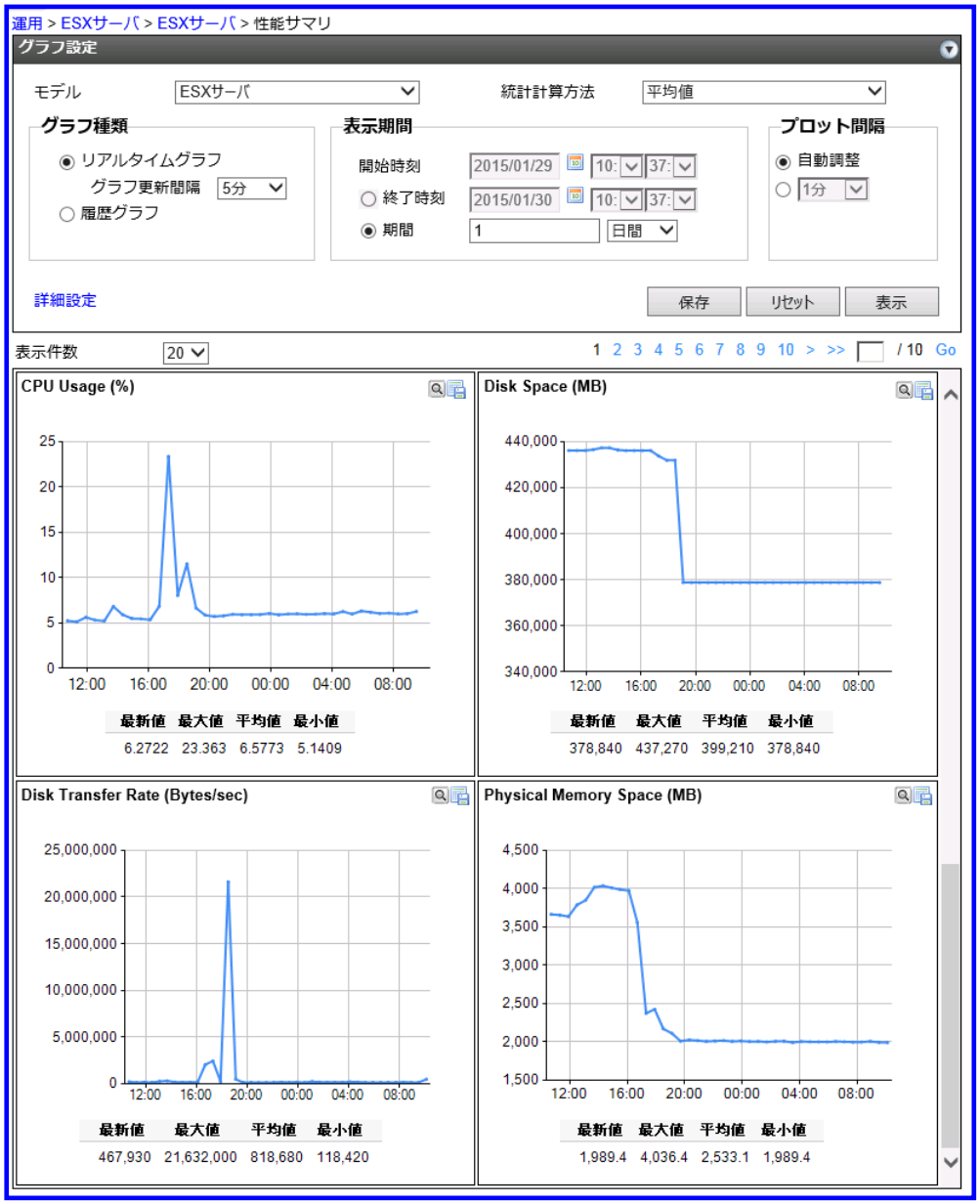


4.19.23. グループ性能サマリ / ドリルダウン

グループ性能サマリ、およびドリルダウンを表示します。

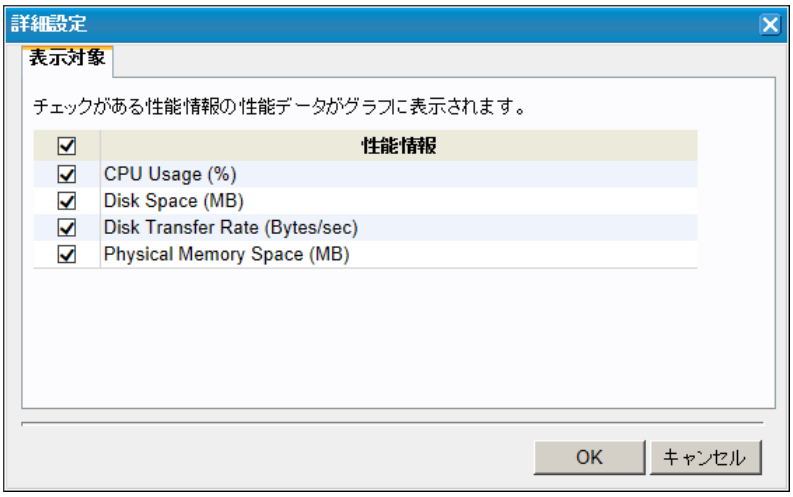
[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [性能サマリ] をクリックすると、メインウィンドウに [グラフ設定] グループボックスが表示されます。

グループ性能サマリは、グループ配下のモデルの性能情報ごとに別々のグラフとして表示します。各性能情報について個別に確認することができます。各性能情報のグラフからドリルダウンのグラフに切り替え、モデル配下のマシンの性能状況をグラフで比較することができます。



グラフ設定	
モデル	表示するモデルを選択します。
統計計算方法	統計計算方法を選択します。統計計算方法は、最大値、平均値、最小値、または合計値の中から選択します。
グラフ種類	
リアルタイムグラフ	最新のグラフを表示したい場合に選択します。
グラフ更新間隔	指定したグラフ更新間隔で自動的にグラフが更新されます。
履歴グラフ	特定の開始時刻から特定の期間のグラフを表示したい場合に選択します。
表示期間	
開始時刻	グラフの表示を開始する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
終了時刻	グラフの表示を終了する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
期間	グラフの表示期間を指定します。
プロット間隔	
自動調整	表示期間、データの収集間隔に合わせて、自動的にプロット間隔を調整して表示します。
(プルダウンボックス)	指定したプロット間隔でグラフを表示します。
詳細設定	グループサマリで性能データを表示する性能情報を設定する「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。
[保存]	グラフ設定をグループの共通設定、もしくは個別設定として保存します。[保存] については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
[リセット]	保存したグラフ個別設定情報を削除します。
[表示]	グラフ設定より性能グラフを表示します。
グラフ	
性能データファイル出力 ( )	グラフで表示中の性能データをCSVファイルとして出力します。
ドリルダウン切り替え ( )	グラフで表示中の性能情報のドリルダウンに切り替えます。
最新値	表示期間中のデータの最新値を表示します。
最大値	表示期間中のデータの最大値を表示します。
平均値	表示期間中のデータの平均値を表示します。
最小値	表示期間中のデータの最小値を表示します。

[詳細設定] をクリックすると、「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。

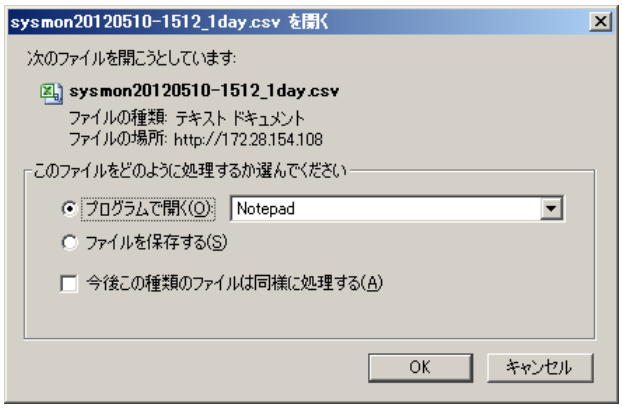


詳細設定	
表示対象	
性能情報	グラフに性能データを表示する性能情報を選択します。
[OK]	グラフに性能データを表示する性能情報を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	グラフに性能データを表示する性能情報を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

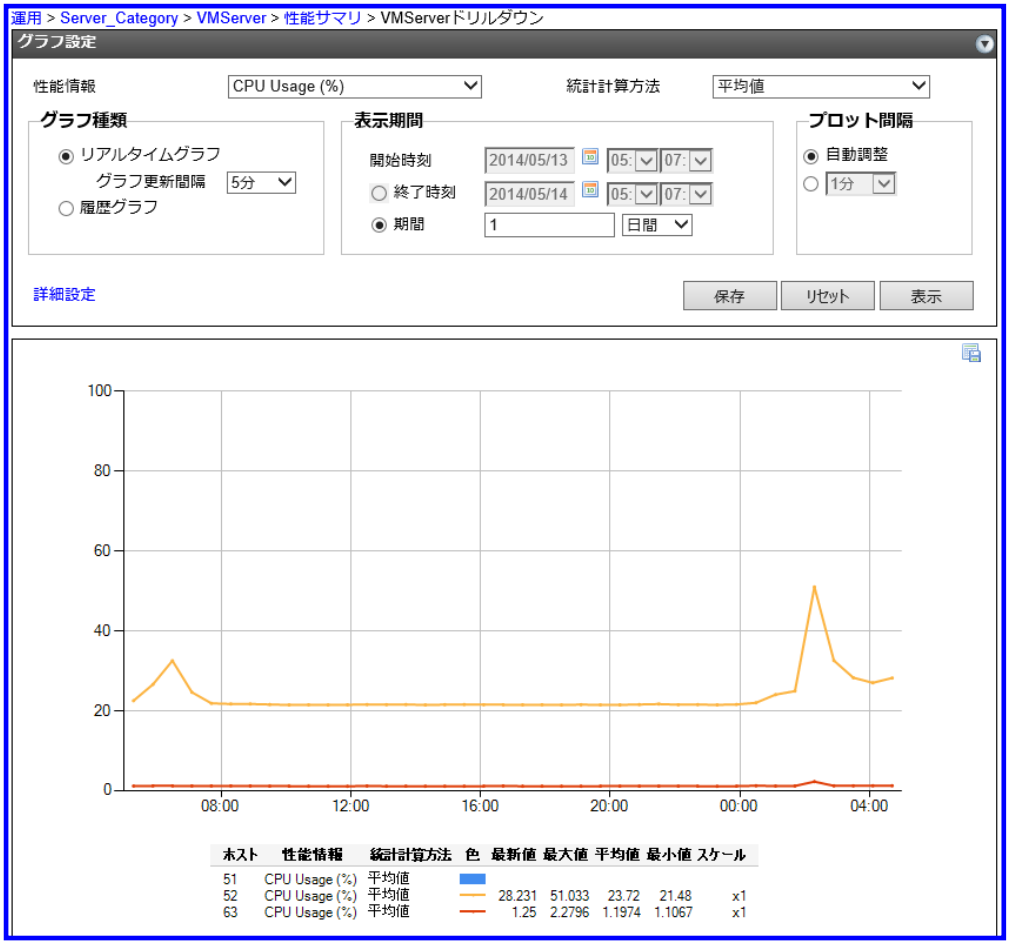
性能グラフ右上の アイコンをクリックすると、「ファイルダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。

◆ Internet Explorer の場合

◆ Firefox の場合



性能サマリグラフ右上の アイコンをクリックすると、メインウィンドウに「ドリルダウン」が表示されます。

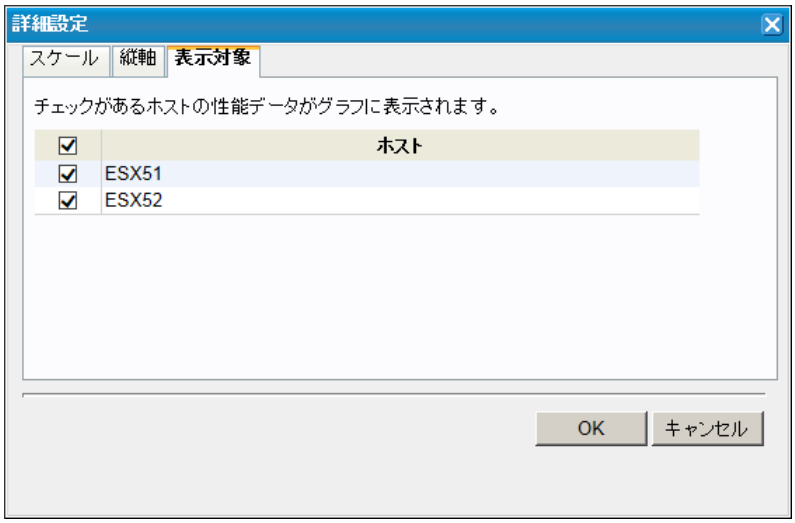


グラフ設定	
性能情報	表示する性能情報を選択します。
統計計算方法	統計計算方法を選択します。統計計算方法は、最大値、平均値、最小値、または合計値の中から選択します。
グラフ種類	
リアルタイムグラフ	最新のグラフを表示したい場合に選択します。
グラフ更新間隔	指定したグラフ更新間隔で自動的にグラフが更新されます。
履歴グラフ	特定の開始時刻から特定の期間のグラフを表示したい場合に選択します。
表示期間	
開始時刻	グラフ表示を開始する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
終了時刻	グラフ表示を終了する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
期間	グラフの表示期間を指定します。
プロット間隔	
自動調整	表示期間、データの収集間隔に合わせて、自動的にプロット間隔を調整して表示します。
(プルダウンボックス)	指定したプロット間隔でグラフを表示します。
詳細設定	性能情報ごとの縦軸スケール、縦軸の表示範囲、グラフに性能データを表示するホストを設定する「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。
[保存]	グラフをグループの共通設定、もしくは個別設定として保存します。[保存] については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
[リセット]	保存したグラフ個別設定情報を削除します。
[表示]	グラフ設定より性能グラフを表示します。
グラフ	
性能データファイル出力 ( )	グラフで表示中の性能データをCSVファイルとして出力します。
ノード	グラフで表示中のホスト名を表示します。
性能情報	グラフの表示中の性能情報を表示します。
統計計算方法	グラフで表示中の統計計算方法を表示します。
色	グラフで表示中のグラフの色を表示します。
最新値	表示期間中のデータの最新値を表示します。
最大値	表示期間中のデータの最大値を表示します。

平均値	表示期間中のデータの平均値を表示します。
最小値	表示期間中のデータの最小値を表示します。
スケール	表示中のグラフのスケールを表示します。実際の値をスケールで倍にした値でグラフ表示します。

[詳細設定] をクリックすると、「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。

[スケール] タブ、[縦軸] タブの詳細については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。

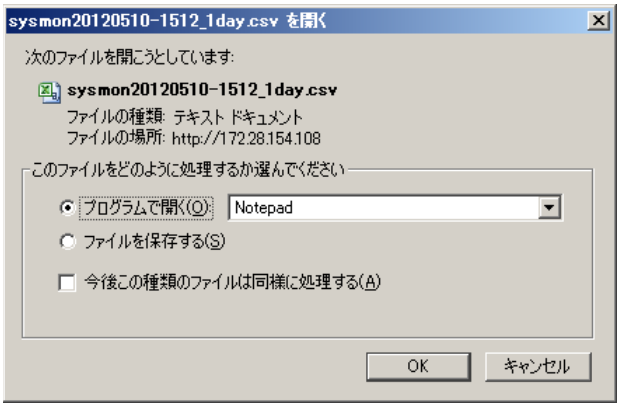


詳細設定	
表示対象	
ホスト	グラフに性能データを表示するホストを選択します。
[OK]	グラフに性能データを表示するホスト情報を保存して、ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	グラフに性能データを表示するホスト情報を保存せずに、ダイアログボックスを閉じます。

性能グラフ右上の アイコンをクリックすると、「ファイルダウンロード」ダイアログボックスが表示されます。

◆ Internet Explorer の場合

◆ Firefox の場合



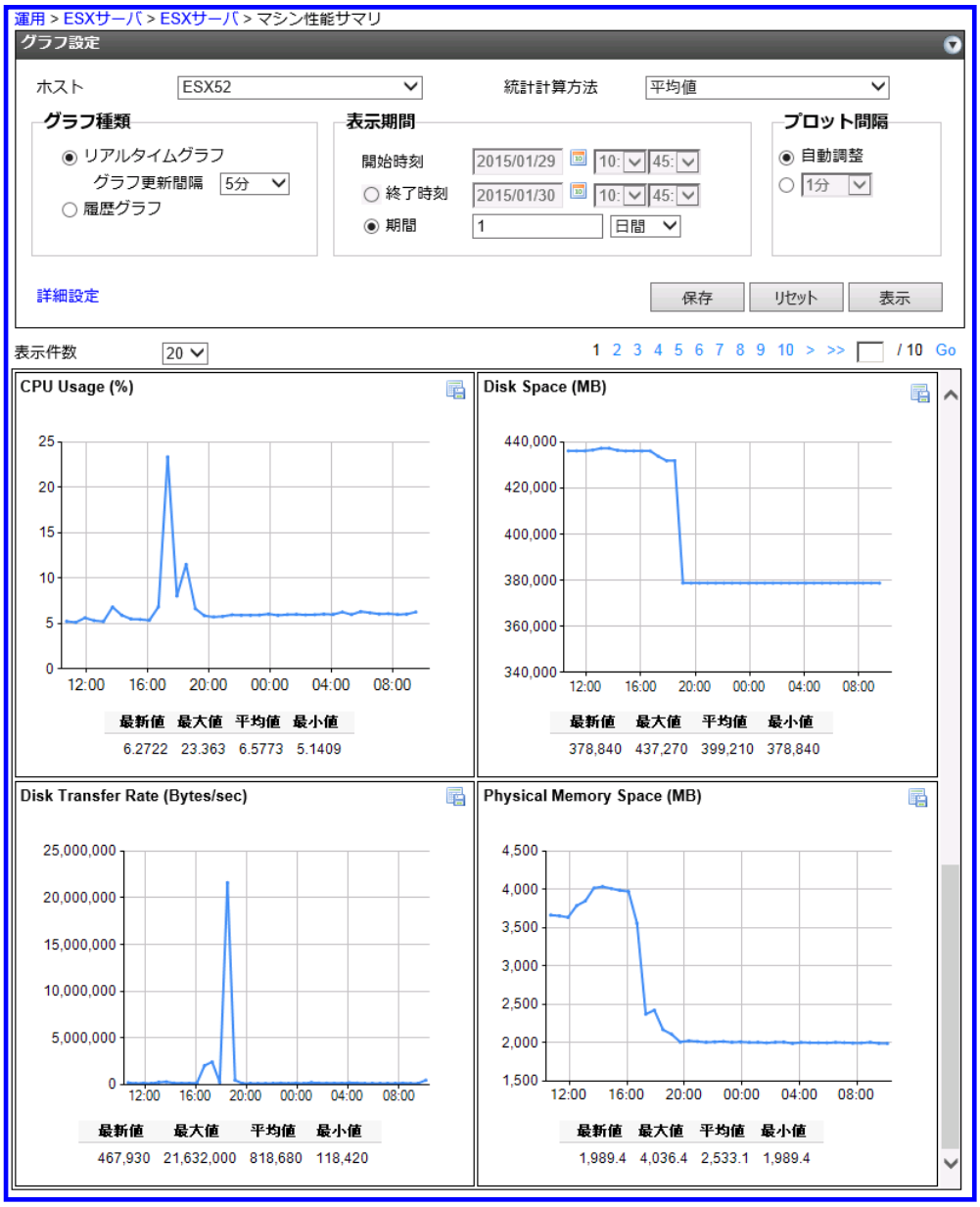
4.19.24. マシン性能サマリ

マシン性能サマリを表示します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] の [マシン性能サマリ ( )]、もしくは [ホスト一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [マシン性能サマリ] をクリックすると、マシン性能サマリが表示されます。

また、ホストの詳細情報の [設定] メニューから [マシン性能サマリ] をクリックすると、マシンの性能サマリも表示されます。グループの [リソースプール] タブの [リソース一覧] の [マシン性能サマリ ( )] をクリックすると、マシン性能サマリも表示されます。

マシン性能サマリは、ホスト単位で性能情報ごとに別々のグラフとして表示します。マシンの各性能情報について個別に確認することができます。



グラフ設定	
ホスト	表示するホストを選択します。
統計計算方法	統計計算方法を選択します。統計計算方法は、最大値、平均値、最小値、または合計値の中から選択します。
グラフ種類	
リアルタイムグラフ	最新のグラフを表示したい場合に選択します。
グラフ更新間隔	指定したグラフ更新間隔で自動的にグラフが更新されます。
履歴グラフ	特定の開始時刻から特定の期間のグラフを表示したい場合に選択します。
表示期間	

		開始時刻	グラフの表示を開始する時刻を指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
		終了時刻	グラフの表示を終了する時刻に指定します。グラフの種類として、[履歴グラフ] を選択した場合のみ指定可能です。
		期間	グラフの表示期間を指定します。
	プロット間隔		
		自動調整	表示期間、データの収集間隔に合わせて、自動的にプロット間隔を調整して表示します。
		(プルダウンボックス)	指定したプロット間隔でグラフを表示します。
	詳細設定		グラフに性能データを表示するホスト / 論理ディスクと性能情報を設定する「詳細設定」ダイアログボックスが表示されます。詳細については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
	[保存]		グラフ設定をグループの共通設定、もしくは個別設定として保存します。[保存] については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
	[リセット]		保存したグラフ個別設定情報を削除します。
	[表示]		グラフ設定より性能グラフを表示します。
グラフ			
	性能データファイル出力 ( )		グラフで表示中の性能データをCSVファイルとして出力します。性能データファイル出力 ( ) については、「4.19.22 マシン性能比較 / 性能情報比較 / グループ性能状況 / 性能データのファイル出力」を参照してください。
	ドリルダウン切り替え ( )		グラフで表示中の性能情報のドリルダウンに切り替えます。
	最新値		表示期間中のデータの最新値を表示します。
	最大値		表示期間中のデータの最大値を表示します。
	平均値		表示期間中のデータの平均値を表示します。
	最小値		表示期間中のデータの最小値を表示します。

4.19.25. ジョブ実行結果のリセット

SystemProvisioning は、何らかの理由によりポリシーによるアクションや Web コンソールの操作などからマシンの起動・停止など、アクションの実行に失敗するとリソースの状態を「異常終了」に設定します。「異常」となっているマシンに関してログの採取や障害原因を取り除いた後、ジョブ実行結果をリセットします。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックス、もしくは [グループプール] グループボックスの [アクション] メニューから [ジョブ実行結果のリセット] をクリックすると、各グループボックスのチェックボックスがオンとなっているマシンのジョブ実行結果のリセットすることができます。

もしくは、運用グループの詳細情報の [ホスト一覧] グループボックスから対象のホストの [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [ジョブ実行結果のリセット] をクリックします。

4.19.26. 故障状態の解除

マシンのハードウェア状態を故障から正常に解除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックス、もしくは [グループプール] グループボックスの [アクション] メニューから [故障状態の解除] をクリックすると、各グループボックスのチェックボックスがオンとなっているマシンの故障状態を解除することができます。

もしくは、運用グループの詳細情報の [ホスト一覧] グループボックスから対象のホストの [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [故障状態の解除] をクリックします。

4.19.27. メンテナンスオン / メンテナンスオフ

メンテナンスモードをオン、もしくはオフにします。

メンテナンスモードをオフにすると、ポリシー状態も "すべて有効" に変更されます。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックス、もしくは [グループプール] グループボックスからメンテナンスモードに移行 / 解除するマシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [メンテナンスオン]、もしくは [メンテナンスオフ] をクリックすると、メンテナンスモードがオン / オフになります。

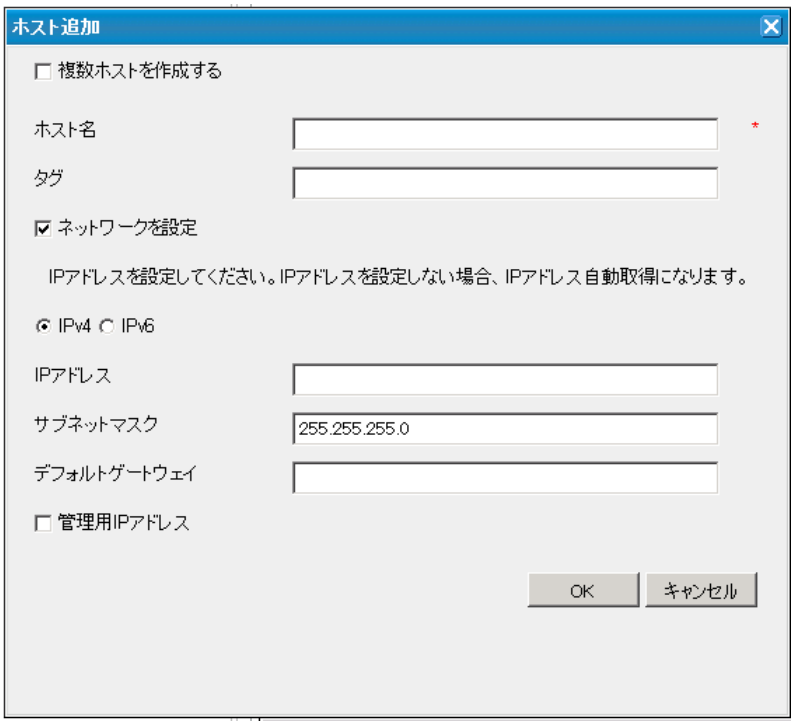
もしくは、運用グループの詳細情報の [ホスト一覧] グループボックスから対象のホストの [ホスト名] をクリックし、メインウィンドウにホストの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [メンテナンスオン]、もしくは [メンテナンスオフ] をクリックします。

4.19.28. ホスト追加

ホストを追加します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからホストを追加するマシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [ホスト追加] をクリックすると、「ホスト追加」ダイアログボックスが表示されます。

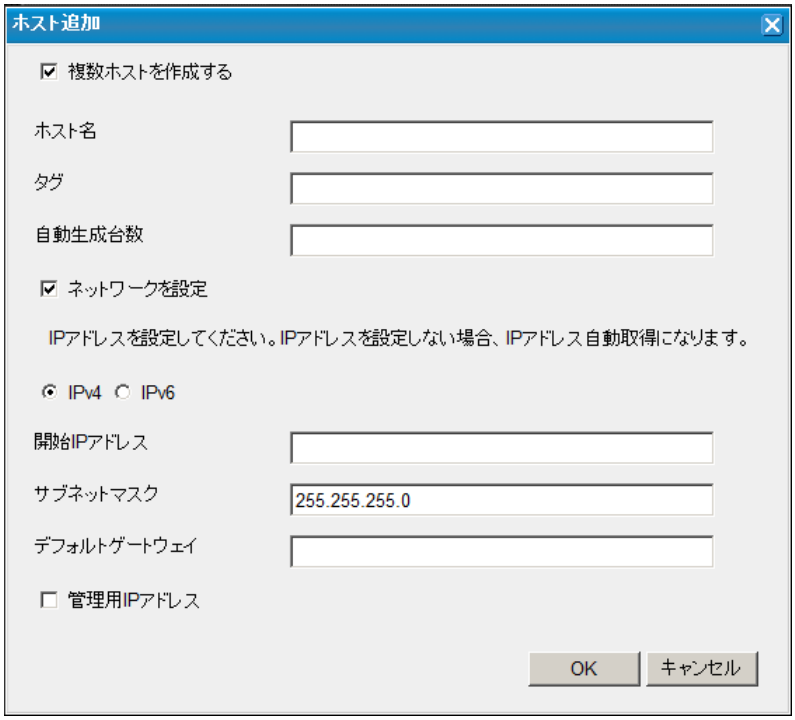
◆ [複数ホストを作成する] チェックボックスがオフの場合



ホスト追加	
複数ホストを作成する	複数ホストを一括作成する場合はオンにします。
ホスト名 **(入力必須)**	追加するホスト名を入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
タグ	タグ (キーワード) を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。
ネットワークを設定	ホストにネットワークを設定する場合はオンにします。
IPv4	IPv4のアドレスを入力する場合に選択します。
IPv6	IPv6のアドレスを入力する場合に選択します。
IP アドレス	IPアドレスを入力します。
サブネットマスク **(IPv4 の場合)**	サブネットマスクを入力します。
サブネットプレフィックス長 **(IPv6 の場合)**	サブネットプレフィックス長を入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。

管理用 IP アドレスにする	[IPアドレス] テキストボックスに入力したIPアドレスを管理用IPアドレスに設定する場合はオンにします。設定されたIPアドレスは、ホスト設定の [ネットワーク] タブにて確認できます。[管理用IPアドレスにする] チェックボックスがオフの場合、管理用IPアドレスが "なし" に設定されます。その場合、ホストにリソースを割り当てたとき、ESMPRO/ServerManagerに自動登録されません。そのため、ESMPRO/ServerManagerによる障害の検出を契機とした障害復旧処理を行うことができません。 また、IPv6の場合は設定できません。
[OK]	設定したホストを追加し、[ホスト一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ホスト追加情報を保存せずに、[ホスト追加] グループボックスを閉じます。

◆ [複数ホストを作成する] チェックボックスがオンの場合



ホスト追加	
複数ホストを作成する	複数ホストを一括作成する場合はオンにします。
ホスト名 **(入力必須)**	追加するホスト名を入力します。入力できる文字数は63文字以内です。ただし、数字のみで構成されたホスト名、あるいはホスト名の語尾に入力できる数字の文字数は、9文字 (9桁) 以内です。
タグ	タグ (キーワード) を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。

自動生成台数	作成するホストの数を入力します。[ネットワークを設定] チェックボックスがオフの場合、上限値は1000です。[ネットワークを設定] チェックボックスがオンの場合、[サブネットマスク] (IPv4の場合)、[サブネットプレフィックス長] (IPv6の場合) テキストボックスにより指定されたホストの割り当て可能なIPアドレスの中で、[開始IPアドレス] テキストボックスに指定されたIPアドレスから割り当て可能なIPアドレス数となります。
ネットワークを設定	ホストにネットワークを設定する場合はオンにします。
IPv4	IPv4のアドレスを入力する場合に選択します。
IPv6	IPv6のアドレスを入力する場合に選択します。
開始 IP アドレス	開始IPアドレスを入力します。
サブネットマスク (IPv4 の場合)	サブネットマスクを入力します。
サブネットプレフィックス長 (IPv6 の場合)	サブネットプレフィックス長を入力します。
デフォルトゲートウェイ	デフォルトゲートウェイを入力します。
管理用 IP アドレスにする	開始IPアドレスから自動で設定されたIPアドレスを管理用IPアドレスに設定する場合はオンにします。設定された管理用IPアドレスは、ホスト設定の [ネットワーク] タブにて確認できます。[管理用IPアドレスにする] チェックボックスがオフの場合、管理用IPアドレスが "なし" に設定されます。その場合、ホストにリソースを割り当てたとき、ESMPRO/ServerManagerへの登録処理が実行されません。そのため、ESMPRO/ServerManagerによる障害の検出を契機とした障害復旧処理を行うことができません。 また、IPv6の場合は設定できません。
[OK]	設定したホストを追加し、[ホスト一覧] グループボックスに表示します。
[キャンセル]	ホスト追加情報を保存せずに、[ホスト追加] グループボックスを閉じます。

4.19.29. ホスト削除

ホストを削除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[ホスト一覧] グループボックスからホストを削除するマシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [ホスト削除] をクリックすると、ホストが削除されます。

4.19.30. プールから削除

プールから待機中のリソースを削除します。

[運用] ツリーから対象の運用グループのアイコンをクリックし、メインウィンドウに運用グループの詳細情報を表示します。[グループプール] グループボックスからプールから削除するリソースのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [プールから削除] をクリックします。

5. 仮想

[仮想] ビューでは、SigmaSystemCenter の仮想マシンの管理を行います。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 5.1 [仮想] ビュー 650
- 5.2 仮想 651
- 5.3 仮想マネージャの詳細情報 653
- 5.4 VXLAN スコープ詳細情報 656
- 5.5 データセンターの詳細情報 658
- 5.6 権限設定 662
- 5.7 VM サーバの詳細情報 664
- 5.8 ポートグループ 689
- 5.9 性能情報 692
- 5.10 データストアの詳細情報 696
- 5.11 VM の詳細情報 698
- 5.12 コンソールスクリーンショット 737
- 5.13 コンソール 738
- 5.14 スナップショット管理 742
- 5.15 テンプレートの詳細情報 746
- 5.16 仮想マシンサーバ、および仮想マシンへのメニュー操作 747

5.1. [仮想] ビュー

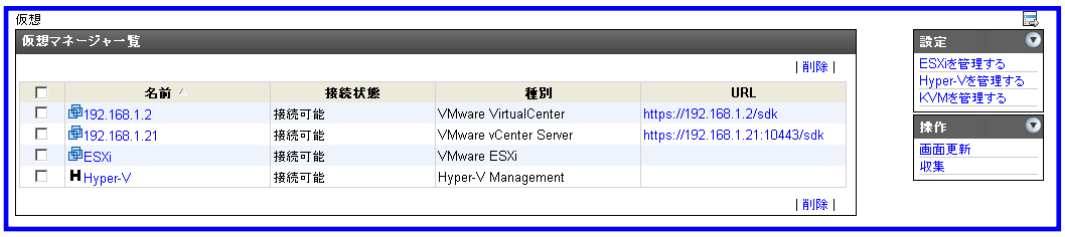
[仮想] ビューでは、SigmaSystemCenter が管理対象とする仮想環境の構成を把握することができます。また、仮想マシンの作成や移動など仮想環境に特化した制御を実行することができます。

タイトルバーの [仮想] をクリックすると、[仮想] ビューに切り替わります。

5.2. 仮想

[仮想] では、仮想マシンの管理を行います。

[仮想] ツリーから [仮想] をクリックします。



仮想マネージャー覧	
名前	SigmaSystemCenterに登録されている仮想マネージャの名前の一覧を表示します。
接続状態	仮想マネージャの接続状態を表示します。
種別	仮想マネージャの種別を表示します。
URL	仮想マネージャのURLを表示します。
削除	チェックボックスを選択した仮想マネージャを削除します。

5.2.1. ESXi を管理する

SystemProvisioning ではスタンドアロン ESXi を管理することでスタンドアロン ESXi の電源操作、およびスタンドアロン ESXi 上の仮想マシンの作成、電源操作などを行うことができます。スタンドアロン ESXi を管理するためには、あらかじめスタンドアロン ESXi を束ねる仮想マネージャを作成する必要があります。

[仮想] ツリーの [設定] メニューから [ESXi を管理する] をクリックします。

5.2.2. Hyper-V 単体を管理する

SystemProvisioning では、Microsoft Failover Cluster に管理されていない Hyper-V 単体を管理することで Hyper-V 単体の電源操作、および Hyper-V 単体上の仮想マシンの作成、電源操作などを行うことができます。Hyper-V 単体を管理するためには、あらかじめ Hyper-V 単体を束ねる仮想マネージャを作成する必要があります。

[仮想] ツリーの [設定] メニューから [Hyper-V を管理する] をクリックします。

5.2.3. KVM を管理する

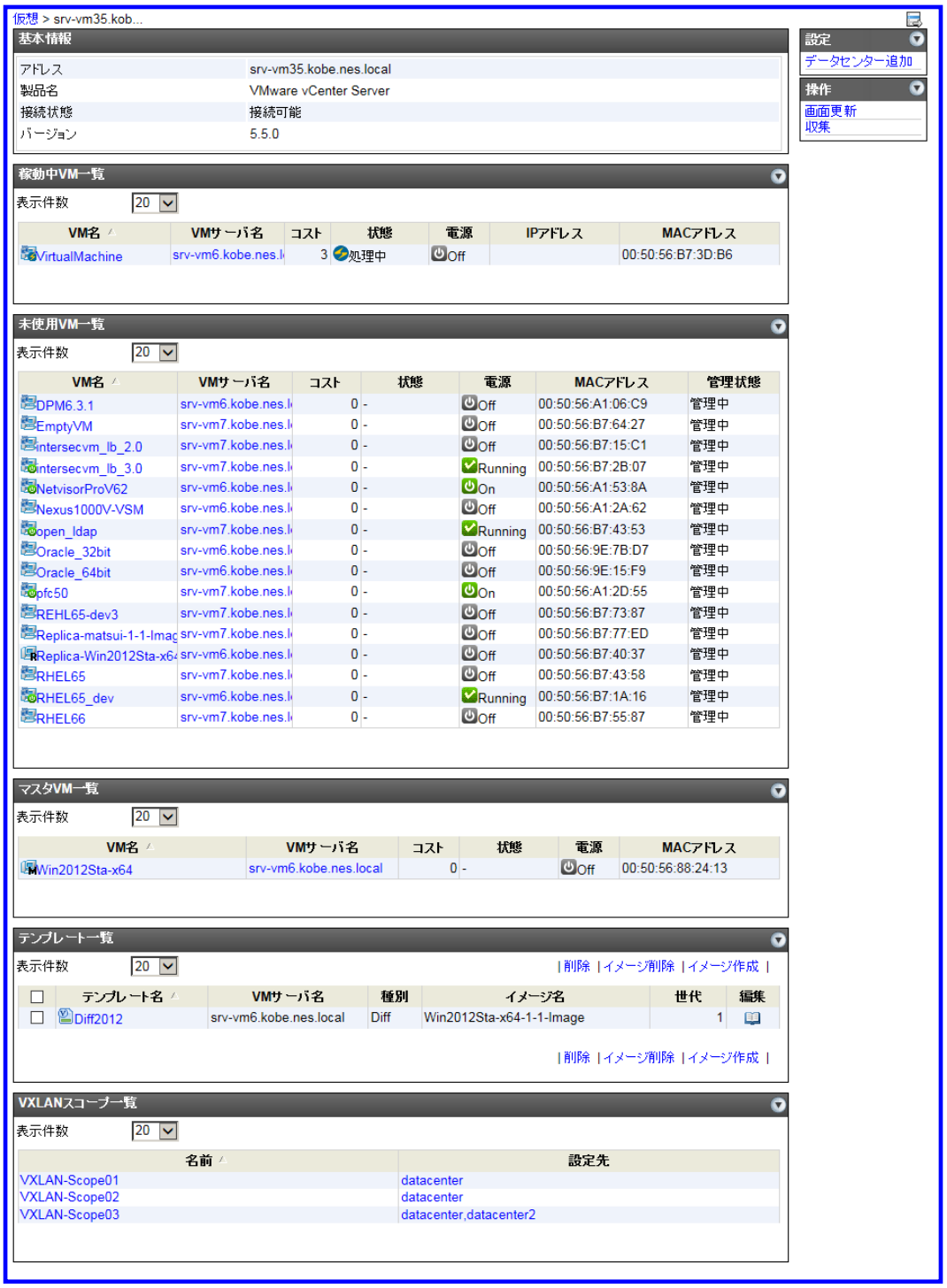
SystemProvisioning では、KVM を管理することで KVM の電源操作、および KVM 上の仮想マシンの作成、電源操作などを行うことができます。KVM を管理するためには、あらかじめ KVM を束ねる仮想マネージャを作成する必要があります。

[仮想] ツリーの [設定] メニューから [KVM を管理する] をクリックします。

5.3. 仮想マネージャの詳細情報

仮想マネージャの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報が表示されます。



基本情報	
アドレス	仮想マネージャのアドレスを表示します。
製品名	仮想マネージャの製品名を表示します。
接続状態	仮想マネージャの接続状態を表示します。
バージョン	仮想マネージャのバージョンを表示します。
稼動中 VM 一覧	
VM 名	稼動中仮想マシン名を表示します。
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
コスト	稼動中仮想マシンのコストを表示します。
状態	稼動中仮想マシンの状態を表示します。
電源	稼動中仮想マシンの電源状態を表示します。
IP アドレス	稼動中仮想マシンのIPアドレスを表示します。
MAC アドレス	稼動中仮想マシンのMACアドレスを表示します。
未使用 VM 一覧	
VM 名	未使用仮想マシン名を表示します。
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
コスト	未使用仮想マシンのコストを表示します。
状態	未使用仮想マシンの状態を表示します。
電源	未使用仮想マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	未使用仮想マシンのMACアドレスを表示します。
管理状態	未使用仮想マシンの管理状態を表示します。
マスタ VM 一覧	
VM 名	マスタVM名を表示します。 マスタVMは種別が「Full Clone」以外のテンプレートと関連している仮想マシンです。
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
コスト	マスタVMのコストを表示します。
状態	マスタVMの状態を表示します。
電源	マスタVMの電源状態を表示します。
MAC アドレス	マスタVMのMACアドレスを表示します。
テンプレート一覧	
テンプレート名	テンプレート名を表示します。
VM サーバ名	テンプレート、またはテンプレートが参照するマスタVMが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。

	種別	テンプレートの種別を表示します。
	イメージ名	テンプレートのデフォルトイメージ名を表示します。
	世代	デフォルトイメージの世代番号を表示します。
	編集	テンプレートを編集します。「テンプレート編集」ウィンドウへ遷移します。
	削除	チェックボックスを選択したテンプレートを削除します。
	イメージ削除	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを削除します。「イメージ削除」ウィンドウに遷移します。イメージ削除については、「3.38.2 イメージ削除」を参照してください。
	イメージ作成	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを作成します。「イメージ作成」ウィンドウへ遷移します。
VXLAN スコープ一覧 (※[VXLANスコープ] グループボックスは、VXLANスコープが1つ以上集約できている場合に表示)		
	名前	VXLANスコープ名を表示します。
	接続先	VXLANスコープが設定されているデータセンター名を表示します。

5.3.1. 仮想マネージャ削除

仮想マネージャを削除します。

[仮想] ツリーから [仮想] をクリックし、メインウィンドウに [仮想マネージャ一覧] グループボックスを表示します。[仮想マネージャ一覧] グループボックスから削除する仮想マネージャのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

5.4. VXLAN スコープ詳細情報

VXLAN スコープの詳細情報を表示します。

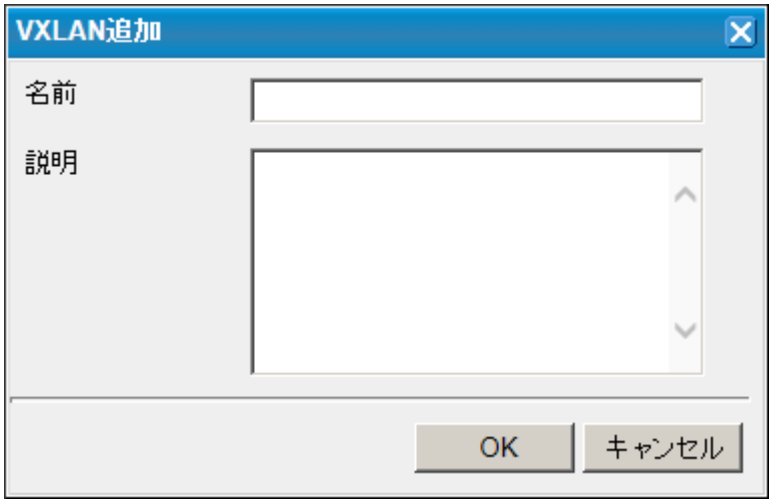
[仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報が表示されます。[VXLAN スコープ一覧] グループボックスから VXLAN スコープの名前をクリックすると、メインウィンドウに VXLAN スコープの詳細情報が表示されます。

基本情報	
名前	VXLANスコープ名を表示します。
説明	VXLANスコープの説明を表示します。
VXLAN 一覧	
名前	VXLAN名を表示します。
VXLAN ID	VXLAN IDを表示します。
マルチキャストアドレス	VXLANが使用するマルチキャストアドレスを表示します。
ポートグループ	VXLANポートグループを表示します。
追加	VXLANの追加を行います。「VXLAN追加」ウィンドウに遷移します。
削除	チェックボックスを選択したVXLANを削除します。

5.4.1. VXLAN 追加

VXLAN を追加します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報が表示されます。[VXLAN スコープ一覧] グループボックスから VXLAN スコープの名前をクリックすると、メインウィンドウに VXLAN スコープの詳細情報が表示されます。[VXLAN 一覧] グループボックスから [追加] をクリックすると、「VXLAN 追加」ダイアログボックスが表示されます。VXLAN 情報を入力し、[OK] をクリックすると、VXLAN が追加されます。



VXLAN 追加	
名前	VXLANの名前を入力します。入力できる文字数は、32文字以内です。また、使用できる文字はアルファベットで始まる英数字、および ("_") です。
説明	VXLANの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	VXLAN追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	VXLAN追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.4.2. VXLAN 削除

VXLAN を削除します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報が表示されます。[VXLAN スコープ一覧] グループボックスから VXLAN スコープの名前をクリックすると、メインウィンドウに VXLAN スコープの詳細情報が表示されます。[VXLAN 一覧] グループボックスから 削除する VXLAN のチェックボックスをオンにし、[削除] をクリックすると選択した VXLAN が削除されます。

5.5. データセンターの詳細情報

DataCenter、またはクラスタの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックすると、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報が表示されます。

注:

- 仮想マシンサーバ移動は、ESXi、Hyper-V 単体、および KVM の仮想マネージャのみサポートしています。
- vCenter Server のクラスタは、SigmaSystemCenter では DataCenter と同等に扱います。

基本情報	
名前	DataCenter名、またはクラスタ名を表示します。
説明	DataCenter、またはクラスタの説明を表示します。
VM サーバ一覧	
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。
状態	仮想マシンサーバの状態を表示します。
電源	仮想マシンサーバの電源状態を表示します。
接続状態	仮想マシンサーバの接続状態を表示します。
使用量 / キャパシティ	仮想マシンサーバのキャパシティを表示します。
IP アドレス	仮想マシンサーバのIPアドレスを表示します。
VM 数	仮想マシンサーバに登録している仮想マシンの台数を表示します。
再接続	選択した仮想マシンサーバを再接続します。 VMware vCenter Server環境の場合に表示されます。
マシン収集	選択した仮想マシンサーバのマシン情報のみを収集します。

移動	チェックボックスを選択した仮想マシンサーバを移動します。「VMサーバ移動」ウィンドウに遷移します。
削除	チェックボックスを選択した仮想マシンサーバを削除します。複数選択した仮想マシンサーバを一括削除できます。
起動	チェックボックスを選択した仮想マシンサーバを起動します。
再起動	チェックボックスを選択した仮想マシンサーバを再起動します。
シャットダウン	チェックボックスを選択した仮想マシンサーバをシャットダウンします。
テンプレート一覧	
テンプレート名	テンプレート名を表示します。
VM サーバ名	テンプレート、またはテンプレートが参照するマスタVMが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。
種別	テンプレートの種別を表示します。
イメージ名	テンプレートのデフォルトイメージ名を表示します。
世代	デフォルトイメージの世代番号を表示します。
編集	テンプレートを編集します。「テンプレート編集」ウィンドウへ遷移します。
削除	チェックボックスを選択したテンプレートを削除します。
イメージ削除	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを削除します。「イメージ削除」ウィンドウに遷移します。
イメージ作成	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを作成します。「イメージ作成」ウィンドウへ遷移します。

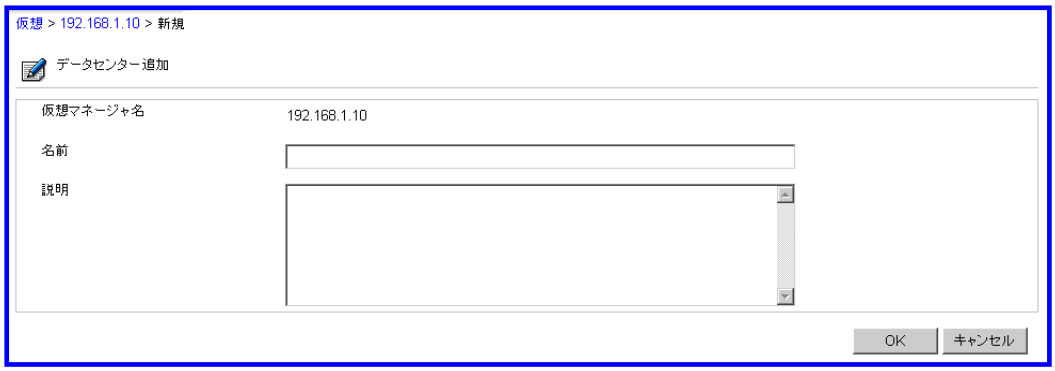
5.5.1. データセンター追加

DataCenter を追加します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マネージャのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マネージャの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [データセンター追加] をクリックすると、メインウィンドウに「データセンター追加」が表示されます。データセンター情報を入力し、[OK] をクリックするとデータセンターが追加されます。

注:

- SigmaSystemCenter からクラスタの作成はサポートしておりません。
- Hyper-V クラスタ環境では、データセンター追加はサポートしておりません。



データセンター追加	
仮想マネージャ名	仮想マネージャ名を表示します。編集はできません。
名前 **(入力必須)**	DataCenter名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"）です。
説明	DataCenterの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	DataCenter追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	DataCenter追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.5.2. データセンター編集

DataCenter、またはクラスタを編集します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [データセンター編集] をクリックすると、メインウィンドウに「データセンター編集」が表示されます。データセンター情報を編集し、[OK] をクリックするとデータセンター情報が変更されます。

注:

・ vCenter Server のクラスタは、SigmaSystemCenter では DataCenter と同等に扱います。

・ Hyper-V クラスタ環境では、DataCenter の名前の変更はサポートしておりません。

データセンター編集	
仮想マネージャ名	仮想マネージャ名を表示します。編集はできません。
名前 **(入力必須)**	DataCenter名、またはクラスタ名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"）です。
説明	DataCenter、またはクラスタの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
管理対象にする	チェックボックスをオンにすると、DataCenter、またはクラスタが管理対象として登録されます。
[OK]	DataCenter編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	DataCenter編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.5.3. データセンター削除

DataCenter、またはクラスタを削除します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [データセンター削除] をクリックすると、削除されます。

注:

- vCenter Server のクラスタは、SigmaSystemCenter では DataCenter と同等に扱います。
- Hyper-V クラスタ環境では、データセンター削除はサポートしておりません。

5.6. 権限設定

ロールによるアクセス権限・操作権限を設定します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter、仮想マシンサーバ、もしくは仮想マシンのアイコンをクリックします。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。

権限設定については、「4.17 権限設定」を参照してください。

注: 仮想マシンの [割り当てられている権限一覧] グループボックスには、[アクション] メニューの [追加]、[権限変更]、[解除] は表示されません。マシンに対してロールを有効にするには、仮想マシンが所属するリソースに対して、[子のリソースへ設定を引き継ぐ] チェックボックスをオンに設定したロールを設定してください。

5.6.1. 権限追加

ロールによるアクセス権限・操作権限を追加します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックします。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。[アクション] メニューから [追加] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限追加] グループボックスが表示されます。権限を追加するロール、割り当てるユーザ情報を入力し、[OK] をクリックすると権限が追加されます。

権限追加については、「4.17.1 権限追加」を参照してください。

5.6.2. 権限変更

ロールによるアクセス権限・操作権限を変更します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックします。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を変更するユーザのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [権限変更] をクリックすると、[割り当てられている権限一覧] グループボックスの下部に [権限変更] グループボックスが表示されます。権限を変更するロールを入力し、[OK] をクリックすると権限が変更されます。

権限変更については、「4.17.2 権限変更」を参照してください。

5.6.3. 権限解除

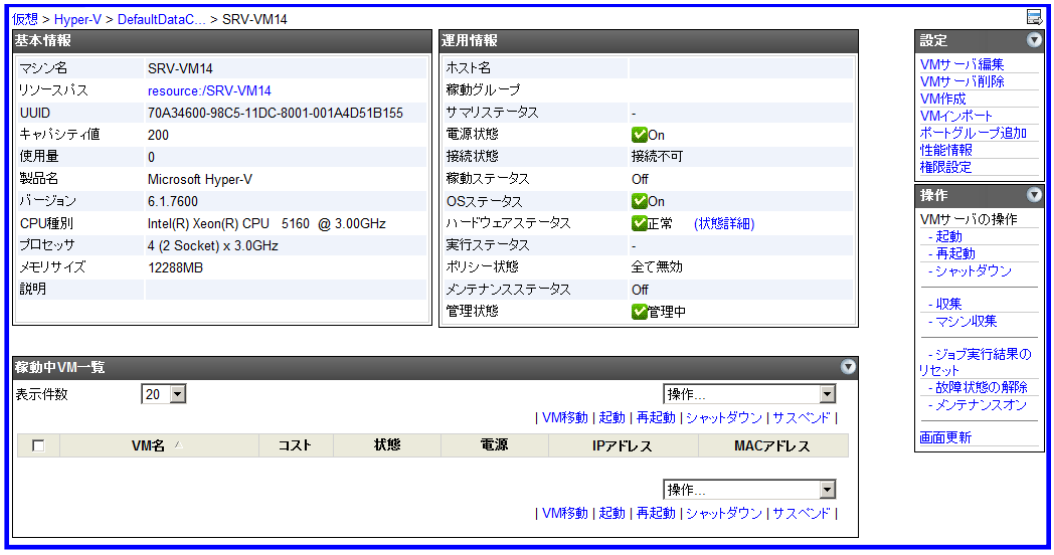
ロールによるアクセス権限・操作権限を解除します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックします。[設定] メニューから [権限設定] をクリックすると、メインウィンドウに [割り当てられている権限一覧] グループボックスが表示されます。権限を解除するユーザのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [解除] をクリックすると、選択したユーザの権限が解除されます。

5.7. VM サーバの詳細情報

仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。



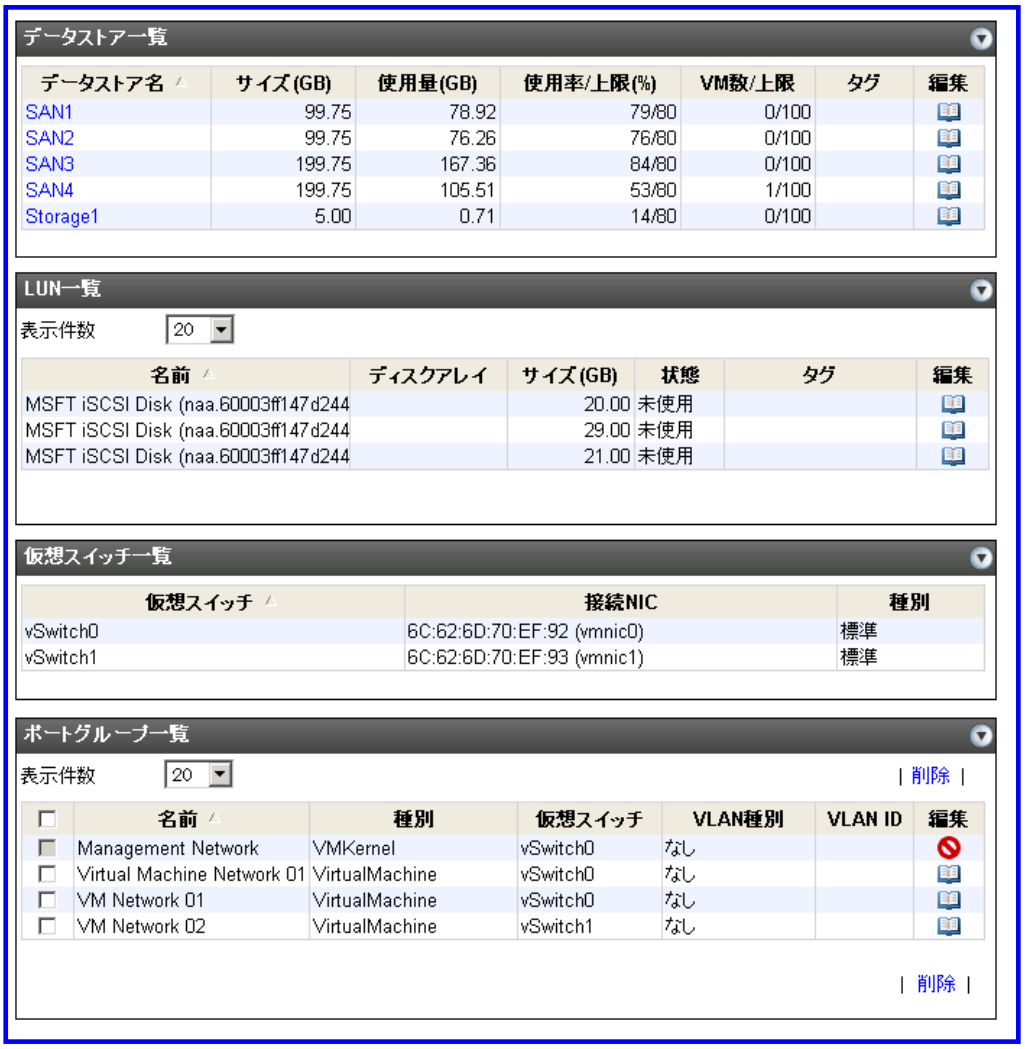
基本情報	
マシン名	仮想マシンサーバ名を表示します。
リソースパス	システムリソースのパスを表示します。
UUID	仮想マシンサーバのUUIDを表示します。
キャパシティ値	仮想マシンサーバで動作可能な仮想マシンのキャパシティ値を表示します。
使用量	仮想マシンサーバの使用量を表示します。
マネージャ URL	仮想マシンサーバのホスト名、またはIPアドレスを表示します。リンクをクリックすると、URLに接続します。XenServer、およびHyper-Vの場合は、表示されません。
製品名	仮想マシンサーバの製品名を表示します。
バージョン	仮想マシンサーバのバージョンを表示します。
CPU 種別	仮想マシンサーバのCPUの種類を表示します。
プロセッサ	仮想マシンサーバのプロセッサを表示します。
メモリサイズ	仮想マシンサーバのメモリサイズを表示します。
説明	仮想マシンサーバの説明を表示します。
運用情報	
ホスト名	ホスト名を表示します。

稼動グループ	稼動グループを表示します。
サマリステータス	サマリステータスを表示します。 仮想化基盤でメンテナンスモードが設定されている場合は、ステータス表示の下に「仮想化基盤でメンテナンスモードが設定されています」メッセージが表示されます。
電源状態	電源状態を表示します。
接続状態	ホストの接続状態を表示します。
稼動ステータス	稼動ステータスを表示します。
OS ステータス	OSステータスを表示します。
ハードウェアステータス	ハードウェアステータスを表示します。[状態詳細] をクリックすると、ハードウェアの個別ステータス一覧を表示します。「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「9.8.7 マシン単位のハードウェア状態詳細 (個別ステータス) の確認方法」を参照してください。
実行ステータス	実行ステータスを表示します。
ポリシー状態	ポリシー状態を表示します。
メンテナンスステータス	メンテナンスステータスを表示します。
管理状態	管理状態を表示します。
稼動中 VM 一覧	
VM 名	稼動中仮想マシン名を表示します。
コスト	稼動中仮想マシンのコストを表示します。
状態	稼動中仮想マシンの状態を表示します。
電源	稼動中仮想マシンの電源状態を表示します。
IP アドレス	固定IPアドレスの場合、IPアドレスを表示します。DHCPの場合は表示されません。
MAC アドレス	稼動中仮想マシンのMACアドレスを表示します。
VM 移動	チェックボックスを選択した稼動中仮想マシンを移動します。
起動	チェックボックスを選択した稼動中仮想マシンを起動します。
再起動	チェックボックスを選択した稼動中仮想マシンを再起動します。
シャットダウン	チェックボックスを選択した稼動中仮想マシンをシャットダウンします。
サスペンド	チェックボックスを選択した稼動中仮想マシンをサスペンドします。

	(プルダウンボックス)	チェックボックスを選択した稼動中の仮想マシンの個別操作を行います。 [稼動中VM一覧] グループボックスから操作する仮想マシンのチェックボックスをオンにし、スナップショット作成 / 電源ON / 強制OFF / リセット / 再構成 / ジョブ実行結果のリセット / 故障状態の解除 / メンテナンスオン / メンテナンスオフの中から操作を選択できます。

未使用 VM 一覧	
VM 名	未使用仮想マシン名を表示します。
コスト	未使用仮想マシンのコストを表示します。
状態	未使用仮想マシンの状態を表示します。
電源	未使用仮想マシンの電源状態を表示します。
MAC アドレス	未使用仮想マシンのMACアドレスを表示します。
管理状態	管理状態を表示します。
VM 削除	チェックボックスを選択した未使用仮想マシンを削除します。
テンプレート作成	チェックボックスを選択した未使用仮想マシンからテンプレートを作成します。「テンプレート作成」ウィンドウに遷移します。
VM 移動	チェックボックスを選択した未使用仮想マシンを移動します。

	起動	チェックボックスを選択した未使用仮想マシンを起動します。
	シャットダウン	チェックボックスを選択した未使用仮想マシンをシャットダウンします。
	(プルダウンボックス)	チェックボックスを選択した未使用の仮想マシンの個別操作を行います。 [未使用VM一覧] グループボックスから操作する仮想マシンのチェックボックスをオンにし、VMクローン / スナップショットの作成 / 再起動 / サスペンド / 電源ON / 強制OFF / リセットの中から操作を選択できます。
マスタ VM 一覧		
	VM 名	マスタVM名を表示します。 マスタVMは種別が「Full Clone」以外のテンプレートと関連している仮想マシンです。
	コスト	マスタVMのコストを表示します。
	状態	マスタVMの状態を表示します。
	電源	マスタVMの電源状態を表示します。
	MAC アドレス	マスタVMのMACアドレスを表示します。
	VM クローン	チェックボックスを選択したマスタVMのVMクローンを作成します。「選択したVMを元に新しいVMをクローンします。」ウィンドウに遷移します。
	スナップショット作成	チェックボックスを選択したマスタVMのスナップショットを作成します。「スナップショット作成」ウィンドウに遷移します。
	テンプレート作成	チェックボックスを選択したマスタVMからテンプレートを作成します。「テンプレート作成」ウィンドウに遷移します。
	起動	チェックボックスを選択したマスタVMを起動します。
	シャットダウン	チェックボックスを選択したマスタVMをシャットダウンします。
テンプレート一覧		
	テンプレート名	テンプレート名を表示します。
	種別	テンプレートの種別を表示します。
	イメージ名	テンプレートに設定されているデフォルトイメージ名を表示します。
	世代	デフォルトイメージの世代番号を表示します。
	編集	テンプレートを編集します。「テンプレート編集」ウィンドウに遷移します。
	削除	チェックボックスを選択したテンプレートを削除します。
	イメージ削除	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを削除します。「イメージ削除」ウィンドウへ遷移します。
	イメージ作成	チェックボックスを選択したテンプレートのイメージを作成します。「イメージ作成」ウィンドウへ遷移します。



データストア一覧	
データストア名	データストア名を表示します。 クリックすると、データストア詳細情報に遷移します。
サイズ (GB)	データストアのサイズを表示します。
使用量 (GB)	データストアの使用量を表示します。
使用率 / 上限 (%)	データストアの使用率 / 上限を表示します。
VM 数 / 上限	データストアに格納された稼動中VM数 / 上限を表示します。
タグ	データストアに設定されたタグを表示します。
編集	「データストア編集」ウィンドウに遷移します。
LUN 一覧	
名前	RDM用途のLUNの名前を表示します。
ディスクアレイ	LUNのディスクアレイを表示します。

	サイズ (GB)	LUNのサイズを表示します。
	状態	LUNの状態を表示します。
	タグ	LUNのタグを表示します。
	編集	「LUN編集」ウィンドウに遷移します。
仮想スイッチ一覧		
	仮想スイッチ	仮想スイッチ名を表示します。
	接続 NIC	仮想スイッチに接続されているNICのMACアドレスを表示します。仮想スイッチに複数のNICが接続されている場合は、複数のMACアドレスが表示されます。
	種別	仮想スイッチの種別を表示します。
ポートグループ一覧		
	名前	ポートグループ名を表示します。
	種別	ポートグループのネットワークの種別を表示します。
	仮想スイッチ	ポートグループが存在する仮想スイッチを表示します。
	VLAN 種別	ポートグループのVLAN種別を表示します。
	VLAN ID	ポートグループのVLAN IDを表示します。
	編集	「ポートグループ編集」ウィンドウに遷移します。
	削除	選択したポートグループを削除します。

5.7.1. VM サーバ追加

仮想マシンサーバを追加します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM サーバ追加] をクリックすると、メインウィンドウに「VM サーバ追加」が表示されます。仮想マシンサーバ情報を入力し、[OK] をクリックすると仮想マシンサーバが追加されます。

注:

・ 仮想マシンサーバの追加後にメインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示すると、追加した仮想マシンサーバが表示されない場合があります。その場合は、[設定] メニューから [画面更新] をクリックし、画面を更新してください。

・ vCenter Server のクラスタは、SigmaSystemCenter では DataCenter と同等に扱います。

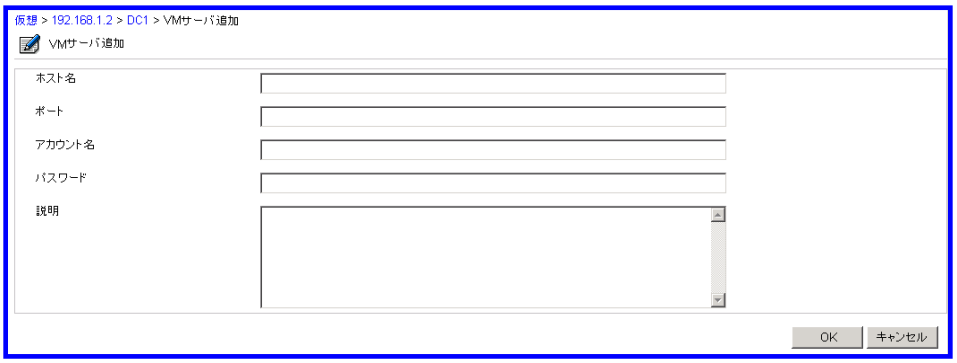
・ Hyper-V クラスタ環境では、VM サーバ追加はサポートしておりません。

・ Windows Server 2012 以降の Hyper-V をスタンドアロンで管理する場合で以下の機能を使用する場合、ドメインの管理者アカウントを使って VM サーバ追加を行ってください。

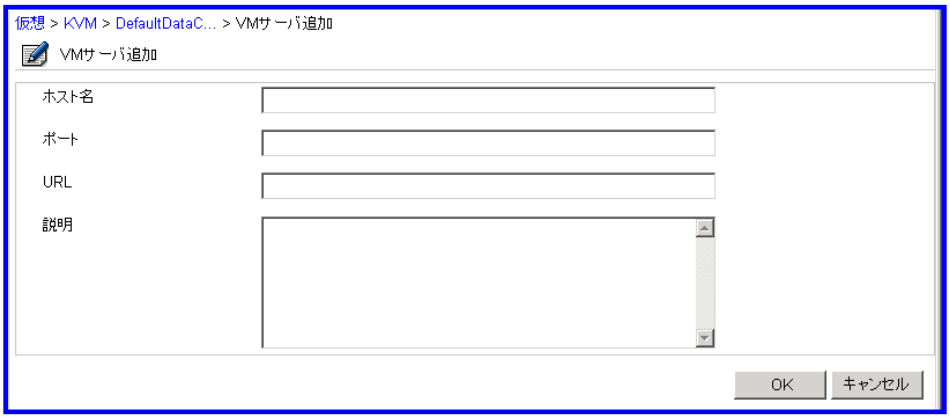
  ・ VM 移動

  ・ ファイルサーバ上に仮想マシンを設置

◆ ESXi、Hyper-V の場合



◆ KVM の場合



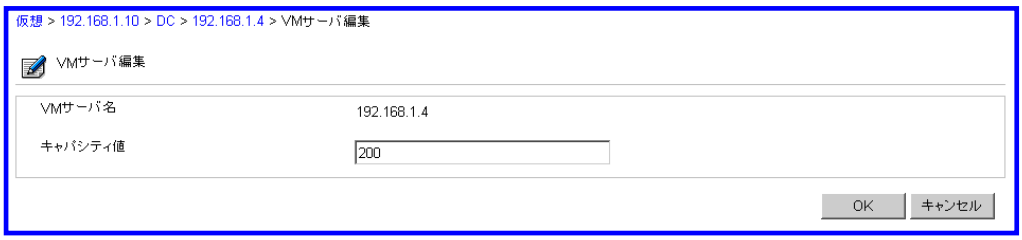
VM サーバ追加	
ホスト名 **(入力必須)**	仮想マシンサーバのホスト名、またはIPアドレスを入力します。入力できる文字数は63文字以内です。
ポート	仮想マシンサーバのポート番号を入力します。Hyper-Vの場合、このテキストボックスは表示されません。
アカウント名 **(入力必須)**	仮想マシンサーバの管理用のアカウント名を入力します。(VMware、Hyper-Vの場合のみ表示)
パスワード **(入力必須)**	仮想マシンサーバの管理用のアカウントのパスワードを入力します。(VMware、Hyper-Vの場合のみ表示)
URL	仮想マシンサーバにアクセスするURLを入力します。(KVMの場合のみ表示)
説明	仮想マシンサーバの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	仮想マシンサーバ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	仮想マシンサーバ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.7.2. VM サーバ編集

仮想マシンサーバを編集します。

[仮想] ツリーから編集を行う仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに VM サーバの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM サーバ編集] をクリックすると、メインウィンドウに「VM サーバ編集」が表示されます。仮想マシンサーバ情報を編集し、[OK] をクリックすると仮想マシンサーバ情報が変更されます。

注: 仮想マシンサーバが稼動中にキャパシティ値の変更を行う場合は、ポリシーによるアクションの対象外とするために、仮想マシンサーバのメンテナンスモードをオンにしてください。また、キャパシティ値の変更後、メンテナンスモードをオフにしてください。メンテナンスモードの切り替えについては、「4.19.27 メンテナンスオン / メンテナンスオフ」を参照してください。



VM サーバ編集	
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。編集はできません。
キャパシティ値	キャパシティ値を入力します。「1～100000」の範囲で設定できます。
[OK]	仮想マシンサーバ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	仮想マシンサーバ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.7.3. VM 作成

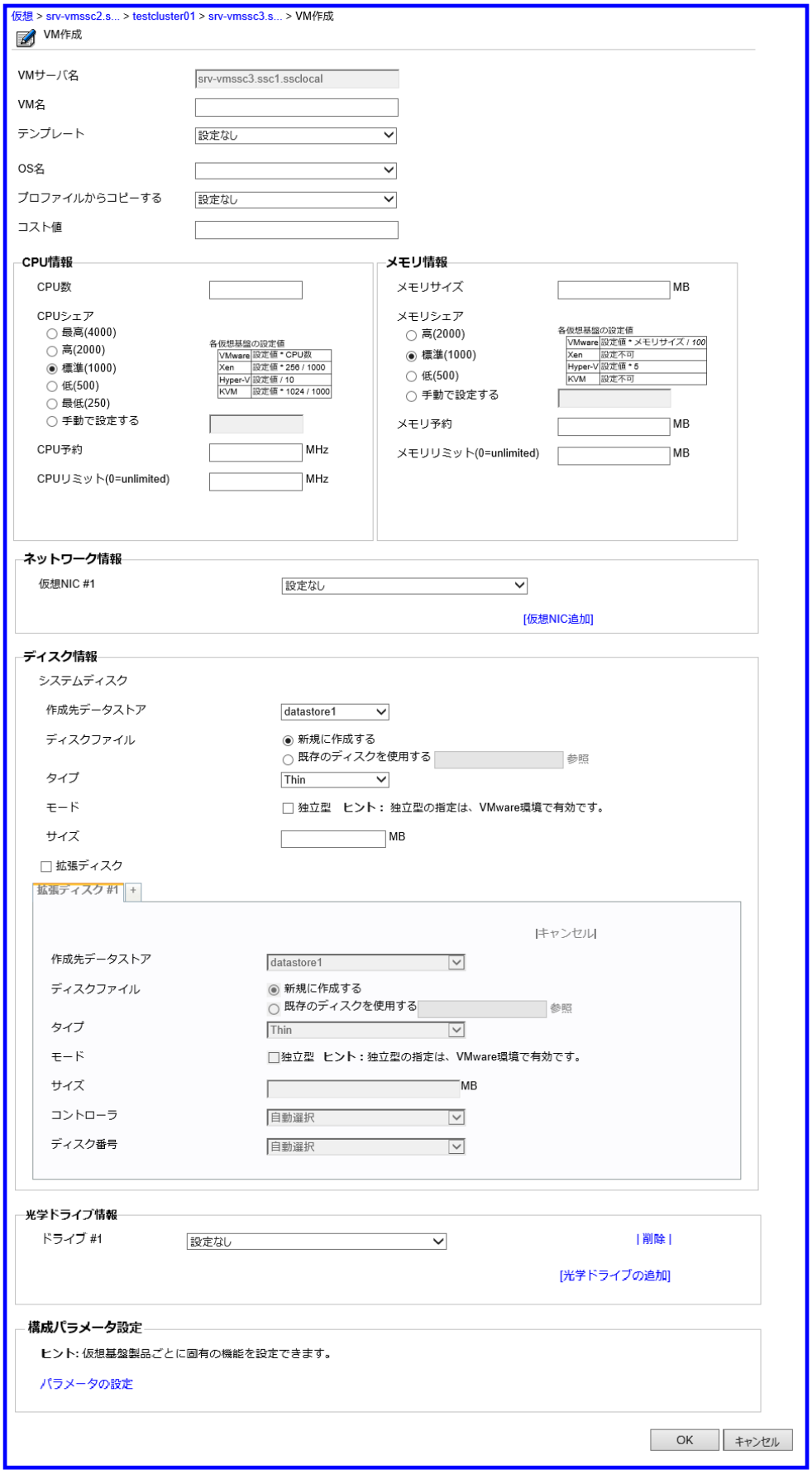
テンプレートから仮想マシンを作成します。仮想マシンはテンプレートを複製したものになります。

[仮想] ツリーから仮想マシン作成を行う仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM 作成] をクリックすると、メインウィンドウに「VM 作成」が表示されます。仮想マシン情報を入力し、[OK] をクリックすると仮想マシンが作成されます。

注:

・ VM 作成のテンプレート指定は、スタンドアロン ESXi、Hyper-V、および KVM では実行することはできません。

・ VM 作成のテンプレート指定は、Full Clone 用のテンプレートのみサポートしています。


仮想 > srv-vmssc2.s... > testcluster01 > srv-vmssc3.s... > VM作成
VM作成
VMサーバ名
srv-vmssc3.ssc1.ssclocal
VM名
テンプレート
設定なし
OS名
プロファイルからコピーする
設定なし
コスト値
CPU情報
CPU数
CPUシェア
最高(4000)
高(2000)
標準(1000)
低(500)
最低(250)
手動で設定する
各仮想基盤の設定値
VMware 設定値 * CPU数
Xen 設定値 * 256 / 1000
Hyper-V 設定値 / 10
KVM 設定値 * 1024 / 1000
CPU予約
MHz
CPUリミット(0=unlimited)
MHz
メモリ情報
メモリサイズ
MB
メモリシェア
高(2000)
標準(1000)
低(500)
手動で設定する
各仮想基盤の設定値
VMware 設定値 * メモリサイズ / 100
Xen 設定不可
Hyper-V 設定値 * 5
KVM 設定不可
メモリ予約
MB
メモリリミット(0=unlimited)
MB
ネットワーク情報
仮想NIC #1
設定なし
[仮想NIC追加]
ディスク情報
システムディスク
作成先データストア
datastore1
ディスクファイル
新規に作成する
既存のディスクを使用する
参照
タイプ
Thin
モード
独立型 ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。
サイズ
MB
拡張ディスク
拡張ディスク #1
[キャンセル]
作成先データストア
datastore1
ディスクファイル
新規に作成する
既存のディスクを使用する
参照
タイプ
Thin
モード
独立型 ヒント：独立型の指定は、VMware環境で有効です。
サイズ
MB
コントローラ
自動選択
ディスク番号
自動選択
光学ドライブ情報
ドライブ #1
設定なし
[削除]
[光学ドライブの追加]
構成パラメータ設定
ヒント: 仮想基盤製品ごとに固有の機能を設定できます。
パラメータの設定
OK
キャンセル

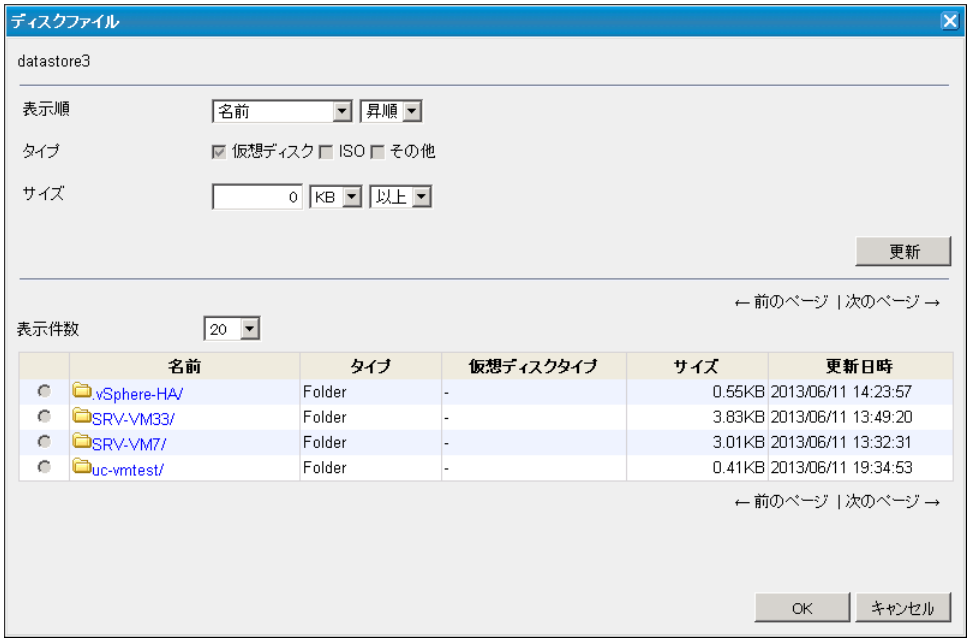
VM 作成	
VM サーバ名 **(入力必須)**	仮想マシン作成先の仮想マシンサーバ名を表示します。編集はできません。
VM 名	作成する仮想マシン名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号 ("_"、"-") です。
テンプレート	テンプレートを選択します。テンプレートは、存在する "仮想マシンサーバ名 / テンプレート名" の形式で表示されます。
OS 名	仮想マシンにインストールするOSの種類を選択します。
プロファイルからコピーする	名前付きのマシンプロファイルをコピーする場合は、プロファイルを選択します。
コスト値	コスト値を入力します。
CPU 情報	
CPU 数	仮想マシンの仮想CPU数を入力します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
CPU シェア	仮想マシンのCPUの優先度を入力します。最高、高、標準、低、最低、および数値で入力します。CPUシェア値を入力する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	仮想マシンのCPU予約量を入力します。 Xen環境、KVM環境では、設定が無効なパラメータのため、設定しても反映されません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。仮想マシンに割り当てるCPUリソースの上限を設定します。"0" を設定すると制限しません。「0～9999999」の範囲で設定できます。 Xen環境では、設定が無効なパラメータのため、設定しても反映されません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報	
メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを入力します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
メモリシェア	仮想マシンのメモリシェア値を入力します。高、標準、低、および数値で入力します。メモリシェア値を変更する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では表示されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合に

		のみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
	メモリ予約	仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では表示されません。
	メモリリミット (0=unlimited)	仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では表示されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報		
	仮想 NIC#1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」：接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」：接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 *NetworkName*-VLAN:*VlanId* NetworkName：接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN:：固定文字列です。 *VlanId*：仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」：接続先のネットワークの名前を設定します。
	[切断]	仮想NICを切断状態にする場合、クリックします。接続状態の仮想NICのみ表示されます。 Xen環境は仮想NICの切断をサポートしておりません。
	[削除]	仮想NICを削除する場合、クリックします。削除は最後の仮想NICのみ表示されます。
	[接続]	切断状態の仮想NICを接続する場合、クリックします。切断状態の仮想NICのみ表示されます。
	[キャンセル]	切断、削除、および接続をキャンセルする場合、クリックします。切断、削除、および接続を選択した場合のみ、表示されます。
	[仮想 NIC の追加]	仮想NICを追加する場合にクリックします。最後の仮想NICが設定なしの場合、仮想NICは追加できません。 仮想NICは#10まで追加可能です。 Xen環境は#7までしか反映されません。
	[キャンセル]	仮想NICの追加をキャンセルする場合にクリックします。仮想NICの追加を選択した場合のみ、表示されます。

	ディスク情報				
		システムディスク			仮想マシンのシステムディスク情報を表示します。タイプ変更、モード変更、およびサイズを入力します。
		作成先データストア			ディスクのデータの置き場所を入力します。
		ディスクファイル			
			新規に作成する		作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
			既存のディスクを使用する		作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
			参照		作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
		タイプ			システムディスクのタイプ (Thick / Thin) を表示します。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。 「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。
		モード			ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。
		サイズ			システムディスクのサイズをMB単位で入力します。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。
		拡張ディスク			仮想マシンの拡張ディスク情報を入力します。
			[追加]		仮想マシンに拡張ディスクを追加する場合、クリックします。仮想マシンに拡張ディスクがない場合に表示されます。
			[削除]		仮想マシンの拡張ディスクを削除する場合、クリックします。 仮想マシンに拡張ディスクが存在する場合に表示されます。 タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」は選択できません。
			[切断]		仮想マシンと拡張ディスクを切断する場合、クリックします。 切断された仮想ディスクはデータストア上に残ります。 仮想マシンに拡張ディスクが存在する場合に表示されます。
			[キャンセル]		追加、削除、および切断をキャンセルする場合、クリックします。追加、削除、および切断を選択した場合に表示されます。
			作成先データストア		タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合にディスクのデータの置き場所を指定します。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
			ディスクファイル		
				新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
				既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。

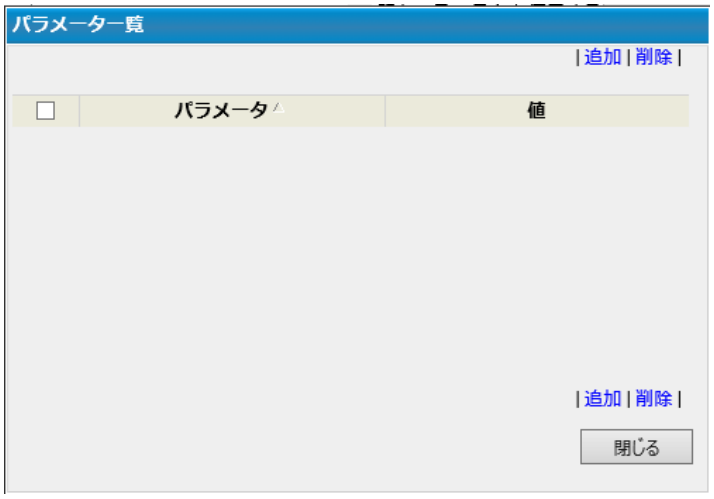
参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
タイプ	拡張ディスクのタイプ (Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想)) を表示します。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。 「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 「RDM (物理)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。
サイズ	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に拡張ディスクのサイズをMB単位で表示します。 既存のディスクを使用する場合は、指定できません。
ターゲット LUN	タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に使用するLUN (ディスクボリューム) を表示、または選択します。
コントローラ	ディスクのコントローラを選択します。 既に追加されているディスクは変更できません。
[ディスク番号]	ディスク番号を表示します。 既に追加されているディスクは変更できません。 コントローラが自動選択の場合は、ディスク番号も自動選択になります。
光学ドライブ情報	
ドライブ #1	ドライブ名を表示します。
(プルダウンボックス)	マウントするファイルを表示します。
削除	光学ドライブ情報を削除します。
光学ドライブの追加	光学ドライブを追加する場合にクリックします。 光学ドライブは#4まで追加可能です。
構成パラメータ設定	
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]	入力情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	入力情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[ディスク情報] グループボックス、[拡張ディスク] タブの [参照] をクリックすると、「ディスクファイル」ダイアログボックスが表示されます。



ディスクファイル	
表示順	ファイルフォルダの表示する順番を指定します。
タイプ	ファイルは、仮想ディスクのみ表示されます。
サイズ	表示するファイルのサイズを指定します。
[更新]	フォルダ / ファイルの表示を更新します。
名前	フォルダ / ファイルの名前を表示します。
タイプ	フォルダ / ファイルのタイプを表示します。
仮想ディスクタイプ	仮想ディスクの場合、ディスクのタイプを表示します。
サイズ	フォルダ / ファイルのサイズを表示します。
更新日時	フォルダ / ファイルの更新日時を表示します。
[OK]	ディスクファイル情報を保存し、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。
[キャンセル]	ディスクファイル情報を保存せずに、「ディスクファイル」ダイアログボックスを閉じます。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

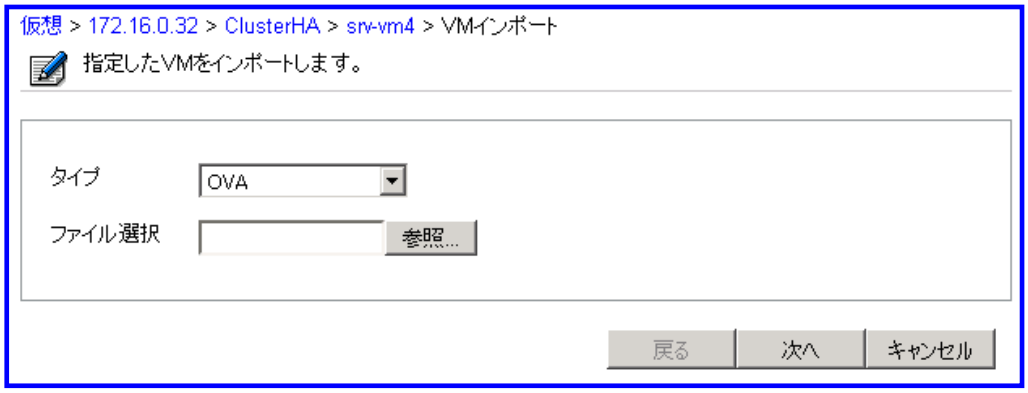


パラメーター覧	
パラメータ	設定対象の項目を示すパラメータ名が表示されます。
値	パラメータに対応する値が表示されます。
追加	新規にパラメータと値を入力するための行を追加します。
削除	既存のパラメータと値が入力されている行を削除します。
[閉じる]	表示されているパラメータと値を保存し、「パラメーター覧」ダイアログボックスを閉じます。

5.7.4. VM インポート

仮想マシンをインポートします。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [VM インポート] をクリックすると、メインウィンドウに「指定した VM をインポートします。」が表示されます。VM インポート情報を入力し、仮想マシンをインポートします。



指定した VM をインポートします。	
タイプ	仮想マシンをインポートする形式を選択します。 「OVA」:VMware環境の場合に設定できます。OVAファイルをインポートします。 「OVF」:VMware環境の場合に設定できます。OVFファイルとVMDKファイルをインポートします。 「VHD」:Hyper-V環境の場合に設定できます。VHD / VHDXファイルをシステムディスクとしてインポートします。
ファイル選択	インポートするファイルを指定します。
[参照]	ファイルブラウザが表示されます。
[戻る]	VMインポートせずに、元のウィンドウに戻ります。
[次へ]	マシンプロファイルを入力する画面に戻ります。
[キャンセル]	VMインポートせずに元のウィンドウに戻ります。

作成した VM をインポートします。	
VM サーバ名	インポート先の仮想マシンサーバ名を表示します。
VM 名	作成する仮想マシン名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"）です。

コスト値		コスト値を入力します。
CPU 情報		
	CPU 数	仮想マシンの仮想CPU数を入力します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
	CPU シェア	仮想マシンのCPUの優先度を入力します。最高、高、標準、低、最低、および数値で入力します。CPUシェア値を入力する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
	CPU 予約	仮想マシンのCPU予約量を入力します。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
	CPU リミット (0=unlimited)	CPUリミットを入力します。仮想マシンに割り当てるCPUリソースの上限を設定します。"0" を設定すると制限しません。「0～9999999」の範囲で設定できます。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。
メモリ情報		
	メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを入力します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
	メモリシェア	仮想マシンのメモリシェア値を入力します。高、標準、低、および数値で入力します。メモリシェア値を変更する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
	メモリ予約	仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。
	メモリリミット (0=unlimited)	仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報		
	仮想 NIC#1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」: 接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」: 接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 *NetworkName*-VLAN:*VlanId*

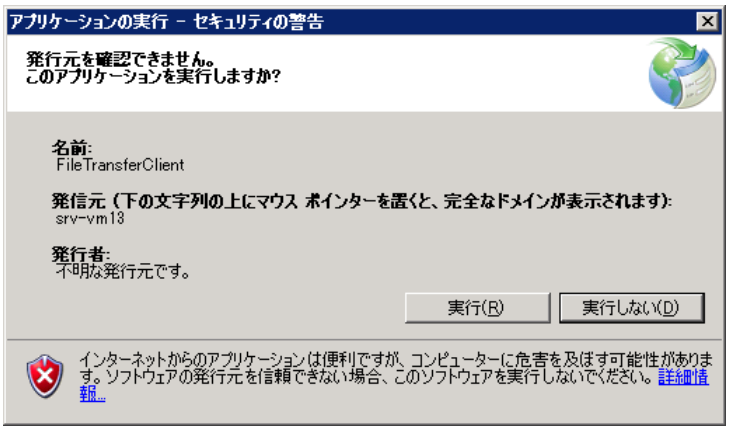
	NetworkName : 接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN: : 固定文字列です。 *VlanId* : 仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。
[切断]	仮想NICを切断状態にする場合、クリックします。接続状態の仮想NICのみ表示されます。
[削除]	仮想NICを削除する場合、クリックします。削除は最後の仮想NICのみ表示されます。
[接続]	切断状態の仮想NICを接続する場合、クリックします。切断状態の仮想NICのみ表示されます。
[キャンセル]	切断、削除、および接続をキャンセルする場合、クリックします。切断、削除、および接続を選択した場合のみ、表示されます。
[仮想 NIC の追加]	仮想NICを追加する場合にクリックします。最後の仮想NICが設定なしの場合、仮想NICは追加できません。 仮想NICは#10まで追加可能です。
[キャンセル]	仮想NICの追加をキャンセルする場合にクリックします。仮想NICの追加を選択した場合のみ、表示されます。
ディスク情報	
システムディスク	仮想マシンのシステムディスク情報を表示します。タイプ変更、モード変更、およびサイズを入力します。
タイプ	システムディスクのタイプ (Thick / Thin) を表示します。 「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。
モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。
サイズ **(入力必須)**	システムディスクのサイズをMB単位で入力します。
データストア	ディスクのデータの置き場所を入力します。編集はできません。
拡張ディスク	仮想マシンの拡張ディスク情報を入力します。
[追加]	仮想マシンに拡張ディスクを追加する場合、クリックします。仮想マシンに拡張ディスクがない場合に表示されます。
[キャンセル]	追加、削除、および切断をキャンセルする場合、クリックします。追加、削除、および切断を選択した場合に表示されます。
タイプ	拡張ディスクのタイプ (Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想)) を表示します。 「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズ

				のディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 「RDM (物理)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」： 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。
			モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。
			サイズ **(入力必須)**	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に拡張ディスクのサイズをMB単位で入力します。
			データストア	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合にディスクのデータの置き場所を指定します。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
			コントローラ	ディスクのコントローラを選択します。 既に追加されているディスクは変更できません。
			[ディスク番号]	ディスク番号を表示します。 既に追加されているディスクは変更できません。 コントローラが自動選択の場合は、ディスク番号も自動選択になります。
	構成パラメータ設定			
		パラメータの設定		構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]				ファイルのアップロード用アプリケーションを起動し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				入力情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

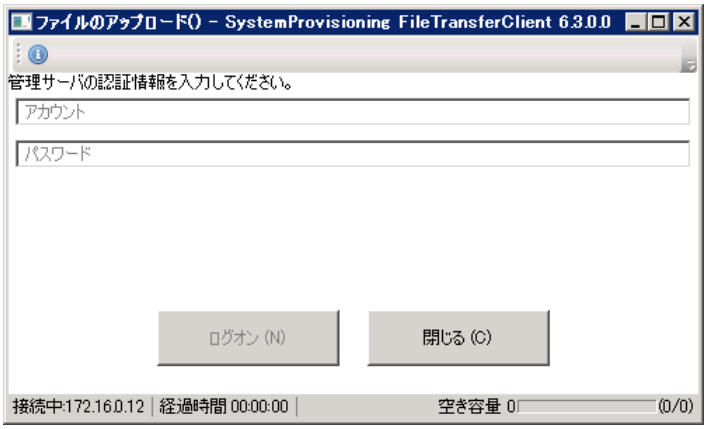
[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

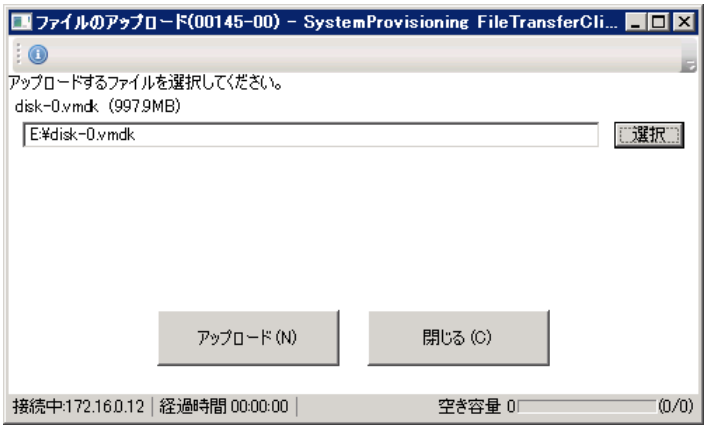
VM インポートを実行すると、ファイルをアップロードするためのアプリケーションが起動します。



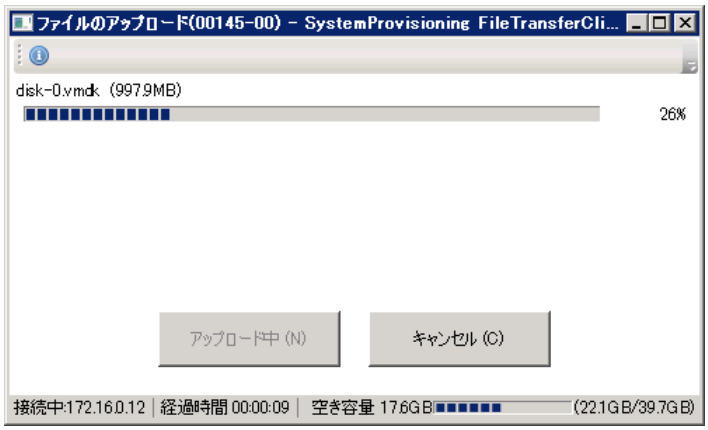
上記の警告が表示された場合は、[実行]　をクリックします。



アプリケーションを実行している Windows のアカウントが SigmaSystemCenter を実行しているサーバにログオンできるアカウントでない場合は、上記の画面が表示されます。サーバにログオンできる Windows アカウントの認証情報を入力します。



Internet Explorer のセキュリティ設定の「サーバーにファイルをアップロードするときにローカルディレクトリのパスを含める」が無効になっている場合や Firefox を使用している場合は、上記の画面が表示されます。アップロードするファイルを選択します。



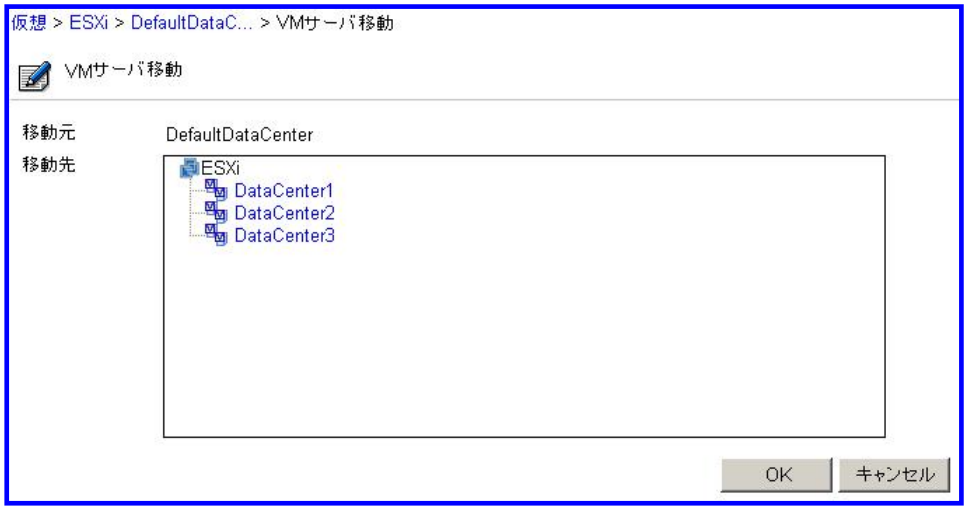
ファイルのアップロードが完了したらアプリケーションを閉じます。

5.7.5. VM サーバ移動

仮想マシンサーバを移動します。

[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。[VM サーバ一覧] グループボックスから移動する仮想マシンサーバのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [移動] をクリックすると、メインウィンドウに「VM サーバ移動」が表示されます。仮想マシンサーバの移動先を選択し、[OK] をクリックすると仮想マシンサーバが移動します。

注: 仮想マシンサーバ移動は、スタンドアロン ESXi、Hyper-V 単体、および KVM の仮想マネージャのみサポートしています。



VM サーバ移動		
	移動元	移動元のDataCenterを表示します。
	移動先	ツリーより移動先のDataCenterを選択します。
[OK]		仮想マシンサーバ移動情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		仮想マシンサーバ移動情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.7.6. VM サーバ削除

仮想マシンサーバを削除します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM サーバ削除] をクリックします。

もしくは、[仮想] ツリーから対象の DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。[VM サーバ一覧] グループボックスから削除する仮想マシンサーバのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、仮想マシンサーバは削除されます。

注:

・ 仮想マシンサーバの削除後にメインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示すると、削除した仮想マシンサーバが表示されている場合があります。その場合は、[設定] メニューから [画面更新] をクリックし、画面を更新してください。

・ vCenter Server のクラスタは、SigmaSystemCenter では DataCenter と同等に扱います。

・ Hyper-V クラスタ環境では、VM サーバ削除はサポートしておりません。

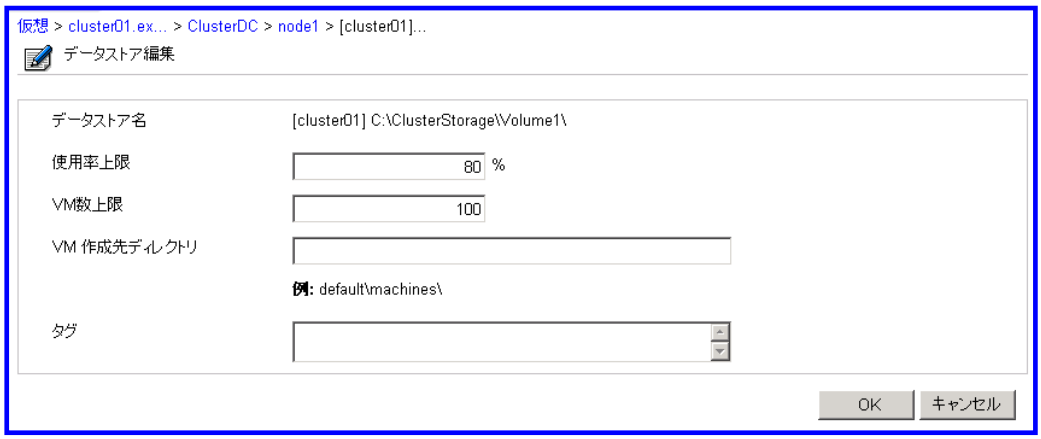
・ マスタ VM が存在する仮想マシンサーバは削除できません。仮想マシンサーバ上の Full Clone タイプ以外のテンプレートを削除してから実行してください。

・ ESX が稼動中に分散スイッチに登録されている仮想マシンサーバを削除することはできません。また、ESX が応答できない状態で分散スイッチから削除すると、vCenter Server と ESX との情報の不一致が発生する場合があります。

5.7.7. データストア編集

データストアを編集します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[データストア一覧] グループボックスから編集するデータストアの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「データストア編集」が表示されます。データストア情報を編集し、[OK] をクリックすると、データストアが編集されます。



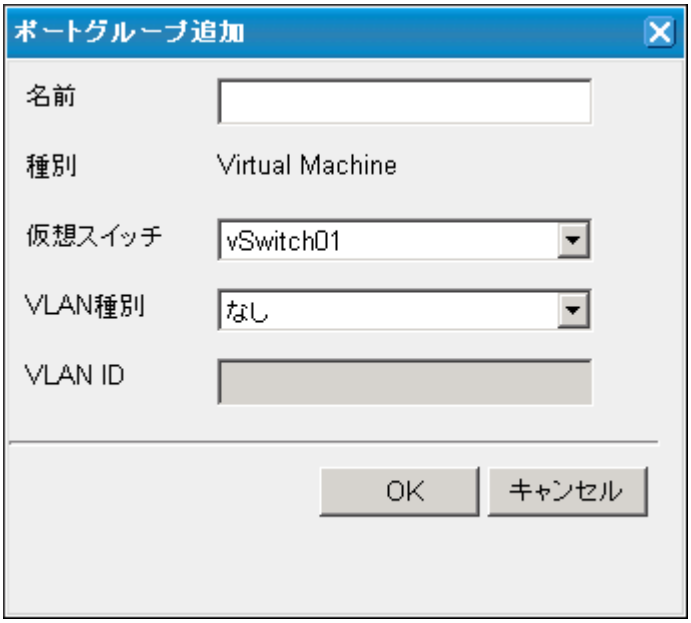
データストア編集	
データストア名	データストア名を表示します。
使用率上限	データストア使用率の上限を入力します。
VM 数上限	VM数の上限を入力します。
新規 VM のデフォルトディレクトリ	新規VM作成時に、VMを格納するディレクトリを入力します。データストアのルートディレクトリからの相対ディレクトリで指定します。Hyper-V環境でのみ有効です。
タグ	タグを入力します。
[OK]	データストア編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	データストア編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.8. ポートグループ

5.8.1. ポートグループ追加

ポートグループを追加します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [ポートグループ追加] をクリックします。

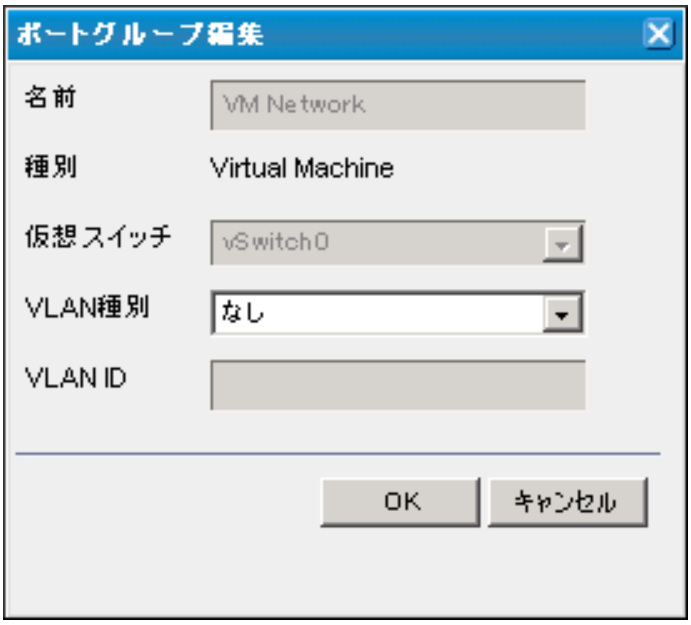


ポートグループ追加	
名前 **(入力必須)**	ポートグループ名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。以下の記号については使用できません。 ^ ¥ : ; , . * ? < > | / ' "
種別	ポートグループの種別を表示します。
仮想スイッチ	仮想スイッチを選択します。
VLAN 種別	VLAN種別を選択します。
VLAN ID	[VLAN種別] が "VLAN" の場合、VLAN IDを入力します。「1～4094」の範囲で入力できます。
[OK]	ポートグループ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ポートグループ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.8.2. ポートグループ編集

ポートグループを編集します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[ポートグループ一覧] グループボックスから編集するポートグループの [編集] アイコンをクリックし、メインウィンドウに「ポートグループ編集」ウィンドウを表示します。



ポートグループ編集	
名前 **(入力必須)**	ポートグループ名が表示されます。変更はできません。
種別	ポートグループの種別を表示します。
仮想スイッチ	仮想スイッチが表示されます。変更はできません。
VLAN 種別	VLAN種別が表示されます。
VLAN ID	VLAN IDを表示し、編集もできます。「1～4094」の範囲で入力できます。
[OK]	ポートグループの編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	ポートグループの編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.8.3. ポートグループ削除

ポートグループを削除します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[ポートグループ一覧] グループボックスから削除するポートグループのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。

5.9. 性能情報

仮想マシンサーバ、および仮想マシンの性能情報を表示します。

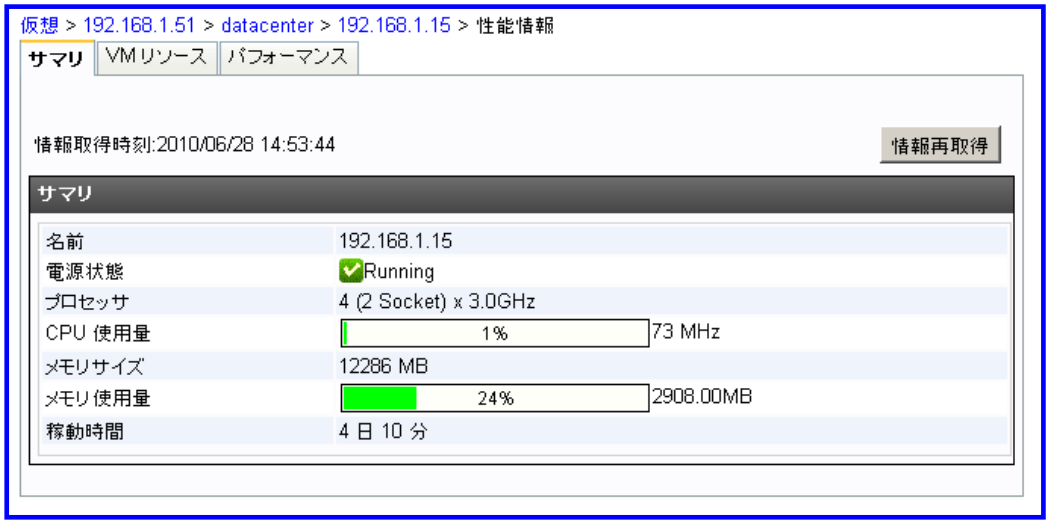
[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [性能情報] をクリックします。

注: 仮想マシンサーバに接続できない場合や一時的に情報が取得できない場合、「性能情報」ウィンドウで仮想マシンサーバ、および仮想マシンの情報を表示できない場合があります。

5.9.1. [サマリ] タブ

仮想マシンサーバのサマリ情報を表示します。

注: 仮想マシンサーバが起動していない場合、稼動時間は表示されず、前回の起動時間が表示されます。



サマリ		
	情報取得時刻	性能情報の取得時刻を表示します。
	[情報再取得]	性能情報を再取得します。
	サマリ	
	名前	仮想マシンサーバ名を表示します。
	電源状態	仮想マシンサーバの電源状態を表示します。
	プロセッサ	仮想マシンサーバのプロセッサを表示します。
	CPU 使用量	仮想マシンサーバのCPU使用量を表示します。

メモリサイズ	仮想マシンサーバのメモリサイズを表示します。
メモリ使用量	仮想マシンサーバのメモリ使用量を表示します。
稼動時間	仮想マシンサーバの稼動時間を表示します。

5.9.2. [VM リソース] タブ

仮想マシンサーバに作成されている仮想マシンのリソースを表示します。

注: 仮想マシンに複数の IP アドレスが設定されている場合は、IP アドレスはいずれか 1 つだけ表示されます。

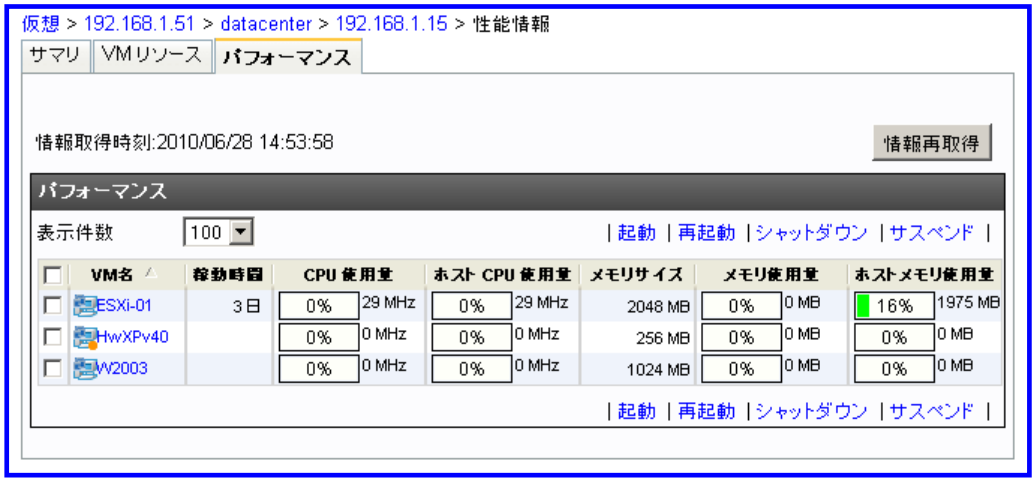
VM リソース	
情報取得時刻	性能情報の取得時刻を表示します。
[情報再取得]	性能情報を再取得します。
VM リソース	
VM 名	仮想マシン名を表示します。仮想マシン名をクリックすると、対象VMの詳細情報に遷移します。
電源状態	仮想マシンの電源状態を表示します。
CPU 数	仮想マシンのCPU数を表示します。
CPU リミット	仮想マシンのCPUリミットを表示します。
CPU シェア	仮想マシンのCPUシェアを表示します。
メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを表示します。
ディスク使用量	仮想マシンが使用しているディスク使用量を表示します。
IP アドレス	仮想マシンのIPアドレスを表示します。
起動	チェックボックスを選択した仮想マシンを起動します。

再起動	チェックボックスを選択した仮想マシンを再起動します。
シャットダウン	チェックボックスを選択した仮想マシンをシャットダウンします。
サスペンド	チェックボックスを選択した仮想マシンをサスペンドします。

5.9.3. [パフォーマンス] タブ

仮想マシンサーバに作成されている仮想マシンのリソースのパフォーマンス情報を表示します。

注: 仮想マシンの情報が一時的に情報取得できない場合は、各項目が表示されない場合があります。



パフォーマンス	
情報取得時刻	性能情報の取得時刻を表示します。
[情報再取得]	性能情報を再取得します。
パフォーマンス	
VM 名	仮想マシン名を表示します。仮想マシン名をクリックすると、対象VMの詳細情報に遷移します。
稼動時間	仮想マシンの稼動時間を表示します。
CPU 使用量	仮想マシンが使用しているCPU使用量を表示します。
ホスト CPU 使用量	仮想マシンサーバにおける仮想マシンのCPU使用量を表示します。Xen環境では表示されません。
メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを表示します。
メモリ使用量	仮想マシンが使用しているメモリ使用量を表示します。

ホストメモリ使用量	仮想マシンサーバにおける仮想マシンのメモリ使用量を表示します。
起動	チェックボックスを選択した仮想マシンを起動します。
再起動	チェックボックスを選択した仮想マシンを再起動します。
シャットダウン	チェックボックスを選択した仮想マシンをシャットダウンします。
サスペンド	チェックボックスを選択した仮想マシンをサスペンドします。

5.10. データストアの詳細情報

データストアの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[データストア一覧] グループボックスから対象のデータストア名をクリックすると、データストアの詳細情報を表示します。

注: Hyper-V 環境では、ファイル/フォルダの表示について、以下のようになります。

・ 仮想マシンに関係したファイルのみ表示します。

・ システムドライブでは、すべてのディレクトリは表示されません。

基本情報	
データストア名	データストア名を表示します。

種別	Datastoreと表示されます。
仮想マシン数	データストア上にある稼動している仮想マシンの数を表示します。
テンプレート数	データストア上にあるテンプレートの数を表示します。
容量	データストアのサイズを表示します。
使用量	データストアの使用量を表示します。
空き容量	データストアの空き容量を表示します。
VM 一覧	
VM 名	仮想マシン名を表示します。
稼動状態	仮想マシンの稼動状態を表示します。
電源	仮想マシンの電源状態を表示します。
構成ファイル	仮想マシンの構成ファイルパスを表示します。
削除	選択した仮想マシンを削除します。
ファイル/フォルダ	
表示順	ファイルフォルダの表示する順番を指定します。
タイプ	表示するファイルのタイプを指定します。
サイズ	表示するファイルのサイズを指定します。
[更新]	ファイル / フォルダの表示を更新します。
名前	フォルダ / ファイルの名前を表示します。
タイプ	フォルダ / ファイルのタイプを表示します。
仮想ディスクタイプ	仮想ディスクの場合にディスクのタイプを表示します。
サイズ	ファイルのサイズを表示します。
更新日時	フォルダ / ファイルの更新日時を表示します。
削除	選択したフォルダ / ファイルを削除します。
←前のページ	前のページのフォルダ / ファイル情報を表示します。
次のページ→	次のページのフォルダ / ファイル情報を表示します。

5.11. VM の詳細情報

仮想マシンの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。

基本情報	
VM 名	仮想マシン名を表示します。
リソースパス	リソースパスを表示します。
構成ファイル	仮想マシンを作成しているデータストアを表示します。 VMware環境の場合は、vmxファイルを含めて表示します。 Hyper-Vの場合は、構成ファイルを含めて表示します。
コスト値	仮想マシンのコスト値を表示します。
CPU 数	仮想マシンの仮想CPU数を表示します。
CPU シェア	仮想マシンのCPUのシェア値を表示します。
CPU 予約	仮想マシンのCPU予約量を表示します。
CPU リミット	仮想マシンのCPUリミットを表示します。
メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを表示します。
メモリシェア	仮想マシンのメモリのシェア値を表示します。Xen Serverの仮想マシンの場合は、メモリシェア値は表示されません。

メモリ予約	仮想マシンのメモリ予約を表示します。
メモリリミット	仮想マシンのメモリリミットを表示します。
NIC 数	仮想マシンのNIC数を表示します。
OS 名	仮想マシンのOS名を表示します。
作成方法	仮想マシンの作成方法 (作成元テンプレート種別) を表示します。作成方法は、SigmaSystemCenterから作成された仮想マシンの場合のみ表示されます。
作成元イメージ	仮想マシンの作成元イメージを表示します。作成イメージは、SigmaSystemCenterから作成された仮想マシンの場合のみ表示されます。
作成日時	仮想マシンの作成日時を表示します。作成日時は、SigmaSystemCenterから作成された仮想マシンの場合のみ表示されます。
運用情報	
ホスト名	稼動中の場合、仮想マシンのホスト名を表示します。
稼動グループ	稼動中の場合、稼動グループを表示します。
OS 種別	稼動中の場合、稼動グループに設定されているOS種別を表示します。
サマリステータス	サマリステータスを表示します。
電源状態	電源状態を表示します。
稼動ステータス	稼動ステータスを表示します。
OS ステータス	OSステータスを表示します。
ハードウェアステータス	ハードウェアステータスを表示します。[状態詳細] をクリックすると、ハードウェアの個別ステータス一覧を表示します。「SigmaSystemCenterコンフィグレーションガイド」の「9.8.7 マシン単位のハードウェア状態詳細 (個別ステータス) の確認方法」を参照してください。
実行ステータス	実行ステータスを表示します。
ポリシー状態	ポリシーの設定状態を表示します。
メンテナンスステータス	メンテナンスステータスを表示します。
管理状態	管理状態を表示します。
NIC1～	ネットワークアダプタ名、MACアドレス、接続されているネットワーク名を表示します。仮想マシンが持つNICがすべて表示されます。
起動時間	マシンの起動時間を表示します。
起動累積時間	マシンの累積起動時間を表示します。
最終構成変更日時	最後にマシンの構成が変更された日時を表示します。 マシン履歴情報のリビジョンが1つのみの場合は、表示されません。
サービス開始日時	仮想マシンに設定されたサービス開始日時を表示します。

	サービス終了日時	仮想マシンに設定された終了日時を表示します。
イメージファイル一覧		
	名前	イメージファイルが格納されているデータストアを含めた名称を表示します。 RDMの場合は、LUN名を表示します。
	使用量 (GB)	イメージファイルの使用量を表示します。仮想マシンサーバから見た使用量を示しています。VMwareのThickディスク、XenのLVMベースのデータストア上に格納されている仮想ディスク、Hyper-Vの容量固定の仮想ハードディスクの場合、使用量は、サイズと等しくなります。
	サイズ (GB)	イメージファイルの定義サイズを表示します。Differential Clone方式で作成した仮想マシンの場合、親ディスクの情報も表示されます。子ディスク (差分ディスク) の場合、サイズは表示されません。
	タイプ	イメージファイルのタイプを表示します。

注: [起動時間]、[起動累積時間] といった時刻情報は、SigmaSystemCenter から対象マシンの電源操作を実行した際の情報が表示されます。そのため、サブシステム側にて操作され、収集操作により電源状態が更新された場合、マシンの電源状態と時刻情報が一致しない場合があります。

5.11.1. VM 編集

仮想マシンを編集します。

[仮想] ツリーから編集を行う仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM 編集] をクリックすると、メインウィンドウに「VM 編集」が表示されます。仮想マシン情報を編集し、[OK] をクリックすると仮想マシン情報が変更されます。

注:

- ディスク情報のモードは、VMware 環境のみ設定可能です。
- Xen 環境では、ディスクのタイプ、およびディスクサイズを変更することはできません。
- Xen 環境では、仮想 NIC を切断することはできません。
- Hyper-V 環境で、仮想ディスクがファイルサーバ上にある場合は、ディスクのタイプを変更することはできません。

仮想 > srv-vmssc2.s... > testcluster01 > srv-vmssc3.s... > test-host00_1
VM編集
VMサーバ名
srv-vmssc3.ssc1.ssclocal
VM名
test-host00_1
コスト値
10
CPU情報
CPU数
4
CPUシェア
最高(4000)
高(2000)
標準(1000)
低(500)
最低(250)
手動で設定する
各仮想基盤の設定値
VMware 設定値 * CPU数
Xen 設定値 * 256 / 1000
Hyper-V 設定値 / 10
KVM 設定値 * 1024 / 1000
CPU予約
0 MHz
CPUリミット(0=unlimited)
0 MHz
メモリ情報
メモリサイズ
4096 MB
メモリシェア
高(2000)
標準(1000)
低(500)
手動で設定する
各仮想基盤の設定値
VMware 設定値 * メモリサイズ / 100
Xen 設定不可
Hyper-V 設定値 * 5
KVM 設定不可
メモリ予約
0 MB
メモリリミット(0=unlimited)
0 MB
ネットワーク情報
仮想NIC #1
ネットワーク アダプタ 1(00:50:56:B0:2A:46)
仮想マシン ネットワーク
|切断|
仮想NIC #2
ネットワーク アダプタ 2(00:50:56:B0:3A:E0)
仮想マシン ネットワーク
|切断|
仮想NIC #3
ネットワーク アダプタ 3(00:50:56:B0:2D:3B)
仮想マシン ネットワーク
|切断|削除|
[仮想NICの追加]
ディスク情報
システムディスク
タイプ
Thin
モード
独立型
通常
サイズ
20480 MB
データストア
datastore1
ディスクファイル
[datastore1] test-host00_1/test-host00_1_3.vmdk
拡張ディスク
拡張ディスク #1
拡張ディスク #2
+
| 切断 | 削除 |
データストア
datastore1
ディスクファイル
[datastore1] test-host00_1/test-host00_1_2.vmdk
タイプ
Thin
モード
独立型
通常
サイズ
10240 MB
コントローラ
SCSI0
ディスク番号
1
光学ドライブ情報
ドライブ #1
CD/DVD ドライブ1
設定なし
| 削除 |
[光学ドライブの追加]
構成パラメータ設定
ヒント: 仮想基盤製品ごとに固有の機能を設定できます。
パラメータの設定
OK
キャンセル

VM 編集	
VM サーバ名	仮想マシンサーバ名を表示します。編集はできません。
VM 名 **(入力必須)**	仮想マシン名を表示します。仮想マシン名はシステムで一意となるように設定してください。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"）です。
コスト値	仮想マシンのコスト値を表示します。「0～1000」の範囲で設定できます。
CPU 情報	
CPU 数	仮想マシンの仮想CPU数を表示します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
CPU シェア	仮想マシンのCPUの優先度を表示します。最高、高、標準、低、最低、および数値で表示します。CPUシェア値を変更する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「1～99999」の範囲で設定できます。
CPU 予約	仮想マシンのCPU予約量を入力します。 Xen環境、KVM環境では、設定が無効なパラメータのため、設定しても反映されません。 Hyper-V環境では、以下のように変換されます。 設定値 * 100 / (CPU数 * ホストクロック値(MHz))
CPU リミット(0=unlimited)	CPUリミットを入力します。仮想マシンに割り当てるCPUリソースの上限を設定します。"0" を設定すると制限しません。「0～9999999」の範囲で設定できます。 Xen環境では、設定が無効なパラメータのため、設定しても反映されません。 Hyper-V環境では、CPU予約と同様に値が変換されます。 KVM環境では、以下のように変換されます。 quota値 =設定値 * period値 (既定値 100000) / ホストクロック値 (MHz)
メモリ情報	
メモリサイズ	仮想マシンのメモリサイズを表示します。仮想マシンサーバにより設定可能な値は変化します。
メモリシェア	仮想マシンのメモリシェア値を表示します。高、標準、低、および数値で表示します。メモリシェア値を変更する場合は、該当する項目を選択します。数値で指定する場合は、「手動で設定する」を選択し、数値を入力します。「0～10000」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では表示されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合にのみ使用されます。その場合、「0～2000」の範囲で設定してください。
メモリ予約	仮想マシンに割り当てるメモリの下限を設定します。 Xen環境、KVM環境では表示されません。

	メモリリミット(0=unlimited)	仮想マシンに割り当てるメモリの上限を設定します。「0～99999999」の範囲で設定できます。 Xen環境、KVM環境では表示されません。 Hyper-V環境では、ダイナミックメモリ機能が有効な場合で使用されます。静的にメモリを仮想マシンに割り当てる場合には、メモリサイズと同じ値を指定してください。"0" を指定すると、上限が設定されます。
ネットワーク情報		
	仮想 NIC#1	仮想マシンに割り当てる仮想NICと仮想NICの接続先の名称を設定します。仮想NICは#1～#10まで設定することができます。仮想NICの接続先は、仮想マシンサーバ上に存在するVLANを設定することができます。仮想NICの接続先の用語や指定形式は、仮想化基盤製品別に異なります。 「VMware」：接続先のポート・グループの名前を設定します。 「Hyper-V」：接続先の仮想ネットワークとVLANを組み合わせた名称で設定します。以下の形式で設定します。 *NetworkName*-VLAN:*VlanId* *NetworkName*：接続先の仮想ネットワーク名を指定します。 -VLAN:：固定文字列です。 *VlanId*：仮想NICに割り当てるVLANのIDを指定します。VLANのIDを指定しない場合は、固定文字列 "NONE" を指定します。 「XenServer」：接続先のネットワークの名前を設定します。
	[切断]	仮想NICを切断状態にする場合、クリックします。接続状態の仮想NICのみ表示されます。 Xen環境は仮想NICの切断をサポートしておりません。
	[削除]	仮想NICを削除する場合、クリックします。削除は最後の仮想NICのみ表示されます。
	[接続]	切断状態の仮想NICを接続する場合、クリックします。切断状態の仮想NICのみ表示されます。
	[キャンセル]	切断、削除、および接続をキャンセルする場合、クリックします。切断、削除、および接続を選択した場合のみ、表示されます。
	[仮想NICの追加]	仮想NICを追加する場合にクリックします。最後の仮想NICが設定なしの場合、仮想NICは追加できません。 仮想NICは#10まで追加可能です。 Xen環境は#7までしか反映されません。
	[キャンセル]	仮想NICの追加をキャンセルする場合にクリックします。仮想NICの追加を選択した場合のみ、表示されます。
ディスク情報		
	システムディスク	仮想マシンのシステムディスク情報を表示します。タイプ変更、モード変更、およびサイズ変更ができます。
	タイプ	システムディスクのタイプ (Thick / Thin) を表示します。

					「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 VMware環境の場合、ThickからThinへの変更は失敗します。また、Differential Cloneの仮想マシンのシステムディスクは編集できません。 Xen環境の仮想マシンは編集できません。
			モード		ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。
			サイズ		システムディスクのサイズをMB単位で表示します。ディスクのサイズを小さくすることはできません。 Xen環境ではディスクのサイズ変更はできません。
			データストア		ディスクのデータの置き場所を表示します。編集はできません。
			ディスクファイル		システムディスクファイル名を表示します。編集はできません。
			拡張ディスク		仮想マシンの拡張ディスク情報を表示します。拡張ディスクは追加、切断、削除、タイプ変更、モード変更、およびサイズ変更ができます。複数の拡張ディスクは編集できません。
				追加	仮想マシンに拡張ディスクを追加する場合、クリックします。仮想マシンに拡張ディスクがない場合に表示されます。
				削除	仮想マシンの拡張ディスクを削除する場合、クリックします。 仮想マシンに拡張ディスクが存在する場合に表示されます。 タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」は選択できません。
				切断	仮想マシンと拡張ディスクを切断する場合、クリックします。 切断された仮想ディスクはデータストア上に残ります。 仮想マシンに拡張ディスクが存在する場合に表示されます。
				キャンセル	追加、削除、および切断をキャンセルする場合、クリックします。追加、削除、および切断を選択した場合に表示されます。
				データストア	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合にディスクのデータの置き場所を指定します。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢に表示されます。
				ディスクファイル	
					新規に作成する	作成先データストア上に仮想ディスクを作成します。
					既存のディスクを使用する	作成先データストア上にある仮想ディスクを使用します。
					参照	作成先データストアのデータストアブラウザを表示します。
				タイプ		拡張ディスクのタイプ (Thick / Thin / RDM (物理) / RDM (仮想)) を表示します。

	「Thick」: 指定したサイズのディスクを作成します。 「Thin」: ディスク利用時に必要に応じて必要な分のサイズのディスクが動的に割り当てられます。指定サイズは、動的に割り当て可能なサイズの上限として使用されます。 「RDM (物理)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware / Hyper-V環境のみ有効です。物理互換モードを使用します。 「RDM (仮想)」: 直接、LUN (ディスクボリューム) を仮想マシンに追加します。VMware環境のみ有効です。VMware環境の場合は、仮想互換モードを使用します。 VMware環境の場合、ThickからThinへの変更は失敗します。また、Differential Cloneの仮想マシンのシステムディスクは編集できません。 Xen環境の仮想マシンは編集できません。
モード	ディスクに独立型を設定する場合、チェックボックスをオンにし、通常、もしくは読み取り専用を選択します。VMware環境のみ設定できます。タイプが「RDM (物理)」の場合は、VMware環境でも設定できません。
サイズ	タイプが「Thick」、もしくは「Thin」の場合に拡張ディスクのサイズをMB単位で表示します。ディスクのサイズを小さくすることはできません。 Xen環境では、ディスクのサイズは変更できません。
ターゲット LUN	タイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」の場合に使用するLUN (ディスクボリューム) を表示、または選択します。
コントローラ	ディスクのコントローラを選択します。 既に追加されているディスクは変更できません。
ディスク番号	ディスク番号を表示します。 既に追加されているディスクは変更できません。 コントローラが自動選択の場合は、ディスク番号も自動選択になります。
光学ドライブ情報	
ドライブ #1	ドライブ名を表示します。
(プルダウンボックス)	マウントするファイルを表示します。
削除	光学ドライブ情報を削除します。
光学ドライブの追加	光学ドライブを追加する場合にクリックします。 光学ドライブは#4まで追加可能です。
構成パラメータ設定	
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]	仮想マシン編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	仮想マシン編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.2. VM 移動

仮想マシンを別の仮想マシンサーバへ移動します。

[仮想] ツリーから移動する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [VM 移動] をクリックします。

もしくは、仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[稼動中 VM 一覧] グループボックス、および [未使用 VM 一覧] グループボックス内の移動する仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[VM 移動] をクリックすると、メインウィンドウに「VM 移動」が表示されます。仮想マシンの移動先を選択し、[OK] をクリックすると仮想マシンが移動します。

注:

・ Windows Server 2008 R2 の Hyper-V 単体の場合、VM 移動はサポートしておりません。

・ Windows Server 2008 R2 クラスタ構成の Hyper-V 仮想マシンでは、CSV 上に配置されて、高可用化されている場合のみ、Migration / Quick Migration ができます。Storage Migration / Move はサポートされません。

・ Hyper-V では、Windows Server 2012 以降の単体の場合、Failover がサポートされます。

・ Differential Clone で作成された仮想マシン、および Differential Clone テンプレートのレプリカ VM は、Storage Migration / Move はできません。

・ スタンドアロン ESXi 環境では、共有ストレージ (NFS を除く) 上の仮想マシンのみ移動できます。

・ スタンドアロン ESXi 環境の仮想マシンは、電源オンの状態では移動できません。 (Quick Migration、Move は除く)

・ スタンドアロン ESXi 環境の Storage Migration / Move は、「移動先データストアの指定」でデータストアを選択しても別のデータストアに移動できません。また、「拡張ディスクを移動対象から除外する」の設定は無視されます。

・ スタンドアロン ESXi 環境の Failover は、Web コンソールからの操作はサポートしておりません。ポリシー契機、および ssc コマンドの evacuate machine コマンドを利用して、対象のマシンに仮想マシンを指定した場合のみサポートしています。

・ Xen 環境の仮想マシンは、Migration、および Failover のみサポートしています。

・ VMware 環境の仮想マシンで、拡張ディスクにタイプが「RDM (物理)」、もしくは「RDM (仮想)」のディスクが追加されている場合は、DataCenter 間の移動はできません。また、Storage Migration / Move でデータストア間の移動はできません。

・ KVM 環境の仮想マシンは、NFS ストレージ上の Migration のみサポートしています。

・ 移動対象の仮想マシンに接続している仮想ディスクをマシンプロファイルに指定している場合に Storage Migration を行うと、仮想ディスクがデータストア間を移動するため、マシンプロファイルに設定した情報と一致する仮想ディスクは存在しなくなります。マシンプロファイルに設定した情報と一致しない仮想ディスクは、VM 編集、VM 削除で仮想ディスク削除の操作を行うと仮想ディスクが削除されます。

・ 仮想マネージャは、VMware と Hyper-V 環境で選択できます。VMware 環境は、vSphere 6.0 以降の環境をサポートしています。

VM 移動		
移動元 VM 一覧		
	VM 名	仮想マシン名を表示します。編集はできません。
	電源	仮想マシンの電源状態を表示します。
	格納場所	仮想マシンの格納場所を表示します。
移動元データセンタ名		移動元のDataCenter名を表示します。編集はできません。

移動元 VM サーバ名		移動元の仮想マシンサーバ名を表示します。編集はできません。
移動先 VM サーバ一覧		
	移動先仮想マネージャ名	移動先仮想マネージャ名を選択します。
	移動先データセンタ名	移動先DataCenter名を選択します。VMware環境の場合のみ有効です。
	選択	移動先仮想マシンサーバ名を選択します。
	VM サーバ名	移動先候補の仮想マシンサーバ名を表示します。
	状態	仮想マシンサーバの状態を表示します。
	電源	仮想マシンサーバの電源状態を表示します。
	使用量 / キャパシティ	仮想マシンサーバの使用量 / キャパシティを表示します。
	IP アドレス	仮想マシンサーバのIPアドレスを表示します。
	VM 数	仮想マシンサーバに作成されている仮想マシン台数を表示します。
VM 移動方法の指定 (選択必須)		
	Migration	Migrationを行う場合、チェックボックスをオンにします。電源オンの仮想マシンをHot Migration、電源オフの仮想マシンをCold Migrationで移動します。仮想マシンが共有ディスク上に存在する場合有効です。
	サスペンド後に移動 (Quick Migration)	仮想マシンをサスペンド後に移動 (Quick Migration) する場合、チェックボックスをオンにします。Quick Migrationは、仮想マシンをサスペンド後に移動してレジュームを行います。VMware / Hyper-V環境の場合のみ有効です。Migrationを行う場合のみ設定できます。
	Storage Migration	Storage Migrationを行う場合、チェックボックスをオンにします。Storage Migrationは、仮想マシンを電源オン状態のまま異なるストレージにディスクを含めて移動します。VMware環境の場合のみ有効です。
	停止後に移動 (Move)	停止後に移動 (Move) を行う場合、チェックボックスをオンにします。仮想マシンをシャットダウン後にディスクを含めて移動します。Storage Migrationを行う場合のみ設定できます。
	拡張ディスクを移動対象から除外する	データストア間の移動を行う際、拡張ディスクを移動させない場合にチェックボックスをオンにします。Storage Migration、またはMoveを行う場合にのみ設定できます。
	Failover	Failoverを行う場合、チェックボックスをオンにします。仮想マシンサーバが障害などでダウンしている場合、仮想マシンを移動します。仮想マシンが共有ディスク上に存在する場合有効です。仮想マシン移動後の電源状態はオンになります。
移動先データストアの指定		
	移動先データストア	[VM移動方法の指定] グループボックスの [Storage Migration] チェックボックスをオンとし、[Migration]、および [Failover] チェックボックスがオフの場合、移動先データストアをプルダウンボックスから選択します。

	VM 移動後の状態	
	自動起動	電源オフの仮想マシンを移動した後、自動で電源をオンにする場合、[自動起動] チェックボックスをオンにします。
	配置制約	
	配置制約を無視する	配置制約を無視して移動する場合、[配置制約を無視する] チェックボックスをオンにします。
[OK]		仮想マシンを移動し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		仮想マシンを移動せずに、元のウィンドウに戻ります。

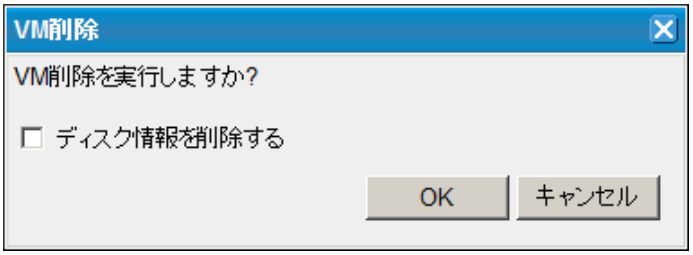
5.11.3. VM 削除

仮想マシンを削除します。

[仮想] ツリーから削除する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [VM 削除] をクリックします。

もしくは、[仮想] ツリーから仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバ詳細情報を表示します。[未使用 VM 一覧] グループボックス内の削除する仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [VM 削除] をクリックすると、「VM 削除」のポップアップが表示されます。

もしくは、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[データストア一覧] グループボックスから対象のデータストア名をクリックすると、データストアの詳細情報を表示します。[VM 一覧] グループボックスから削除する仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [VM 削除] をクリックすると、「VM 削除」のポップアップが表示されます。



注:

・ マスタ VM、およびレプリカ VM (エッジキャッシュレプリカ VM を除く) は、削除できません。

・ Differential Clone タイプの仮想マシンを削除、もしくは再構成 (Reconstruct) すると、その仮想マシンが参照しているエッジキャッシュレプリカ VM も、他に参照する仮想マシンが存在しない場合は、自動的に削除されます。また、Xen 環境の場合は、エッジキャッシュレプリカ VM は、同時に削除されません。

・ Xen 環境の場合、不要となったエッジキャッシュレプリカ VM は手動で削除してください。

・ スタンドアロン ESXi 環境の場合、レプリカ VM は [ディスク情報を削除する] チェックボックスをオンにしても、ディスク情報は削除されません。

・ SigmaSystemCenter1.2 / 1.3 でディスク切り替え機能により作成された仮想マシン (仮想マシン名に "_ (数字) " が付加されています) の仮想ディスクイメージは、別の仮想マシンからも参照されている可能性があります。仮想マシンの削除の操作は、仮想ディスクイメージも同時に削除されます。従って、上記のような仮想マシンを削除する場合は、vSphere Client を使用して仮想ディスクイメージを削除する仮想マシンから切断して削除してください。

5.11.4. VM クローン

仮想マシンのクローンを作成します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報が表示されます。[未使用 VM 一覧] グループボックス、もしくは [マスタ VM 一覧] グループボックスからクローンを作成する仮想マシンを選択し、アクションメニューから [VM クローン] をクリックすると、「選択した VM を元に新しい VM をクローンします。」ウィンドウが表示されます。クローン情報を入力し、[OK] をクリックするとクローンが作成されます。

もしくは、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [VM クローン] をクリックすると、「選択した VM を元に新しい VM をクローンします。」ウィンドウが表示されます。クローン情報を入力し、[OK] をクリックするとクローンが作成されます。

注:

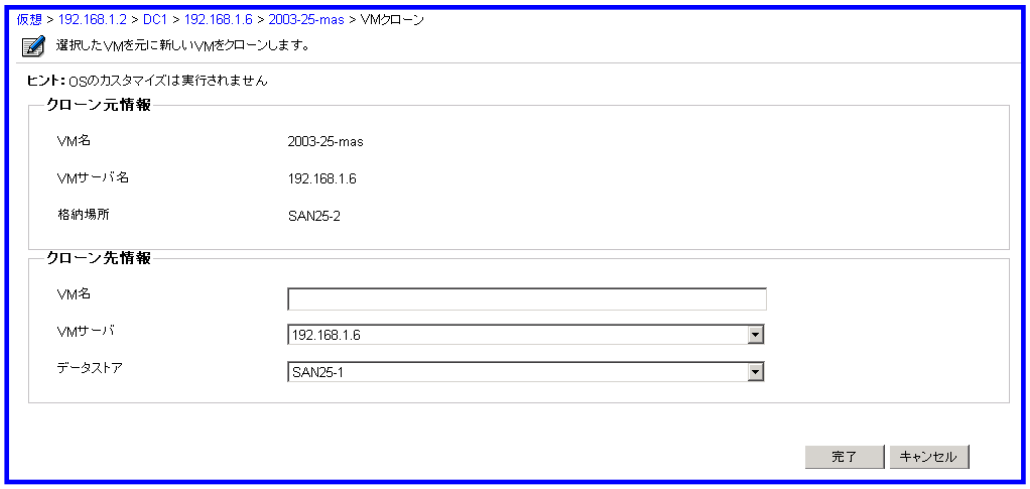
・ レプリカ VM のクローンは失敗します。

・ Differential Clone で作成した仮想マシンをクローンした場合は、レプリカ VM と親子関係がなくなり、差分ディスクを持たず、レプリカ VM とは独立した仮想マシンが作成されます。また、Xen / KVM 環境はサポートしておりません。

・ OS のカスタマイズは行いません。

・ vCenter Server、およびスタンドアロン ESXi 環境の場合、クローン元の仮想マシンが使用しているネットワークと同一名のネットワークがクローン先の仮想マシンサーバに構築されていない場合、作成したクローン仮想マシンの仮想 NIC が切断状態になります。クローン完了後、作成したクローン仮想マシンに対して VM 編集を行い、仮想 NIC に正しいネットワークを設定してください。

・ スタンドアロン ESXi 環境でクローンを行った場合、クローン元仮想マシンのディスクタイプにも関わらず、作成された仮想マシンのディスクタイプは必ず "Thick" となります。

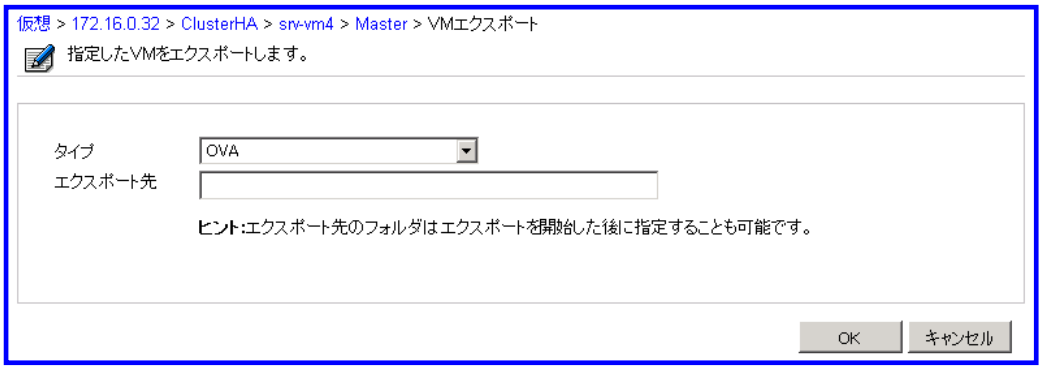


クローン元情報	
VM 名	クローン元の仮想マシン名を表示します。
VM サーバ	クローン元の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
格納場所	クローン元の仮想マシンの格納場所を表示します。
クローン先情報	
VM 名 **(入力必須)**	作成するクローンの仮想マシン名を入力します。入力できる文字数は、80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"）です。
VM サーバ	クローン先の仮想マシンサーバをプルダウンボックスから選択します。VMwareの場合、親マネージャ配下の仮想マシンサーバ、XenCenterの場合、DataCenter配下の仮想マシンサーバ、Hyper-Vの場合、親仮想マシンサーバのみを表示します。既定表示されている仮想マシンサーバを選択した場合は、クローン元仮想マシンの親仮想マシンサーバとなります。
データストア	[VMサーバ] プルダウンボックスで選択した仮想マシンサーバのデータストアの中から選択します。既定表示されているデータストアは、クローン元の親仮想マシンサーバが接続しているデータストアとなります。 Hyper-Vを使用し、データストアの「VM作成先ディレクトリ」を設定している場合、それを含めて選択肢が表示されます。
[完了]	クローン作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	クローン作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.11.5. VM エクスポート

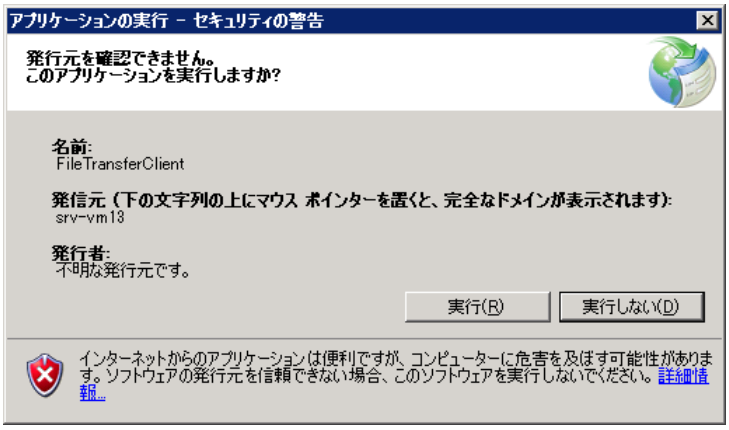
仮想マシンをエクスポートします。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [VM エクスポート] をクリックすると、メインウィンドウに「指定した VM をエクスポートします。」が表示されます。仮想マシンのエクスポート情報を入力し、[OK] をクリックすると仮想マシンがエクスポートされます。

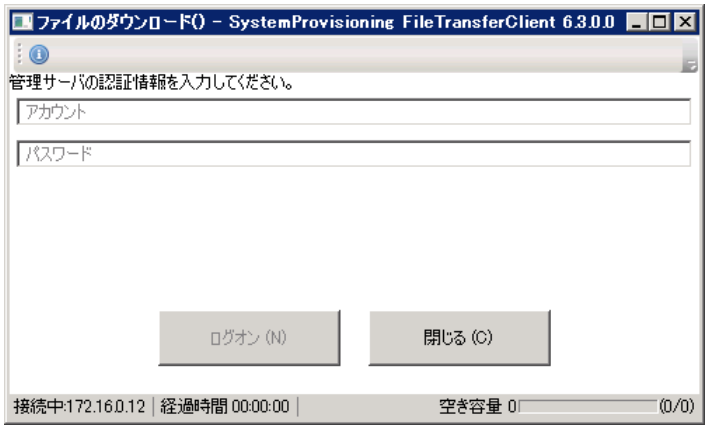


指定した VM をエクスポートします。	
タイプ	仮想マシンをエクスポートする形式を選択します。 「OVA」:VMware環境の場合に設定できます。OVAファイルをエクスポートします。 「OVF」:VMware環境の場合に設定できます。OVFファイルとVMDKファイルをエクスポートします。 「VHD」:Hyper-V環境の場合に設定できます。仮想マシンのシステムディスクをVHD / VHDXファイルとしてエクスポートします。
エクスポート先	エクスポート先のフォルダを指定します。省略可能です。
[OK]	VMエクスポートを開始します。
[キャンセル]	VMエクスポートせずに、元のウィンドウに戻ります。

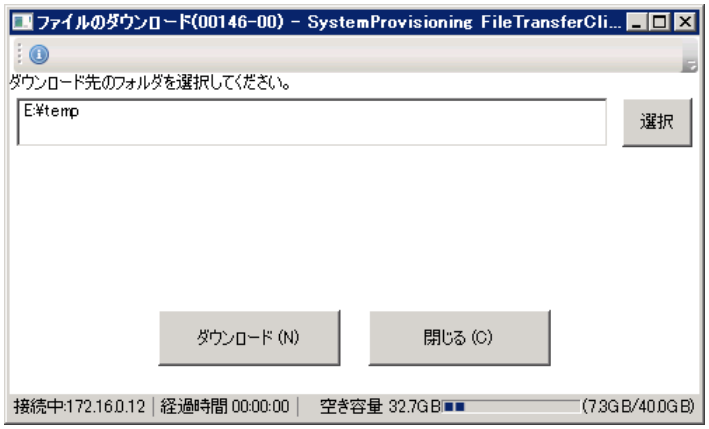
VM エクスポートを実行すると、ファイルをアップロードするためのアプリケーションが起動します。



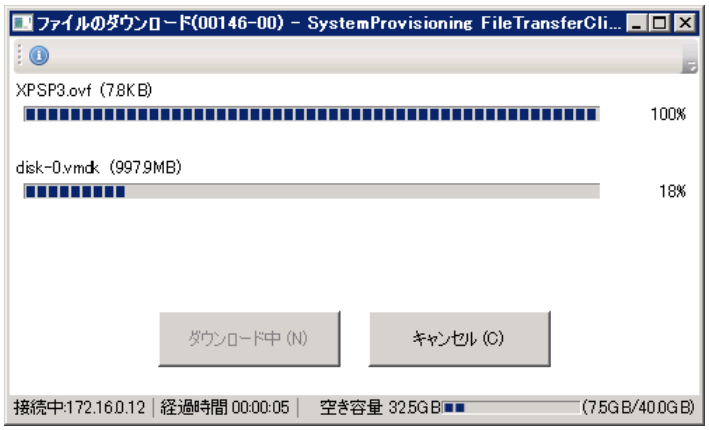
上記の警告が表示された場合は、[実行]　をクリックします。



アプリケーションを実行している Windows のアカウントが、SigmaSystemCenter を実行しているサーバにログオンできるアカウントでない場合は、上記の画面が表示されます。サーバにログオンできる Windows アカウントの認証情報を入力します。



Web コンソールでエクスポート先のフォルダを指定しなかった場合に、上記の画面が表示されます。エクスポート先のフォルダを指定します。



ファイルのダウンロードが完了したら、アプリケーションを閉じます。

5.11.6. Full Clone 用のテンプレート作成

Full Clone 用のテンプレートを作成します。

[仮想] ツリーから Full Clone 用のテンプレートの元となる仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テンプレート作成] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート作成」が表示されます。

もしくは、対象の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[未使用 VM 一覧] グループボックスから対象の仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [テンプレート作成] をクリックします。テンプレート情報を入力し、[OK] をクリックするとテンプレートが作成されます。

テンプレート作成	
テンプレート名 **(入力必須)**	Full Clone用のテンプレートの名称を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"、"("、")"）です。
コスト値 **(入力必須)**	Full Clone用のテンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	Full Clone用のテンプレートの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Full Clone" を選択します。
作成元 VM	
VM 名	テンプレートの元となる仮想マシン名を表示します。

			VM サーバ名	仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
			格納場所	仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
			管理者パスワードを設定する	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを設定する場合にチェックボックスがオンにします。
			Root のパスワード	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを入力します。
			パスワード更新	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
		イメージ		
			イメージ名	イメージ名は入力できません。テンプレート名と同じ名前になります。
			VM サーバ	格納先の仮想マシンサーバを選択します。
			格納場所	イメージが所属するデータストア名を選択します。
	OS 設定			
			OS 種別	Full Clone用のテンプレートのOSの種類をWindows Client、Windows Server、Linuxから選択します。
			OS 名	Full Clone用のテンプレートのOSの名前を選択します。 vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
			プロファイル	テンプレートにプロファイル情報を付与する場合、チェックボックスをオンにします。
			Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			タイムゾーン	使用するタイムゾーンを選択します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			ライセンスモード	[同時接続ユーザ数]、もしくは [接続クライアント数] から選択します。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定

				できます。 OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
	構成パラメータ設定			
		パラメータの設定		構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]				テンプレート作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				テンプレート作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.7. Full Clone 用のテンプレート編集

Full Clone 用のテンプレートを編集します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから編集する Full Clone 用のテンプレートの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート編集」が表示されます。テンプレート情報を編集し、[OK] をクリックするとテンプレート情報が変更されます。

テンプレート編集	
テンプレート名	Full Clone用のテンプレートの名称を表示します。編集はできません。
コスト値 **(入力必須)**	Full Clone用のテンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	Full Clone用のテンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Full Clone" を表示します。変更はできません。
作成元 VM	
VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。 Full Cloneテンプレートの場合、仮想マシン名は表示されません。
VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。Full Cloneテンプレートの場合、仮想マシンサーバ名は表示されません。
格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属するデータストアを表示します。 Full Cloneテンプレートの場合、格納場所は表示されませ

				ん。
			管理者パスワードを設定する	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを設定した場合にチェックボックスがオンになります。
			Root のパスワード	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを表示し、更新もできます。
			パスワード更新	テンプレート作成時に使用した仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
	OS 設定			
		OS 種別		Full Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
		OS 名		テンプレートのOS名を表示し、編集もできます。 vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
		プロファイル		テンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
			Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX)　形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
			ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。 OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
	構成パラメータ設定			
		パラメータの設定		構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]				テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]				テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

注: 連携製品上で作成したテンプレートの場合、作成元 VM 情報は表示されません。

5.11.8. Full Clone 用のテンプレート削除

Full Clone 用のテンプレートを削除します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから削除する対象の Full Clone 用のテンプレートのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると削除されます。

5.11.9. HW Profile Clone 用のテンプレート作成

HW Profile Clone 用のテンプレートを作成します。

[仮想] ツリーから HW Profile Clone 用のテンプレートの元となるマスタ VM のアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テンプレート作成] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート作成」が表示されます。

もしくは、対象の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[未使用 VM 一覧] グループボックスから対象の仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [テンプレート作成] をクリックします。テンプレート情報を入力し、[OK] をクリックするとテンプレートが作成されます。

テンプレート作成		
	テンプレート名 **(入力必須)**	HW Profile Clone用のテンプレート名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。
	コスト値 **(入力必須)**	HW Profile Clone用のテンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
	説明	HW Profile Clone用のテンプレートの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	タイプ	"HW Profile Clone" を選択します。
	作成元 VM	
	VM 名	仮想マシン名を表示します。
	VM サーバ名	仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
	格納場所	仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
	構成パラメータ設定	
	パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。

[OK]	テンプレート作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報:「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.10. HW Profile Clone 用のテンプレート編集

HW Profile Clone 用のテンプレートを編集します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから編集する HW Profile Clone 用のテンプレートの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート編集」が表示されます。テンプレート情報を編集し、[OK] をクリックするとテンプレート情報が変更されます。

テンプレート編集	
テンプレート名 **(入力必須)**	HW Profile Clone用のテンプレート名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-"、"_") です。

	コスト値 **(入力必須)**		HW Profile Clone用のテンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
	説明		HW Profile Clone用のテンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
	タイプ		"HW Profile Clone" を表示します。変更はできません。
	作成元 VM		
		VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。
		VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
		格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
	構成パラメータ設定		
		パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]			テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.11. HW Profile Clone 用のテンプレート削除

HW Profile Clone 用のテンプレートを削除します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから削除する対象の HW Profile Clone 用のテンプレートのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると削除されます。

5.11.12. Differential Clone 用のテンプレート作成

Differential Clone 用のテンプレートを作成します。

[仮想] ツリーから Differential Clone 用のテンプレートの元となる仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テンプレート作成] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート作成」が表示されます。

もしくは、対象の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[未使用 VM 一覧] グループボックスから対象の仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [テンプレート作成] をクリックします。テンプレート情報を入力し、[OK] をクリックするとテンプレートが作成されます。

テンプレート作成

テンプレート名 **(入力必須)**	Differential Clone用のテンプレートの名称を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"、"("、")"）です。
コスト値 **(入力必須)**	Differential Clone用のテンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を入力します。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	Differential Clone用のテンプレートの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Differential Clone" を選択します。
作成元 VM	
VM 名	テンプレートの元となる仮想マシン名を表示します。
VM サーバ名	仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
格納場所	仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
管理者パスワードを設定する	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを設定する場合にチェックボックスがオンにします。
Root のパスワード	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを入力します。
パスワード更新	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
イメージ	
イメージ名 **(入力必須)**	イメージ名を入力します。入力できる文字数は53文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号（"("、")"、"-"、"_"）です。既定値は、"Image" が入力されています。 vCenter Server環境以外でSysprepの自動実行の設定が行われている場合は、半角空白を使用することはできません。
VM サーバ	格納先の仮想マシンサーバを選択します。
格納場所	イメージが所属するデータストア名を選択します。
レプリカ VM を指定の位置に固定する	レプリカVMを指定したデータストアに固定し、エッジ キャッシュ レプリカVMを作成しない場合、チェックボックスをオンにします。
作成元スナップショット	
スナップショット名	スナップショット名を表示します。
作成日時	スナップショットの作成日時を表示します。
パス	スナップショットのパスを表示します。
VM モード	レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でsysprep実行時に/mode vmオプションを有効にする場合、チェックボックスをオンにします。
OS 設定	

		OS 種別	Differential Clone用のテンプレートのOSの種類をWindows Client、Windows Server、Linuxから選択します。
		OS 名	テンプレートのOS名を選択します。 vCenter Serverの固有情報反映では使用されません。
		プロファイル	テンプレートにプロファイル情報を付与する場合、チェックボックスをオンにします。
		Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
		組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
		タイムゾーン	使用するタイムゾーンを選択します。OS種別がLinuxの場合、表示されません。
		プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
		ライセンスモード	[同時接続ユーザ数]、もしくは [接続クライアント数] から選択します。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
	構成パラメータ設定		
		パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]			テンプレート作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]			テンプレート作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.13. Differential Clone 用のテンプレート編集

Differential Clone 用のテンプレートを編集します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから編集する Differential Clone 用のテンプレートの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート編集」が表示されます。テンプレート情報を編集し、[OK] をクリックするとテンプレート情報が変更されます。

テンプレート編集

テンプレート名 **(入力必須)**	Differential Clone用のテンプレートの名称を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号 ("_"、"-"、"("、")") です。
コスト値 **(入力必須)**	Differential Clone用のテンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	Differential Clone用のテンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Differential Clone" を表示します。変更はできません。
作成元 VM	
VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。
VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバ名を表示します。
格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンの所属するデータストアを表示します。
イメージ一覧	
イメージ名	イメージ名を表示します。
世代	イメージの世代番号を表示します。
スナップショット	イメージの作成元となったスナップショット名を表示します。
作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
格納場所	イメージが所属するデータストア名を表示します。
参照 VM 数	イメージを参照して作成された仮想マシン数を表示します。
OS 設定	
OS 種別	Differential Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
OS 名	vCenter Serverの固有情報反映では使用されません。
プロファイル	Differential Clone用のテンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。OS種別がLinuxの

	場合、表示されません。
プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は (XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
構成パラメータ設定	
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]	テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.14. Differential Clone 用のテンプレート削除

Differential Clone 用のテンプレートを削除します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから削除する対象の Differential Clone 用のテンプレートのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると削除されます。

注: テンプレートに関連するイメージ (レプリカVM) もすべて削除されます。イメージを参照している仮想マシンが存在する場合、テンプレートは削除できません。イメージを参照している仮想マシンをすべて削除してから再度実行してください。

5.11.15. Disk Clone 用のテンプレート作成

Disk Clone 用のテンプレートを作成します。

[仮想] ツリーからDisk Clone 用のテンプレートの元となるマスタVM のアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [テンプレート作成] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート作成」が表示されます。

もしくは、対象の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[未使用 VM 一覧] グループボックスから対象の仮想マシンのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [テンプレート作成] をクリックします。テンプレート情報を入力し、[OK] をクリックするとテンプレートが作成されます。

テンプレート作成	
テンプレート名 **(入力必須)**	Disk Clone用のテンプレートの名称を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"、"("、")"）です。
コスト値	Disk Clone用のテンプレートから仮想マシンを作成する場合に使用する仮想マシンのコスト値を入力します。「1～1000」

	(入力必須)	の範囲で設定できます。
	説明	Disk Clone用のテンプレートの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
	タイプ	"Disk Clone" を選択します。
	作成元 VM	
	VM 名	テンプレートの元となる仮想マシン名を表示します。
	VM サーバ名	仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
	格納場所	仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
	管理者パスワードを設定する	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを設定する場合にチェックボックスがオンにします。
	Root のパスワード	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを入力します。
	パスワード更新	テンプレート作成時に指定する仮想マシンに設定されている管理者のパスワードを更新する場合にチェックボックスをオンにします。
	イメージ	
	イメージ名 **(入力必須)**	イメージ名を入力します。入力できる文字数は53文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-"、"_") です。既定値は、"Image" が入力されています。 vCenter Server環境以外でSysprepの自動実行の設定が行われている場合は、半角空白を使用することはできません。
	VM サーバ	格納先の仮想マシンサーバを選択します。
	格納場所	イメージが所属するデータストア名を選択します。
	VM モード	レプリカ作成時にWindows 8、Windows Server 2012以降でSysprep実行時に/mode vmオプションを有効にする場合、チェックボックスをオンにします。
	OS 設定	
	OS 種別	Disk Clone用のテンプレートのOSの種類をWindows Client、Windows Server、Linuxから選択します。
	OS 名	テンプレートのOS名を選択します。 vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
	プロファイル	テンプレートにプロファイル情報を付与する場合、チェックボックスをオンにします。
	Owner 名	使用するOSライセンスの所有者名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
	組織名	使用するOSライセンスの所有組織名を入力します。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英

	数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
タイムゾーン	使用するタイムゾーンを選択します。OS種別がLinuxの場合、表示されません。
プロダクトキー	使用するOSライセンスのプロダクトキーを入力します。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は (XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
ライセンスモード	[同時接続ユーザ数]、もしくは [接続クライアント数] から選択します。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。 OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
構成パラメータ設定	
パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。
[OK]	テンプレート作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.16. Disk Clone 用のテンプレート編集

Disk Clone 用のテンプレートを編集します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから編集するDisk Clone 用のテンプレートの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「テンプレート編集」が表示されます。テンプレート情報を編集し、[OK] をクリックするとテンプレート情報が変更されます。

テンプレート編集	
テンプレート名 **(入力必須)**	Disk Clone用のテンプレートの名称を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および記号（"_"、"-"、"("、")"）です。
コスト値 **(入力必須)**	Disk Clone用のテンプレートのコスト値を表示し、編集もできます。「1～1000」の範囲で設定できます。
説明	Disk Clone用のテンプレートの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
タイプ	"Disk Clone" を表示します。変更はできません。
作成元 VM	

	VM 名	テンプレート作成時に使用した仮想マシン名を表示します。
	VM サーバ名	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属する仮想マシンサーバを表示します。
	格納場所	テンプレート作成時に使用した仮想マシンが所属するデータストアを表示します。
イメージ一覧		
	イメージ名	イメージ名を表示します。
	世代	イメージの世代番号を表示します。
	作成日時	イメージを作成した日時を表示します。
	格納場所	イメージが所属するデータストア名を表示します。
OS 設定		
	OS 種別	Disk Clone用のテンプレートのOSの種類を表示し、変更もできます。
	OS 名	テンプレートのOS名を表示し、変更もできます。 vCenter Serverによる固有情報反映では使用しません。
	プロファイル	テンプレートのプロファイル情報を表示し、変更もできます。
	Owner 名	OSライセンスの所有者名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
	組織名	OSライセンスの所有組織名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は100文字以内です。使用できる文字は半角英数字、半角空白、および以下の記号です。 ! @ # $ % ^ & * ( ) , . < > ? / ' " ; : { } [ ] ¥ | ~ ` - _ = + OS種別がLinuxの場合、表示されません。
	タイムゾーン	タイムゾーンを表示し、変更もできます。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
	プロダクトキー	OSライセンスのプロダクトキーを表示し、編集もできます。入力できる文字は半角英数字のみです。入力は(XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX-XXXXX) 形式で入力します。 OS種別がLinuxの場合、表示されません。
	ライセンスモード	ライセンスモードを表示し、変更もできます。[同時接続ユーザ数] を選択する場合、テキストボックスにユーザ数を入力します。「1～999999」の範囲で設定できます。 OS種別がWindows Serverの場合のみ表示されます。
構成パラメータ設定		
	パラメータの設定	構成パラメータ設定の定義を入力する「パラメーター覧」ダイアログボックスを表示します。

[OK]	テンプレート編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	テンプレート編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

[パラメータの設定] をクリックすると、「パラメーター覧」ダイアログボックスが表示されます。

関連情報: 「パラメーター覧」ダイアログボックスについては、「5.7.3 VM 作成」を参照してください。

5.11.17. Disk Clone 用のテンプレート削除

Disk Clone 用のテンプレートを削除します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから削除する対象の Disk Clone 用のテンプレートのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると削除されます。

注: テンプレートに関連するイメージ (レプリカ VM) もすべて削除されます。

5.12. コンソールスクリーンショット

仮想マシンコンソールのスクリーンショットを表示します。

[仮想] ツリーからコンソールを表示する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[スクリーン] メニューに仮想マシンコンソールのスクリーンショットが表示されます。また、[スクリーン] メニューのスクリーンショットをクリックすることで拡大表示できます。

注:

・VMware vCenter Server 環境の場合、仮想マシンサーバのアカウント設定が必要です。詳細は、「2.11.12 サブシステム編集 (VMware ESX / ESXi)」、および「2.13.4 [仮想リソース] タブ」を参照してください。

・VMware の場合、仮想マシンのシャットダウン、または再起動中はスクリーンショットを表示できません。

コンソールスクリーンショット	
(更新)	コンソール画面を更新します。
(自動更新を開始)	コンソール画面の自動更新を開始します。自動更新の間隔は10秒です。

5.13. コンソール

各仮想環境の仮想マシンのコンソールに接続して、コンソール画面を表示します。

- ◆ VMware の場合 (「5.13.1 VMware の場合」参照)
- ◆ XenServer・KVM の場合 (「5.13.2 XenServer・KVM の場合」参照)
- ◆ Hyper-V の場合 (「5.13.3 Hyper-V の場合」参照)

5.13.1. VMware の場合

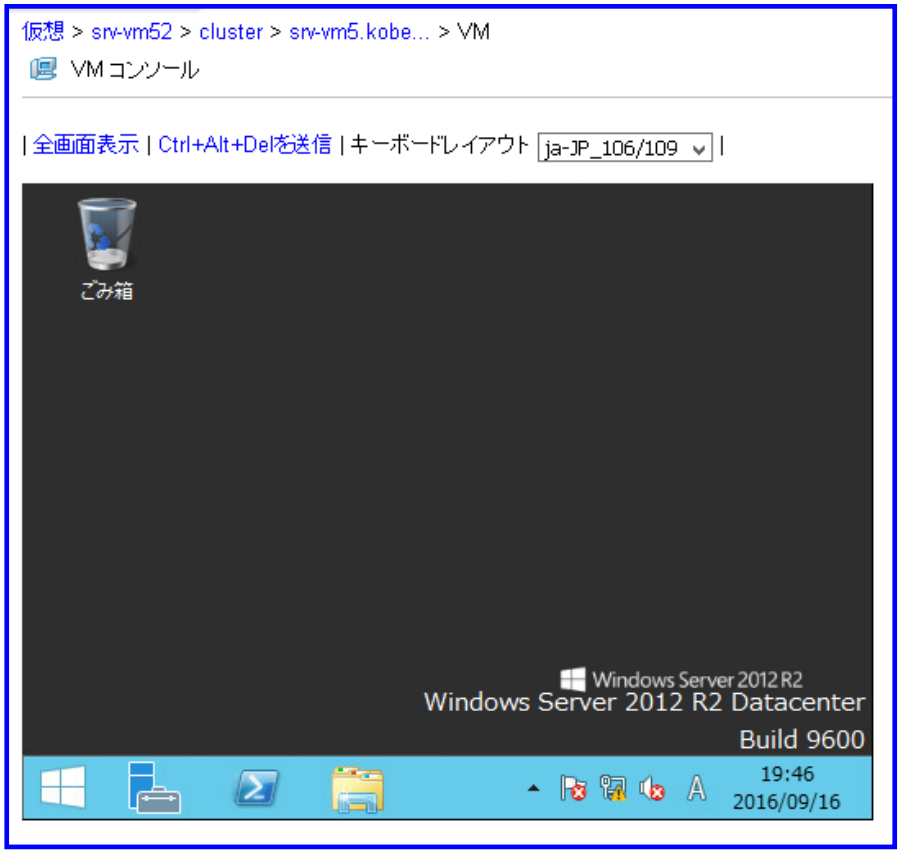
VMware のコンソールを表示します。

[仮想] ツリーからコンソールに接続する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [コンソール] をクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンのコンソールが表示されます。

注:

・ESXi 5.0 は、仮想マシンのコンソール表示を利用できません。

・ESX5.x 以前のコンソールは、Microsoft Edge はサポートしておりません。

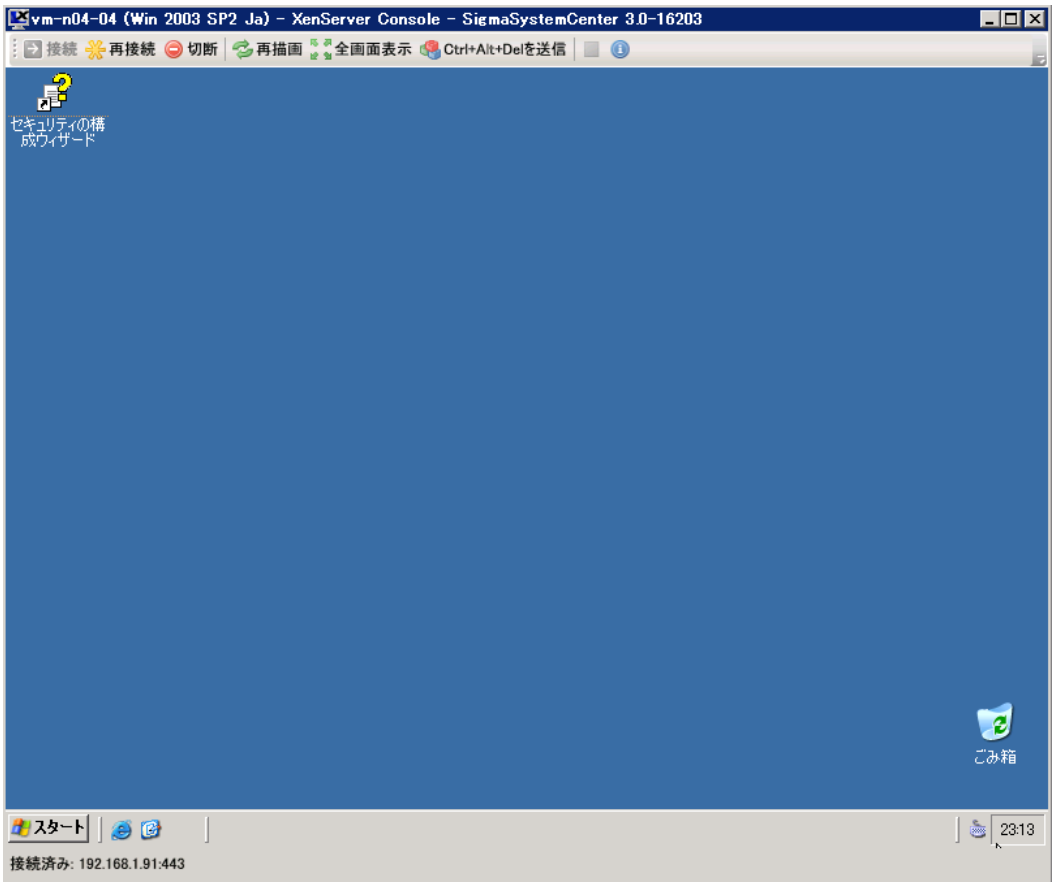


コンソール	
全画面表示	コンソール画面を全画面表示します。全画面から戻る場合は、**Ctrl**+**Alt**キーを押します。
Ctrl+Alt+Del を送信	選択した仮想マシンに**Ctrl**+**Alt**+**Del**を送信します。 [**Ctrl**+**Alt**+**Del**を送信] を押した際に、ブラウザを起動しているマシンのOSによっては、Windowsのセキュリティダイアログが表示される場合があります。
キーボードレイアウト	キーボードレイアウトを選択します。 ESXi6.x以降の場合のみ表示されます。

5.13.2. XenServer･KVM の場合

XenServer、KVM のコンソールを表示します。

[仮想] ツリーからコンソールに接続する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [コンソール] をクリックすると、コンソールの起動ダイアログが表示され、その後、コンソールアプリケーションが起動します。



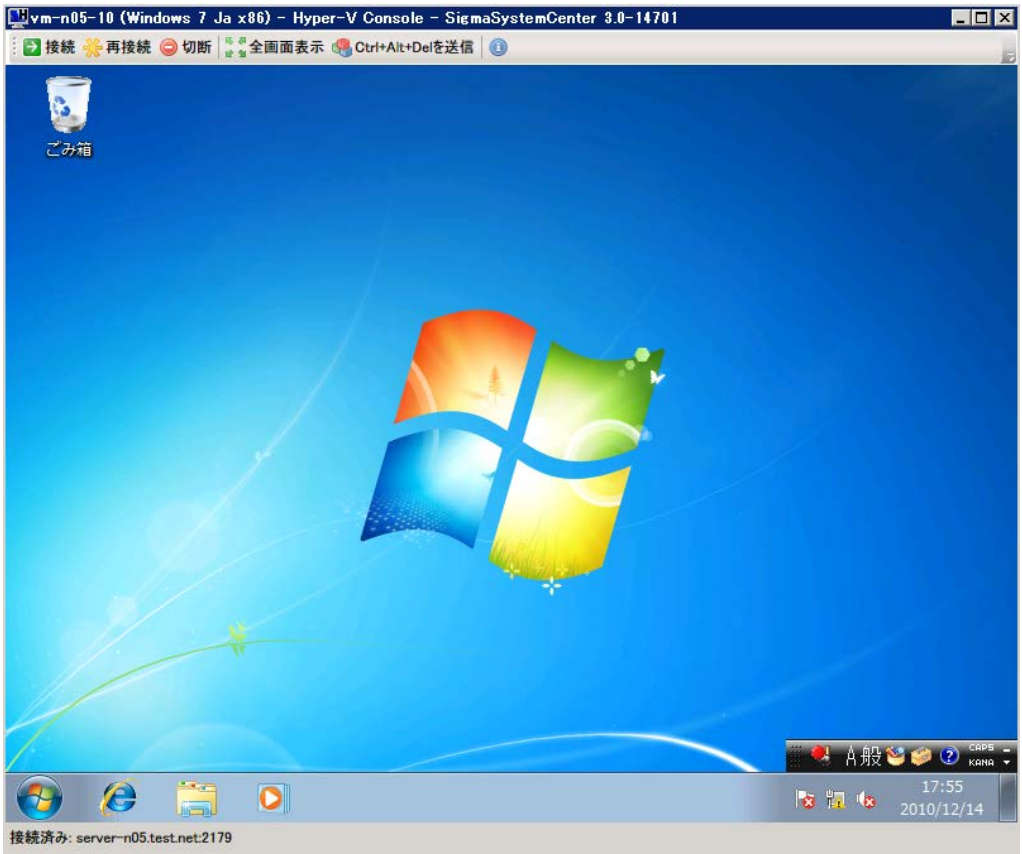
ツールバー	
接続	仮想マシンコンソールに接続します。
再接続	仮想マシンコンソールに再接続します。 コンソールに接続中の場合は、いったん切断してから管理対象マシンに接続します。
切断	仮想マシンコンソールから切断します。
再描画	画面全体を再描画します。画面が乱れた場合に実行します。
全画面表示	コンソール画面を全画面表示します。全画面から戻る場合、**Ctrl**+**Alt**+**F11**キーを押します。
Ctrl+Alt+Del を送信	選択した仮想マシンに**Ctrl**+**Alt**+**Del**を送信します。 **Ctrl**+**Alt**+**Up**でも送信できます。
(ウィンドウサイズを最適化)	コンソール画面を過不足なく表示できるサイズにウィンドウを最適化します。
(バージョン情報を表示)	バージョン情報やログファイルを表示します。
ステータスバー	接続状態やエラーメッセージを表示します。

5.13.3. Hyper-V の場合

Hyper-V のコンソールを表示します。

[仮想] ツリーからコンソールに接続する仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [コンソール] をクリックすると、コンソールの起動ダイアログが表示され、その後、コンソールアプリケーションが起動します。

注: 統合サービスをインストールしていない仮想マシンの場合、画面をクリックするとマウスカーソルがキャプチャされ、画面外に移動できなくなります。その場合、**Ctrl**+**Alt**+**F12** キーを押すことでマウスカーソルを解放できます。



ツールバー	
接続	仮想マシンコンソールに接続します。
再接続	仮想マシンコンソールに再接続します。 コンソールに接続中の場合は、いったん切断してから管理対象マシンに接続します。
切断	仮想マシンコンソールから切断します。
全画面表示	コンソール画面を全画面表示します。全画面から戻る場合、**Ctrl+Alt+F11**キーを押します。
Ctrl+Alt+Del を送信	選択した仮想マシンに**Ctrl+Alt+Del**を送信します。 **Ctrl+Alt+Up**でも送信できます。
(ウィンドウサイズを最適化)	コンソール画面を過不足なく表示できるサイズにウィンドウを最適化します。
(バージョン情報を表示)	バージョン情報やログファイルを表示します。
ステータスバー	接続状態やエラーメッセージを表示します。

5.14. スナップショット管理

仮想マシンの状態を保存するスナップショットを管理します。Differential Clone 用のテンプレート、およびイメージを作成する場合は、マスタ VM の電源状態をオフにして作成したスナップショットが必要です。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット管理] をクリックします。

注: 同じ名前のスナップショットが複数ある場合、操作はできません。連携製品で同じ名前のスナップショットを作成しないでください。存在する場合は、どちらかのスナップショットを連携製品で削除してください。

基本情報		
	VM 名	仮想マシン名を表示します。
	リソースパス	仮想マシンのリソースパスを表示します。
	ホスト名	仮想マシンのホスト名を表示します。
	稼動グループ	仮想マシンの稼動しているグループを表示します。
	電源状態	仮想マシンの電源状態を表示します。
	稼動ステータス	仮想マシンの稼動ステータスを表示します。
スナップショット一覧		
	カレント	仮想マシンが使用中のスナップショットを表示します。
	スナップショット名	スナップショット名を表示します。
	作成日時	スナップショットの作成日時を表示します。
	パス	スナップショットの階層を表示します。
	編集	スナップショットを編集します。「スナップショット編集」ウィンドウへ遷移します。

復元	選択したスナップショットを復元します。
削除	選択したスナップショットを削除します。

5.14.1. スナップショット作成

仮想マシンの状態を保存するスナップショットを作成します。

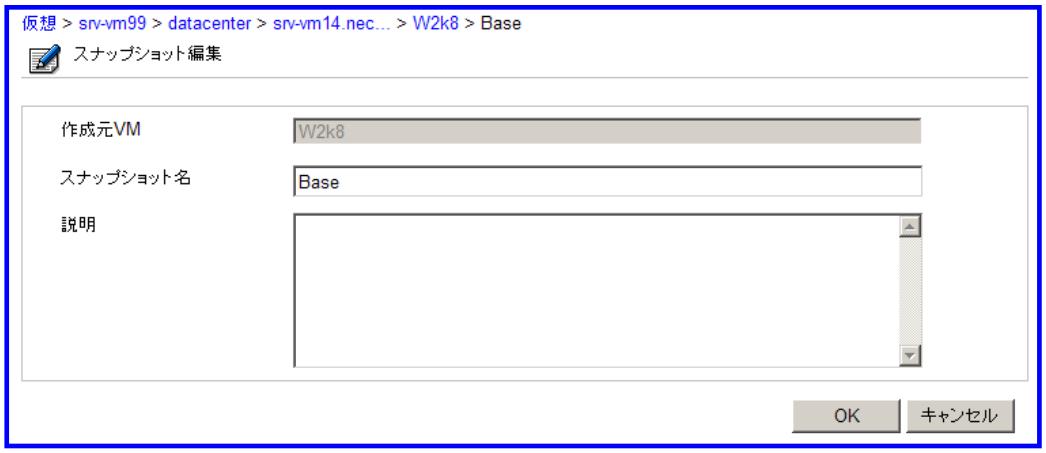
[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット管理] をクリックします。メインウィンドウにスナップショットの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット] の [作成] をクリックします。

スナップショット作成	
作成元 VM	作成元の仮想マシンを表示します。編集はできません。
スナップショット名 (入力必須)	スナップショット名を入力します。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は、半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-"、"_"、":"、"/") です。VMware環境の場合、半角記号 ("/") は使用できません。
説明	スナップショットの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	スナップショット作成情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スナップショット作成情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.14.2. スナップショット編集

仮想マシンの状態を保存するスナップショットを編集します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット管理] をクリックします。メインウィンドウにスナップショットの詳細情報が表示されます。[スナップショット一覧] グループボックスから編集するスナップショットの [編集] をクリックします。



スナップショット編集	
作成元 VM	作成元の仮想マシンを表示します。編集はできません。
スナップショット名 **(入力必須)**	スナップショット名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は80文字以内です。使用できる文字は、半角英数字、半角空白、および半角記号 ("("、")"、"-"、"_"、":"、"/") です。VMware環境の場合、半角記号 ("/") は使用できません。
説明	スナップショットの説明を表示し、編集もできます。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	スナップショット情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	スナップショット情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

5.14.3. スナップショット復元

仮想マシンの状態を保存するスナップショットを復元します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット管理] をクリックします。メインウィンドウにスナップショットの詳細情報が表示されます。[スナップショット一覧] グループボックスから復元するスナップショットのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [復元] をクリックします。

5.14.4. スナップショット削除

仮想マシンの状態を保存するスナップショットを削除します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックすると、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報が表示されます。[設定] メニューから [スナップショット管理] をクリックします。メインウィンドウにスナップショットの詳細情報が表示されます。[スナップショット一覧] グループボックスから削除するスナップショットのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックします。また、すべてのスナップショットを削除する場合は、[設定] メニューから [すべて削除] をクリックします。

5.15. テンプレートの詳細情報

テンプレートの詳細情報を表示します。

[仮想] ツリーから仮想マネージャ、DataCenter、または仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに各詳細情報を表示します。[テンプレート一覧] グループボックスから詳細情報をクリックするテンプレート名をクリックすると、メインウィンドウにテンプレートの詳細情報が表示されます。

テンプレートの詳細情報については、「3.37　ソフトウェアの基本情報」を参照してください。

5.16. 仮想マシンサーバ、および仮想マシンへのメニュー操作

仮想マシンサーバ、および仮想マシンに対する操作に関するメニューについて説明します。

5.16.1. 起動 / 再起動 / シャットダウン (仮想マシンサーバ)

仮想マシンサーバの起動 / 再起動 / シャットダウンを行います。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバが所属する DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。対象の仮想マシンサーバのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [起動]、[再起動] 、もしくは [シャットダウン] をクリックすると、仮想マシンサーバの電源を操作することができます。

もしくは、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。 [操作] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン] をクリックすると、仮想マシンサーバの電源を操作することができます。

注: Hyper-V クラスタ環境の場合、仮想マシンサーバの再起動 / シャットダウンは、クラスタの運用に影響がある場合がありますので、注意してください。

5.16.2. 起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンド (仮想マシン)

仮想マシンの起動 / 再起動 / シャットダウン / サスペンドを行います。

仮想マシンサーバ上の稼動している単数、および複数の仮想マシンの電源を操作するには、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンが所属する仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[稼動中 VM 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [起動]、[再起動]、[シャットダウン]、もしくは [サスペンド] をクリックすると、グループボックスのチェックボックスがオンとなっている稼動中の仮想マシンの電源を操作することができます。

仮想マシンサーバ上の単数、および複数の未使用仮想マシンの電源を操作するには、所属する仮想マシンサーバの詳細情報の [未使用VM 一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [起動]、もしくは [シャットダウン] をクリックすると、グループボックスのチェックボックスがオンとなっている未使用の仮想マシンの電源を操作することができます。

5.16.3. 収集

全仮想マネージャ、DataCenter、仮想マシンサーバ配下の収集を実行します。[仮想] ビューでの収集は、表示中の状態によって収集される内容が異なります。

全仮想マネージャの収集を行う場合は、タイトルバーの [仮想] をクリックすると、[仮想] ビューに切り替え、メインウィンドウに「仮想マネージャ一覧」を表示します。[操作] メニューから [収集] をクリックすると、全仮想マネージャの収集を行うことができます。

DataCenter の収集を行う場合は、[仮想] ツリーから収集を行う DataCenter のアイコンをクリックし、[操作] メニューから [収集] をクリックすると、DataCenter の収集を行うことができます。

仮想マシンサーバ配下の収集を行う場合は、[仮想] ツリーから収集を行う仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、[操作] メニューから [収集] をクリックすると、仮想マシンサーバ配下の収集を行うことができます。

5.16.4. マシン収集

仮想マシンサーバのマシン情報の収集を行います。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバが所属する DataCenter のアイコンをクリックし、メインウィンドウにデータセンターの詳細情報を表示します。対象の仮想マシンサーバのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [マシン収集] をクリックすると、仮想マシンサーバのマシン情報の収集を行うことができます。

もしくは、[仮想] ツリーから対象の仮想マシンサーバのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンサーバの詳細情報を表示します。[操作] メニューから [マシン収集] をクリックすると、仮想マシンサーバのマシン情報の収集を行うことができます。

5.16.5. 管理する / 管理外 (仮想マシン)

仮想マシンの管理状態を操作します。

[仮想] ツリーから対象の仮想マシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [管理する] をクリックすると、仮想マシンを管理状態にできます。[設定] メニューから [管理外] をクリックすると、仮想マシンを管理外にすることができます。

5.16.6. メンテナンスオン / メンテナンスオフ

マシンのメンテナンスステータスを操作します。

[仮想] ツリーから対象のマシンのアイコンをクリックし、メインウィンドウに VM サーバの詳細情報、または仮想マシンの詳細情報を表示します。[設定] メニューから [メンテナンスオン]、または [メンテナンスオフ] をクリックすると、マシンのメンテナンスステータスを変更できます。

マシンのメンテナンスステータスがオフの場合は [メンテナンスオン]、メンテナンスステータスがオンの場合は [メンテナンスオフ] のみがメニューに表示されます。

6. 監視

[監視] ビューでは、SigmaSystemCenter の管理対象マシンの状態やログの参照、および管理サーバの編集について説明をします。

本章で説明する項目は以下の通りです。

- 6.1 [監視] ビュー 750
- 6.2 ダッシュボード 751
- 6.3 運用ログ 753
- 6.4 ジョブ 757
- 6.5 イベント履歴 760
- 6.6 イベントの詳細情報 765
- 6.7 無効化イベント管理 768
- 6.8 管理サーバ群 770

6.1. [監視] ビュー

[監視] ビューでは、SigmaSystemCenter の管理対象のリソースの状態やジョブの実行状況の監視や運用ログ、ジョブ履歴、イベント履歴を参照することができます。また、複数の SystemProvisioning 管理サーバについて管理対象マシンのサマリ情報を閲覧することができます。

タイトルバーの [監視] をクリックすると、[監視] ビューに切り替わります。

6.2. ダッシュボード

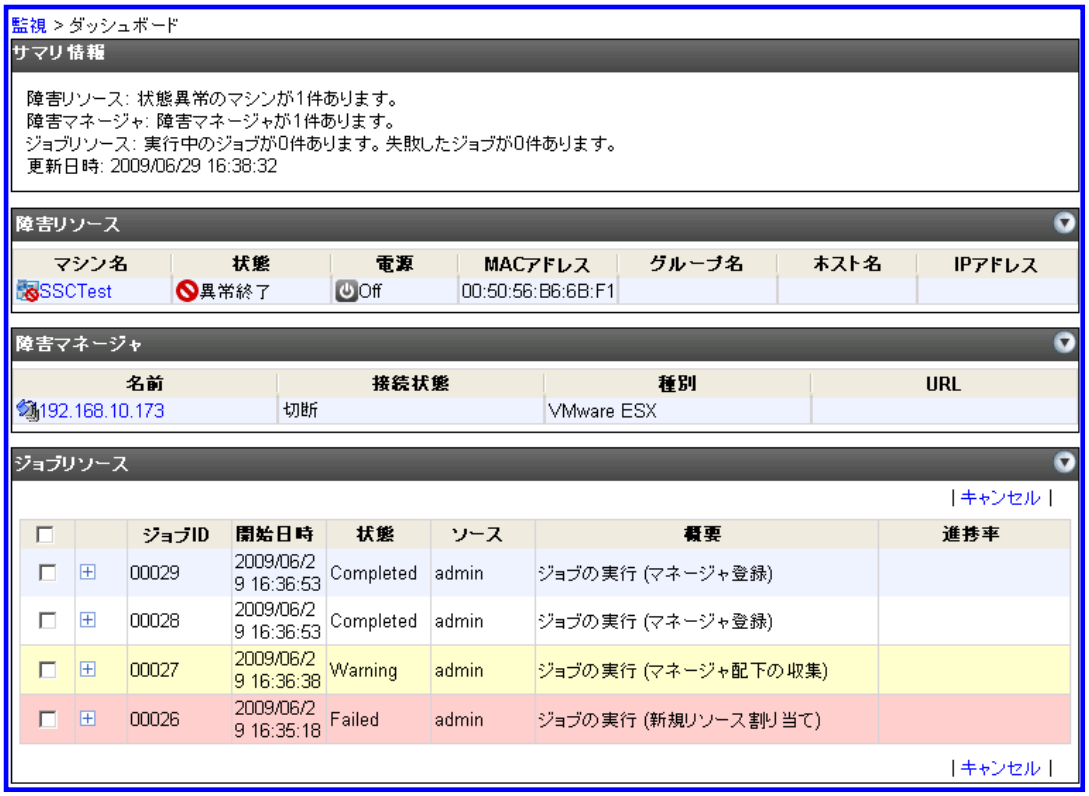
障害マシン、障害マネージャ、および実行中のジョブを参照します。ジョブを中断することもできます。

[監視] ツリーから [ダッシュボード] をクリックすると、メインウィンドウにダッシュボードが表示されます。

初期表示は、実行中のジョブ、および60分以内に完了 (成功、または失敗終了など) したジョブを表示します。自動更新もこの条件に一致したジョブが表示されます。また、実行したジョブが異常終了した場合や重大イベントが表示される場合、行全体がピンク色で表示されるなど、レベルに合わせて色つきで表示されます。

ジョブは、イベント (GUI からの操作、コマンド操作、ポリシーなど) と、実際に実行されたアクションの組み合わせで表示されます。

⊞ アイコンを押すことでアクションの状況を参照することができます。



サマリ情報	ジョブやリソースの障害件数、更新日時を表示します。
障害リソース	
マシン名	障害リソースのマシン名を表示します。
状態	障害リソースの状態を表示します。
電源	障害リソースの電源状態を表示します。
MAC アドレス	障害リソースのMACアドレスを表示します。

グループ名	障害リソースが所属する運用グループ名を表示します。
ホスト名	障害リソースのホスト名を表示します。
IP アドレス	障害リソースのIPアドレスを表示します。
障害マネージャ	
名前	障害マネージャ名を表示します。
接続状態	障害マネージャの接続状態を表示します。
種別	障害マネージャの種別を表示します。
URL	障害マネージャのURLを表示します。
ジョブリソース	
ジョブ ID	ジョブIDを表示します。
開始日時	ジョブの開始日時を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
ソース	ジョブを実行したユーザ名、またはシステムモジュール名を表示します。
概要	ジョブの内容を表示します。
進捗率	進捗率を表示します。
キャンセル	チェックボックスを選択した実行中のジョブを中断します。

6.3. 運用ログ

運用ログの参照と検索を行います。

[監視] ツリーから [運用ログ] をクリックすると、メインウィンドウに [運用ログ] グループボックスが表示されます。

初期表示は、レベルが「通常」で、最新のログから 3 日以内に発生した運用ログから最大100件の運用ログを表示します。また、実行したジョブが異常終了した場合や重大イベントが表示される場合、行全体がピンク色で表示されるなど、レベルに合わせて色つきで表示されます。

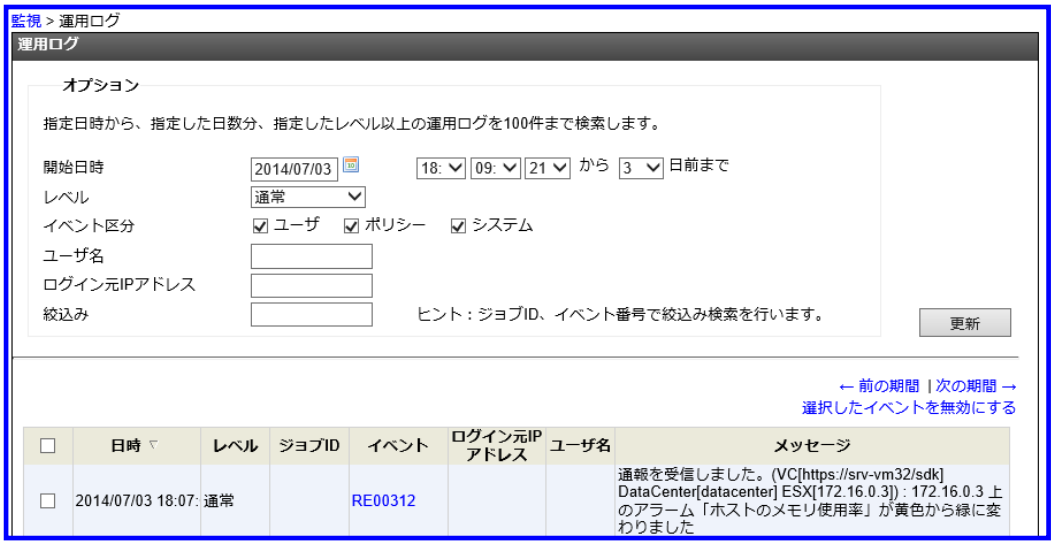
運用ログ	
開始日時	テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は (YYYY/MM/DD) 形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された時刻以降の運用ログが表示されます。初期表示は、現在の時間を表示します。
(日数)	指定した日時を起点として、何日前まで検索するか選択します。選択可能日数は、「1～3日前」までです。
レベル	レベルを選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定されたレベル以上のログが表示されます。初期表示は、"通常" を表示します。
[更新]	開始日時、および指定されたレベルの内容で運用ログを更新します。
オプション	運用ログを表示する条件をオプション表示します。

	日時	ログの日時を表示します。
	レベル	ログのレベルを表示します。レベルの詳細は以下の表を参照してください。
	ジョブ ID	ジョブ履歴の番号を表示します。ジョブと関連がない場合やジョブ実行前の運用ログの場合は空白が表示されます。
	イベント	イベント管理番号を表示します。クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。 SYxxxxx ： システムモジュールにて実行されたイベント (定期収集など) UCxxxxx ：Webコンソール、pvmutlコマンド、またはSystemMonitorからの操作、実行されたイベント RExxxxx ： 受信した、関連製品のイベント
	ログイン元 IP アドレス	ジョブを実行したユーザのログイン元IPアドレスを表示します。
	ユーザ名	ジョブを実行したユーザ名を表示します。
	メッセージ	ログのメッセージを表示します。
	← 前の期間	表示されている一番古いログを起点として、それより過去のログを検索して表示します。
	次の期間 →	表示されている一番新しいログを起点として、それより新しいログを検索して表示します。
	選択したイベントを無効にする	選択ログに起因する、関連製品からの受信イベントをSigmaSystemCenterでの監視対象外にします。 この設定は、イベント番号が「RExxxxx」のイベントにのみ有効です。

関連情報: [選択したイベントを無効にする]　で、監視対象外に設定したイベントの参照・設定変更については、「6.7　無効化イベント管理」を参照してください。

注: イベントの詳細情報は、指定されたイベント情報がデータベースに保持されている間のみ表示することができます。データベースから削除されていた場合は、既に削除されたことを示すメッセージを表示します。

[オプション] をクリックすると、[オプション] グループボックスが表示されます。



オプション	
開始日時	テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は (YYYY/MM/DD) 形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された時刻以降の運用ログが表示されます。初期表示は、現在の時間を表示します。
(日数)	指定した日時を起点として、何日前まで検索するか選択します。選択可能日数は、「1～3日前」までです。
レベル	レベルを選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定されたレベル以上のログが表示されます。初期表示は、"通常" を表示します。
イベント区分	ユーザ (UC～)、ポリシー (RE～)、およびシステム (SY～) を指定します。
ユーザ名	ユーザ名を入力します。
ログイン元 IP アドレス	ログイン元IPアドレスを入力します。
絞込み	ジョブID、およびイベント番号で絞込み検索を行います。
[更新]	開始日時、指定されたレベル、イベント区分、および絞込みの内容で運用ログを更新します。

注: ジョブ ID、およびイベント番号による検索は、指定された開始日時に関わらず絞込み条件に該当するログを検索します。

◆ 運用ログレベル

運用ログレベルには、障害の内容によりレベルが設定されています。

状態	説明
異常 (致命的)	システムの重要な障害が発生した場合に設定されます。 行全体がピンク色で表示されます。
異常	Webコンソール、pvmutlコマンド、ポリシー実行などから要求された処理が実行できない場合に異常となります。 行全体がピンク色で表示されます。
警告	要求処理の全体は成功していますが、一部処理をスキップするなどの場合に警告となります。 行全体が黄色で表示されます。
通常	要求処理の開始、終了が表示されます。 行全体が青と白を交互に表示されます。
詳細	内部動作の詳細状況を表示します。 行全体が青と白を交互に表示されます。
トレース	内部動作の "詳細" よりも更に詳細状況を表示します。 行全体が青と白を交互に表示されます。

6.4. ジョブ

ジョブ履歴の参照と検索を行います。

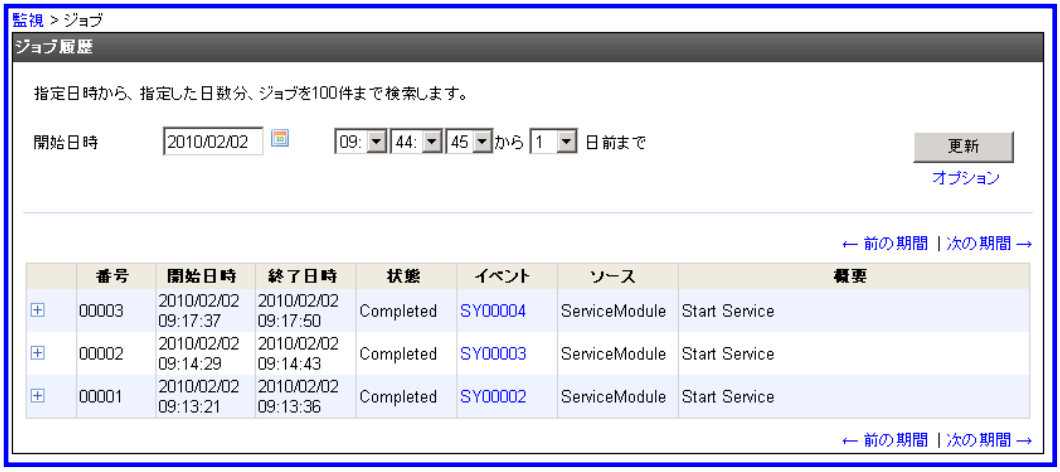
[監視] ツリーから [ジョブ] をクリックすると、メインウィンドウに [ジョブ履歴] グループボックスが表示されます。

初期表示は、1 日前までのジョブ履歴を 100 件まで表示します。また、実行したジョブが異常終了した場合や重大イベントが表示される場合、行全体がピンク色で表示されるなど、レベルに合わせて色つきで表示されます。

ジョブは、イベント (GUI からの操作、コマンド操作、ポリシーなど) と、実際に実行されたアクションの組み合わせで表示されます。

⊞ アイコンを押すことでアクションの状況を参照することができます。

注: 指定された期間内のジョブが 100 件以上存在する場合でも、アクションの数が多い場合、100 件未満で表示されます。



ジョブ履歴	
開始日時	テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は (YYYY/MM/DD) 形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された時刻以降の運用ログが表示されます。初期表示は、現在の時間を表示します。
(日数)	指定した日時を起点として、何日前まで検索するか選択します。選択可能日数は、「1～3日前」までです。
[更新]	開始日時と時刻の内容でジョブ履歴を更新します。
オプション	ジョブを表示する条件をオプション表示します。
番号	ジョブ履歴の番号を表示します。
開始日時	ジョブの開始日時を表示します。

終了日時	ジョブの終了日時を表示します。
状態	ジョブの状態を表示します。
イベント	イベント管理番号を表示します。クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。 SYxxxxx ： システムモジュールにて実行されたイベント (定期収集など) UCxxxxx ：Webコンソール、pvmutlコマンド、またはSystemMonitorからの操作、実行されたイベント RExxxxx ： 受信した、関連製品のイベント
ソース	ジョブを実行したユーザ名、またはシステムモジュール名を表示します。pvmutlコマンドから実行した場合は、"System"と表示されます。
概要	ジョブの概要を表示します。
← 前の期間	表示されている一番古いジョブを起点として、それより過去のログを検索して表示します。
次の期間 →	表示されている一番新しいジョブを起点として、それより新しいログを検索して表示します。

注:

・ イベントの詳細情報は、指定されたイベント情報がデータベースに保持されている間のみ表示することができます。データベースから削除されていた場合は、既に削除されたことを示すメッセージを表示します。

・ イベントログやメールに記載される管理 ID には、[番号] の値が設定されます。

[オプション] をクリックすると、[オプション] グループボックスが表示されます。

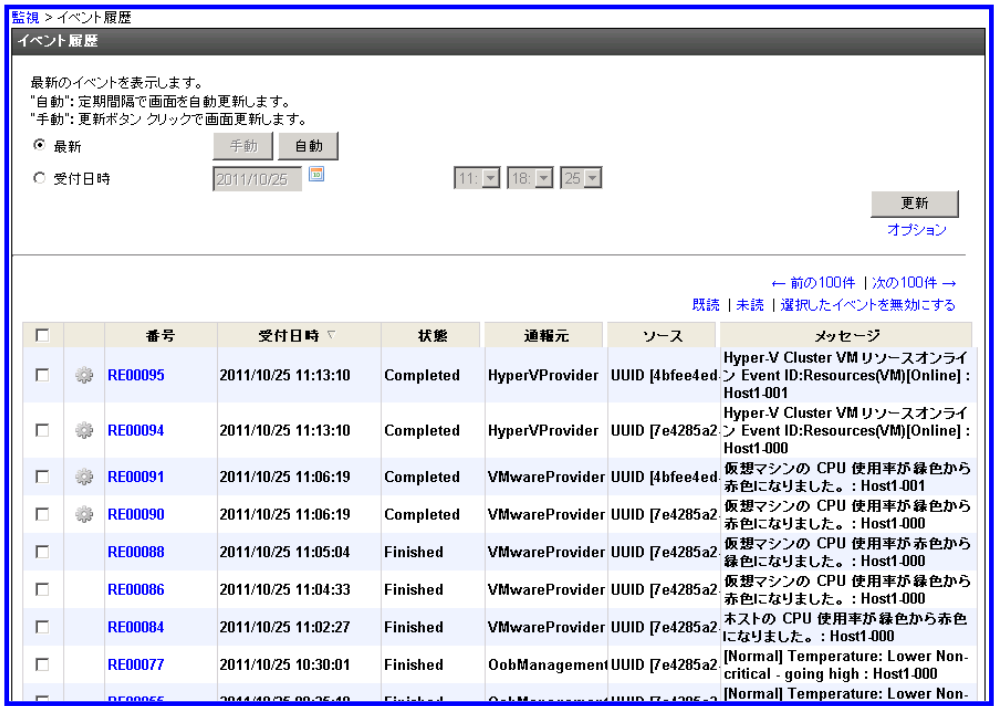
オプション	
開始日時	テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は(YYYY/MM/DD)　形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。
(日数)	指定した日時を起点として、何日前まで検索するか選択します。選択可能日数は、「1～3日前」までです。
イベント区分	ユーザ (UC～)、ポリシー (RE～)、およびシステム (SY～)を指定します。
[更新]	開始日時、指定されたレベル、イベント区分、および絞込みの内容で運用ログを更新します。

6.5. イベント履歴

関連製品から受信したポリシーの対象となるイベントの発生履歴の参照と検索を行います。[監視] ツリーから [イベント履歴] をクリックすると、メインウィンドウに [イベント履歴] グループボックスが表示されます。

初期表示は、最新のイベント履歴を 1 ページあたり 100 件まで表示します。また、イベント発生を契機に実行したジョブが異常終了した場合や重大イベントが表示される場合、行全体がピンク色で表示されるなど、レベルに合わせて色つきで表示されます。

イベント履歴では、イベントの未読 / 既読状態の管理を行うことができます。未読状態のイベントは、太字で表示されます。詳細情報が参照されたイベントは自動的に既読状態になります。



イベント履歴	
最新	最新のイベントを表示する場合に選択します。[自動] を選択した場合、定期的にイベント履歴が更新されます。検索条件を変更する場合は、条件を選択した後、[更新] をクリックします。[手動] を選択した場合、[更新] をクリックするたびにイベント履歴が更新されます。
受付日時	受付日時を指定する場合に選択します。テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は、(YYYY/MM/DD) 形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると、表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された時刻以降のイベントが表示されます。初期表示は、現在の時刻を表示します。

	[更新]	指定された条件でイベント履歴を更新します。
	オプション	イベント履歴を表示する条件をオプション表示します。
	(ジョブ実行有無)	ポリシーによりジョブが実行された場合、 アイコンを表示します。
	番号	イベント管理番号を表示します。クリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報を表示します。
	受付日時	イベントを受信した日時を表示します。
	状態	イベントの状態を表示します。 Finished：ポリシーによりジョブを実行せずに、イベント受付完了した状態を表します。 Started：ポリシーによりジョブの実行を開始した状態を表します。 Completed：ポリシーによるジョブの実行が正常終了した状態を表します。 Warning：ポリシーによるジョブの実行が一部異常終了した状態を表します。 Failed：ポリシーによるジョブの実行が異常終了した状態を表します。
	通報元	イベントの通報元を表示します。
	ソース	イベントの発生源を特定するための情報を表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。
	← 前の 100 件	表示されているイベントより過去のイベントを表示します。
	次の 100 件 →	表示されているイベントより新しいイベントを表示します。
	既読	選択したイベントを既読状態にします。
	未読	選択したイベントを未読状態にします。
	選択したイベントを無効にする	選択したイベントをSigmaSystemCenterでの監視対象外にします。

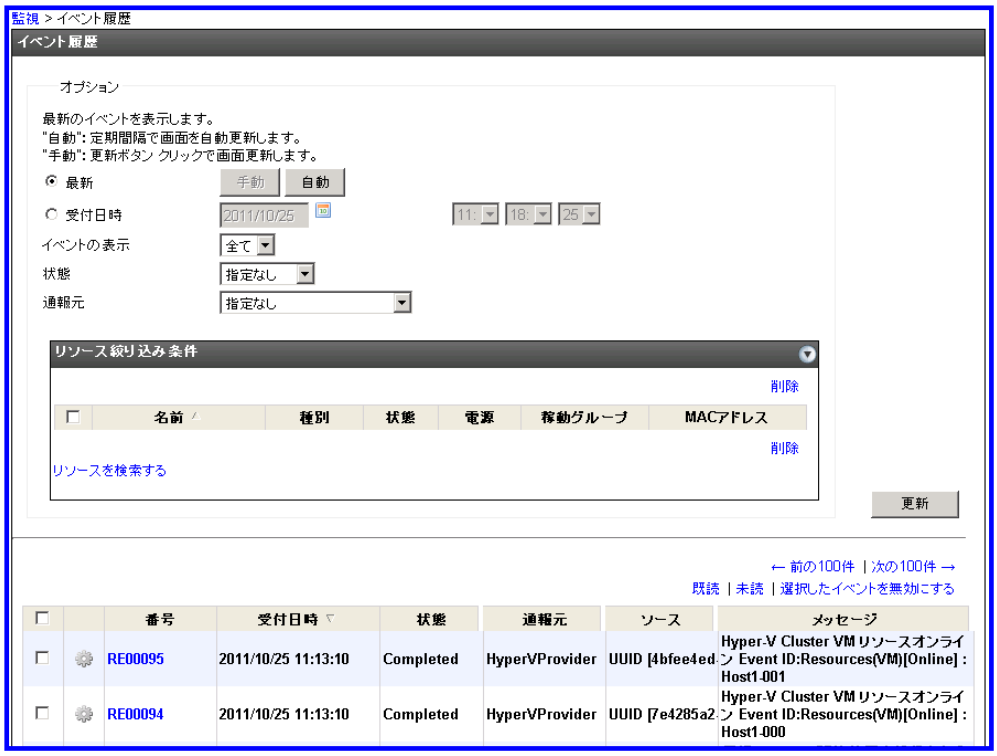
関連情報: [選択したイベントを無効にする]　で、監視対象外に設定したイベントの参照・設定変更については、「6.7　無効化イベント管理」を参照してください。

注:

・イベントの詳細情報の表示や未読　/　既読状態の変更は、指定されたイベント情報がデータベースに保存されている間のみ行うことができます。データベースが削除されていた場合は、既に削除されたことを示すメッセージを表示します。この場合、[更新]　をクリックし、イベント履歴を最新の状態に更新してください。

・イベント履歴に登録可能な件数を超えた場合、古いイベントが削除されます。このとき、対応するジョブがジョブ履歴から削除されます。

[オプション] をクリックすると、[オプション] グループボックスが表示されます。



オプション	
最新	最新のイベントを表示する場合に選択します。[自動] を選択した場合、定期的にイベント履歴が更新されます。検索条件を変更する場合は、条件を選択した後、[更新] をクリックします。[手動] を選択した場合、[更新] をクリックするたびにイベント履歴が更新されます。
受付日時	受付日時を指定する場合に選択します。テキストボックスに日時を入力します。年月日の入力は (YYYY/MM/DD) 形式で入力します。または、テキストボックス横の アイコンをクリックすると表示されるカレンダーから日付を選択します。
(時刻)	時刻を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された時刻以降のイベントが表示されます。初期表示は、現在の時間を表示します。
イベントの表示	イベントの確認状態を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された確認状態のイベントが表示されます。 全て ： 既読 / 未読両方のイベントを表示します。 既読 ： 既読状態のイベントのみ表示します。 未読 ： 未読状態のイベントのみ表示します。
状態	イベントの状態を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された状態のイベントが表示されます。
通報元	通報元を選択します。選択後、[更新] をクリックすると、指定された通報もとのイベントが表示されます。

	リソース絞り込み条件	
	名前	マシン名を表示します。
	種別	マシンの種別を表示します。
	状態	マシンの状態を表示します。
	電源	マシンの電源状態を表示します。
	稼動グループ	マシンの稼動グループを表示します。
	MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
	削除	選択したマシンをリソース絞り込み条件から削除します。
	リソースを検索する	[リソース検索] グループボックスを表示します。
	[更新]	指定された条件でイベント履歴を更新します。

[リソースを検索する] をクリックすると、[リソース検索] グループボックスが表示されます。

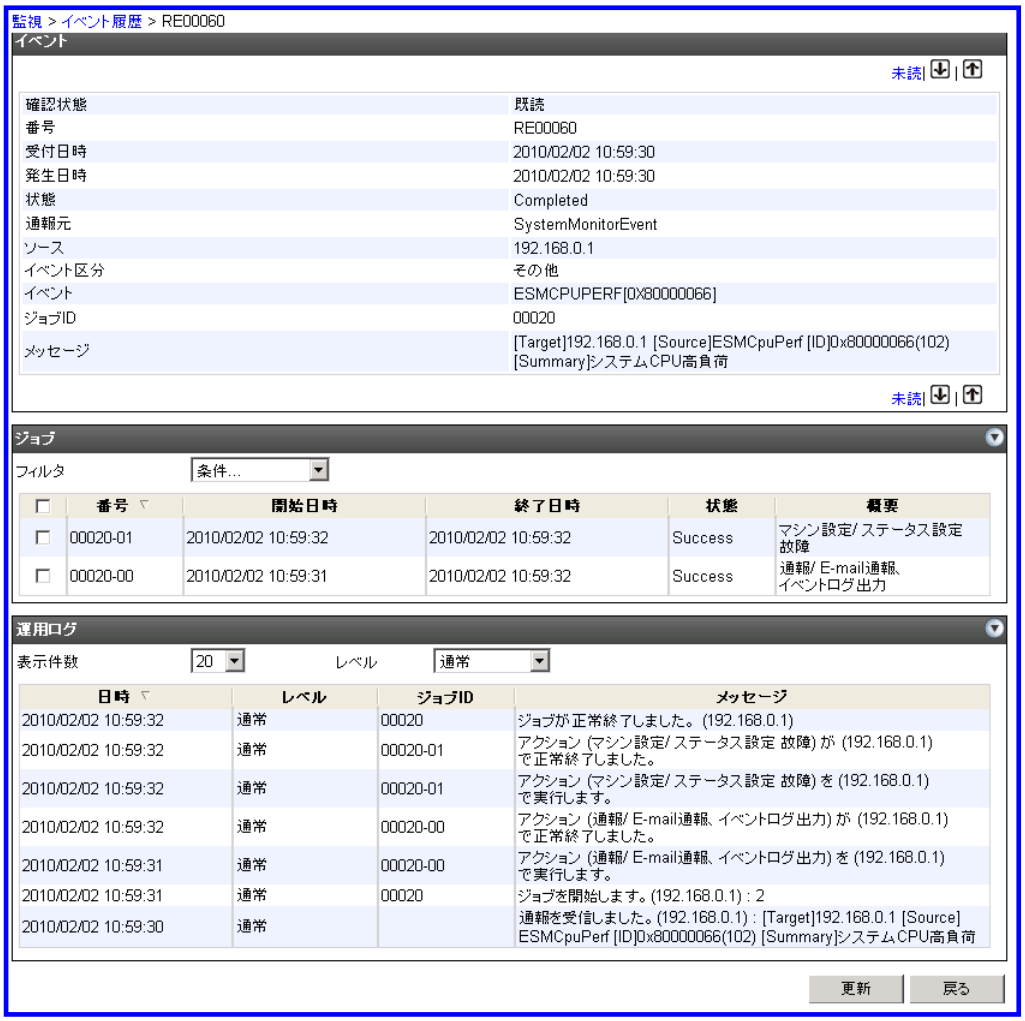
リソース検索	
(タグクラウド)	タグクラウドを操作して、マシンを検索します。
名前	マシン名を表示します。
種別	マシンの種別を表示します。
状態	マシンの状態を表示します。
電源	マシンの電源状態を表示します。
稼動グループ	マシンの稼動グループを表示します。
MAC アドレス	マシンのMACアドレスを表示します。
[追加]	選択したマシンを [リソース絞り込み条件] に追加します。 [更新] をクリックすると、[リソース絞り込み条件] に追加されたマシンが関連するイベントが表示されます。

6.6. イベントの詳細情報

イベントの詳細情報を表示します。

イベント履歴の番号、またはジョブや運用ログのイベントをクリックすると、メインウィンドウにイベントの詳細情報が表示されます。イベント発生を契機に実行されたジョブの情報と、イベントやジョブで記録された運用ログを総合して確認することができます。

注: イベントの詳細情報の表示や詳細情報ウィンドウでの操作は、指定されたイベント情報がデータベースに保持されている間のみ行うことができます。データベースから削除されていた場合は、既に削除されていたことを示すメッセージを表示します。



イベント	
確認状態	イベントの確認状態を表示します。[イベント履歴] グループボックス以外のウィンドウから遷移した場合は、表示されません。
番号	イベント管理番号を表示します。

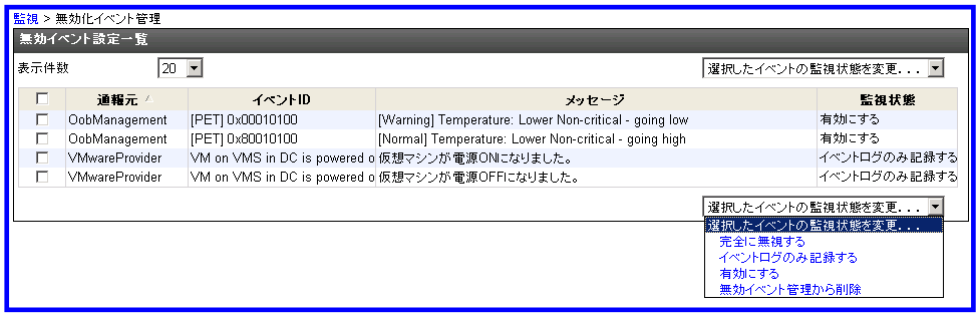
	受付日時	イベントを受信した日時を表示します。
	発生日時	イベントが発生した日時を表示します。
	状態	イベントの状態を表示します。
	通報元	イベントの通報元を表示します。
	ソース	イベントの発生源を特定するための情報を表示します。クリックすると、ソースとなるリソースの詳細情報のウィンドウに遷移します。
	イベント区分	イベント区分を表示します。イベント区分は、検出可能なイベントを分類しています。
	イベント	イベントの種類を表示します。
	ジョブ ID	イベントに付随するジョブが存在する場合、ジョブ履歴の番号を表示します。
	メッセージ	イベントのメッセージを表示します。
	未読 / 既読	イベントを未読状態、または既読状態にします。イベントが既読状態の場合は "未読"、未読状態の場合は "既読" が表示されます。[イベント履歴] グループボックス以外のウィンドウから遷移した場合は、表示されません。
	[↓]	[イベント履歴] グループボックスで下に表示されていたイベントの詳細情報を表示します。[イベント履歴] グループボックス以外のウィンドウから遷移した場合は、表示されません。
	[↑]	[イベント履歴] グループボックスで上に表示されていたイベントの詳細情報を表示します。[イベント履歴] グループボックス以外のウィンドウから遷移した場合は、表示されません。
ジョブ		
	フィルタ	ジョブの表示状態を選択します。 フィルタなし ： すべてのジョブを表示します。 選択したジョブ ： チェックボックスをオンにしたジョブのみ表示します。
	番号	ジョブ履歴の番号を表示します。
	開始日時	ジョブの開示日時を表示します。
	終了日時	ジョブの終了日時を表示します。
	状態	ジョブの状態を表示します。
	概要	ジョブの概要を表示します。
運用ログ		
	レベル	レベルを選択します。レベルを選択すると、指定されたレベル以上の運用ログが表示されます。
	日時	運用ログの日時を表示します。
	レベル	運用ログのレベルを表示します。
	ジョブ ID	ジョブ履歴の番号を表示します。ジョブと関連がない場合やジョブ実行前の運用ログの場合は、空白が表示されます。

メッセージ	ログのメッセージを表示します。
[更新]	ジョブの表示条件とレベルの内容でイベントの詳細情報を更新します。
[戻る]	元のウィンドウに戻ります。

6.7. 無効化イベント管理

[運用ログ] グループボックス、[イベント履歴] グループボックスから、[選択したイベントを無効にする] に設定したイベントの参照・設定変更を行います。

[監視] ツリーから [無効化イベント管理] をクリックすると、メインウィンドウに [無効イベント設定一覧] グループボックスが表示されます。



無効イベント設定一覧	
通報元	イベントの通報元を表示します。
イベント ID	イベントのIDを表示します。
メッセージ	イベントを表す名称を表示します。
監視状態	イベントの監視状態を表示します。
(プルダウンボックス)	チェックボックスを選択したイベントについて、監視状態の更新を行います。

監視状態の設定により、SigmaSystemCenter におけるイベントの監視制御は、以下のように行われます。

監視状態	説明
完全に無視する	イベントが発生しても、SigmaSystemCenterはイベントログの記録、ポリシー制御の処理を行いません。
イベントログのみ記録する	SigmaSystemCenterは、イベントの検出をイベントログに記録のみ行い、ポリシー制御の処理は行いません。
有効にする	通常のSigmaSystemCenterでのイベント・ポリシー制御を行います。
無効イベント管理から削除	無効イベント設定一覧から削除され、通常のSigmaSystemCenterでのイベント・ポリシー制御を行います。

注: 既定で設定されている以下のイベントは、SigmaSystemCenter 内部で使用していますので、監視状態を変更しないでください。

- PVM[0X0000020A]
- PVM[0X00000209]
- PVM[0X00000208]
- PVM[0X00000200]
- PVM[0X000001FF]
- PVM[0X000001FE]

6.8. 管理サーバ群

「管理サーバ群」ウィンドウでは、複数の SystemProvisioning 管理サーバを登録し、それぞれの管理サーバが管理対象とするマシンのサマリ情報を閲覧することができます。

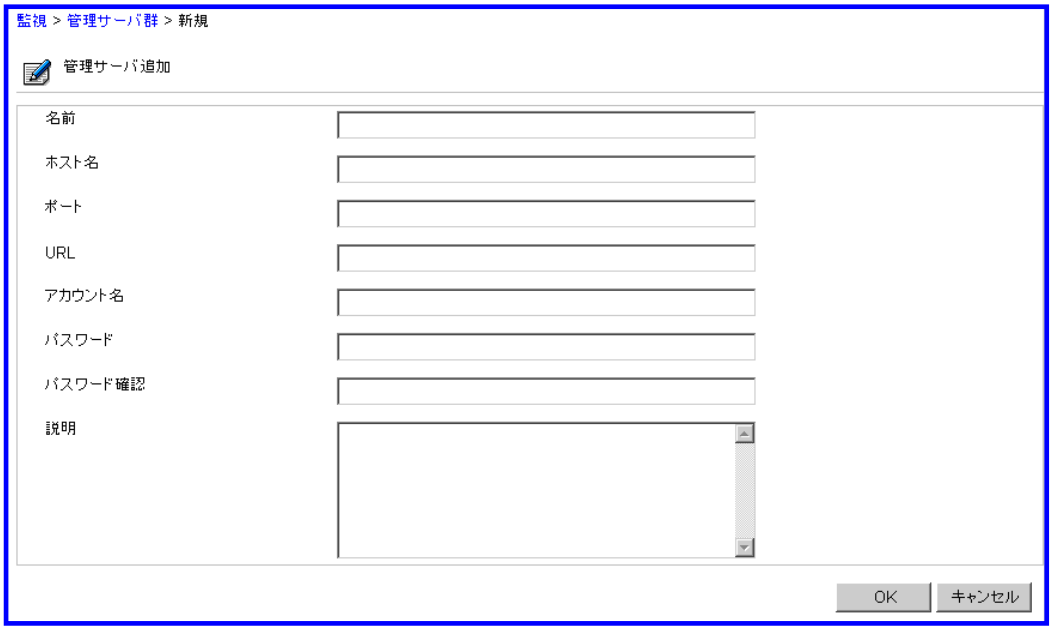
[監視] ツリーから [管理サーバ群] をクリックすると、メインウィンドウに [管理サーバ一覧] グループボックスが表示されます。

管理サーバ一覧	
アドレス	管理サーバの名前を表示します。
状態	管理サーバとの通信状態を表示します。
正常	正常に動作している管理対象マシンの台数を表示します。
警告	警告を出している管理対象マシンの台数を表示します。
異常	異常を出している管理対象マシンの台数を表示します。
処理中	処理中の管理対象マシンの台数を表示します。
メンテナンス中	メンテナンス中の管理対象マシンの台数を表示します。
不明	ハードウェア状態が管理されていないマシンの台数を表示します。
合計	管理対象マシンの合計台数を表示します。
編集	管理サーバの編集を行います。「管理サーバ編集」ウィンドウに遷移します。
追加	管理サーバの追加を行います。「管理サーバ追加」ウィンドウに遷移します。
削除	チェックボックスを選択した管理サーバを削除します。

6.8.1. 管理サーバ追加

管理サーバの追加を行います。

[監視] ツリーから [管理サーバ群] をクリックし、メインウィンドウに [管理サーバ一覧] グループボックスを表示します。[管理サーバ一覧] グループボックスの [アクション] メニューから [追加] をクリックすると、メインウィンドウに「管理サーバ追加」が表示されます。



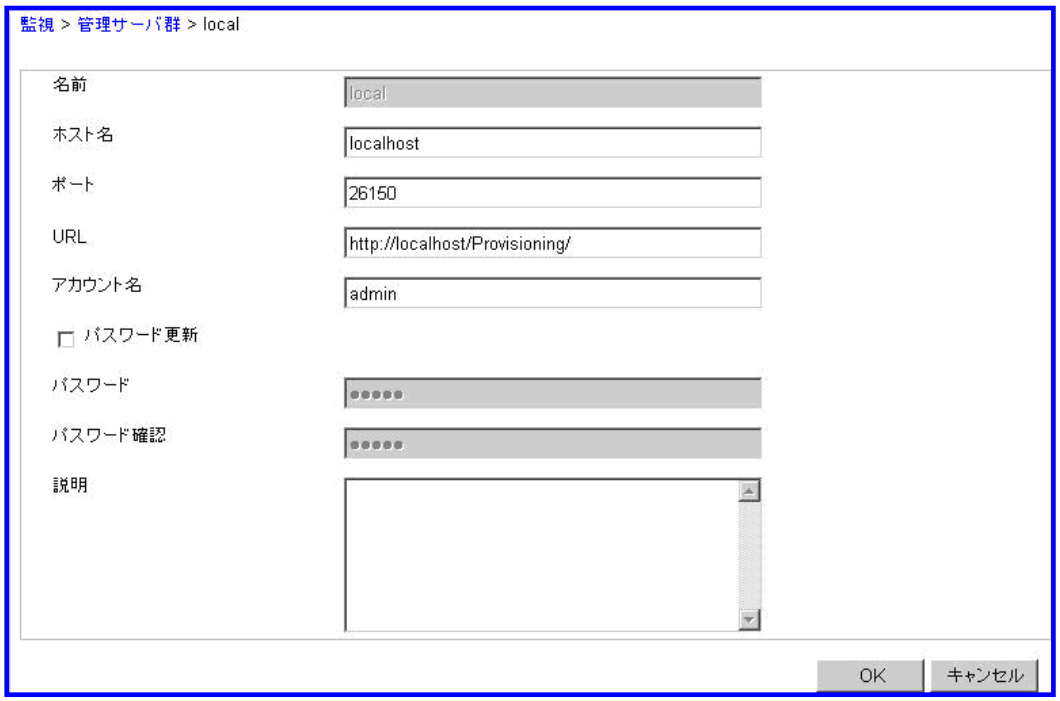
管理サーバ追加	
名前 **(入力必須)**	管理サーバ名を入力します。入力できる文字数は32文字以内です。
ホスト名 **(入力必須)**	管理サーバのホスト名を入力します。入力できる文字数は32文字以内です。
ポート **(入力必須)**	管理サーバのポート番号を入力します。管理サーバのポート番号の既定値は (26150) です。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	管理サーバのURLを入力します。ブラウザを起動して、指定された管理サーバのWebコンソールに接続します。
アカウント名 **(入力必須)**	SystemProvisioningのアカウント名を入力します。入力できる文字数は32文字以内です。別管理サーバとの通信、接続処理に必要になります。
パスワード **(入力必須)**	アカウントのパスワードを入力します。入力できる文字数は128文字以内です。別管理サーバとの通信、接続処理に必要になります。
パスワード確認 **(入力必須)**	確認のため再度同じパスワードを入力します。

説明	管理サーバの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]	管理サーバ追加情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]	管理サーバ追加情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

6.8.2. 管理サーバ編集

管理サーバの編集を行います。

[監視] ツリーから [管理サーバ群] をクリックし、メインウィンドウに [管理サーバ一覧] グループボックスを表示します。[管理サーバ一覧] グループボックスから編集する管理サーバの [編集] をクリックすると、メインウィンドウに「管理サーバ編集」が表示されます。



管理サーバ編集	
名前	管理サーバ名を表示します。編集はできません。
ホスト名 **(入力必須)**	管理サーバのホスト名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は32文字以内です。
ポート **(入力必須)**	管理サーバのポート番号を表示し、編集もできます。「1～65535」の範囲で設定できます。
URL	管理サーバのURLを表示し、編集もできます。

	アカウント名 **(入力必須)**	アカウント名を表示し、編集もできます。入力できる文字数は32文字以内です。
	パスワード更新	パスワードを更新する場合、チェックボックスをオンにします。
	パスワード	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、パスワードの変更ができます。入力できる文字数は128文字以内です。
	パスワード確認	[パスワード更新] チェックボックスがオンの場合に限り、確認のため再度同じパスワードを入力します。
	説明	管理サーバの説明を入力します。入力できる文字数は255文字以内です。
[OK]		管理サーバ編集情報を保存し、元のウィンドウに戻ります。
[キャンセル]		管理サーバ編集情報を保存せずに、元のウィンドウに戻ります。

6.8.3. 管理サーバ削除

管理サーバを削除します。

[監視] ツリーから [管理サーバ群] をクリックし、メインウィンドウに [管理サーバ一覧] グループボックスを表示します。[管理サーバ一覧] グループボックスから削除する管理サーバのチェックボックスをオンにし、[アクション] メニューから [削除] をクリックすると、削除されます。

セクション II　Web コンソール以外の設定

このセクションでは、SigmaSystemCenter の Web コンソール以外の画面説明を記載します。

- 7　構成情報管理

7. 構成情報管理

SystemProvisioning で管理するシステムリソースの情報を格納するデータベース (構成情報データベース) に関する設定について説明します。

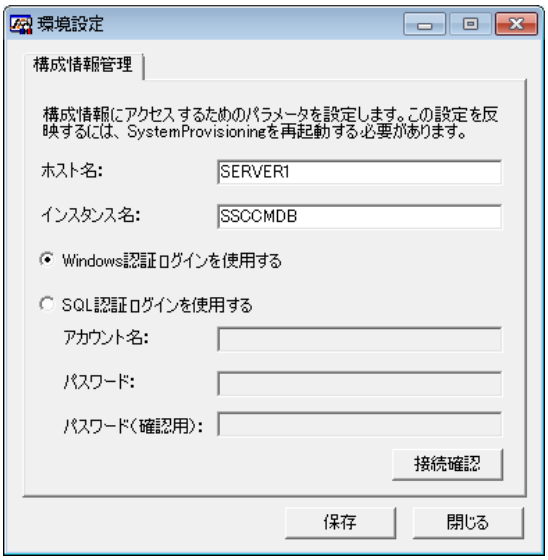
本章で説明する項目は以下の通りです。

- 7.1 構成情報管理画面 778

7.1. 構成情報管理画面

SystemProvisioning で管理するシステムリソースの情報を格納するデータベース (構成情報データベース) に関する設定を行います。SystemProvisioning のインストールディレクトリ ¥bin 配下の PvmConfig.exe から構成情報管理画面を起動します。

注: 設定内容を変更した場合は、SystemProvisioning を再起動してください。



構成情報管理	
ホスト名 **(入力必須)**	SystemProvisioningの構成情報データベースが動作するホスト名を入力します。 ローカルマシンを使用する場合は "(local)" を指定してください。 [ホスト名] テキストボックスと [インスタンス名] テキストボックスの入力文字数を合わせて127文字以内に設定してください。使用できる文字は記号を含む半角英数字です。全角文字列は、貼り付け (ペースト) に限り入力可能です。
インスタンス名 **(入力必須)**	SystemProvisioningの構成情報データベースのインスタンス名を指定します。 SQL Server 2014のセットアップで作成したインスタンス名です。 SystemProvisioningで使用するインスタンス名の既定値は "SSCCMDB" です。 入力できる文字数は16文字以内です。使用できる文字は記号を含む半角英数字です。全角文字列は、貼り付け (ペースト) に限り入力可能です。

Windows 認証ログインを使用する	SystemProvisioningの構成情報データベースにアクセスするときに、Windows統合認証を使用する場合は、オンにします。 ネットワークユーザのセキュリティ属性を使用して、ログオンセキュリティをWindows Server 2008、またはWindows Server 2012と統合し、ログオンアクセスを制御します。ユーザのネットワークセキュリティ属性はネットワークログオン時に確立され、Windowsドメインコントローラにより検証されます。
SQL 認証ログインを使用する	SystemProvisioningの構成情報データベースにアクセスするときに、SQL認証を使用する場合は、オンにします。 特定のアカウント名とパスワードを使用して信頼関係接続以外で接続すると、SQL Server 2014は、指定したパスワードと一致するパスワードでSQL Serverログオンアカウントがセットアップされているかどうかを調べて認証を行います。SQL Server 2014にログオンアカウントが設定されていない場合は、認証が失敗します。
アカウント名 **(入力必須)**	SystemProvisioningの構成情報データベースにアクセスするためのアカウントを入力します。アカウントは、SQL Server 2014のシステム管理者である必要があります。 システム管理者アカウントの既定値は "sa" です。 入力できる文字数は128文字以内です。使用できる文字は記号を含む半角英数字です。全角文字列は、貼り付け (ペースト) に限り入力可能です。
パスワード **(入力必須)**	SystemProvisioningの構成情報データベースへアクセスするためのパスワードを入力します。SQL Server 2014にあらかじめ登録されているアカウント名に対するパスワードを指定します。 入力できる文字数は、128文字以内です。使用できる文字は記号を含む半角英数字です。全角文字列は、貼り付け (ペースト) に限り入力可能です。
パスワード (確認用) **(入力必須)**	確認のため再度同じパスワードを入力します。 入力できる文字数は、128文字以内です。使用できる文字は記号を含む半角英数字です。全角文字列は、貼り付け (ペースト) に限り入力可能です。
[接続確認]	SystemProvisioningの構成情報データベースに接続確認を行います。
[保存]	接続確認が実施されます。成功した場合は、保存確認メッセージが表示され、[はい(Y)] をクリックすると構成情報管理の変更を保存し、ダイアログを閉じます。[いいえ(N)] をクリックすると、元のダイアログに戻ります。
[閉じる]	構成情報管理の変更を保存せずに、ダイアログを閉じます。

付録

- 付録 A　改版履歴 783
- 付録 B　ライセンス情報 785

付録 A　　改版履歴

◆ 第 2 版 (2016.11): Update1 での機能強化に関する記載を追加して改版

VMware 連携機能強化による記載の追加、および修正

3章　「3.10 マシンの詳細情報」
「3.11.2 [ネットワーク] タブ」
「3.11.3 [ストレージ] タブ」
「3.11.4 [ソフトウェア] タブ」

4章　「4.14.1 [全般] タブ」
「4.14.2 [ネットワーク] タブ」
「4.14.3 [ストレージ] タブ (マシン種別 [物理]、[VMサーバ] の場合のみ)」

5章　「5.3 仮想マネージャの詳細情報」
「5.7 VMサーバの詳細情報」
「5.11 VMの詳細情報」
「5.13.1 VMwareの場合」
「5.16.6 メンテナンスオン / メンテナンスオフ」

ストレージ管理機能強化による記載の追加、および修正

3章　「3.15 ストレージ」
「3.15.3 ストレージプール編集」
「3.16 ディスクアレイの詳細情報」
「3.17 ディスクボリュームの詳細情報」
「3.17.1 ディスクボリューム作成」
「3.17.2 ディスクボリューム登録」
「3.18 ストレージプールの詳細情報」

4章　「4.18.1 [トポロジ] タブ」

SNMP Trap 受信強化による記載の追加、および修正

3章　「3.16 ディスクアレイの詳細情報」

BMC 死活監視の改善による記載の修正

2章　「2.13.6 [死活監視] タブ」

P-flow 構成の機能強化による記載の追加

3章　「3.19 ネットワーク」
「3.21 仮想ネットワーク (VTN) の詳細情報」

バックアップ / リストア機能の強化による記載の追加、修正

3章　「3.11.4 [ソフトウェア] タブ」

4章　「4.11.4 [ソフトウェア] タブ」
「4.12.6 [ソフトウェア] タブ」
「4.14.4 [ソフトウェア] タブ」
「4.19.10 バックアップ」

「4.19.11 リストア」
「4.19.19 ソフトウェア配布 ([ホスト一覧] グループボックス)」

トポロジ機能の強化による記載の追加、修正

3章 「4.18 トポロジ」
「4.18.1 [トポロジ] タブ」
「4.18.2 [テナント] ノード」
「4.18.3 [カテゴリ] ノード」
「4.18.4 [運用グループ] ノード」
「4.18.5 [仮想マシン] ノード」
「4.18.6 [仮想マシンサーバ] ノード」
「4.18.7 [ディスクボリューム] ノード」
「4.18.8 [ストレージプール] ノード」
「4.18.9 [ディスクアレイ] ノード」
「4.18.10 [スイッチ] ノード」
「4.18.11 [物理マシン / 論理マシン] ノード」
「4.18.12 [カスタムオブジェクト] ノード」
「4.18.13 [ラック] ノード」

イベントログ履歴の改善、および強化による記載の修正

2章 「2.13.3 [ログ] タブ」
「2.13.5 [表示] タブ」

3章 「3.10 マシンの詳細情報」
「3.16 ディスクアレイの詳細情報」
「3.17 ディスクボリュームの詳細情報」
「3.24 スイッチの詳細情報」
「3.29 ロードバランサの詳細情報」
「3.33 デバイスの詳細情報」

◆ 第 1 版 (2016.4): 新規作成

付録 B　　ライセンス情報

本製品には、一部、オープンソースソフトウェアが含まれています。当該ソフトウェアのライセンス条件の詳細につきましては、以下に同梱されているファイルを参照してください。また、GPL / LGPL に基づきソースコードを開示しています。当該オープンソースソフトウェアの複製、改変、頒布を希望される方は、お問い合わせください。

<*SigmaSystemCenter インストール DVD*>¥doc¥OSS

▪ 本製品には、Microsoft Corporation が無償で配布している Microsoft SQL Server Express を含んでいます。使用許諾に同意したうえで利用してください。著作権、所有権の詳細につきましては、以下の LICENSE ファイルを参照してください。
<Microsoft SQL Server Express をインストールしたフォルダ>¥License Terms

▪ Some icons used in this program are based on Silk Icons released by Mark James under a Creative Commons Attribution 2.5 License. Visit http://www.famfamfam.com/lab/icons/silk/ for more details.

▪ This product includes software developed by Routrek Networks, Inc.

▪ This product includes NM Library from NetApp, Inc. Copyright 2005 - 2010 NetApp, Inc. All rights reserved.